

---

---

## Hyperion(R) Enterprise(R)

リリース 6.5.1

---

ユーザガイド

**ORACLE®**  
ENTERPRISE PERFORMANCE  
MANAGEMENT SYSTEM

Hyperion Enterprise ユーザガイド, 6.5.1

Copyright © 1991, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: Enterprise Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。他の名称は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

<b>第1章 データ入力表へのデータの入力</b>	23
データ入力表の概要	23
[データ入力表] ウィンドウ	23
データ入力表オプションの設定	25
データ表示	26
データ入力表のデータの視点	26
勘定科目または期間の検索	27
連結詳細の表示	27
データ入力表の設定	27
データ入力表の定義	28
チェック済みサブ勘定科目の追加	28
データの入力または編集	29
データ入力オペレータキー	30
データ入力表の管理	31
データブロックのハイライト	31
データの移動	32
データのコピー	32
データの除去	33
データ入力表の計算式の実行	33
データなしの勘定科目をゼロに設定	34
小数表示オプション	34
<b>第2章 データの読み込みと抽出</b>	37
データベース管理の概要	37
[データベース] ウィンドウ	38
データのステータス	39
データベースオプションの設定	40
データベースのデータの視点	41
エンティティ一覧の表示	41
勘定グループの表示	42
勘定科目一覧の表示	42
連結詳細の表示	43

データベースでの勘定科目の検索	43
データベースでの勘定グループまたは期間の検索	44
データベースの管理	44
データブロックのハイライト	45
データの移動	45
データのコピー	46
データの貼り付け	47
データブロックのクリア	47
データベースへの値の挿入	48
データの消去	48
FDM へのデータドリルバックの操作	49
FDM データのビジュアルキューの管理	49
データベースの期間の保護または保護解除	49
仕訳帳の転記保護および保護解除	50
データベースの計算式の実行	52
データなしの勘定科目をゼロに設定	52
子の連結詳細レポートの作成	53
無効な連結詳細のクリア	54
データ書式	55
累計	56
置換	56
結合	57
計算式の実行	58
算出勘定の記録	58
データなしはゼロ	58
読込エラーファイル	59
データ書式の定義	59
データの読み込み	59
データの抽出	61
連結詳細の抽出	63
データ読み込みと抽出でのレコードの検証	64
エンティティ詳細レポートの作成	65
小数表示オプション	69
<b>第 3 章 Hyperion Retrieve</b>	<b>71</b>
Hyperion Retrieve の機能	71
Hyperion Retrieve の設定	71
HPAPP.DAT ファイルの形式	72
HPAPP.DAT 環境変数の設定	73

Hyperion Retrieve アドインファイルの位置	73
Hyperion Retrieve for Microsoft Excel の設定	74
Hyperion Retrieve for Excel の起動	74
データなしをゼロで表示するオプション	74
Hyperion Retrieve の計算式	74
Hyperion Retrieve の引数	75
Hyperion Retrieve の関数	75
Excel での関数の貼り付け	78
Hyperion Retrieve のワークシート	78
Hyperion Retrieve での ID 選択	80
ワークシートの更新	81
デフォルトアプリケーションの変更	81
VBA Hyperion Retrieve	81
VBA Hyperion Retrieve の設定	83
VBA Hyperion Retrieve の起動	83
すべてのリンクされたセルの再計算	83
ブックの変換	84
<b>第 4 章 データの連結</b>	<b>85</b>
連結の概要	85
連結の詳細	88
連結ステータス	88
Statutory Consolidation Engine	89
[連結] ウィンドウ	90
エンティティの検索	90
期間の検索	91
連結タスク	91
連結するエンティティと期間の選択	92
データの連結	92
連動組織の連結	94
連結詳細レポートの作成	95
会社間照合レポート	97
会社間グループの選択	97
パートナーの選択	97
エンティティコードオプション	100
通貨オプションの選択	100
通貨換算	100
親の通貨	101
含めるレポート情報	101

非表示にするレポート情報 .....	101
レポートの書式 .....	102
会社間照合レポートの作成 .....	102
会社間照合レポートのケーススタディ .....	103
会社間照合レポートのサンプルレポート .....	104
<b>第 5 章 仕訳帳の入力 .....</b>	<b>107</b>
仕訳帳の概要 .....	107
仕訳帳の種別 .....	107
通常仕訳帳 .....	108
仕訳帳の自動逆仕訳 .....	108
親の仕訳帳 .....	109
仕訳帳テンプレート .....	109
標準テンプレート .....	109
経常テンプレート .....	110
貸借一致および貸借不一致の調整 .....	110
仕訳帳の情報 .....	111
仕訳帳のステータス .....	111
仕訳帳番号 .....	112
仕訳帳名 .....	112
コード .....	114
仕訳帳情報の表示 .....	114
小数表示オプション .....	114
仕訳帳の調整 .....	115
データ表示と仕訳帳 .....	115
データなしの値の調整 .....	116
[仕訳帳] ウィンドウ .....	118
仕訳帳とテンプレートの作成 .....	119
期間を開く .....	119
仕訳帳テンプレートの作成 .....	120
仕訳帳の作成 .....	121
調整情報の入力 .....	121
経常テンプレートを使った仕訳帳の作成 .....	122
新しい仕訳帳としての仕訳帳の保存 .....	123
仕訳帳の承認 .....	123
個々の仕訳帳の承認 .....	124
複数の仕訳帳の承認 .....	124
仕訳帳の保護 .....	125
仕訳帳の転記 .....	125

個々の仕訳帳の転記 .....	126
複数の仕訳帳の転記 .....	126
仕訳帳の転記取り消し .....	127
テンプレートまたは仕訳帳の編集 .....	128
仕訳帳の逆仕訳 .....	128
仕訳帳の抽出 .....	129
仕訳帳の読み込み .....	130
仕訳帳の読み込みと抽出ファイルの書式 .....	131
仕訳帳作成レポート .....	132
仕訳帳レポートまたは記録レポートの作成 .....	133
試算表レポートの作成 .....	134
<b>第 6 章 Hyperion Enterprise Web の使用 .....</b>	<b>135</b>
Hyperion Enterprise Web の機能 .....	135
データの視点の選択 .....	136
データの読み込み .....	136
連結ステータスの表示 .....	139
エンティティまたは勘定科目の検索 .....	140
データの連結 .....	140
タスクステータスの表示 .....	141
データの表示 .....	142
データ入力表オプションの設定 .....	144
データの入力と編集 .....	145
データの保護と保護解除 .....	145
Hyperion Enterprise Web でのデータの表示方法 .....	146
FDM へのデータドリルバックの操作 .....	147
アプリケーションエラーログの表示 .....	148
Web リンクのカスタマイズ .....	148
Web での仕訳帳の入力 .....	149
仕訳帳モジュール .....	149
仕訳帳とテンプレートの表示 .....	149
仕訳帳とテンプレート .....	150
仕訳帳とテンプレートの作成 .....	150
期間を開く .....	150
仕訳帳テンプレートの作成 .....	150
仕訳帳の作成 .....	151
調整情報の入力 .....	152
仕訳帳の承認 .....	152
個々の仕訳帳の承認 .....	153

複数の仕訳帳の承認 .....	153
仕訳帳の転記 .....	153
個々の仕訳帳の転記 .....	154
複数の仕訳帳の転記 .....	154
仕訳帳の転記取り消し .....	154
仕訳帳の読み込み .....	155
ユーザー設定変更 .....	155
メッセージクライアント .....	155
<b>第 7 章 Hyperion Allocations .....</b>	<b>157</b>
Hyperion Allocations の機能 .....	157
配賦の種類とロジック .....	158
配賦の種類：名前 .....	158
配賦の種類：勘定科目 .....	159
配賦の種類：時刻 .....	159
パーセンテージロジック .....	159
係数ロジック .....	159
比率ロジック .....	160
合計ロジック .....	160
Hyperion Allocations デスクトップ .....	160
Hyperion Allocations の起動 .....	162
Hyperion Allocations 設定変更の指定 .....	162
デスクトップ色の選択 .....	163
Hyperion Enterprise アプリケーションの変更 .....	163
配賦の設定 .....	163
配賦の定義 .....	163
配賦結果のプレビュー .....	165
配賦の削除 .....	165
配賦セットの設定 .....	166
配賦セットの定義 .....	166
配賦セットの削除 .....	167
配賦セットの実行 .....	168
配賦セットの転記 .....	168
実行情報の削除 .....	169
配賦情報またはセット情報の抽出 .....	169
配賦情報またはセット情報の読み込み .....	170
配賦レポートの印刷または印刷プレビュー .....	171
Hyperion Allocations ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ .....	172
Hyperion Allocations デスクトップ .....	172

[ADDONS.LOG ファイル] ダイアログボックス .....	173
[アプリケーションのログオン] ダイアログボックス .....	173
[言語の選択] ダイアログボックス .....	173
[色の設定] ダイアログボックス .....	173
[配賦タイプ] ダイアログボックス .....	174
[配賦ロジック] ダイアログボックス .....	174
[配賦ユニットの編集] ダイアログボックス .....	175
[配賦ユニットの編集] ダイアログボックス : [配賦] タブ .....	175
[配賦ユニットの編集] ダイアログボックス : [データ] タブ .....	176
[プレビュー期間単位の選択] ダイアログボックス .....	176
[データ種別の選択] ダイアログボックス .....	177
[勘定科目の選択] ダイアログボックス .....	177
[期間の選択] ダイアログボックス .....	177
[エンティティの選択] ダイアログボックス .....	177
[配賦セット] ダイアログボックス .....	178
[配賦セット] ダイアログボックス : [セット] タブ .....	178
[配賦セット] ダイアログボックス : [データの視点] タブ .....	179
[配賦セット] ダイアログボックス : [配賦] タブ .....	180
[配賦セットの実行] ダイアログボックス .....	180
[レポート] ダイアログボックス .....	181
[レポート] ダイアログボックス : [配賦ユニット] タブ .....	182
[レポート] ダイアログボックス : [配賦セット定義] タブ .....	182
[レポート] ダイアログボックス : [実行] タブ .....	182
[レポート] ダイアログボックス : [詳細] タブ .....	183
[プレビュー] ウィンドウ .....	183
[配賦の抽出] ダイアログボックス .....	183
[セットの抽出] ダイアログボックス .....	183
[抽出ファイルの名前の入力] ダイアログボックス .....	184
[Allocations 読込ファイルの名前の入力] ダイアログボックス .....	184
[セット読込ファイルの名前の入力] ダイアログボックス .....	185
[レコードの上書き] ダイアログボックス .....	185

<b>第 8 章 LedgerLink .....</b>	<b>187</b>
LedgerLink の概要 .....	187
LedgerLink デスクトップ .....	188
LedgerLink サンプルファイル .....	189
テンプレートの定義 .....	190
ソースサンプルファイルの選択 .....	191
データの換算 .....	192

変換ファイルの種類	192
外部一覧	193
[エンティティ変換] ウィンドウ	194
変換ルール	195
インポートする変換ファイルのルール	198
[変換結果の表示] ウィンドウ	200
ツールバー	200
ステータスバー	201
変換オプションと読み込みオプションの設定	201
[変換／読み込プロファイル] リスト	202
[変換／読み込プロファイル] ダイアログボックス	202
Hyperion Enterprise へのデータの読み込み	205
LedgerLink の起動	206
Hyperion Enterprise アプリケーションの変更	206
サンプルレコードの選択	207
フィールド書式の検証	207
テンプレートの設定	208
レポート書式の指定	209
外部一覧の定義	210
変換ルールの設定	210
変換結果の表示	211
変換ファイルのインポート	212
変換プロファイルの定義	213
読み込みプロファイルの定義	214
Hyperion Enterprise へのデータの読み込み	215
Hyperion LedgerLink のウィンドウとダイアログボックスのヘルプ	215
LedgerLink デスクトップのオプション	215
[入力ファイルテンプレート] リストのオプション	215
[名称変更] ダイアログボックスのオプション	216
[コピー] ダイアログボックスのオプション	216
[テンプレートウィザード - ステップ 1] ダイアログボックスのオプション	217
[サンプル入力ファイルを開く] ダイアログボックスのオプション	218
[テンプレートウィザード - ステップ 2] ダイアログボックスのオプション	218
[テンプレートウィザード - ステップ 3] ダイアログボックスのオプション	218
[テンプレートウィザード - ステップ 4] ダイアログボックスのオプション	219

[テンプレートウィザード - ステップ 5] ダイアログボックスのオプション	220
[エンティティ変換] ウィンドウのオプション	221
[外部エンティティ一覧を作成] ダイアログボックスのオプション	222
[変換/読込プロファイル] リストのオプション	223
[読込名を入力してください] ダイアログボックスのオプション	223
[変換/読込プロファイル] ダイアログボックスのオプション	224
[変換/読込プロファイル] ダイアログボックスのオプション: [変換] タブ	224
[変換/読込プロファイル] ダイアログボックスのオプション: [読込] タブのオプション	225
[Hyperion Enterprise への読込] ダイアログボックスのオプション	226
[プロファイルパラメーター一覧] ダイアログボックス	226
[外部勘定科目一覧ファイルの選択] ダイアログボックスのオプション	227
<b>第 9 章 Hyperion Retrieve の関数</b>	229
関数の構文と例	229
HPACC - 勘定科目 ID 関数	229
HPAMJ - 主要勘定科目 ID 関数	229
HPAS1 - 第 1 レベルサブ勘定科目 ID 関数	230
HPAS2 - 第 2 レベルサブ勘定科目 ID 関数	230
HPBET - 差異関数	231
HPCAL - 算出勘定関数	231
HPCDE - データ種別の説明関数	232
HPCONTRIB - 調整後データ関数	232
HPCUR - 通貨関数	233
HPDCTRL - 直接支配関数	233
HPDOWN - 直接所有関数	234
HPDRV - 抽出合計関数	234
HPECODE - エンティティコード関数	235
HPELIM - 消去データ関数	235
HPFLW - フロー関数	236
HPFNA - 最初のエンティティの説明関数	236
HPFRE - デフォルトの期間単位関数	236
HPFSN - サブエンティティの説明関数	237
HPFUL - エンティティの説明関数	237
HPHEA - 勘定科目の説明関数	238
HPHMJ - 主要勘定科目の説明関数	238
HPHS1 - 第 1 レベルサブ勘定科目の説明関数	238

HPHS2 - 第 2 レベルサブ勘定科目の説明関数 .....	239
HPINC - 収益勘定科目関数 .....	239
HPINP - 入力勘定科目関数 .....	240
HPJAC - 仕訳帳の勘定科目関数 .....	240
HPJCR - 仕訳帳の貸方値関数 .....	240
HPJDB - 仕訳帳の借方値関数 .....	241
HPJDS - 仕訳帳の説明関数 .....	241
HPJEN - 仕訳帳のエンティティ関数 .....	242
HPJNO - 仕訳帳番号関数 .....	242
HPJST - 仕訳帳のステータス関数 .....	243
HPKEY - デフォルト ID 関数 .....	243
HPLNK - リンクデータ値関数 .....	244
HPNAM - エンティティ関数 .....	244
HPNNA - 最初のエンティティの ID 関数 .....	245
HPNSN - サブエンティティの ID 関数 .....	245
HPPARADJ - 親の調整データ関数 .....	245
HPPBE - 差異率関数 .....	246
HPPCH - 変化率関数 .....	247
HPPCONS - 最終連結比率関数 .....	247
HPPCTRL - 最終支配比率関数 .....	248
HPPOWN - 最終出資比率関数 .....	248
HPPROP - 比率データ関数 .....	249
HPSCA - 単位関数 .....	249
HPSHAROS - 発行済株式関数 .....	250
HPSHAROW - 他のエンティティの所有株関数 .....	250
HPTRAN - 換算データ関数 .....	251
HPVAL - データ値関数 .....	251
HPVSHAROS - 発行済議決権株関数 .....	252
HPVSHAROW - 他のエンティティの所有議決権株関数 .....	253
Hyperion Retrieve 関数の期間値 .....	253
期間 ID .....	253
期間番号 .....	253

<b>第 10 章 ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ .....</b>	<b>255</b>
基本要素のウィンドウとダイアログボックス .....	255
[通貨] ウィンドウのオプション .....	255
[通貨の検索] ダイアログボックスのオプション .....	256
[通貨の印刷] ダイアログボックスのオプション .....	256
[データ種別] ウィンドウのオプション .....	257

[データ種別] ウィンドウのオプション：[設定] タブ .....	257
[データ種別] ウィンドウのオプション：[オプション] タブ .....	259
[データ種別の印刷] ダイアログボックスのオプション .....	261
[期別替] ウィンドウのオプション .....	261
[期別替] ウィンドウのオプション：[設定] タブ .....	261
[期別替] ウィンドウのオプション：[オプション] タブ .....	262
[期別替の実行] ダイアログボックスのオプション .....	263
[新規期別替セット] ダイアログボックスのオプション .....	263
[期別替の印刷] ダイアログボックスのオプション .....	264
[期別替セットの属性] ダイアログボックスのオプション .....	264
[期別替セットのコピー] ダイアログボックスのオプション .....	265
[期別替セットを開く] ダイアログボックスのオプション .....	265
[期別替セットの削除] ダイアログボックスのオプション .....	266
[データ種別の検索] ダイアログボックスのオプション .....	266
[コード] ウィンドウのオプション .....	266
[コードの印刷] ダイアログボックスのオプション .....	267
[コードの検索] ダイアログボックスのオプション .....	267
変換表ウィンドウのヘルプ .....	268
一覧ウィンドウのヘルプ .....	276
デスクトップのウィンドウとダイアログボックス .....	287
[デスクトップ] ウィンドウのオプション .....	287
[ユーザー設定変更] ダイアログボックスのオプション .....	288
[色の変更] ダイアログボックスのオプション .....	289
[エラーログ] ダイアログボックスのオプション .....	291
[イベントログ] ダイアログボックスのオプション .....	292
[データの視点] ダイアログボックスのオプション .....	293
[データの視点] ダイアログボックスのオプション：[データ種別] タブ .....	294
[データの視点] ダイアログボックスのオプション：[期間] タブ .....	294
[データの視点] ダイアログボックスのオプション：[組織] タブ .....	294
[データの視点] ダイアログボックスのオプション：[エンティティ] タブ .....	294
[データの視点] ダイアログボックスのオプション：[勘定科目] タブ .....	295
[データの視点] ダイアログボックスのオプション：[データ入力表] タブ .....	295
[データの視点] ダイアログボックスのオプション：[親] タブ .....	295
[データの視点] ダイアログボックスのオプション：[連結詳細] タブ .....	295
[フォント] ダイアログボックスのオプション .....	296

[勘定科目の検索] ダイアログボックスのオプション	296
[勘定グループの検索] ダイアログボックスのオプション	297
[エンティティの検索] ダイアログボックスのオプション	297
[エンティティの選択] ダイアログボックスのオプション	298
[期間の検索] ダイアログボックスのオプション	298
[連結の詳細] ダイアログボックスのオプション	299
[勘定グループの表示] ダイアログボックスのオプション	299
[チェック済サブ勘定科目] ダイアログボックスのオプション	300
アプリケーションのウィンドウとダイアログボックス	300
[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスのオプション	300
[アプリケーション] ウィンドウのオプション	301
[アプリケーション] ウィンドウのオプション：[換算] タブ	302
[アプリケーション] ウィンドウのオプション：[連結ロジック] タブ	302
[アプリケーションを開く] ダイアログボックスのオプション	303
[パスワード] ダイアログボックスのオプション	304
[アプリケーションドライバ] ダイアログボックスのオプション	304
ファイルベースアプリケーション用の [アプリケーションの追加] ダイアログボックスのオプション	304
[新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション	305
[新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：[設定] タブ	306
[新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：ファイルベースアプリケーション用の [ドライバの設定] タブ	307
[新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：[設定オプション] タブ	309
[新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：[詳細設定オプション] タブ	310
[パス] ダイアログボックスのオプション	310
[アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション	311
[アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション：[設定オプション] タブ	312
[アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション：ファイルベースアプリケーション用の [ドライバの設定] タブ	313
[アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション：[詳細設定オプション] タブ	314
[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション	314
[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション：[ファイル] タブ	315
[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション：[エンティティ] タブ	315

[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション：[勘定科目] タブ .....	316
[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション：[オプション] タブ .....	316
[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション .....	317
[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション：[ファイル] タブ .....	317
[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション：[エンティティ] タブ .....	318
[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション：[勘定科目] タブ .....	318
[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション：[オプション] タブ .....	319
[ページ書式と設定の読込] ダイアログボックスのオプション .....	319
[ページ書式と設定の抽出] ダイアログボックスのオプション .....	320
[アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション .....	320
[アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション：[Backup Profiles (バックアッププロファイル)] タブ .....	320
[アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション：[ロジック] タブ .....	321
[アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション：[スケジュール] タブ .....	322
[アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション：[復元] タブ .....	323
[保護勘定科目の選択] ダイアログボックスのオプション .....	323
[アプリケーションのユーザレポート] ダイアログボックスのオプション .....	324
[ロジックの貼り付け] ダイアログボックスのオプション .....	325
エンティティのウィンドウとダイアログボックス .....	325
[組織] ウィンドウのオプション .....	325
[組織] ウィンドウのオプション：[属性] タブ .....	326
[組織] ウィンドウのオプション：[親子関係] タブ .....	328
[組織] ウィンドウのオプション：[子] タブ .....	329
[組織] ウィンドウのオプション：[詳細設定オプション] タブ .....	330
[持株会社の選択] ダイアログボックスのオプション .....	331
[下位構造を開く] ダイアログボックスのオプション .....	331
[新規下位構造] ダイアログボックスのオプション .....	331
[下位構造の属性] ダイアログボックスのオプション .....	332
[下位構造の削除] ダイアログボックスのオプション .....	333
[組織を開く] ダイアログボックスのオプション .....	333
[新規の組織] ダイアログボックスのオプション .....	333

[組織の属性] ダイアログボックスのオプション	333
[組織の削除] ダイアログボックスのオプション	334
[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション	334
[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション：[組織] タブ	335
[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション：[属性] タブ	335
[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション：[親子関係] タブ	336
[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション：[詳細設定オプション] タブ	337
[エンティティの追加] ダイアログボックスのオプション	337
[子の追加] ダイアログボックスのオプション	337
[親の追加] ダイアログボックスのオプション	338
[組織の貼り付け] ダイアログボックスのオプション	338
[親が未定義のエンティティの除去] ダイアログボックスのオプション	338
[エンティティの選択] ダイアログボックスのオプション	339
[表に含む項目] ダイアログボックスのオプション	340
[表に含む項目] ダイアログボックスのオプション：[親子関係] タブ	340
[表に含む項目] ダイアログボックスのオプション：[子] タブ	340
[親子関係の算出] ダイアログボックスのオプション	341
[会社間の子を更新] ダイアログボックスのオプション	342
[株式の読込] ダイアログボックスのオプション	343
[株式の抽出] ダイアログボックスのオプション	344
[エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのオプション	344
[エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのオプション：[属性] タブ	345
[エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのオプション：[親子関係] タブ	346
[エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのオプション：[詳細設定オプション] タブ	347
[組織オプション] ダイアログボックス	347
会社間トランザクションのウィンドウヘルプ	348
勘定科目のウィンドウとダイアログボックス	355
[勘定科目表] ウィンドウのオプション	355
[勘定科目表] ウィンドウのオプション：[属性] タブのオプション	355
[勘定科目表] ウィンドウのオプション：[サブ勘定科目表] タブ	357
[勘定科目表の印刷] ダイアログボックスのオプション	357
[サブ勘定科目表] ウィンドウのオプション	358
[サブ勘定科目表を開く] ダイアログボックスのオプション	359
[新規サブ勘定科目表] ダイアログボックスのオプション	360
[サブ勘定科目表のコピー] ダイアログボックスのオプション	360

[サブ勘定科目表の削除] ダイアログボックスのオプション	361
[サブ勘定科目表の印刷] ダイアログボックスのオプション	361
[サブ勘定科目の検索] ダイアログボックスのオプション	362
[サブ勘定科目の貼り付け] ダイアログボックスのオプション	362
[勘定グループの表示] ダイアログボックスのオプション	362
[サブ勘定科目表属性] ダイアログボックスのオプション	363
[勘定グループの検索] ダイアログボックスのオプション	363
データ入力のウィンドウとダイアログボックス	364
[データ入力表] ウィンドウのオプション	364
[データ入力表オプション] ダイアログボックスのオプション	364
[新規データ入力表] ダイアログボックスのオプション	365
[データ入力表属性] ダイアログボックスのオプション	366
[データ入力表を開く] ダイアログボックスのオプション	367
[データ入力表の削除] ダイアログボックスのオプション	367
[データ入力表のコピー] ダイアログボックスのオプション	368
仕訳帳のウィンドウとダイアログボックス	368
[仕訳帳] ウィンドウのオプション	368
[仕訳帳情報] ダイアログボックスのオプション	370
[新規仕訳帳] ダイアログボックスのオプション	371
[仕訳帳を開く] ダイアログボックスのオプション	371
[条件] ダイアログボックスのオプション	372
[仕訳帳の承認] ダイアログボックスのオプション	374
[仕訳帳の転記] ダイアログボックスのオプション	374
[仕訳帳の再転記] ダイアログボックスのオプション	375
[仕訳帳の抽出 - 全期間] ダイアログボックスのオプション	376
[仕訳帳の抽出 - 単一期間] ダイアログボックスのオプション	377
[仕訳帳の読込] ダイアログボックスのオプション	378
[仕訳帳の削除] ダイアログボックスのオプション	378
[仕訳帳レポート] ダイアログボックスのオプション	379
[仕訳帳レポート] ダイアログボックスのオプション：[標準列] タブ	380
[仕訳帳レポート] ダイアログボックスのオプション：[オプションの列] タブ	380
[記録レポート] ダイアログボックスのオプション	381
[記録レポート] ダイアログボックスのオプション：[標準列] タブ	381
[記録レポート] ダイアログボックスのオプション：[オプションの列] タブ	382
[試算表レポート] ダイアログボックスのオプション	383
[勘定科目の選択] ダイアログボックスのオプション	383
連結のウィンドウとダイアログボックス	384

[連結] ウィンドウのオプション .....	384
[連結詳細レポートの選択] ダイアログボックスのオプション .....	384
データベースのウィンドウとダイアログボックス .....	385
[データベース] ウィンドウのオプション .....	385
[データの読込] ダイアログボックスのオプション .....	386
[データの抽出] ダイアログボックスのオプション .....	387
[データベースオプション] ダイアログボックスのオプション .....	388
[新規書式] ダイアログボックスのオプション .....	388
[書式を開く] ダイアログボックスのオプション .....	389
[書式の削除] ダイアログボックスのオプション .....	389
[書式属性] ダイアログボックスのオプション .....	390
[書式のコピー] ダイアログボックスのオプション .....	390
[書式] ダイアログボックスのオプション .....	391
[特殊貼り付け] ダイアログボックスのオプション .....	393
[値の挿入] ダイアログボックスのオプション .....	394
[勘定科目一覧の表示] ダイアログボックスのオプション .....	394
[子の連結詳細レポート] ダイアログボックスのオプション .....	395
[エンティティ一覧の表示] ダイアログボックスのオプション .....	396
[エンティティ詳細レポート] ダイアログボックスのオプション .....	396
[連結詳細の抽出] ダイアログボックスのオプション .....	398
計算式のウィンドウとダイアログボックス .....	398
[ロジック] ウィンドウのオプション .....	398
[新規ロジック] ダイアログボックスのオプション .....	400
[ロジックを開く] ダイアログボックスのオプション .....	400
[ロジックのコピー] ダイアログボックスのオプション .....	401
[ロジック属性] ダイアログボックスのオプション .....	401
[サマリー情報] ダイアログボックスのオプション .....	402
[ロジックの削除] ダイアログボックスのオプション .....	402
[データ種別の貼り付け] ダイアログボックスのオプション .....	403
[勘定科目の貼り付け] ダイアログボックスのオプション .....	403
[エンティティの貼り付け] ダイアログボックスのオプション .....	404
[関数の貼り付け] ダイアログボックスのオプション .....	404
[関数設定支援] ダイアログボックスのオプション .....	405
[関数設定支援への貼り付け] ダイアログボックスのオプション .....	405
[ロジックの使用] ダイアログボックスのオプション .....	406
[ロジックの使用] ダイアログボックスのオプション：[ロジック] タ ブ .....	406
[ロジックの使用] ダイアログボックスのオプション：[データ種別] タ ブ .....	406
[データ種別の設定] ダイアログボックスのオプション .....	407

[計算式のリンク] ダイアログボックスのオプション	408
[ロジックのチェック] ダイアログボックスのオプション	408
[計算式オプション] ダイアログボックスのオプション	408
[計算式の読込] ダイアログボックスのオプション	409
[計算式の抽出] ダイアログボックスのオプション	410
[計算式の抽出] ダイアログボックスのオプション:[ファイル] タブ	410
[計算式の抽出] ダイアログボックスのオプション:[ロジック] タブ	410
[計算式の抽出] ダイアログボックスのオプション:[更新ルール] タブ	411
[計算式の抽出] ダイアログボックスのオプション:[カスタム関数] タブ	411
[計算式のエクスポート] ダイアログボックスのオプション	412
[更新ルール] ウィンドウのオプション	412
[新規更新ルール] ダイアログボックスのオプション	413
[更新ルールを開く] ダイアログボックスのオプション	413
[更新ルールのコピー] ダイアログボックスのオプション	414
[更新ルールの属性] ダイアログボックスのオプション	414
[更新ルールの削除] ダイアログボックスのオプション	415
[カスタム関数] ウィンドウのオプション	416
計算式スクリプトエディタ	417
[計算式のインポート] ダイアログボックスのオプション	417
レポートおよびパッケージのウィンドウとダイアログボックス	417
[レポート] および [パッケージ] ウィンドウのオプション	417
セキュリティのウィンドウとダイアログボックス	418
[アクセス権レポート] ダイアログボックスのオプション	418
[タスクレポート] ダイアログボックスのオプション	419
[アプリケーション要素レポート] ダイアログボックスのオプション	419
[メンバーの挿入] ダイアログボックスのオプション	420
[セキュリティ権の貼り付け] ダイアログボックスのオプション	420
[メンバーの検索] ダイアログボックスのオプション	420
[セキュリティの読込] ダイアログボックスのオプション	421
[セキュリティの抽出] ダイアログボックスのオプション	421
[ユーザーの定義] ダイアログボックス	422
[ユーザーメンバーシップの割り当て] ダイアログボックス	423
[ユーザー権限の割り当て] ダイアログボックス	424
[グループの定義] ダイアログボックス	426
[グループメンバーの割り当て] ダイアログボックス	427
[グループ権限の割り当て] ダイアログボックス	430

[クラス定義] ダイアログボックス .....	432
[クラス権限の割り当て] ダイアログボックス .....	433
[タスクを保持] ダイアログボックス .....	435
[パスワードの変更] ダイアログボックス .....	435
[パスワードの有効期間の設定] ダイアログボックス .....	436
[セキュリティクラスの選択] ダイアログボックス .....	436
サーバセットアップのウィンドウとダイアログボックス .....	437
[Server セットアップ] ダイアログボックスのオプション .....	437
[サーバーの定義 - 識別] ダイアログボックスのオプション .....	437
[サーバーの定義 - ファイルの位置] ダイアログボックスのオプション .....	438
[Server Administration] ウィンドウのオプション .....	439
サーバ管理プログラム : [サーバーの設定] ダイアログボックスのオプション .....	439
サーバ管理プログラム : [サーバーの追加] ダイアログボックスのオプション .....	440
Enterprise サーバ管理 .....	440
Enterprise Server Administration からアプリケーションにログイン .....	441
アプリケーションの変更 .....	441
アプリケーションの設定 .....	442
詳細設定 .....	444
サーバ管理設定 .....	444
アプリケーションサーバ .....	446
アプリケーションサーバ : 管理 .....	446
アプリケーションサーバ : 設定 .....	446
アプリケーションサーバ : 処理量 .....	447
アプリケーションサーバ : ログの表示 .....	448
データサーバ .....	448
データサーバ : 管理 .....	448
データサーバ : 管理 : 設定 .....	448
データサーバ : ログの表示 .....	449
メッセージサーバ .....	449
メッセージサーバ : 管理 .....	449
メッセージサーバ : 設定 .....	450
Web 対応アプリケーションのメッセージサーバ .....	450
Web 対応アプリケーションのメッセージサーバ : 設定 .....	451
Web サーバ .....	451
Web サーバ : 管理 .....	451
Web サーバ : 管理 : 設定 .....	452
Web サーバ : 処理量 .....	452

<b>第 11 章 Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise</b> .....	453
Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise?の起動 .....	454
[Hyperion Enterprise] タスクのプロパティの指定 .....	455
データ種別の変更 .....	455
期間の変更 .....	456
期間単位の変更 .....	456
組織の変更 .....	457
エンティティの変更 .....	457
勘定科目の変更 .....	458
Enterprise データの抽出 .....	458
連結の実行 .....	460
Enterprise データの読み込み .....	462
レポートのチェック .....	464
パッケージのチェック .....	464
レポートの印刷 .....	465
パッケージの印刷 .....	465
配賦セットの実行 .....	466
[LedgerLink 読込] プロファイルの実行 .....	466
Excel の検索 .....	466
ページ書式とページ設定の読み込み .....	467
ページ書式とページ設定の抽出 .....	468
Enterprise アプリケーションの読み込み .....	468
Enterprise アプリケーションの抽出 .....	470
計算式の読み込み .....	471
計算式の抽出 .....	473
ロジックのチェック .....	474
仕訳帳の読み込み .....	475
仕訳帳の抽出 .....	477
仕訳帳の転記 .....	479
株式の読み込み .....	479
株式の抽出 .....	480
セキュリティの読み込み .....	482
セキュリティの抽出 .....	483
アプリケーションの変更 .....	484
エンティティデータの保護 .....	485
エンティティデータの保護解除 .....	486
エンティティ一覧データの保護 .....	486
エンティティ一覧データの保護解除 .....	488
計算式の実行 .....	489

アプリケーションバックアップユーティリティ .....	490
アプリケーション復元ユーティリティ .....	491
プログラムコードへのキーストロークの送信 .....	492
Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise .....	493
<b>第 12 章 Oracle Technology Network サイトにある製品マニュアル .....</b>	<b>495</b>
Hyperion Enterprise マニュアル .....	495
<b>索引 .....</b>	<b>497</b>

# 1

## データ入力表へのデータの入力

### この章の内容

データ入力表の概要 .....	23
[データ入力表] ウィンドウ .....	23
データ入力表の設定 .....	27
データ入力表の管理 .....	31
データ入力表の計算式の実行 .....	33
データなしの勘定科目をゼロに設定 .....	34
小数表示オプション .....	34

オラクル社の Hyperion(R) Enterprise(R)では、データ入力表を使用してデータを入力できます。オラクル社の Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting を使用してレポートを生成できます。

この章では、データ入力表にデータを入力するために必要な情報と手順について説明します。

## データ入力表の概要

データ入力表は、具体的な勘定科目のデータを入力、表示および編集するときに使用するフォームです。データ入力表を設定するには、これに ID と説明を割り当て、対象とする勘定科目一覧を指定し、データの書式設定および計算オプションを設定します。

各データ入力表には、具体的なエンティティおよびデータ種別のデータが、勘定科目および期間別に挿入されます。データ入力表には、1 つまたは 2 つの勘定科目一覧を挿入できます。従って、勘定科目表全体ではなく必要な勘定科目だけを操作することが可能です。例えば、Sales Data という入力勘定科目を一覧の上部に、Total Sales という算出勘定科目を一覧の下部に設定した、Plant 1 というエンティティの Actual データに関するデータ入力表を作成することができます。このデータ入力表を使用すると、入力勘定科目にデータを入力し、算出勘定科目にデータ入力の結果を表示できます。

## [データ入力表] ウィンドウ

データ入力表を設定して操作するには、[データ入力表] ウィンドウを使用します。[データ入力表] ウィンドウでは、以下の操作を行うことができます。

- データ入力表の作成と既存のデータ入力表の編集

- データ入力表のコピーと削除
- データ入力表データの入力と編集
- 計算式の実行
- チェック済みサブ勘定科目の追加

[データ入力表] ウィンドウでは、データ入力表を開いて勘定科目のデータを表示したり変更したりできます。[データ入力表] ウィンドウを開くと、デフォルトのデータ入力表が表示されます。デフォルトのデータ入力表を編集することも、新しいデータ入力表を開くこともできます。また、データ入力表データをプレビューして印刷することもできます。データ入力表とその使用方法については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

Hyperion Enterprise では、データ入力表モジュールなどで別のユーザがデータの視点を使用しているときに、同じデータの視点を操作しようとするエラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは、エラーログに書き込まれます。エラーログについて詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

図1 [データ入力表] ウィンドウ

The screenshot shows the 'DataEntry' window. At the top, there's a header bar with the title 'DataEntry'. Below it is a table with columns for months from JAN 07 to SEP 07. The rows are organized into groups, with the first group containing 'Account Label', 'RATE1', 'RATE2', 'NonGlobalRate1', and 'NonGlobalRate2'. The second group contains 'SOURCE', 'DEST', 'ERROR', 'FLOWSOURCE', 'FLOWDEST', 'FLOWERROR', 'ERRDETSTUB', 'ERRDETSTOTAL', 'ERRSUBTOTAL1ASS', 'ERRSUBTOTAL1UA', 'ERRSUBTOTAL2EXP', 'ERRSUBTOTAL2INC', and 'ERRSUBTOTAL3ASS'. A sidebar on the left shows a tree view of account labels with expand/collapse icons. Below the table, there is a section for 'Implied Subtotal' and a footer area with settings like Frequency, View, Scale, Decimals, Currency, and Account Type.

1. 展開／縮小ボックスを選択すると、データ入力表内のすべての勘定科目およびサブ勘定科目を表示できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
2. 左側にプラス記号 (+) がある勘定科目 ID は、サブ勘定科目が非表示になっている主要勘定科目であるか、または第 2 レベルサブ勘定科目を持つサブ勘定科目であることを示しています。プラス記号 (+) をクリックするとサブ勘定科目を表示でき、マイナス記号 (-) をクリックするとサブ勘定科目を非表示にできます。

3. データ入力表には、1 つまたは 2 つの勘定科目一覧（上部勘定科目一覧と下部勘定科目一覧）を含めることができます。この場合、行には各勘定科目が挿入され、列には現在のデータ種別の各期間が挿入されます。
4. 計算式領域には、選択した勘定科目用の既存の計算式のステートメントが表示されます。
5. 情報領域には、選択した勘定科目の現在の期間単位、表示、単位および小数点以下の桁数といった属性が表示されます。データの視点の選択については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
6. 勘定科目領域には、勘定科目の種類、勘定科目の説明および選択した期間に関する保存済みの値が表示されます。

サブ勘定科目を含む主要勘定科目だけでなく、第 2 レベルサブ勘定科目を含むサブ勘定科目も算出勘定科目なので、それらにデータを入力することはできません。データを入力できない勘定科目は色分けして表示されます。次のデフォルトのシステム色は変更できます。

- 白色のセル – データ入力可能な入力勘定科目。
- 緑色のセル – 算出勘定科目。
- 黄色のセル – 連結勘定。

システム定義色の変更方法については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。勘定科目の属性については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## データ入力表オプションの設定

次の各オプションによって、データ入力表の表示内容と、データの計算方法を決定します。

- 勘定科目列の勘定科目ラベルまたは説明、あるいは勘定科目ラベルおよび説明の表示
- 全期間のデータまたは現在の期間のみのデータの表示
- データの自動再計算または手動再計算
- 計算式の表示または非表示
- データのない勘定科目行の非表示
- 勘定科目列とデータ列の幅の変更
- フォントの指定

複数の [データ入力表] ウィンドウを同時に開いている場合、変更したオプションはアクティブなウィンドウにのみ反映されます。

▶ データ入力表のオプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 [データ入力表] で、[タスク] メニューから [データ入力表オプションの設定] を選択します。
- 2 勘定科目の ID と説明のいずれか一方を表示するかまたは両方を表示するか、列幅、表示期間、フォント、その他のオプションを指定します。

**注：** デフォルトの設定では、勘定科目ラベルが表示されます。

- 3 [OK] をクリックします。

## データ表示

期間のデータ値について表示できる数値の桁数は、列幅とフォントサイズで決まります。列幅とフォントサイズはデータ入力表オプションとして選択します。桁数が列幅を超えた場合、数値は四捨五入によって切り詰められ、この数値にデータ表示文字が付加されます。表 1 にデータ表示文字の説明を示します。

表 1 データ表示文字

文字	説明
K	千
M	百万
B	十億
T	兆
Q	10 兆
*	データ値が大きすぎて表示できません。

システムによって表示されるのは四捨五入された数値ですが、システムに実際に保存されるのは四捨五入されていない完全な数値です。勘定科目を選択すると、保存されている値が情報領域に表示されます。

表 2 に、列幅を変えることによって、123456789012 という数値がどのように表示されるかを示します。この例では単位を 0（ゼロ）、フォントサイズを 8 pt に設定しています。

表 2 大きなデータ値の表示

列幅	表示値
10 文字	123.45678B
8 文字	123.457B
6 文字	123.4B

## データ入力表のデータの視点

[データ入力表] ウィンドウに表示されるデータは、データ入力表のデータの視点によって決まります。データ入力モジュールにアクセスすると、デフォルトのデータ入力表のデータが [データ入力表] ウィンドウに表示されます。データ入力表のデータの視点は、データ種別、組織またはエンティティを変更することによって変えることができます。

単位、期間単位およびデータ表示オプションは、現在のデータ種別の属性にデフォルトで設定されます。これらのいずれかのオプションを変更すると、現在のデータ入力表のデータの表示方法を変えることができます。

**注：** [データ入力表] ウィンドウで単位、期間単位およびデータ表示を変更した場合、変更は現在のセッションのみに反映されます。

単位、期間単位およびデータ表示は [データの視点] ダイアログボックスで変更できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

## 勘定科目または期間の検索

多くの勘定科目または期間を含むデータ入力表は、画面内に収まらないことがあります。勘定科目または期間の ID の全体または一部を入力して、データ入力表をスクロールせずに勘定科目や期間を検索できます。一覧をフィルタして、一覧に組み込む入力勘定科目、算出勘定科目、サブ勘定科目、または連動表示勘定科目を指定することもできます。

- ▶ 勘定科目や期間を検索するには、次の手順に従います。
  - 1 [データ入力表] ウィンドウから、以下のいずれかの操作を行います。
    - 勘定科目を検索するには、[編集] メニューの [検索] から [勘定科目] を選択し、各チェックボックスをオンまたはオフにして勘定科目の一覧をフィルタします。
    - 期間を検索するには、[編集] メニューの [検索] から [期間] を選択します。
  - 2 勘定科目または期間の ID を入力するか、一覧から選択します。
  - 3 [OK] をクリックします。

## 連結詳細の表示

アプリケーションを作成したときに連結詳細を保存するオプションを選択した場合には、エンティティとその子の連結詳細を表示できます。データの視点バーを使用して表示できる項目には、換算情報、比率の詳細、消去の詳細、親レベルの調整、および調整後の値があります。

- ▶ 連結詳細を表示するには、次の手順に従います。
  - 1 デスクトップ、またはデータの視点を使用しているウィンドウで、[編集] メニューから [データの視点] を選択します。
  - 2 [連結の詳細] タブを選択し、表示する連結の詳細を選択して、[OK] をクリックします。

## データ入力表の設定

データ入力表を設定する場合は、Hyperion Enterprise にデータを入力するために使用するデータ入力表を定義する必要があります。データ入力表を設定するには、ID、説明、セキュリティクラス、勘定科目一覧、データ入力表オプションを指定

します。任意の数のデータ入力表を作成できます。既存のデータ入力表の定義を編集することもできます。不要になったデータ入力表を削除することもできます。

データ入力表を設定する前に、システム管理者は、あらかじめ勘定科目一覧を定義しておく必要があります。また、アプリケーションで [データ入力表] ウィンドウに初めてアクセスするときは、デフォルトのデータ入力表を作成するか、選択する必要があります。勘定科目一覧については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。デフォルトのデータ入力表について詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

不要になったデータ入力表は削除できます。データ入力表を削除しても、そのエンティティおよびデータ種別のデータが削除されることはありません。デフォルトのデータ入力表を削除することはできません。

## データ入力表の定義

1 つか 2 つの勘定科目一覧を含むデータ入力書式を設定するには、データ入力表を定義するか、既存のデータ入力表を編集します。データ入力表の ID、説明またはセキュリティクラスの変更、新しい上部勘定科目および下部勘定科目一覧の選択、または列幅、表示期間、フォントなどの表示オプションの変更を行うには、データ入力表の属性を編集します。

**注：** データ入力表属性の設定変更は、[タスク] メニューから [データ入力表オプションの設定] を選択して実行する場合も、Hyperion Enterprise Web から実行する場合も、アプリケーションを終了すると使用できなくなります。

**注：** 下部の勘定科目一覧は必須ではありません。

➤ データ入力表を定義するには、次の手順に従います。

- 1 [データ入力表] ウィンドウから、以下のいずれかの操作を行います。
  - データ入力表を作成するには、[ファイル] メニューから [新規データ入力表] を選択します。
  - データ入力表を編集するには、編集するデータ入力表を開き、[ファイル] メニューから [データ入力表属性] を選択します。データ入力表を開く手順については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
- 2 ID、説明、セキュリティクラス、および上部と下部の勘定科目一覧を指定します。
- 3 データ入力表のデータの表示方法を変更するには、[オプション] を選択して設定変更を設定し、[OK] をクリックします。詳しくは、[25 ページの「データ入力表オプションの設定」](#)を参照してください。

## チェック済みサブ勘定科目の追加

チェック済みサブ勘定科目は、サブ勘定科目のデータが存在する場合にのみデータ入力表に表示されます。これらのサブ勘定科目に値を入力するには、まずサブ勘定科目をデータ入力表に手動で追加する必要があります。

例えば、Golf Sales という主要勘定科目の下に 50 個のサブ勘定科目を含むチェック済みサブ勘定科目表がある場合に、これらのサブ勘定科目のうち 3 つのみにデータを入力する必要があるとします。50 個のサブ勘定科目すべてを表示する代わりに、データの入力時に主要勘定科目の「Golf Sales」の下にこれら 3 つのサブ勘定科目を追加できます。

チェック済みサブ勘定科目は、勘定科目またはサブ勘定科目に割り当てられているサブ勘定科目表に含まれています。チェック済みサブ勘定科目は、サブ勘定科目表に表示されている順番でデータ入力表に追加されます。サブ勘定科目表の設定方法については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

- ▶ チェック済みサブ勘定科目を追加するには、次の手順に従います。
- 1 [データ入力表] ウィンドウで、チェック済みサブ勘定科目がある主要勘定科目またはサブ勘定科目を選択します。
- 2 [編集] メニューから [サブ勘定科目の挿入] を選択するか、[勘定科目] 列内の選択済みの勘定科目 ID または説明をダブルクリックします。
- 3 サブ勘定科目 ID を入力するか、選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## データの入力または編集

データは最下位エンティティの入力勘定科目に入力します。算出勘定科目または連結勘定科目の値は他のソースから挿入されるため、これらの勘定科目はデータの入力を受け入れません。例えば、USA East という会社には East GF、East TN、East FB という 3 つの子がある場合、値はこれらの子のエンティティに入力します。連結を行うと、USA East にはその 3 つの子の値の合計が挿入されます。

データ入力表に変更を加えると、[データ入力表] ウィンドウを閉じるときや、[データ入力表] ウィンドウのデータの視点バーのエンティティまたはデータ種別を変更するときに、データ入力表の変更の保存を確認するメッセージが表示されます。

データの視点バーを使用すると、データ表示形式を一時的に変更して、データ種別の期別データまたは年次累計データを表示できます。データはどのデータ表示形式でも入力できます。例えば、6 月の期別実績データを入力している場合、表示形式を年次累計表示に変更して 1 月から 6 月までの年次累計実績データを入力できます。データ入力表のデータ表示形式を変更しても、データ種別の [データ表示形式] 属性は変更されません。データの視点について詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

- ▶ データ入力表のデータを入力したり編集したりするには、次の手順に従います。
- 1 [データ入力表] ウィンドウで、データを入力または変更するセルを選択します。詳しくは、[31 ページの「データブロックのハイライト」](#)を参照してください。
- 2 値を入力し、[Enter] キーを押します。

**ヒント：** ワークステーションの [Enter] キーの機能は定義することができます。  
手順については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』の  
「Hyperion Enterprise デスクトップ」の章を参照してください。

## データ入力オペレータキー

オペレータキーには、迅速且つ容易にデータを入力するための特殊機能があります。オペレータキーを使用することによって、複数のセルにデータを同時に入力したり、データ入力表に挿入済みのデータを計算したり、ランダム生成されたテストデータをデータ入力表に挿入したりできます。表 3 にオペレータキーの説明を示します。

**表 3** オペレータキー

キー	演算	例
+	入力する値を、セル内に挿入済みの値に加算します。	30+
-	入力する値を、セル内に挿入済みの値から減算します。	30-
% + または % -	入力するパーセント値だけ、セル内の値を増減します。	50%+
+ P または -P	入力する値またはパーセント値だけ、前期のセル内の値を増減します。	30%+P
/	現在のセルの値を入力する値で除算します。	10/
*	入力する値を現在のセルの値に乗算します。	5*
A	入力する値を、ハイライトされているすべてのセルに均等に割り当てます。	150A
?	入力する値と任意の正の値を乗算します。	30?
-?	入力する値と任意の負の値を乗算します。	-30?

図 2 に、データを編集するためのオペレータキーの使用例を示します。この例では、オペレータキーを使用して、Apparel 勘定科目内の値をすべての期間にわたって 10% 増加させます。

図2 オペレータキーの使用例

	Account	Q1 98	Q2 98	Q3 98	
—	Colf				
	Apparel	100	750	820	← 1
	Equipment				
	Shoes				

	Account	Q1 98	Q2 98	Q3 98	
—	Colf				
	Apparel	10% +	750	820	← 2
	Equipment				
	Shoes				

	Account	Q1 98	Q2 98	Q3 98	
—	Colf				
	Apparel	110	825	902	← 3
	Equipment				
	Shoes				

1. 変更するデータを選択します。
2. 値の後にオペレータキーを続けて入力します。

データ入力表に結果が表示されます。

## データ入力表の管理

データ入力表を作成した後は、データの移動、コピー、削除といったデータの管理作業を行うことができます。入力勘定科目のエンティティおよびデータ種別のデータを入力したり編集したりするには、データ入力表を使用します。データ管理には以下の作業があります。

- データブロックのハイライト
- データの移動
- データのコピー
- データの削除

### データブロックのハイライト

データ入力表で勘定科目および期間のブロックをハイライトすると、ハイライトしたすべてのセルのデータの変更や入力を同時に行うことができます。この場合、1行のデータ、1列のデータ、セルのブロック、またはデータ入力表全体をハイライトできます。

- ▶ データブロックをハイライトするには、以下のいずれかの操作を行います。
  - 行全体をハイライトするには、行の左側の列にある勘定科目の ID または説明を選択します。
  - 列全体をハイライトするには、列の一番上にある期間 ID を選択します。

- セルのブロックをハイライトするには、特定のセルを 1 つ選択し、必要なセルがすべて選択されるまでカーソルをドラッグします。
- データ入力表全体をハイライトするには、勘定科目の列見出しを選択します。

## データの移動

データはセル間で移動したり、同じサイズのセルのブロック間で移動できます。クリアされたセルにはゼロがグレー表示され、データがないことを示します。[データなしはゼロに設定] オプションがデータ入力表に対して選択されている場合には、データなしのステータスは真のゼロ値に変換され、データ入力表の他の値と同じフォントで表示されます。詳しくは、[34 ページの「データなしの勘定科目をゼロに設定」](#)を参照してください。

保護期間、算出勘定科目、または連結勘定科目にデータを移動したり、これらに含まれているデータを別の場所に移動することはできません。保護期間には列見出しに[保護済]アイコンが表示されます。算出勘定科目と連結勘定科目は色で区別されています。これらの勘定科目のセルのデフォルト色は変更できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

- ▶ データを移動するには、次の手順に従います。
  - 1 [データ入力表] ウィンドウで、移動するデータを含んでいるセルまたはセルのブロックを選択します。
  - 2 [編集] メニューから [切り取り] を選択します。
  - 3 データの貼り付け先のセルまたはセルのブロックを選択します。詳しくは、[31 ページの「データブロックのハイライト」](#)を参照してください。
  - 4 [編集] メニューから [貼り付け] を選択します。

## データのコピー

データはセル間でコピーしたり、同じサイズのセルのブロック間でコピーできます。データは保護期間、算出勘定科目、および連結勘定科目からコピーできます。保護期間、算出勘定科目、または連結勘定科目にデータを貼り付けることはできません。保護期間には列見出しに[保護済]アイコンが表示されます。算出勘定科目と連結勘定科目は色で区別されています。これらの勘定科目のセルのデフォルト色は変更できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

- ▶ データをコピーするには、次の手順に従います。
  - 1 [データ入力表] ウィンドウで、コピーするデータを含んでいるセルまたはセルのブロックを選択します。
  - 2 [編集] メニューから [コピー] を選択します。
  - 3 データの貼り付け先のセルまたはセルのブロックを選択します。詳しくは、[31 ページの「データブロックのハイライト」](#)を参照してください。
  - 4 [編集] メニューから [貼り付け] を選択します。

## データの除去

データは1つのセルまたはセルのブロックから除去できます。データを除去すると、そのデータはデータ入力表とデータ表の両方から削除されます。クリアされたセルにはゼロがグレー表示され、データがないことを示します。[データなしはゼロに設定] オプションがデータ入力表に対して選択されている場合には、データなしのステータスは真のゼロ値に変換され、データ入力表の他の値と同じフォントで表示されます。詳しくは、[34 ページの「データなしの勘定科目をゼロに設定」](#)を参照してください。

保護期間、算出勘定科目、または連結勘定科目からデータを除去することはできません。保護期間には列見出しに[保護済] アイコンが表示されます。算出勘定科目と連結勘定科目は色で区別されています。これらの勘定科目のセルのデフォルト色は変更できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

- ▶ データを除去するには、次の手順に従います。
- 1 [データ入力表] ウィンドウで、除去するデータを含んでいるセルまたはセルのブロックを選択します。詳しくは、[31 ページの「データブロックのハイライト」](#)を参照してください。
- 2 [編集] メニューから[除去] を選択します。

## データ入力表の計算式の実行

データ入力表の計算式を実行すると、データ入力の結果を表示できます。[データ入力表オプション] ダイアログボックスの[自動再計算] オプションが選択されている場合には、値を入力するたびにデータが再計算されます。データ入力の速度を上げるには、[自動再計算] オプションの選択を解除してデータを入力してください。データ入力表を保存する際、算出勘定科目には新しい値が含まれていませんが、データ入力表全体または特定の勘定科目や期間のデータを手動で再計算できます。

**注：** データ変更の影響を受けるすべての期間には、新規データの入力後の連結に「影響あり」というステータスが表示されます。システムの影響を受ける期間は、データの視点内で設定されている期間の影響を受けません。

例えば、Sales という主要勘定科目の4つのサブ勘定科目の値を入力し、主要勘定科目の新しい値を表示するとします。この場合、データを再計算すると、サブ勘定科目の新しい合計値を確認できます。[自動再計算] の選択が解除された状態でデータ入力表を保存すると、計算式が実行され、ファイルのステータスが保存されます。後でこのファイルのデータを表示すると、期間 ID の上に計算式のステータスアイコンが表示され、計算式を実行する必要があることが示されます。

複数のデータ入力表を同時に操作している場合は、アクティブウィンドウのデータ入力表のデータのみを再計算できます。開いている別のデータ入力表のデータを再計算するには、そのデータ入力表のウィンドウに切り替える必要があります。

- ▶ 計算式を実行するには、次の手順に従います。
- 1 [データ入力表] ウィンドウで、計算するデータを含んでいる期間と勘定科目を選択します。
- 2 [タスク] メニューから [計算式の実行] を選択します。

## データなしの勘定科目をゼロに設定

[データなしはゼロに設定] オプションによって、データなしがゼロに変換されます。このオプションの選択を解除すると、データなしはゼロとして表示されます。このオプションを選択すると、ゼロは通常のテキストで表示されます。

データを含む期間の次の期間にデータ値またはゼロが含まれない場合、その期間はデータなしとなります。システムはデータを処理する際、データなしを常にゼロと見なします。データ種別の [データなしはゼロ] 属性は、特定のデータ種別においてゼロを期別値または年次累計値として表示するかどうかを決定します。これにより、ゼロ値に基づく派生データは異なるデータ表示形式でも同じに保たれます。この設定は、フロー、収益、および費用の勘定科目のみに適用されます。残高、資産、および負債の勘定科目は影響されません。

データなしの期間の値の表示は、データの表示形式によって異なります。ゼロの期別表示が選択されている場合、データの無い期間にはゼロの値が表示されます。ゼロの年次累計表示が選択されている場合、データの無い期間にはゼロの年次累計値が表示されます。例えば、デフォルトのデータ表示形式が期別の場合に、[データなしはゼロ] を選択してデータ表示形式を年次累計に変更したとします。1月の値が 100 で2月のデータがない場合、システムは自動的に2月に-100の期別値を入力して、2月の年次累計値がゼロになるようにします。

- ▶ データなしをゼロに変換するには、次の手順に従います。
- 1 [データ入力表] ウィンドウで、データの無いゼロを数値としてのゼロに変換する期間の列見出しを選択します。

**ヒント：** データ入力表全体をハイライトするには、**勘定科目**の列見出しを選択します。

- 2 [編集] メニューから [データなしはゼロに設定] を選択します。

## 小数表示オプション

勘定科目モジュールで勘定科目を作成する際は、その勘定科目のデフォルトの小数点以下桁数を指定します。この勘定科目の値を表示すると、デフォルトの小数点以下桁数が常に使用されます。例えば、勘定科目の [小数表示] 属性を 0（ゼロ）に設定すると、勘定科目値は整数で表示されます。勘定科目の [小数表示] 属性を 2 に設定すると、勘定科目値は 6.75 などのように、小数点以下 2 桁の数で表示されます。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

データ入力モジュールでは、[小数表示] オプションを使用することにより、表示される勘定科目のデフォルトの小数点以下桁数を上書きできます。データ入力モジュールを終了して再開しても、各データ値は、指定した小数点以下の桁数で表

示されます。メニュー内で選択した小数点以下桁数の横にはチェックマークが表示されます。[デフォルト]を選択すると、勘定科目モジュールを使用して勘定科目に対して最初に指定した小数表示の設定を表示できます。

デフォルトの小数点以下の桁数を上書きするには、次の手順に従います。

- [データ入力表] ウィンドウで、[表示] メニューから [小数表示] を選択します。

表示する小数点以下の桁数を選択するか、または [デフォルト] を選択して、勘定科目モジュールで指定した小数点以下の桁数を使用します。



## この章の内容

データベース管理の概要.....	37
[データベース] ウィンドウ.....	38
データベースの管理.....	44
データベースの計算式の実行.....	52
データなしの勘定科目をゼロに設定.....	52
子の連結詳細レポートの作成.....	53
無効な連結詳細のクリア.....	54
データ書式.....	55
連結詳細の抽出.....	63
データ読み込みと抽出でのレコードの検証.....	64
エンティティ詳細レポートの作成.....	65
小数表示オプション.....	69

Hyperion Enterprise では、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management、Fusion Edition のデータに対するドリルバックオプションをサポートしています。

この章では、Hyperion Enterprise アプリケーションでのデータの読み込みと抽出に必要な情報とその手順について説明します。

## データベース管理の概要

データベース管理は、さまざまなエンティティ、データ種別、勘定科目および期間のデータを管理するための処理です。例えば、異なる期間の間でデータのコピーや移動を行うことができます。データの読み込みと抽出は、外部の ASCII ファイルとの間で読み込みや抽出を行うプロセスです。

Hyperion Enterprise 内の異なる場所またはアプリケーションの間で、あるいは Hyperion Enterprise と他のシステムの間で Hyperion Enterprise データを転送するには、データベース モジュールを使用します。例えば、さまざまなサイトから抽出されたデータを本社のアプリケーションに読み込んだり、総勘定元帳から Hyperion Enterprise にデータを読み込むことができます。

データの読み込みまたは抽出時に、データ書式を使用して、外部システムのデータをどのように解釈するかを Hyperion Enterprise に指示します。例えば、データ書式でエンティティおよび勘定科目変換表を指定して、Hyperion Enterprise のエンティティおよび勘定科目を外部システムのエンティティおよび勘定科目と照合できます。

[データベース] ウィンドウに計算式を入力すると、計算済みの勘定科目の値を入力できます。値がゼロになるデータがないように勘定科目を変更することもできます。[データベース] ウィンドウの保護および保護解除機能を使用して、データの変更機能を制御できます。期間を保護して値を固定し、後で値を変更したり、値の変更をユーザに許可したりする必要がある場合は、期間を保護解除できます。

## [データベース] ウィンドウ

[データベース] ウィンドウには、選択したエンティティとデータ種別のすべての勘定科目が勘定科目表として表示されます。データベースモジュールに初めてアクセスすると、[データベース] ウィンドウにはすべての勘定グループが一覧表示され、グループ内の勘定科目にデータが含まれているかどうかが表示されます。

勘定グループの左側のプラス記号 (+) を選択すると、その勘定科目とサブ勘定科目が表示され、データの値を表示できます。[データベース] ウィンドウでは、データの各期間のステータスを表示することもできます。

[データベース] ウィンドウでは、次のような操作を行うことができます。

- ASCII テキストファイルとの間でのデータの読み込みと抽出
- 計算式の実行
- 勘定科目一覧またはグループ内の勘定科目の表示
- エンティティ一覧内でのエンティティのデータの表示
- 現在のエンティティに関する換算、比率、消去、親の調整または調整後の値の表示
- データベースでの特定の勘定科目、勘定グループまたは期間の検索
- 特定の勘定科目および期間またはすべての特定の勘定科目および期間の印刷またはプレビュー
- データのコピー、移動または入力
- データを保護することによって、特定の期間ユーザがデータを編集できないようにする
- データファイル全体の消去

印刷方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

ユーザが、別のユーザが同じデータ入力表のデータの視点のために [データベース] ウィンドウを開いているときに、[データベース] ウィンドウでデータ入力表のタスクを実行しようとした場合に Hyperion Enterprise はエラーメッセージを生成します。このエラーメッセージは、エラーログに書き込まれます。エラーログについて詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

図 3 に、[データベース] ウィンドウを示します。

図3 「データベース」ウィンドウ

	Database									
	Account Label	JAN 07	FEB 07	MAR 07	APR 07	MAY 07	JUN 07	JULY 07	AUG 07	SEP 07
3	GLOBAL	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
4	GROUP1	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP2	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP3	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP4	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
5	GROUP5	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP6	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP7	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP8	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP9	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP10	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP11	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
	GROUP12	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
6	Implied Subtotal									
7	Frequency: Monthly View: CTD Scale:0 Decimals: 0 Display: Parent: Currency: USD									
8	Account Type : Balance Account: Global Group Accounts Value :									

1. [エンティティ一覧] ドロップダウンリストには、現在データやステータスに関する情報を表示しているエンティティ一覧が表示されます。エンティティ一覧は、[表示] メニューの [エンティティ一覧] メニューコマンドを使用してエンティティ一覧を選択しないと、表示されません。
2. [期間] 列の列見出しには、現在のデータ種別の期間が表示されます。
3. [期間] ステータスには、期間のデータが保護されているかどうか、仕訳帳のために保護されているか、または再計算が必要かどうかが表示されます。
4. [勘定科目] 列には勘定グループが表示されます。これらのグループを展開すると、勘定科目とサブ勘定科目の詳細が表示されます。
5. 各セルには、勘定科目またはサブ勘定科目の値や、勘定グループのデータステータスが表示されます。
6. [計算式] には、[データベース] ウィンドウでハイライトした勘定科目に定義されている計算式が表示されます。
7. [情報] には、現在の期間単位、表示形式、単位、小数点以下の桁数、親のエンティティ、および換算の詳細などの表示の種類が表示されます。
8. [勘定科目] には、勘定科目の種類、勘定科目の説明、および選択した期間の保存値が表示されます。

表の操作方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

## データのステータス






[データベース] ウィンドウには、各期間の個々の勘定グループのデータステータスが表示されます。アカウントグループのデータステータスは、「データ」または「データなし」になります。

「データ」ステータスは、その期間のグループ内の一部または全部の勘定科目にデータが存在することを示します。グループを展開すると、実際の勘定科目の値

が表示されます。「データなし」ステータスは、その期間のグループ内の一部の勘定科目にデータが存在しないことを示します。

また、[データベース] ウィンドウの期間ステータスエリアには、期間全体のステータスが表示されます。表 4 に、データステータスアイコンを示します。

表 4 データステータスアイコン

	「保護済」アイコンは、この期間が「保護」オプションを使用して保護されていることを示します。保護済期間の勘定科目データを表示することはできますが、変更することはできません。
	「仕訳帳を保護」アイコンは、この期間の現在のエンティティに対して仕訳帳が転記されているか、あるいはこの期間の現在のエンティティに対して仕訳帳保護が手動で設定されたのかを示します。エンティティの仕訳帳を転記した後でエンティティのデータを変更するには、他の仕訳帳を転記する必要があります。
	「仕訳帳の転記保護」アイコンは、現在のエンティティと期間の組み合わせが、仕訳帳に転記されないように保護されていることを示します。データの手動入力や読み込みは可能ですが、このエンティティと期間の組み合わせに対して仕訳帳を転記することはできません。
	「計算式の実行」アイコンは、期間内のデータが変更されており、計算式を実行して勘定科目の値を再計算する必要があることを示します。データ入力表への手動データ入力、データベースへのデータ挿入、またはデータの読み込みを行うと、データが変更される場合があります。詳しくは、52 ページの「データベースの計算式の実行」を参照してください。
	「影響あり」アイコンは、データが影響を受けていることを示します。このステータスは、エンティティまたは親データの換算、比率、消去、または調整後の値に適用されます。データの入力、変更、クリア、消去など、エンティティのデータ変更によって、データが影響を受ける場合があります。

## データベースオプションの設定

[データベース] ウィンドウでオプションを設定すると、現在のセッションで値をウィンドウにどのように表示するかを定義できます。[データベースオプションの設定] ダイアログボックスで、次のデータベースオプションを設定します。

- 勘定科目列に勘定科目ラベルまたは説明を表示するか、および勘定科目ラベルと説明を表示するか
- 勘定科目列と期間列の列幅および表内の列数。
- データを入力または編集するたびに、表示されている勘定科目すべてに対して計算式を実行するかどうか。
- [データベース] ウィンドウの下部に、選択した勘定科目の計算式を表示するかどうか。
- [データベース] ウィンドウのフォントのサイズとスタイル。これによって各列に表示される文字数が決まります。

**注：** [データベース] ウィンドウが複数開いている場合は、指定した設定変更はアクティブなウィンドウのみに適用されます。

▶ データベースオプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] で、[タスク] メニューから [データベースオプションの設定] を選択します。
- 2 勘定科目ラベルまたは説明のどちらかを表示するかあるいは勘定科目ラベルと説明を表示するか、計算式を実行するかどうか、ウィンドウに計算式を表示するかどうか、列幅などを指定します。

**注：** デフォルトの設定では、勘定科目ラベルが表示されます。[データベースオプションの設定] で指定した設定変更は、アプリケーションの終了時に保存されます。

- 3 [フォントの変更] を選択し、[データベース] ウィンドウで文字のフォント、スタイル、サイズを指定し、[OK] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックします。

## データベースのデータの視点

データの視点により、[データベース] ウィンドウで作業するデータが決まります。データベースモジュールに初めてアクセスすると、[データベース] ウィンドウには現在のデータ種別、組織およびエンティティのデータが表示されます。データベースのデータの視点を変更するには、次のいずれかの要素を変更します。

単位、期間単位およびデータ表示オプションは、現在のデータ種別の属性にデフォルトで設定されます。データベース内に表示されるデータの視点を変更するには、次のいずれかの要素を変更します。

**注：** [データベース] ウィンドウで単位、期間単位およびデータ表示オプションを変更すると、現在のセッションのみが影響を受けます。

単位、期間単位およびデータ表示は [データの視点] ダイアログボックスで変更できます。[データの視点] ダイアログボックスについては、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

## エンティティ一覧の表示

データベースモジュールのエンティティ一覧を使用すると、一覧にあるすべてのエンティティを同時に管理できます。一覧にあるすべてのエンティティに対して、データの移動やコピー、期間の保護や保護解除、またはテキストファイルへのデータの抽出などができます。

例えば、北アメリカの子会社すべての「予算売上」勘定科目の値を3月から4月にコピーするとします。この場合には、北アメリカにある会社を含む「北アメリカ」というエンティティ一覧を選択し、一覧内のエンティティすべての売り上げ値を3月から4月に一度にコピーできます。

[データベース] ウィンドウにはエンティティのデータが1つずつ表示されますが、エンティティ一覧が選択されているときに行った操作は、エンティティ一覧内のエンティティすべてに適用されます。エンティティ一覧を選択すると、一覧内の最初のエンティティのデータがウィンドウに表示されます。一覧内の別のエ

ンティティのデータを表示するには、[エンティティ一覧] ドロップダウンリストから表示するエンティティを選択します。

一覧をコピーする方法については、[46 ページの「データのコピー」](#)を参照してください。データベースの保護および保護解除方法については、[49 ページの「データベースの期間の保護または保護解除」](#)を参照してください。

▶ エンティティ一覧を表示するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、[表示] メニューから [エンティティ一覧] を選択します。
- 2 エンティティ一覧を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

**ヒント：** [データベース] ウィンドウの上部にあるドロップダウンリストには、エンティティ一覧にある最初のエンティティが表示されます。別のエンティティのデータを表示するには、表示するエンティティをドロップダウンリストで選択します。

## 勘定グループの表示

特定の勘定グループにある勘定科目のみを取り扱う必要がある場合は、勘定グループにある勘定科目を表示できます。例えば、資産勘定科目のみを表示するには、この勘定科目を含む勘定グループを選択できます。

▶ 勘定グループを表示するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、[表示] メニューから [勘定グループ] を選択します。
- 2 勘定グループ ID を入力するか、リストから選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

**ヒント：** 勘定科目表の表示に戻るには、[表示] メニューから [勘定科目表] を選択します。

## 勘定科目一覧の表示

勘定科目一覧は、特定の勘定科目をまとめて使用できるようにするための勘定科目の集まりです。通常、勘定科目一覧は密接に関連する勘定科目から構成されています。勘定科目一覧を選択すると、この一覧にある勘定科目のみのデータを表示できます。

例えば、すべての会社間勘定科目のデータを表示するには、会社間勘定科目のみが含まれている、会社間勘定科目一覧を選択します。勘定科目一覧を選択する場合、勘定グループの行は表示されません。

▶ 勘定科目一覧を表示するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、[表示] メニューから [勘定科目一覧] を選択します。
- 2 勘定科目一覧の ID を入力するか、リストから選択します。
- 3 オプション：[連動一覧]、[固定一覧]、[連動サブ勘定科目付き固定勘定科目一覧]、[See All Validated (チェック済み科目をすべて表示)] のオプションを 1 つ以上選択します。

**注：** [See All Validated (チェック済み科目をすべて表示)] オプションを選択すると、データを含んでいないチェック済み科目が勘定科目一覧に表示されます。そのため、これらの勘定科目をデータ抽出操作に含めることができます。データを含んでいないチェック済み科目が含まれている勘定科目一覧を使用して複数のデータ抽出を実行できますが、勘定科目一覧をいったん閉じると、[See All Validated (チェック済み科目をすべて表示)] オプションは選択が解除されます。

- 4 [OK] をクリックします。

**ヒント：** 勘定科目表の表示に戻るには、[表示] メニューから [勘定科目表] を選択します。

## 連結詳細の表示

アプリケーションを作成したときに連結詳細を保存するオプションを選択した場合には、エンティティとその子の連結詳細を表示できます。データの視点バーを使用して表示できる項目には、換算情報、比率の詳細、消去の詳細、親レベルの調整、および調整後の値があります。

▶ 連結詳細を表示するには、次の手順に従います。

- 1 デスクトップ、またはデータの視点を使用しているウィンドウで、[編集] メニューから [データの視点] を選択します。
- 2 [連結の詳細] タブを選択し、表示する連結の詳細を選択して、[OK] をクリックします。

## データベースでの勘定科目の検索

[データベース] ウィンドウでは、特定の勘定科目を検索できます。これは、スクロールバーや矢印キーを使用してデータベースをスクロールするよりも素早く検索できる場合があります。選択した勘定科目が縮小表示されている勘定グループまたは勘定科目一覧に含まれている場合には、そのグループまたは一覧が展開され、検索された勘定科目がハイライトされます。

勘定科目を 1 つの勘定グループまたは勘定科目一覧から表示している場合は、現在選択しているグループまたは一覧にある勘定科目しか検索できません。現在のグループまたは一覧にない勘定科目を検索するには、勘定科目表全体の表示に戻する必要があります。勘定グループまたは勘定科目一覧の表示方法については、[42](#)

ページの「勘定グループの表示」および 42 ページの「勘定科目一覧の表示」を参照してください。

- ▶ データベース内で勘定科目を検索するには、次の手順に従います。
- 1 [データベース] ウィンドウで、[編集] メニューの [検索] から [勘定科目] を選択します。
- 2 各チェックボックスを使用して勘定科目の一覧をフィルタします。
- 3 勘定科目 ID を入力するか、リストから選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## データベースでの勘定グループまたは期間の検索

[データベース] ウィンドウで、特定の勘定グループまたは期間を検索できます。[データベース] ウィンドウで勘定グループを検索する方が、勘定科目表全体をスクロールするよりも簡単に勘定グループを検索できます。特に、勘定科目の詳細が表示されている場合には効果的です。期間列が [データベース] ウィンドウから展開されている場合は、[データベース] ウィンドウで期間を検索すると便利であり、スクロールバーまたは矢印キーを使用して特定の期間を検索するよりも簡単です。

- ▶ データベースで勘定グループまたは期間を検索するには、次の手順に従います。
- 1 [データベース] ウィンドウで次のいずれかの操作を行います。
  - [編集] メニューの [検索] から [勘定グループ] を選択して、勘定グループの ID を入力するか、リストから選択します。
  - [編集] メニューの [検索] から [期間] を選択し、期間の ID を入力するか、リストから選択します。
- 2 [OK] をクリックします。

## データベースの管理

[データベース] ウィンドウでは、データのブロックの移動、コピー、クリアを行うことができます。個々のセルまたはセルの範囲に 1 つの値またはランダム値を挿入することもできます。これらの編集オプションを使用して、異なるエンティティ、データ種別および期間の間でデータを操作できます。例えば、Actual データ種別のデータを Budget データ種別にコピーできます。複数の勘定科目、期間、およびエンティティを更新することもできます。データベース操作を実行するとき、変更した値の計算式を自動的に実行するかどうかを指定できます。

データベースでエンティティ一覧を選択すると、データに加えられる変更は一覧内のエンティティすべてに適用されます。例えば、最下位エンティティを含む Base1 エンティティ一覧を選択し、Income 勘定グループの勘定科目の 1 月の期間のデータをクリアするとします。この場合、Income 勘定グループの勘定科目の 1 月の値は Base1 エンティティ一覧に含まれているエンティティすべてについてクリアされます。

**注：** [データベース] ウィンドウでデータに加えた変更は、連結ステータスに適用され、[連結] ウィンドウで表示できます。計算式の実行やデータの再連結を行う必要が生じることもあります。連結ステータスについて詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## データブロックのハイライト

データを編集するには、まずセルのブロックをハイライトする必要があります。データブロックには、1 つまたは複数の隣接する列または行にあるセルを含めることができます。ブロックをハイライトすると、次のような操作を行うことができます。

- データブロック内の値を別の場所にコピーまたは移動する。
- 選択した領域に同じ値またはランダム値を挿入する。
- ブロックの値をすべてクリアする。
- ハイライトされている期間のみで計算式を実行する。

データベースでエンティティ一覧を選択すると、データに加えられる変更は一覧内のエンティティすべてに適用されます。例えば、最下位エンティティを含む「最下位 A」というエンティティ一覧を選択し、「収益」というグループの勘定科目の 2 月の期間のデータを移動するとします。この場合、「収益」グループの勘定科目の 2 月の値は「最下位 A」エンティティ一覧に含まれているエンティティすべてにおいて移動されます。

- ▶ データ ブロックをハイライトするには、[データベース] ウィンドウで次のいずれかの操作を行います。
- 1 つのセルをハイライトするには、そのセルのみを選択します。
  - 期間全体をハイライトするには、その期間の ID を選択します。
  - すべての期間内の 1 つの勘定科目をハイライトするには、その勘定科目の ID を選択します。
  - データベース全体をハイライトするには、**勘定科目**の列見出しを選択します。
  - データのブロックをハイライトするには、データの角を 1 つ選択し、その対角線上の角までポインタをドラッグします。

## データの移動

データは 1 つのデータブロックから別のブロックに移動できます。例えば、第 1 四半期の「販売費」勘定科目の値を第 3 四半期に移動するとします。この場合は、第 1 四半期の値をハイライトしてその列から切り取り、第 3 四半期の列に貼り付けます。これは、第 3 四半期の列に値を入力して第 1 四半期の列をクリアするよりも素早く操作できます。

切り取ったブロックは、Windows のクリップボードにコピーされます。このブロックはデータベース内の別の場所に貼り付けることができます。移動したデータブロックでは、連結ステータスが影響を受けることがあります。連結ステータスは [連結] ウィンドウで表示できます。計算式を実行する必要が生じることもありま

す。計算式の実行方法について詳しくは、[52 ページの「データベースの計算式の実行」](#)を参照してください。

**注：** データを算出勘定科目または保護期間に移動することはできません。

➤ データを移動するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、移動するデータを含んでいるセルまたはセルのブロックを選択します。詳しくは、[45 ページの「データブロックのハイライト」](#)を参照してください。
- 2 [編集] メニューから [切り取り] を選択します。
- 3 データを別のデータ種別に移動するには、[編集] メニューの [データの視点] から [データ種別] を選択し、コンボボックスからデータ種別を選択します。
- 4 データの移動先のセルまたはブロックを選択します。移動するブロックのサイズと貼り付け先のブロックのサイズは一致する必要があります。
- 5 [編集] メニューから [貼り付け] を選択します。

## データのコピー

データは1つのデータブロックから別のブロックにコピーできます。例えば、第3四半期に入力する「税金」勘定科目の値が第1四半期の値と同じであるとしてします。この場合は、同じ値を入力する代わりに、第1四半期の列の値を第3四半期の列にコピーできます。

コピーしたブロックは、Windows のクリップボードにコピーされます。このブロックは [データベース] ウィンドウ内の別の場所に貼り付けることができます。コピーするデータブロックでは、連結ステータスが影響を受けることがあります。連結ステータスは [連結] ウィンドウで表示できます。計算式を実行する必要があります。計算式の実行方法について詳しくは、[52 ページの「データベースの計算式の実行」](#)を参照してください。

**注：** データを算出勘定科目または保護期間にコピーすることはできません。

アプリケーション内の組織がデータ種別や期間ごとに変化する場合、エンティティ一覧の表示中に1つの期間のデータを別の期間にコピーすると、1つのエンティティのデータが別のエンティティにコピーされることがあります。これは、一覧内のエンティティとその位置が期間ごとに異なる可能性があるためです。

➤ データをコピーするには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、コピーするデータを含んでいるセルまたはセルのブロックを選択します。詳しくは、[45 ページの「データブロックのハイライト」](#)を参照してください。
- 2 [編集] メニューから [コピー] を選択します。
- 3 データを別のデータ種別にコピーするには、[編集] メニューの [データの視点] から [データ種別] を選択し、コンボボックスからデータ種別を選択します。

- 4 データのコピー先のセルまたはブロックを選択します。コピーするブロックのサイズと貼り付け先のブロックのサイズは、同じである必要があります。
- 5 [編集] メニューから [貼り付け] を選択します。

## データの貼り付け

Windows のクリップボードから特定の勘定科目または複数の勘定科目の範囲に値を貼り付ける場合は、モード、算術演算、値などを指定できます。例えば、開いている任意のウィンドウにある値の切り取りまたはコピーを行い、[特殊貼り付け] オプションを使用すると、Windows のクリップボードにある値に 100 を掛けてから、その値をデータベースに貼り付けたりできます。また、値の貼り付け先となるデータブロックの値を累計するか、置換するかを指定することもできます。

貼り付け先のデータのブロックでは、連結ステータスが影響を受けることがあります。連結ステータスは [連結] ウィンドウで表示できます。計算式を実行する必要があることもあります。計算式の実行方法について詳しくは、[52 ページの「データベースの計算式の実行」](#)を参照してください。

- ▶ データを貼り付けるには、次の手順に従います。
  - 1 開いている任意のウィンドウで、[編集] メニューの [切り取り] または [編集] メニューの [コピー] を選択します。
  - 2 [データベース] ウィンドウで、切り取りまたはコピーを行うデータを含んでいるセルまたはセルのブロックを選択します。詳しくは、[45 ページの「データブロックのハイライト」](#)を参照してください。
  - 3 [編集] メニューから [特殊貼り付け] を選択します。
  - 4 貼り付ける値に対してモード、演算子、および値を指定します。
  - 5 [OK] をクリックします。

## データブロックのクリア

セルのブロックをクリアして、その値を「データなし」にリセットできます。これは、既存の値を 1 つずつゼロに置き換えるよりも素早く操作できます。クリアするデータブロックでは、連結ステータスが影響を受けることがあります。連結ステータスは [連結] ウィンドウで表示できます。計算式を実行する必要があることもあります。計算式の実行方法について詳しくは、[52 ページの「データベースの計算式の実行」](#)を参照してください。

**注：** 算出勘定科目または保護期間のデータをクリアすることはできません。

- ▶ データ ブロックをクリアするには、次の手順に従います。
  - 1 [データベース] ウィンドウで、移動するデータを含んでいるセルまたはセルのブロックを選択します。詳しくは、[45 ページの「データブロックのハイライト」](#)を参照してください。
  - 2 [編集] メニューから [除去] を選択します。

## データベースへの値の挿入

勘定科目、期間、または勘定科目と期間のブロックに特定の値またはランダム値を挿入できます。データベースに特定の値を挿入すると、ある勘定科目の全期間、ある期間の全勘定科目、またはあるデータブロック内の勘定科目と期間すべてに同じ値を挿入する場合に、時間を節約できます。例えば、「連邦税」勘定科目の期間すべてに同じ値を挿入できます。

データベースにランダム値を挿入してレポートをテストすることもできます。例えば、値が入力されていない勘定科目を含むレポートを作成するとします。このレポートをプレビューして、書式を調整する必要があるかどうかを調べます。この場合、指定された勘定科目に値があれば、より現実的なプレビューを行うことができます。レポートの作成が終わったら、データベースを編集してこれらの勘定科目からランダム値をクリアできます。

**注：** 算出勘定科目または保護期間にはデータを挿入できません。

▶ データベースに値を挿入するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、値を挿入するセルまたはセルのブロックを選択します。詳しくは、[45 ページの「データブロックのハイライト」](#)を参照してください。
- 2 [編集] メニューから[値の挿入]を選択し、次のいずれかの操作を行います。
  - 固定値を挿入するには、[挿入値] テキストボックスに値を入力します。
  - ランダム値を挿入するには、[挿入値] テキストボックスを空白のままにしておきます。
- 3 [OK] をクリックします。

## データの消去

データベースのデータは消去できます。データを消去すると、現在選択されている勘定科目やエンティティ一覧に関係なく、現在のデータ種別やエンティティのすべてのデータがすべての期間から削除され、すべてのデータがデータファイルから削除されます。データの消去は、データ種別とエンティティのデータを維持する必要がなくなった場合に役立ちます。データを消去すると、ディスク領域を解放できます。

例えば、「履歴」データ種別の「米国西部」エンティティの履歴データを維持しているとします。この履歴データを維持する必要がなくなった場合には、このデータを消去できます。

データベースモジュールでは、データを削除しても親レベルのエンティティの値はゼロに設定されません。代替策として、[データの消去]を使用して親レベルの値をクリアします。

▶ データを消去するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、[タスク] メニューから[データの消去]を選択します。
- 2 消去の確認メッセージが表示されたら、次のいずれかの操作を行います。

- 現在のデータ種別とエンティティのデータをすべて消去するには、[はい] を選択します。
- 消去をキャンセルして [データベース] ウィンドウに戻るには、[いいえ] を選択します。

## FDM へのデータドリルバックの操作

FDM へのデータドリルバックを操作するには、ビジュアルキューを有効にします。「FDM データのビジュアルキューの管理」を参照してください。FDM データを含むディメンションを表示するために必要な POV を設定します。

- ▶ FDM データにドリルバックするには、次の手順に従います。
  - 1 **Hyperion Enterprise データベースモジュールで、データベースセルを右クリックし、[監査の共通部分] を選択します。**  
FDM データのドリルバックページが開きます。
  - 2 **データについて必要な情報を収集できます。**  
ドリルバックオプションについて詳しくは、FDM のマニュアルを参照してください。

## FDM データのビジュアルキューの管理

Hyperion Enterprise アプリケーションで FDM データを区別するビジュアルキューを設定するために、ユーザ設定オプションが用意されています。要件に基づいて、このオプションを無効にすることができます。このオプションは、Hyperion Enterprise デスクトップまたは Hyperion Enterprise データベースモジュールから設定できます。但し、このオプションを Hyperion Enterprise Web から管理することはできません。

- ▶ FDM データのビジュアルキューを Hyperion Enterprise データベースモジュールから無効にするには、次の手順に従います。
  - 1 **Hyperion Enterprise データベースモジュールで、(ビジュアルキューが有効になっている場合は) データセルを右クリックし、[User (ユーザー)] を選択します。**  
[ユーザー設定変更] 画面が開きます。
  - 2 **要件に基づいて [ビジュアルキューを使用可能にする] をオンまたはオフにします。**

## データベースの期間の保護または保護解除

期間を保護または保護解除して、データの変更を禁止または許可できます。保護期間のデータは変更できませんが、保護期間のデータを連結することはできます。期間を保護して値を固定し、後で値を変更する必要があるときに期間の保護を解除できます。例えば、1 月の期間のデータをすべて入力したら、レポートを実行するまでこの期間を保護し、データが誤って変更されないようにすることができます。

期間を保護すると、「保護済」というステータスはその期間の期間ステータスエリアに表示されます。例えば、1月の期間を保護すると、「保護済」ステータスが1月の下の期間ステータスエリアに表示されます。期間ステータスについて詳しくは、[38 ページの「\[データベース\] ウィンドウ」](#)を参照してください。

消去会社の期間を保護または保護解除することはできません。消去会社の親を保護または保護解除すると、消去会社が保護または保護解除されます。消去会社について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

期間のデータは、次の条件が真である場合にのみ保護できます。

- 計算式の実行ステータスが、選択した期間の期間ステータスエリアに表示されていないこと。これが表示されている場合は、期間を保護する前に計算式を実行する必要があります。
- 以前の期間がすべて保護されていること。
- 親エンティティの場合は、その子もすべて保護されていること。保護されていない子が親にある場合、[保護] メニュー項目は使用不可になり、期間を保護することはできません。
- 現在のアプリケーションがチェック勘定科目を使用している場合は、チェック勘定科目の値がゼロであること。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

期間のデータは、次の条件が真である場合にのみ保護解除できます。

- 後に続く期間がすべて保護解除されていること。
- 子エンティティの場合は、その親もすべて保護解除されていること。保護されている親が子にある場合は、[保護解除] 項目は使用不可になり、期間を保護解除することはできません。

アプリケーションの組織構造がデータ種別と期間ごとに異なる場合は、期間を正しく保護できない場合があります。これは、保護しようとしている期間が、1つまたは複数の以前の期間において活動のなかったエンティティを含んでいる場合に発生します。この場合は、以前の期間における活動のないエンティティを手動で保護してから現在の期間を保護する必要があります。

▶ データベースで期間の保護または保護解除を行うには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、保護または保護解除する期間の期間 ID を選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
  - 期間が保護されていない場合は、[タスク] メニューから [データの保護] を選択します。
  - 期間が保護されている場合は、[タスク] メニューから [データの保護解除] を選択します。

## 仕訳帳の転記保護および保護解除

データファイルに仕訳帳の転記保護を設定することによって、任意のエンティティおよび期間に対する仕訳帳の転記を無効にすることができます。

この保護をデータファイルに適用する場合、データは手動またはデータ読み込みを使用してのみ入力可能となります。エンティティおよび期間の組み合わせの仕

訳帳調整を転記することによってデータファイルを変更することはできませんが、転記前の仕訳帳はそれらが転記されていない限り、データファイルに作成できます。「保護済」ステータスは、その期間の「データベース」ウィンドウの期間ステータス領域に表示されます。例えば、2月の期間を保護すると、「保護済」ステータスが2月の下の期間ステータス領域に表示されます。

次の条件が真である場合にのみ、仕訳帳の転記保護が設定できます。

- 仕訳帳がエンティティおよび期間の組み合わせに転記されていない場合。
- エンティティの仕訳帳フラグがオンに設定されている場合。
- エンティティおよび期間の組み合わせに、すでに設定されているデータの保護または仕訳帳の保護がない場合。
- 保護を設定するセキュリティ権限を持っている場合。

### 保護による影響

表 5 に、使用可能な仕訳帳、仕訳帳の転記およびデータの保護と、これらの保護を設定すると他の保護の使用時にどのような影響を受けるかを示しています。

使用可 - メニュー項目が使用可能です。				
使用不可 - メニュー項目が薄く表示され、選択できないようになっています。				
X - ユーザが実行する操作。				
明示的 - 仕訳帳の保護は、ユーザによって手動で設定され、仕訳帳の転記は行われません。				
暗黙的 - 仕訳帳の保護は、仕訳帳が転記されるときにシステムによって行われます。				

表 5 保護の影響に関する表

操作	仕訳帳の保護		データの保護	仕訳帳の転記保護
	明示的	暗黙的		
仕訳帳の転記	使用不可	X	使用可	使用不可
仕訳帳保護の手動設定	X	使用可	使用可	使用不可
仕訳帳の転記保護の設定	使用不可	使用不可	使用可	X
データ保護の設定	使用不可	使用不可	X	使用不可

### 仕訳帳の転記保護の設定

- 仕訳帳の転記保護を設定するには、次の手順に従います。
- 1 「データベース」ウィンドウで、保護する期間を選択します。
  - 2 「タスク」メニューから「仕訳帳の転記保護」を選択します。

## 仕訳帳の転記保護の解除

- ▶ 仕訳帳の転記保護を解除するには、次の手順に従います。
- 1 [データベース] ウィンドウで、保護を解除する期間を選択します。
- 2 [タスク] メニューから [仕訳帳の転記保護解除] を選択します。

## データベースの計算式の実行

[データベース] ウィンドウでは、特定の期間の勘定科目すべて、または勘定科目と期間すべての値を計算できます。[自動再計算] オプションは、データを修正したときにシステムが [データベース] ウィンドウの計算式を実行するかどうかを決定します。[自動再計算] オプションが選択されていると、データが変更されたときに計算式が実行されます。[自動再計算] オプションが選択されていない場合は、計算式の実行ステータスが、影響を受ける期間の期間ステータスエリアに表示されます。この場合には、[計算式の実行] オプションを使用して計算式を実行する必要があります。

例えば、[データベース] ウィンドウの 1 月の期間の勘定科目のデータ値をクリアするとします。1 月の期間ステータスエリアには計算式の実行フラグが表示され、[計算式の実行] オプションを使用して 1 月の期間の値を再計算できるようになります。期間ステータスインジケータについては、[39 ページ](#)の「データのステータス」を参照してください。[自動再計算] オプションについて詳しくは、[40 ページ](#)の「データベースオプションの設定」を参照してください。

計算式を実行せずに [データベース] ウィンドウを閉じると、次に [データベース] ウィンドウにアクセスして同じデータ種別とエンティティを表示したときに、計算式の実行ステータスが表示されます。

- ▶ データベースで計算式を実行するには、次の手順に従います。
- 1 [データベース] ウィンドウで次のいずれかの操作を行います。
  - 期間をすべて選択するには、**勘定科目**の列見出しを選択し、期間が選択されていないことを確認します。
  - 特定の期間を選択するには、**期間 ID**の列見出しを選択します。
- 2 [タスク] メニューから [計算式の実行] を選択します。

## データなしの勘定科目をゼロに設定

個々の期間において、データなしをゼロに変換できます。[読込] ダイアログボックスで [データなしはゼロ] チェックボックスを選択し、読み込みファイル内のデータなしを Hyperion Enterprise のゼロ値に変換することもできます。

**注：** [データなしはゼロ] チェックボックスを選択すると、データのデータ種別のサイズが大幅に大きくなります。そのため、パフォーマンスに影響を与える場合があります。

▶ データなしの勘定科目をゼロに設定するには、次の手順に従います。

1 [データベース] ウィンドウで次のいずれかの操作を行います。

- 個別の期間の値を変更するには、**期間**の列見出しをハイライトします。
- データベース全体の値を変更するには、**勘定科目**の列見出しをハイライトします。

2 [編集] メニューから [データなしはゼロに設定] を選択します。

## 子の連結詳細レポートの作成

子の連結詳細レポートは、1つの勘定科目値について直属の子すべてとその連結詳細構成要素を一覧表示します。連結詳細構成要素には、調整後、比率、消去、換算、および親の調整の詳細が含まれます。このレポートを使用すると、選択したセルの連結データを追跡できます。例えば、連結値が100であり、エンティティが連結の詳細を保存しているとします。この場合レポートには、例えば、3つの直属の子の値、30、30、40と、それぞれの子の連結の詳細が表示されます。アプリケーションに複数のレベルが存在する場合は、一度に1つのレベルのレポートを作成できます。連結詳細の保存方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

**注：** 子の連結詳細レポートでは、処理中に計算式が勘定科目に付加されることはないので、選択する勘定科目が連動表示勘定科目である場合、値は表示されません。

レポートに含めるデータは、データの視点バーと [データベース] ウィンドウを使用して次のように定義します。

- データの視点の設定は、データ種別とエンティティを決定します。
- [データベース] ウィンドウでの選択項目は、勘定科目と期間に加えて、選択するデータのセルの期間単位、表示形式、単位、および小数表示の情報を決定します。

レポートは勘定科目、期間、およびデータ種別をそれぞれ1つずつ含みます。レポートの行には、データの視点を使用して選択したエンティティの直属の子すべてが一覧表示されます。レポートの列には、選択した連結詳細構成要素がすべて一覧表示されます。

**注：** [子の連結詳細レポート] ダイアログボックスで選択したオプションは、システムに保存され、次に子の連結詳細レポートを作成したときに表示されます。

レポートのフォント、色、ページレイアウトなどをカスタマイズすることもできます。レポートのカスタマイズについては、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

- ▶ 子の連結詳細レポートを作成するには、次の手順に従います。
- 1 データの視点を設定します。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
  - 2 [データベース] ウィンドウで、勘定科目と期間を選択します。
  - 3 [タスク] メニューから [子の連結詳細レポートの作成] を選択します。
  - 4 レポートに含める連結詳細オプションを選択します。
  - 5 データのない行やゼロの行を非表示にするかどうかを指定します。
  - 6 次のいずれかの操作を行います。
    - レポートを印刷するには、[印刷] を選択します。
    - レポートのプレビューを表示するには、[プレビュー] を選択します。

## 無効な連結詳細のクリア

[データベース] ウィンドウでは、アプリケーションの無効な連結詳細をクリアできます。クリアするデータは、選択したデータ種別と期間について、すべての組織内の勘定科目とエンティティすべてに適用されます。処理の開始および終了日時、処理されるデータ種別および期間、Hyperion Enterprise エラーログでクリアされる詳細を表示できます。システムで連結詳細をクリアできない場合、この情報もエラーログに記録されます。

連結の詳細は、次の条件が満たされる場合にクリアできます。

- アプリケーションがエンティティの換算、比率、消去、または調整後の値を保存するよう設定されていること。
- 選択したデータ種別へのセキュリティアクセス権があること。
- [データベース] ウィンドウで少なくとも1つの期間を選択していること。

データのステータスが影響ありに変化しても、連結詳細が無効であることを意味するわけではありません。連結の詳細は、データが無効な場合にのみクリアできます。

連結の詳細が無効な理由は、次のとおりです。

- データ種別の設定の変更：[データ種別] ウィンドウで [比率および消去の詳細を使用可能にする] チェックボックスの選択を解除すると、データ種別について以前に生成された比率および消去の詳細は無効になるので、クリアする必要があります。
- エンティティの設定の変更：[エンティティ] ウィンドウの [詳細設定オプション] タブで [調整後の詳細を保存] チェックボックスの選択を解除すると、以前に生成された連結詳細は無効になるので、クリアする必要があります。
- 組織構造の変更：エンティティを組織構造から削除すると、以前に生成された連結詳細は無効になるので、クリアする必要があります。
- 通貨の変更：親エンティティと最下位エンティティの通貨が同じになるように変更された場合、以前に生成された連結詳細は無効になるので、クリアする必要があります。

**注：** アプリケーションの作成時に「換算の詳細」オプションを選択した場合、親と子の通貨設定の組み合わせに関係なく、換算の詳細が生成されます。このデータはクリアしないでください。

- 親の調整の詳細での変更：仕訳帳入力に親に関連付けられている可能性があります。親の調整の詳細はクリアされません。親の調整データをクリアするには、仕訳帳を再転記する必要があります。組織構造の変更のために親の調整の詳細が無効になり、関連付けられている仕訳帳がない場合、この親の調整の詳細はクリアされます。仕訳帳保護のステータスは、関連付けられている仕訳帳があることを示します。

▶ 無効な連結詳細をクリアするには、次の手順に従います。

- 1 「データベース」ウィンドウで、「タスク」メニューから「無効な連結詳細のクリア」を選択します。
- 2 クリアする連結詳細のデータ種別と期間を指定し、「OK」をクリックします。

## データ書式

他のシステムから Hyperion Enterprise にデータを読み込むとき、または他のシステムで使用するために Hyperion Enterprise データを抽出するときに、データ書式を使用できます。Hyperion Enterprise では、データ書式に従って、これらのファイルのデータが処理されます。

例えば、Hyperion Enterprise と似たデータを含んでいるが、書式が異なる総勘定元帳を使用しているとします。総勘定元帳の読み込み書式でエンティティおよび勘定科目変換表を指定して、データ読み込み時に総勘定元帳の勘定科目およびエンティティを Hyperion Enterprise の勘定科目およびエンティティと照合できます。指定できるデータ書式オプションは、次のとおりです。

- 文字。使用する区切り文字や、負の値を示す文字を含みます。
- 外部システムのエンティティおよび勘定科目を Hyperion Enterprise のエンティティおよび勘定科目に変換するための変換表
- 読み込みまたは抽出の式。実行する算術演算、テキストファイル内の値を乗算または除算するための値を含みます。
- 非表示オプション
- データの抽出に使用する小数表示
- ファイル拡張子
- 単位
- データ表示形式
- エラーログファイルの名前として、データの読み込みを実行するユーザのユーザ ID と読み込みファイル名のどちらを使用するか
- 派生値を抽出するか
- 読み込みファイルのレコードを Hyperion Enterprise に読み込まれたレコードと照合して検証するか

データ書式の表示、コピーまたは削除方法については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

## 累計

[累計] オプションを使用すると、読み込みファイルの値をアプリケーション内の既存の値に追加できます。例えば、表 6 のように、期間 1 ～ 3 の USdiv エンティティの給与勘定科目の、Actual データ種別の値がデータベースに含まれているとします。

表 6 データベース内の給与勘定科目

PAYROLL1	10	10	10
PAYROLL2	10	10	10
PAYROLL3	10	10	10

[累計] オプションを使用して、同じデータ種別、エンティティ、勘定科目および期間のデータを読み込む場合、各期間で読み込まれた値がその期間の既存の値に追加されます。次の読み込みファイルでは、値を各給与勘定科目に累計するように指定します。

ACTUAL

1

3

USDIV, PAYROLL1, 5, 0, 5

USDIV, PAYROLL2, 25, 0, 25

USDIV, PAYROLL3, 5, 0, 5

表 7 に、[累計] オプションを使用したデータ読み込みの結果を示します。

表 7 [累計] オプションを使用したデータ読み込み

<b>PAYROLL1</b>	<b>15</b>	<b>10</b>	<b>15</b>
PAYROLL2	35	10	35
PAYROLL3	15	10	15

## 置換

[置換] オプションを使用すると、データ読み込みファイルの指定した期間について、すべての勘定科目から既存の値をクリアし、データ読み込みファイルの値を読み込むことができます。読み込みファイルで勘定科目が指定されていない場合は、指定された期間の勘定科目の値は読み込み中にクリアされます。読み込みファイルで勘定科目が指定されており、期間の値が指定されていない場合、その勘定科目と期間のデータ読み込みの結果は「データなし」になります。例えば、表 8 のように、エンティティ USDIV の給与勘定科目の値がデータベースに含まれているとします。

表 8 データベース内の給与勘定科目

<b>PAYROLL1</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>
PAYROLL2	10	10	10

<b>PAYROLL1</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>
PAYROLL3	10	10	10

[置換] オプションを選択して、同じデータ種別、エンティティ、勘定科目および期間のデータを読み込む場合、各期間について読み込まれた値がその期間の既存の値に置き換わります。次の読み込みファイルでは、各給与勘定科目について値を読み込み、置き換えるように指定します。

```
ACTUAL
1
3
USDIV, PAYROLL2, 25, 0, 25
USDIV, PAYROLL3, 5, , 5
```

表 9 に、[置換] オプションを使用したデータ読み込みの結果を示します。

表 9 [置換] オプションを使用したデータ読み込み

<b>PAYROLL1</b>	<b>データなし</b>	<b>データなし</b>	<b>データなし</b>
PAYROLL2	25	0	25
PAYROLL3	5	データなし	5

## 結合

[結合] オプションを使用すると、データ読み込みファイルで指定された勘定科目の既存の値のみをクリアしてから、それをファイルの値に置換できます。[置換] オプションとは異なり、[結合] オプションがクリアするのは読み込みファイルで指定された勘定科目の値のみです。例えば、表 10 のように、エンティティ USDIV の給与勘定科目の値がデータベースに含まれているとします。

表 10 データベース内の給与勘定科目

PAYROLL1	10	10	10
PAYROLL2	10	10	10
PAYROLL3	10	10	10

次の読み込みファイルでは、データの読み込み時に勘定科目と値を結合するように指定します。

```
ACTUAL
1
3
USDIV, PAYROLL2, 25, 0, 25
USDIV, PAYROLL3, 5, 0, 5
```

表 11 に、[結合] オプションを使用したデータ読み込みの結果を示します。

表 11 [結合] オプションを使用したデータ読み込み

PAYROLL1	10	10	10
PAYROLL2	25	0	25
PAYROLL3	5	0	5

## 計算式の実行

[計算式の実行] チェックボックスを選択すると、データの読み込み時に入力ロジックを実行できます。データの読み込み時に自動的に計算式が実行されるので、読み込み時に手動で計算式を実行する必要はありません。データファイルの読み込み時に[計算式の実行]チェックボックスが選択されていない場合は、ファイルを読み込んだ後に[計算式の実行]オプションを使用して計算式を実行する必要があります。詳しくは、[52 ページの「データベースの計算式の実行」](#)を参照してください。

## 算出勘定の記録

[算出勘定を記録] オプションは、算出勘定にデータを読み込もうとした試みを記録する場合に使用します。通常、算出勘定には他の勘定科目から派生した値が含まれています。例えば、Net Sales 勘定科目の値は、Gross Sales 勘定科目の値から Cost of Sales 勘定科目の値を減算した結果になります。[算出勘定を記録] オプションを選択している場合に、算出勘定にデータを読み込もうとすると、Hyperion Enterprise エラーログにメッセージが表示されます。

## データなしはゼロ

[データなしはゼロ] チェックボックスを選択すると、読み込みファイル内のデータなしを Hyperion Enterprise 勘定科目のゼロ値に変換できます。Hyperion Enterprise では、前期のデータがある勘定科目にデータなし値を読み込む場合のみ、データ値がゼロ値に変換されます。例えば、1 月の Income 勘定科目の値が 25 だとします。読み込みファイルで、2 月の Income 勘定科目がデータなしになっており、[データなしはゼロ] チェックボックスが選択されている場合、2 月の Income 勘定科目にゼロが割り当てられます。

読み込みデータ種別の [データなしはゼロ] オプションは、ゼロ値を期別値として表示するか、あるいはデータ種別累計値として表示するかを決定します。読み込みファイル全体でデータなしをゼロに変換しない場合は、[データなしはゼロ] オプションの選択を解除した状態でファイルを読み込み、個々の期間で [データなしはゼロ] オプションを使用して、手動でデータなしをゼロに変換できます。個々の期間において、データなしをゼロに変換する方法については、[52 ページの「データなしの勘定科目をゼロに設定」](#)を参照してください。

## 読込エラーファイル

読み込もうとしたデータがデータベースで受け入れられなかった場合、2つのファイルにそれが書き込まれます。1つは、読み込まれなかったデータを保存する.ERR ファイルであり、もう1つは、データの読み込み時に発生したエラーを記録する ERROR.LOG ファイルです。ERROR.LOG ファイルはアプリケーションディレクトリに保存されます。

[書式] ダイアログボックスでデータの読み込みおよび抽出のデフォルトを設定すると、データ読み込み.ERR レポートのファイル名を指定できます。レポート名には、データの読み込みを実行するユーザのユーザ ID を指定するか、元の読み込みファイル名にファイル名拡張子.ERR を付けます。例えば、[読込ファイル名の使用(\*.ERR)] チェックボックスを選択し、読み込みファイル名が ACTUAL03.DAT の場合、その.ERR ファイルの名前は ACTUAL03.ERR となります。ユーザ名として Admin を使用して Hyperion Enterprise にログオンし、このチェックボックスをオンにしない場合、.ERR ファイルの名前は ADMIN.ERR となります。[読込] ダイアログボックスの [読込エラーファイル] 編集ボックスでは、.ERR エラーファイルに任意のファイル名を指定できます。

デフォルトでは、.ERR ファイルはデータの読み込み元のディレクトリに保存されます。.ERR ファイルは、Windows メモ帳などのテキストエディタで表示できます。エラーを修正した後、拒否されたデータを読み込みエラーファイルから読み込むことができます。元の読み込みファイル内のすべてのデータを再読み込みする必要はありません。データの読み込み方法については、[59 ページの「データの読み込み」](#)を参照してください。

ERROR.LOG ファイルの内容は、Hyperion Enterprise の [エラーログ] ダイアログボックスで表示できます。エラーログについて詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

## データ書式の定義

データの読み込みまたは抽出用のデータ書式を定義できます。例えば、本社サイトに読み込むデータの単位を変更する必要がある場合、データの読み込み中にデータの単位を変更する書式を設定できます。データ書式を作成するとき、その書式を読み込みのみ、抽出のみ、またはその両方のいずれに使用するかを指定します。

- ▶ データ書式を定義するには、次の手順に従います。
- 1 [データベース] ウィンドウで次のいずれかの操作を行います。
  - 書式を作成するには、[ファイル] メニューから [新規書式] を選択します。
  - 書式を編集するには、[ファイル] メニューから [書式を開く] を選択し、リストから書式を選択します。
- 2 ID、説明、セキュリティクラスおよび書式の種類を指定し、[OK] をクリックします。

## データの読み込み

ASCII ファイルのデータを Hyperion Enterprise のデータベースに読み込むことができます。総勘定元帳やスプレッドシートなど、多くの外部システムを使用して、

Hyperion Enterprise に読み込むことのできる ASCII ファイルを作成できます。必要に応じて、ASCII ファイルは読み込む前にテキストエディタで編集できます。

データを読み込むと、Hyperion Enterprise データを異なる場所、アプリケーション、またはソフトウェアパッケージ間で転送できます。例えば、他のサイトから抽出されたデータを本社のアプリケーションに読み込んだり、総勘定元帳から Hyperion Enterprise にデータを読み込むことができます。

読み込みファイルには、データ種別、データを受信する最初と最後の期間、データを受信するエンティティと勘定科目、および勘定科目の値を指定する必要があります。読み込みファイルには、多くのエンティティや勘定科目のデータを含めることができますが、1 つのデータ種別のデータしか含めることができません。ファイルには複数の期間の範囲のデータを含めることができますが、これらの期間は連続している必要があります。

**注：** 同一のエンティティと勘定科目の組み合わせが読み込みファイルの中で複数存在する場合、これらの値はデータベースに読み込まれる前に合計されます。

読み込みファイルの情報は、以下の順番で指定する必要があります。

- データ種別
- 最初の期間
- 最後の期間
- エンティティに続き、期間の範囲の勘定科目 ID とデータ値

読み込みファイルは、指定されている期間でしかデータに影響しません。例えば、読み込みファイルで、12 か月分の月別データが含まれている Actual データ種別について期間 1 ～ 4 を指定する場合、期間 5 ～ 12 はデータ読み込みの影響を受けません。

次に、期間 1 ～ 4 の Actual データ種別についてエンティティおよび勘定科目を指定するサンプルの ASCII 読み込みファイルを示します。

```
ACTUAL
1
4
USCORP,SALES1,100,200,300,400
USCORP,SALES2,1001,2001,3001,4001
USCORP,SALES3,1501,2501,3501,4501
USREG1,SALES1,20100,501,0,0
USREG1,SALES2,20100,521,1021,1521
USREG1,SALES3,20100,501,1031,1531
```

サンプルファイルの 1 行目は、Actual データ種別を指定します。

2 行目は、データ種別の最初の期間を、データが読み込まれる最初の期間として指定します。

3 行目は、データ種別の 4 番目の期間を、データが読み込まれる最後の期間として指定します。

サンプルファイルの 4 行目から 9 行目はそれぞれエンティティを指定し、その後、指定した各期間について勘定科目の ID と値を指定します。例えば、4 行目

は、値 100、200、300 および 400 がエンティティ UScorp の Sales1 勘定科目に読み込まれるように指定します。カンマ (,) は、このサンプル読み込みファイルの各行でデータ要素を区切る区切り文字です。

データ読み込み時に、読み込み書式を使用できます。読み込み書式によって、データをアプリケーションに読み込む方法が決まります。例えば、読み込み書式には、読み込みファイルで使用する区切り文字の種類や、データの読み込み時に使用する変換表についての情報が含まれている場合があります。読み込み書式は、デフォルトの読み込み書式を使用することも、任意の既存の書式を選択することも可能です。データの読み込み書式をそのまま使用することも、現在の読み込みセッションのみに対して編集することもできます。

サーバベースの処理を使用してデータを読み込む場合は、読み込みの進行状況を示すウィンドウが表示されます。このウィンドウは別のプログラムであるため、サーバの処理中に Hyperion Enterprise で他のタスクを実行したり、Hyperion Enterprise を終了することができます。サーバで処理が終了するとこのウィンドウは閉じます。問題が発生した場合はエラーメッセージが表示されます。

- ▶ データを読み込むには、次の手順に従います。
  - 1 [データベース] ウィンドウで、[タスク] メニューから [データの読込] を選択します。
  - 2 [追加] を選択して、読み込むデータファイルを追加します。
  - 3 [読込エラーファイル] テキストボックスに、エラーログファイルの名前を入力します。
  - 4 読み込みファイルの書式を選択するか、[デフォルト] を選択してシステムのデフォルトを使用します。
  - 5 選択した読み込み書式をこの読み込みセッションでのみ編集するには、[編集] を選択して変更を加え、[OK] をクリックします。
  - 6 データの読み込みモードを指定し、読み込みオプションを選択します。
  - 7 [OK] をクリックします。
- [サーバーオプション] ダイアログボックスが表示されます。
- 8 アプリケーションがサーバ対応で、サーバ上でタスクを実行する場合は、[サーバー] を選択します。ローカルワークステーションで実行する場合は、[ローカル] (選択可能な場合) を選択します。

## データの抽出

Hyperion Enterprise データベースからデータを ASCII ファイルにコピーすると、このファイルを別のアプリケーションや別の場所で使用できます。例えば、会社の複数のサイトからデータを抽出し、抽出したファイルを本社のアプリケーションに読み込むことができます。

データを抽出してアプリケーションのデータをバックアップすることもできます。抽出ファイルは、データのデータ種別、システムがデータを抽出する最初と最後の期間、データを含むエンティティと勘定科目、および勘定科目の値を指定します。抽出ファイルは多くのエンティティと勘定科目のデータを含むことができますが、1 つのデータ種別のデータしか含むことができません。また、複数の期間

の範囲のデータを含むことができますが、これらの期間は連続している必要があります。データは算出勘定科目やグローバル勘定科目からも抽出できます。抽出ファイルのサンプルについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

抽出ファイルの情報は以下の順番で含まれます。

- データ種別
- 最初の期間
- 最後の期間
- エンティティに続き、期間の範囲の勘定科目 ID とデータ値

データの抽出書式を指定して、抽出するデータにどのように書式を設定するかをシステムに指示する必要があります。抽出書式は、デフォルトの書式を使用したり、既存の任意の書式を選択することができます。データの抽出書式をそのまま使用したり、現在の抽出セッションのみに対して編集することもできます。

保護済みデータのみを抽出することもできます。保護済みデータを抽出できるようにするには、[保護されたデータのみ抽出] のタスクに割り当てられているセキュリティクラスに対して制限、表示、または修正のアクセス権を指定し、[データの抽出] のタスクに割り当てられているセキュリティクラスに対してなしを指定します。[データベース] ウィンドウの [タスク] メニューの [抽出] コマンドは、選択した期間が保護されているときにのみ使用可能になります。保護されていないデータはエラーログに記録されます。上記の両方のタスクに制限、表示、または修正のアクセス権を指定すると、データが保護されているかいないかにかかわらず、データがすべて抽出されます。アクセス権を割り当てる方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

サーバベースの処理を使用してデータを抽出する場合は、抽出状況を示すウィンドウが表示されます。このウィンドウは別のプログラムであるため、サーバの処理中に Hyperion Enterprise で他のタスクを実行したり、Hyperion Enterprise を終了することができます。サーバで処理が終了するとこのウィンドウは閉じます。問題が発生した場合はエラーメッセージが表示されます。

▶ データを抽出するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、抽出するデータをハイライトします。
- 2 [タスク] メニューから [データの抽出] を選択します。
- 3 抽出データのファイル名を入力するか、[参照] をクリックしてファイルを検索します。
- 4 [書式] ドロップダウンリストから、抽出ファイルの書式を選択するか、[デフォルト] を選択してデフォルトの書式を使用します。
- 5 選択した抽出書式をこの抽出セッションでのみ編集するには、[編集] をクリックして変更を加え、[OK] をクリックします。
- 6 算出勘定、共通勘定、連動表示勘定科目のいずれからデータを抽出するかを選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

[サーバーオプション] ダイアグボックスが表示されます。

- 8 アプリケーションがサーバ対応で、サーバ上でタスクを実行する場合は、[サーバー]を選択します。ローカルワークステーションで実行する場合は、[ローカル]（選択可能な場合）を選択します。

## 連結詳細の抽出

エンティティ内の1つまたは複数のエンティティに関する連結の詳細を抽出できます。エンティティの親の選択は、データの視点のデフォルトのエンティティセットに基づきます。勘定科目と期間の選択は、[データベース] ウィンドウでハイライトされている勘定科目と期間に基づきます。抽出するデータのデータ種別は、データの視点のデフォルトのデータ種別セットに基づきます。

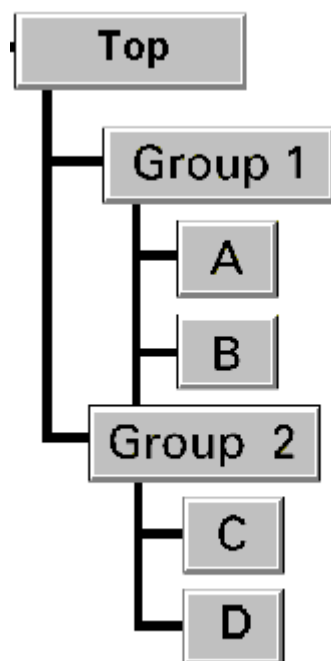
抽出する連結詳細は、換算、比率、消去、親の調整、および調整後から選択できます。システムは親と子の各組み合わせの連結詳細をすべて抽出します。例えば、換算と比率の詳細を抽出すると、システムは現在の親と子に対するこの詳細情報を抽出し、次に同じ親の次の子の詳細を抽出します。現在の親の子すべての連結詳細が抽出されると、次の親と子の組み合わせの連結詳細が抽出されます。

連結詳細は、親の単位に基づいて抽出されます。親と子の通貨が同じである場合は、換算詳細を抽出するよう選択していても、このデータは抽出されません。

抽出する詳細を選択したら、出力書式を外部アプリケーション用と Hyperion Enterprise 用のどちらに設定するかを指定します。Microsoft Access サーバなどの別のアプリケーションで使用するデータを抽出するには、[外部アプリケーションの書式] オプションを選択します。Hyperion Enterprise で使用するデータを抽出するには、[Hyperion Enterprise の書式] オプションを選択します。Hyperion Enterprise で有効な書式を作成するために、システムは親、エンティティ、および連結の詳細を1つのエンティティ ID に結合します。

例えば、[図 4](#) のような組織構造のファイルを作成するとします。

図 4 組織構造のサンプル



次のサンプル出力ファイルで、親は GROUP1、子エンティティは A と B、連結詳細設定は換算 (T) と比率 (P) です。

```
ACTUAL
1
3
GROUP1|A|T , SALES1, 100, 150, 190
GROUP1|A|T , SALES2, 110. 200. 300
GROUP1|A|T , SALES3 , 200, 650, 790
GROUP1|A|P , SALES1, 100, 150, 190
GROUP1|A|P , SALES2, 110. 200. 300
GROUP1|A|P , SALES3 , 200, 650, 790
GROUP1|B|T , SALES1, 110. 200. 300
GROUP1|B|T , SALES2 , 200, 650, 790
GROUP1|B|P , SALES1, 160. 280. 800
GROUP1|B|P , SALES2, 500, 650, 990
GROUP1|B|P , SALES3, 310. 260. 370
GROUP2|C|T , SALES1, 120. 400. 800
GROUP2|C|T , SALES2, 220. 500. 870
GROUP2|C|T , SALES3, 320. 600. 890
GROUP2|C|P , SALES1, 210. 400. 600
GROUP2|C|P , SALES2, 550. 460. 900
GROUP2|C|P , SALES3, 230. 430. 800
```

▶ 連結詳細を抽出するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、[タスク] メニューから [連結詳細の抽出] を選択します。
- 2 連結詳細の抽出オプションを次のように選択します。
  - データの視点に指定されている現在の親のセットから始まる親の全レベルのエンティティを抽出するには、[現在のグループとすべてのサブグループ] を選択します。
  - 個々のエンティティを抽出するには、[現在のグループのみ] を選択し、リストから個々のエンティティを選択します。
  - 直属のレベルのみのグループのエンティティをすべて抽出するには、[現在のグループのみ] と [すべて選択] を選択します。
- 3 抽出する連結詳細オプションを選択します。
- 4 外部のアプリケーションまたは Hyperion Enterprise のどちらに対して書式を設定するかを選択します。
- 5 Hyperion Enterprise 用に書式を設定するよう選択した場合は、[エンティティ連結文字] ボックスで連結文字を指定します。

**注：** 連結文字には、書式の区切り文字とは異なる文字を使用してください。

## データ読み込みと抽出でのレコードの検証

読み込みファイルのレコードと、Hyperion Enterprise に読み込まれたレコードを照合して検証できます。レコードを検証するとき、読み込みファイルに含まれている各レコードには内部番号が割り当てられます。さらに制御合計が計算されて、

ファイルの先頭に入力されます。データの読み込み時に、ファイル内のレコードの制御合計が再計算され、最初に計算された数値に対して検証されます。数値が一致したら、データ読み込みが行われます。

手動でレコードを変更すると、読み込みファイル内のレコードの内部制御番号が変わります。従って、最初に計算された制御合計は、データの読み込み時に再計算された制御合計と同じではありません。合計が一致しない場合は、抽出時以降にレコードが変更され、データが読み込まれていないことを警告するエラーメッセージがエラーログに書き込まれます。

[チェックサムの要求] オプションを選択しているが、読み込みファイルに制御数値が含まれていない場合、エラーログにエラーが書き込まれ、読み込みは行われません。データ読み込みを行うには、[チェックサムの要求] オプションの選択を解除してください。[チェックサムの要求] オプションを選択しており、読み込みファイルに制御合計が含まれている場合は、この数値が検証され、制御数値が一致しない場合は警告メッセージが表示されます。

## エンティティ詳細レポートの作成

特定のエンティティについて、エンティティ詳細情報のレポートを作成できます。エンティティの詳細は、データの視点で選択されているエンティティに基づきます。この詳細には、エンティティの直属の子またはすべての子、[データベース] ウィンドウでハイライトされている単一の期間にある単一の勘定科目の勘定残高とそれに関連するサブ勘定科目情報、関連する仕訳帳入力の詳細、および連結の詳細の情報を含めることができます。

Statutory Consolidation Engine (SCE) 処理を使用するアプリケーションが連結取引の詳細を保存するように設定されている場合、エンティティの詳細レポートでこのような情報を表示できます。表示される情報は、この項目で説明します。連結取引の詳細を保存するようにアプリケーションを設定する方法については、『Hyperion Enterprise Statutory Consolidation Engine ガイド』を参照してください。

レポートに表示する詳細の種類を選択したら、値がゼロまたはデータがない行を非表示にするかどうか、およびレポートの単位を指定できます。デフォルトの単位を選択すると、連結の詳細の構成要素はすべて親の単位を使用します。特定の単位を選択すると、レポートの各値は選択した単位で表示されます。

レポートに含めるデータは、データの視点バー、[データベース] ウィンドウ、および [エンティティ詳細レポート] ダイアログボックスを使用して、次のように定義します。

- システムが使用するデータ種別とエンティティは、データの視点バーの設定に基づきます。
- システムが使用する勘定科目と期間は、[データベース] ウィンドウでハイライトする勘定科目に基づきます。
- レポートの単位値は、データの視点バーの設定に基づきます。例えば、データベースモジュールの単位値が3に設定されている場合、[エンティティ詳細レポート] ダイアログボックスにアクセスすると、デフォルトのレポート単位は3になります。但し、[レポート単位] ドロップダウンリストを使用すると、この単位値を変更できます。

**注：** [エンティティ詳細レポート] ダイアログボックスで選択したオプションは hypent.ini ファイルに保存され、この設定は次にこのダイアログボックスにアクセスしたり、システムにログオンしたときに使用されます。但し、選択した [レポート単位] や [親] のオプションは保存されません。

レポートのフォント、色、ページレイアウトはカスタマイズできます。レポートのカスタマイズについては、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

図 5 に、サンプルの組織レポートとエンティティ詳細レポートを示します。

図 5 エンティティ詳細レポートの構造

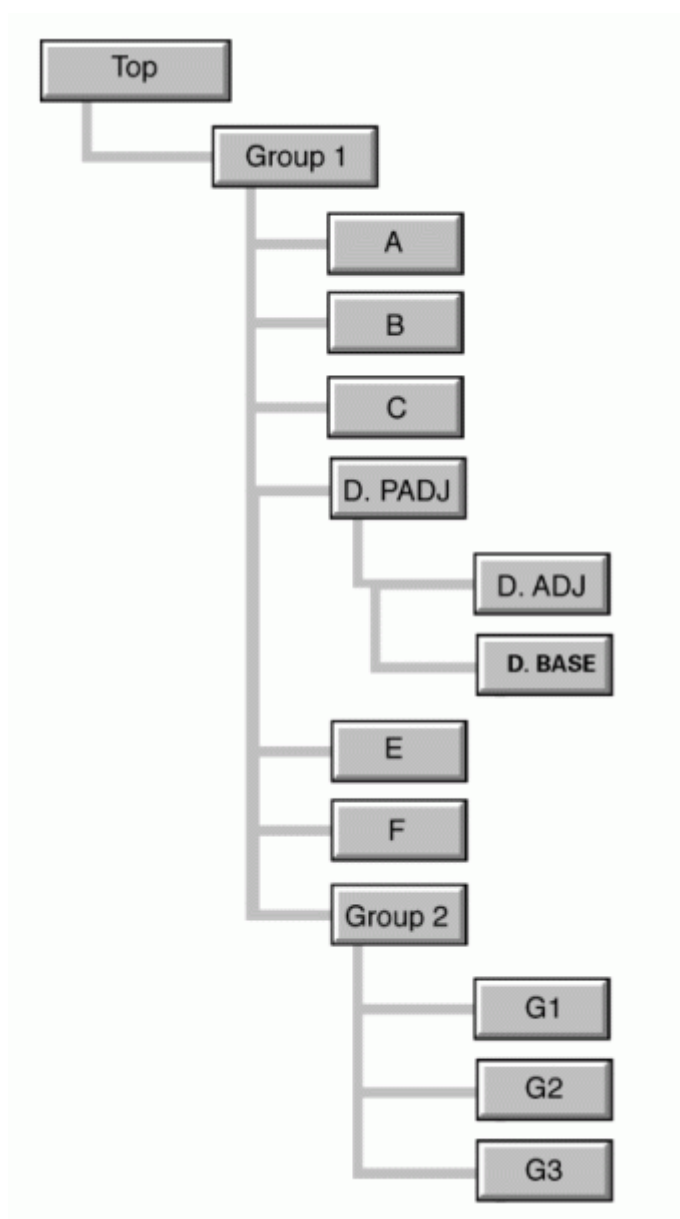


図 6 のようなサンプルレポート 1 に選択されているオプション

- データの視点エンティティは Group1
- 勘定科目は SALES

- 直属の子のみを表示する
- 列を展開しない
- ゼロを含んでいる行やデータなしの行をすべて表示する
- 連結詳細を表示しない

図 6 サンプルレポート 1

	Amount
Group1	1000
A	200
B	300
C	100
D.PADJ	50
E	0
F	0
Group2	350

図 7 のようなサンプルレポート 2 に選択されているオプション

- データの視点エンティティは Group1
- 勘定科目は SALES
- すべての子を表示する
- 仕訳帳の項目を表示するように列を展開する
- ゼロを含む行やデータのない行を表示する
- 連結詳細を表示する

図 7 サンプルレポート 2

	Amount	Debit	Credit	Journal	Account	Code
Contribution	4500					
Parent Adjustment	500					
			400	Parent1	Sales.Prod1	JE01
			300	Parent2	Sales.Prod2	JECODE6
		200		Parent3	Sales.Prod2	JE9
		200	700			
Elimination	0	600		Sales.Prod1	Sales.Prod1	SalesElim
			300	Sales.Prod1	Sales.Prod1	SalesE2
			300	Sales.Prod1	Sales.Prod1	SalesElim
Proportional	4000	6000		Sales.Prod1	Sales.Prod1	SalesConsol
			10000	Sales.Prod2	Sales.Prod2	
Translation	5000	2000		Sales.Prod1	Sales.Prod1	SalesTran
			7000	Sales.Prod2	Sales.Prod2	
Group1	2500					
A	200					
B	800	700		JE1	Sales.Prod2	
			1500	JE2	Sales.Prod1	
		700	1500			
C	100					
D.PADJ	500					
D.ADJ	200					

- ▶ エンティティ詳細レポートを作成するには、次の手順に従います。
- 1 データ種別とエンティティのデータの視点を設定します。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
  - 2 [データベース] ウィンドウで、ある期間の勘定科目を 1 つ選択します。
  - 3 [タスク] メニューから [エンティティ詳細レポートの作成] を選択します。
  - 4 レポートに直属の子のみを含めるか、すべての子を含めるかを選択します。
  - 5 レポートに含める列の展開オプションを選択します。
  - 6 [レポート単位] ドロップダウンリストからレポート単位を選択するか、デフォルトのレポート単位を使用します。
  - 7 行にデータがないか、ゼロの値のみを含んでいる場合に、行を非表示にするかどうかを選択します。
  - 8 親のエンティティの連結詳細を表示するかどうかを選択します。
  - 9 [親の選択] ドロップダウンリストから、エンティティの直属の親を選択します。
  - 10 次のいずれかの操作を行います。
    - レポートを印刷するには、[印刷] を選択します。
    - レポートのプレビューを表示するには、[プレビュー] を選択します。

## 小数表示オプション

勘定科目モジュールで勘定科目を作成する際は、その勘定科目のデフォルトの小数点以下桁数を指定します。この勘定科目の値を表示すると、デフォルトの小数点以下桁数が常に使用されます。例えば、勘定科目の[小数表示]属性を0（ゼロ）に設定すると、勘定科目値は整数で表示されます。勘定科目の[小数表示]属性を2に設定すると、勘定科目値は6.75などのように、小数点以下2桁の数で表示されます。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

データベースモジュールでは、[小数表示] オプションを使用して、表示される勘定科目のデフォルトの小数点以下桁数を上書きできます。ここで指定する小数点以下桁数は、それを再び変更するまで有効になります。メニュー内で選択した小数点以下桁数の横にはチェックマークが表示されます。[デフォルト]を選択すると、勘定科目モジュールを使用して勘定科目に対して最初に指定した小数表示の設定を表示できます。

▶ デフォルトの小数点以下の桁数を上書きするには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、[表示] メニューから [小数表示] を選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
  - レポートに表示する小数点以下の桁数を選択します。
  - 勘定科目モジュールで指定されている小数点以下の桁数の設定を使用するには、[デフォルト] を選択します。



## この章の内容

Hyperion Retrieve の機能 .....	71
Hyperion Retrieve の設定 .....	71
Hyperion Retrieve for Microsoft Excel の設定 .....	74
Hyperion Retrieve for Excel の起動 .....	74
Hyperion Retrieve の計算式 .....	74
Hyperion Retrieve のワークシート .....	78
VBA Hyperion Retrieve .....	81

この章では、Hyperion Retrieve を使用するために必要な情報と手順について説明します。

## Hyperion Retrieve の機能

Hyperion Retrieve は、Hyperion Enterprise で、スプレッドシートソフトウェアの分析、グラフィックス作成およびプレゼンテーション機能を使用するためのユーティリティです。Hyperion Retrieve を使用すると、Microsoft Excel のワークシートから Hyperion Enterprise のデータにアクセスできます。その後スプレッドシートソフトウェアでデータを分析、操作して、レポートやグラフを作成できます。

**注：** 標準添付されている Hyperion Retrieve for Microsoft Excel の他に、Visual Basic for Applications (VBA) を使用して記述した Hyperion Retrieve for Microsoft Excel を使用することもできます。詳しくは、[81 ページの「VBA Hyperion Retrieve」](#)を参照してください。

Hyperion Retrieve は複数の Hyperion Enterprise アプリケーションで使用できます。例えば、Products と Tax という 2 つのアプリケーションのデータを取り出し、同じワークシート上でこれらのデータを使用できます。

## Hyperion Retrieve の設定

Hyperion Retrieve をスプレッドシートプログラムと併用する前に、以下のタスクを実行する必要があります。

- hpapp.dat ファイルの作成。HPAPP.DAT ファイルには、Hyperion Retrieve で使用するための各 Hyperion Enterprise アプリケーションに関する情報を保存します。詳しくは、72 ページの「HPAPP.DAT ファイルの形式」を参照してください。
- HPAPP.DAT 環境変数の設定。詳しくは、73 ページの「HPAPP.DAT 環境変数の設定」を参照してください。
- 所定位置への Hyperion Retrieve アドインファイルの配置。詳しくは、73 ページの「Hyperion Retrieve アドインファイルの位置」を参照してください。

## HPAPP.DAT ファイルの形式

Hyperion Retrieve を使用する前に、HPAPP.DAT ファイルを作成する必要があります。HPAPP.DAT ファイルには、Hyperion Retrieve で使用する各アプリケーションの ID と、それらを使用するユーザ名（オプション）に関する情報を保存します。このファイルは、どのディレクトリに保存してもかまいません。

**注：** HPAPP.DAT では、システム変数をすべて大文字にする必要があります。

HPAPP.DAT ファイルは、テキストエディタを使用して作成または編集できます。次の形式を使用します。

Application1,User1 .... Applicationnn,Usernn

変数	説明
Application1	Hyperion Retrieve と併用する最初のアプリケーションの ID
User1	Application1 を使用するユーザの名前（オプション）
Applicationnn	Hyperion Retrieve と併用する最後のアプリケーションの ID
Usernn	Applicationnn を使用するユーザの名前（オプション）

例えば、Hyperion Retrieve を使用して Products と Tax という 2 つのアプリケーションのデータにアクセスするとします。両方のアプリケーションのユーザ名が ABC の場合、次の情報を指定した HPAPP.DAT ファイルを Lotus 1-2-3 または Excel プログラムのあるディレクトリに置きます。

```
PRODUCTS,ABC
TAX,ABC
```

HPAPP.DAT ファイルでユーザ名を指定していない場合は、Hyperion Retrieve によって、ユーザ名を入力するように求めるメッセージが表示されます。次に、ユーザ名を指定していない HPAPP.DAT ファイルの例を示します。

```
PRODUCTS
TAX
```

## HPAPP.DAT 環境変数の設定

HPAPP.DAT ファイルには、Excel と Hyperion Retrieve を連携させる場合にユーザがアクセスするアプリケーションの情報が保存されています。HPAPP.DAT は、autoexec.bat ファイル内に環境変数として設定できます。このようにすると、Excel についてユーザ間で同じ HPAPP.DAT ファイルを共用できるようになります。このファイルの名前に HPAPP.DAT を使用する必要はありません。例えば、異なるいくつかの Hyperion Enterprise アプリケーション情報を指定した一意のファイルを複数作成することができます。このように作成したファイルに user1.dat や user2.dat などの名前を付け、それぞれの autoexe.bat ファイルを編集して、該当するユーザに.dat ファイルを割り当てます。また、ユーザごとに異なる HPAPP.DAT ファイルを割り当てることで、特定のアプリケーションへのアクセスを制限したり許可したりすることもできます。

ネットワークインストールを例にとると、HPAPP.DAT を環境変数として設定した場合、それぞれ一意の HPAPP.DAT ファイルを各ユーザに割り当てることによって、ユーザ間でワークシートを共有することができます。例えば、Hyperion Retrieve ワークシートを作成し、ネットワーク上のドライブに保存します。User1 というユーザは、user1.dat ファイル内での指定に従って、APP1 と APP2 という 2 つのアプリケーションでこのワークシートを使用できます。同様に、User2 は同じワークシートを user2.dat ファイル内の指定に従って、アプリケーション APP3 で使用できます。

次の行を AUTOEXEC.BAT ファイルに追加します。

SET HPAPP.DAT = Path\Filename

変数	説明
Path	HPAPP.DAT ファイルのパス
Filename	HPAPP.DAT、または Hyperion Retrieve で使用する Hyperion Enterprise アプリケーションに関する情報が記述されたファイルの名前

## Hyperion Retrieve アドインファイルの位置

Hyperion Retrieve を使用する前に、すべてのアドインファイルが Hyperion Enterprise のプログラムディレクトリにインストールされていることを確認してください。[表 12](#) に、利用可能なスプレッドシートプログラムとそのアドインファイルの名前を示します。

表 12 アドインファイル名

製品	アドインファイル
Excel for Windows version 7.0 (Office 95)	rhxl132.xll
Excel 97 (Office 97)	rhxl132.xll

## Hyperion Retrieve for Microsoft Excel の設定

Hyperion Retrieve for Excel を設定するには、RHXLL32.XLL ファイルへのショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットアイコンをクリックすると、Excel と Hyperion Retrieve の相互通信が始まります。

## Hyperion Retrieve for Excel の起動

Hyperion Enterprise をインストールしたときに Hyperion Retrieve for Excel のオプションを選択した場合、システムによって Hyperion Retrieve for Excel のアイコンが作成されます。プログラムを起動する前に、Hyperion Retrieve が正しく設定されていることを確認してください。Hyperion Retrieve を起動する前に Hyperion Enterprise を終了することをお勧めします。詳しくは、71 ページの「[Hyperion Retrieve の設定](#)」を参照してください。

HPAPP.DAT ファイルに含まれるすべてのアプリケーションに対するプロンプトが表示されます。HPAPP.DAT ファイルに含まれるすべてのアプリケーションにアクセスするか、またはキャンセルすると、Excel のメニューバーに [RHXL] メニューが表示されます。

- Hyperion Retrieve for Excel を起動するには、Hyperion Retrieve の設定時に作成したショートカットアイコンをクリックして Excel を起動します。HPAPP.DAT ファイルに指定されている各アプリケーションのユーザ名とパスワードを求めるメッセージが表示されます。ユーザ名が HPAPP.DAT ファイルで指定されている場合には、パスワードを求めるメッセージのみが表示されます。

## データなしをゼロで表示するオプション

Hyperion Retrieve ではデータなしの表示のデフォルト設定は [#NA] になっています。この設定を変更してデータなしをゼロで表示するには、Hyperion Enterprise のユーザ設定変更を修正します。

- データなしをゼロで表示するには、次の手順に従います。
  - 1 Hyperion Enterprise アプリケーションで、[ファイル] メニューの [設定変更] から [ユーザー] を選択します。
  - 2 [データなしをゼロで表示] を選択します。
  - 3 [OK] をクリックします。

## Hyperion Retrieve の計算式

Hyperion Retrieve で Microsoft Excel を使用するときは、計算式を作成することによって、さまざまなタイプの Hyperion Enterprise データを取得したり操作したりできます。計算式は、取得するデータのタイプを指定する関数と、取得したデータを格納したり識別したりする引数で構成されます。

Hyperion Retrieve の計算式は Microsoft Excel の計算式と似ていますが、以下の相違点があります。

- Hyperion Retrieve 計算式では、Excel の標準関数ではなく Hyperion Retrieve の関数を使用します。
- 引数は、Hyperion Enterprise のアプリケーションの要素にだけ関連付けることができます。

次は、HPVAL 関数の後ろに複数の引数を指定した計算式の例です。

```
HPVAL("USOPS", "ACTUAL", "SALES", "MAR 02", "QYTD", "TAX")
```

この計算式の HPVAL 関数は、Tax アプリケーションから、US Operations エンティティ、Actual データ種別、Sales 勘定科目および 2003 年 3 月期の値を四半期累計表示で取得します。

**注：** Hyperion Enterprise からエンティティを削除しても、除去しない限りは、そのエンティティに関する情報を取得できます。

## Hyperion Retrieve の引数

Hyperion Retrieve の計算式には、Hyperion Enterprise アプリケーションとアプリケーション要素（エンティティやデータ種別など）を識別する引数を含めます。引数は計算式の関数の後ろに続き、コンマで区切って小かっこで囲みます。引数は、勘定科目の ID などのテキストや、セル参照で構成されます。テキストは、二重引用符 (") で囲む必要があります。

セル参照を使用すると、すべての情報を引数で指定するより迅速且つ容易に値を取得できます。例えば、関数で、データ種別を引数で指定する必要があり、指定するデータ種別の ID がセル D5 に表示される場合は、データ種別 ID またはセル参照 D5 を引数として指定します。セル参照を使用する場合は、セル参照を引用符で囲む必要はありません。

**ヒント：** Excel ワークシートの場合、デフォルトのアプリケーションからデータを取得するときは、引数によってアプリケーションを指定する必要はありません。

## Hyperion Retrieve の関数

Hyperion Enterprise の計算式では、Hyperion Retrieve 関数の後ろに、取得するデータ、およびそのデータを含んでいるアプリケーションを識別する引数を続けます。関数によっては、エンティティやデータ種別などのアプリケーション要素の ID や説明を取得するものがあります。また、具体的な値を取得するものや、具体的な値に基づいて計算を実行するものもあります。

Excel ワークシートでは、各関数の前に等号 (=) を付ける必要があります。表 13 に、各 Hyperion Retrieve 関数とその用途の説明を示します。Hyperion Retrieve 関数についての情報および例については、「Hyperion Retrieve の関数」の章を参照してください。

表 13 Hyperion Retrieve の関数

関数	用途
HPACC	指定された勘定科目の ID を取得します。
HPAMJ	指定された勘定科目の主要勘定科目 ID を取得します。
HPAS1	指定された勘定科目の第 1 レベルサブ勘定科目 ID を取得します。
HPAS2	指定された勘定科目の第 2 レベルサブ勘定科目 ID を取得します。
HPBET	2 つの勘定科目値の差異を計算し、その差異を正の値または負の値で表示します。
HPCAL	指定された勘定科目が算出勘定であれば 1 を返し、そうでない場合は-1 を返します。
HPCDE	指定されたデータ種別の説明を取得します。
HPCONTRIB	調整後データを取得します。
HPCUR	指定されたエンティティの通貨 ID を取得します。
HPDCTRL	所有議決権株数または直接支配比率を取得します。株を単位と比率のどちらで入力するかによって、取得する値が異なります。
HPDOWN	パートナーの直接所有株数または直接出資比率を取得します。株を単位と比率のどちらで入力するかによって、取得する値が異なります。
HPDRV	2 期間の指定された収益、費用、またはフロー勘定科目の値を加算して合計値を返します。
HPECODE	エンティティコードを取得します。
HPELIM	消去データを取得します。
HPFLW	指定した勘定科目がフロー勘定科目である場合は 1 を表示し、残高勘定科目である場合は-1 を表示します。
HPFNA	指定したエンティティの最初のエンティティ説明を取得します。
HPFRE	指定したデータ種別のデフォルトの期間単位の ID を取得します。
HPFSN	指定したエンティティのサブエンティティの説明を取得します。
HPFUL	指定したエンティティの説明を取得します。
HPHEA	指定した勘定科目の説明を取得します。
HPHMJ	指定した勘定科目の主要勘定科目の説明を取得して表示します。
HPHS1	指定した勘定科目の第 1 レベルサブ勘定科目の説明を取得します。
HPHS2	指定した勘定科目の第 2 レベルサブ勘定科目の説明を取得します。
HPINC	指定した勘定科目が収益または負債勘定科目の場合は 1 を返し、残高、フロー、費用、または資産勘定科目の場合は-1 を返します。
HPINP	指定した勘定科目が入力勘定科目である場合は 1 を返し、それ以外は-1 を返します。

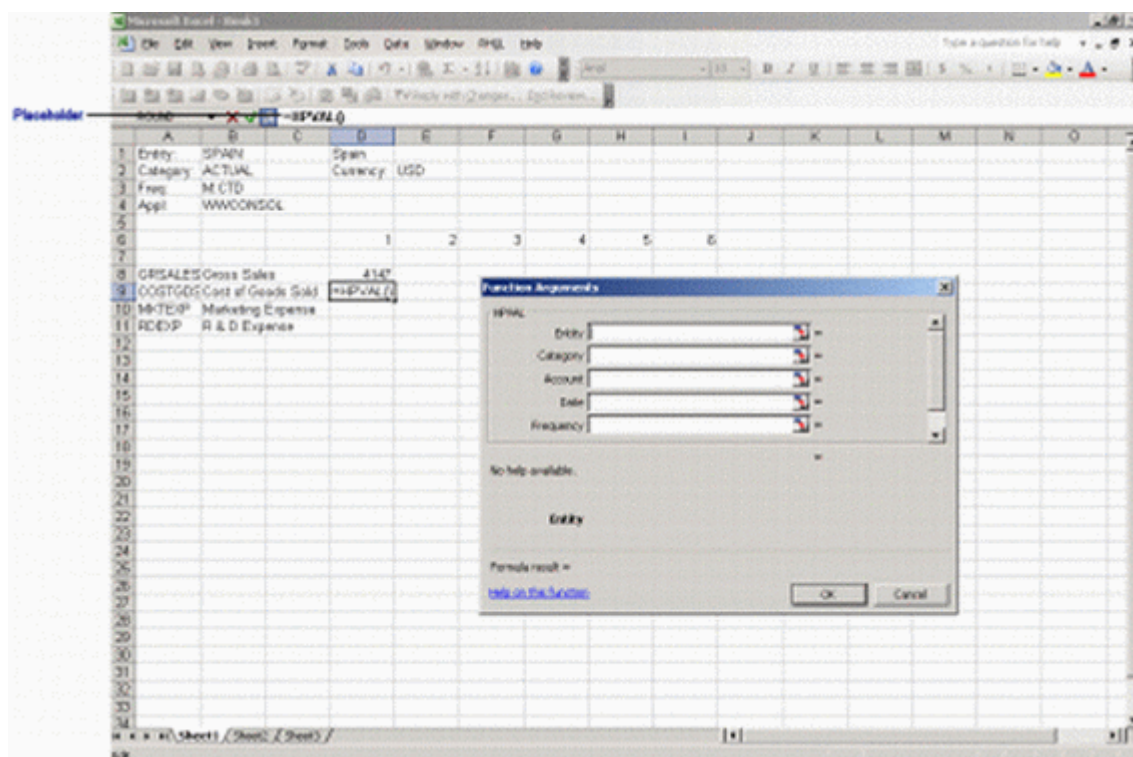
関数	用途
HPJAC	指定した仕訳帳の詳細行の勘定科目を取得します。
HPJCR	指定した仕訳帳の詳細行の貸方値を取得します。
HPJDB	指定した仕訳帳の詳細行の借方値を取得します。
HPJDS	仕訳帳の説明を取得します。
HPJEN	指定した仕訳帳の詳細行のエンティティを取得します。
HPJNO	システムによって仕訳帳に割り当てられた番号を取得します。
HPJST	仕訳帳のステータスを取得します。
HPKEY	指定したデフォルトの勘定科目、エンティティ、データ種別または期間の ID を取得します。
HPLNK	指定したエンティティ、データ種別、勘定科目、期間および期間単位のデータ値を、スプレッドシートから Hyperion Enterprise データベースに取り込みます。
HPNAM	指定したエンティティの ID を取得して表示します。
HPNNA	指定したエンティティの最初のエンティティ ID を取得します。
HPNSN	指定したエンティティのサブエンティティ ID を取得します。
HPPARADJ	親の調整データを取得します。
HPPE	2 つの勘定科目値の差異率を計算し、正の値または負の値で表示します。
HPPECH	2 つの値の差異率を返します。差異率が正の値であるか負の値であるかは評価しません。
HPPECONS	最終連結比率を取得します。
HPPEOWN	最終出資比率を取得します。
HPPEPROP	比率データを取得します。
HPPESCA	指定したエンティティ、データ種別および勘定科目の単位比率を取得します。
HPPESHAROS	発行済み合計株式数を返します。
HPPESHAROW	他のエンティティが所有する合計株式数を返します。
HPPETRAN	換算データを取得します。
HPPEVAL	指定したエンティティ、データ種別、勘定科目、期間、期間単位およびアプリケーションのデータ値を取得して表示します。
HPPEVSHAROS	発行済みの合計議決権株式数を返します。
HPPEVSHAROW	他のエンティティが所有する合計議決権株式数を返します。

## Excel での関数の貼り付け

Excel には「関数の貼り付け」オプションがあり、これを使うと、Hyperion Retrieve の関数を選択して計算式に貼り付けることができます。このオプションを使って Excel のワークシートに関数を貼り付ける場合、関数の後に付ける必要がある引数のプレースホルダを貼り付けることもできます。「関数の貼り付け」オプションについて詳しくは、Microsoft Excel のユーザガイドを参照してください。

図 8 に、HPVAL 関数と、この関数に必要な引数のプレースホルダを使用する計算式を表示した Excel ワークシートを示します。

図 8 プレースホルダを貼り付けた Hyperion Retrieve の計算式



- Excel で関数を貼り付けるには、次の手順に従います。
- 1 関数を貼り付ける Excel ワークシートのセルで、[編集] から [特殊貼り付け] を選択します。
- 2 [計算式] を選択し、次に [Hyperion Retrieve] を選択します。
- 3 計算式を選択し、次に [貼り付け] を選択します。

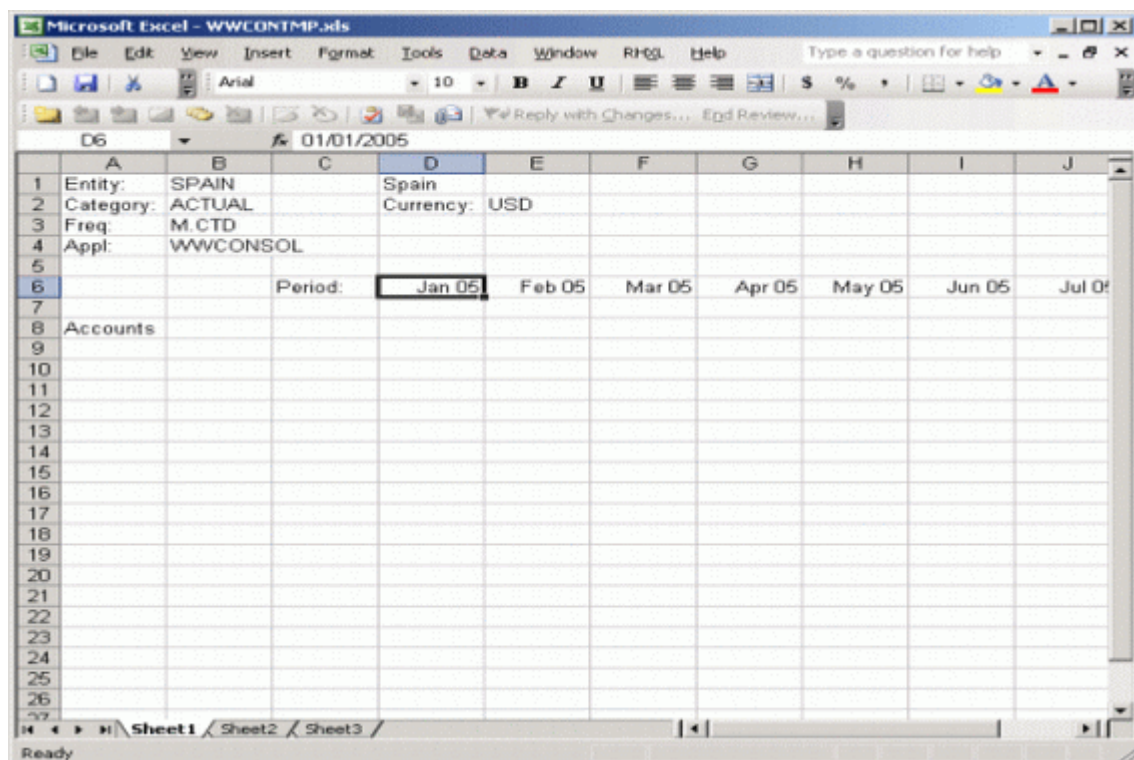
## Hyperion Retrieve のワークシート

Hyperion Retrieve ワークシートの作成方法は、Microsoft Excel ワークシートの作成方法とほぼ同じですが、Excel 計算式の他に Hyperion Retrieve の計算式を使用できる点異なります。また、Hyperion Retrieve ワークシートでは、Excel メニューの他に Excel の [RHL] メニューを使用することもできます。

Hyperion Retrieve では、Excel のすべての関数および機能にアクセスできます。テンプレートを作成して、さまざまなワークシートを作成できます。例えば、特定のエンティティおよびデータ種別の期別勘定科目値を格納するワークシートのテンプレートを作成できます。

図 9 に、Excel で作成した Hyperion Retrieve テンプレートを示します。

図 9 Excel で作成した Hyperion Retrieve テンプレート



テンプレートを開いたら、勘定科目 ID を追加し、テンプレートに含まれている計算式の引数を指定できます。勘定科目 ID と引数をテンプレートに追加したら、テンプレートを別名で保存します。これによって、テンプレートを変更することなくワークシートを作成できます。

図 10 に、上の図のテンプレートに基づいて作成した Excel ワークシートを示します。このワークシートには、Actual データ種別と Spain エンティティの勘定科目値が挿入されています。

図 10 Excel ワークシートのサンプル

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Entity:	SPAIN		Spain				
2	Category:	ACTUAL		Currency:	USD			
3	Freq:	M CTD						
4	Appl:	WWCONSOL						
5								
6		Period:	Jan 05	Feb 05	Mar 05	Apr 05	May 05	Jun 05
7								
8	Accounts							
9	GRSALES	Gross Sales	10007	14293	27836	4310	13193	22553
10	COSTGDS	Cost of Goods Sold	9703	2828	32613	16943	14530	31974
11	MKTEXP	Marketing Expense	29080	17814	25710	3228	18017	212
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								

テンプレートからワークシートを作成する場合は、作成したワークシートを、テンプレートのファイル名とは別名で保存する必要があります。これによってテンプレートを変更することなく、テンプレートからワークシートを作成できます。Excel でテンプレートを使用する方法については、Microsoft Excel のユーザガイドを参照してください。

## Hyperion Retrieve での ID 選択

Excel の [RHXL] メニューを使うと、エンティティ、データ種別、勘定科目、期間、期間単位のラベルを選択して列や行の見出しまたは計算式で使用できます。例えば、Israel の Actual データを使ってワークシートを作成する場合、[RHP] メニューまたは [RHXL] メニューを使って Israel エンティティと Actual データ種別を選択し、ワークシートのタイトル、列見出し、または行見出しに使うことができます。これにより、それらのセルへの参照を計算式で引数として使用できるようになります。

- ▶ ID を選択するには、次の手順に従います。
  - 1 見出しを挿入または置換するセルで、表示するラベルのタイプに合わせて [RHP] メニューオプションまたは [RHXL] メニューオプションを選択します。
    - エンティティ ID を表示するには、[エンティティの変更] を選択します。
    - データ種別 ID を表示するには、[データ種別の変更] を選択します。
    - 勘定科目 ID を表示するには、[勘定科目の変更] を選択します。
    - 期間 ID を表示するには、[期間の変更] を選択し、表示する期間を含むデータ種別を選択します。

- 期間単位 ID を表示するには、[期間単位の変更] を選択します。
- 仕訳帳 ID を表示するには、[仕訳帳の変更] を選択します。
- 仕訳帳の詳細の ID を表示するには、[仕訳帳の詳細の変更] を選択します。

## 2 表示する ID を選択します。

## ワークシートの更新

ワークシートを再計算すると、ワークシートが Hyperion Enterprise の最新の値を確実に含むようになります。例えば、アプリケーションからワークシートの値を取り込んだ後で、その値の一部を Hyperion Enterprise で変更したとします。その場合、ワークシートを再計算すると、現在の値を取り込んでワークシートを更新できます。ワークシート全体を一度に再計算することも、選択した行や列のみのデータを再計算することもできます。

- ▶ ワークシートを再計算するには、以下のいずれかの操作を行います。
  - 値を選択して再計算する場合、再計算する行または列を選択し、Excel で [RHXL] メニューの [再計算] を選択します。
  - ワークシート全体を再計算する場合、Excel で [RHXL] メニューの [再計算] を選択します。

## デフォルトアプリケーションの変更

Hyperion Retrieve を起動すると、[Hyperion Enterprise ログオン] ダイアログボックスではデフォルトのアプリケーションが最初に関くようになっていす。デフォルトのアプリケーションとしては、以前に関いたことのある他のアプリケーションをどれでも指定できます。

- ▶ デフォルトのアプリケーションを変更するには、次の手順に従います。
  - 1 ワークシートで、[アプリケーションの変更] オプションを選択します。
  - 2 Excel でデフォルトのアプリケーションを変更するには、[RHXL] メニューから [アプリケーションの変更] を選択します。
  - 3 [アプリケーション] リストから、デフォルトのアプリケーションとして使用するアプリケーションを選択し、[OK] をクリックします。

## VBA Hyperion Retrieve

標準の Hyperion Retrieve for Microsoft Excel の他に、Visual Basic for Applications (VBA) を使用して記述した VBA バージョンの Hyperion Retrieve for Microsoft Excel を使用することもできます。このバージョンでは、2 バイトシステムを使用して作成されたアプリケーションがサポートされています。Hyperion Retrieve で使用する一部のレガシー関数の 2 バイト拡張機能について Microsoft がサポートを廃止したため、Hyperion Retrieve の標準バージョンでは、日本語や韓国語などの 2 バイトシステムをサポートしていません。

Hyperion Retrieve の VBA バージョンには、標準バージョンの Hyperion Retrieve のすべての機能および関数が用意されているだけでなく、以下の 2 つの新しい関数も追加されています。

- すべてのリンクされたセルの再計算。詳しくは、[83 ページの「すべてのリンクされたセルの再計算」](#)を参照してください。
- ブックの変換。詳しくは、[84 ページの「ブックの変換」](#)を参照してください。

Hyperion Retrieve の VBA バージョンの関数には以下の相違点があるので注意してください。

- Hyperion Retrieve 関数の引数 Application は App となり、HPLNK 関数の引数 value は Value1 となっています。
- 関数ウィザードで、オプションの引数は必須の引数と異なるフォントで表示されます。
- Hyperion Retrieve の VBA バージョンで XLAutoRefresh オプションを選択すると、スプレッドシートのいずれかの値が再計算されるたびに HPVAL 関数も Microsoft Excel によって再計算されます。デフォルトでは、XLAutoRefresh オプションはオフになっています。このオプションを設定するには、HYPENT.INI ファイルの[Default]セクションに次の行を追加します。

XLAutoRefresh=1

- 再計算の開始時と完了時にエラーログに書き込まれるメッセージには、現在のデータの視点の設定は反映されません。代わりに、workbook:worksheet[:range] が再計算され、メッセージに表示されます。また、このメッセージは、「すべてのリンクされたセルの計算」タスクおよび「ブックの変換」タスクの開始時と完了時にもエラーログに記録されます。
- [仕訳帳の詳細の変更] メニュー項目は、それまでに [仕訳帳の変更] を使用して、現在のアプリケーションの仕訳帳を選択したことがある場合にのみ有効になります。まだ、現在のアプリケーションの仕訳帳を選択していない場合や、[仕訳帳の変更] ダイアログボックスで作業をキャンセルした場合は無効になっています。

**注：** [仕訳帳の詳細の変更] ダイアログボックスで [キャンセル] をクリックした場合、アクティブセルの内容は変更されません。一方、標準バージョンの Hyperion Retrieve の RHXLL32.XLL アドインがインストールされている場合は、このような処理を行うと、アクティブセル内に-1 が挿入されます。

- Microsoft Excel の計算オプションを自動計算に設定すると、Microsoft Excel のブックを開くたびにブック全体が自動的に再計算されます。手動計算について Microsoft Excel の計算オプションを設定している場合は、再計算を行うと、再計算された各セル内に Microsoft Excel によって「FALSE」と表示されます。[F9] キーを押してスプレッドシートを再計算すると、表示されません。

Hyperion Retrieve の VBA バージョンでは、以下のファイルがインストールされ、使用されます。

- HERETREV.XLA
- HEEXCEL.DLL

- 適切な言語の HERES.DLL

## VBA Hyperion Retrieve の設定

Hyperion Retrieve の VBA バージョンを実行するには、Hyperion Retrieve の標準バージョンを設定するときと同じ設定手順に従う必要があります。Hyperion Retrieve for Microsoft Excel の標準バージョンの設定手順については、71 ページの「[Hyperion Retrieve の設定](#)」を参照してください。

## VBA Hyperion Retrieve の起動

Hyperion Retrieve の設定が完了したら、Hyperion Retrieve の VBA バージョンを実行するための HERETREV.XLA ファイルのショートカットをデスクトップ上に作成します。Hyperion Retrieve の VBA バージョンで作業する場合は、Hyperion Retrieve の標準バージョンの RHXLL32.XLL ファイルを起動しないでください。

**注：** Microsoft Excel では、Hyperion Retrieve の VBA バージョンの起動時に、スプレッドシートにマクロが含まれていることを通知するメッセージが表示されます（Microsoft Excel でマクロに関するメッセージを表示するオプションを無効にしていない場合）。Hyperion Retrieve を使用するには、[マクロを有効にする] を選択する必要があります。

- ▶ Hyperion Retrieve の VBA バージョンを起動するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Retrieve の設定時に作成したショートカットアイコンをクリックして Excel を起動します。
- 2 HPAPP.DAT ファイルに指定されている各アプリケーションのユーザ名とパスワードを求めるメッセージが表示されたら、これらの情報を指定します。

**注：** ユーザ名が HPAPP.DAT ファイルで指定されている場合は、パスワードの指定を求めるメッセージのみが表示されます。

## すべてのリンクされたセルの再計算

Microsoft Excel は、ワークシート内のアドイン関数の先頭に、Hyperion Retrieve プログラムディレクトリのパスを付加します。ワークシートを最後に保存したコンピュータとは異なるプログラムディレクトリに Hyperion Retrieve を格納しているコンピュータを使用してワークシートを開いた場合、Microsoft Excel でリンクを更新するかどうかを確認するメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら [いいえ] を選択し、[すべてのリンクされたセルの再計算] を使用してこのリンクを更新する必要があります。[いいえ] を選択すると、Hyperion Retrieve 関数を使用するすべてのセルに「#NAME?」と表示され、計算式の先頭にコンピュータ上の古い Hyperion Retrieve プログラムディレクトリが付加されます。[すべてのリンクされたセルの再計算] 機能を使用すると、Microsoft Excel によって現在のプログラムディレクトリが検出され、ワークシートから古いパスが削除されます。

例えば、ユーザ A が C:\HYPERION SOLUTIONS にインストールされた Hyperion Retrieve を使用し、Hyperion Retrieve スプレッドシートを保存します。この後、ユーザ B が異なるコンピュータの D:\PROGRAM FILES\HYSOL にインストールされた Hyperion Retrieve を使用して、同じスプレッドシートを開きます。ユーザ B に対して、スプレッドシートのセルに #NAME? が表示され、セルの内容として =C:\HYPERION SOLUTIONS\HERetrev.xla!HPVAL(\$B\$2,\$B\$3,\$A5,\$B\$4,\$C\$3,\$B\$1) が表示されます。その場合、ユーザ B は、[すべてのリンクされたセルの再計算] オプションを選択する必要があります。これによって、現在使用している Hyperion Retrieve のプログラムディレクトリへのパスが更新されます。

- ▶ リンクされているすべてのセルを再計算するには、[RHXL] メニューから [すべてのリンクされたセルの再計算] を選択します。

## ブックの変換

標準バージョンの Enterprise Retrieve を使用して作成されたブックを開く場合、関数が検出されるように、Hyperion Retrieve の VBA バージョンのパスを更新する必要があります。[ブックの変換] オプションを使用すると、Microsoft Excel が新しいアドイン内で Hyperion Retrieve 関数を検出できるようになります。

- ▶ ブックを変換するには、[RHXL] メニューから [ブックの変換] を選択します。

## この章の内容

連結の概要.....	85
[連結] ウィンドウ.....	90
連結タスク.....	91
会社間照合レポート.....	97

この章では、連結に関する情報と手順について説明します。連結は、子からデータを収集し、それを親に集計する処理です。

## 連結の概要

連結は、子エンティティからデータを収集し、それを親エンティティに集計する処理です。連結中、子勘定科目の値は、親勘定科目に集計されます。各親の財務データは、子から連結された値で構成されています。子のデータを変更すると、親のデータは連結時に変更されます。

データの連結時には、標準ロジックとカスタムロジックによってデータの計算が行われます。システムでは次の操作を実行できます。

- 会社間消去。2つの会社間トランザクションを消去します。
- 通貨換算。子の現地通貨値を親の通貨に換算します。
- 税率計算およびその他の計算。システム管理者が連結ロジックで設定します。

アプリケーションを設定した場合、連結した結果を監査するのに使用する追加の詳細を保存するかどうかを決定します。換算、比率、消去、親の調整値を保存できます。システムでは、最下位エンティティから親に連結されたデータから値を取得します。連結の詳細については、[88 ページの「連結の詳細」](#)を参照してください。データの視点における換算の詳細を表示する方法については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

[図 11](#) に、America と Europe に 2 つの主要部門を持つ国際会社の連結階層を示します。連結階層には通貨変換が含まれています。

図 11 Corp 組織

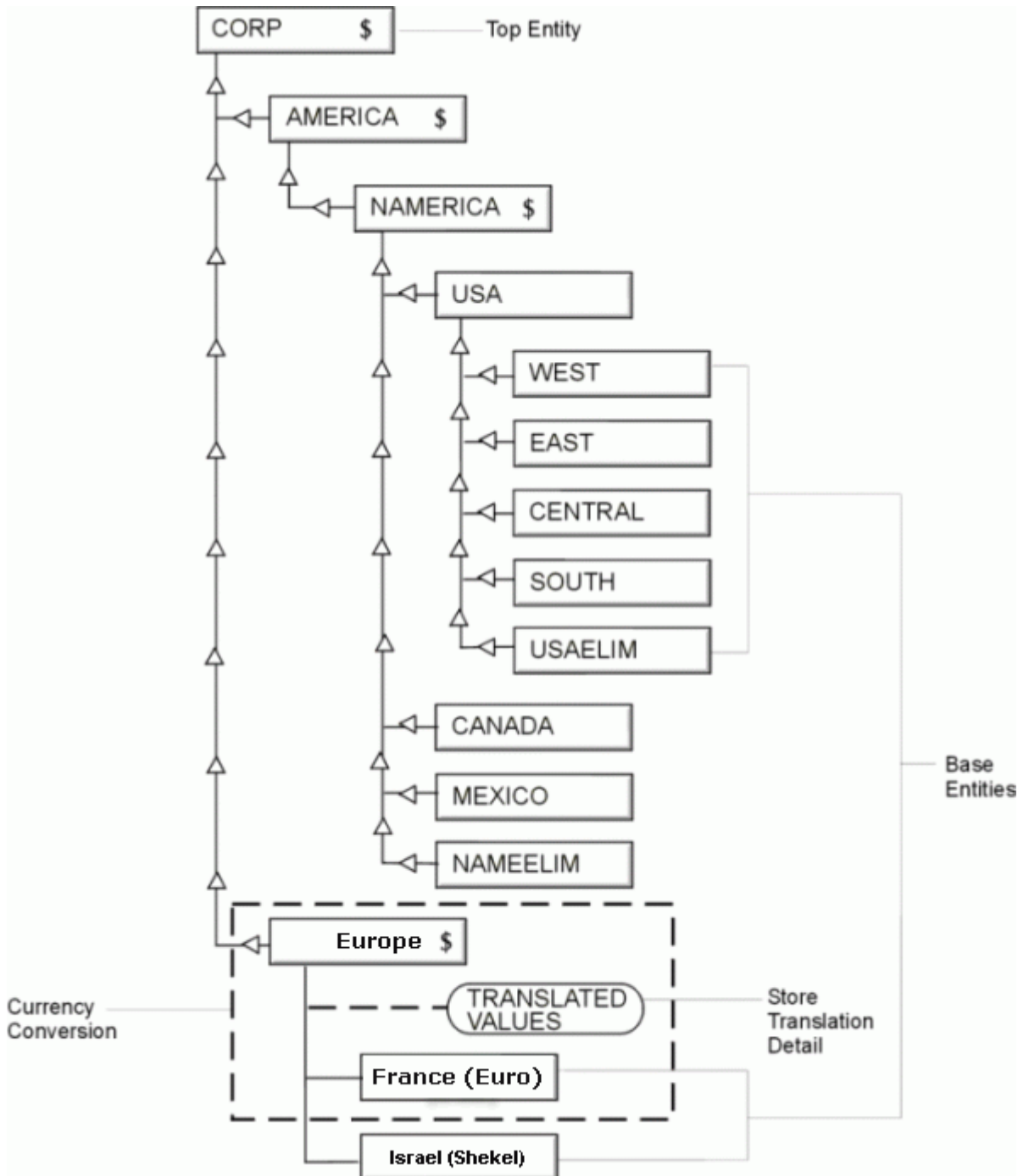


図 11 には次の要素があります。

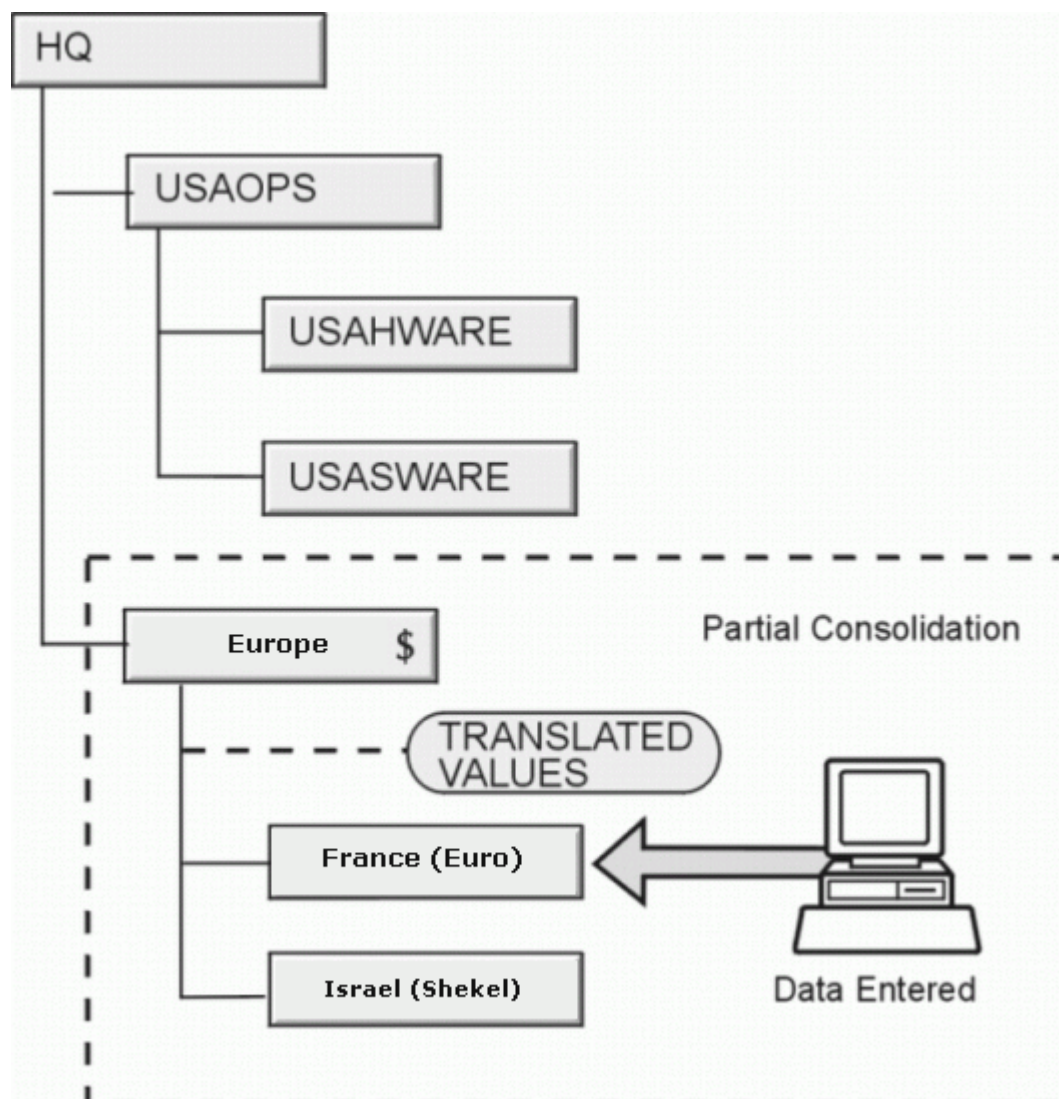
- 最下位エンティティ - West、East、Central、South、USAElim、France、Israel には、データ入力表や仕訳帳に入力されたデータ、またはテキストファイルから読み込まれたデータが含まれています。最下位エンティティにデータを入力すると、親エンティティデータに反映されます。
- 通貨変換 - ユーロで保存されている France のデータは、Europe に連結されて米国ドルで保存されます。
- 換算値の保存 - ユーロで保存されている France のデータは、米国ドルに変換されて換算詳細表に保存されます。これらの値はデータベースモジュールまたはデータ入力表モジュールで表示できます。

- 最上位エンティティ - Corp は America と Europe の 2 つの部門から連結された米国ドルのデータを受け取ります。

システムで一度に連結できるのは、1 つのデータ種別と 1 つの組織のみです。現在の組織とデータ種別の全エンティティおよび期間を連結することも、特定のエンティティと期間のみを連結することもできます。これを部分連結と呼びます。

例えば、組織において特定のエンティティのレポートを生成する必要があるとします。そのエンティティのみに対して部分連結を実行できます。図 12 に、Corp 組織の部分連結を示します。

図 12 部分連結



上の図では、データが France エンティティの勘定科目に読み込まれました。Europe のみの連結結果を確認する場合は、Europe ののみのみを連結できます。

**注：** Hyperion Enterprise では、Hyperion Enterprise SE が使用する出資比率の代わりに連結比率が連結に使用されます。

## 連結の詳細

換算値、出資比率、親の調整、連結処理中に実行された親の算出に関する詳細を保存することができます。連結詳細を保存する場合、複数のアプリケーションやエンティティ設定、データ種別設定など複数のオプションがあります。エンティティおよびその子の消去、比率、調整表の値を保存できます。また各親とデータ種別について詳細をアプリケーションに保存するかどうかも指定することができます。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「アプリケーションの作成」の章を参照してください。

連結詳細を保存する場合、データベースモジュールで [表示] メニューの [連結詳細] コマンドを使用すると、親エンティティの親の調整、比率、消去、換算表の値が表示されます。詳しくは、[43 ページの「連結詳細の表示」](#)を参照してください。

また、レポートを作成して連結詳細を表示および印刷したり、連結処理の監査証跡を追加することもできます。Hyperion Retrieve では、別の方法で連結詳細にアクセスできます。レポートについては、『Hyperion Reporting ユーザガイド』を参照してください。

## 連結ステータス

[連結] ウィンドウには、現在のデータ種別における各期間の各エンティティのステータスが表示されます。連結ステータスには、データやロジックの変更による影響を受け、連結が必要なエンティティと期間が示されます。また、特定の期間にデータがないエンティティも示されます。[表 14](#) に、さまざまな連結ステータスとその説明を示します。

表 14 連結ステータスインジケータ

ステータス	説明
算出	エンティティの計算式を実行する必要があります。エンティティにデータが入力されたのに計算式が実行されなかったか、ロジックが編集されました。連結を行うと、計算式は自動的に実行されます。また、[計算式の実行] オプションを使用して手動で計算式を実行することもできます。
変更あり	指定の期間のエンティティのデータが変更されました。[データ入力表] ウィンドウや [データベース] ウィンドウへの手動のデータ入力、仕訳帳入力、データの読み込みなどが行われた可能性があります。
影響あり	連結パスの親エンティティの下の子データまたはロジックが変更されました。この変更は、連結を実行したときに親エンティティの値に影響を及ぼします。
OK	エンティティが既に連結されており、データは変化していません。この期間を連結する必要はありませんが、連結することは可能です。
データ	このエンティティにはデータがあります。[データ種別のあるものすべての連結] を選択すると、このステータスのエンティティは連結されます。
データなし	このエンティティには、指定の期間のデータが含まれていません。[データ種別のあるものすべての連結] を選択しても、このステータスのエンティティは連結されません。但し、前期にそのエンティティにデータがある場合は、データの無いエンティティが連結されます。

ステータス	説明
保護済	このエンティティには、指定の期間に保護されたデータが含まれています。このステータスのエンティティは連結されません。
非アクティブ	このエンティティは今期、存在しません。このステータスは、データ種別と期間ごとにアプリケーションが異なる場合にのみ表示されます。

[影響あり]、[データ]、[算出] ステータスが生じる可能性があるタスクは次のとおりです。

- 組織構造の変更
- エンティティ属性の変更
- 勘定科目の追加または削除
- 勘定科目属性の変更
- データ入力表またはデータベースへのデータ入力
- データの読み込み
- ロジックの変更
- 仕訳帳の転記と転記取り消し

これらの操作により、最下位エンティティと親エンティティのステータスが変わる場合があります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## Statutory Consolidation Engine

Statutory Consolidation Engine (SCE) は、アプリケーションのデータ密度が低く、次のいずれかの状態が存在する場合に、Hyperion Enterprise と連動して連結のパフォーマンスと機能を向上させるアドオン製品です。

- 勘定科目表のサイズが、会社間詳細の多用により増大している。
- 会社間トランザクションについて暫定的なルールを定義する必要がある。
- 営業権や少数株主持ち分などの項目と連結のリザーブを計算して、連結処理の詳細な監査証跡を作成するために、複雑な連結ロジックを定義する必要がある。

ACE は連結エンティティの換算表、比率表、消去データ表への Hyperion Enterprise による書き込み処理を無効にします。ACE を使用すると、次の 2 点により Hyperion Enterprise の換算および連結処理のパフォーマンスレベルが改善されます。

- ACE は、配賦先の勘定科目ではなく配賦元の勘定科目ごとにロジック計算式を定義します。
- ACE は影響のあった連結を親ごとではなく子ごとに実行します。

ACE は、Hyperion Enterprise によって呼び出される換算および連結エンジン、およびシステム管理者が ACE ロジックの内容を定義して ACE で使うパラメータを設定するために使用する管理モジュールで構成されています。詳しくは、『Hyperion Enterprise Statutory Consolidation Engine ガイド』を参照してください。

## [連結] ウィンドウ

[連結] ウィンドウでは、さまざまな組織とデータ種別のエンティティのステータスを表示して、連結を行うことができます。[連結] ウィンドウの表には、選択した組織のエンティティとサブエンティティ、また選択したデータ種別の各期間のステータスも表示されます。データの視点を使用して、組織とデータ種別を変更することができます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

別のユーザが開いているエンティティの連結を実行しようとする、Hyperion Enterprise によってエラーメッセージが生成されます。このエラーメッセージは、エラーログに書き込まれます。エラーログについて詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

[連結] ウィンドウを表示すると、次のタスクを実行できます。

- 異なるレベルの子エンティティの表示と非表示
- 特定のエンティティの検索
- 特定の期間の検索

詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

図 13 に [連結] ウィンドウを示します。

図 13 [連結] ウィンドウ

Entity	JAN 07	FEB 07	MAR 07	APR 07	MAY 07
TOP	OK	OK	OK	OK	OK
TOPELIM	OK	OK	OK	OK	OK
TOPJE	OK	OK	OK	OK	OK
USDIV	OK	OK	OK	OK	OK
USELIM	OK	OK	OK	OK	OK
US100	OK	OK	OK	OK	OK
US100A	OK	OK	OK	OK	OK
US100B	OK	OK	OK	OK	OK
US100C	OK	OK	OK	OK	OK
US100D	OK	OK	OK	OK	OK
USCHART1	OK	OK	OK	OK	OK
US50	OK	OK	OK	OK	OK
US25	OK	OK	OK	OK	OK
US100M	OK	OK	OK	OK	OK
USNOJE	OK	OK	OK	OK	OK

## エンティティの検索

メニューコマンドを使うと、エンティティ列にある指定されたエンティティに素早く移動できます。メニューコマンドを使用することで、大きな組織内をスクロールするよりも簡単に特定のエンティティに移動できます。

例えば、Europe のデータのみを連結する場合、[検索] の [エンティティ] コマンドを使って Europe を選択できます。検索するエンティティが縮小表示されている部分に含まれている場合、システムはこの部分を展開し、エンティティをハイライトします。

▶ エンティティを検索するには、次の手順に従います。

- 1 [連結] ウィンドウで、[編集] メニューの [検索] から [エンティティ] を選択します。
- 2 チェックボックスを使って、エンティティのリストをフィルタします。
- 3 エンティティ ID を入力するか、リストから選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## 期間の検索

[期間の検索] オプションを使うと、[連結] ウィンドウで期間を検索できます。これは、作業中のデータ種別に [連結] ウィンドウ内に表示されない期間の列がある場合に便利です。[期間の検索] オプションを使うことで、スクロールバーや矢印キーを使うよりも、素早く期間を検索できる場合があります。

▶ 期間を検索するには、次の手順に従います。

- 1 [連結] ウィンドウで、[編集] メニューの [検索] から [期間] を選択します。
- 2 期間の ID を入力するか、リストから選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

## 連結タスク

連結タスクは、連結するエンティティと期間を選択し、連結オプションのうちの1つを選択してから連結を実行します。連結するデータのエンティティと期間を選択できます。また、1つ以上のエンティティと期間を選択できます。データを連結するオプションを次の3つから選択します。

- Consolidate impacted entities only (影響されたエンティティのみを連結)
- Consolidate entities with data only (データのあるエンティティのみを連結)
- Consolidate all entities (すべてのエンティティを連結)

連動組織におけるシステムのデータ連結方法は、データ種別や期間ごとに変化しない組織におけるデータ連結方法と異なります。詳しくは、[94 ページの「連動組織の連結」](#)を参照してください。Statutory Consolidation Engine を使用した連結については、『Hyperion EnterpriseStatutory Consolidation Engine ガイド』を参照してください。

## 連結するエンティティと期間の選択

連結を実行する場合、組織内のすべてのエンティティについて現在のデータ種別のデータを連結したり、組織内の特定のエンティティについて現在のデータ種別のデータを連結することができます。特定のエンティティの連結は部分連結とも呼ばれ、組織内の最上位エンティティ以外のエンティティについてレポートを作成する必要がある場合に便利です。例えば、「企業」組織における子エンティティである Europe エンティティのレポートを作成するとします。この場合、Europe のデータのみを連結し、Europe の連結データについてレポートを作成できます。

以下にガイドラインを示します。

- 部分連結のために親エンティティを選択すると、親エンティティの子は現在 [連結] ウィンドウに表示されていない場合でもすべて選択され、すべての期間が選択されます。
  - すべての期間とすべてのエンティティ、特定の期間とすべてのエンティティ、または特定の期間と特定のエンティティについてデータを連結できます。特定の期間の連結は、特定の期間しかデータやロジックの変更による影響を受けない場合に便利です。例えば、Actual データ種別と January 期間のみのデータを読み込むとします。この場合連結する期間として January を選択できます。
  - 連結する期間を選択すると、連結ステータスが [算出]、[データ]、または [影響あり] である以前の期間もすべて選択されます。これにより、前の期間の値の影響を受ける期間のデータの整合性が保たれます。
  - 最下位エンティティは子を持たないため、最下位エンティティを連結に選択することはできません。また、すべての期間についてステータスが [データなし] であるエンティティも選択できません。
- 連結するエンティティと期間を選択するには、[連結] ウィンドウで次のいずれかの操作を行います。
- すべての期間とすべてのエンティティを連結するには、エンティティ列の最初のエンティティを選択します。
  - 単一の期間のすべてのエンティティを連結するには、その期間の列見出しを選択します。
  - 複数の期間のすべてのエンティティを連結するには、連結する最初の期間にある最上位エンティティのステータスセルを選択し、連結する期間がすべてハイライトされるまで右方向にドラッグします。
  - 単一の期間にある 1 つの親エンティティを連結するには、特定の期間にある親エンティティのステータスセルを選択します。
  - 複数の期間にある 1 つの親エンティティを連結するには、連結する最初の期間にある親エンティティのステータスセルを選択し、連結する期間がすべてハイライトされるまで右方向にドラッグします。

## データの連結

連結するエンティティと期間を選択したら、次の 3 つの連結オプションのいずれかを選択します。

- 変更に影響されたものすべての連結
- すべての連結
- データのあるものすべての連結

[変更に影響されたものすべての連結] を選択すると、データやロジックの変更による影響を受けたエンティティのみが連結されます。但し、前期にそのエンティティにデータがある場合は、データのないエンティティが連結されます。

[データのあるものすべての連結] を選択すると、データのあるエンティティのみが連結されます。これにより、データが変更されていない場合でも、そのデータを持つエンティティを連結できるようになります。

[すべての連結] を選択すると、ステータスが [OK] であるエンティティも含め、選択されたすべてのエンティティを強制的に連結できます。これは、加えられた変更が連結ステータスに反映されない場合に便利です。例えば、通貨換算レートを変更してもステータスは変わりませんが、すべてのエンティティに対して連結を強制実行すると、この変更を反映させることができます。また、[すべての連結] を選択すると、以前にデータを持たなかった勘定科目に対して計算式を実行することができます。

連結を実行すると、換算される通貨（親の通貨）の値は消去されます。消去会社に割り当てられた通貨は無視されます。

ネットワークで作業している場合、連結対象のエンティティを別のユーザが使用していると、そのエンティティのデータは保護され、連結できません。保護されたエンティティによる影響を受けない連結はすべて実行されます。

例えば、Corp 組織全体のデータを連結しようとしたときに別のユーザが子 Europe で作業していた場合、Europe エンティティと連結パスのその上のエンティティは保護されます。連結が完了した後でエラーメッセージが表示され、Europe エンティティにアクセスできなかったことが通知されます。Europe エンティティとその親の連結ステータスは [影響あり] になり、正常に連結されたエンティティのステータスは [OK] になります。

各エンティティと期間の連結の進行状況を示すメッセージボックスが表示されます。連結が完了すると、連結が成功した各エンティティと期間のステータスが [OK] に変わります。

サーバでデータを連結している場合、連結の進行状況を示すウィンドウが表示されます。このウィンドウは別のプログラムであるため、連結中に Hyperion Enterprise で他のタスクを実行したり、Hyperion Enterprise を終了することができます。サーバで連結が終了するとこのウィンドウは閉じます。問題が発生した場合はエラーメッセージが表示されます。

▶ データを連結するには、次の手順に従います。

**1** [連結] ウィンドウで、連結するエンティティと期間を選択します。

**2** 次のいずれかの操作を行います。

- データの有無にかかわらず、選択したエンティティと期間をすべて連結するには、[タスク] メニューから [すべての連結] を選択します。
- ステータスが [データ]、[算出]、または [影響あり] であるエンティティのデータを連結するには、[タスク] メニューから [変更に影響されたものすべての連結] を選択します。

- 選択したエンティティのうち、データのあるものをすべて連結するには、[タスク] メニューから [データのあるものすべての連結] を選択します。

アプリケーションがサーバベースで実行される場合、サーバのプロンプトが表示されます。

- 3 プロンプトが表示されたら、[サーバー] を選択してサーバ上で連結するか、[ローカル] を選択してクライアントワークステーションでローカルに連結します。

**注：** 連結処理を中断するには [キャンセル] を選択します。

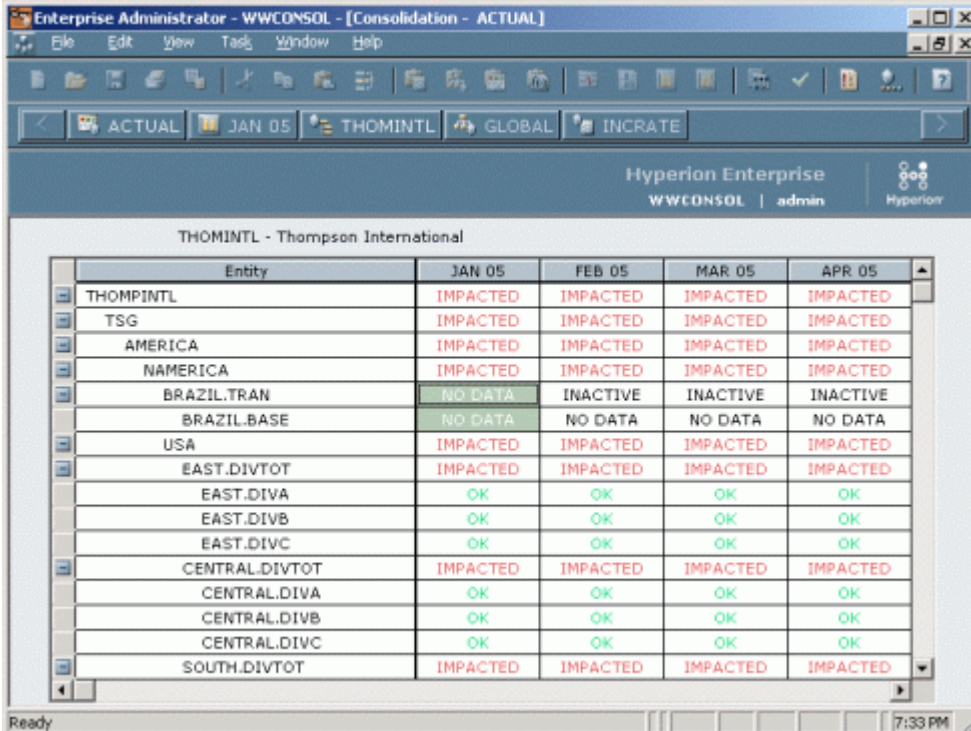
## 連動組織の連結

連動組織は、時間の経過に伴うビジネス組織の変化を追跡する場合に使用します。組織はデータ種別および期間ごとに異なる場合があります。連結表の組織列には、組織が複合表示されます。各エンティティは、表示された各場所の組織に表示されます。各エンティティのステータスは、エンティティが組織に存在した期間中表示されます。エンティティまたは組織が存在しない期間は、[非アクティブ] ステータスが表示されます。

[期間およびデータ種別ごとの親子関係] アプリケーション設定を選択した場合、連動組織を作成できます。アプリケーションのセットアップ方法については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。期間およびデータ種別ごとに親子関係が変わる組織については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

図 14 に、連動組織が連結表に表示される様子を示します。

図 14 連結表の連動組織



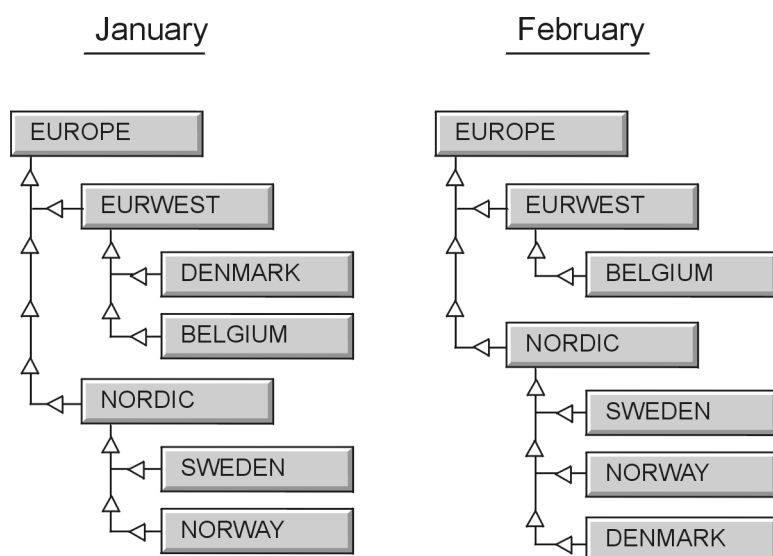
Entity	JAN 05	FEB 05	MAR 05	APR 05
THOMPINTL	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED
TSG	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED
AMERICA	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED
NAMERICA	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED
BRAZIL.TRAN	NO DATA	INACTIVE	INACTIVE	INACTIVE
BRAZIL.BASE	NO DATA	NO DATA	NO DATA	NO DATA
USA	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED
EAST.DIVTOT	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED
EAST.DIVA	OK	OK	OK	OK
EAST.DIVB	OK	OK	OK	OK
EAST.DIVC	OK	OK	OK	OK
CENTRAL.DIVTOT	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED
CENTRAL.DIVA	OK	OK	OK	OK
CENTRAL.DIVB	OK	OK	OK	OK
CENTRAL.DIVC	OK	OK	OK	OK
SOUTH.DIVTOT	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED	IMPACTED

上の図では、Denmark が [エンティティ] 列で Eurwest と Nordic の下に表示されています。期間の列の [非アクティブ] ステータスは、Denmark が 1 月に Eurwest に所有され、2 月に Nordic に移動したことを示します。

連動組織を連結すると、連結表で選択した期間の構造が連結されます。期間を 1 つ以上選択した場合、データの視点で選択された現在のデータ種別の 1 つの期間のみが連結されます。データ種別の各期間で組織が異なる可能性があるため、連結は期間ごとに行われます。一度に複数の期間を連結すると、パフォーマンスが影響を受けることがあります。

図 15 に、連動組織がどのように連結されるかを示します。

図 15 連動組織の連結



上の図では、Denmark エンティティは 1 月には Eurwest の子であり、Nordic には集計されません。Denmark は 2 月に Nordic の子になり、Eurwest の子ではなくなります。

## 連結詳細レポートの作成

選択されたエンティティ、単一の勘定科目、すべての勘定科目、またはある範囲の勘定科目のすべての連結詳細コンポーネントを表示および比較するレポートを作成できます。連結の詳細には、エンティティ、換算、比率、消去、親の調整、および調整後があります。表示する詳細のタイプを選択したら、ゼロを含む行やデータがない行を非表示にするかどうかを選択し、次にレポート単位を指定します。デフォルトの単位を選択すると、連結詳細レポートでは親の単位が使用されます。但し、エンティティにはエンティティの単位が使用されます。単位を指定すると、レポートの値はすべて選択された単位で表示されます。

**注：** [連結詳細レポート] ダイアログボックスで選択したオプションの設定はシステムによって保存され、次回このダイアログボックスにアクセスしたときに使用されます。選択したレポート単位や親のオプションは保存されません。

レポートに含めるデータは、データの視点バー、[データベース] ウィンドウ、および [連結詳細レポート] ダイアログボックスを使用して、次のように定義します。

- システムが使用するデータ種別とエンティティは、データの視点の設定によって決定されます。
- ある期間の勘定科目の範囲は、[データベース] ウィンドウでハイライトされた勘定科目で構成されます。
- エンティティの親は、[連結詳細レポート] ダイアログボックスで選択されます。
- システムが使用するデフォルトのレポート単位は、データの視点バーの選択内容によって決定されます。例えば、データベースモジュールの単位数が3（千）に設定されている場合、[連結詳細レポート] ダイアログボックスにアクセスすると、デフォルトのレポート単位は3になります。別の単位値に変更することもできます。

例えば、以下の仕様に従うレポートを作成できます。

- 勘定科目 1 から勘定科目 7 までのエンティティ、換算、比率の詳細を表示する。
- ゼロを含む行やデータのない行をすべて非表示にする。
- レポート単位として 3 を使用する。

図 16 に生成されたレポートを示します。

図 16 サンプルレポート

	Entity	Translation	Proportion
ACCOUNT 1	100	100	80
ACCOUNT 2	200	200	160
ACCOUNT 3	100	100	80
ACCOUNT 5	300	300	240
ACCOUNT 7	500	500	400

レポートのフォント、色、ページレイアウトなどをカスタマイズすることもできます。レポートのカスタマイズについては、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

➤ 連結詳細レポートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [データベース] ウィンドウで、あるエンティティの単一の勘定科目、すべての勘定科目、またはある範囲の勘定科目をハイライトします。
- 2 [タスク] メニューから [連結詳細レポートの作成] を選択します。
- 3 ドロップダウンリストから、表示する親エンティティを選択します。
- 4 レポートに含める連結詳細を選択します。
- 5 データのない行やゼロの行を非表示にするかどうかを指定します。

- 6 [レポート単位] ドロップダウンリストから、レポートに使用するレポート単位を選択します。
- 7 次のいずれかの操作を行います。
  - レポートを印刷するには、[印刷] を選択します。
  - レポートのプレビューを表示するには、[プレビュー] を選択します。

## 会社間照合レポート

会社間照合レポートには、ある期間の連結時に消去される会社間トランザクション一覧が表示されます。レポートは、会社間トランザクションを追跡して、指定した通貨で分析および監査を行うのに役立ちます。

以下のタスクを実行して、会社間照合レポートを作成できます。

- 会社間の勘定科目の照合グループの定義
- トランザクションをレポートに含めるパートナーの定義
- 通貨オプションの指定
- 含めるレポート情報の指定
- 非表示にするレポート情報の指定
- レポートのカスタマイズ

**注：** 会社間照合レポートを作成する前に、連結する必要があります。

会社間照合レポートのサンプルを確認するには、[103 ページの「会社間照合レポートのケーススタディ」](#)または[104 ページの「会社間照合レポートのサンプルレポート」](#)を参照してください。

## 会社間グループの選択

レポートは、勘定科目モジュールで定義した会社間の勘定科目の照合グループに基づいて作成されます。[連結] ウィンドウからレポートを処理するエンティティを単一エンティティまたはグループ単位で選択し、1 つ以上のパートナーエンティティを選択します。

**注：** 複数の期間を処理するよう選択した場合、カーソルがある期間だけが処理されます。最上位の親エンティティは、通常は会社間のエンティティではないため、処理対象のエンティティからは除外されます。

## パートナーの選択

レポートを処理するエンティティを選択したら、トランザクションのレポートを作成するパートナーを定義します。次のオプションを使用してパートナーを定義できます。

- 指定のパートナーとは、特定のパートナーエンティティか分岐内の会社間の全エンティティを意味します。

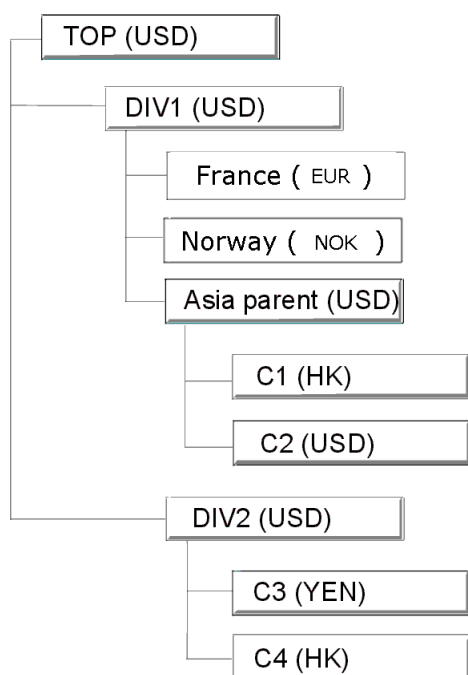
- グループ内とは、現在選択されている分岐のエンティティ間の全トランザクションを意味します。
- 組織内の外部グループとは、現在選択されている分岐のエンティティ間で発生したトランザクションを除くすべてのトランザクションのレポートを作成することを意味します。

以下の項目のデータを表示するかどうかを指定できます。

- 特定のパートナーエンティティまたは分岐内の会社間の全エンティティ、すなわち指定のパートナー
- 現在選択されている分岐内のエンティティ間の全トランザクション、すなわちグループ内
- 現在選択されている分岐内のエンティティ間で発生したトランザクションを除くすべてのトランザクション、すなわち組織内の外部グループ
- アプリケーション内の外部グループ

例えば、[図 17](#) に示すサンプル組織の場合、レポートを処理するエンティティは DIV1 になります。

図 17 サンプル組織



[グループ内] パートナーオプションを選択すると、次のエンティティ間で発生するすべてのトランザクションがレポートに含まれます。

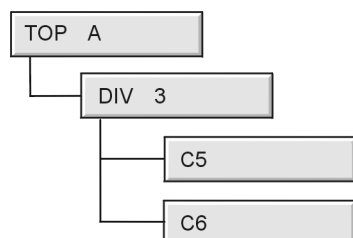
- France および Norway
- France および C1
- France および C2
- Norway および C1
- Norway および C2
- C1 および C2

[組織内の外部グループ] を選択すると、次のエンティティ間で発生するすべてのトランザクションがレポートに含まれます。

- France および C3
- France および C4
- Norway および C3
- Norway および C4
- C1 および C3
- C1 および C4
- C2 および C3
- C2 および C4

[アプリケーション内の外部グループ] を選択した場合、[図 18](#) に示すような追加組織があると見なされます。

図 18 追加組織



次のエンティティ間で発生するすべてのトランザクションがレポートに含まれます。

- France および C3
- France および C4
- France および C5
- France および C6
- Norway および C3
- Norway および C4
- Norway および C5
- Norway および C6
- C1 および C3
- C1 および C4
- C1 および C5
- C1 および C6
- C2 および C3
- C2 および C4
- C2 および C5

- C2 および C6

[Specified Partners (指定のパートナー)] パートナーオプションを選択し、パートナーに DIV2 を選択すると、次のエンティティ間で発生するすべてのトランザクションがレポートに含まれます。

- France および C3
- France および C4
- Norway および C3
- Norway および C4
- C1 および C3
- C1 および C4
- C2 および C3
- C2 および C4

## エンティティコードオプション

エンティティコードを指定して、エンティティ一覧またはレポートを処理している照合パートナーの一覧をフィルタすることができます。フィルタには複数のエンティティコードを選択できます。

## 通貨オプションの選択

会社間照合レポートに含めるパートナートランザクションを指定したら、レポートの通貨の種類を 1 つ以上指定します。

- レポートを処理するエンティティの通貨
- パートナーの通貨
- 親の通貨
- その他の通貨

選択した各通貨の [差異] 列が作成されます。オプションの [ステータス] 列がレポートに表示されます。

## 通貨換算

通貨換算は、残高またはフロー勘定科目を換算するアプリケーションモジュールで指定したレートを使用して実行されます。また、会社間セットの残高勘定科目レートを使用してフロー勘定科目を換算するように指定することもできます。

アプリケーションで子レートを使用するように指定した場合は、勘定科目は換算されません。アプリケーションにグローバル以外の勘定科目グループのレート勘定科目が保存されている場合は、親エンティティのレートデータが使用されます。

## 親の通貨

[連結] ウィンドウで1つのエンティティだけを処理対象に選択し、親通貨を適用すると、選択したエンティティの通貨が使用されます。分岐またはグループを処理対象に選択して親通貨を適用すると、分岐の最上位にある親の通貨を使用して各子が換算されます。

## 含めるレポート情報

会社間照合レポートには、レポートを処理するエンティティ、親エンティティ、勘定科目、エンティティと照合するエンティティの値、勘定科目間の差異、照合トランザクションのステータスの列があります。

照合通貨を変換比率に使用して、レポートの照合許容差を定義します。レポートの照合通貨デフォルトでは親通貨で、これは処理対象に選択した分岐の最上位の通貨になります。別の照合通貨を指定することもできます。

照合許容差を使用して、ステータスのレポートを作成する値の範囲を指定します。レポートの照合許容差は、選択した照合通貨に基づいています。選択したレポート単位も、照合許容差の値の単位になります。

会社間照合セットのエンティティの説明を表示するかどうか、勘定科目の詳細、勘定科目の合計、勘定科目を列ではなく行で表示するかどうかを指定できます。レポートを処理する各エンティティについて、1つのレポートを作成するように選択することができます。また、レポート単位とレポートに表示する小数点以下の桁数も選択できます。

システムは、勘定科目種別に基づいて値を処理および保存します。差異を算出すると、表 15 に示す符号が勘定科目に適用されます。

表 15 勘定科目の符号

勘定科目属性	符号
収益	マイナス
費用	プラス
資産	プラス
負債	マイナス
残高	プラス
フロー	マイナス

[合計] 列を算出する場合、システムは勘定科目属性の符号を考慮し、各列の最初の勘定科目の符号を結果に適用します。従って、各列で指定された最初の勘定科目の符号に応じて、合計の符号が変わる場合があります。

## 非表示にするレポート情報

次のレポート情報を非表示にできます。

- ステータス。レポート全体に適用された照合許容差に基づいてステータス情報を提供します。
- 通貨。選択した各通貨について、現在のエンティティとパートナーエンティティの情報を提供します。例えば、各パートナーエンティティに割り当てた通貨が異なる場合、各パートナーの通貨は各行で異なります。
- 小計。レポートを処理する各エンティティとレポート全体の総計を処理した後でシステムによって生成されます。通貨が異なるため、合計と小計を表示しても意味がない場合、非表示にすることができます。例えば、現在のエンティティとパートナー通貨が表示されたレポートがある場合、各小計が異なる通貨で表示されることがあります。この場合、総計を非表示にすることができます。
- 照合値。照合許容差に指定した値の範囲に含まれるトランザクションです。

## レポートの書式

レポートのフォント、色、ページレイアウトはカスタマイズできます。レポートの書式設定方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

## 会社間照合レポートの作成

会社間照合グループを定義したら、会社間照合レポートを使って、連結中に消去された会社間トランザクションを一覧表示したり、照合しなかった会社間トランザクションを識別できます。これらのレポートには組織のトランザクションが記録されるため、指定した通貨でデータを分析または監査できるようになります。選択したチェックボックスのオプションはシステムによって保存され、次に会社間照合レポートを作成するときに表示されます。

Hyperion Enterprise Reporting Windows Client を使用すると、独自のカスタム会社間照合レポートをデザインできます。カスタム会社間照合レポートのデザイン方法について詳しくは、『Hyperion Reporting ユーザガイド』を参照してください。標準の会社間照合レポートの作成方法について詳しくは、[102 ページの「会社間照合レポートの作成」](#)を参照してください。会社間照合については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

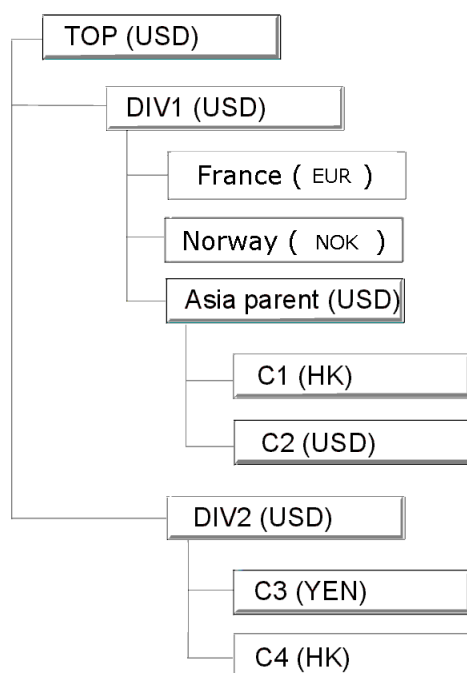
- 会社間照合レポートを作成するには、次の手順に従います。
- 1 [連結] ウィンドウで、レポートを作成する 1 つまたは複数のエンティティ、および期間を選択します。
- 2 [タスク] メニューから [会社間照合レポートの作成] を選択します。
- 3 [会社間グループ] タブで、会社間照合レポートを作成する会社間グループを選択します。
- 4 [照合オプション] タブで、使用するパートナーのトランザクション、通貨オプション、およびフィルタオプションを選択します。
- 5 [レポートオプション] タブで、レポートオプションと非表示オプションを選択し、次のいずれかの操作を行います。
  - レポートを印刷するには、[印刷] を選択します。

- レポートのプレビューを表示するには、[プレビュー] を選択します。

## 会社間照合レポートのケーススタディ

Evergreen Paper 組織には 2 つの部門（DIV1 と DIV2）があり、これらの部門で一致しない会社間トランザクションを確認します。図 19 に部門を示します。

図 19 Evergreen Paper 組織の部門



Evergreen Paper のシステム管理者は、以下の仕様に従ったレポートを作成します。

- レポートを処理するエンティティは DIV1 で、France、Norway、C1、C2 が含まれます。
- パートナーエンティティは DIV2 で、C3 と C4 が含まれます。
- 通貨オプションは [エンティティの通貨] です。

表 16 に、[エンティティの通貨] オプションを使用した結果を示します。

表 16 [エンティティの通貨] オプションを使用した結果

エンティティ	照合エンティティ	売掛金	買掛金
France	C3	France, REC.C3 (ユーロ)	C3, PAY.France (円をユーロに変換)
	C4	France, REC.C4 (ユーロ)	C4, PAY.France (HK をユーロに変換)
Norway	C3	Norway, REC.C3 (クローネ)	C3, PAY.Norway (円をクローネに変換)
	C4	Norway, REC.C4 (クローネ)	C4, PAY.Norway (HK をクローネに変換)

エンティティ	照合エンティティ	売掛金	買掛金
C1	C3	C1, REC.C3 (HK)	C3, PAY.C1 (円を HK に変換)
	C4	C1, REC.C4 (HK)	C4, PAY.C1 (HK、変換なし)
C2	C3	C2, REC.C3 (USD)	C3, PAY.C2 (円を USD に変換)
	C4	C2, REC.C4 (USD)	C4, PAY.C2 (HK を USD に変換)

Evergreen Paper 組織のシステム管理者は、以下の仕様に従ったレポートを作成します。

- レポートを処理するエンティティは DIV1 で、France、Norway、C1、C2 が含まれます。
- パートナーエンティティは DIV2 で、C3 と C4 が含まれます。
- 通貨オプションは [パートナーの通貨] です。

表 17 に、[パートナーの通貨] オプションを使用した結果を示します。

**表 17** [パートナーの通貨] オプションを使用した結果

エンティティ	照合エンティティ	売掛金	買掛金
France	C3	France, REC.C3 (ユーロを円に変換)	C3, PAY.France (円)
	C4	France, REC.C4 (ユーロを HK に変換)	C4, PAY.France (HK)
Norway	C3	Norway, REC.C3 (クローネを円に変換)	C3, PAY.Norway (円)
	C4	Norway, REC.C4 (クローネを HK に変換)	C4, PAY.Norway (HK)
C1	C3	C1, REC.C3 (HK を円に変換)	C3, PAY.C1 (円)
	C4	C1, REC.C4 (HK、変換なし)	C4, PAY.C1 (HK)
C2	C3	C2, REC.C3 (USD を円に変換)	C3, PAY.C2 (円)
	C4	C2, REC.C4 (USD を HK に変換)	C4, PAY.C2 (HK)

## 会社間照合レポートのサンプルレポート

図 20 に、以下の仕様に従った会社間照合のサンプルレポートを示します。

- レポートを処理するエンティティは TOP で、US100、US100A、US100B、TopEUR が含まれます。
- パートナーのトランザクションはグループ内です。

図 20 会社間照合のサンプルレポート

smp IC-- USER Matching Report: A1to1 - A1to1 Category: Actual Period: JAN 98 Organization: ORG1 Entity: TOP Partner: Within Group Scale: 0 Matching Currency: USD Tolerance: 0 Entity Code: <NONE>				
ENTITY	MATCHING ENTITY	ICRECDT1	(ICPAYDET1)	DIFF (PAR-USD)
US100				
	US100A		137	-137
	SUBTOTAL	0	137	-137
US100B				
	TopEUR		9868	-9868
	SUBTOTAL	0	9868	-9868



## この章の内容

仕訳帳の概要.....	107
仕訳帳の種別.....	107
仕訳帳テンプレート .....	109
貸借一致および貸借不一致の調整 .....	110
仕訳帳の情報.....	111
仕訳帳の調整.....	115
[仕訳帳] ウィンドウ .....	118
仕訳帳とテンプレートの作成 .....	119
仕訳帳の承認.....	123
仕訳帳の保護.....	125
仕訳帳の転記.....	125
仕訳帳の抽出.....	129
仕訳帳の読み込み .....	130
仕訳帳の読み込みと抽出ファイルの書式.....	131
仕訳帳作成レポート .....	132

この章では、仕訳帳の入力に必要な情報および手順について説明します。

## 仕訳帳の概要

仕訳帳は、1つのデータ種別および期間の勘定科目の残高に加えられる一連の調整です。仕訳帳は、勘定科目の値の変化を記録し、それらの変化の監査証跡を維持するために使われます。定期的に行う一般的な調整用の仕訳帳テンプレートを使用すると、期間ごとに仕訳帳を自動作成したり、テンプレートに基づいて仕訳帳を新規作成したりできます。

仕訳帳モジュールでは、仕訳帳の作成、編集、および転記を行うことができます。仕訳帳を転記すると、勘定科目の残高が再計算されてデータベースに調整が反映されます。転記した仕訳帳を調整の記録として参照したり、勘定科目の値に対する変更の記録を確認するためのレポートを作成したりできます。

## 仕訳帳の種別

次の3種類の仕訳帳を作成できます。

- 通常仕訳帳。1つの期間の値を調整します。
- 自動逆仕訳仕訳帳。1つの期間の値を調整し、次の期間で自動的にそれを逆仕訳します。
- 親仕訳帳。エンティティによる親への影響を調整します。

## 通常仕訳帳

通常仕訳帳を使用して、単一の期間に一度きりの調整を入力します。通常仕訳帳には、貸借一致、エンティティ単位で貸借一致、または貸借不一致のものがあります。通常仕訳帳または通常テンプレートにするかどうかは、仕訳帳またはテンプレートの作成時に決めます。例えば、Cables、Monitors、および Keyboards 勘定科目で、Actual データ種別の1月期のデータに一度きりの調整を入力するとします。このような調整を通常仕訳帳に入力してから、別のエンティティに調整を転記したり、同じエンティティにすべての調整を転記したりできます。貸借一致および貸借不一致仕訳帳については、[110 ページの「貸借一致および貸借不一致の調整」](#)を参照してください。仕訳帳とテンプレートの作成方法について詳しくは、[119 ページの「仕訳帳とテンプレートの作成」](#)を参照してください。

## 仕訳帳の自動逆仕訳

次の期間で逆仕訳する調整を入力するときに、自動逆仕訳仕訳帳を使用します。自動逆仕訳仕訳帳は、2つの期間のデータに影響を与えます。つまり、まず自動逆仕訳仕訳帳を転記して1つの期間の値を調整します。その次の期間を開くと、システムによってそれらの調整を逆仕訳する仕訳帳が自動的に作成され、転記されます。

次の期間を開いたときには、システムによって作成された仕訳帳は「自動逆仕訳済」のステータスを持つ通常仕訳帳になります。元の仕訳帳のステータスは「保護済」に変更されます。システムで自動逆仕訳仕訳帳を作成して転記すると、自動逆仕訳仕訳帳で調整を転記したすべてのエンティティのデータベースで、新しく開いた期間が保護されます。

**注：** 新しく開いた期間のエンティティのデータは編集できません。自動逆仕訳を行っている仕訳帳または自動逆仕訳済み仕訳帳の編集、転記の取り消し、または削除もできません。

例えば、JE1 という自動逆仕訳仕訳帳を1月に作成し転記するとします。これにより、フランスの Cash 勘定科目と Sales 勘定科目が調整されます。2月の期間を開くと、1月に行われた JE1 の調整を逆仕訳する JE1 という2番目の仕訳帳がシステムによって作成され転記されます。1月に作成した仕訳帳は、「保護済」のステータスを持つ自動逆仕訳仕訳帳になります。2月に自動的に作成された仕訳帳は、「自動逆仕訳済」のステータスを持つ通常仕訳帳です。仕訳帳の作成方法については、[119 ページの「仕訳帳とテンプレートの作成」](#)を参照してください。仕訳帳のステータスについては、[111 ページの「仕訳帳のステータス」](#)を参照してください。

自動逆仕訳の調整をエンティティに転記すると、仕訳帳で次の期間を開くまではそのエンティティを削除できません。自動逆仕訳仕訳帳の調整の転記先のエンティティは削除できますが、アプリケーションから消去することはできません。

**注：** 自動逆仕訳テンプレートまたは自動逆仕訳親仕訳帳を作成することはできません。

## 親の仕訳帳

連結時の子の親に対する影響を調整するために値を調整するには、親の仕訳帳を作成します。親の仕訳帳では親の値のみを調整します。

例えば、Europe Consolidated に集計される France というエンティティがあるとします。France の Europe Consolidated への影響を調整する親の仕訳帳を作成できます。Europe Consolidated は「親」ドロップダウンリストのエンティティであり、France は仕訳帳の行にあります。France の値は変更されません。親の仕訳帳には、同じ親を持つ複数のエンティティへの調整を含めることができます。

次の 2 つの設定が選択されている場合にのみ、親の仕訳帳を作成できます。[親の調整を許可] アプリケーション設定を選択する必要があります。親エンティティのエンティティモジュールにある「親の調整を許可」チェックボックスもオンにする必要があります。最初に仕訳帳またはテンプレートを作成するときに、親の仕訳帳にするかどうかを決めます。仕訳帳とテンプレートの作成方法について詳しくは、[119 ページの「仕訳帳とテンプレートの作成」](#)を参照してください。[親の調整を許可] の親の設定について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## 仕訳帳テンプレート

仕訳帳テンプレートを使用して、仕訳帳の作業時間を短縮できます。作成できる仕訳帳テンプレートは次の 2 種類です。

- 標準テンプレート。頻繁に入力する類似した調整に使用する勘定科目 ID、エンティティ ID、または値が含まれます。標準テンプレートに基づいて多くの仕訳帳を作成できます。
- 経常テンプレート。新しい期間を開いたときにシステムによって自動的に作成される完全な調整が含まれます。

## 標準テンプレート

各期間に共通の調整情報を持つ調整を転記する必要がある場合には、標準テンプレートを使用します。毎月、新しい通常仕訳帳を作成する代わりに、共通の勘定科目 ID、エンティティ ID、または値を含む標準テンプレートを作成できます。標準テンプレートは、類似した調整情報を含む通常仕訳帳の基礎として利用できます。

例えば、あるエンティティがインフレ率の高い国のもので、毎月複数の勘定科目に調整を転記してエンティティの在庫の値の変更を記録する必要があるとします。調整値は毎月変わる可能性があります。勘定科目 ID とエンティティが含まれてい

るテンプレートを作成できます。このテンプレートでは調整ごとに行が作成されます。毎月、テンプレートを使用して調整対象の勘定科目とエンティティ ID が既に含まれている通常仕訳帳を作成し、値を入力するだけに行うことができます。

標準テンプレートを使用して、複数の親に対してエンティティが影響を与える値に同様の調整を行うことができます。テンプレートに調整情報を入力してから、そのテンプレートを使用して仕訳帳を作成するたびに親を変更します。標準テンプレートには貸借一致または貸借不一致の調整を含むことができ、通常または親のテンプレートとして使用できます。貸借一致および貸借不一致の調整については、[110 ページの「貸借一致および貸借不一致の調整」](#)を参照してください。通常仕訳帳および親仕訳帳については、[107 ページの「仕訳帳の種別」](#)を参照してください。

## 経常テンプレート

経常テンプレートを使用して、各期間で同一の調整を行う必要がある場合に時間を短縮します。各期間ごとに通常仕訳帳を作成して同一の調整を転記する代わりに、その調整を含む経常テンプレートを 1 つ作成できます。期間を開くと、システムによって経常テンプレートを使用して通常仕訳帳が作成されます。この仕訳帳は、ただちに転記することも、編集してから転記することもできます。通常仕訳帳については、[108 ページの「通常仕訳帳」](#)を参照してください。

経常テンプレートは、累計データ表示のあるデータ種別を使用するときに特に役立ちます。累計データ表示のある Actual データ種別を使用するとします。Other Income 勘定科目の値は 1 月～3 月は 0 ですが、4 月には原価を 2000 ドル上回るトラックを販売したため 2000 を入力します。データ種別のデータ表示は累計であるため、2000 という累計値が各月の累積値の一部として表示されます。そのため、月ごとに調整を転記して値をオフセットすることができます。

システムによって経常仕訳帳テンプレートから作成される各仕訳帳には、テンプレートと同じ ID と説明があります。例えば、ID が CABLEADJ である経常テンプレートを作成した場合は、システムによってこのテンプレートから作成される各仕訳帳の ID も CABLEADJ です。

経常テンプレートには、貸借一致または貸借不一致の調整を含めることができます。標準の経常テンプレートを作成することはできますが、自動逆仕訳または親の経常テンプレートを作成することはできません。貸借一致および貸借不一致の調整については、[110 ページの「貸借一致および貸借不一致の調整」](#)を参照してください。

## 貸借一致および貸借不一致の調整

作成した各仕訳帳またはテンプレートには、貸借一致、エンティティ単位で貸借一致、または貸借不一致があります。仕訳帳またはテンプレートを作成したり編集したりするときには、貸借一致属性を選択します。

貸借一致仕訳帳またはテンプレートとは、借方合計と貸方合計が等しい仕訳帳またはテンプレートです。貸借一致仕訳帳を転記するには、まず仕訳帳内に借方と貸方を等しく入力する必要があります。例えば、仕訳帳の貸方合計が 50 の場合は、借方合計も 50 にしてから仕訳帳を転記する必要があります。

エンティティ単位で貸借一致の仕訳帳またはテンプレートでは、各エンティティの借方合計がそのエンティティの貸方合計と等しくなければなりません。貸借一致仕訳帳内の各エンティティの借方と貸方を等しくしてから、仕訳帳を転記する必要があります。例えば、仕訳帳のあるエンティティの貸方合計が 50 の場合は、そのエンティティの借方合計も 50 にしてから仕訳帳を転記する必要があります。

貸借不一致仕訳帳内の調整では、仕訳帳を転記する前に貸借を一致させる必要はありません。例えば、異なる勘定科目とエンティティに借方合計が 20、貸方合計が 300 の貸借不一致仕訳帳を転記できます。貸借不一致仕訳帳を使用すると、データが完全に揃わない場合に調整の監査証跡を作成できます。例えば、複数の部門で、部門自体の収入と費用のデータのみに基づいた調整が含まれている貸借不一致仕訳帳を転記して、企業業績予測を行うとします。この場合は、各部門が調整を転記したときに予測がどのように展開するかを示す、監査証跡が作成されます。

貸借不一致仕訳帳の作成方法については、[119 ページの「仕訳帳とテンプレートの作成」](#)を参照してください。

## 仕訳帳の情報

システムでは仕訳帳ごとに情報が管理されています。[仕訳帳] ウィンドウからこの情報を表示することも、情報をレポートに含めることもできます。使用できる仕訳帳の情報は次のとおりです。

- 仕訳帳のステータス。調整プロセス内での仕訳帳の状態を示します。
- オプションの仕訳帳番号。仕訳帳の順序を示します。
- 仕訳帳名。各仕訳帳の固有の識別子です。仕訳帳名は選択肢一覧またはレポートに表示されます。
- 仕訳帳コード。仕訳帳の作成または編集時に割り当てることができます。

## 仕訳帳のステータス

仕訳帳のステータスは、仕訳帳の現在の状態を示します。仕訳帳のステータスは、仕訳帳を承認、転記、転記の取り消し、編集、逆仕訳、削除したときに変更されます。標準および経常テンプレートにはステータスはありません。

[表 18](#) に、仕訳帳の有効なステータスを示します。

**表 18** 仕訳帳の有効なステータス

ステータス	定義
転記前	仕訳帳の調整は承認されず、データベースに転記されていません。
承認済	仕訳帳は承認されましたが、調整はデータベースに転記されていません。*
転記済	仕訳帳の調整はデータベースに転記されています。
逆仕訳済	仕訳帳の調整は、データベースに転記後、逆仕訳されました。
自動逆仕訳済	この仕訳帳の調整が適用され、前の期間に作成および転記された自動逆仕訳仕訳帳で行われた調整が逆仕訳されました。

ステータス	定義
保護済	自動逆仕訳仕訳帳は転記され、次の期間が開かれました。自動逆仕訳仕訳帳でのみ、有効なステータスです。保護済みの仕訳帳を変更することはできません。
Posted and Edited（転記済および編集済）	仕訳帳の調整はデータベースに転記され、調整が編集され、再度転記されました。このステータスは記録レポートにのみ表示され、仕訳帳の完全な監査証跡になります。他のすべてのインスタンスでは、転記および編集された仕訳帳のステータスは「転記前」です。
削除済	仕訳帳はアプリケーションから削除されました。拡張フィルタ機能を使用して仕訳帳作成レポートを実行するときに、削除された仕訳帳を承認できません。

\* - このステータスは、アプリケーションで「ステータスの承認」オプションが選択されているときにのみ有効です。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## 仕訳帳番号

仕訳帳番号を仕訳帳の追加の識別子として使用できます。仕訳帳の番号付けを行うアプリケーションでは、仕訳帳の保存時または読み取り時に各仕訳帳に連続した番号が割り当てられます。仕訳帳番号は「仕訳帳」ウィンドウの「仕訳帳名」の上に表示されます。

レポートに含める仕訳帳を選択するときには、仕訳帳番号をフィルタとして使用できます。仕訳帳を削除しても、仕訳帳の番号はアプリケーションに保持され、削除した仕訳帳をレポートに含めることができます。これにより仕訳帳の完全な監査証跡が作成されます。例えば、番号 235 の仕訳帳を削除し、番号 230 ～ 240 の仕訳帳の記録レポートを実行した場合は、レポートには番号 235 の仕訳帳名と説明が表示されます。レポートに仕訳帳を含める方法については、[132 ページの「仕訳帳作成レポート」](#)を参照してください。

**注：** 仕訳帳テンプレートには番号は割り当てられません。仕訳帳番号は 1 ～ 999999 でなければなりません。

仕訳帳の番号付けを使用するかどうかは、「アプリケーション」ウィンドウで指定します。仕訳帳の番号付けは、「データ種別」ウィンドウで設定します。アプリケーションの仕訳帳の番号付けの選択方法、および仕訳帳の番号付けの設定方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## 仕訳帳名

作成した各仕訳帳には仕訳帳名が割り当てられています。仕訳帳名は、編集、承認、転記、転記取り消し、削除、またはレポートに含める仕訳帳を選択するときに使用します。例えば、リストまたはレポート内の仕訳帳に関する情報を表示するときに、仕訳帳名を選択します。仕訳帳名は、仕訳帳に関する次の情報を示す文字の組み合わせを仕訳帳名に加えたものです。

- 名前の最初の部分で、仕訳帳、標準テンプレート、経常テンプレートを識別します。

- 仕訳帳の種別は、仕訳帳またはテンプレートが、標準、自動逆仕訳、または親であるかどうかを示します。
- 仕訳帳のステータスは、仕訳帳の現在の状態を示します。仕訳帳のステータスについて詳しくは、[111 ページの「仕訳帳のステータス」](#)を参照してください。

表 19 に、仕訳帳名を構成する識別子を示します。

**表 19** 仕訳帳名の識別子

属性	文字
仕訳帳	Jm
標準テンプレート	Std
経常テンプレート	Rec
通常	R
自動逆仕訳	A
親	T
転記前	U
承認済	W
転記済	P
逆仕訳済	V
保護済	L
Posted and Edited（転記済および編集済）	P&E
自動逆仕訳済	O
削除済	D
転記前として抽出された、転記済み仕訳帳	T

仕訳帳名で使用する文字は小かっこで囲み、下線 ( ) で区切ります。例えば、France\_ADJ というラベルの付いた仕訳帳が転記済みの親の仕訳帳であるとしします。一覧またはレポートでは、France\_ADJ 仕訳帳は次のように表示されます。

France\_ADJ (Jrn-T-P)

別の例として、JE7 というラベルの付いた仕訳帳があり、ステータスが [承認済] の通常仕訳帳であるとしします。レポートでは、JE7 仕訳帳は次のように表示されます。

JE7 (Jrn-R-W)

**注：** [Posted and Edited（転記済および編集済）] のステータスは記録レポートのみに表示されます。

## コード

追加の識別子として 20 文字のコードを仕訳帳に割り当てることができます。仕訳帳のコードの定義および管理は [コード] ウィンドウで、仕訳帳へのコードの割り当ては [仕訳帳] ウィンドウで行います。

開く仕訳帳、1 つの期間から抽出する仕訳帳、またはレポートに含める仕訳帳を選択するときには、コードをフィルタとして使用できます。例えば、勘定科目間で残高を移動する任意の仕訳帳に Recclass というコードを割り当てることができます。Recclass というコードを持つ転記済み仕訳帳のみを含めることにより、再分類仕訳帳レポートを実行できます。

仕訳帳を開く方法については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。仕訳帳の抽出方法については、[129 ページの「仕訳帳の抽出」](#)を参照してください。仕訳帳でのレポートの実行方法については、[132 ページの「仕訳帳作成レポート」](#)を参照してください。コードについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## 仕訳帳情報の表示

現在の仕訳帳に関する詳細情報をウィンドウにすばやく表示できます。[仕訳帳情報] メッセージボックスには、仕訳帳に関する次のような詳細情報が表示されます。

- 番号
- ステータス
- 種別
- 仕訳帳の作成者
- 作成した日付および時刻
- 転記した日付および時刻

▶ 仕訳帳情報を表示するには、次の手順に従います。

- 1 [仕訳帳] ウィンドウの [情報] をクリックしてメッセージボックスを開きます。
- 2 情報を確認し、[閉じる] をクリックします。

## 小数表示オプション

勘定科目モジュールで勘定科目を作成する際は、その勘定科目のデフォルトの小数点以下桁数を指定します。この勘定科目の値を表示すると、デフォルトの小数点以下桁数が常に使用されます。例えば、勘定科目の [小数表示] 属性を 0 (ゼロ) に設定すると、勘定科目値は整数で表示されます。勘定科目の [小数表示] 属性を 2 に設定すると、勘定科目値は 6.75 などのように、小数点以下 2 桁の数で表示されます。

仕訳帳モジュールでは、[小数表示] オプションを使用して表示される勘定科目のデフォルトの小数点以下桁数を上書きできます。ここで指定する小数点以下桁数は、それを再び変更するまで有効になります。メニュー内で選択した小数点以下桁数の横にはチェックマークが表示されます。

[小数表示] オプションで [デフォルト] を選択すると、勘定科目モジュールでその勘定科目に対して最初に指定した小数表示設定が表示されます。[小数表示] オプションは、[合計]、[差異]、および [値] のボックスのデータ表示には影響しません。但し、[小数表示] オプションは仕訳帳作成レポートのデータ表示に影響を与えます。

**注：** [小数表示] オプションを使用した場合、表示される数値は四捨五入されますが、システムに保存される数値には影響しません。

► デフォルトの小数点以下の桁数を上書きするには、次の手順に従います。

- 1 [仕訳帳] ウィンドウで、[表示] メニューから [小数表示] を選択します。
- 2 表示する小数点以下桁数を選択するか、[デフォルト] を選択して勘定科目モジュールで指定されている小数点以下桁数を表示します。

## 仕訳帳の調整

仕訳帳の調整はデータベースの値に直接反映されます。仕訳帳を使用してデータを調整する前に、次の項目について検討する必要があります。

- 仕訳帳に選択したデータ表示によって、データベースでの値の表示方法が決まります。
- データ種別の [データなしはゼロ] 設定は、データなしに対する仕訳帳の調整に影響を与えます。

## データ表示と仕訳帳

仕訳帳を作成するときには、[将来の期間に影響させる] 設定を使用して、将来のデータのある期間に仕訳帳が転記された場合に将来の期間のデータを再計算する方法を指定します。仕訳帳の作成時には、デフォルトの [将来の期間に影響させる] オプションは、[データ種別] ウィンドウの設定に基づいて [期別] または [データ種別累計] のいずれかに設定されます。[仕訳帳エンティティでのデータなしの処理] が [データ種別累計] に設定されている場合は、[将来の期間に影響させる] の [仕訳帳] のデフォルト設定は [期別] になります。逆に、[仕訳帳エンティティでのデータなしの処理] が [期別] に設定されている場合は、[将来の期間に影響させる] の [仕訳帳] のデフォルト設定は [データ種別累計] になります。データ表示形式について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

表 20 に、調整前の 1 月、2 月、3 月の期間の Equipment 勘定科目の期別およびデータ種別累計 (CTD) の値を示します。

表 20 調整前の値

表示形式	1 月	2 月	3 月
期別	100	100	100
データ種別累計	100	200	300

JE5 は、Equipment 勘定科目に対して 100 の貸方調整のある通常仕訳帳であるとし  
ます。[将来の期間に影響させる] の [データ種別累計] オプションを選択した状  
態で 2 月の JE5 を転記すると、Equipment の値は表 21 に示すようになります。

**表 21** 3 月のデータ種別累計の値

表示形式	1 月	2 月	3 月
期別	100	200	100
データ種別累計	100	300	400

上記の表では、3 月の値はデータ種別累計表示では影響を受けていますが、期別  
表示では影響を受けていません。[将来の期間に影響させる] の [期別] オプショ  
ンを選択した状態で 2 月の JE5 を転記すると、Equipment の値は表 22 に示すよう  
になります。

**表 22** 3 月の期別の値

表示形式	1 月	2 月	3 月
期別	100	200	0
データ種別累計	100	300	300

上記の表では、3 月の値は期別表示では影響を受けていますが、データ種別累計  
表示では影響を受けていません。このデータ種別では、[将来の期間に影響させ  
る] のデフォルト設定は [期別] です。[データなしはゼロ] のデフォルト設定は  
[データ種別累計] です。

**注：** 残高勘定科目への仕訳帳の調整は、データ種別累計表示の将来の期間に常  
に反映されます。

[将来の期間に影響させる] 設定を変更するには、そのタスクのアクセス権が必要  
です。

次のような場合には、[将来の期間に影響させる] が正しく設定されていることを  
確認します。

- 仕訳帳の作成後に [仕訳帳エンティティでのデータなしの処理] 設定を変更  
したときに、作成された新しい仕訳帳の [将来の期間に影響させる] のデフォ  
ルト設定が異なる場合。
- ASCII ファイルから仕訳帳の入力項目を読み込んだときに、システムが ASCII  
ファイルから [将来の期間に影響させる] 設定を読み込んだ場合。この設定  
はデータ種別のデフォルト設定に基づいていない場合があります。

## データなしの値の調整

データベース内の欠落した値に仕訳帳の調整を転記するときは、調整はデータ種  
別の [データなしはゼロ] 設定に従って行われます。表 23 に、データ種別の [デー  
タなしはゼロ] に [データ種別累計] を選択したときに、収益勘定科目である  
Interest Income のデータ種別累計値と期別値がどのように表示されるかを示しま

す。データなしについて詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

**表 23** [データなしはゼロ] に [データ種別累計] を設定した場合

表示形式	1 月	2 月	3 月
期別	100	-100	300
データ種別累計	100	0	300

表 24 に、データ種別の [データなしはゼロ] に [期別] を選択したときに、Interest Income 勘定科目のデータ種別累計値と期別値がどのように表示されるかを示します。

**表 24** [データなしはゼロ] に [期別] を設定した場合

表示形式	1 月	2 月	3 月
期別	100	0	200
データ種別累計	100	100	300

2 月期の Interest Income に貸方調整 50 を転記した場合は、調整はデータなしの設定によって変わります。表 25 に、データ種別の [データなしはゼロ] に [データ種別累計] を選択し、仕訳帳の [将来の期間に影響させる] に [データ種別累計] を選択した場合の、同じ勘定科目、エンティティ、期間への調整を示します。

**表 25** [データなしはゼロ] に [データ種別累計] を設定し、[将来の期間に影響させる] に [データ種別累計] を設定した場合

表示形式	1 月	2 月	3 月
期別	100	-50	300
データ種別累計	100	50	350

上記の表では、3 月のデータ種別累計値は調整を反映しています。

表 26 に、データ種別の [データなしはゼロ] に [データ種別累計] を選択し、仕訳帳の [将来の期間に影響させる] に [期別] を選択した場合の、同じ勘定科目、エンティティ、期間への調整を示します。

**表 26** [データなしはゼロ] に [データ種別累計] を設定し、[将来の期間に影響させる] に [期別] を設定した場合

表示形式	1 月	2 月	3 月
期別	100	-50	250
データ種別累計	100	50	300

上記の表では、3 月の期別値は調整を反映しています。表 27 に、データ種別の [データなしはゼロ] に [期別] を選択し、仕訳帳の [将来の期間に影響させる] に [期別] を選択した場合の、同じ勘定科目、エンティティ、期間への調整を示します。

**表 27** 「データなしはゼロ」に「期別」を設定し、「将来の期間に影響させる」に「期別」を設定した場合

表示形式	1 月	2 月	3 月
期別	100	50	150
データ種別累計	100	150	300

上記の表では、3 月の期別値は調整を反映しています。表 28 に、データ種別の「データなしはゼロ」に「期別」を選択し、仕訳帳の「将来の期間に影響させる」に「データ種別累計」を選択した場合の、同じ勘定科目、エンティティ、期間への調整を示します。

**表 28** 「データなしはゼロ」に「期別」を設定し、「将来の期間に影響させる」に「データ種別累計」を設定した場合

表示形式	1 月	2 月	3 月
期別	100	50	200
データ種別累計	100	150	350

上記の表では、3 月のデータ種別累計値は調整を反映しています。

## 「仕訳帳」ウィンドウ

「仕訳帳」ウィンドウでは、次のタスクを実行できます。

- 仕訳帳と仕訳帳テンプレートの作成および変更
- 仕訳帳の承認
- データベースへの仕訳帳の調整の転記
- 転記した仕訳帳の転記取り消し、編集、逆仕訳
- 仕訳帳の読み込みと抽出
- 仕訳帳の調整でのレポートの実行
- 仕訳帳と仕訳帳テンプレートの削除
- 仕訳帳の印刷

仕訳帳やテンプレートを開く方法について詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

図 21 に「仕訳帳」ウィンドウを示します。

図 21 「仕訳帳」 ウィンドウ

「仕訳帳」ウィンドウには、現在の仕訳帳の名前、説明、属性などの詳細が表示されます。ウィンドウの一番下にあるボタンを使用して、現在の仕訳帳の転記や逆仕訳などのタスクをすばやく実行できます。

## 仕訳帳とテンプレートの作成

データベースの調整を行うために仕訳帳を作成します。仕訳帳の調整プロセスを効率的に行うために仕訳帳テンプレートを作成します。

仕訳帳とテンプレートを作成するには、次のタスクを行います。

- 期間を開く
- 仕訳帳テンプレートの作成
- 仕訳帳の作成
- 調整情報の入力

不要になった転記前仕訳帳または仕訳帳テンプレートは削除できます。現在のデータ種別および期間から転記前仕訳帳または逆仕訳仕訳帳を削除できます。

現在のデータ種別のすべての期間の標準または経常仕訳帳テンプレートを削除できます。例えば、現在のデータ種別が **Actual** で、あるエンティティの複数の勘定科目の **Actual** データに対する調整を行うための標準仕訳帳テンプレートがあるとします。そのエンティティを除去した場合は、**Actual** データ種別からそのテンプレートを除去できます。

### 期間を開く

仕訳帳の調整は単一のデータ種別および単一の期間に対して行います。ある期間のデータに調整を入力したり転記したりする前に、仕訳帳エンティティの期間を開く必要があります。例えば、第 1 四半期に調整を転記する場合は、第 1 四半期を開きます。

期間を開くには、前の期間が開いている必要があります。例えば、第1四半期を開いている場合にのみ、第2四半期を開くことができます。

期間を開くと、現在のデータ種別の経常仕訳帳テンプレートを基にその期間の経常入力を作成されます。さらに、前の期間から転記済みまたは転記前の自動逆仕訳仕訳帳が検索されます。転記前自動逆仕訳仕訳帳がある場合は、その期間を開くことはできません。転記済み自動逆仕訳仕訳帳がある場合は、転記済み自動逆仕訳仕訳帳の入力項目を逆仕訳する仕訳帳が作成され、転記されます。

次の期間を開いた後で自動逆仕訳仕訳帳を転記取り消しまたは編集することはできません。また、システムで作成される自動逆仕訳仕訳帳を編集または逆仕訳することもできません。期間を開く操作をキャンセルして、期間が開かないようにすることはできます。期間を開いてしまうと、自動逆仕訳仕訳帳で調整されたすべての入力データが保護されます。自動逆仕訳仕訳帳について詳しくは、[108 ページの「仕訳帳の自動逆仕訳」](#)を参照してください。

▶ 期間を開くには、次の手順に従います。

- 1 [仕訳帳] ウィンドウで、[タスク] メニューから [期間を開く] を選択します。
- 2 [はい] を選択して、開いていない次の期間を開きます。前の期間に転記済みの自動逆仕訳の仕訳帳がある場合、仕訳帳が逆仕訳されるという警告メッセージが表示されます。
- 3 期間を開くには [はい] を、操作をキャンセルするには [いいえ] を選択します。

## 仕訳帳テンプレートの作成

標準および経常の2種類の仕訳帳テンプレートを作成できます。標準テンプレートには、頻繁に入力する、よく似た調整の情報が含まれます。標準テンプレートを作成した場合、そのテンプレートはアプリケーションのすべての期間で使用できます。

経常テンプレートには、新しい期間を開いたときにシステムが自動的に行う一定の調整の情報が含まれます。経常テンプレートの作成後は、選択した既に開いている期間のそのテンプレートに基づいて仕訳帳を作成できます。仕訳帳テンプレートについて詳しくは、[111 ページの「仕訳帳の情報」](#)を参照してください。経常テンプレートからの仕訳帳の作成方法について詳しくは、[122 ページの「経常テンプレートを使った仕訳帳の作成」](#)を参照してください。

▶ 仕訳帳テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [仕訳帳] ウィンドウで、[ファイル] メニューから [新規仕訳帳] を選択します。
- 2 [標準] または [経常] を選択し、仕訳帳の種別を選択したら [OK] をクリックします。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
  - 経常テンプレートを作成する場合は、完全な調整情報を入力します。詳しくは、[121 ページの「調整情報の入力」](#)を参照してください。
  - 標準テンプレートを作成する場合は、どの調整詳細を標準テンプレートに含めるかを選択します。必須の情報は ID のみです。
- 4 [ファイル] メニューから [上書き保存] を選択してテンプレートを保存します。

## 仕訳帳の作成

作成した各仕訳帳には、期間内で一意の ID を割り当てます。Actual データ種別の各期間について CABLEADJ という仕訳帳を作成し、次に別のデータ種別に同じ ID の仕訳帳を作成できます。同じデータ種別で同じ ID の仕訳帳とテンプレートを作成することもできます。但し、あるデータ種別の 1 つの期間に CABLEADJ という仕訳帳を 2 つ作成することはできません。[自動番号] オプションを選択した場合は、以前に削除した仕訳帳と同じラベルの付いた仕訳帳を作成することはできません。

作成した各テンプレートは、アプリケーション内で一意の ID を持ちます。仕訳帳テンプレートについては、[111 ページの「仕訳帳の情報」](#)を参照してください。

仕訳帳を作成する前に、データの視点を確かめ、現在のデータ種別と期間が調整する対象であるかどうかを確認します。仕訳帳は、現在のデータ種別と期間に対してのみ作成できます。現在の期間がデータ種別の最後の期間である場合、または次の期間が既に開いている場合は、自動逆仕訳仕訳帳は作成できません。データの視点については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

**注：** 表示権限を持っていれば、勘定科目の仕訳帳入力を作成できます。

▶ 仕訳帳を作成するには、次の手順に従います。

- 1 [仕訳帳] ウィンドウで、[ファイル] メニューから [新規仕訳帳] を選択します。
- 2 [仕訳帳] を選択し、作成する仕訳帳の種別を選択します。
- 3 標準テンプレートに基づいて仕訳帳を作成するには、[標準テンプレートを使用] を選択し、一覧からテンプレートを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 ID を入力し、[Enter] キーを押します。
- 6 仕訳帳またはテンプレートの説明を入力し、次に調整情報を入力します。詳しくは、[121 ページの「調整情報の入力」](#)を参照してください。

**注：** [Journals description (仕訳帳の説明)] フィールドには 254 文字まで入力できます。

- 7 [ファイル] メニューから [上書き保存] を選択して仕訳帳を保存します。

## 調整情報の入力

仕訳帳とテンプレートに入力する調整情報には、勘定科目 ID、エンティティ ID、および調整値があります。仕訳帳には、1 つまたは複数の勘定科目に対する調整を含めることができます。調整を負の値にすることはできませんが、借方または貸方にゼロを入力することができます。任意の仕訳帳において、1 つまたは複数のエンティティへの調整を転記できます。親の仕訳帳でない場合は、入力を受け入れる勘定科目および仕訳帳の入力の可能なエンティティのみの ID を入力できます。

調整情報は「仕訳帳」ウィンドウの調整表に入力します。仕訳帳の「勘定科目」列に勘定科目 ID を入力すると、システムによって同じ行の「エンティティ」列にデフォルトのエンティティが入力されます。現在の仕訳帳セッションでエンティティを貼り付けた場合、最後に貼り付けたエンティティがデフォルトのエンティティとして使用されます。エンティティを貼り付けなかった場合は、データの視点にある現在のエンティティがデフォルトのエンティティとして使用されます。

➤ 調整情報を入力するには、次の手順に従います。

- 1 「仕訳帳」ウィンドウから、調整を追加する仕訳帳またはテンプレートを作成するか、開きます。仕訳帳またはテンプレートの作成手順については、[120 ページの「仕訳帳テンプレートの作成」](#)を参照してください。仕訳帳やテンプレートを開く手順については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
- 2 仕訳帳またはテンプレートのコード、セキュリティクラス、およびデータ表示形式を選択します。
- 3 親の仕訳帳に調整を入力する場合は、比率や消去の値を調整する親を選択します。
- 4 必要に応じて次の作業を行います。
  - 空白の行に調整を追加する場合は、勘定科目列に調整する勘定科目の ID を入力するか、**【編集】**メニューから**【勘定科目の貼り付け】**を選択して「勘定科目の貼り付け」ダイアログボックスで勘定科目を選択します。
  - 調整が転記されるエンティティを変更するには、既存のエンティティをハイライトして新規エンティティの ID を入力するか、**【編集】**メニューから**【エンティティの貼り付け】**を選択して「エンティティの貼り付け」ダイアログボックスでエンティティを選択します。
  - 調整値を入力するには、調整の行の借方または貸方の列に値を入力し、**【Enter】**キーを押します。
  - 既存の調整の前に空白の行を追加するには、既存の調整の勘定科目 ID をハイライトし、**【編集】**メニューから**【行の挿入】**を選択します。

## 経常テンプレートを使った仕訳帳の作成

経常テンプレートを使用して、以前に開いた期間で仕訳帳を作成できます。仕訳帳を作成する最初の期間を選択します。データ種別の開始期間から最後に開いた期間までの、すべての期間で仕訳帳が作成されます。例えば、2003 年 4 月の期間の経常テンプレートを作成する場合は、1 月、2 月、または 3 月の期間のテンプレートに基づいて仕訳帳を作成できます。システムでは仕訳帳を作成しますが、転記しません。仕訳帳は適切な期間に手動で転記する必要があります。詳しくは、[126 ページの「個々の仕訳帳の転記」](#)を参照してください。

➤ 経常テンプレートを使用して仕訳帳を作成するには、次の手順に従います。

- 1 「仕訳帳」ウィンドウで、仕訳帳を作成する元の経常テンプレートを開きます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
- 2 「タスク」メニューから**【経常テンプレートの適用】**を選択します。
- 3 仕訳帳を作成する期間の範囲にある、最初の期間を選択します。
- 4 **【OK】**をクリックします。

## 新しい仕訳帳としての仕訳帳の保存

仕訳帳またはテンプレート全体に別のラベルを付けて保存できます。新しい仕訳帳は同じデータ種別および期間で、同じ種別の仕訳帳になります。

但し、既存の仕訳帳のステータスは、新しく保存される仕訳帳には使用されません。新しく保存される仕訳帳のステータスは、[転記前] になります。

- ▶ 新しい仕訳帳として仕訳帳またはテンプレートを保存するには、次の手順に従います。

- 1 [仕訳帳] ウィンドウで、[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択します。

**注：** 保護、手動逆仕訳、または自動逆仕訳された仕訳帳に対して、[名前を付けて保存] コマンドを使用することはできません。

- 2 [ラベル] ボックスに新しい仕訳帳の固有のラベルを入力します。

- 3 次のいずれかの操作を行います。

- 新しい仕訳帳を保存し、閉じるには、[OK] を選択します。
- 変更をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。
- 新しい仕訳帳を保存し、表示するには、[開く] を選択します。

## 仕訳帳の承認

仕訳帳のステータスを [承認済] に設定し、転記が可能であることを示します。特定のユーザのみが仕訳帳を承認できるように指定するセキュリティアクセスを定義できます。例えば、マネージャがすべての仕訳帳を承認してからユーザが仕訳帳を転記するように、マネージャのみが仕訳帳を承認できるようにセキュリティを設定できます。仕訳帳のセキュリティの設定方法については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

仕訳帳の作成時には、仕訳帳のステータスは [転記前] です。[承認済] ステータスを使用しないアプリケーションでは、転記前の仕訳帳を転記できます。[承認済] ステータスを使用するアプリケーションでは、仕訳帳のステータスを [承認済] に設定してから転記する必要があります。仕訳帳を個々に承認することも、一度に複数の仕訳帳を選択してからステータスを [承認済] に変更することもできます。[ステータスの承認] オプションについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

仕訳帳を承認するには、次の必要条件を満たしている必要があります。

- 仕訳帳のステータスは、[転記前] である必要があります。
- すべての調整の情報が指定されている必要があります。
- 仕訳帳が貸借一致仕訳帳の場合は、借方合計が貸方合計に等しい必要があります。
- エンティティ単位で貸借一致する仕訳帳では、各エンティティの借方合計がそのエンティティの貸方合計に等しい必要があります。
- 仕訳帳を承認するセキュリティ権限を持っている必要があります。

- 仕訳帳詳細のすべての勘定科目とエンティティに対して、必要なセキュリティ権限を持っている必要があります。

## 個々の仕訳帳の承認

「仕訳帳」ウィンドウでは、個々の仕訳帳のステータスを「承認済」に変更できます。仕訳帳を承認し、それが正しいかどうか確かめ、転記が可能であることを示します。

▶ 個々の仕訳帳を承認するには、次の手順に従います。

- 1 「仕訳帳」ウィンドウで仕訳帳を開きます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
- 2 「承認」をクリックします。

## 複数の仕訳帳の承認

「仕訳帳」ウィンドウでは、仕訳帳を個別に開かずに、複数の仕訳帳のステータスを同時に変更できます。これは、仕訳帳を個別に承認するよりも短時間で操作できます。

▶ 複数の仕訳帳を承認するには、次の手順に従います。

- 1 「仕訳帳」ウィンドウで、「[タスク]」メニューから「仕訳帳の承認」を選択します。
- 2 使用可能な仕訳帳の一覧をフィルタするには、各フィルタのチェックボックスを適宜オンにします。
- 3 仕訳帳一覧をさらに詳細にフィルタするには、「[条件]」を選択し、フィルタ基準を指定して「[OK]」をクリックします。
- 4 必要に応じて次の作業を行います。
  - 使用可能なすべての仕訳帳を承認するには、「すべて追加」をクリックします。
  - 選択した仕訳帳のみを承認するには、承認する仕訳帳を「Unposted journals (転記前仕訳帳)」リストで選択し、「追加」をクリックします。
  - 隣接する複数の仕訳帳を選択するには、最初の仕訳帳を選択し、ドラッグして残りの範囲の仕訳帳を選択するか、「[Shift]」キーを押しながら範囲の最後の仕訳帳を選択します。
  - 隣接しない複数の仕訳帳を選択するには、「[Ctrl]」キーを押しながら仕訳帳を選択します。
  - 指定した仕訳帳の選択を解除するには、承認しない仕訳帳を「承認する仕訳帳」リストで選択し、「Remove (削除)」を選択します。
- 5 「[OK]」をクリックします。

## 仕訳帳の保護

ある期間のエンティティに調整を転記すると、データベースのそのエンティティと期間のデータは保護されます。[データ入力表] でデータを入力または変更できません。また、そのエンティティと期間のデータベース内のデータを直接読み込んだり変更したりできません。これにより、データ値の完全な監査証跡が作成されます。

データの保護を解除し、仕訳帳以外のソースから変更できるようにするには、そのエンティティおよび期間に対する調整が含まれているすべての仕訳帳の転記を取り消すかまたは編集する必要があります。転記した仕訳帳を編集するときは、仕訳帳の転記が取り消されます。仕訳帳の転記取り消しおよび編集方法について詳しくは、[128 ページの「仕訳帳の逆仕訳」](#)を参照してください。

仕訳帳を転記しないで、データベースで仕訳帳の保護を適用できます。このオプションを使用すると、データを修正したときに監査証跡を確実に作成できます。仕訳帳を転記しないデータの保護方法について詳しくは、[第2章「データの読み込みと抽出」](#)を参照してください。

**注：** 仕訳帳の調整の転記先である勘定科目、サブ勘定科目、エンティティおよびサブエンティティは、システムによって制限されています。これらの要素の値を調整するすべての仕訳帳の転記取り消しまたは編集を行わない場合は、これらの要素を削除することはできません。

## 仕訳帳の転記

データベースに調整を反映させるには、仕訳帳を転記します。仕訳帳の転記を完了するまでは、調整は仕訳帳にのみ存在し、データベース、連結、計算結果には反映されません。

調整値を訂正する必要がある場合は転記済み仕訳帳を編集できます。また、転記済み仕訳帳を逆仕訳して元の値に戻すこともできます。ある期間の仕訳帳の転記後、その期間のデータベースで多くの訂正を行う必要がある場合は、その期間の仕訳帳の転記を取り消し、訂正を行ってから、仕訳帳を転記し直すことができます。必要に応じて仕訳帳を開いたり閉じたりして、調整を入力または変更してから転記します。

[仕訳帳] ウィンドウから仕訳帳を転記できます。または、複数の仕訳帳を選択して一度に転記することもできます。アプリケーションで [計算式の実行] オプションを選択した場合は、仕訳帳を転記した後に勘定科目表の残高が自動的に調整されます。

仕訳帳を転記する前に、次の条件を満たす必要があります。

- アプリケーションで [ステータスの承認] オプションが選択されている場合は、仕訳帳を転記する前にステータスが [承認済] でなければなりません。仕訳帳の承認方法については、[123 ページの「仕訳帳の承認」](#)を参照してください。[ステータスの承認] オプションおよび [計算式の実行] オプションについて詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。
- アプリケーションで [ステータスの承認] オプションの選択が解除されている場合は、仕訳帳のステータスは [転記前] でなければなりません。
- すべての入力項目の詳細が指定されている必要があります。

- 仕訳帳が貸借一致仕訳帳の場合は、借方合計が貸方合計に等しい必要があります。
- エンティティ単位で貸借一致する仕訳帳では、各エンティティの借方合計がそのエンティティの貸方合計に等しい必要があります。
- 仕訳帳を転記するセキュリティ権限を持っている必要があります。
- 仕訳帳詳細のすべての勘定科目とエンティティに対して、必要なセキュリティ権限を持っている必要があります。

**注：** 別のウィンドウで同じエンティティのデータ入力表またはデータベースが開いている場合は、エンティティに仕訳帳を転記できません。Hyperion Enterprise では、別のユーザが開いているエンティティに仕訳帳を転記しようすると、エラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは、エラーログに書き込まれます。エラーログについて詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

## 個々の仕訳帳の転記

「仕訳帳」ウィンドウで個々の仕訳帳を転記できます。これによって、転記する前に仕訳帳の調整を確認できます。

- 個々の仕訳帳を転記するには、次の手順に従います。
  - 1 「仕訳帳」ウィンドウで、転記する仕訳帳を開きます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
  - 2 「転記」をクリックします。

## 複数の仕訳帳の転記

「仕訳帳」ウィンドウでは、仕訳帳を個別に開かずに、複数の仕訳帳を同時に転記できます。例えば、他のユーザが入力した調整を承認した後で、複数の仕訳帳を転記することができます。これは、仕訳帳を個別に転記するよりも短時間で操作できます。

複数の仕訳帳を転記しているときに無効な仕訳帳が検出された場合は、システムでは残りの仕訳帳の処理が続行されます。ERROR.LOG ファイルにエラーメッセージが書き込まれ、問題のある仕訳帳の詳細が記載されます。

- 複数の仕訳帳を転記するには、次の手順に従います。
  - 1 「仕訳帳」ウィンドウで、[タスク] メニューから「仕訳帳の転記」を選択します。
  - 2 使用可能な仕訳帳の一覧をフィルタするには、各フィルタのチェックボックスを適宜オンにします。
  - 3 仕訳帳一覧をさらに詳細にフィルタするには、[条件] を選択し、フィルタ基準を指定して [OK] をクリックします。
  - 4 必要に応じて次の作業を行います。
    - すべての転記前仕訳帳を転記するには、[すべて追加] をクリックします。

- 選択した仕訳帳のみを転記するには、転記する仕訳帳を **〔使用可能な仕訳帳〕** リストで選択し、**〔追加〕** をクリックします。
- 隣接する複数の仕訳帳を選択するには、最初の仕訳帳を選択し、ドラッグして残りの範囲の仕訳帳を選択するか、**〔Shift〕** キーを押しながら範囲の最後の仕訳帳を選択します。
- 隣接しない複数の仕訳帳を選択するには、**〔Ctrl〕** キーを押しながら仕訳帳を選択します。
- 指定した仕訳帳の選択を解除するには、転記しない仕訳帳を **〔転記する仕訳帳〕** リストで選択し、**〔Remove (削除)〕** を選択します。

5 **〔OK〕** をクリックします。

## 仕訳帳の転記取り消し

ある期間のデータベースに広範囲な変更を加える場合は、その期間の仕訳帳の転記を取り消すことができます。ある期間の仕訳帳の転記を取り消すと、その期間のデータと、調整が転記されたエンティティの保護が解除されます。アプリケーションに対して **〔計算式の実行〕** オプションを選択した場合、仕訳帳の転記を取り消した後に勘定科目表の残高が自動的に調整されます。**〔計算式の実行〕** オプションについて詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

承認または転記した調整を訂正する必要がある場合は、仕訳帳を編集できます。例えば、Israel エンティティに対する調整を含む複数の仕訳帳を転記した後で、Israel の新規データを取得したとします。この場合には、仕訳帳の転記を取り消し、新規データを読み込んで、再び仕訳帳を転記します。承認または転記した仕訳帳の編集方法については、[128 ページの「テンプレートまたは仕訳帳の編集」](#)を参照してください。

**注：** 次の期間が開いている場合は、自動逆仕訳仕訳帳の転記を取り消したり、自動逆仕訳または逆仕訳された仕訳帳の転記を取り消すことはできません。

▶ 仕訳帳の転記を取り消すには、次の手順に従います。

- 1 **〔仕訳帳〕** ウィンドウで、**〔タスク〕** メニューから **〔仕訳帳の再転記〕** を選択します。
- 2 使用可能な仕訳帳の一覧をフィルタするには、各フィルタのチェックボックスを適宜オンにします。
- 3 仕訳帳一覧をさらに詳細にフィルタするには、**〔条件〕** を選択し、フィルタ基準を指定して **〔OK〕** をクリックします。
- 4 必要に応じて次の作業を行います。
  - 使用可能なすべての仕訳帳の転記を取り消すには、**〔すべて追加〕** をクリックします。
  - 選択した仕訳帳のみの転記を取り消すには、承認する仕訳帳を **〔使用可能な仕訳帳〕** リストで選択し、**〔追加〕** をクリックします。
  - 隣接する複数の仕訳帳を選択するには、最初の仕訳帳を選択し、ドラッグして残りの範囲の仕訳帳を選択するか、**〔Shift〕** キーを押しながら範囲の最後の仕訳帳を選択します。

- 隣接しない複数の仕訳帳を選択するには、[Ctrl] キーを押しながら仕訳帳を選択します。
- 指定した仕訳帳の選択を解除するには、転記を取り消さない仕訳帳を「再転記する仕訳帳」リストで選択し、[Remove (削除)] を選択します。

5 [OK] をクリックします。

**注：** 複数の仕訳帳を転記しているときに無効な仕訳帳が検出された場合は、システムでは残りの仕訳帳の処理が続行されます。error.log ファイルにエラーメッセージが書き込まれ、問題のある仕訳帳の詳細が記載されます。

Hyperion Enterprise では、別のユーザが開いているエンティティに仕訳帳を再転記しようとする、エラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは、エラーログに書き込まれます。エラーログについて詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

## テンプレートまたは仕訳帳の編集

テンプレートまたは仕訳帳はすべて編集できます。例えば、仕訳帳に空白の行を挿入して調整を追加したり、調整を削除することができます。また、転記前の仕訳帳またはテンプレートの説明を変更することもできます。但し、仕訳帳またはテンプレートの ID は変更できません。

仕訳帳は、承認または転記した後でも編集できます。仕訳帳を訂正する前に、自動的に仕訳帳の転記が取り消されます。編集を終えたら、仕訳帳を承認または再び転記して、データベースに訂正済みの調整を適用する必要があります。仕訳帳の承認方法については、[123 ページの「仕訳帳の承認」](#)を参照してください。仕訳帳の転記方法については、[125 ページの「仕訳帳の転記」](#)を参照してください。

仕訳帳を編集した後は、[承認済ステータスを使用] オプションのアプリケーション設定に応じて仕訳帳を承認または転記できます。次の期間を開いた後で、転記済みの自動逆仕訳仕訳帳を編集したり、自動逆仕訳済みまたは逆仕訳済みの仕訳帳を編集することはできません。

- テンプレートまたは転記を取り消した仕訳帳を編集するには、次の手順に従います。
- 1 [仕訳帳] ウィンドウで、編集する仕訳帳を開きます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
- 2 承認済みまたは転記済みの仕訳帳を編集するには、[編集] をクリックします。
- 3 必要に応じて説明と調整情報を変更します。
- 4 [ファイル] メニューから [上書き保存] を選択し、仕訳帳に対する変更を保存します。

## 仕訳帳の逆仕訳

仕訳帳を逆仕訳して、転記済みの仕訳帳の値を元に戻すことができます。仕訳帳を逆仕訳すると、借方と貸方が逆仕訳されたコピーが作成され、転記されます。逆仕訳された仕訳帳の調整によって、元の仕訳帳の調整は取り消されます。転記

された元の仕訳帳と逆仕訳されたコピーは、ともにアプリケーションに保持され、仕訳帳の完全な監査証跡が作成されます。

[計算式の実行] オプションを選択した場合は、仕訳帳を逆仕訳した後に勘定科目表の残高が調整されます。[計算式の実行] オプションについて詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

ある期間の仕訳帳を逆仕訳すると、その期間の仕訳帳名は使用できなくなります。例えば、第 1 四半期の仕訳帳を逆仕訳した場合、第 1 四半期では同じ名前を持つ他の仕訳帳は作成できませんが、同じ名前を持つ第 2 四半期の仕訳帳は作成できます。

**注：** 逆仕訳した仕訳帳の編集または転記取り消しを行うことはできません。

► 仕訳帳を逆仕訳するには、次の手順に従います。

- 1 [仕訳帳] ウィンドウで、逆仕訳する仕訳帳を開きます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
- 2 [仕訳帳の逆仕訳] をクリックします。

## 仕訳帳の抽出

現在のデータ種別の仕訳帳と仕訳帳テンプレートは、テキストファイルに抽出できます。例えば、あるアプリケーションから仕訳帳を抽出して、他のアプリケーションに読み込むことができます。仕訳帳を抽出するときに、以下のオプションを使用できます。

- [全期間] オプションを使用して、現在のデータ種別のすべての期間から、指定した基準に一致する仕訳帳を抽出します。例えば、転記前のすべての仕訳帳を抽出できます。
- [単一期間] オプションを使用して、現在の期間で選択した仕訳帳のみを抽出します。

[転記済] のステータスの仕訳帳を転記前として抽出することもできます。例えば、あるサイトのロケーションでアプリケーションに仕訳帳を入力して転記し、同じ情報を転記前のデータとして本社に送信する必要があるとします。この場合には、[仕訳帳の抽出] ダイアログボックスで [転記済仕訳帳を転記前として抽出] オプションを選択します。転記済みの仕訳帳のステータスが [転記前] になります。ASCII ファイルでは、これらの転記済み仕訳帳は株の移動を意味する T のステータスを持ち、仕訳帳の ASCII ファイルがシステムに読み込まれたときに転記前の仕訳帳と同じように扱われます。仕訳帳の転記方法については、[125 ページの「仕訳帳の転記」](#)を参照してください。

サーバベースの処理を使用して仕訳帳を抽出する場合は、抽出状況を示すウィンドウが表示されます。このウィンドウは別のプログラムであるため、サーバの処理中に Hyperion Enterprise で他のタスクを実行したり、Hyperion Enterprise を終了することができます。サーバで処理が終了するとこのウィンドウは閉じます。問題が発生した場合はエラーメッセージが表示されます。

- ▶ 仕訳帳を抽出するには、次の手順に従います。
- 1 [仕訳帳] ウィンドウから次のいずれかの操作を行います。
    - すべての期間の仕訳帳を抽出するには、[タスク] メニューの [仕訳帳の抽出] から [全期間] を選択します。
    - 現在の期間の仕訳帳を抽出するには、[タスク] メニューの [仕訳帳の抽出] から [単一期間] を選択し、抽出する仕訳帳を開きます。
  - 2 ファイル名を入力して抽出した仕訳帳を保存するか、[参照] をクリックしてファイルを指定します。
  - 3 抽出した仕訳帳で、データ項目の区切り文字に感嘆符 (!) 以外の文字を使用するには、[区切り文字] 編集ボックスに文字を入力します。
  - 4 転記済みの仕訳帳を転記前として抽出するかどうかを選択します。
  - 5 仕訳帳の一覧をフィルタします。
  - 6 [OK] をクリックします。  
[サーバーオプション] ダイアログボックスが表示されます。
  - 7 アプリケーションがサーバ対応で、サーバ上でタスクを実行する場合は、[サーバー] を選択します。ローカルワークステーションで実行する場合は、[ローカル] (選択可能な場合) を選択します。

## 仕訳帳の読み込み

転記済または転記前の仕訳帳および仕訳帳テンプレートをテキストファイルから現在のデータ種別に読み込むことができます。例えば、あるアプリケーションから抽出した標準仕訳帳テンプレートを他のアプリケーションに読み込むことができます。また、テキストエディタで作成または編集した仕訳帳を読み込むこともできます。

テキストファイルから仕訳帳を読み込む場合は、読み込む仕訳帳の種別を指定します。例えば、テキストファイルに経常仕訳帳テンプレートが含まれている場合は、テンプレート、転記済み仕訳帳、またはその両方を読み込むことができます。仕訳帳の読み込みと抽出ファイルの書式については、[131 ページの「仕訳帳の読み込みと抽出ファイルの書式」](#)を参照してください。

ASCII ファイルから仕訳帳を読み込む場合は、既存の転記前仕訳帳のラベルを上書きすることができます。上書きに関する情報はエラーログに記録され、読み込みの終了時に、このエラーログを参照するよう通知する警告メッセージが表示されます。現在のデータ種別に対して、選択した種別のすべての仕訳帳が読み込まれます。仕訳帳に対して開いていない期間の仕訳帳を読み込むと、その期間が開かれます。転記済みの仕訳帳を読み込むと、仕訳帳の調整が転記されたエンティティは保護され、そのデータとステータスは影響を受けません。これによって、値の調整が二重に適用されることがなくなります。

**注：** 転記済み仕訳帳を読み込むには、[修正] のセキュリティ権を [転記済み仕訳帳の読込] セキュリティタスクに設定する必要があります。

仕訳帳の自動番号付けを使用するアプリケーションでは、仕訳帳の読み込み時に各仕訳帳に 5 桁の番号が割り当てられます。仕訳帳の読み込みは、読み込みファイルに含まれる内容と同じ順序で行われます。詳しくは、[112 ページの「仕訳帳番号」](#)を参照してください。

仕訳帳の読み込みファイルは、必ず特定の書式に従う必要があります。Hyperion Enterprise SE の書式を使用するファイルから仕訳帳を読み込むには、[1.8 Format (バージョン 1.8 の書式を使用)] オプションを使用します。仕訳帳の読み込み時に発生したエラーは、エラーログに記録されます。エラーログについて詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

**注：** ASCII テキストファイルから仕訳帳を読み込む場合、データベースのデータは変更されません。例えば、転記済み仕訳帳を読み込んだ場合、データに対する仕訳帳の効果は、データベースに既に書込まれているものと見なされます。そのため、ASCII テキストファイルを使用してアプリケーションを再構築する場合には、仕訳帳を読み込む前にデータベースを読み込む必要があります。

サーバーベースの処理を使用して仕訳帳を読み込む場合は、読み込み状況を示すウィンドウが表示されます。このウィンドウは別のプログラムであるため、サーバーの処理中に Hyperion Enterprise で他のタスクを実行したり、Hyperion Enterprise を終了することができます。サーバーで処理が終了するか、エラーが発生すると、このウィンドウは閉じます。

► 仕訳帳を読み込むには、次の手順に従います。

- 1 [仕訳帳] ウィンドウで、[タスク] メニューの [仕訳帳の読込] を選択します。
- 2 仕訳帳の読み込み元のファイル名を入力するか、[参照] をクリックしてファイルを指定します。
- 3 読み込むファイルが区切り文字として感嘆符 (!) を使用していない場合は、[区切り文字] ボックスに正しい文字を入力します。
- 4 各チェックボックスを使用して、読み込む仕訳帳をフィルタします。
- 5 [OK] をクリックします。

[サーバーオプション] ダイアログボックスが表示されます。

- 6 アプリケーションがサーバー対応で、サーバー上でタスクを実行する場合は、[サーバー] を選択します。ローカルワークステーションで実行する場合は、[ローカル] (選択可能な場合) を選択します。

## 仕訳帳の読み込みと抽出ファイルの書式

テキストファイルから Hyperion Enterprise に仕訳帳を読み込む場合は、テキストファイルは次の書式に従う必要があります。

[JOURNAL=ID, Attribute, Template, Type, Status, Category, Period, Class, Parent, Code, Future] DESC=Description<Entity1>,<Account1>,<Debit1>,<Credit1>.....<Entityn>,<Accountn>,<Debitn>,<Creditn>

変数	説明
ID	仕訳帳の名前
Attribute	貸借不一致の調整の場合は U、貸借一致の調整の場合は B、エンティティ単位で貸借一致の調整の場合は E
Template	仕訳帳の場合は J、経常テンプレートの場合は R、標準テンプレートの場合は S
Type	通常の調整の場合は R、自動逆仕訳の調整の場合は A、親の調整の場合は T
Status	転記前仕訳帳の場合は U、転記済み仕訳帳の場合は P、承認済み仕訳帳の場合は W、自動逆仕訳仕訳帳の場合は O、逆仕訳済み仕訳帳の場合は V、転記前として抽出された転記済み仕訳帳の場合は T、保護済みの仕訳帳の場合は L
Category	調整するデータ種別の ID
Period	調整する期間の ID
Class	仕訳帳またはテンプレートに割り当てられているセキュリティクラスの ID
Parent	仕訳帳の親
Code	仕訳帳のコード
Future	データ種別累計表示で将来の期間に反映される調整の場合は C、期別表示で将来の期間に反映される調整の場合は P
Description	仕訳帳またはテンプレートの説明
Entity1	調整表の 1 行目のエンティティ
Account1	調整表の 1 行目の勘定科目
Debit1	調整表の 1 行目の借方
Credit1	調整表の 1 行目の貸方
Entityn	調整表の最後の行のエンティティ
Accountn	調整表の最後の行の勘定科目
Debitn	調整表の最後の行の借方
Creditn	調整表の最後の行の貸方

## 仕訳帳作成レポート

仕訳帳作成レポートには、データベースで行われた仕訳帳の調整に関する情報が記載されます。選択した仕訳帳または勘定科目で作成できる仕訳帳作成レポートは次のとおりです。

- 仕訳帳レポート
- 記録レポート
- 試算表レポート

仕訳帳作成レポートの内容と書式を選択した後で、レポートをプレビューまたは印刷できます。実行する仕訳帳作成レポートのヘッダー、フッター、ID、列、行、データを指定できます。

## 仕訳帳レポートまたは記録レポートの作成

仕訳帳レポートと記録レポートには、選択した仕訳帳に関する概要が記載されます。仕訳帳レポートまたは記録レポートを作成する際は、レポートに含める仕訳帳を選択し、レポートの内容と書式を指定します。

仕訳帳レポートには、レポート実行時の仕訳帳のステータス情報が記載されます。仕訳帳の現在のステータスを確認するには仕訳帳レポートを作成します。

記録レポートには、選択した仕訳帳の完全な監査証跡が記載されます。例えば、記録レポートには、ある仕訳帳が転記および逆仕訳されたことや調整の値が表示されます。記録レポートには、仕訳帳の記録についての最も詳細な情報が記載されます。仕訳帳を転記してから編集した場合は、仕訳帳のステータスは「転記前」になります。但し、記録レポートでは、仕訳帳名に P&E が追加されて、仕訳帳が転記済みおよび編集済みであることが示されます。

アプリケーション設定時に自動番号付けオプションを選択した場合は、削除した仕訳帳を仕訳帳レポートに含めることができます。仕訳帳レポートには、詳細のない削除済み仕訳帳の一覧が含まれます。自動番号付け方法については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

➤ 仕訳帳レポートまたは記録レポートを作成するには、次の手順に従います。

1 [仕訳帳] ウィンドウから次のいずれかの操作を行います。

- 仕訳帳レポートを作成するには、[タスク] メニューの [仕訳帳作成レポート] から [仕訳帳レポート] を選択します。
- 記録レポートを作成するには、[タスク] メニューの [仕訳帳作成レポート] から [記録レポート] を選択します。

2 仕訳帳の一覧をフィルタします。

3 仕訳帳一覧をさらに詳細にフィルタするには、[条件] を選択し、フィルタ基準を指定して [OK] をクリックします。

4 レポートに含める 1 つまたは複数の仕訳帳を選択し、[OK] をクリックします。

5 レポートの列と属性を選択します。

6 必要に応じて次の作業を行います。

- レポートを印刷するには、[印刷] をクリックします。Hyperion Enterprise での印刷およびプレビューの手順については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
- レポートをプレビューするには、[プレビュー] をクリックします。
- 現在の設定をデフォルトとして保存するには、[デフォルト設定] をクリックします。
- [仕訳帳] ウィンドウに戻るには、[閉じる] をクリックします。

## 試算表レポートの作成

選択した勘定科目の残高を確認するには、試算表レポートを作成します。試算表レポートには、仕訳帳の調整が行われた勘定科目についての情報が記載されます。

試算表レポートを作成する際は、まずデータの視点のエンティティと、試算表に含める勘定科目を選択し、次にレポートの書式を指定します。

- ▶ 試算表レポートを作成するには、次の手順に従います。
- 1 [仕訳帳] ウィンドウで、[タスク] メニューの [仕訳帳作成レポート] から [試算表レポート] を選択します。
- 2 勘定科目を選択して [OK] をクリックします。
- 3 オプション：任意の列の [幅] ボックスで列の幅を変更します。
- 4 必要に応じて次の作業を行います。
  - レポートを印刷するには、[印刷] をクリックします。
  - レポートをプレビューするには、[プレビュー] をクリックします。
  - 現在の設定をデフォルトとして保存するには、[デフォルト設定] をクリックします。
  - 印刷、プレビュー、またはデフォルトの設定を行わずにダイアログボックスを閉じるには、[閉じる] をクリックします。

# 6

## Hyperion Enterprise Webの使用

### この章の内容

Hyperion Enterprise Web の機能 .....	135
データの視点の選択 .....	136
データの読み込み .....	136
連結ステータスの表示 .....	139
データの連結 .....	140
タスクステータスの表示 .....	141
データの表示 .....	142
FDM へのデータドリルバックの操作 .....	147
アプリケーションエラーログの表示 .....	148
Web リンクのカスタマイズ .....	148
Web での仕訳帳の入力 .....	149
仕訳帳モジュール .....	149
仕訳帳とテンプレート .....	150
仕訳帳とテンプレートの作成 .....	150
仕訳帳の承認 .....	152
仕訳帳の転記 .....	153
仕訳帳の読み込み .....	155
ユーザー設定変更 .....	155
メッセージクライアント .....	155

## Hyperion Enterprise Web の機能

Hyperion Enterprise Web では、Web ベースアプリケーションの設定、データ、仕訳帳、テンプレート、連結ステータス、イベントログ、アクティブな Web ユーザおよびタスクステータスの表示、データおよび仕訳帳の読み込み、期間の表示、さらにインターネットやイントラネット経由での Web ベースでの連結など、さまざまな処理が可能です。Hyperion Enterprise Web を使用すると、インターネットまたはイントラネットで接続されているすべてのリモートロケーションからデータを連結したり読み込んだりできます。Hyperion Enterprise Web の機能に対するセキュリティ権限は、システム管理者が Hyperion Enterprise で設定します。詳しくは、システム管理者に問い合わせてください。

## データの視点の選択

データの視点（POV）とはアプリケーションの起動時に、Hyperion Enterprise Web がアクセスするデータを指定するためにユーザが定義する要素の集まりです。POV バーは一連のリンクで構成されており、ナビゲーションメニューバーの下方にあります。各リンクは、データ種別、レポート期間、組織、エンティティ、親などの POV の要素を表しています。アプリケーションを作成するときに連結詳細オプションを選択すると、連結詳細を表示することもできます。POV 要素の項目はアルファベット順に表示されます。数値は桁ごとに数字順に表示されます。例えば、期間は 1、2、10、11、12、13、20、21 というように並べられます。詳しくは、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。

**注：** POV から親要素をクリアしたり変更したりすると、その子要素も自動的に調整されます。例えば、データ種別を「なし」に設定すると、レポート期間も「なし」に設定されます。

➤ POV を選択するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Web デスクトップで POV 要素のリンクをクリックします。

[要素の選択] ページが表示されます。

- 2 スクロールリストの POV 要素をクリックし、[Select Dimension（ディメンションの選択）] をクリックします。

**ヒント：** POV 要素は、[検索] ボックスに要素名の最初の 1 文字以上を入力し、[Select Dimension（ディメンションの選択）] をクリックして検索できます。入力した検索条件に適合する最初の POV 要素が一覧に表示されます。

他のレコードを表示するには、[次へ] および [戻る] ボタンを選択します。

- 3 さらに POV 要素を選択するには、[要素の選択] ページの上部にある要素のリンクをクリックし、ステップ 2 を繰り返します。
- 4 [POV の設定] をクリックし、選択した要素に POV を設定します。

## データの読み込み

データを読み込むと、Hyperion Enterprise データを異なる場所、アプリケーション、またはソフトウェアパッケージ間で転送できます。例えば、他のサイトから抽出されたデータを本社のアプリケーションに読み込んだり、総勘定元帳から Hyperion Enterprise にデータを読み込むことができます。

ASCII ファイルのデータを Hyperion Enterprise のデータベースに読み込むことができます。総勘定元帳やスプレッドシートなど、多くの外部システムを使用して、Hyperion Enterprise に読み込むことのできる ASCII ファイルを作成できます。必要に応じて、ASCII ファイルは読み込む前にテキストエディタで編集できます。

▶ データファイルを読み込むには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Web デスクトップのグローバル選択フレームで「データ」を選択します。

データモジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。

- 2 ローカル選択フレームで「データの読込」をクリックします。

「データの読込」 ページが表示されます。このページには、図 22 に示すような「データの読込」 ボックスがあります。

図 22 「データの読込」 ボックス

**Load Data**

**File Properties**

File path:   ☒ Upload

☒ Merge ☐ Replace ☐ Accumulate

Format:

**Conversion Tables**

☐ Override Format Conversion Tables

Account:

Entity:

**Data Options**

☐ Calculate Formulas

☐ Report Calc Accounts

☐ Zero No Data

- 3 「ファイルプロパティ」 ボックスに、アップロードするファイルの名前を入力するか、[参照] をクリックしてファイルを検索します。
- 4 オプション：サーバにアップロードせずに指定されたデータファイルを読み込むには、[アップロード] チェックボックスをオフにします。[アップロード] チェックボックスをオンにすると、Web にファイルがアップロードされます。

**注：** データをアップロードする場合は、データファイルと Web サーバ間が完全にアクセス可能になっていることを確認します。

- 5 以下のいずれかのモードオプションを選択します。

- **結合** - データ読み込みファイルで指定された勘定科目の既存の値のみをクリアしてから、それをデータ読み込みファイル内の値と置き換えます。[置換] オプションとは異なり、[結合] オプションがクリアするのは読み込みファイルで指定された勘定科目の値のみです。
  - **置換** - データ読み込みファイルで指定されている期間のすべての勘定科目から既存の値をクリアし、データ読み込みファイルの値を読み込みます。読み込みファイルで勘定科目が指定されていない場合は、指定された期間の勘定科目の値は読み込み中にクリアされます。
  - **累計** - データ読み込みファイル内の値を、アプリケーションの既存の値に加算します。
- 6 [書式] ドロップダウンリストからデータファイルの書式を選択するか、[デフォルト] を選択してシステムのデフォルトの書式を使用します。
- 7 オプション：選択した書式で指定されているものとは違う勘定科目変換表またはエンティティ変換表を使用するには、[変換表] の [書式変換表の上書き] チェックボックスをオンにします。
- 8 オプション：[変換表] で、[勘定科目] ドロップダウンリストから勘定科目変換表を選択するか、[エンティティ] ドロップダウンリストからエンティティ変換表を選択します。または、勘定科目変換表とエンティティ変換表の両方を選択します。
- 注：** 勘定科目変換表またはエンティティ変換表は、[書式変換表の上書き] チェックボックスをオンにしている場合のみ選択できます。
- 9 [データオプション] で 1 つまたは複数のチェックボックスをオンにし、読み込んだデータを Hyperion Enterprise Web でどのように処理するかを指定します。
- **計算式の実行** - データ読み込み時に計算を実行します。読み込み完了後に計算を手動で実行する必要はありません。
  - **算出勘定を記録** - 算出勘定科目にデータを読み込もうとした試みを記録します。通常、算出勘定科目には、他の勘定科目から取り出された値が含まれています。
  - **データなしはゼロ** - 読み込みファイル内のデータなしの値を Hyperion Enterprise 勘定科目内でゼロ値に変換します。Hyperion Enterprise Web では、前期にデータがある勘定科目にデータなしの値を読み込んだ場合のみ、データなしの値がゼロ値に変換されます。
- 10 [送信] をクリックします。
- [アップロード] チェックボックスがオンになっている場合は [Upload Progress (アップロードの進行状況)] ウィンドウが表示されます。

---

**注意** Web ブラウザでアップロードを行っている間は、アップロードが完了するまでは他の操作を行わないでください。他の操作を行うと、ファイルのアップロードがキャンセルされます。アップロードの実行中、[アップロード中] ページでは、[Upload Progress (アップロードの進行状況)] ウィンドウを閉じた後に [進行状況の表示] をクリックしてウィンドウを再表示する操作か、または [アップロードのキャンセル] をクリックしてアップロードをキャンセルする操作のみが可能です。

---

データ読み込みが完了すると、サーバにデータをアップロードしたかどうかに関係なく、[タスク送信ステータス] ページが表示されます。このページには、データ読み込みが正常に行われたかどうかを示す次のコードのいずれかが表示されます。

- 0 - 正常にデータが読み込まれました。
- 2 - データの読み込みに失敗しました。
- 3 - データの読み込みに失敗しました。

2 または 3 が表示された場合は、アプリケーションのエラーログを確認してください。詳しくは、[148 ページの「アプリケーションエラーログの表示」](#)を参照してください。

## 連結ステータスの表示

[連結ステータス] ページには、現在のデータ種別内の各エンティティおよび期間のステータスが表示されます。[連結ステータス] ウィンドウには、それまでのデータやロジックの変更による影響を受け、連結の必要があるエンティティおよび期間が表示されます。また、具体的な期間についてデータがないエンティティも表示されます。

**ヒント：** [連結ステータス] ページ内は簡単に移動することができます。[現在のパス] フィールド内のエンティティ名をクリックすると、現在のパス構造内を移動できます。また、[連結ステータス] ページの左側の列にある下方向ボタンをクリックすると、指定のエンティティにドリルダウンできます。50 を超えるエンティティが表示されている場合は、[Page Up] キーまたは [Page Down] キーを使用して画面をスクロールします。

► 連結ステータスを表示するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Web デスクトップで、連結ステータスを表示する POV を選択します。
- 2 グローバル選択フレームで [連結] を選択します。  
連結モジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。
- 3 [連結ステータスの表示] を選択します。  
連結ステータスフレームが表示されます。
- 4 [グリッドの更新] をクリックします。

**注：** データは他のユーザによって常時変更または連結される可能性があります。[グリッドの更新] オプションを使用することによって、いつでも最新のデータを取得できます。

## エンティティまたは勘定科目の検索

[検索] オプションを使用すると、現在の組織内のエンティティを検索したり、現在のグリッドタイプ内の勘定科目を検索したりできます。[検索] オプションは、[連結ステータス] ページと [データの表示] ページでのみ利用できます。

- ▶ エンティティを検索するには、次の手順に従います。
  - 1 連結ステータスの表示フレームから [検索] をクリックします。
  - 2 [検索] ボックスにパス名全体または一部を縦線 (|) で区切って入力するか、またはエンティティ名を入力します。
  - 3 現在のパス内だけを検索するには、[現在のパス内対象] を選択します。
  - 4 [次を検索] をクリックして検索を開始します。
- ▶ 勘定科目を検索するには、次の手順に従います。
  - 1 データの表示フレームから [検索] をクリックします。
  - 2 [検索] ボックスに勘定科目名を入力し、[検索] をクリックします。  
指定の勘定科目にグリッドがスクロールします。

## データの連結

連結は、子エンティティからデータを収集し、それを親エンティティに集計する処理です。連結中、子勘定科目の値は、親勘定科目に集計されます。各親の財務データは、子から連結された値で構成されています。子のデータを変更すると、親のデータは連結時に変更されます。

連結を実行する場合、組織内のすべてのエンティティについて現在のデータ種別のデータを連結したり、組織内の特定のエンティティについて現在のデータ種別のデータを連結することができます。特定のエンティティの連結は部分連結とも呼ばれ、組織内の最上位エンティティ以外のエンティティについてレポートを作成する必要がある場合に便利です。例えば、「企業」組織における子エンティティである Europe エンティティのレポートを作成するとします。この場合、Europe のデータのみを連結し、Europe の連結データについてレポートを作成できます。詳しくは、第 4 章「データの連結」を参照してください。

- ▶ データを連結するには、次の手順に従います。
  - 1 Hyperion Enterprise Web デスクトップのグローバル選択フレームで [連結] を選択します。  
連結モジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。
  - 2 ローカル選択フレームで [連結] を選択します。  
データの連結フレームが表示されます。
  - 3 データの連結フレームで、以下のいずれかの操作を行います。
    - 「影響あり」ステータスを持つエンティティのみを連結するには、[影響あり] を選択します。

- 選択したエンティティのうち、データのあるものをすべて連結するには、[データのあるものすべての連結] を選択します。
- データの有無にかかわらず、選択したエンティティと期間をすべて連結するには、[すべて] を選択します。

4 [開始期間]、[終了期間]、[親] を選択します。

5 [送信] をクリックして連結を開始します。

**注：** 連結を開始すると、あらかじめ定義されているタスクサーバが処理を行います。

[タスク送信ステータス] ページが表示されます。

6 連結タスクがキューに追加されていることを確認します。

7 [デスクトップに戻る] をクリックします。

## タスクステータスの表示

[タスクステータス] ページには、データ読み込みおよび連結のためにタスクサーバに送信されたタスクが表示されます。タスクは、状態、日付、時間によってフィルタすることができます。タスクステータスをチェックすることによって、データの読み込みや連結が完了したかどうかを確認できます。

▶ タスクステータスを表示するには、次の手順に従います。

1 Hyperion Enterprise Web デスクトップのグローバル選択フレームで [ログ] を選択します。

ログモジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。

2 ローカル選択フレームで [タスクステータスの表示] を選択します。

タスクステータスフレームが表示されます。このフレームには、[タスクの表示] ボックス (図 23 を参照) とタスク一覧の列見出しが含まれています。タスク一覧に含めるタスクを指定するには、[タスクの表示] ボックスを使用します。

図 23 [タスクの表示] ボックス

The screenshot shows a web interface titled "Display Tasks" with a "Filters" section. It includes several input fields and dropdown menus for filtering tasks. The "Task State" dropdown is set to "All". The "Start Date (mm/dd/yyyy)" and "End Date (mm/dd/yyyy)" fields are empty. The "Start Time" and "End Time" dropdowns are both set to "12:00 AM". There is a "Select User:" dropdown set to "USER" and a checkbox labeled "Show Tasks of All Users" which is unchecked. A "Submit" button is located at the bottom right of the filter section.

3 [タスクのステータス] ドロップダウンリストからタスクのステータスを選択します。

4 オプション：[開始日] ボックスに MM/DD/YYYY 形式で日付を入力するか、またはカレンダーのアイコンをクリックして日付を選択します。開始日を指定しない場合は、指定終了日以前のすべてのタスクが一覧表示されます。

- 5 [開始時間] ドロップダウンリストで、タスク一覧の開始時間を選択します。開始時間を指定しない場合は、指定終了時間以前のすべてのタスクが一覧表示されます。
- 6 [終了日] ボックスに MM/DD/YYYY 形式で日付を入力するか、またはカレンダーのアイコンをクリックして日付を選択します。終了日を指定しない場合は、指定開始日以降のすべてのタスクが一覧表示されます。
- 7 [終了時間] ドロップダウンリストで、タスク一覧の終了時間を選択します。終了時間を指定しない場合は、指定開始時間以降のすべてのタスクが一覧表示されます。
- 8 [送信] をクリックします。  
指定条件に適合するタスクのステータスがタスク一覧に表示されます。
- 9 オプション：次の 1 つ以上の操作を実行します。
  - 実行中のタスクを停止するには、[キャンセル] をクリックし、[タスクの取り消し] をクリックします。
  - タスク実行時にエラーが発生したかどうかを確認するには、そのタスクの [ログ] 列にあるアイコンをクリックします。

## データの表示

データは、以下のどのタイプのグリッドにも表示できます。

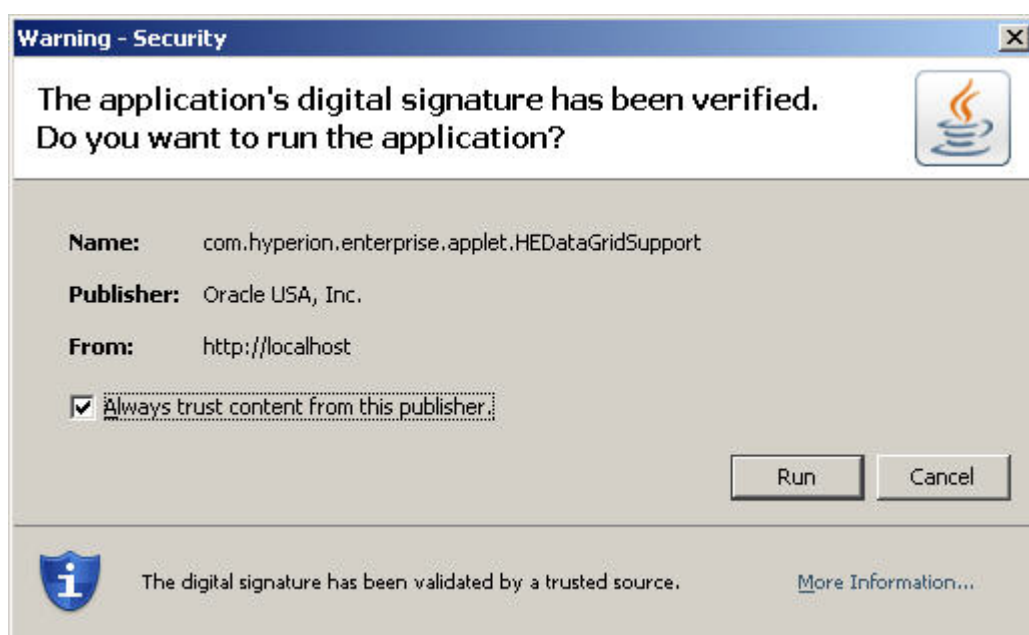
- 勘定科目表
- 連動勘定科目一覧
- 固定勘定科目一覧
- 連動サブ勘定科目付き固定勘定科目一覧
- データ入力表

[データの表示] ウィンドウに初めてアクセスすると、勘定科目表にすべての勘定科目グループが一覧表示され、各グループの勘定科目にデータが含まれているかどうかを示されます。

勘定科目列にあるグループ名の左側のプラス記号 (+) をクリックすると、そのグループに含まれている勘定科目を表示できます。50 を超えるグループまたは勘定科目が一覧表示されている場合は、[Page Up] ボタンと [Page Down] ボタンを使用して、表示されていないグループ名や勘定科目名を表示できます。[検索] をクリックしてグループまたは勘定科目の名前を入力し、表示された一覧内を検索することもできます。

- ▶ データを表示するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Enterprise Web デスクトップのグローバル選択フレームで [データ] を選択します。  
データモジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。
  - 2 ローカル選択フレームで [データの表示] を選択します。  
[警告 - セキュリティ] ページ (図 24 を参照) が表示されます。アプリケーションのデジタル署名である [警告 - セキュリティ] アプレットはこのページからインストールできます。

図 24 「警告 - セキュリティ」 ページ



3 次の手順に従ってインストールを完了します。

- アプリケーションのデジタル署名である「警告 - セキュリティ」 アプレットをインストールするには、「実行」 をクリックします。
- アプリケーションのデジタル署名である「警告 - セキュリティ」 アプレットのインストールも実行も行わない場合は、「キャンセル」 をクリックしてインストールプロセスを終了します。

**注：** アプリケーションのデジタル署名である「警告 - セキュリティ」 アプレットをインストールしない場合は、「データの表示」 グリッドにデータを手動で入力したり、データを直接編集したりすることはできません。

アプリケーションのデジタル署名をインストールして実行するためのオプションを選択するとき、「データの表示」 ページに勘定科目表全体が表示されます。

- 「License Agreement (ライセンス契約)」 ダイアログボックスで、「Typical setup (標準セットアップ)」 オプションを選択し、「Accept (同意する)」 をクリックします。
- 「Java Runtime SE Environment (Java Runtime SE 環境)」 ダイアログボックスで、「次へ」 を選択してインストールプロセスを続行します。
- 「Finish (終了)」 をクリックしてウィザードを終了します。

4 オプション：データ表示を変更するには、現在選択されているオプションをクリックします。

データ表示オプションには、「期別」と「CTD」(データ種別累計) があります。「CTD」 をクリックすると表示が「期別」 に変わり、「期別」 をクリックすると表示が「CTD」 に変わります。

- 5 オプション：勘定科目表全体ではなく勘定科目一覧またはデータ入力表を表示するには、[グリッドの種類] ドロップダウンリストから勘定科目一覧の種類を選択するか、[データ入力表] を選択し、[選択] をクリックします。

[Select Element Web Page (要素の選択 - Web ページ)] ダイアログボックスが表示されます。

- 6 前の手順で勘定科目一覧の種類またはデータ入力表を選択した場合は、[Select Element Web Page (要素の選択 - Web ページ)] ダイアログボックスで勘定科目一覧またはデータ入力表の名前をクリックし、[Select Dimension (ディメンションの選択)] をクリックします。

**ヒント：** 一覧内の勘定科目一覧やデータ入力表を検索するには、[検索] ボックスにそれらの名前の全体または一部を入力し、[実行] をクリックします。一覧がスクロールして、入力した条件に合う最初の勘定科目一覧またはデータ入力表の名前が表示されます。

- 7 [グリッドの更新] をクリックします。

データグリッドが更新され、選択した勘定科目一覧またはデータ入力表のデータが表示されます。[データの表示] ページで具体的な勘定科目を検索する方法については、[140 ページの「エンティティまたは勘定科目の検索」](#)を参照してください。

**注：** データは他のユーザによって常時変更または連結される可能性があります。[グリッドの更新] オプションを使用することによって、いつでも最新のデータを取得できます。


## データ入力表オプションの設定

次の各オプションによって、データ入力表の表示内容と、データの計算方法を決定します。

- 勘定科目列の勘定科目ラベルまたは説明、あるいは勘定科目ラベルおよび説明の表示
- 全期間のデータまたは現在の期間のデータの表示
- 計算式の表示または非表示
- データのない勘定科目行の非表示

複数の [データの表示] ページを同時に開いている場合、選択したオプションはアクティブなページにのみ反映されます。

▶ データ入力表のオプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 [データの表示] ページから、データ入力表を開きます。[142 ページの「データの表示」](#)を参照してください。
- 2 [データの表示] ページから、 ([データ入力表オプション]) を開きます。
- 3 勘定科目ラベルまたは説明、あるいは勘定科目ラベルと説明のどちらを表示するか、計算式を実行するかどうか、表示される期間、および計算式などを指定します。
- 4 データのない勘定科目行を非表示にするかどうかを指定します。

- 5 [OK] をクリックします。

## データの入力と編集

Hyperion Solutions アプレットがインストールされている場合は、[データの表示] グリッドにデータを手動で入力したり、データを直接編集したりできます。

▶ データを入力するには、次の手順に従います。

- 1 データを入力または編集するセル内をクリックします。
- 2 ハイライトされたセル内に新しいデータを入力します。
- 3 [ファイルに保存] をクリックし、ファイルおよびディレクトリを指定してデータを保存します。

---

**注意** データをファイルに保存しないと、変更内容は失われ、Hyperion Enterprise にアップロードできません。

---

- 4 以下のオプションを 1 つまたは複数選択してファイルの保存方法を指定します。
  - 入力勘定をすべて抽出 - ページに表示されるすべての入力勘定科目を抽出します。このオプションを選択しない場合は、更新されたセルのみが抽出されます。
  - 保護された期間の抽出 - 保護されている期間を抽出します。
  - 既存ファイルに追加 - 既存のデータファイルにデータを追加します。
  - データファイルのアップロード - ファイルをサーバにアップロードし、Hyperion Enterprise にデータを読み込みます。

[データファイルのアップロード] チェックボックスをオンにすると、[モード] ドロップダウンリストと [書式] ドロップダウンリストが表示されます。

**注：** [データファイルのアップロード] オプションをオンにしない場合、データファイルは作成されますが、後で [データの読込] 機能を使用してファイルを手動でアップロードする必要があります。

- 5 [データファイルのアップロード] チェックボックスをオンにした場合は、[モード] ドロップダウンリストからアップロードモードを選択し、[書式] ドロップダウンリストからアップロードデータの書式を選択します。
- 6 [ファイルの保存] をクリックします。

## データの保護と保護解除

期間を保護または保護解除して、データの変更を禁止または許可できます。保護されている期間のデータを変更または連結することはできません。期間を保護して値を固定し、後で値を変更する必要があるときに期間の保護を解除できます。例えば、1 月の期間のデータをすべて入力したら、レポートを実行するまでこの期間を保護し、データが誤って変更されないようにすることができます。詳しくは、第 2 章「データの読み込みと抽出」を参照してください。

- ▶ データの保護や保護解除を行うには、次の手順に従います。
- 1 データの表示フレームから「データの保護／保護解除」をクリックします。  
[データの保護／保護解除] ページが表示されます。
  - 2 次のいずれかの操作を行います。
    - 期間が保護されていない場合は「保護」をクリックします。
    - 期間が保護されている場合は「保護解除」をクリックします。
  - 3 保護または保護解除するエンティティ一覧を選択します。
  - 4 データを保護または保護解除する期間を指定します。
  - 5 「送信」をクリックします。
- [タスク送信ステータス] ページが表示され、キューに正常にタスクが追加されたかどうかが表示されます。タスクのステータスの表示方法について詳しくは、[141 ページの「タスクステータスの表示」](#)を参照してください。

## Hyperion Enterprise Web でのデータの表示方法

Hyperion Enterprise Web では、単位数値書式を使用してデータを表示または入力できます。データの表示および変換方法は単位オプションで指定します。必要な精度でデータを入力できると、時間を節約できます。例えば、U.S. Region エンティティの単位を千単位 (3) に設定し、U.S. Region の Sales 勘定科目に値 6 を入力すると、表示される値は 6 ですが、実際は値 6,000 がシステムに保存されます。Sales 勘定科目に単位を指定せずに 6 と入力すると、表示される値も保存される値も 6 となります。

**注：** 単位設定を使用するには、勘定科目の単位オプションが有効になっていることを確認する必要があります。単位は、データ種別またはエンティティに対して設定します。データ種別で単位が設定されていない場合は、[データの視点] で選択されているエンティティの単位が使用されます。

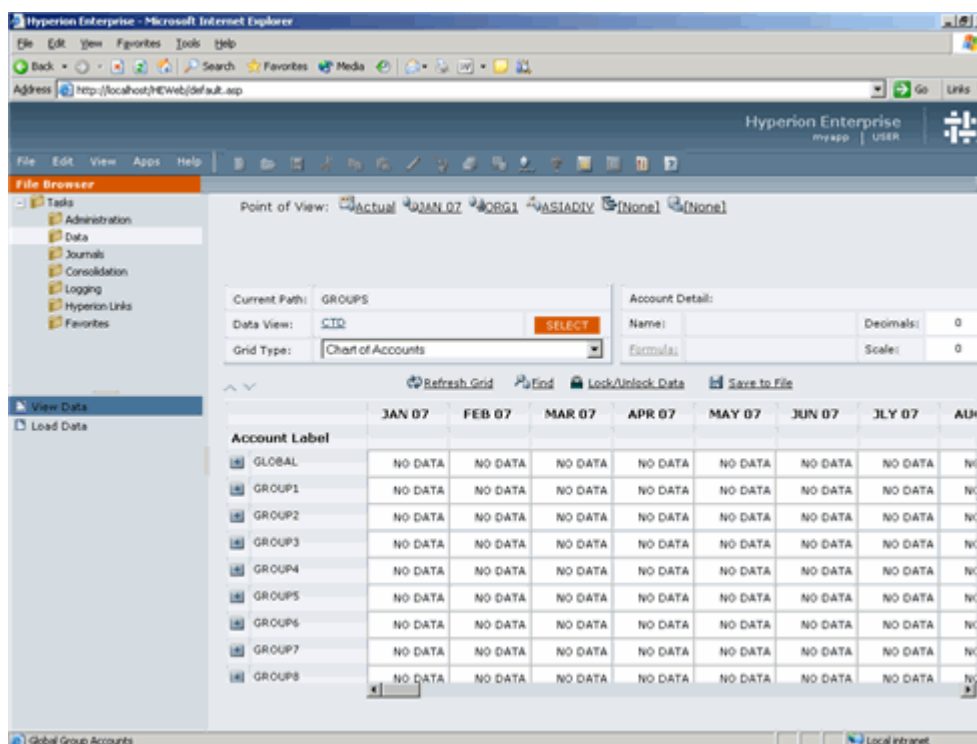
Hyperion Enterprise で数値書式を指定すると、Hyperion Enterprise Web では、千の区切り文字を千、百万、および十億の区切り文字として使用します。システム設定を使用すると、クライアントコンピュータのオペレーティングシステムの設定によって数値書式が指定されます。

[小数表示] の詳細情報には、[データの表示] ページの勘定科目値の小数点以下の桁数が表示されます。例えば、勘定科目の [小数表示] 属性を 0 (ゼロ) に設定すると、その勘定科目値は整数で表示されます。勘定科目の [小数表示] 属性を 2 に設定すると、その勘定科目値は 8.25 というように、小数点以下 2 桁の値で表示されます。

**注：** 入力した値の小数点以下の桁数が勘定科目について表示する小数点以下の桁数よりも大きい場合、指定された桁数に四捨五入されます。例えば、単位が 0、小数点以下の桁数が 2 の場合に「1.321」と入力すると、フィールドからカーソルを移動するか、または [Enter] キーを押すと、「1.32」と表示されます。

[データの表示] ページの [勘定科目の詳細] には、データ種別やエンティティの単位、選択した勘定科目の小数点以下の桁数が表示されます (図 25 を参照)。

図 25 Hyperion Enterprise Web の [データの表示] ページ



単位について詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## FDM へのデータドリルバックの操作

FDM へのデータドリルバックを操作するには、ビジュアルキューを有効にします。FDM データを含むディメンションを表示するために必要な POV を設定します。

▶ FDM データにドリルバックするには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Web モジュールのグローバル選択フレームで **[データ]** をクリックし、ローカル選択フレームで **[データの表示]** をクリックします。[データの表示] ペインでデータベースセルを右クリックし、**[監査の共通部分]** を選択します。

FDM データのドリルバックページが開きます。

- 2 データについて必要な情報を収集できます。

ドリルバックオプションについて詳しくは、FDM のマニュアルを参照してください。

# アプリケーションエラーログの表示

アプリケーションログとは、Hyperion Enterprise アプリケーションのエラーログです。アプリケーションログには、データ読み込みエラー、連結エラー、Hyperion Enterprise システムエラー、エンティティ保護エラーなど、さまざまな種類のメッセージを記録できます。アプリケーションログを開くと、Hyperion Enterprise Web の使用中に発生したエラーまたはメッセージを確認できます。

アプリケーションログを表示するには、Hyperion Enterprise Web デスクトップから [アプリケーションログの表示] をクリックします。

## Web リンクのカスタマイズ

CustomLinks.js ファイルを使用すると、ツールモジュールからの 4 つの Web ページを選択してそのリンクを作成できます。CustomLinks.js ファイルには以下の情報が含まれています。

```
var CustomLink1_Text = "Oracle" ;  
var CustomLink1_URL = "http://www.oracle.com"  
var CustomLink2_Text = "" ;  
var CustomLink2_URL = "" ;  
var CustomLink3_Text = "" ;  
var CustomLink3_URL = "" ;  
var CustomLink4_Text = "" ;  
var CustomLink4_URL = "" ;
```

CustomLink1\_Text は、最初のリンクに表示されるテキストで、CustomLink1\_URL は、ユーザが最初のリンクを選択したときに表示されるページです。

CustomLink2\_Text および CustomLink2\_URL は 2 番目に表示されるリンクの設定値で、3 番目、4 番目も同様です。

**注：** CustomLink1 のデフォルト設定は Oracle のホームページのリンクです。必要に応じてリンクテキストを編集して CustomLink1 のリンク設定を変更できます。リンクごとに、引用符に囲まれたテキスト部分のみを変更してください。

リンクのテキストまたは URL のいずれかを空白にすると、つまり、テキストを二重引用符で囲んで指定しないと、Hyperion Enterprise Web デスクトップにリンクは表示されません。

リンクを作成した後は、リンク自体、またはリンクに表示するテキストをいつでも編集できます。すべてのリンクは、Hyperion Enterprise Web デスクトップのツールモジュールに表示されます。

➤ Web リンクをカスタマイズするには、次の手順に従います。

- 1 CustomLinks.js ファイルを開きます。このファイルは、Web サーバがインストールされているディレクトリにあります。

- 2 CustomLinks.js ファイルの CustomLink2\_Text 行で、テキストを二重引用符（“ ”）で囲んで入力します。
- 3 CustomLinks.js ファイルの CustomLink2\_URL 行で、Web ページの URL を二重引用符（“ ”）で囲んで入力します。
- 4 作成するリンクごとにステップ 2 ～ 3 を繰り返します。
- 5 CustomLinks.js ファイルを保存します。

## Web での仕訳帳の入力

仕訳帳は、1つのデータ種別および期間の勘定科目の残高に加えられる一連の調整です。仕訳帳は、勘定科目の値の変化を記録し、それらの変化の監査証跡を維持するために使われます。定期的に行う一般的な調整用の仕訳帳テンプレートをを使用すると、期間ごとに仕訳帳を自動作成したり、テンプレートに基づいて仕訳帳を新規作成したりできます。

仕訳帳モジュールでは、仕訳帳の作成、編集、および転記を行うことができます。仕訳帳を転記すると、勘定科目の残高が再計算されてデータベースに調整が反映されます。転記した仕訳帳を調整の記録として参照したり、勘定科目の値に対する変更の記録を確認するためのレポートを作成したりできます。

仕訳帳については、[第 5 章「仕訳帳の入力」](#)を参照してください。

## 仕訳帳モジュール

Hyperion Enterprise Web の仕訳帳モジュールを使用すると、Hyperion Enterprise アプリケーションで作成した仕訳帳やテンプレートの表示、仕訳帳および仕訳帳テンプレートの作成や修正、仕訳帳の承認転記、転記取り消し、読み込みなどを行うことや、期間を開くこともできます。

仕訳帳を操作するには、次の手順に従います。

1. Hyperion Enterprise Web ページのグローバル選択フレームで、[タスク] から [仕訳帳] を選択します。

ローカル選択フレームに、仕訳帳モジュールのリンクが表示されます。

## 仕訳帳とテンプレートの表示

Web 上の Hyperion Enterprise アプリケーションで作成した仕訳帳とテンプレートを表示できます。

- ▶ 仕訳帳とテンプレートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 グローバル選択フレームで [仕訳帳] を選択します。

仕訳帳モジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。

- 2 ローカル選択フレームで [仕訳帳とテンプレート] を選択します。

仕訳帳とテンプレートフレームが表示されます。

# 仕訳帳とテンプレート

「仕訳帳」ウィンドウでは、以下のタスクを行うことができます。

- 仕訳帳と仕訳帳テンプレートの作成および修正
- 仕訳帳の承認
- 仕訳帳の転記
- 仕訳帳の読み込み

## 仕訳帳とテンプレートの作成

仕訳帳とテンプレートを作成するには、以下のタスクを行います。

- 期間を開く
- 仕訳帳テンプレートの作成
- 仕訳帳の作成
- 調整情報の入力

### 期間を開く

仕訳帳の調整は単一のデータ種別および単一の期間に対して行います。ある期間のデータに調整を入力したり転記したりする前に、仕訳帳エンティティの期間を開く必要があります。

期間を開く方法について詳しくは、[119 ページの「期間を開く」](#)を参照してください。

▶ 期間を開くには、次の手順に従います。

- 1 グローバル選択フレームで「仕訳帳」を選択します。

仕訳帳モジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。

- 2 ローカル選択フレームで「期間を開く」を選択します。

期間を開くフレームが表示されます。

- 3 開かれていない次の期間を選択します。前の期間に転記済みの自動逆仕訳の仕訳帳がある場合、仕訳帳が逆仕訳されるという警告メッセージが表示されます。

- 4 コンテンツ領域を更新するには、「更新」をクリックします。

### 仕訳帳テンプレートの作成

標準および経常の2種類の仕訳帳テンプレートを作成できます。標準テンプレートには、頻繁に入力する、よく似た調整の情報が含まれます。標準テンプレートを作成した場合、そのテンプレートはアプリケーションのすべての期間で使用できます。

詳しくは、[120 ページの「仕訳帳テンプレートの作成」](#)を参照してください。

- ▶ 仕訳帳テンプレートを作成するには、次の手順に従います。
- 1 グローバル選択フレームで「仕訳帳」を選択します。  
仕訳帳モジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。
  - 2 ローカル選択フレームで「仕訳帳とテンプレート」を選択します。  
仕訳帳とテンプレートフレームが表示されます。
  - 3 仕訳帳とテンプレートフレームで「新規作成」を選択します。  
新規仕訳帳／テンプレートフレームが表示されます。
  - 4 新規仕訳帳／テンプレートフレームで、「標準」または「経常」を選択し、仕訳帳の種類を選択し、「OK」をクリックします。
  - 5 次のいずれかの操作を行います。
    - 経常テンプレートを作成する場合は、完全な調整情報を入力します。詳しくは、[152 ページの「調整情報の入力」](#)を参照してください。
    - 標準テンプレートを作成する場合は、どの調整詳細を標準テンプレートに含めるかを選択します。必須の情報は ID のみです。
  - 6 「保存」をクリックします。

## 仕訳帳の作成

作成した各仕訳帳には、期間内で一意の ID を割り当てます。Actual データ種別の各期間について CABLEADJ という仕訳帳を作成し、次に別のデータ種別と同じ ID の仕訳帳を作成できます。同じデータ種別で同じ ID の仕訳帳とテンプレートを作成することもできます。但し、あるデータ種別の 1 つの期間に CABLEADJ という仕訳帳を 2 つ作成することはできません。[自動番号] オプションを選択した場合は、以前に削除した仕訳帳と同じラベルの付いた仕訳帳を作成することはできません。

仕訳帳の作成方法について詳しくは、[121 ページの「仕訳帳の作成」](#)を参照してください。

- ▶ 仕訳帳を作成するには、次の手順に従います。
- 1 グローバル選択フレームで「仕訳帳」を選択します。  
仕訳帳モジュールで実行できるタスクがローカル選択フレームに表示されます。
  - 2 ローカル選択フレームで「仕訳帳とテンプレート」を選択します。  
仕訳帳とテンプレートフレームが表示されます。
  - 3 仕訳帳とテンプレートフレームで「新規作成」を選択します。  
新規仕訳帳／テンプレートフレームが表示されます。
  - 4 「仕訳帳」を選択し、作成する仕訳帳の種別を選択します。
  - 5 標準テンプレートに基づいて仕訳帳を作成するには、「標準テンプレートを使用」を選択し、一覧からテンプレートを選択します。
  - 6 「OK」をクリックします。
  - 7 ID を入力し、「Enter」キーを押します。

- 8 仕訳帳またはテンプレートの説明を入力し、次に調整情報を入力します。詳しくは、[152 ページの「調整情報の入力」](#)を参照してください。

**注：** [Journals description (仕訳帳の説明)] フィールドには 254 文字まで入力できます。

- 9 [保存] をクリックします。

## 調整情報の入力

仕訳帳とテンプレートに入力する調整情報には、勘定科目 ID、エンティティ ID、および調整値があります。

調整情報の入力方法について詳しくは、[121 ページの「調整情報の入力」](#)を参照してください。

- ▶ 調整情報を入力するには、次の手順に従います。
  - 1 仕訳帳とテンプレートフレームで、調整を追加する仕訳帳またはテンプレートを作成するか、または開きます。仕訳帳やテンプレートの作成手順については、p.114 の「仕訳帳テンプレートの作成」を参照してください。仕訳帳やテンプレートを開く手順については、『Hyperion Enterprise セットアップガイド』を参照してください。
  - 2 仕訳帳またはテンプレートのコード、セキュリティクラス、およびデータ表示形式を選択します。
  - 3 親の仕訳帳に調整を入力する場合は、比率や消去の値を調整する親を選択します。
  - 4 必要に応じて次の作業を行います。
    - 空白行に調整を追加するには、調整する勘定科目の ID を勘定科目列に入力するか、Web データグリッド内の勘定科目列をダブルクリックし、[Select Element - Web Page (要素の選択 - Web ページ)] ダイアログボックスから勘定科目を選択します。
    - 調整を転記するエンティティを変更するには、該当する既存のエンティティをハイライトし、新しいエンティティ ID を入力するか、または Web データグリッド内のエンティティ列をダブルクリックし、[Select Element - Web Page (要素の選択 - Web ページ)] ダイアログボックスからエンティティを選択します。
    - 調整値を入力するには、調整する行の借方または貸方の列に値を入力します。

**注：** エンティティや勘定科目のラベルが長すぎて全体が表示されない場合は、ラベルにマウスを重ねてください。

- 5 [保存] をクリックします。

## 仕訳帳の承認

仕訳帳のステータスを [承認済] に設定し、転記が可能であることを示します。特定のユーザのみが仕訳帳を承認できるように指定するセキュリティアクセスを定義できます。

詳しくは、[123 ページの「仕訳帳の承認」](#)を参照してください。

## 個々の仕訳帳の承認

仕訳帳とテンプレートフレームでは、個々の仕訳帳のステータスを「承認済」に変更できます。仕訳帳を承認し、それが正しいかどうか確かめ、転記が可能であることを示します。

▶ 個々の仕訳帳を承認するには、次の手順に従います。

- 1 仕訳帳とテンプレートフレームで、承認する仕訳帳を選択し、[承認] をクリックします。

**注：** [承認] が選択可能になっていない場合は、application.ini ファイルの APP\_JOUR\_REVIEW 値を 1 に設定してください。

タスク送信ステータスフレームが表示されます。

- 2 仕訳帳とテンプレートフレームに戻るには、[Return to Journals List Page（仕訳帳の一覧ページに戻る）] をクリックします。

**注：** 仕訳帳テンプレートを承認することはできません。

## 複数の仕訳帳の承認

仕訳帳とテンプレートフレームでは、仕訳帳を個別に開かずに、複数の仕訳帳のステータスを同時に変更できます。これは、仕訳帳を個別に承認するよりも短時間で操作できます。

▶ 複数の仕訳帳を承認するには、次の手順に従います。

- 1 仕訳帳とテンプレートフレームで、承認する仕訳帳を選択し、[承認] をクリックします。

**注：** [承認] が選択可能になっていない場合は、application.ini ファイルの APP\_JOUR\_REVIEW 値を 1 に設定してください。

タスク送信ステータスフレームが表示されます。

- 2 仕訳帳とテンプレートフレームに戻るには、[Return to Journals List Page（仕訳帳の一覧ページに戻る）] をクリックします。

## 仕訳帳の転記

データベースに調整を反映させるには、仕訳帳を転記します。仕訳帳の転記を完了するまでは、調整は仕訳帳にのみ存在し、データベース、連結、計算結果には反映されません。

仕訳帳の転記方法については、[125 ページの「仕訳帳の転記」](#)を参照してください。

## 個々の仕訳帳の転記

個々の仕訳帳の転記は、仕訳帳とテンプレートフレームで行うことができます。これによって、転記する前に仕訳帳の調整を確認できます。

- 個々の仕訳帳を転記するには、次の手順に従います。
  - 1 仕訳帳とテンプレートフレームで、転記する仕訳帳を選択し、[転記] をクリックします。  
タスク送信ステータスフレームが表示されます。
  - 2 仕訳帳とテンプレートフレームに戻るには、[Return to Journals List Page（仕訳帳の一覧ページに戻る）] をクリックします。

**注：** 仕訳帳テンプレートを転記することはできません。

## 複数の仕訳帳の転記

[仕訳帳] ウィンドウでは、仕訳帳を個別に開かずに、複数の仕訳帳を同時に転記できます。

複数の仕訳帳の転記方法について詳しくは、[126 ページの「複数の仕訳帳の転記」](#)を参照してください。

- 複数の仕訳帳を転記するには、次の手順に従います。
  - 1 仕訳帳とテンプレートフレームで、転記する複数の仕訳帳を選択し、[転記] をクリックします。  
タスク送信ステータスフレームが表示されます。
  - 2 仕訳帳とテンプレートフレームに戻るには、[Return to Journals List Page（仕訳帳の一覧ページに戻る）] をクリックします。

**注：** 仕訳帳テンプレートを転記することはできません。

## 仕訳帳の転記取り消し

ある期間のデータベースに広範囲な変更を加える場合は、その期間の仕訳帳の転記を取り消すことができます。

仕訳帳の転記取り消し方法について詳しくは、[127 ページの「仕訳帳の転記取り消し」](#)を参照してください。

- 仕訳帳の転記を取り消すには、次の手順に従います。
  - 1 仕訳帳とテンプレートフレームで、転記を取り消す仕訳帳を選択し、[転記取消] をクリックします。  
タスク送信ステータスフレームが表示されます。
  - 2 仕訳帳とテンプレートフレームに戻るには、[Return to Journals List Page（仕訳帳の一覧ページに戻る）] をクリックします。

注： 仕訳帳テンプレートの転記を取り消すことはできません。

## 仕訳帳の読み込み

転記済または転記前の仕訳帳および仕訳帳テンプレートをテキストファイルから現在のデータ種別に読み込むことができます。例えば、あるアプリケーションから抽出した標準仕訳帳テンプレートを他のアプリケーションに読み込むことができます。また、テキストエディタで作成または編集した仕訳帳を読み込むこともできます。

仕訳帳の読み込み方法について詳しくは、[130 ページの「仕訳帳の読み込み」](#)を参照してください。

- ▶ 仕訳帳を読み込むには、次の手順に従います。
- 1 仕訳帳タスクのリンクがローカル選択フレームに表示された状態で、[仕訳帳の読込]を選択します。  
仕訳帳の読込フレームが表示されます。
- 2 仕訳帳の読込フレームで、仕訳帳の読み込み元であるファイルの名前を入力するか、[参照]をクリックしてファイルを検索します。
- 3 読み込むファイルで感嘆符 (!) が区切り文字として使用されていない場合は、[Default Delimiter Character (デフォルトの区切り文字)] ドロップダウンリストで適切な文字を選択します。
- 4 各チェックボックスを使用して、読み込む仕訳帳をフィルタします。
- 5 [送信] をクリックします。

## ユーザー設定変更

Hyperion Enterprise アプリケーションで FDM データを区別するには [ビュジュアルキューを使用可能にする] を選択します。

## メッセージクライアント

Hyperion Enterprise Web ユーザに対してメッセージオプションを有効にすることを選択できます。



## この章の内容

Hyperion Allocations の機能.....	157
配賦の種類とロジック .....	158
Hyperion Allocations デスクトップ .....	160
Hyperion Allocations の起動.....	162
Hyperion Allocations 設定変更の指定 .....	162
デスクトップ色の選択.....	163
Hyperion Enterprise アプリケーションの変更 .....	163
配賦の設定.....	163
配賦セットの設定 .....	166
配賦セットの実行 .....	168
配賦セットの転記 .....	168
実行情報の削除 .....	169
配賦情報またはセット情報の抽出 .....	169
配賦情報またはセット情報の読み込み.....	170
配賦レポートの印刷または印刷プレビュー .....	171
Hyperion Allocations ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ .....	172

この章では、エンティティ、勘定科目、期間に対する配賦に必要な情報と手順について説明します。

## Hyperion Allocations の機能

Hyperion Allocations では、Hyperion Enterprise のデータを取り込み、エンティティ、勘定科目および期間全体に配賦できます。配賦セットを作成し、セットに配賦を配置することにより、一度に 1 つまたは複数の配賦を実行できます。

Hyperion Allocations には、Allocations、セット、Allocate（配賦）およびレポートの 4 つのモジュールが含まれています。これらのモジュールを使用して、表 29 に示す順序で次のタスクを実行します。

表 29 配賦モジュール

モジュール	タスク
Allocations	配賦の種類と方法を選択して配賦を定義します。

モジュール	タスク
セット	実行および転記するために、セットに配賦を割り当てます。
Allocate（配賦）	配賦セットを実行し、転記します。
レポート	配賦と配賦セットの情報を表示し印刷します。

配賦を定義するときには、配賦内のデータ種別、期間、組織単位および勘定科目を指定するか、これらの要素を指定する変数を使用します。変数を使用して配賦にデータの視点を定義する場合は、システムでは配賦が含まれている配賦セットに定義されているデータの視点が使用されます。

例えば、配賦のデータ種別に変数を使用する場合は、Hyperion Allocations では配賦の実行時にセットのデータの視点到指定されたデータ種別を使用します。特定のデータの視点と可変のデータの視点を組み合わせて、配賦を実行し転記するセットに基づいて配賦のパフォーマンスを指定できます。

Hyperion Allocations は次のようにカスタマイズできます。

- ウィンドウおよびダイアログボックス内のテキストの表示フォントを選択できます。
- 画面上の情報を表示する言語を選択できます。
- Hyperion Allocations デスクトップ色を選択できます。

1つのアプリケーションの配賦作業が終了したら、Hyperion Allocations を終了しないで別のアプリケーションに切り替えることができます。

**注：** 1つの Allocations で転記できる期間は 260 個のみです。

## 配賦の種類とロジック

Hyperion Allocations では、名前、勘定科目、時刻という 3 つの配賦タイプと、パーセンテージ、係数、比率、合計という 4 つの配賦ロジックを使用できます。配賦を定義するときには、配賦の種類を 1 つと配賦のロジックを 1 つ選択します。これらを選択すると、配賦を定義するときシステムで使用する計算式のオプションが決まります。配賦の種類はデータの配賦場所を指定します。配賦のロジックはデータの配賦方法を指定します。

選択する種類やロジックにかかわらず、配賦を実行する前に、配賦で参照されるすべての値が Hyperion Enterprise データベースに存在する必要があります。100 パーセント未満を配賦する場合は、未配賦値はプレビューのみに表示されます。

### 配賦の種類：名前

名前による配賦を使用して、通常は親エンティティなどの 1 つのエンティティからエンティティ一覧の他のエンティティに値を配賦できます。配賦で使用する一覧は、Hyperion Enterprise アプリケーションで使用するものと同一の一覧です。特定の一覧を選択することも、名前拡張変数@NAM を使用することもできます。

@NAM 変数を使用する場合は、配賦では配賦セットに定義されている名前のデータの視点が使用されます。

**注：** Hyperion Allocations の名前一覧は Hyperion Enterprise のエンティティ一覧に相当します。

## 配賦の種類：勘定科目

勘定科目による配賦を使用して、主要勘定科目からサブ勘定科目に値を配賦できます。サブ勘定科目表は現在の Hyperion Enterprise アプリケーションで使用されているものと同一の表です。特定のサブ勘定科目を選択することも、勘定科目拡張変数@ACC および@SUB を使用することもできます。変数を使用する場合は、配賦では配賦セットに定義されている勘定科目のデータの視点が使用されます。

## 配賦の種類：時刻

時刻による配賦を使用して、配賦元の単一の期間から範囲内の複数の期間に値を配賦できます。配賦元には 1 つの期間が含まれます。パーセンテージ、値、重み、配賦先には、開始期間と終了期間に基づく範囲が含まれています。

## パーセンテージロジック

パーセンテージロジックを使用すると、特定のパーセンテージ値を使用して、配賦元のエンティティ、勘定科目または期間から、配賦先のエンティティ、勘定科目または期間に値を配賦できます。配賦元の値を特定のエンティティ、サブ勘定科目または期間に保存された結果のパーセンテージ値で乗算してから、100 で除算します。この計算式では、分子はパーセンテージ値、分母は 100 です。値を完全に配賦するには、配賦に対する配賦先のパーセンテージ値の合計が 100 である必要があります。

このロジックでは、すべての値を指定する必要があります。パーセンテージロジックの計算式は次のとおりです。

$$\text{配布先} = (\text{配賦元} \times \text{パーセンテージ}) / 100$$

## 係数ロジック

係数ロジックでは、配賦元の値に比率を乗算することにより、配賦元のエンティティ、勘定科目または期間の値を配賦します。比率は、特定の配賦先の値をすべての配賦先または重みを表す値で除算したものです。

このロジックでは、すべての値を指定する必要があります。係数ロジックの計算式は次のとおりです。

$$\text{配布先} = (\text{配賦元} \times \text{値}) / \text{重み}$$

## 比率ロジック

比率ロジックでは、配賦元のエンティティ、勘定科目または期間の値を各配賦先の特定の値で乗算して、配賦します。値を完全に配賦するには、配賦先の合計値が 1.00 である必要があります。

このロジックでは、すべての値を指定する必要があります。比率ロジックの計算式は次のとおりです。

配布先 = 配賦元 x 比率

## 合計ロジック

合計ロジックでは、配賦元の値に比率を乗算して、配賦元のエンティティ、勘定科目または期間の全体の値を配賦します。この比率は、特定の配賦先の値を Hyperion Allocations が算出するすべての配賦先を表す値で除算したものです。

次の種類の配賦には、合計ロジックを選択できます。

- 名前による配賦
- 勘定科目による配賦
- 時刻による配賦

名前による配賦では、特定のエンティティ一覧のすべてのエンティティを合計するので、連結する必要がありません。勘定科目による配賦では、特定のサブ勘定科目表のすべてのサブ勘定科目を合計するので、計算式を実行する必要がありません。時刻による配賦では、特定の期間範囲を合計するので、特殊な合計値を保存する必要がありません。

合計ロジックの計算式は次のとおりです。

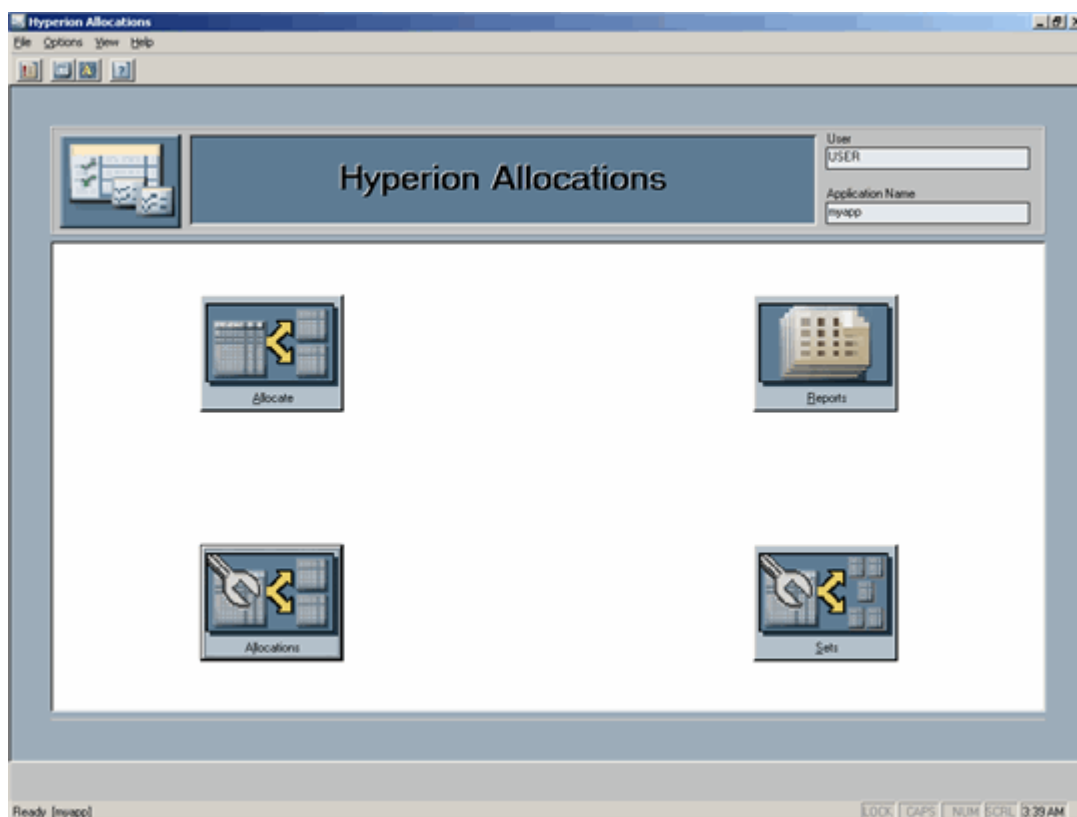
配布先 = (配賦元 x 値) / 合計 (値)

## Hyperion Allocations デスクトップ

システム内で行うすべての操作は Hyperion Allocations デスクトップから開始します。[ログイン] ダイアログボックスにユーザ名とパスワードを入力し、システムが起動するとデスクトップが表示されます。モジュールウィンドウを閉じると、デスクトップに戻ります。

図 26 に、Hyperion Allocations デスクトップを示します。

図 26 Hyperion Allocations デスクトップ



Hyperion Allocations デスクトップの機能は次のとおりです。

- タイトルバー - 製品 Allocations とソフトウェアのバージョン番号を識別します。
- メニューバー - 各種の操作を実行するために、選択可能な次のメニューが表示されます。
  - [ファイル] - モジュールへのアクセス、Hyperion Enterprise アプリケーションのアクティビティログの表示、Hyperion Allocations の終了を行うことができます。
  - [オプション] - アプリケーションの切り替え、設定変更の指定、デスクトップ色の選択、配賦とセット情報の抽出または読み込みを行うことができます。
  - [ヘルプ] - 配賦またはセットのデータベース表の表示、システム情報の表示、バージョン番号、空きメモリ、ユーザ名およびアプリケーションの表示を行うことができます。
- アイコン - ログの表示、アプリケーションの変更、言語／フォントの変更、Allocations のバージョン情報などの Allocations の機能を表します。
- ステータスバー - 現在の Hyperion Enterprise アプリケーション名および現在のプロセス（該当する場合）を表示します。ステータスバーに「準備完了」というメッセージが表示されている場合は、データを処理する準備が完了しています。

## Hyperion Allocations の起動

Hyperion Allocations を使って初めて Hyperion Enterprise アプリケーションにアクセスすると、システムはアプリケーションディレクトリの下に ALLOC というディレクトリを作成し、その ALLOC ディレクトリに ALLOCATE.MDB ファイルを作成します。例えば、C:\HYPENT\WWCONSOL ディレクトリにあるアプリケーションにアクセスした場合は、システムは C:\HYPENT\WWCONSOL\ALLOC ディレクトリを作成し、そのディレクトリに ALLOCATE.MDB ファイルを作成します。ALLOCATE.MDB ファイルには、アプリケーション用に定義された配賦セットが保存されます。

**注：** Hyperion Allocations では、Hyperion Enterprise のセキュリティを使ってアプリケーションへのアクセス権をチェックします。

- Hyperion Allocations を起動するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Enterprise を終了します。
- 2 [スタート] メニューから、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise Release]、[Allocations] の順に選択します。
- 3 [アプリケーション名] リストから Hyperion Enterprise アプリケーションを選択します。
- 4 ユーザ名とパスワードを入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

## Hyperion Allocations 設定変更の指定

Hyperion Allocations を実行する言語、およびダイアログボックスやウィンドウの表示フォントを選択できます。これらの設定は、Hyperion Allocations でワークステーションからアクセスするすべてのアプリケーションに適用されます。

- Hyperion Allocations の設定変更を指定するには、次の手順に従います。
- 1 Allocations デスクトップで、[オプション] メニューから [言語] を選択するか、[言語/フォントの変更] を選択します。
- 2 変更を行います。
  - Hyperion Allocations を実行する言語を変更する場合は、[言語] リストから使用する言語を選択します。
  - オプション：太字を使用する場合は [B] を、斜体を使用する場合は [I] を選択します。
  - 表示フォントを変更する場合は、[フォント] ドロップダウンリストから使用するフォントを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

# デスクトップ色の選択

Hyperion Allocations のデスクトップ色を選択することができます。

- ▶ Hyperion Allocations のデスクトップ色を選択するには、次の手順に従います。
  - 1 Hyperion Allocations デスクトップで、[オプション] メニューから [色] を選択します。
  - 2 カラーパレットから使用する色を選択します。
  - 3 [OK] をクリックします。

## Hyperion Enterprise アプリケーションの変更

Hyperion Allocations を終了することなく、配賦を作成する対象となる Hyperion Enterprise アプリケーションを変更することができます。Hyperion Allocations では、Hyperion Enterprise のセキュリティを使ってアプリケーションへのアクセス権をチェックします。このため、Allocations からアプリケーションにアクセスするには、Hyperion Enterprise アプリケーションにアクセスするときに使うユーザ名とパスワードを使用します。

- ▶ Hyperion Enterprise アプリケーションを変更するには、次の手順に従います。
  - 1 Allocations デスクトップで、[オプション] メニューの [アプリケーション] を選択するか、[アプリケーションの変更] を選択します。
  - 2 [アプリケーション名] リストから Hyperion Enterprise アプリケーションを選択します。
  - 3 ユーザ名とパスワードを入力します。
  - 4 [OK] をクリックします。

## 配賦の設定

配賦を定義し、配賦の計算式を作成して、配賦を設定します。配賦を設定後、配賦結果をプレビューできます。不要になった配賦は削除できます。

### 配賦の定義

配賦を定義する手順を次に示します。



- 配賦の種類とロジックを選択します。
- 配賦名と説明を指定します。
- 選択した配賦ロジックに関する情報を指定します。
- 配賦元と配賦先のデータ種別、配賦名、期間、勘定科目などのデータの視点要素を指定して、配賦の計算式を作成します。

**注：** データの視点要素を指定するときには、データ種別、期間、組織単位、および勘定科目を選択することも、配賦セットに対して定義されているデータの視点要素を使用することもできます。

配賦のロジックまたは種類を変更すると、配賦の計算式からすべての情報がクリアされます。配賦セットのデータの視点については、[166 ページの「配賦セットの定義」](#)を参照してください。

表 30 に、データの視点のアイコンを示します。

表 30 配賦計算式のデータの視点のアイコン

アイコン	説明
	データ種別を指定します。
	期間を指定します。
	組織単位を指定します。
	勘定科目を指定します。

配賦のデータの視点を選択するときのルールは次のとおりです。

- [Percentage, Value, or Factor (パーセンテージ、係数または比率)] 編集ボックスで選択する名前一覧は、対応する配賦先の編集ボックスの名前一覧と一致している必要があります。
- [Percentage, Value, or Factor (パーセンテージ、係数または比率)] 編集ボックスには、サブ勘定科目を持つ勘定科目を選択する必要があります。
- 勘定科目拡張マクロである@ACC-@SUB または Account-SUB（ここで Account は特定の勘定科目）を使用する場合は、現在の勘定科目または特定の勘定科目に付属するサブ勘定科目表への配賦を実行するときに、サブ勘定科目が展開されます。
- [Percentage, Value, or Factor (パーセンテージ、係数または比率)] 編集ボックスと [期別替先] 編集ボックスでは、期間の範囲を指定する必要があります。
- [期別替先] 編集ボックスで選択した期間は、[Percentage, Value, or Factor (パーセンテージ、係数または比率)] 編集ボックスで指定した期間の範囲と一致する必要があります。

▶ 配賦を定義するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Allocations デスクトップで、[Allocations] を選択するか、[ファイル] メニューの [デスクトップ] から [Allocations] を選択し、次のいずれかの操作を行います。
  - アプリケーションの最初の配賦を作成する場合は、ステップ 2 に進みます。
  - 配賦を作成するには、[新規作成] を選択し、配賦の種類と方法を選択します。
  - 配賦を編集するには、[配賦] ドロップダウンリストから編集する配賦を選択します。
- 2 [配賦] タブで、配賦名と説明を入力します。
- 3 配賦の種類またはロジックを変更するには、[種別] または [ロジック] を選択して配賦の種類またはロジックを選択し、[OK] をクリックします。

- 4 [データ] タブで、配賦元と配賦先のデータ種別、勘定科目、期間、組織単位を指定し、次のいずれかの操作を行います。
- パーセンテージによる配賦では、配賦先の値を得るために配賦元の値に掛け合わせるパーセントを含むデータ種別、期間、エンティティ、および勘定科目を指定します。
  - 係数による配賦では、配賦元の値に掛け合わせる値を含むデータ種別、期間、エンティティ、および勘定科目を指定し、その値に掛け合わせる重みを含む勘定科目を指定します。
  - 比率による配賦では、配賦先の値を得るために配賦元の値を掛け合わせる比率を含むデータ種別、エンティティ、期間、および勘定科目を指定します。
  - 合計による配賦では、配賦元の値に掛け合わせる値を含むデータ種別、勘定科目、期間、およびエンティティを指定します。システムはすべての配賦先の合計でその値を割ります。
- 5 配賦にエラーがないことを確認するために、[チェック] をクリックします。
- 6 [保存] をクリックし、[閉じる] をクリックします。

## 配賦結果のプレビュー

配賦結果を表示するには、配賦をセットに入れてから配賦を実行し、転記します。その後、必要に応じて Hyperion Enterprise アプリケーションのデータを変更します。このように実際に配賦を実行して結果を見る代わりに、配賦結果をプレビューすることもできます。プレビューでは、実際に配賦を実行して転記する前に変更を行うことができるという利点があります。

**注：** 100 パーセント未満を配賦する場合、未配賦値はプレビューのみに表示されます。

- 配賦結果をプレビューするには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Allocations デスクトップで [Allocations] を選択するか、[ファイル] メニューの [デスクトップ] から [配賦] を選択します。
  - 2 [配賦] ドロップダウンリストで、プレビューする配賦を選択します。
  - 3 [プレビュー] をクリックします。
  - 4 配賦にデータの視点要素の変数が 1 つまたは複数入っている場合、プロンプトの指示に従いデータの視点要素を選択します。
  - 5 [プレビュー] ウィンドウで配賦結果を確認し、[閉じる] を 2 回選択します。

## 配賦の削除

不要になった配賦は削除できます。

**注：** 配賦セット内の配賦を削除できます。削除した配賦は、配賦セット内に含まれなくなります。

▶ 配賦を削除するには、次の手順に従います。

- 1 **Hyperion Allocations** デスクトップで **[Allocations]** を選択するか、**[ファイル]** メニューの **[デスクトップ]** から **[配賦]** を選択します。
- 2 **[配賦]** ドロップダウンリストで、削除する配賦を選択します。
- 3 **[削除]** をクリックします。
- 4 **[OK]** をクリックして、**[閉じる]** をクリックします。

## 配賦セットの設定

配賦を実行および転記する前に、配賦を配賦セットに入れる必要があります。配賦セットとは、同時に実行および転記する 1 つまたは複数の配賦です。

配賦セットを設定するときは、配賦セットを定義し、セットに配賦を追加し、実行および転記します。配賦セットが不要になった場合は、配賦セット内の配賦を削除しないで配賦セットを削除できます。

## 配賦セットの定義

配賦セットの定義では、ID と説明の割り当て、セットを実行するときに計算式を実行するかどうか、データの視点の定義、および同時に実行して転記するセット内の配賦の選択を行います。配賦セットに入れるとのできる配賦は最大 1000 個です。

セットのデータの視点には、配賦の組織、データ種別、エンティティまたはエンティティ一覧、勘定科目またはサブ勘定科目表、期間を指定します。データの視点の選択要素は、@CAT のように 1 つまたは複数のデータの視点変数を持つ配賦を定義するときのみ使用されます。

配賦セットのデータの視点を選択するときのルールは次のとおりです。

- まず組織を選択してから、名前を選択する必要があります。選択したエンティティを含まない組織に変更した場合は、現在の組織内のエンティティを選択する必要があります。
- データの視点のエンティティ一覧を指定し、**[組織単位一覧]** チェックボックスをオンにした場合は、エンティティ一覧のすべてのエンティティを使用してセット内の@NAM 変数が置き換えられます。
- 配賦セットのデータの視点の勘定科目または勘定科目一覧のどちらか 1 つを指定します。
- まずデータ種別を選択し、次に開始期間と終了期間を選択する必要があります。
- 終了期間は開始期間と同じか、またはそれ以降である必要があります。
- 配賦セットを実行すると、**[配賦セット]** ダイアログボックスの **[選択された配賦ユニット]** リストに表示される順番で配賦が実行されます。

**注：** データを **Hyperion Enterprise** の正しい場所に確実に送信するには、配賦セットのデータの視点を適切に定義することが重要です。

▶ 配賦セットを定義するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Allocations デスクトップで [セット] を選択するか、[ファイル] メニューの [デスクトップ] から [セットの編集] を選択します。
- 2 配賦セットを作成または編集します。
  - アプリケーションの最初の配賦セットを作成する場合は、ステップ 3 に進みます。
  - 配賦セットを作成するには、[新規作成] を選択します。
  - 既存の配賦セットを編集する場合は、編集の必要な配賦セットを [セット] ドロップダウンリストから選択します。
- 3 [セット] タブで、配賦セットの ID と説明を入力します。
- 4 配賦セット内の値を転記した後で Hyperion Enterprise で計算式を実行する場合は、[ロジックを実行] を選択します。
- 5 [データの視点] タブで、データの視点変数にデータの視点要素を指定します。
- 6 配賦セットのデータ表示について、[累計表示] または [期別表示] のどちらかを選択します。
- 7 [Allocations] タブで、セットに追加またはセットから削除する配賦を選択します。
  - セットに配賦を追加する場合は、[使用できる配賦ユニット] リストで追加する 1 つまたは複数の配賦をハイライトして、[追加] を選択します。
  - セットから配賦を削除する場合は、[選択された配賦ユニット] リストで削除する配賦をハイライトして、[削除] をクリックします。
- 8 配賦の定義を変更する場合は、定義の変更が必要な配賦を [使用できる配賦ユニット] または [選択された配賦ユニット] リストで選択し、[編集] をクリックします。
- 9 セット内の配賦の順序を変更する場合は、移動する配賦を [選択された配賦ユニット] リストで選択し、新しい位置にドラッグします。
- 10 [保存] をクリックし、[閉じる] をクリックします。

## 配賦セットの削除

不要になった配賦セットは削除できます。配賦セットを削除しても、削除されたセット内の配賦には影響はありません。

▶ 配賦セットを削除するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Allocations デスクトップで [セット] を選択するか、[ファイル] メニューの [デスクトップ] から [セットの編集] を選択します。
- 2 [セット] ドロップダウンリストで、削除する配賦セットを選択します。
- 3 [削除] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックして、[閉じる] をクリックします。

## 配賦セットの実行

一度に1つまたは複数の配賦を実行することができます。配賦セットを実行したら、転記します。配賦セットを実行するとき、Hyperion Allocations は実行 ID を作成します。この実行 ID は、Hyperion Enterprise アプリケーション内のデータに転記するデータを識別します。配賦セットを実行するたびに、システムはこの実行 ID を持つデータを上書きします。配賦の実行 ID を転記すると、Hyperion Enterprise アプリケーション内のデータが影響を受けます。配賦セットの転記について詳しくは、[168 ページの「配賦セットの転記」](#)を参照してください。

**注：** 配賦セットの実行後に作成される一時配賦ファイルは削除できます。

- ▶ 配賦セットを実行するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Allocations デスクトップで [Allocate (配賦)] を選択するか、[ファイル] メニューの [デスクトップ] から [Allocate (配賦)] を選択します。
- 2 実行する1つまたは複数の配賦セットを [セット] リストで選択し、[実行] をクリックします。
- 3 配賦エラーまたはセットエラーのステータスが表示された場合は、次のいずれかの操作を行います。
  - [ログの表示] をクリックしてエラーを表示し、[OK] をクリックしてエラーログを閉じます。
  - [ログをクリア] をクリックして、エラーログをクリアし、終了します。エラーを訂正してから、再度配賦を実行します。
- 4 すべてのセットを実行して確認し終えるまで、ステップ2と3を繰り返します。
- 5 [閉じる] をクリックします。

## 配賦セットの転記

配賦セットを転記して、配賦セット内の変更を適用します。配賦セットを転記するには、まずその配賦セットを実行する必要があります。配賦セットの実行について詳しくは、[168 ページの「配賦セットの実行」](#)を参照してください。

- ▶ 配賦セットを転記するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Allocations デスクトップで [Allocate (配賦)] を選択するか、[ファイル] メニューの [デスクトップ] から [Allocate (配賦)] を選択します。
- 2 転記する1つまたは複数の配賦セットを [セット] リストで選択します。
- 3 転記する1つまたは複数の実行 ID を [実行 ID] リストで選択し、[転記] をクリックします。
- 4 転記エラーのステータスが表示された場合は、次のいずれかの操作を行います。
  - [ログの表示] をクリックしてエラーを表示し、[OK] をクリックしてエラーログを閉じます。

- [ログをクリア] をクリックして、エラーログをクリアし、終了します。エラーを訂正してから、再度配賦を転記します。
- 5 すべてのセットを転記して確認し終えるまで、ステップ 2 から 4 を繰り返します。
- 6 [閉じる] を選択します。

## 実行情報の削除

配賦セットを Hyperion Enterprise アプリケーションに転記したら、その配賦セットの実行 ID を削除できます。配賦を転記しない場合は、転記前に配賦の実行 ID を削除できます。

- ▶ 実行情報を削除するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Allocations デスクトップで [Allocate (配賦)] を選択するか、[ファイル] メニューの [デスクトップ] から [Allocate (配賦)] を選択します。
  - 2 [セット] リストから、実行 ID を削除する 1 つまたは複数の配賦セットを選択します。
  - 3 削除する 1 つまたは複数の実行 ID を [実行 ID] リストで選択し、[削除] をクリックします。  
実行 ID のステータスが [削除済] に変更されます。
  - 4 システムから実行 ID を削除するには、[実行 ID] リストで削除する実行 ID を選択し、[削除] をクリックします。
  - 5 ステップ 2 から 4 を繰り返して、すべての実行 ID を削除します。
  - 6 [閉じる] をクリックします。

## 配賦情報またはセット情報の抽出

配賦を定義する情報やセットを定義する情報を ASCII ファイルに抽出、つまりコピーすることができます。

この方法を使って、配賦情報やセット情報をテキストファイルで編集し、配賦データベースにその情報を読み込んで戻すことができます。読み込み方法について詳しくは、[170 ページの「配賦情報またはセット情報の読み込み」](#)を参照してください。

**注：** セット情報を抽出しても、対応する配賦情報は ASCII ファイルにはコピーされません。

- ▶ 配賦情報またはセット情報を抽出するには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Allocations デスクトップから、次のいずれかの操作を行います。
    - 配賦を抽出するには、[オプション] メニューの [抽出] から [Allocations] を選択します。
    - 配賦セットを抽出するには、[オプション] メニューの [抽出] から [セット] を選択します。

- 2 抽出する配賦またはセットを選択します。
- 3 [抽出] をクリックして、[抽出ファイルの名前の入力] ダイアログボックスを開きます。
- 4 開いているアプリケーションのアウトボックスであるデフォルトのディレクトリを受け入れるか、別のディレクトリを選択します。
- 5 [ファイル名] 編集ボックスに、配賦情報またはセット情報のコピー先の ASCII ファイル名と拡張子を入力します。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 追加の配賦またはセット情報を抽出するには、ステップ 2 ～ 5 を繰り返します。
- 8 情報の抽出が完了したら、[閉じる] をクリックします。

## 配賦情報またはセット情報の読み込み

配賦やセットを定義している情報は、ASCII テキストファイルから配賦データベースに読み込むことができます。

この方法を使うと、配賦情報やセット情報をテキストファイルで編集し、配賦データベースに読み込んで戻すことができます。抽出方法について詳しくは、[169 ページ](#)の「[配賦情報またはセット情報の抽出](#)」を参照してください。

- 配賦情報またはセット情報を読み込むには、次の手順に従います。
- 1 **Hyperion Allocations** デスクトップから、次のいずれかの操作を行います。
    - 配賦を読み込むには、[オプション] メニューの [読込] から [Allocations] を選択します。
    - 配賦セットを読み込むには、[オプション] メニューの [読込] から [セット] を選択します。
  - 2 開いているアプリケーションのインボックスであるデフォルトのディレクトリを受け入れるか、別のディレクトリを選択します。
  - 3 配賦データベースに読み込む配賦情報またはセット情報が入っている抽出 ASCII ファイルを選択します。
  - 4 [開く] を選択して、情報を読み込みます。
  - 5 既存の配賦またはセットの処理方法を尋ねるプロンプトが表示されたら、次のいずれかの操作を行います。
    - 特定の配賦またはセットを上書きする場合は、[はい] をクリックします。
    - 配賦データベース内で特定の配賦またはセットをそのままにしておく場合は、[いいえ] をクリックします。
    - 配賦データベースに既に名前が存在する配賦またはセットをすべて上書きする場合は [すべて] をクリックします。
    - 配賦データベースに既に名前が存在する配賦またはセットをそのままにする場合は [なし] をクリックします。








# 配賦レポートの印刷または印刷プレビュー

Hyperion Allocations では、次の 4 種類のレポートを印刷またはプレビューできます。

- 配賦定義レポートには、配賦の定義が表示されます。
- 配賦セット定義レポートには、セットのデータの視点やそのセットに含まれている配賦など、セットの定義が表示されます。
- 配賦実行レポートには、配賦セットの実行ステータスが表示されます。
- 転記監査レポートには、各配賦セットの実行結果が表示されます。このレポートは、配賦セットが転記されたかどうかにかかわらず作成できます。

表 31 に、表示オプションの説明を示します。

表 31 配賦レポートのプレビューオプション

アイコン	説明
	レポートの最初のページを表示します。
	レポートの前のページを表示します。
	レポートの次のページを表示します。
	レポートの最後のページを表示します。
	画面上でレポートの画像を拡大または縮小します。
	現在のレポートを印刷します。
	プレビューウィンドウを閉じます。

► 配賦レポートを印刷またはプレビューするには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Allocations デスクトップで [レポート] を選択するか、[ファイル] メニューの [デスクトップ] から [レポート] を選択します。
- 2 配賦定義レポートを印刷またはプレビューする場合は、[配賦ユニット] タブで 1 つまたは複数の配賦を選択するか、[Select All (すべてを選択)] をクリックしてすべての配賦を印刷またはプレビューします。
- 3 配賦セット定義レポートを印刷またはプレビューする場合は、[配賦セット定義] タブで 1 つまたは複数の配賦セットを選択するか、[Select All (すべてを選択)] をクリックしてすべての配賦セットを印刷またはプレビューします。
- 4 配賦実行レポートを印刷またはプレビューするには、[実行] タブで次の手順に従います。
  - 1 1 つまたは複数の配賦セットを選択するか、[Select All (すべてを選択)] をクリックしてすべての配賦セットを印刷またはプレビューします。

2. ソートオプションの中から **【実行 ID】**、**【ステータス】**、または **【セット名】** を選択します。
- 5 転記監査レポートを印刷またはプレビューするには、**【転記監査】** タブで次の手順に従います。
  1. **【セットの選択】** リストから配賦セットを選択します。
  2. 印刷またはプレビューを行う 1 つまたは複数の実行 ID を **【実行 ID の選択】** リストで選択します。
- 6 レポートをプレビューまたは印刷するには、次の手順に従います。
  - 情報をプレビューするには、**【プレビュー】** をクリックします。情報のプレビューを終了したら、**【印刷】** を選択して情報を印刷するか、**【閉じる】** を選択してプレビューウィンドウを閉じます。
  - 印刷するには、**【印刷】** を選択します。
- 7 **【閉じる】** をクリックします。

## Hyperion Allocations ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ

### Hyperion Allocations デスクトップ

Hyperion Enterprise のデータ値をエンティティ、勘定科目、または期間に配賦する場合に使用します。

#### Allocate (配賦)

配賦のセットを実行および転記するには、[配賦モジュール](#)を使用します。

#### Allocations

配賦を作成または編集し、Hyperion Enterprise で値を配賦するための配賦の種類とロジックを定義するには、[配賦モジュール](#)を使用します。

#### レポート

配賦の定義、セットの定義、すべてのセットのステータス、個別の配賦結果に関するレポートを印刷またはプレビューするには、[レポートモジュール](#)を使用します。

#### セット

セットを作成または編集するには、[セットモジュール](#)を使用します。セットは、1 つまたは複数の配賦の集合です。

## [ADDONS.LOG ファイル] ダイアログボックス

配賦セットの実行または転記中に発生したエラーを表示する場合に使用します。Hyperion Allocations へのログオンや実行 ID の削除などのアクティビティも表示されます。

各アクティビティに対して、日付、時刻、プログラム名、ユーザ名が一覧表示されます。配賦セットの実行と転記の場合は、データベースと結果（発生したエラーを含む）も表示されます。

**OK**

消去せずに閉じる場合に選択します。

**ログをクリア**

ログを消去して閉じる場合に選択します。

## [アプリケーションのログオン] ダイアログボックス

配賦を作成する対象となる Hyperion Enterprise アプリケーションの変更に使用します。

**アプリケーション名**

Hyperion Enterprise アプリケーションを選択します。

**ユーザー名**

ユーザ名を入力します。

**パスワード**

パスワードを入力します。

## [言語の選択] ダイアログボックス

Hyperion Allocations で使う言語とフォントの選択に使用します。

**言語**

Hyperion Allocations で使う言語を選択します。

**フォント**

Hyperion Allocations で使うフォントの種類を選択します。

## [色の設定] ダイアログボックス

Allocations のデスクトップの色を選択する場合に使用します。

## 〔基本色〕パレット

デスクトップの色を選択します。

## 〔配賦タイプ〕ダイアログボックス

配賦の種類を選択する場合に使用します。1つのエンティティから複数の関連エンティティに、1つの勘定科目から複数の関連勘定科目に、または1つの期間からある範囲の期間にデータを配賦できます。

### 名前

1つのエンティティから複数の関連エンティティへのデータの配賦を作成する場合に選択します。

### 勘定科目

1つの勘定科目から複数の関連勘定科目へのデータの配賦を作成する場合に選択します。

### 時間

1つの期間からある範囲の期間へのデータの配賦を作成する場合に選択します。

## 〔配賦ロジック〕ダイアログボックス

データをエンティティ、勘定科目、期間に配賦するための計算方法を選択する場合に使用します。配賦の計算には、パーセンテージ、比率、係数のいずれかを使用することができます。

### パーセンテージ

各配賦先に対して Hyperion Enterprise に保存されているパーセンテージの値を乗算してデータを配賦する場合に選択します。

### 値

すべての配賦先を表す値で各配賦先の値を除算して算出された比率を乗算して、データを各配賦先に配賦する場合に選択します。各配賦先に対する値とすべての配賦先に対する値は、Hyperion Enterprise に保存されます。

### 比率

各配賦先に対して Hyperion Enterprise に保存されている係数を乗算してデータを配賦する場合に選択します。

### 合計

値を使う方法とは異なる方法で算出された比率を乗算して各配賦先にデータを配賦する場合に選択します。比率は、各配賦先の値をすべての配賦先の合計値で除算して算出します。各配賦先の値は Hyperion Enterprise に保存されます。

## 【配賦ユニットの編集】 ダイアログボックス

配賦に名前を付けて、配賦元、値、配賦先のエンティティ、勘定科目、または期間を選択する場合に使用します。

### 配賦

既存の配賦を選択します。このオプションは、現在の Hyperion Enterprise アプリケーション用に少なくとも 1 つの配賦を定義した後でしか使用できません。

### 【配賦】 タブ

**【配賦】 タブ**を使って、配賦の名前と説明を指定したり、ファイルに割り当てられた配賦の種類とロジックを表示します。

### 【データ】 タブ

**【データ】 タブ**を使って、配賦のデータ種別、エンティティ、勘定科目、期間を選択します。

### プレビュー

現在の配賦の実行結果をプレビューする場合に選択します。

### 新規作成

新しい配賦を作成する場合に選択します。

### 保存

ダイアログボックスを閉じずに現在の配賦を保存する場合に選択します。

### 削除

選択した配賦を削除する場合に選択します。

### 閉じる

ダイアログボックスを閉じる場合に選択します。このオプションは、変更を保存した後でしか使用できません。

## 【配賦ユニットの編集】 ダイアログボックス : 【配賦】 タブ

配賦の名前と説明を指定したり、ファイルに割り当てられた配賦の種類とロジックを表示する場合に使用します。

### 名前

新規または既存の配賦名を最高 20 文字（半角の場合）までで入力します。

### 説明

新規または既存の配賦の説明を最高 40 文字（半角の場合）までで入力します。

## 種類

配賦の種類を変更する場合に選択します。

## ロジック

配賦ロジックを変更する場合に選択します。

# 【配賦ユニットの編集】 ダイアログボックス : [データ] タブ

配賦のデータ種別、エンティティ、勘定科目、期間を選択する場合に使用します。特定の Hyperion Enterprise アプリケーション要素を割り当てることも、データ種別に対しては@CAT、勘定科目に対しては@ACC などの拡張マクロを選択することもできます。拡張マクロでは、[\[配賦セット\] ダイアログボックス](#)で定義した配賦セットの視点がデフォルトで使用されます。

## 送り側

配賦元のデータ種別、勘定科目、期間、エンティティを選択します。

## パーセント、値、除数、係数

配賦ロジックで使うデータ種別、勘定科目、期間、エンティティの値を選択します。これら4つのフィールドのうち1つまたは2つしか使用できません。

## 受け側

配賦先のデータ種別、勘定科目、期間、エンティティを選択します。

## チェック

見つかったエラーを一覧表示するか、エラーがないことを確認します。

## 種類

配賦の種類を表示します。

## ロジック

配賦ロジックを表示します。

# 【プレビュー期間単位の選択】 ダイアログボックス

データを累計または期別で表示する場合に使用します。

## 累計

対象年度の累計データ値を表示する場合に選択します。

## 期別

期別データ値を表示する場合に選択します。

Doc: Editor made a comment that XA software uses "category-to-date" rather than "year-to-date". Allocations software must change to match, and documentation should follow. Entering as doc note due to time constraints. 8/10/98 R.Nunziante

## 【データ種別の選択】 ダイアログボックス

特定のデータ種別を指定するか、配賦セットの視点のデフォルトをそのまま使用する場合に使用します。

### データ種別の指定

Hyperion Enterprise からのデータ種別を指定する場合に選択します。

### 配賦セット定義を使用

[\[配賦セット\]](#) [ダイアログボックス](#)で定義し、配賦セットのデータの視点で指定したデータの種別を使用する場合に選択します。

## 【勘定科目の選択】 ダイアログボックス

特定の勘定科目を指定するか、配賦セットの視点のデフォルトをそのまま使用する場合に使用します。

### エンティティの指定

Hyperion Enterprise からの勘定科目を指定する場合に選択します。

### データの視点

[\[配賦セット\]](#) [ダイアログボックス](#)で定義し、配賦セットの視点で指定した勘定科目を使用する場合に選択します。

## 【期間の選択】 ダイアログボックス

特定の期間を指定するか、配賦セットの視点のデフォルトをそのまま使用する場合に使用します。

### エンティティの指定

Hyperion Enterprise からの期間を指定する場合に選択します。

### データの視点

[\[配賦セット\]](#) [ダイアログボックス](#)で定義し、配賦セットの視点で指定した期間を使用する場合に選択します。

## 【エンティティの選択】 ダイアログボックス

特定のエンティティを指定するか、[\[配賦セット\]](#) [ダイアログボックス](#)で定義された配賦セットの視点のデフォルトをそのまま選択する場合に使用します。

## エンティティの指定

Hyperion Enterprise からのエンティティを選択します。

## データの視点

[配賦セット] ダイアログボックスの配賦セットの視点で指定されたエンティティを選択します。

# 【配賦セット】 ダイアログボックス

配賦セットの作成と編集に使用します。

## セット（編集ボックス）

既存のセットを選択します。

## [セット] タブ

配賦セットの名前と説明を指定したり、Hyperion Enterprise に値を転記するときに計算式を実行するかどうかを選択したりするには、[\[セット\] タブ](#)を使用します。

## [データの視点] タブ

配賦セットの視点を選択するには、[\[データの視点\] タブ](#)を使用します。

## [配賦] タブ

配賦セットで使用する配賦を選択および編集するには、[\[配賦\] タブ](#)を使用します。

## 新規作成

配賦セットを作成する場合に選択します。

## 保存

ダイアログボックスを閉じずに現在の配賦セットを保存する場合に選択します。

## 削除

選択した配賦セットを削除する場合に選択します。

## 閉じる

ダイアログボックスを閉じる場合に選択します。このオプションは、変更を保存した後でしか使用できません。

# 【配賦セット】 ダイアログボックス : [セット] タブ

配賦セットの名前と説明を指定したり、Hyperion Enterprise に値を転記するときに計算式を実行するかどうかを選択するときに使用します。

## 名前

新規または既存の配賦セットの名前を最高 20 文字（半角の場合）までで入力します。

## 説明

新規または既存の配賦セットの説明を最高 40 文字（半角の場合）までで入力します。

## ロジックを実行

Hyperion Enterprise に値を転記するときにロジックを実行する場合に選択します。

# 【配賦セット】 ダイアログボックス：[データの視点] タブ

配賦セットの視点を選択する場合に使用します。視点には、組織、エンティティ、エンティティ一覧、勘定科目、勘定科目一覧、データ種別、データ形式、開始期間、終了期間を含むことができます。

セットを構成する各配賦が拡張マクロを使う場合は、その配賦セットの視点を設定します。拡張マクロは、配賦セットの視点をデフォルトとして使用します。拡張マクロは、[\[配賦ユニットの編集\] ダイアログボックス](#)の「データ」タブで選択されます。

注意：配賦セットを構成している各配賦が拡張マクロを使わず、特定の Hyperion Enterprise アプリケーション要素を指定する場合は、視点を設定する必要はありません。

## 組織

視点の組織を指定する場合に選択します。エンティティを選択する前に組織を選択する必要があります。

## エンティティ

視点のエンティティを指定する場合に選択します。エンティティは選択した組織内のものである必要があります。

## エンティティ一覧

視点のエンティティ一覧を指定する場合に選択します。エンティティ一覧を選択する前に「エンティティ一覧」チェックボックスを選択する必要があります。

## 勘定科目

視点の勘定科目を指定する場合に選択します。勘定科目を選択した場合は、勘定科目一覧は選択できません。

## 勘定科目一覧

視点の勘定科目一覧を指定する場合に選択します。勘定科目一覧を選択した場合は、勘定科目は選択できません。

## データ種別

視点のデータ種別を指定する場合に選択します。開始期間または終了期間を選択する前にデータ種別を選択する必要があります。

## 開始期間

視点の開始期間を指定する場合に選択します。開始期間は、常に終了期間以前でなければなりません。

## 終了期間

視点の終了期間を指定する場合に選択します。終了期間は、常に開始期間以降でなければなりません。

## 累計表示、期別表示

値を取得して Hyperion Enterprise に転記する際に使うデータ形式を選択します。

Doc: Editor made a comment that XA software uses "category-to-date" rather than "year-to-date". Allocations software must change to match, and documentation should follow. Entering as doc note due to time constraints. 8/10/98 R.Nunziante

# 【配賦セット】 ダイアログボックス : 【配賦】 タブ

配賦セットで使う配賦の選択と編集に使用します。

## 使用できる配賦ユニット

使用可能な配賦を一覧表示します。

## 選択された配賦ユニット

配賦セットに含めるように選択した配賦を一覧表示します。

## 追加

【使用できる配賦ユニット】 リストボックスで選択した 1 つまたは複数の配賦を、【選択された配賦ユニット】 リストボックスに移動する場合に選択します。

## 除去

【選択された配賦ユニット】 リストボックスから選択した配賦を削除する場合に選択します。

## 編集

【配賦ユニットの編集】 ダイアログボックスを開く場合に選択します。ダイアログボックスには配賦データがハイライト表示されます。複数の配賦がハイライトされている場合は、そのうちの 1 つのデータが表示されます。

# 【配賦セットの実行】 ダイアログボックス

配賦セットを実行し、実行 ID を転記する場合に使用します。

## セット

使用できる配賦セットを一覧表示します。

## 実行 ID

配賦セットに使用できる実行 ID を一覧表示します。

## ログの表示

配賦セットの実行または転記中に発生したエラーを表示する場合に選択します。

## 名前を指定して実行

配賦セットを実行する場合に選択します。

## 転記

実行 ID を転記する場合に選択します。

## 削除

ハイライトした実行 ID を削除する場合に選択します。

## 閉じる

ダイアログボックスを閉じる場合を選択します。

# [レポート] ダイアログボックス

レポートのプレビューと印刷に使用します。Hyperion Allocations には、配賦定義レポート、セット定義レポート、実行レポート、実行後のレポートの 4 種類のレポートが用意されています。

## [配賦ユニット] タブ

[\[配賦ユニット\]](#) タブを使って、配賦定義レポートをプレビューまたは印刷します。

## [配賦セット定義] タブ

[\[配賦セット定義\]](#) タブを使って、セット定義レポートをプレビューまたは印刷します。

## [実行] タブ

[\[実行\]](#) タブを使って、実行レポートをプレビューまたは印刷します。

## [詳細] タブ

[\[詳細\]](#) タブを使って、実行後のレポートをプレビューまたは印刷します。

### すべてを選択

[配賦ユニット]、[配賦セット定義]、[実行] の各タブにあるすべての定義またはセットをハイライトする場合に選択します。このオプションは、[詳細] タブでは使用できません。

### 印刷

1 つまたは複数の選択したレポートを印刷する場合に選択します。

### プレビュー

1 つまたは複数の選択したレポートをプレビューする場合に選択します。

## [レポート] ダイアログボックス : [配賦ユニット] タブ

配定義レポートをプレビューまたは印刷する場合に使用します。

### 配賦ユニットの選択

プレビューまたは印刷する、1 つまたは複数の配賦定義を選択します。

## [レポート] ダイアログボックス : [配賦セット定義] タブ

セット定義レポートをプレビューまたは印刷する場合に使用します。

### 配賦セットの選択

プレビューまたは印刷する、1 つまたは複数のセット定義を選択します。

## [レポート] ダイアログボックス : [実行] タブ

選択したセットを ASCII ファイルに抽出する場合に使用します。

### 配賦セットの選択

抽出するセットを 1 つまたは複数選択します。

### 実行 ID、実行ステータス、配賦セット名

レポートするステータスを選択します。

### すべてを選択

プレビューまたは印刷する 1 つまたは複数のセットを選択します。

### 印刷

レポートを印刷するには、[印刷] を選択します。

### ファイルへ印刷

レポートをファイルとして保存するには、[ファイルへ印刷] を選択します。

### プレビュー

レポートのプレビューを表示するには、[プレビュー] を選択します。

### 閉じる

ダイアログボックスを閉じる場合に選択します。

## [レポート] ダイアログボックス : [詳細] タブ

実行後のレポートをプレビューまたは印刷する場合に使用します。

### 配賦セットの選択

プレビューまたは印刷する配賦セットを選択します。

### 実行 ID の選択

プレビューまたは印刷する、1 つまたは複数の実行 ID を選択します。

## [プレビュー] ウィンドウ

選択した 1 つまたは複数のレポートをプレビューする場合に使用します。

## [配賦の抽出] ダイアログボックス

選択した配賦を ASCII ファイルに抽出する場合に使用します。

### 配賦ユニットの選択

抽出する配賦を 1 つまたは複数選択します。

### 抽出

[\[抽出ファイルの名前の入力\]](#) ダイアログボックスを開く場合に選択します。このダイアログボックスで、抽出した配賦情報をコピーする先のディレクトリとファイルを選択します。

### 閉じる

ダイアログボックスを閉じる場合に選択します。

## [セットの抽出] ダイアログボックス

選択したセットを ASCII ファイルに抽出する場合に使用します。

### 配賦セットの選択

抽出するセットを 1 つまたは複数選択します。

## 抽出

[抽出ファイルの名前の入力] ダイアログボックスを開く場合を選択します。このダイアログボックスで、抽出したセット情報をコピーする先のディレクトリとファイルを選択します。

## 閉じる

ダイアログボックスを閉じる場合を選択します。

# [抽出ファイルの名前の入力] ダイアログボックス

抽出した配賦またはセットの情報をコピーする先のディレクトリとファイルを選択する場合に使用します。

## ファイルの場所

抽出した配賦またはセットの情報をコピーする先のファイルがあるディレクトリを選択します。現在の Hyperion Enterprise アプリケーションのアウトボックスであるデフォルトディレクトリ Outbox をそのまま使用することをお勧めします。

## ファイル名

抽出した配賦またはセットの情報をコピーする先のファイル名を入力します。

## 保存

現在の選択を保存する場合を選択します。

# [Allocations 読込ファイルの名前の入力] ダイアログボックス

抽出した配賦情報を配賦データベースに読み込む元となるディレクトリとファイルを選択する場合に使用します。

## ファイルの場所

配賦データベースにコピーする配賦情報が入っている抽出ファイルがあるディレクトリを選択します。

## ファイル名

抽出した配賦情報をコピーする元のファイル名を入力します。

## 開く

抽出ファイルを配賦データベースに読み込む場合を選択します。新しい配賦がデータベースに自動的にコピーされます。[レコードの上書き] ダイアログボックスでは、既存の配賦を上書きしたりスキップしたりできます。

## 【セット読込ファイルの名前の入力】ダイアログボックス

抽出したセット情報を配賦データベースに読み込む元となるディレクトリとファイルを選択する場合に使用します。

### ファイルの場所

配賦データベースにコピーするセット情報が入っている抽出ファイルがあるディレクトリを選択します。

### ファイル名

抽出したセット情報をコピーする元のファイル名を入力します。

### ファイルの種類

表示するファイルの種類を選択します。

### 開く

抽出ファイルを配賦データベースに読み込む場合に選択します。新しいセットがデータベースに自動的にコピーされます。[\[レコードの上書き\] ダイアログボックス](#)では、既存のセットを上書きしたりスキップしたりできます。

## 【レコードの上書き】ダイアログボックス

読み込む抽出済み配賦または抽出済みセットが既に存在する場合、それを上書きするかどうかを指定する場合に使用します。

### 可

特定の配賦またはセットを上書きする場合に選択します。

### 不可

配賦データベース内で特定の配賦またはセットをそのままにしておく場合に選択します。

### すべて

配賦データベースに既に名前が存在する配賦またはセットをすべて上書きする場合に選択します。

### なし

配賦データベースに既に名前が存在する配賦またはセットをすべてスキップする場合に選択します。



## この章の内容

LedgerLink の概要 .....	187
LedgerLink デスクトップ .....	188
LedgerLink サンプルファイル .....	189
テンプレートの定義 .....	190
データの換算 .....	192
[エンティティ変換] ウィンドウ .....	194
[変換結果の表示] ウィンドウ .....	200
変換オプションと読み込みオプションの設定 .....	201
Hyperion Enterprise へのデータの読み込み .....	205
LedgerLink の起動 .....	206
変換ルールの設定 .....	210
変換結果の表示 .....	211
変換ファイルのインポート .....	212
変換プロファイルの定義 .....	213
読み込みプロファイルの定義 .....	214
Hyperion Enterprise へのデータの読み込み .....	215
Hyperion LedgerLink のウィンドウとダイアログボックスのヘルプ .....	215

この章では、LedgerLink を使用したデータ換算とインポートの自動化に必要な情報と手順について説明します。

## LedgerLink の概要

LedgerLink は、重要なデータを変換して Hyperion Enterprise にインポートする処理を自動化します。LedgerLink は、特定のベンダのアプリケーションに適用できるテンプレートを使用して、他社の総勘定元帳や追加フィーダシステムのデータを統合します。

LedgerLink を使用すると、データをインポートする外部の各アプリケーションにカスタマイズされたテンプレートを設定できます。テンプレートは、Oracle General Ledger などの特定のソフトウェアアプリケーションを対象にできます。それによって、データを含むファイルを変更せずに、さまざまな元帳やフィーダシステムからデータを取り込むことができます。

**注：** 外部エンティティが同じであっても、LNT ファイル内で内部エンティティが異なる場合は、変換ファイルを連続して実行すると、予期しない結果が出力されることがあります。その結果、ファイルが非連続的に実行されます。例えば、外部名が同じで内部 Enterprise エンティティが異なるエンティティ変換ファイルを使用する 2 つのプロファイルを連続して読み込むと、最後に実行するプロファイルに対して間違った LNT ファイルが使用されます。これらを非連続的に読み込むか、次の読み込みの前に Ledgerlink を閉じてから再び開き、正しいエンティティ変換ファイルが選択されるようにします。

LedgerLink には次のモジュールがあり、読み込むデータのカスタマイズと定義に使用します。

LedgerLink のタスクを管理するには次のアクセス権を設定します。総勘定元帳テンプレート、変換ファイル、および読み込みプロファイルを作成するためのアクセス権を得るには、セキュリティモジュールのデータベースタスクで書式管理タスクに対する変更アクセス権が必要です。書式管理タスクに対する制限または表示アクセス権は、「なし」アクセス権があるのと同じです。既存の変換または読み込みプロファイルを起動するには、書式管理タスクに対する変更アクセス権は不要です。

**注：** 読み込み変換ファイルへのファイルパスの長さは、117 バイト以下にする必要があります。

**注：** Ledgerlink で、マッピング表にアカウントを追加した結果 32,000 行を超えると、ランタイムエラーが発生します。

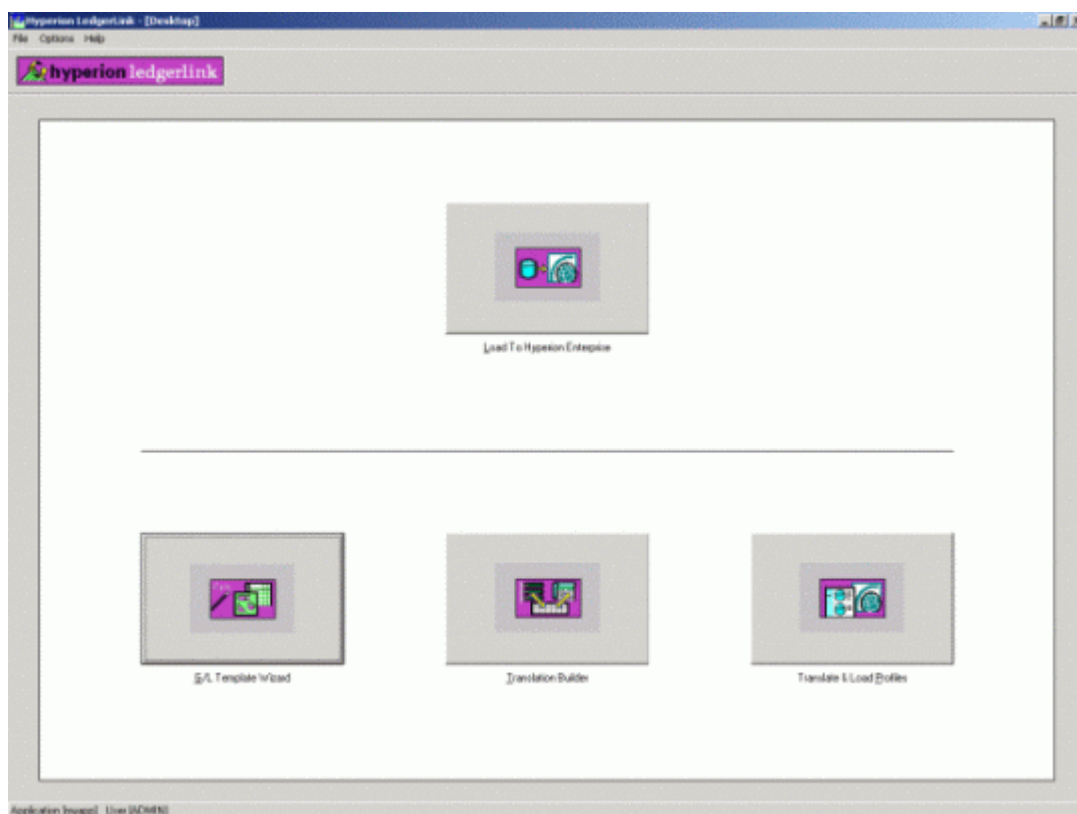
- **入力ファイルテンプレートウィザード** - Hyperion Enterprise に読み込む総勘定元帳ファイルの書式について説明したテンプレートを作成します。
- **変換表** - 外部の総勘定元帳名および勘定科目を Hyperion Enterprise のエンティティおよび勘定科目と照合する変換対応表を作成します。LedgerLink が使用する変換一覧を作成して、総勘定元帳から Hyperion Enterprise のエンティティおよび勘定科目にデータをマッピングします。
- **変換／読み込みプロファイル** - 変換および読み込み手順の設定を定義します。入力ファイルテンプレートウィザードで作成したテンプレートを選択して、総勘定元帳データを Hyperion Enterprise に読み込む場所と方法を指定します。
- **Hyperion Enterprise への読み込み** - 総勘定元帳データを Hyperion Enterprise に読み込みます。

## LedgerLink デスクトップ

システム内で行うすべての操作は LedgerLink デスクトップから開始します。[ログイン] ダイアログボックスにユーザ名とパスワードを入力し、システムが起動すると表示されます。モジュールウィンドウを閉じると、デスクトップに戻ります。

図 27 に、LedgerLink デスクトップを示します。

図 27 LedgerLink デスクトップ



LedgerLink デスクトップには次の要素があります。

タイトルバー - LedgerLink 製品およびリリース番号を示します。

- メニューバー - 次のメニューを表示します。
  - ファイル - モジュールへのアクセス、保存した入力ファイルテンプレートおよび読み込みプロファイルの内容のレポート印刷、LedgerLink の終了などを行うことができます。
  - オプション - アプリケーションの切り替え、言語の選択を行うことができます。
  - ヘルプ - オンラインヘルプや LedgerLink についての情報にアクセスできます。
- アイコン - システムモジュールを表します。アイコンが表すモジュールにアクセスするには、アイコンをクリックします。
- ステータスバー - データ処理が行われていない場合、現在の Hyperion Enterprise アプリケーションの ID がステータスバーに表示されます。処理が行われている場合は現在の処理が表示されます。

## LedgerLink サンプルファイル

LedgerLink の使用方法を学習するために、サンプルファイルを使用してサンプルテンプレート、表、プロファイルを作成することができます。サンプルファイルは、LedgerLink が SAP、Oracle Financials、Hyperion の会計ソリューション（総勘定元帳）、Pillar FYPLAN（予算）、Hyperion Enterprise（連結）とどのように統合さ

れるかを示します。インストール時にサンプルファイルを読み込んだ場合、ファイルは LedgerLink をインストールしたディレクトリに配置されます。

**注：** サンプルファイルを Hyperion Enterprise に読み込まないでください。

次にサンプルファイルについて説明します。

- **Hyperion 会計ソリューションサンプルファイル** - Hyperion 会計ソリューションのサンプルファイルは、Hyperion Enterprise にデータを読み込む際の勘定科目変換表の使用法を示します。対応表には、例外、範囲、グローバルのルール例が含まれます。
- **Hyperion Pillar FYPLAN サンプルファイル** - Hyperion Pillar FYPLAN サンプルファイルには、コンマ区切りフィールド、ヘッダー行、12 か月のデータから構成されたレポートが表示されます。組織単位および勘定科目変換表では、1 文字のアスタリスク (\*) ワイルドカードで反対側の 1 つの勘定科目と同じ反対側の 1 つの組織単位を表します。変換および読み込みプロファイルモジュールでは、LedgerLink は総勘定元帳ソースファイルのヘッダーオプションなしで読み込みファイルを作成します。
- **Hyperion Enterprise サンプルファイル** - Hyperion Enterprise サンプルファイルは、LedgerLink を使用して詳細な Hyperion Enterprise アプリケーションから Hyperion Enterprise アプリケーションのサマリにデータを読み込む方法を示します。このサンプルは変換ファイルを使用しないため、変換表モジュールを使用する必要がありません。
- **SAP サンプルファイル** - SAP サンプルファイルは、エラーログおよび拒否ファイルを示します。このファイルには、ファイルの勘定科目が換算で定義されていないために換算されなかったレコードが含まれています。このテンプレートでは、Hyperion Enterprise への読み込み中にソースの総勘定元帳出力ファイルを求めるプロンプトが表示されます。
- **Oracle サンプルファイル** - Oracle サンプルファイルでは、換算対応に IGNORE 機能を使用して、Hyperion Enterprise に読み込まれていないためにレポートレコードが生成されない勘定科目や名前を無視する方法を示します。ファイルは、固定長フィールド、書式設定済みのデータ、条件付きコードブロック、ページヘッダー行から構成されるレポートです。

## テンプレートの定義

テンプレートは、外部の総勘定元帳でデータをどのように書式設定するかを指定するために定義します。テンプレートは、Oracle General Ledger などのソース総勘定元帳システムからの出力ファイルを示します。LedgerLink ではこれらのテンプレートを使用して、Hyperion Enterprise に読み込むデータを解釈します。テンプレートを定義するには、入力ファイルテンプレートウィザードを使用します。

テンプレートを定義する場合、使用可能な総勘定元帳テンプレートの一覧からサンプルを選択し、テンプレートを変更します。新しく作成したテンプレートはそれぞれシステムに追加されます。

**注：** 入力ファイルテンプレートウィザードを使用する場合は、複数文字のフィールド区切り文字を使用しないでください。

テンプレートの定義は、次のような作業から構成されます。

- ソースサンプルファイルと呼ばれる総勘定元帳出力ファイルのサンプルを選択します。
- 出力ファイルからサンプルレコードを選択します。
- レコードの書式を指定します。
- レコードのそれぞれのフィールドを名前、勘定科目、またはデータ値として識別し、テンプレートを設定します。
- 総勘定元帳の出力ファイルがレポート形式の場合はレポート書式オプションを指定し、サンプルファイルのファイルヘッダー、ページヘッダー、ページボディ、ページフッターに使用する行数をそれぞれ指定できます。

また、既存のテンプレートをコピーして編集し、テンプレートを定義することも可能です。

**注：** テンプレートは、HPLLINK.MDB ファイルに含まれる内部 LedgerLink ファイルです。ファイル拡張子はなく、入力ファイルテンプレートウィザードからのみアクセスできます。

## ソースサンプルファイルの選択

**注：** サンプルファイルは書式設定にのみ使用されます。サンプルファイルを Hyperion Enterprise に読み込む必要はありません。読み込むファイルは、サンプルファイルと同じ書式でなければなりません。

ソースシステムファイルは、表抽出ファイルでもレポートファイルでもかまいません。表抽出ファイルは、各データフィールドが区切り文字で区切られているか、固定長形式である ASCII ファイルです。表抽出ファイルには、ページのヘッダー、フッター、書式がありません。

レポートファイルには、ファイルヘッダー、ページヘッダー、レポートボディ、ページフッターを含めることができます。ヘッダー、フッター、ボディは出力ファイルの全ページで同じサイズでなければなりません。レポートのデータフィールドは、区切り文字で区切るか、固定長形式として指定する必要があります。

どちらの形式のソースサンプルファイルでも、レコード区切り文字が自動的に検出されます。レコード区切り文字は、復帰文字または改行文字です。区切り文字も固定長形式も使わないファイルでは、固定長形式が使用されます。複数文字のフィールド区切り文字は使用しないでください。

► ソースサンプルファイルを選択するには、次の手順に従います。

- 1 LedgerLink デスクトップで、[入力ファイルテンプレートウィザード] を選択します。
- 2 [入力ファイルテンプレート] リストで、テンプレートを作成または編集します。
  - 新しいテンプレートを作成する場合は、[新規作成] をクリックします。

- 既存のテンプレートを編集する場合は、テンプレートをハイライトして[編集]をクリックします。
- 3 読み込む総勘定元帳ファイルの書式に基づいて、[テキスト]または[レポート]のファイルの種類を選択します。
- 4 サンプルファイルのパスと名前が[サンプルファイルの選択]ボタンの横に表示されないか、サンプルファイルを変更する場合は、[サンプルファイルの選択]を選択します。正しいパスとファイルを選択してから[OK]をクリックします。
- 5 [次へ]をクリックします。
- 6 サンプルレコードを選択します。詳しくは、[207 ページの「サンプルレコードの選択」](#)を参照してください。

## データの換算

テンプレートを定義したら、組織単位変換表および勘定科目変換表を使用して、外部のデータを Hyperion Enterprise の同等値に変換します。変換表では、他のシステムのエンティティまたは勘定科目が Hyperion Enterprise のエンティティまたは勘定科目に一致する必要があります。

変換表モジュールを使用して、外部のデータソースからの変換表および入力ファイルテンプレートウィザードで設定したテンプレートを作成します。また、以前に定義した勘定科目および組織単位変換対応表もインポートして使用することができます。

**注：** 外部のデータソースの全コードが Hyperion Enterprise のエンティティおよび勘定科目に一致する場合は、データを変換する必要はありません。

## 変換ファイルの種類

変換表モジュールで作成される変換ファイルを使用して、Hyperion Enterprise にデータを転送します。作成する変換ファイルの種類は、作業中のデータの種類およびデータのインポートまたはエクスポートに使用する方法によって異なります。変換の種類は次のとおりです。

- 外部エンティティ一覧 (\*.nli) - ASCII ファイルの外部エンティティか、総勘定元帳出力ファイルとテンプレートを使用して LedgerLink が作成した一覧を示します。一重引用符や二重引用符は使用しないでください。
- 外部勘定科目一覧 (\*.ali) - 総勘定元帳の外部勘定科目データ一覧または総勘定元帳出力ファイルとテンプレートを使用して LedgerLink が作成した一覧が含まれます。
- インポート勘定科目変換 (\*.tra) - インポート勘定科目変換ファイルは、テキストエディタで作成した ASCII 勘定科目変換ファイルです。これらのファイルは、外部勘定科目 1、外部勘定科目 2、内部勘定科目の書式を使用する必要があります。
- インポートエンティティ変換 (\*.trn) - インポートエンティティ変換ファイルは、LedgerLink で作成した ASCII エンティティ変換ファイルです。これらのファイルはコンパイルされ、LedgerLink の外部では使用できません。

- LedgerLink エンティティ変換 (\*.lnt) - LedgerLink エンティティ変換ファイルは内部エンティティ変換ファイルで、LedgerLink の外部では保存できません。
- LedgerLink 勘定科目変換 (\*.lat) - LedgerLink 勘定科目変換ファイルは内部勘定科目変換ファイルで、LedgerLink の外部では保存できません。

## 外部一覧

LedgerLink 内で外部の一覧を使用して変換ファイルを作成します。このファイルは、変換で使用する有効な外部組織単位または勘定科目で構成されています。一覧は、テキストエディタまたは LedgerLink を使って作成および編集できます。いずれの場合も、外部組織単位一覧のファイル名拡張子には.nli を、勘定科目一覧のファイル名拡張子には.ali を使用する必要があります。

**注：** Hyperion Enterprise のエンティティまたは勘定科目モジュールを使用してエンティティまたは勘定科目の一覧を作成することは可能ですが、LedgerLink の外部一覧では ID だけが表示され、説明は表示されません。

## エンティティ外部一覧

エンティティ一覧では、次の書式を使用します。

ENTITY, ここで、ENTITY はエンティティ ID を示します。

**注：** コンマの後に追加データを含めることもできますが、追加データは無視されます。[外部一覧] ボックスでは、エンティティだけが表示されます。

```
SOURCE.NLI  
LEGAL,MKTG,ADMIN,
```

上記の例では、LEGAL エンティティだけが [外部一覧] ボックスに表示されます。

## 勘定科目外部一覧

勘定科目一覧では、次の書式を使用します。

ACCOUNT, ここで、ACCOUNT は勘定科目 ID です。

**注：** コンマの後に追加データを含めることもできますが、追加データは無視されます。[外部一覧] ボックスでは、勘定科目だけが表示されます。

```
SOURCE.AL  
A001P601,A002P601,A011P602,
```

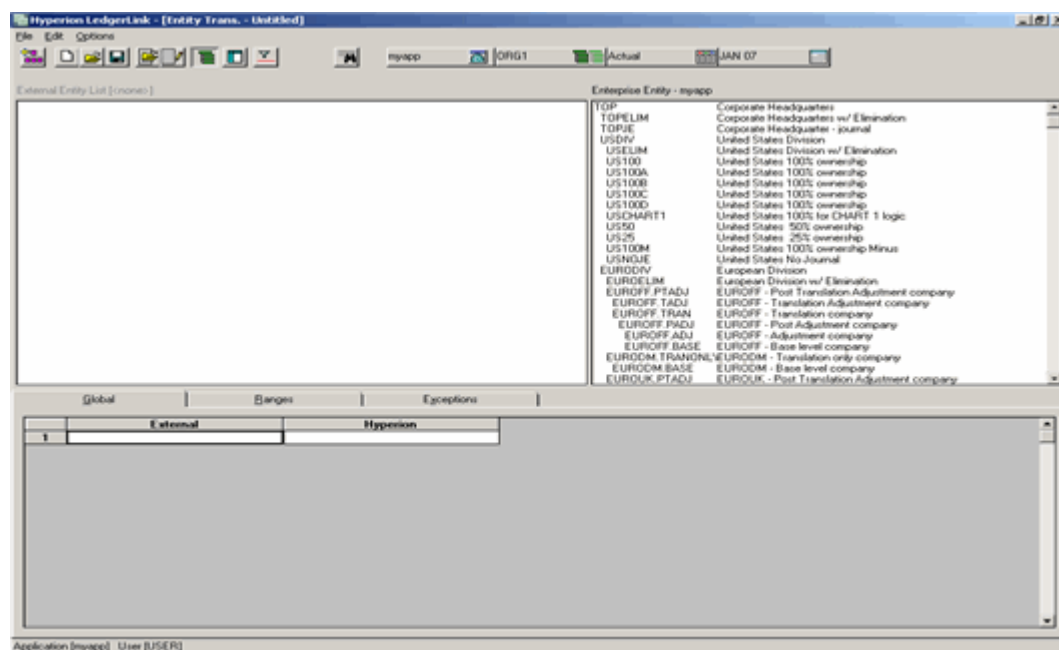
上記の例では、A001P601 勘定科目だけが [外部一覧] ボックスに表示されます。

# [エンティティ変換] ウィンドウ

[エンティティ変換] ウィンドウを使用して LedgerLink 変換ファイルを作成または編集します。外部または Hyperion Enterprise の両方の組織単位または勘定科目を表示できます。ウィンドウの下部にある [変換ルール対応] タブを使用して変換ルールを設定します。[エンティティ変換] ウィンドウでタスクを実行する場合は、メニューコマンドまたはツールバーアイコンからタスクを選択します。

図 28 に、[エンティティ変換] ウィンドウを示します。

図 28 [エンティティ変換] ウィンドウ



[エンティティ変換] ウィンドウには次の要素があります。

- タイトルバー - 製品、リリース番号、ウィンドウ名、ファイル名を示します。
- メニューバー - 各種のタスクを実行するために選択可能な次のメニューを示します。
  - ファイル - [ファイル] メニューのコマンドを使用すると、表 32 に示すタスクを実行できます。

表 32 [エンティティ変換] ウィンドウの [ファイル] メニュー

コマンド	タスク
新規作成	変換ファイルを作成します。
開く	変換ファイルを開きます。
保存	現在の変換ファイルを保存します。
名前を付けて保存	変換ファイルの新しいエンティティを指定します。
外部一覧を開く	外部エンティティまたは勘定科目一覧を開きます。

コマンド	タスク
外部一覧の作成	外部エンティティまたは勘定科目一覧を作成または更新します。
変換ファイルの読込	例外、範囲、グローバルの各ルールの ASCII ファイルバージョンをインポートします。
変換ファイルの抽出	例外、範囲、グローバルの各ルールのバージョンを.TRA ファイルとしてエクスポートします。

編集 - 表 33 に示すタスクを実行できます。

表 33 [エンティティ変換] ウィンドウの [編集] メニュー

コマンド	タスク
行の挿入	例外、範囲、グローバルの各表に行を追加します。
削除	例外、範囲、グローバルの各表から行を削除します。
検索	例外、範囲、グローバルの各表からテキストを検索します。

オプション - 表 34 に示すタスクを実行できます。

表 34 [エンティティ変換] ウィンドウの [オプション] メニュー

コマンド	タスク
Entity Translation (エンティティ変換)	エンティティ変換モードに切り替えます。
勘定科目変換	勘定科目変換モードに切り替えます。
変換結果の表示	定義したルールの全一覧を表示します。

## 変換ルール

LedgerLink 変換ファイル内でデータを定義するルールには、例外、範囲、グローバルの 3 種類があります。エンティティ変換ファイルと勘定科目変換ファイルには、ルールを 3 種類まで含めることができます。

## 例外ルール

例外ルールは、外部エンティティまたは勘定科目を Hyperion Enterprise のエンティティまたは勘定科目に一对一で対応させる場合や、定義された範囲ルールまたはグローバルルールに該当しないエンティティまたは勘定科目を指定するために使用します。

**注：** 例外ルールはワイルドカードをサポートしません。

図 29 に、[エンティティ変換] の [例外] タブで定義した例外ルールの例を示します。

図 29 例外ルール

	External	Hyperion
1	CC01C001	BELGIUM
2	CC01C002	HOLLAND
3	CC01C004	SWEDEN
4	CC01C003	NORWAY
5		

- CC01C001 という組織単位は、BELGIUM エンティティに変換されます。
- CC01C002 という組織単位は、HOLLAND エンティティに変換されます。
- CC01C003 という組織単位は、SWEDEN エンティティに変換されます。
- CC01C004 という組織単位は、NORWAY エンティティに変換されます。

## 範囲ルール

範囲ルールは、複数の外部エンティティまたは勘定科目をグループ化して Hyperion Enterprise の 1 つのエンティティまたは勘定科目に対応させる場合や、定義されたグローバルルールに該当しないエンティティまたは勘定科目を指定するために使用します。

図 30 に、[エンティティ変換] ウィンドウの [範囲] タブで定義した範囲ルールの例を示します。

図 30 範囲ルール

	External	> External	Hyperion
1	CC01C001	CC01C003	SPAIN
2			

上記の組織単位変換で、外部システムの勘定科目範囲の累計（勘定科目 CC01C001 ～ CC01C003）は、Hyperion Enterprise で SPAIN に変換されます。

**注：** 範囲ルールでは、外部範囲でのアスタリスク (\*) の使用のみをサポートしています。

## グローバルルール

グローバルルールを使用すると、ワイルドカードを使用して複数のエンティティまたは勘定科目を変換することができます。グローバルルールは、外部ソフトウェア表と Oracle Enterprise Performance Management ソフトウェア表の両方で使用できます。エンティティまたは勘定科目は、いずれかの表にドラッグしてドロップされた場所に挿入されます。表 35 に、グローバルルールでのワイルドカードの使用方法を示します。

表 35 グローバルルールの変換カード

ワイルドカード文字	用途
?	外部エンティティまたは勘定科目の任意の 1 文字と一致します。この文字を使用した場合、ワイルドカード文字を除くすべての文字が一致する必要があります。
*	外部エンティティまたは勘定科目の最後にある複数の文字、あるいは、エンティティまたは勘定科目のすべての文字と一致します。特定の文字の最後で使った場合、その組織単位または勘定科目に続く任意の複数の文字が一致します。単独で使った場合、すべてのエンティティまたは勘定科目が選択されます。

例えば、数字の 1 で始まる外部勘定科目がすべて Hyperion Enterprise の Sales 勘定科目に変換される勘定科目変換ファイルを作成できます。

また、読み込みファイルに含めるエンティティまたは勘定科目をすべて列挙する代わりに、外部列と Oracle Enterprise Performance Management ソフトウェア列の両方でアスタリスク (\*) ワイルドカードを使用することもできます。その後、[例外] 表を使用して、変換する必要のあるエンティティおよび勘定科目だけの一覧を表示できます。

**注：** グローバルルールを使用すると、ソートされている.GLO ファイルの順番が変換後が変わってしまうことがあります。このような状況を防ぐため、別の名前でファイルを保存してください。

勘定科目変換ファイルの場合のみ、各表に表示される追加の列を使用してデータを加算するか、結果からデータを減算するかを指定できます。デフォルト設定では、データが加算されます。

## 評価順序

変換中、LedgerLink では次の順序でルールが評価されます。

- 例外
- 範囲
- グローバル

勘定科目で複数のルールが参照される場合、最初のルールによって変換が定義されます。例えば、次のようなルールを定義するとします。

```
Global:      *,ACC1
Range:      1000>2000,ACC2
例外:      1010,ACC3
           1020,ACC4
```

結果は次のとおりです。

```
1010=ACC3
1020=ACC4
1000.2000 (excluding 1010 and 1020)=ACC2
1999 and 2001>3000 =ACC1
```

## 無視機能

Hyperion Enterprise の読み込みプロファイルでは、エンティティまたは勘定科目を無視して、それらがエラーとしてエラーログに表示されるのを防ぐことができます。例えば、.GLO ファイルの総勘定元帳から抽出されたサマリまたは検証勘定科目を無視するとします。Oracle Performance Management ソフトウェア表でエンティティまたは勘定科目の横に[IGNORE]と入力することによって、LedgerLink がこれらの勘定科目を無視し、Hyperion Enterprise に読み込まないように指示することができます。無視機能でワイルドカードを使用して、読み込みファイルのエンティティまたは勘定科目範囲を無視することができます。

**注：** 無視機能は、例外、範囲、グローバルの対応表で使用できます。

## インポートする変換ファイルのルール

Hyperion Enterprise で作成した組織単位と勘定科目の変換ファイルはインポートおよびエクスポートできます。.TRA ファイルは、例外、範囲、グローバルの各表の ASCII ファイルバージョンです。変換 ASCII ファイルを作成する書式は、例外、範囲、グローバルの各ルールで異なります。

### ASCII ファイルの例外ルール

例外ルールは、エンティティおよび勘定科目を一对一で対応付けする場合に使用します。例外は、通常、範囲ルールにもグローバルルールにも該当しないエンティティまたは勘定科目です。例えば、総勘定元帳の 101L エンティティを Hyperion Enterprise で TEXAS.INP に変換するとします。

**注：** 例外ルールではワイルドカードはサポートされていません。

例外ルールの各行で次の書式を使用します。

External, Internal

変数	説明
External	外部エンティティおよび勘定科目
Hyperion	Hyperion Enterprise エンティティおよび勘定科目

次にその例を示します。

```
ACCT10, PEXP.SOCCER.SHOES
ACCT20, PEXP.SOCCER.BALLS
ACCT30, PEXP.SOCCER.EQUIP
ACCT40, PEXP.SOCCER.APPAR
```

上記の例では、次のルールが定義されています。

- ACCT10 勘定科目は、PEXP.SOCCER.SHOES に変換されます。
- ACCT20 勘定科目は、PEXP.SOCCER.BALLS に変換されます。

- ACCT30 勘定科目は、PEXP.SOCCER.EQUIP に変換されます。
- ACCT40 勘定科目は、PEXP.SOCCER.APPAR に変換されます。

## ASCII ファイルの範囲ルール

範囲ルールは、複数の外部エンティティまたは勘定科目をグループ化して Hyperion Enterprise の 1 つのエンティティまたは勘定科目に対応付けする場合に使用します。例えば、総勘定元帳の 20100 ～ 20500 勘定科目の累計を Hyperion Enterprise で OTHERINC に変換するとします。

**注：** 範囲ルールでは、アスタリスク (\*) ワイルドカードのみがサポートされており、Oracle Performance Management ソフトウェア表では使用できますが、外部表では使用できません。アスタリスクを他の文字と組み合わせることはできません。ワイルドカードを使用すると、同じ外部組織単位または勘定科目が内部の Hyperion エンティティまたは勘定科目として維持されます。

範囲ルールでは次の書式を使用します。

External1 > Externaln, Hyperion

変数	説明
External	外部データソースの一連のエンティティまたは勘定科目の最初のエンティティまたは勘定科目
Externaln	外部データソースの一連のエンティティまたは勘定科目の最後のエンティティまたは勘定科目
Hyperion	勘定科目をグループ化する Hyperion Enterprise エンティティまたは勘定科目

次の例では、ACCT50 ～ ACCT70 勘定科目の累計は、PEXP.SOCCER.NOVELTIES に変換されます。

ACCT50, > ACCT70, PEXP.SOCCER.NOVELTIES

## ASCII ファイルのグローバルルール

グローバルルールは、ワイルドカードを使用して複数の組織単位または勘定科目を変換する場合に使用します。

グローバルルールでは次の書式を使用します。

External, Hyperion

変数	説明
External	グローバルルールを割り当てる外部エンティティまたは勘定科目
Hyperion	ルールを適用する Hyperion Enterprise 勘定科目

次の例では、数字の 2 で始まる外部勘定科目が SOCCER.OTHER に変換されます。








2\*, SOCCER.OTHER

また、読み込みファイルに含める名前または勘定科目をすべて列挙する代わりに、外部列と Oracle Performance Management ソフトウェア列の両方でアスタリスク (\*) ワイルドカードを使用することもできます。その後、[例外] 表を使用して、変換する必要のあるエンティティおよび勘定科目だけの一覧を表示できます。

## [変換結果の表示] ウィンドウ

[変換結果の表示] ウィンドウにアクセスするには、[エンティティ変換] ウィンドウで [オプション] から [変換結果の表示] を選択します。表 36 に、[変換結果の表示] ウィンドウで使用できるアイコンを示します。

表 36 [変換結果の表示] ウィンドウアイコン




アイコン	用途
	メインの [エンティティ変換] ウィンドウに戻ります。
	[変換結果の表示] ウィンドウと LedgerLink デスクトップを切り替えます。
 (白)	変換結果を再計算します。表は空白のままか、前の変換の結果が表示されます。
 (赤)	未変換の項目だけが表示されます。
	変換済みの結果から未変換の結果に表示を変更します。
	[Results] 表のテキストを検索します。
	結果を印刷します。










## ツールバー

ツールバーボタンの上にカーソルを置くと、ウィンドウの一番下のステータスバーにその説明が表示されます。

表 37 にツールバーボタンとその用途を示します。

表 37 [エンティティ変換] ウィンドウツールバー

ボタン	用途
	LedgerLink デスクトップに戻ります。
	変換ファイルを作成します。
	変換ファイルを開きます。

ボタン	用途
	現在の変換ファイルを保存します。
	外部エンティティまたは勘定科目一覧を開きます。
	外部エンティティまたは勘定科目一覧を作成または更新します。
	エンティティ変換モードに切り替えます。
	勘定科目変換モードに切り替えます。
	定義したルールの結果または全一覧を表示します。
	例外、範囲、グローバルの各表からテキストを検索します。
	現在の Hyperion Enterprise アプリケーションを変更します。
	現在の Hyperion Enterprise の組織を変更します。

## ステータスバー

ステータスバーは、現在の Hyperion Enterprise アプリケーションの名前を表示します。ステータスバーでは、ツールバーボタンの上にカーソルを置くと、アイコンの説明も表示されます。

## 変換オプションと読み込みオプションの設定

システムがどのようにデータを変換し、Hyperion Enterprise に読み込むかを制御するオプションを設定する必要があります。オプションを設定するには、変換／読み込みプロファイルモジュールで読み込みプロファイルを作成します。設定を指定して、プロファイルを実行します。

プロファイルは、HPLLINK.MDB ファイルに含まれる内部 LedgerLink ファイルです。ファイル拡張子はなく、変換／読み込みプロファイルモジュールまたは Microsoft Access からのみアクセスできます。

各プロファイルで、次の種類のファイルを指定する必要があります。

- 総勘定元帳出力ファイル
- Hyperion Enterprise 読み込みファイル
- 入力ファイルテンプレートウィザードで作成したテンプレート
- エンティティ変換で作成した組織単位と勘定科目の変換表
- 単位やデータ表示などデータに付属の Hyperion Enterprise オプション

プロファイルを設定する場合、Hyperion Enterprise にデータを読み込まずに Hyperion Enterprise 書式にデータを変換するように選択することができます。

## 「変換／読込プロファイル」 リスト

「変換／読込プロファイル」 リストで、新しいプロファイルを開いたり既存のプロファイル編集します。また、プロファイルの名前変更、削除、コピーもできます。図 31 に、「変換／読込プロファイル」 リストを示します。

図 31 「変換／読込プロファイル」 リスト

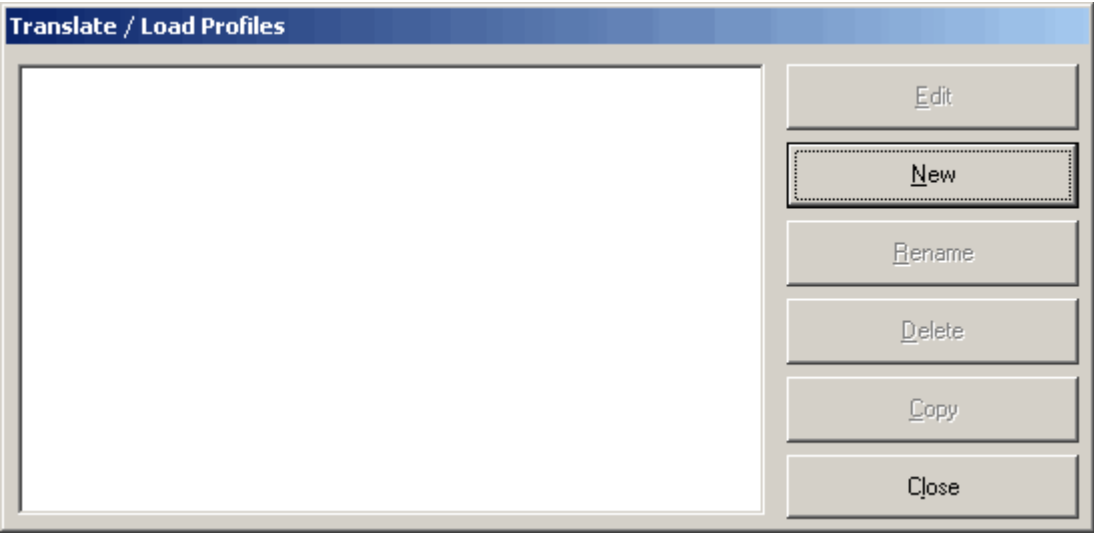


表 38 に、既存のプロファイルを含むダイアログボックスの 6 つのボタンについて説明します。

表 38 「変換／読込プロファイル」 オプション

ボタン	用途
名称変更	選択したプロファイルの名前を、前の名前を上書きして変更します。
削除	選択したプロファイルを削除します。
コピー	新しい名前で作成することができるプロファイルのコピーを作成します。
新規作成	新しいプロファイルを作成します。
編集	選択したプロファイルを改訂するために開きます。
閉じる	リストを閉じます。

## 「変換／読込プロファイル」 ダイアログボックス

「変換／読込プロファイル」 ダイアログボックスで、読み込みプロファイルの属性を設定します。プロファイルを構成するファイルおよび Hyperion Enterprise オプションを指定します。「変換／読込プロファイル」 ダイアログボックスには 2 つのタブがあります。「変換」 タブでは、データの読み込みに必要なファイルを選択し

ます。[読込] タブでは、単位や開始期間など読み込みプロファイルの Hyperion Enterprise オプションを選択します。

[変換] タブ

図 32 に [変換] タブを示します。

図 32 [変換] タブ

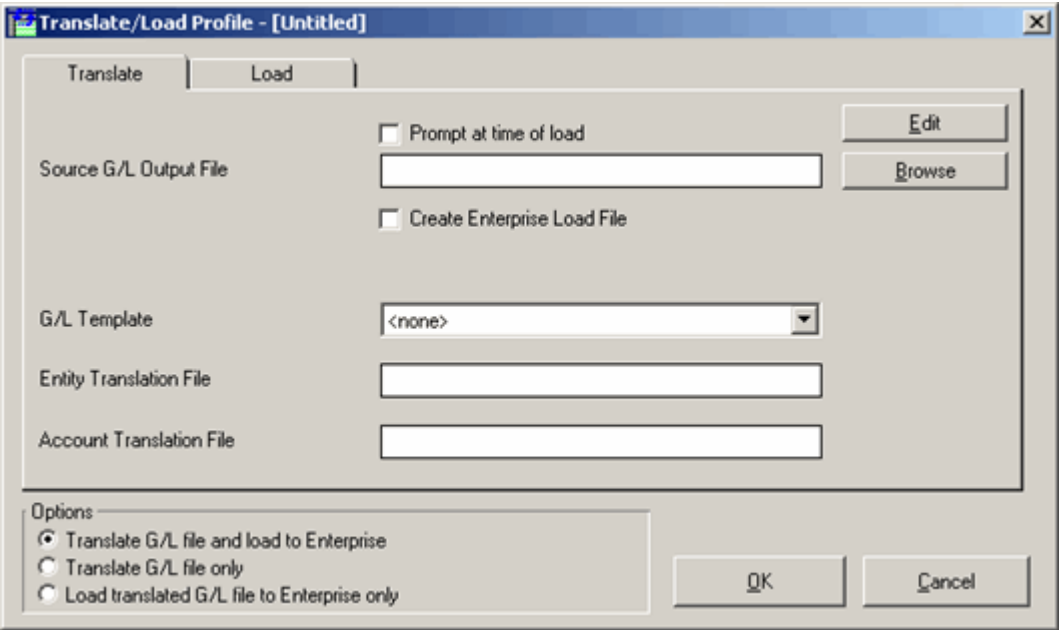


表 39 に [変換] タブのオプションを示します。

表 39 [変換] タブのオプション

オプション	用途
実行時に選択	Hyperion Enterprise への読み込み中に総勘定元帳ソースファイルを指定します。
入力ファイル	総勘定元帳出力ファイルのドライブ、パス、およびファイル名を指定します。
Hyperion Enterprise 読込ファイル	オプションの Hyperion Enterprise 読み込みファイルのドライブ、パス、ファイル名を指定します。
入力ファイルテンプレート	入力ファイルテンプレートファイルのファイル名を指定します。
エンティティ変換ファイル	エンティティ変換ファイルのドライブ、パス、およびファイル名を指定します。
勘定科目変換ファイル	勘定科目変換ファイルのドライブ、パス、およびファイル名を指定します。
変換済入力ファイルの読み込みのみ	Hyperion 間で転送を行う場合に、Hyperion Enterprise 読み込みファイルだけを読み込みます。このボックスを選択すると、[変換] タブから他の編集ボックスがすべて削除されます。

オプション	用途
参照	ダイアログボックスからファイルを選択します。[参照] ボタンは、現在アクティブな、または最近アクティブだったファイル（入力ファイル、Hyperion 読み込みファイル、エンティティ変換ファイル、勘定科目変換ファイル）に応じて、4 つの編集ボックスのいずれかの横に表示されます。
編集	ファイルをテキストエディタで開きます。[編集] ボタンは、現在アクティブな、または最近アクティブだったファイルに応じて、2 つの編集ボックス（[入力ファイル] 編集ボックスまたは [Hyperion 読み込みファイル] 編集ボックス）のいずれかの横に表示されます。

## 「読込」タブ

図 33 に「読込」タブを示します。

図 33 「読込」タブ

表 40 に「読込」タブのオプションを示します。

表 40 「読込プロファイル」のオプション

オプション	用途
入力ファイルのヘッダーを使用	総勘定元帳ソースファイルにあるヘッダーを使うように LedgerLink に指示します。このボックスを選択すると、「読込」タブの「データ種別」、「開始期間」および「終了期間」編集ボックスは削除されます。
データ種別	読み込むデータのデータ種別を指定します。
開始期間と終了期間	読み込むデータの開始期間と終了期間を指定します。









オプション	用途
単位	データの単位を指定します。
モード	データを読み込むときに、累計するか、置き換えるか、結合するかを指定します。
表示形式	データを累計または期別で表示するか、データ種別ごとに表示するかを指定します。
オプション	データ読み込み中に、計算式を実行する、算出勘定科目へのデータ読み込みをエラーとしてレポートする、またはデータのない勘定科目をゼロとして表示するタスクのいずれかを実行するように指定します。
変換済入力ファイルの読み込み	Hyperion 間での転送で使用する Hyperion Enterprise 読み込みファイルだけを読み込みます。このボックスを選択すると、[入力ファイルのヘッダーを使用] チェックボックス、[読込] タブの [データ種別]、[開始期間] および [終了期間] 編集ボックスが削除されます。


## Hyperion Enterprise へのデータの読み込み

[Hyperion Enterprise への読込] ウィンドウには、[読込プロファイル] リストに使用可能な読み込みプロファイルがすべて表示されます。右側のウィンドウには、現在のプロファイルの特性が表示されます。ウィンドウの下部のステータスバーには、現在のアプリケーションと組織が表示されます。

メニューコマンドやツールバーアイコンを使用して、総勘定元帳データの Hyperion Enterprise への読み込み、プロファイルの編集、ログの表示、アプリケーションの変更を行います。表 41 に、メニュー項目を示します。

表 41 [Hyperion Enterprise への読込] メニュー項目コマンド

コマンド	用途
	選択したプロファイルを Hyperion Enterprise に読み込みます。
	Hyperion Enterprise モジュールへの読み込みを終了して、デスクトップに戻ります。
	現在のプロファイルの属性を変更します。
 (赤)	Hyperion Enterprise への読み込み中に発生したエラーが含まれる ERROR.LOG ファイルを表示します。
 (グレー)	エラーが原因で Hyperion Enterprise に読み込めなかった読み込みファイルのデータが含まれる ADMIN.ERR ファイルを表示します。
	データを読み込むことのできる新しい Hyperion Enterprise アプリケーションを選択します。
	データを読み込むことのできる新しい Hyperion Enterprise 組織を選択します。
	データを読み込むことのできる新しい Hyperion Enterprise データ種別を選択します。

コマンド	用途
	データを読み込むことのできる新しい Hyperion Enterprise 期間を選択します。

## LedgerLink の起動

初期インストール時に、HPLL32.EXE ファイルを保存するディレクトリを選択します。HYPENT.EXE が含まれるディレクトリと同じディレクトリにする必要があります。LedgerLink を使って初めて Hyperion Enterprise にアクセスすると、システムはアプリケーションディレクトリの下に LLINK というディレクトリを作成し、その LLINK ディレクトリに HPLLINK.MDB というファイルを作成します。例えば、C:\HYPENT\WWCONSOL ディレクトリにあるアプリケーションにアクセスした場合、システムは C:\HYPENT\WWCONSOL\LLINK ディレクトリを作成し、そのディレクトリに HPLLINK.MDB ファイルを作成します。LLINK ディレクトリには、Hyperion Enterprise アプリケーションに固有でない LedgerLink ファイルが保存されます。LLINK ディレクトリは、Windows ディレクトリにある HPADDONS.INI ファイルで指定されます。HPLLINK.MDB ファイルには、そのアプリケーション用に定義されたテンプレートと読み込みプロファイルが保存されます。

**注：** LedgerLink では、Hyperion Enterprise のセキュリティを使ってアプリケーションへのアクセス権をチェックします。

- LedgerLink を起動するには、次の手順に従います。
  - 1 Hyperion Enterprise を終了します。
  - 2 [スタート] メニューから、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise]、[LedgerLink] の順に選択します。
  - 3 [アプリケーション名] リストから Hyperion Enterprise アプリケーションを選択します。
  - 4 ユーザ名とパスワードを入力します。
  - 5 [OK] をクリックします。

## Hyperion Enterprise アプリケーションの変更

LedgerLink を終了することなく、データを読み込む先の Hyperion Enterprise アプリケーションを変更できます。LedgerLink では、Hyperion Enterprise のセキュリティを使ってアプリケーションへのアクセス権をチェックします。このため、LedgerLink からアプリケーションにアクセスするには、Hyperion Enterprise アプリケーションにアクセスするときに使うユーザ名とパスワードを使用します。

- Hyperion Enterprise アプリケーションを変更するには、次の手順に従います。
  - 1 LedgerLink デスクトップで、[オプション] メニューから [アプリケーション] を選択します。
  - 2 [アプリケーション名] リストから Hyperion Enterprise アプリケーションを選択します。

- 3 ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

## サンプルレコードの選択

ソースサンプルファイルとその種類を指定した後、外部の総勘定元帳によるレコードフィールドの割り当てと区切りを最も正確に表すサンプルレコードを選択します。ソースサンプルファイルのレコードが表示されます。ファイルをスクロールして、その中の最も代表的なレコードを検索できます。レコードのどのフィールドが組織単位、勘定科目、データを表すかを特定します。また、レコードの各フィールドを区切る記号または書式も特定します。

- ▶ サンプルレコードを選択するには、次の手順に従います。
- 1 ソースサンプルファイルを選択します。詳しくは、[191 ページの「ソースサンプルファイルの選択」](#)を参照してください。
  - 2 [表示] ボックスからレコードを選択します。  
区切り文字も固定長形式も使わないレコードを選択した場合は、[固定長] ボックスが表示されます。
  - 3 [固定長] ボックスが表示されたら、レコードのフィールドを固定長列に配置します。フィールドを列に整列させるには、フィールド長を入力するか、フィールドが整列するまで矢印をクリックします。
  - 4 [次へ] をクリックします。
  - 5 フィールドの書式を確認します。詳しくは、[207 ページの「フィールド書式の検証」](#)を参照してください。

## フィールド書式の検証

ソースの総勘定元帳のフィールド書式としては、固定長、区切り、書式化があります。LedgerLink では、選択したサンプルレコードに基づいてフィールド書式が選択されます。その後、LedgerLink が選択した書式を検証します。

データファイルに使用できる書式は、次のとおりです。

- 固定長フィールド - 列に配置され、区切り文字を使いません。列はファイル内で一定でなければなりません。
- 可変長フィールド - コンマ (,) やセミコロン (;) などの文字を使ってデータ項目を区切ります。
- フォーマット済みデータ - 通貨記号、カンマ、またはかっこを使うデータフィールドです。例えば、データ項目\$123,000 には、通貨記号とコンマが含まれています。

LedgerLink では、Windows で通貨形式に指定した 3 桁ごとの区切りと小数点の区切り文字を使います。オプションを変更する場合は、コンマまたはスペースを区切り文字として使うことも、別の記号を指定することもできます。

**注：** LedgerLink がデータを Hyperion Enterprise に読み込むとき、データ書式は Hyperion Enterprise で使用する標準書式に変換されます。例えば、出力ファイル内の負数を表すために使用されるかっこは、Hyperion Enterprise ではマイナス記号 (-) に変更されます。

- ▶ フィールドの書式を検証するには、次の手順に従います。
- 1 サンプルレコードを選択します。詳しくは、[207 ページの「サンプルレコードの選択」](#)を参照してください。
  - 2 総勘定元帳データの書式設定に応じて、[固定長] または [可変長] を選択します。
  - 3 データに通貨記号、コンマ、またはかっこが含まれている場合は、[フォーマット済データ] を選択します。
  - 4 レコードが区切られている場合にフィールドの区切り文字を変更するには、[可変長] を選択します。外部総勘定元帳で使われる区切り文字を入力するか、[スペース] を選択します。
  - 5 [次へ] をクリックします。
  - 6 テンプレートを設定します。詳しくは、[208 ページの「テンプレートの設定」](#)を参照してください。

## テンプレートの設定

Hyperion Enterprise の組織単位、勘定科目、データの各フィールドのソースレコードから情報を保存するテンプレートを設定します。1 つのフィールドまたは複数のフィールドのグループを、サンプルレコードから組織単位、勘定科目、データの 3 つのデータ種別のいずれかにドラッグアンドドロップできます。

フィールドをデータ種別に配置すると、レコード上でその位置をチェックできます。例えば、勘定科目フィールドがレコードの 2 番目のフィールドである場合は、Field 2 として識別されます。

**注：** 作業内容によって、カーソルの形が異なります。フィールドを選択後は 4 つ矢のアイコン、ドラッグ中は線付き 1 つ矢のアイコン、編集ボックス上にあるときは線付き手のアイコンになります。

- ▶ テンプレートを設定するには、次の手順に従います。
- 1 フィールドの書式を検証します。詳しくは、[207 ページの「フィールド書式の検証」](#)を参照してください。
  - 2 エンティティを識別するフィールドをハイライトします。
    - 区切りデータの場合は、フィールド内の任意の箇所をクリックします。
    - 固定長データの場合は、フィールド全体を選択します。サンプルファイルでデータの前に空白がある場合は、異なるデータ長に対して十分な列幅が確保できるように、これらの空白を列幅に含めます。
  - 3 ハイライトされているフィールドを [エンティティ] ボックスにドラッグします。
  - 4 [勘定科目] と [データ] の各ボックスについて、ステップ 2 と 3 を繰り返します。

- 5 [エンティティ]、[勘定科目]、[データ] ボックスから、次のいずれかの操作を行います。
- 1つのフィールドまたは隣接する複数フィールドを削除するには、削除するフィールドを選択し、右下隅にあるごみ箱のアイコンまでドラッグします。
  - 3つの編集ボックスからすべてのフィールドを削除するには、[すべてのフィールドをクリア] をクリックします。
- 6 [エンティティ] または [勘定科目] の各ボックスにテキストや期間を追加するには、必要に応じて次の操作を行います。
- 期間を追加する場合は、[期間] ボタンをクリックしてボックスまでドラッグします。
  - テキストを追加する場合は、[テキスト] ボタンをクリックしてボックスまでドラッグします。ダイアログボックスにテキストを入力し、[OK] をクリックします。
- 7 固定長フィールドでは、[データフィールドの長さ] ボックスにデータ列幅を入力します。
- ヒント：** サンプルレコード内のデータをハイライトし、編集ボックスにドラッグできます。
- 8 サンプルレコードで組織単位、勘定科目、データの各要素の位置を表示するには、[位置を表示] を選択します。
- 9 次のいずれかを行って、設定を完了します。
- サンプルファイルがレポート書式の場合は、[次へ] をクリックしてからレポート書式を指定します。詳しくは、[209 ページの「レポート書式の指定」](#)を参照してください。
  - サンプルファイルが表抽出の場合は、[終了] をクリックします。テンプレート名を入力して、[OK] をクリックします。

## レポート書式の指定

サンプルファイルがレポート形式の場合は、レポートに含めるファイルヘッダー、ページヘッダー、ページボディ、ページフッターの行数をそれぞれ指定する必要があります。

**注：** 作業内容によって、カーソルの形が異なります。ドラッグ中は線付き矢のアイコン、編集ボックス上にあるときは線付き手のアイコンになります。

- レポート書式を指定するには、次の手順に従います。
- 1 テンプレートを設定します。詳しくは、[208 ページの「テンプレートの設定」](#)を参照してください。
  - 2 ファイルヘッダー、ページヘッダー、ページボディ、ページフッターの各行数を対応するボックスに入力します。
  - 3 [終了] を選択します。
  - 4 テンプレート名を入力して、[OK] をクリックします。

## 外部一覧の定義

総勘定元帳出力ファイル (.glo) と LedgerLink テンプレートに基づいて外部一覧を作成します。外部一覧を作成して変換ファイルに組み込んだ後は、必要に応じて、直接 LedgerLink 内で一覧を更新できます。

前に作成された組織単位または勘定科目の変換ファイルを、[外部勘定科目一覧の作成] ダイアログボックスに表示することもできます。そこで、外部のエンティティまたは勘定科目と Hyperion のエンティティまたは勘定科目の関係を定義できます。

- ▶ 外部一覧を定義する、または以前に作成された勘定科目の変換ファイルを表示するには、次の手順に従います。

- 1 LedgerLink デスクトップで、[変換表] をクリックします。
- 2 外部の勘定科目一覧またはエンティティ一覧を作成および更新したり、既存の勘定科目一覧またはエンティティ一覧を開くには、[オプション] メニューから [勘定科目変換] または [エンティティ変換] を選択します。

**ヒント：** ツールバーで [エンティティ変換表] アイコンまたは [勘定科目変換] アイコンを選択することもできます。

- 3 次のいずれかの操作を行います。
  - 一覧を作成するには、[ファイル] メニューから [外部一覧の作成] を選択するか、[外部一覧の作成] アイコンをツールバーで選択します。
  - 一覧を開くには、[ファイル] メニューから [外部一覧を開く] を選択するか、ツールバーでこのアイコンを選択します。
- 4 ファイル名を入力します。
- 5 既存の一覧を開いた場合は、[入力ファイルテンプレート] ドロップダウンリストでテンプレートを選択します。
- 6 一覧を作成または更新します。
  - 一覧を作成する場合は、[外部一覧の作成] を選択します。
  - 選択した一覧を更新する場合は、[外部一覧を開く] を選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

## 変換ルールの設定

変換ファイルを作成するには、外部システムと Hyperion Enterprise アプリケーションの両方のエンティティと勘定科目を把握する必要があります。変換ファイルの作成時に、データの変換ルールを定義します。

例外、範囲、グローバルの 3 種類のルールを定義できます。表 42 に、変換ルールの概要を示します。変換ルールについて詳しくは、195 ページの「変換ルール」を参照してください。

表 42 変換ルール

ルールの種類	用途
例外	外部エンティティまたは勘定科目を Hyperion Enterprise エンティティまたは勘定科目に一对一で対応させます。
範囲	複数の外部エンティティまたは勘定科目を 1 つの Hyperion Enterprise エンティティまたは勘定科目に対応させます。
グローバル	コンマ (,) や疑問符 (?) を使用して、複数の組織単位または勘定科目を変換します。

▶ 変換ルールを設定するには、次の手順に従います。

- 1 LedgerLink デスクトップで、[変換表] をクリックします。
  - 2 次のいずれかの操作を行います。
    - 新しい変換ファイルを作成するには、[ファイル] メニューから [新規作成] を選択するか、ツールバーの [新規作成] ボタンをクリックします。
    - 既存の変換ファイルを開くには、[ファイル] メニューから [開く] を選択するか、ツールバーの [開く] ボタンをクリックしてファイル名を選択し、[OK] をクリックします。
  - 3 [オプション] の [エンティティ変換表] または [オプション] の [勘定科目変換] を選択します。
- ヒント：** Hyperion Enterprise アプリケーションまたは組織を変更する場合は、ツールバーの [アプリケーション] アイコンまたは [組織] アイコンを選択します。
- 4 作成するルールの種類のタブを選択して、エンティティまたは勘定科目の変換ルールを定義します。[例外]、[範囲]、[グローバル] タブがあります。
  - 5 該当する表にエンティティを入力します。

## 変換結果の表示

変換マッピングルールを定義した後、[結果の表示] ウィンドウでルールの一覧を確認できます。変換済みと未変換のデータの表示を切り替えることもできます。[結果の表示] ウィンドウには、外部エンティティまたは勘定科目、ルール番号、ルール、結果を掲載した表が表示されます。すべての結果を表示することも、変換されなかったものだけを表示することもできます。一覧を印刷することもできます。

**注：** Hyperion Enterprise に変換されなかった勘定科目は赤色で表示されます。

▶ 変換結果を表示するには、次の手順に従います。

- 1 LedgerLink デスクトップで、[変換表] をクリックします。

- 2 データ表示を組織単位と勘定科目の間で切り替えるには、[オプション] の [エンティティ変換表] または [オプション] の [勘定科目変換] を選択します。
  - 3 [オプション] メニューから [変換結果の表示] を選択します。
  - 4 オプション：データ値を再計算する必要がある場合は、[計算] ボタンを選択します。
  - 5 特定の結果条件を表示するには、次の手順に従います。
    - 変換結果を表示するには、ツールバーで [データの計算] ボタンをクリックします。
    - 未変換の結果を表示するには、ツールバーで [変換されていない項目のみ表示] アイコンをクリックします。
- ヒント：** Hyperion Enterprise のエンティティおよび勘定科目を外部ソースのエンティティおよび勘定科目と別々に表示するには、ツールバーで [変換されていない項目のみ表示] ボタンを選択します。
- 6 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択して、LedgerLink のデスクトップに戻ります。

## 変換ファイルのインポート

エンティティと勘定科目の変換ファイルは、作成せずにインポートおよびエクスポートできます。.TRA ファイルは、例外、範囲、グローバルの各表の ASCII ファイルバージョンです。インポートすると、LedgerLink を使ってルールを指定する必要がなく、すばやく変換を作成できます。変換ルールの種類によって異なる書式を使用します。ASCII ファイルの例外、範囲、グローバルの各ルールについて詳しくは、[198 ページの「インポートする変換ファイルのルール」](#)を参照してください。

**注：** インポートした後に LedgerLink で各ファイルを変換ファイル(.LNT または.LAT)として保存する必要があります。それ以外の形式の場合、インポート処理以外の方法ではファイルにアクセスできません。

- 変換ファイルをインポートするには、次の手順に従います。
- 1 LedgerLink デスクトップで、[変換表] をクリックします。
  - 2 [ファイル] メニューから [新規作成] を選択します。
  - 3 エンティティと勘定科目のどちらの外部変換ファイルを作成するかを指定するには、[オプション] メニューから [勘定科目変換] または [エンティティ変換表] を選択します。
  - 4 [ファイル] メニューから [変換ファイルのインポート] を選択します。
  - 5 インポートする変換ファイルを選択します。
  - 6 [OK] をクリックします。
  - 7 ファイルを保存するには、[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択します。
  - 8 [ファイル名] リストにパスとファイル名を入力します。

**ヒント：** LedgerLink でそのファイルを変換ファイル（.LAT または.LNT）として保存する必要があります。それ以外の形式の場合、インポート処理以外の方法ではファイルにアクセスできません。

9 [OK] をクリックします。

## 変換プロファイルの定義

変換プロファイルでは、データを Hyperion Enterprise に読み込むために使用するデータ、テンプレート、変換ファイルを指定します。

▶ 変換プロファイルを定義するには、次の手順に従います。

- 1 LedgerLink デスクトップで、[変換] メニューから [読込プロファイル] を選択します。
- 2 [変換／読込プロファイル] リストからプロファイルを作成または編集します。
  - プロファイルを作成する場合は、[新規作成] をクリックします。
  - プロファイルを編集する場合は、プロファイルを選択して [編集] をクリックします。

- 3 [入力ファイル] テキストボックスで、Hyperion Enterprise にインポートする総勘定元帳出力ファイルのドライブ、パス、ファイル名を入力します。

**ヒント：** Hyperion Enterprise への読み込み中に総勘定元帳出力ファイルを選択するには、[実行時に選択] を選択します。

- 4 総勘定元帳出力ファイルを編集するには、[編集] をクリックします。ファイルの関連が定義されていない場合は、定義するように促すメッセージが表示されます。
- 5 Hyperion Enterprise 読み込みファイルを以下のように選択または作成します。
  - [Hyperion Enterprise 読込ファイル] 編集ボックスに、Hyperion Enterprise 読み込みファイルのドライブ、パス、ファイル名を入力します。
  - Hyperion Enterprise 読み込みファイルを作成する場合は、[Hyperion 読込ファイルの作成] を選択します。
- 6 [入力ファイルテンプレート] ドロップダウンリストから使用するテンプレートを選択します。
- 7 [エンティティ変換ファイル] ボックスまたは [勘定科目変換ファイル] ボックスで、エンティティ変換ファイルまたは勘定科目変換ファイルのドライブ、パス、ファイル名を入力します。
- 8 Hyperion Enterprise 読み込みファイルだけを読み込む場合は、[入力ファイルの読込のみ] を選択します。
- 9 変更内容を保存するかファイルを読み込みます。
  - 変更を保存してダイアログボックスを閉じるには、[OK] をクリックします。プロファイルを作成している場合は、[読込名を入力してください] ダイアログボックスが表示されます。40 文字までの ID を入力してから、[OK] をクリックします。

**ヒント：** [読込] タブを使って変更を保存することもできます。

- ファイルを読み込むには、[読込] タブを選択します。読み込みオプションを設定する手順については、214 ページの「読み込みプロファイルの定義」を参照してください。

## 読み込みプロファイルの定義

読み込みプロファイルでは、データを Hyperion Enterprise に読み込むときに使用する Hyperion Enterprise オプションを指定します。

- ▶ 読み込みプロファイルを定義するには、次の手順に従います。
  - 1 LedgerLink デスクトップで、[変換] メニューから [読込プロファイル] を選択します。
  - 2 [変換/読込プロファイル] ダイアログボックスで、[読込] タブを選択します。
  - 3 総勘定元帳ソースファイルにあるヘッダーを使う場合は、[入力ファイルのヘッダーを使用] を選択します。
  - 4 [入力ファイルのヘッダーを使用] を選択しなかった場合は、[データ種別] ボックスからデータ種別を選択してから、[開始期間] 編集ボックスに開始期間を、[終了期間] 編集ボックスに終了期間を入力します。
  - 5 単位を選択するか、[デフォルト] を選択して指定したデータ種別のデフォルト単位を使用します。
  - 6 [モード] ボックスで、次のいずれかのモードを選択します。
    - 総勘定元帳出力ファイルのデータ値を既存の Hyperion Enterprise データ値に加える場合は、[累計] を選択します。
    - Hyperion Enterprise のすべての勘定科目の値を削除して総勘定元帳出力ファイルからの値を挿入する場合は、[置換] を選択します。
    - 総勘定元帳出力ファイルから新しい値を挿入する勘定科目に対してだけ Hyperion Enterprise の値をクリアする場合は、[結合] を選択します。
  - 7 [データ表示形式] ボックスで、Hyperion Enterprise アプリケーションに対応する表示形式を選択します。
  - 8 データ読み込み中にシステムで実行するタスクを指定します。
    - 自動的に計算式を実行する場合は、[ロジックの実行] を選択します。
    - 算出勘定にデータを読み込もうとしたときにエラーをレポートする場合は、[算出勘定の記録] を選択します。
    - データなし勘定科目をゼロとして表示する場合は、[データなしはゼロ] を選択します。
  - 9 変更内容を保存するには、[OK] をクリックします。
  - 10 新しいプロファイルを作成する場合は、40 文字までの ID を入力してから [OK] をクリックします。

# Hyperion Enterprise へのデータの読み込み

ソースシステムデータを、LedgerLink で定義したテンプレート、変換、プロファイルを使用して Hyperion Enterprise データベースに読み込むことができます。読み込みプロファイルでは、データを変換して Hyperion Enterprise に読み込むのに必要なファイルと設定を指定します。詳しくは、[201 ページの「変換オプションと読み込みオプションの設定」](#)を参照してください。

- ▶ Hyperion Enterprise にデータを読み込むには、次の手順に従います。
- 1 LedgerLink デスクトップで、[Hyperion Enterprise への読込] を選択します。
- 2 [Hyperion Enterprise への読込] ウィンドウで、[読込プロファイル] リストから使用する読み込みプロファイルを選択します。
- 3 プロファイルの属性を変更するには、[オプション] の [プロファイルの編集] を選択するか、[プロファイルの編集] ボタンをクリックします。詳しくは、[213 ページの「変換プロファイルの定義」](#) および [214 ページの「読み込みプロファイルの定義」](#) を参照してください。
- 4 [ファイル] メニューから [読込] を選択します。

読み込み中に総勘定元帳出力ファイルを選択するように読み込みプロファイルが設定されている場合は、[入力ファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 [入力ファイルの選択] ダイアログボックスが表示されたら、出力ファイルを選択し、[OK] を選択します。
- 6 Hyperion Enterprise にデータを読み込めなかったことを示すエラーメッセージが表示された場合は、[オプション] から [エラーログファイルの表示] を選択します。
- 7 Hyperion Enterprise への読み込み中に他のメッセージが表示されたら、[オプション] から [ログファイルの表示] を選択します。

## Hyperion LedgerLink のウィンドウとダイアログボックスのヘルプ

### LedgerLink デスクトップのオプション

LedgerLink のデスクトップで、LedgerLink の 4 つのモジュール、Hyperion Enterprise への読み込み、入力ファイルテンプレート、変換表、変換／読み込みプロファイルのアイコンを選択し、それぞれのモジュールにアクセスします。

### [入力ファイルテンプレート] リストのオプション

このウィンドウでテンプレートを選択し、他の元帳システムからの外部出力ファイルを変換します。LedgerLink には、Hyperion Enterprise、Hyperion Financials GL、Pillar FYPLAN、および SAP R3 GL の各システムからのファイル変換のために、4 つのテンプレートが用意されています。また、LedgerLink で独自のテンプレート

を作成することもできます。入力ファイルテンプレートは変換／読み込みプロファイルモジュールで使します。

### 名称変更

**[名称変更]** ダイアログボックスのオプションで選択したテンプレートの新しい名前を入力します。

### 削除

システムおよび [入力ファイルテンプレート] ダイアログボックスからテンプレートを除去します。

### コピー

**[コピー]** ダイアログボックスのオプションでテンプレートをコピーします。

### 新規作成

**[テンプレートウィザード - ステップ 1]** ダイアログボックスで新しいテンプレートを作成します。

### 編集

[テンプレートウィザード - ステップ 1] ダイアログボックスで既存のテンプレートを編集します。

**注：** 元の名前で保存すると、元のテンプレートは編集後のテンプレートに置き換えられます。別の名前で保存すると、元のテンプレートはそのまま残り、新しいテンプレートが作成されます。

### 閉じる

[入力ファイルテンプレート] ダイアログボックスを閉じて、[LedgerLink デスクトップ](#)に戻ります。

## **[名称変更] ダイアログボックスのオプション**

新しい名前を入力する場合に使します。最大 40 文字（半角の場合）まで入力できます。名称変更後、元のテンプレート名は削除されます。

## **[コピー] ダイアログボックスのオプション**

テンプレートをコピーする場合に使します。新しいテンプレートの名前を最大 40 文字（半角の場合）まで入力します。

## [テンプレートウィザード - ステップ 1] ダイアログボックスのオプション

テンプレートを作成する場合に使用します。テンプレートを作成するには、まず入力ソースとなる総勘定元帳 (\*.GLO) ファイルの書式を指定する必要があります。これは、テンプレートに必要なファイルの種類に最も適合するテキスト（抽出テーブル）またはレポートになります。入力ファイルテンプレートウィザードは、ソースシステムファイル进行处理し、テンプレートがデータを解釈する方法を定義します。ソースファイルの選択については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「LedgerLink」の章を参照してください。

**注：** タイトルバーには、選択した総勘定元帳の種類が表示されます。

ソースシステムファイルには、Hyperion Enterprise に読み込むファイルと同じ書式の任意のファイルを指定できます。

**注：** 入力ファイルテンプレートウィザードを使用する場合は、複数文字のフィールド区切り文字を使用しないでください。

### テキスト、レポート、データベース

次のオプションを選択して、ソースシステムファイルの書式を指定します。

- データがページ書式を含まない ASCII ファイルに含まれている場合は、[テキスト] を選択します。
- データがページのヘッダーとフッターを持つ ASCII ファイルに含まれている場合は、[レポート] を選択します。

レコードの区切り文字、改行復帰 (CRLF)、改行 (LF) が検出されます。区切り文字を使用しない場合は、レコードに固定長のフィールドが必要です。これらのセクションのサイズは、LedgerLink でファイルを作成する場合にのみ定義できます。

**注：** 区切り文字を使用した可変長データと固定長のデータを同じ行に混合することはできません。

### サンプルファイルの選択

[サンプル入力ファイルを開く] ダイアログボックスでサンプルファイルを選択する場合に使用します。

### 戻る

[入力ファイルテンプレート] ダイアログボックスに戻ります。

### 次へ

[テンプレートウィザード - ステップ 2] ダイアログボックスに進みます。

終了

選択内容を確認し、[\[入力ファイルテンプレート\]](#) ダイアログボックスに戻ります。

## 【サンプル入力ファイルを開く】ダイアログボックスのオプション

テンプレートに合ったサンプルソースシステムファイルを開く場合に使用します。ソースシステムファイルは、テンプレートが ASCII ファイルのデータを解釈する方法を定義するために使用します。

### ネットワーク

サンプルファイルの入った他のドライブをマッピングして選択します。

### ファイルの種類

外部からのソースファイルの書式を選択します。ここでは、総勘定元帳ファイル (\*.GLO) またはすべてのファイル (\*.\*) を選択できます。

### ドライブ

ソースファイルがあるドライブとパスを選択します。

## 【テンプレートウィザード - ステップ 2】ダイアログボックスのオプション

ソースファイルの書式を指定する場合に使用します。サンプルレコードとして使用する行をソースシステムファイルから選択し、[\[テンプレートウィザード - ステップ 4\]](#) [ダイアログボックス](#)で各データ要素を定義する必要があります。ファイルの一部（最高 64K）が下部の編集ボックスに表示されます。このファイルからサンプルレコードを選択すると、選択したレコードが上部の編集ボックスに表示されます。

## 【テンプレートウィザード - ステップ 3】ダイアログボックスのオプション

サンプルファイルの選択後に総勘定元帳ソースファイルのフィールド書式を選択する場合に使用します。前のウィンドウで選択したサンプルレコードに基づいて、LedgerLink が自動的にフィールド書式を判断して選択します。ソースファイルのフィールド書式の選択方法について詳しくは、「フィールド書式の検証」を参照してください。

### 固定長、可変長、フォーマット済データ

外部ソースファイルの書式を選択します。

- 固定長 - 各フィールドの長さが揃っている書式。各フィールドはファイル全体を通して一貫している必要があります。

- 可変長 - カンマ (,) やセミコロン (;) などの文字で各フィールドが区切られている書式。スペースを含め、区切り文字にはどのような文字でも使用できます。デフォルトの区切り文字はカンマです。
- フォーマット済データ - 通貨記号、カンマ、またはかっこを使用して区切りを示すデータフィールドで構成される書式。

## [テンプレートウィザード - ステップ 4] ダイアログボックスのオプション

ソースシステムの組織単位、勘定科目、およびデータを Hyperion Enterprise のエンティティ、勘定科目、およびデータに対応付ける場合に使用します。テンプレートでのデータ要素の定義方法について詳しくは、[テンプレートの設定](#)を参照してください。

### サンプルレコード

前の手順でサンプルとして選択したソースファイルをテンプレートでリンクするための外部レコードを表示します。このレコードを使用して、組織単位、勘定科目、データ、および列幅を指定します。

### 組織単位

Hyperion Enterprise のエンティティにリンクする外部ソースの組織単位（エンティティ）を表示します。

### 勘定科目

Hyperion Enterprise の勘定科目にリンクするサンプルレコードの勘定科目を表示します。

### データ

Hyperion Enterprise のデータにリンクするサンプルレコードのデータ要素を表示します。

### データフィールドの長さ

データフィールドの文字数を入力します。

### ピリオド

一覧の編集ボックスにピリオド (.) を入力するために選択します。

### 文字列

[組織単位] と [勘定科目] の編集ボックスに追加のテキストを入力します。

### 位置を表示

[エンティティ]、[勘定科目]、[データ] の各フィールドにあるデータ要素の位置を表示します。サンプルレコードのデータが固定長フィールドの場合は、フィールドの開始番号とフィールド長が示されます。サンプルレコードのデータが固定長フィールドの場合は、フィールド番号と行の終了（EOL）データが示されます。

**注：** ソースファイルのデータのピリオド数がソースファイルによって異なる場合や、テンプレートの作成時にこの数が不明の場合は、EOL データを使用します。これにより、ソースファイル内で変化するピリオドをテンプレートが認識できるようになります。EOL は、任意のデータ項目からサンプルレコード行の終わりまでを選択した場合に表示されます。

### ゴミ箱

不要なテストやデータの情報をゴミ箱にドラッグして削除します。

### 戻る

[\[テンプレートウィザード - ステップ 3\] ダイアログボックス](#)に戻ります。

### 次へ

[\[テンプレートウィザード - ステップ 5\] ダイアログボックス](#)に進みます。

**注：** [\[テンプレートウィザード - ステップ 1\] ダイアログボックス](#)でソース出力ファイルをレポートとして定義した場合のみ [\[次へ\]](#) をクリックします。

## [テンプレートウィザード - ステップ 5] ダイアログボックスのオプション

ページヘッダー、ページフッター、データ、ファイルヘッダーの行を持つレポートとして定義されている外部ソースファイルを使用している場合は、各セクションの行数を該当するボックスに入力できます。各セクションに対応する行を選択し、該当するボックスにドロップすることもできます。レポートの ASCII ソースファイルにおけるレポート領域の定義方法について詳しくは、「レポート書式の指定」を参照してください。

### ファイルヘッダー行

ASCII ファイルのヘッダーを定義します。

### ページヘッダー行

どの行が現在のページのヘッダーを示すかを定義します。

### データ行

ASCII ファイルのデータを定義します。

### ページフッター行

ASCII ファイルのフッターを定義します。

**注：** ファイルヘッダー、ページヘッダー、データ、ページフッターの行を選択する際は、ダイアログボックスのビューの右側にあるスクロールバーを使用して他のデータ行を表示してください。

戻る

[\[テンプレートウィザード - ステップ 4\] ダイアログボックス](#)に戻ります。

## [エンティティ変換] ウィンドウのオプション

データを総勘定元帳から Hyperion Enterprise に変換する場合に使用します。外部ソースファイルのエンティティまたは勘定科目を Hyperion Enterprise の勘定科目またはエンティティに対応付けるには、勘定科目変換ファイル(\*.TRA)を使用します。この変換対応表は、変換／読み込みプロファイルモジュールで使用します。変換対応表はインポートまたはエクスポートできます。

ソースファイルの外部のエンティティまたは勘定科目は、[外部キーワード] または [外部勘定科目] のリストに表示できます。Hyperion Enterprise のエンティティまたは勘定科目は、[Enterprise エンティティ] または [Enterprise 勘定科目] リストに表示できます。エンティティや勘定科目はリストから選択して、変換ルール表にドラッグできます。変換ファイルの対応ルールのセットアップ方法について詳しくは、「変換ルールの設定」を参照してください。

**注：** 総勘定元帳のエンティティと勘定科目が Hyperion Enterprise のエンティティと勘定科目に一致する場合は、変換表モジュールを使用する必要はありません。

### LedgerLink ステータスバー

ウィンドウの下部にツールバーのアイコンの説明を表示します。

### アプリケーション

ドロップダウンリストから他のアプリケーションを開きます。

### 組織

画面の上部にあるこのボタンを選択すると、組織を変更できます。

### 変換ルール表

外部の総勘定元帳の組織単位と勘定科目、および Hyperion Enterprise の組織単位と勘定科目との関係を結び付けます。

### [グローバル] タブ、[範囲] タブ、[例外] タブ

次のタブのいずれかを選択して、変換ルール対応表に変換対応ルールを入力します。対応ルールはデータの要素を総勘定元帳から Hyperion Enterprise に変換します。

- [例外] タブ - 外部ソースファイルの複数の勘定科目またはエンティティを Hyperion Enterprise の 1 つの勘定科目または組織単位にそれぞれ対応付ける場合に使用します。
- [範囲] タブ - 外部ソースファイルの複数の勘定科目またはエンティティをグループ化し、それを Hyperion Enterprise の 1 つの勘定科目またはエンティティに対応付ける場合に使用します。

- [グローバル] タブ - 外部または Hyperion の変換ルール表にある複数のエンティティまたは勘定科目を変換ルール表の他のエンティティまたは勘定科目に対応付ける場合に使用します。アスタリスク (\*) は、エンティティまたは拡張子の代わりのワイルドカードとして使用できます。

**注：** グローバルルールを使用すると、ソートされている.GLO ファイルの順番が変換後に変わってしまいます。このため、変換前にファイルを別の名前で保存しておいてください。「変換ルールの設定」を参照してください。

## 検索

[グローバル] タブ、[範囲] タブ、[例外] タブの勘定科目やエンティティを検索します。

## [外部エンティティ一覧を作成] ダイアログボックスのオプション

LedgerLink 内で外部の勘定科目一覧またはエンティティ一覧を作成する場合に使用します。

### 外部一覧

作成する一覧のパスとファイル名を入力します。

**注：** デフォルトのパスは、現在の Hyperion Enterprise アプリケーションの [インボックス] ディレクトリです。

### サンプル入力ファイル

外部一覧の作成に使用するソースシステムファイルのパスとファイル名を入力します。

### 入力ファイルテンプレート

ソースシステムファイルのデータ構造を Hyperion Enterprise のデータに関連付けるテンプレートを選択します。

### 参照

外部一覧またはソースシステムファイルを [\[外部勘定科目一覧ファイルの選択\] ダイアログボックス](#) で選択します。

### 編集

外部一覧またはソースシステムファイルを、外部一覧またはソースファイルに関連付けられているテキストエディタで編集します。

**注：** システムソースファイルと外部一覧との関連は、Windows の [ファイルマネージャ] を使用して作成します。ファイル関連の作成方法について詳しくは、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

## 外部一覧の更新、新規外部一覧の作成

- 既存の外部一覧を新しいデータで更新します。
- LedgerLink 内で外部一覧を作成します。

## 【変換/読込プロファイル】 リストのオプション

ソースファイルのデータを Hyperion Enterprise のデータベースに読み込むために使用可能な読み込みプロファイルを表示する場合に使用します。読み込みプロファイルは、総勘定元帳入力ファイル、テンプレートファイル、変換ファイル、および Hyperion Enterprise の各オプションで構成されています。プロファイルを作成するたびに、プロファイルが【変換/読込プロファイル】リストに追加されます。

**注：** Hyperion Enterprise 読み込みプロファイルは、HPLLINK.MDB ファイルに含まれる内部の LedgerLink ファイルです。

### 名称変更

【読込名を入力してください】ダイアログボックスにプロファイルの新しい ID を入力します。

### 削除

【変換/読込プロファイル】リストからプロファイルを除去します。

### コピー

【読込名を入力してください】ダイアログボックスに変換プロファイルをコピーします。

### 新規作成

【変換/読込プロファイル】ダイアログボックスでコンポーネントを指定して、プロファイルを作成します。

### 編集

【変換/読込プロファイル】ダイアログボックスで現在のプロファイルのコンポーネントを変更するか、新しいプロファイルを作成します。

## 【読込名を入力してください】ダイアログボックスのオプション

コピーする読み込みプロファイルの名前を最大 40 文字（半角の場合）まで入力します。

## 〔変換/読込プロファイル〕 ダイアログボックスのオプション

〔変換/読込プロファイル〕 ダイアログボックスは、〔変換〕 タブと〔読込〕 タブの2つのタブで構成されています。このダイアログボックスでは、総勘定元帳入力ファイルやテンプレートファイル、勘定科目変換表や組織単位変換表、さまざまな Hyperion Enterpriseの属性などを定義します。これらは、総勘定元帳のデータが変換されて Hyperion Enterprise に読み込まれる方法を決定します。

### 〔変換〕 タブ

プロファイルの変換基準を定義する場合に使用します。

### 〔読込〕 タブ

ソースシステムデータを Hyperion Enterprise に読み込む際のオプションを選択する場合に使用します。

## 〔変換/読込プロファイル〕 ダイアログボックスのオプション：〔変換〕 タブ

プロファイルの変換基準を定義する場合に使用します。

### 実行時に選択

ソースシステムファイルのデータを Hyperion Enterprise に読み込む際に読み込みファイルの入力を求めるプロンプトを表示します。

### 入力ファイル

Hyperion Enterprise に読み込まれるデータを含むソースシステムファイルのドライブ、パス、およびファイル名を入力します。

### Enterprise 読み込みファイルの作成

LedgerLink に Hyperion Enterprise 用にオプションの読み込みファイルを作成させます。

### 入力ファイルテンプレート

データの読み込み処理に使用する総勘定元帳テンプレートファイルのドライブ、パス、およびファイル名を入力します。

### エンティティ変換ファイル

データの読み込み処理に使用するエンティティ変換ファイルのドライブ、パス、およびファイル名を入力します。

**注：** これは LedgerLink で作成したエンティティ変換ファイル (\*.LNT) でなければなりません。

## 勘定科目変換ファイル

データの読み込み処理に使用するエンティティ変換で作成した勘定科目変換ファイルのドライブ、パス、およびファイル名を入力します。

**注：** これは LedgerLink で作成した勘定科目変換ファイル (\*.LAT) でなければなりません。

## 入力ファイルの変換および読み込み

総勘定元帳ファイルを変換して Hyperion Enterprise に読み込ませます。

## 入力ファイルの変換のみ

ファイルを Hyperion Enterprise に読み込まずに変換のみを行います。

## 変換済入力ファイルの読み込みのみ

以前に変換したソースシステムファイルを Hyperion Enterprise に読み込みます。

**注：** このオプションを選択すると、[データ種別] の [開始期間] と [終了期間] は表示されなくなります。

# [変換/読込プロファイル] ダイアログボックスのオプション：[読込] タブのオプション

ソースシステムデータを Hyperion Enterprise に読み込む際のオプションを選択する場合に使用します。

## 入力ファイルのヘッダーを使用

ヘッダー行をソースシステムファイルから読み込ませます。

## 単位

ソースファイル内の選択したデータ種別の単位が Hyperion Enterprise で使用されているデフォルトの単位と異なる場合に、ドロップダウンボックスでそのデータ種別のデフォルトの単位を設定します。

**注：** 単位は十から千万の単位まで選択できます。

## 累計、置換、結合

データをデータベースに読み込む方法を次の中から選択します。

- 累計 - 読み込みファイルのデータ値を Hyperion Enterprise にすでに存在するデータ値に直接読み込んで追加します。
- 置換 - Hyperion Enterprise システム内の既存のデータ値をすべてクリアし、読み込んだ値に置き換えます。

**注：** このモードを使用する前に、勘定科目のデータをバックアップしてください。

- 結合 - 読み込みファイルにある勘定科目に対応する Hyperion Enterprise システム内の勘定科目の既存の値のみをクリアし、読み込みファイルのデータ値に置き換えます。

### 期別、累計、データ種別

次のオプションを選択して、Hyperion Enterprise に読み込むデータのデータ種別を変更します。

- 期別 - 期別データを累計データ種別に読み込むとき、期別データを累計に変換します。
- 累計 - 累計データを期別データ種別に読み込むとき、累計データを期別に変換します。
- データ種別 - 各 Hyperion Enterprise 勘定科目のデフォルトの表示形式を読み込みデータの表示形式とします。

### 計算式の実行

データを Hyperion Enterprise を読み込むときにロジックを実行します。

### 算出勘定の記録

データを算出勘定に読み込もうとした場合にエラーとして報告します。

### データなしはゼロ

データ値を含まないプロファイル内の勘定科目をすべてゼロで表示します。

## 【Hyperion Enterprise への読込】 ダイアログボックスのオプション

Hyperion Enterprise に読み込むプロファイルを選択する場合に使用します。詳しくは、「[プロファイルの変換／読み込み](#)」を参照してください。

## 【プロファイルパラメーター一覧】 ダイアログボックス

選択した読み込みファイルに定義された要素を表示する場合に使用します。リストには次のデータが表示されます。

- 入力ファイルテンプレート
- 入力ファイル
- エンティティ変換ファイル
- 勘定科目変換ファイル
- Enterprise 読み込みファイル
- Enterprise アプリケーション

## [外部勘定科目一覧ファイルの選択] ダイアログボックスのオプション

外部一覧またはソースシステムファイルを選択する場合に使用します。

### ファイル名

外部一覧またはソースシステムファイルのファイル名を入力するか、リストから選択します。

### ファイルの種類

ファイル名リストに表示するファイルの種類を選択します。

### ディレクトリ

現在のディレクトリをテキストボックスに表示します。ディレクトリを変更するには、リストから別のディレクトリを選択します。

### ドライブ

現在のドライブを表示します。ドライブを変更するには、リストから別のドライブを選択します。

### ネットワーク

ネットワークの接続を [ドライブ] ドロップダウンリストに追加します。



## この章の内容

関数の構文と例 .....	229
Hyperion Retrieve 関数の期間値 .....	253

この付録には、Hyperion Retrieve 関数の構文とその使用例が記載されています。

## 関数の構文と例

以下のセクションには、特定の Hyperion Retrieve 関数の構文と例が記載されています。

### HPACC - 勘定科目 ID 関数

HPACC 関数を使用して、指定した勘定科目の ID を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPACC("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目の ID
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、Tax アプリケーションに Cost of Goods Sold 勘定科目が含まれており、セル A7 にその ID が表示されている場合、セル A23 で次の計算式を使用してセル A23 に Cost of Goods Sold 勘定科目 ID を表示することができます。

HPACC (A7, "TAX")

### HPAMJ - 主要勘定科目 ID 関数

HPAMJ 関数を使用して、指定した勘定科目の主要勘定科目 ID を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPACC("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目の ID
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル A23 に次の計算式を入力するとします。

HPAMJ (A14, "PROD")

セル A14 に勘定科目 IDSALES.GOLF.SHOES が表示されており、Product アプリケーションにこの勘定科目が含まれている場合、主要勘定科目 ID SALES がセル A23 に表示されます。

## HPAS1 - 第 1 レベルサブ勘定科目 ID 関数

HPAS1 関数を使用して、指定した勘定科目の第 1 レベルサブ勘定科目 ID を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPACC("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目の ID
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル A28 に次の計算式を入力するとします。

HPAS1 (A14, "PROD")

セル A14 に勘定科目 ID SALES.GOLF.SHOES が表示されており、製品アプリケーションにこの勘定科目が含まれている場合、第 1 レベルサブ勘定科目 ID GOLF がセル A28 に表示されます。

## HPAS2 - 第 2 レベルサブ勘定科目 ID 関数

HPAS2 関数を使用して、指定した勘定科目の第 2 レベルサブ勘定科目 ID を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPAS2("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目の ID
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル A32 に次の計算式を入力するとします。

HPAS2 (A14, "PROD")

セル A14 に勘定科目 ID SALES.GOLF.SHOES が表示されており、製品アプリケーションにこの勘定科目が含まれている場合、第 2 レベルサブ勘定科目 ID SHOES がセル A32 に表示されます。

## HPBET - 差異関数

HPBET 関数を使用して、指定した勘定科目の 2 つのデータ値の差異を計算し、結果を返します。差異が負の場合はマイナス記号(-)を付けて表示されます。次の形式を使用します。

HPBET("Account","Value1","Value2","Application")

表 43 HPAB-変数

変数	説明
Account	勘定科目 ID
Value1	最初の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。
Value2	2 番目の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。
Application	アプリケーション ID

例えば、Tax アプリケーションの現在のエンティティとデータ種別について 2002 年 10 月と 2002 年 11 月の Cost of Goods Sold 勘定科目の値の差異を返すとして。勘定科目 ID がワークシートのセル A5 に表示されており、2002 年 11 月の値がセル D5 に、2002 年 10 月の値がセル C5 に表示されている場合、次の計算式を使用してこの 2 つの値の差異を返すことができます。

HPBET(A5,D5,C5,"TAX")

HPBET 関数を使用して、同一期間の異なるデータ種別について勘定科目の値の差異を返すこともできます。例えば、Actual データ種別と Last Year データ種別における Cash 勘定科目の 2 月の値の差異を表示したり、Israel エンティティと France エンティティの値の差異を表示できます。

**注：** このシステムでは、勘定科目種別による値の差異を評価します。収益や負債の勘定科目を指定した場合、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果は負になります。費用や資産の勘定科目を指定した場合は、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果が正になります。

## HPCAL - 算出勘定関数

HPCAL 関数を使用すると、指定した勘定科目が算出勘定であれば 1 が、そうでなければ -1 が返されて表示されます。次の形式を使用します。

HPCAL("Entity","Category","Account","Application")

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Account	勘定科目 ID
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、Product アプリケーションのエンティティ USWEST の Total Sales 勘定科目は算出勘定なので、次の計算式では 1 を返します。

HPCAL ( "USWEST" , "ACTUAL" , "TOTSALLES" , "PROD" )

## HPCDE - データ種別の説明関数

HPCDE 関数を使用して、指定したデータ種別についての説明を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPCDE("Category","Application")

変数	説明
Category	データ種別 ID
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションの Forecast データ種別についての説明を返します。

HPCDE ( "FORCST" , "TAX" )

## HPCONTRIB - 調整後データ関数

HPCONTRIB 関数を使用して、調整後のデータを検索します。次の形式を使用します。

HPCONTRIB("Entity", "Category", "Account", "Period", "Frequency", "Parent", "Application")

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Account	勘定科目 ID
Period	期間 ID
Frequency	期間単位 ID
Parent	親エンティティの ID

変数	説明
Application	調整後データを含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式では、2002 年 4 月の期間の Cables 勘定科目について、Actual データ種別での Israel エンティティの調整後データが返されます。この計算式では、Tax アプリケーションの親 Europe のデータが月別形式で表示します。

```
HPCONTRIB("Israel", "ACTUAL", "CABLES", "APR 02", "MON", "EUROPE", "TAX")
```

**注：** HPCONTRIB 関数は、エンティティの代わりに親の単位を使用します。

## HPCUR - 通貨関数

HPCUR 関数を使用して、指定したエンティティのデフォルトの通貨 ID を検索し、表示します。次の形式を使用します。

```
HPCUR("Entity", "Application")
```

変数	説明
Entity	デフォルト通貨 ID を検索するエンティティ
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションで Israel エンティティのデフォルトの通貨 ID を返します。

```
HPCUR("Israel", "TAX")
```

## HPDCTRL - 直接支配関数

HPDCTRL 関数では、所有されている議決権数またはダイレクトにコントロールされているパーセンテージを検索します。どちらを検索するかは、株数で入力するかパーセンテージで入力するかによって決まります。次の形式を使用します。

```
HPDCTRL("Parent", "Child", "Category", "Period", "Application")
```

変数	説明
Parent	親エンティティの ID
Child	子エンティティの ID
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	議決権株式数を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式では、Tax アプリケーションにおける 2002 年 4 月 (April) の期間の Actual データ種別で、子 Israel を持つ親 Europe の議決権株の総数が返されます。

HPDCTRL("EUROPE","Israel","ACTUAL","APR 02","TAX")

## HPDOWN - 直接所有関数

HPDOWN 関数を使用して、パートナーが直接所有している株数または直接所有しているパーセンテージを検索します。どちらを検索するかは、株単位で入力するかパーセンテージで入力するかによって決まります。次の形式を使用します。

HPDOWN("Parent","Child","Category","Period","Application")

変数	説明
Parent	親エンティティの ID
Child	子エンティティの ID
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	ダイレクトに所有されている株数を含んでいるアプリケーションです。

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションにおける 2002 年 4 月 (April) の Actual データ種別で、親 Europe が所有する子 Israel の株数を返します。

HPDOWN("EUROPE","Israel","ACTUAL","APR 02","TAX")

## HPDRV - 抽出合計関数

HPDRV 関数の結果は、指定した勘定科目の科目種別によって異なります。収益、費用、またはフローの勘定科目を指定すると、HPDRV 関数は現在のエンティティおよびデータ種別について指定された 2 つの期間の勘定科目の合計値を返します。資産、負債、残高の勘定科目を指定すると、HPDRV 関数は現在のエンティティおよびデータ種別について 2 つの期間のうち後半の値を返し、前半の値は追加しません。

次の形式を使用します。

HPDRV("Account","Value1","Value2","Application")

変数	説明
Account	勘定科目 ID
Value1	後半の期間の値を求める計算式、数、またはセル参照です。
Value2	前半の期間の値を求める計算式、数、またはセル参照です。
Application	アプリケーション ID

例えば、Tax アプリケーションの Cost of Goods Sold 勘定科目がフロー勘定科目であり、2002 年 10 月(October)と 2002 年 11 月(November)の値の合計が必要であるとします。勘定科目 ID がワークシートのセル A5 に表示され、2002 年 11 月の値が

セル D5 に、2002 年 10 月の値がセル C5 に表示されている場合、次の計算式を使用して値の合計を返すことができます。

HPDRV(A5,D5,C5,"TAX")

## HPECODE - エンティティコード関数

HPECODE 関数を使用して、エンティティコードを検索します。これはユーザが割り当てるコードで、特定のデータ種別や期間のエンティティに関連付けられています。次の形式を使用します。

HPECODE("Entity", "Category", "Period", "Application")

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	エンティティを含んでいるアプリケーションです。

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションの 2002 年 4 月（April）の期間の Actual データ種別について Israel エンティティのエンティティコードを返します。

HPECODE("Israel", "ACTUAL", "APR 02", "TAX")

## HPELIM - 消去データ関数

HPELIM 関数を使用して、消去データを索します。次の形式を使用します。

HPELIM("Entity", "Category", "Account", "Period", "Frequency", "Parent", "Application")

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Account	勘定科目 ID
Period	期間 ID
Frequency	期間単位 ID
Parent	親エンティティの ID
Application	消去データを含んでいるアプリケーションです。

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションで親 Europe のデータを月別形式で表示している 2002 年 4 月（April）の期間の Cables 勘定科目について、Actual データ種別での Israel エンティティの消去データを返します。

HPELIM("Israel", "ACTUAL", "CABLES", "APR 02", "MON", "EUROPE", "TAX")

**注：** HPFLIM 関数は、エンティティの代わりに親の単位を使用します。

## HPFLW - フロー関数

HPFLW 関数を使用すると、指定された勘定科目が収益、費用またはフロー勘定科目の場合は 1 が返され、その他の勘定科目の場合は-1 が返されます。HPFLW 関数から返された結果を Excel の計算式で使用し、収益ステートメント勘定科目とバランスシート勘定科目を区別できます。次の形式を使用します。

HPFLW("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目 ID
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式は TAX アプリケーションの Pretax Earnings 勘定科目がフロー勘定科目なので 1 を返します。

HPFLW ("PTE", "TAX")

## HPFNA - 最初のエンティティの説明関数

HPFNA 関数を使用して、指定したエンティティについて最初のエンティティの説明を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPFNA("Entity","Application")

変数	説明
Entity	エンティティの ID
Application	エンティティを含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル D27 に次の計算式を入力するとします。

HPFNA (B14, "TAX")

TAX アプリケーションのエンティティ USELIM.PADJ がセル B14 に表示されており、USELIM の説明が United States Eliminations である場合、セル D27 にこの説明が表示されます。

## HPFRE - デフォルトの期間単位関数

HPFRE 関数を使用して、指定したデータ種別のデフォルトの期間単位 ID を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPFRE("Category","Application")

変数	説明
Category	データ種別 ID
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションのデータ種別 Forecast についてデフォルト期間単位の ID を返します。

HPFRE ("FORCST", "TAX")

## HPFSN - サブエンティティの説明関数

HPFSN 関数を使用して、指定したすべてのサブエンティティの説明を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPFSN("Entity","Application")

変数	説明
Entity	エンティティの ID またはセル参照
Application	組織単位を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル D27 に次の計算式を入力するとします。

HPFSN(B14, "TAX")

TAX アプリケーションのエンティティ USELIM.PADJ がセル B14 に表示されており、PADJ の説明が Post-Adjustment である場合、セル D27 にこの説明が表示されます。

## HPFUL - エンティティの説明関数

HPFUL 関数を使用して、指定したエンティティについての説明を検索し、表示します。

次の形式を使用します。

HPFUL("Entity","Application")

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式は TAX アプリケーションの Belgium-Netherlands-Luxembourg エンティティについての説明を返します。

HPFUL ("BENELUX", "TAX")

## HPHEA - 勘定科目の説明関数

HPHEA 関数を使用して、指定したアプリケーションの指定した勘定科目についての説明を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPHEA("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目 ID
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式では Product アプリケーションの SALES.FBALL.HLM 勘定科目 ID についての説明を返します。

HPHEA ("SALES.FBALL.HLM" , "PROD")

勘定科目の説明が Sales.Football.Helmets である場合、計算式を含むセルにこの説明が表示されます。

## HPHMJ - 主要勘定科目の説明関数

HPHMJ 関数を使用して、指定した勘定科目の主要勘定科目の説明を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPHMJ("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目の ID
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル A23 に次の計算式を入力するとします。

HPHMJ (A14, "PROD")

Product アプリケーションの勘定科目 ID SALES.FBALL.HLM がセル A14 に表示されており、SALES 勘定科目の説明が Sales by Product である場合、セル A23 にこの説明が表示されます。

## HPHS1 - 第 1 レベルサブ勘定科目の説明関数

HPHS1 関数を使用して、指定した勘定科目の第 1 レベルサブ勘定科目の説明を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPHS1("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目の ID

変数	説明
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル A28 に次の計算式を入力するとします。

HPHS1 (A14, "PROD")

Product アプリケーションの勘定科目 ID SALES.FBALL.HLM がセル A14 に表示されており、FBALL サブ勘定科目の説明が Football である場合、セル A28 にこの説明が表示されます。

## HPHS2 - 第 2 レベルサブ勘定科目の説明関数

HPHS2 関数を使用して、指定した勘定科目の第 2 レベルサブ勘定科目の説明を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPHS2("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目の ID
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル A32 に次の計算式を入力するとします。

HPHS2 (A14, "PROD")

Product アプリケーションの勘定科目 ID SALES.FBALL.HLM がセル A14 に表示されており、HLM サブ勘定科目の説明が Helmets である場合、セル A32 にこの説明が表示されます。

## HPINC - 収益勘定科目関数

HPINC 関数を使用すると、指定した勘定科目が収益、または負債勘定科目の場合は 1 が、資産、残高、費用またはフロー勘定科目の場合は -1 が返され、表示されます。HPINC 関数から返された結果を Excel の計算式で使用すると、収益または負債勘定科目の値を正の数で表示し、資産、残高、費用、およびフロー勘定科目の値を負の数で表示します。次の形式を使用します。

HPINC("Account","Application")

変数	説明
Account	勘定科目 ID
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式は Product アプリケーションの Sales.Golf 勘定科目が収益勘定科目なので 1 を返します。

HPINC ("SALES.GOLF", "PROD")

## HPINP - 入力勘定科目関数

HPINP 関数を使用すると、指定した勘定科目が入力勘定の場合は 1 が、そうでなければ-1 が返され、表示されます。次の形式を使用します。

HPINP("Entity","Category","Account","Application")

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Account	勘定科目 ID
Application	勘定科目を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、Product アプリケーションにある Sales データ種別のエンティティ USWEST で勘定科目 Sales.Golf が入力勘定なので、次の計算式では 1 を返します。

HPINP ("USWEST" , "ACTUAL" , "SALES.GOLF" , "PROD")

## HPJAC - 仕訳帳の勘定科目関数

HPJAC 関数を使用して、仕訳帳の指定した詳細行の勘定科目を検索します。次の形式を使用します。

HPJAC("Journal", "Table", "Category", "Period", "Application", "Detail")

変数	説明
Journal	勘定科目を返す仕訳帳です。
Table	仕訳帳の種別：仕訳帳またはテンプレート
Category	仕訳帳のデータ種別です。
Period	仕訳帳の期間です。
Application	アプリケーション ID
Detail	詳細行ごとに割り当てられている一意の番号。Excel の場合は RHLX メニューにある「仕訳帳の詳細の変更」を使用して詳細行を選択すると、詳細行の Record Signature（レコーディングニチャ）が表示されます。

例えば、仕訳帳入力の勘定科目 ID を表示するには次の計算式を使用します。

HPJAC ("RECLASS1" , "JOURNAL" , "ACTUAL" , "1" , "APP1" , "0 ")

## HPJCR - 仕訳帳の貸方値関数

HPJCR 関数を使用して、仕訳帳の指定した詳細行で貸方値を検索します。次の形式を使用します。

HPJCR("Journal", "Table", "Category", "Period", "Application", "Detail")

変数	説明
Journal	詳細行の貸方値を返す仕訳帳
Table	仕訳帳の種別：仕訳帳またはテンプレート
Category	値を返すデータ種別です。
Period	値を返す期間です。
Application	アプリケーション ID
Detail	詳細行ごとに割り当てられている一意の番号。Excel の場合は RHXL メニューにある「仕訳帳の詳細の変更」を使用して詳細行を選択すると、詳細行の Record Signature（レコードシグニチャ）が表示されます。

例えば、仕訳帳入力の貸方値を表示するには次の計算式を使用します。

HPJCR("RECLASS1", "JOURNAL", "ACTUAL", "1", "APP1", "1")

## HPJDB - 仕訳帳の借方値関数

HPJDB 関数を使用して、仕訳帳の指定した詳細行で借方値を検索します。次の形式を使用します。

HPJDB("Journal", "Table", "Category", "Period", "Application", "Detail")

変数	説明
Journal	借方値を返す仕訳帳です。
Table	仕訳帳の種別：仕訳帳またはテンプレート
Category	仕訳帳のデータ種別です。
Period	仕訳帳の期間です。
Application	アプリケーション ID
Detail	詳細行ごとに割り当てられている一意の番号。Excel の場合は RHXL メニューにある「仕訳帳の詳細の変更」を使用して詳細行を選択すると、詳細行の Record Signature（レコードシグニチャ）が表示されます。

例えば、仕訳帳入力の借方値を表示するには次の計算式を使用します。

HPJDB ("RECLASS1", "JOURNAL", "ACTUAL", "1", "APP1", "0")

## HPJDS - 仕訳帳の説明関数

HPJDS 関数を使用して、仕訳帳の説明を検索します。次の形式を使用します。

HPJDS("Journal", "Table", "Category", "Period", "Application")

変数	説明
Journal	説明を返す仕訳帳です。
Table	仕訳帳の種別：仕訳帳またはテンプレート
Category	仕訳帳のデータ種別です。
Period	仕訳帳の期間です。
Application	アプリケーション ID

例えば、仕訳帳入力の仕訳帳入力説明を表示するには次の計算式を使用します。

HPJDS ("RECLASS1", "JOURNAL", "ACTUAL", "1", "APP1")

## HPJEN - 仕訳帳のエンティティ関数

HPJEN 関数を使用して、仕訳帳の指定した詳細行のエンティティを検索します。次の形式を使用します。

HPJEN("Journal", "Table", "Category", "Period", "Application", "Detail")

変数	説明
Journal	エンティティを返す仕訳帳です。
Table	仕訳帳の種別：仕訳帳またはテンプレート
Category	仕訳帳のデータ種別です。
Period	仕訳帳の期間です。
Application	アプリケーション ID
Detail	詳細行ごとに割り当てられている一意の番号。Excel の場合は RHLX メニューにある「仕訳帳の詳細の変更」を使用して詳細行を選択すると、詳細行の Record Signature（レコードシグニチャ）が表示されます。

例えば、仕訳帳入力の借方値を表示するには次の計算式を使用します。

HPJEN ("RECLASS1", "JOURNAL", "ACTUAL", "1", "APP1", "0")

## HPJNO - 仕訳帳番号関数

HPJNO 関数を使用して、システムによって仕訳帳に割り当てられた番号を検索します。次の形式を使用します。

HPJNO("Journal", "Table", "Category", "Period", "Application")

変数	説明
Journal	番号を返す仕訳帳です。
Table	仕訳帳の種別：仕訳帳またはテンプレート

変数	説明
Category	仕訳帳のデータ種別です。
Period	仕訳帳の期間です。
Application	アプリケーション ID

例えば、仕訳帳入力の仕訳帳番号を表示するには次の計算式を使用します。

HPJNO ("RECLASS1", "JOURNAL", "ACTUAL", "1", "APP1")

## HPJST - 仕訳帳のステータス関数

HPJST 関数を使用して、仕訳帳のステータスを検索します。次の形式を使用します。

HPJST("Journal", "Table", "Category", "Period", "Application")

変数	説明
Journal	ステータスを返す仕訳帳です。
Table	仕訳帳の種別：仕訳帳またはテンプレート
Category	仕訳帳のデータ種別です。
Period	仕訳帳の期間です。
Application	アプリケーション ID

例えば、仕訳帳入力の仕訳ステータスを表示するには次の計算式を使用します。

HPJST ("RECLASS1", "JOURNAL", "ACTUAL", "1", "APP1")

## HPKEY - デフォルト ID 関数

HPKEY 関数では、デフォルトの勘定科目、エンティティ、データ種別または期間の ID を検索し表示します。

次の形式を使用します。

HPKEY("Element", "Application")

変数	説明
Element	デフォルトの勘定科目 ID を返す場合は ACCOUNT、デフォルトのエンティティの ID を返す場合は ENTITY、デフォルトのデータ種別 ID を返す場合は CATEGORY、デフォルトの期間 ID を返す場合は PERIOD です。
Application	勘定科目、エンティティ、データ種別、または期間を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル A10 に次の計算式を入力する場合、

HPKEY ("CATEGORY", "PROD")

Product アプリケーションのデフォルトのデータ種別が Last Year であり、その ID が LASTYR であれば、セル A10 にこの ID が表示されます。

## HPLNK - リンクデータ値関数

HPLNK 関数では、指定されたエンティティ、データ種別、勘定科目、期間、期間単位およびアプリケーションのデータ値をスプレッドシートから Hyperion Enterprise データベースに送信します。

データをエクスポートする名前と勘定科目は、入力された名前と勘定科目である必要があります。期間単位表示として、YTD ではなく PER または CTD を選択する必要があります。スプレッドシートのデータを、開いているデータファイルにエクスポートすることはできません。仕訳帳エンティティにエクスポートする場合は、仕訳帳の保護が適用されていないことを確認してください。HPLNK オプションの使用時は、ワークシート内のすべてのセル保護をオフにする必要があります。次の形式を使用します。

HPLNK(Value,"Entity","Category","Account","Period","Frequency", "Application")

変数	説明
Value	Hyperion Enterprise に送信する値です。
Entity	値を送信するエンティティです。
Category	値を送信するデータ種別です。
Account	値を送信する勘定科目です。
Period	値を送信する期間です。
Frequency	データベースに送信するデータの期間単位コードです。
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションの Cables 勘定科目および Israel エンティティについて Forecast データ種別の 2002 年 10 月（October）の値にセル A20 の値を送信し、月別のデータを表示します。

HPLNK(A20,"Israel","FORCST","CABLES","OCT 02","MON","TAX")

詳しくは、[253 ページの「Hyperion Retrieve 関数の期間値」](#)を参照してください。

## HPNAM - エンティティ関数

HPNAM 関数を使用して、指定したエンティティの ID を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPNAM("Entity","Application")

変数	説明
Entity	表示するエンティティです。

変数	説明
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションで US100 エンティティの ID を返します。

HPNAM("US100", "TAX")

## HPNNA - 最初のエンティティの ID 関数

HPNNA 関数を使用して、指定したエンティティの最初のエンティティ ID を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPNNA("Entity", "Application")

変数	説明
Entity	エンティティの ID
Application	エンティティを含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル D27 に次の計算式を入力するとします。

HPNNA(B14, "TAX")

Tax アプリケーションのエンティティがセル B14 に表示されると、最初のエンティティ USELIM がセル D27 に表示されます。

## HPNSN - サブエンティティの ID 関数

HPNSN 関数を使用して、指定したエンティティのサブエンティティ ID を検索し、表示します。次の形式を使用します。

HPNSN("Entity", "Application")

変数	説明
Entity	エンティティの ID
Application	エンティティを含んでいるアプリケーションの ID

例えば、セル D27 に次の計算式を入力するとします。

HPNSN(B14, "TAX")

Tax アプリケーションのエンティティがセル B14 に表示されると、サブエンティティ PADJ がセル D27 に表示されます。

## HPPARADJ - 親の調整データ関数

HPPARADJ 関数を使用して、親の調整データを検索します。次の形式を使用します。

HPPARADJ("Entity", "Category", "Account", "Period", "Frequency", "Parent", "Application")

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Account	勘定科目 ID
Period	期間 ID
Frequency	期間単位 ID
Parent	親エンティティの ID
Application	親の調整データを含んでいるアプリケーションです。

例えば、次の計算式では 2002 年 4 月 (April) の期間の Cables 勘定科目について、Actual データ種別での Israel エンティティの親の調整データを返します。この計算式では、Tax アプリケーションの親 Europe のデータを月別形式で表示します。

HPPARADJ("Israel", "ACTUAL", "CABLES", "APR 02", "MON", "EUROPE", "TAX")

**注：** HPPARADJ 関数は、エンティティの代わりに親の単位を使用します。

## HPPBE - 差異率関数

HPPBE 関数を使用して、指定した勘定科目の 2 つのデータ値の差異率を返します。差異が正の場合はプラス記号 (+) を付けて表示され、負の場合はマイナス記号 (-) を付けて表示されます。次の形式を使用します。

HPPBE("Account", "Value1", "Value2", "Application")

変数	説明
Account	勘定科目 ID
Value	最初の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。
Value2	2 番目の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。
Application	アプリケーション ID

例えば、Tax アプリケーションで 2002 年 10 月 (October) と 2002 年 11 月 (November) の Cost of Goods Sold 勘定科目の値の差異率を返すとしてします。勘定科目 ID がワークシートのセル A5 に表示され、2002 年 11 月の値がセル D5 に、2002 年 10 月の値がセル C5 に、さらにアプリケーション ID がセル A1 に表示されている場合、次の計算式を使用してこの 2 つの値の差異率を返すことができます。

HPPBE(A5, D5, C5, A1)

HPPBE 関数を使用すると、同一期間の異なる 2 つのデータ種別またはエンティティについて勘定科目間の値の差異率を返すこともできます。たとえば、勘定科

目を Cash に、期間を 2 月にして、データ種別 Actual と Last Year との間の値の差異率やエンティティ Israel と France との間の値の差異率を表示することができます。

**注：** 2 つの値の差の評価方法は勘定科目の種類によって異なります。収益や負債の勘定科目を指定した場合、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果は負になります。費用や資産の勘定科目を指定した場合は、最初の値よりも 2 番目の値が大きければ結果が正になります。

## HPPCH - 変化率関数

HPPCH 関数を使用して、2 つの値の差異率を返します。次の計算式が使用されます。

$$\{(Value\ 1 - Value\ 2) / Value\ 2\} \times 100$$

HPPCH 関数を使用して、勘定科目の種別にかかわらず 2 つの期間での勘定科目の値の差異率を計算します。また、同一期間の勘定科目間の値を、2 つの異なるデータ種別またはエンティティ間で比較するときにも使用できます。変化率を計算した結果が正の値であるか負の値であるかは評価されません。次の形式を使用します。

HPPCH("Value1","Value2","Application")

変数	説明
Value1	最初の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。
Value2	2 番目の値を定義する計算式、数値、またはセル参照です。
Application	アプリケーション ID

例えば、Tax アプリケーションの勘定科目で 2002 年 10 月 (October) と 2003 年 11 月 (November) の間の値の差異率を返すとします。2003 年 10 月 (October) の値がワークシートのセル D5 に表示されており、2002 年 10 月 (October) の値がセル C5 に表示されている場合、次の計算式を使用してこの 2 つの値の変化率を返すことができます。

HPPCH(D5,C5,"TAX")

## HPPCONS - 最終連結比率関数

HPPCONS 関数を使用して、最終連結比率を検索します。次の形式を使用します。

HPPCONS("Parent","Child","Category","Period","Application")

変数	説明
Parent	親エンティティの ID
Child	子エンティティの ID

変数	説明
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	最終連結比率を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式では Tax アプリケーションの 2002 年 4 月（April）の期間の Actual データ種別で、子 Israel を持つ親 Europe の最終連結比率を戻します。

```
HPPCONS("EUROPE", "Israel", "ACTUAL", "APR 02", "TAX")
```

## HPPCTRL - 最終支配比率関数

HPPCTRL 関数を使用して、最終支配比率を検索します。次の形式を使用します。

```
HPPCTRL("Parent", "Child", "Category", "Period", "Application")
```

変数	説明
Parent	親エンティティの ID
Child	子エンティティの ID
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	最終支配比率を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式では Tax アプリケーションの 2002 年 4 月（April）の期間の Actual データ種別で、子 Israel を持つ親 Europe の最終支配比率を返します。

```
HPPCTRL("EUROPE", "Israel", "ACTUAL", "APR 02", "TAX")
```

## HPPOWN - 最終出資比率関数

HPPOWN 関数を使用して、最終出資比率を検索します。次の形式を使用します。

```
HPPOWN("Parent", "Child", "Category", "Period", "Application")
```

変数	説明
Parent	親エンティティの ID
Child	子エンティティの ID
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	最終出資比率を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式では Tax アプリケーションの 2002 年 4 月（April）の期間の Actual データ種別で、子 Israel を持つ親 Europe の最終出資比率を返します。

```
HPPOWN("EUROPE", "Israel", "ACTUAL", "APR 02", "TAX")
```

## HPPROP - 比率データ関数

HPPROP 関数を使用して、比率データを検索します。次の形式を使用します。

```
HPPROP("Entity", "Category", "Account", "Period", "Frequency", "Parent", "Application")
```

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Account	勘定科目 ID
Period	期間 ID
Frequency	期間単位 ID
Parent	親エンティティの ID
Application	比率データを含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションで親 Europe の月別データを表示している 2002 年 4 月（April）の Cables 勘定科目について、Actual データ種別での Israel エンティティの比率データを返します。

```
HPPROP("Israel", "ACTUAL", "CABLES",  
"APR 02", "MON", "EUROPE", "TAX")
```

**注：** HPPROP 関数では、エンティティの代わりに親の単位を使用します。

## HPSCA - 単位関数

HPSCA 関数を使用して、指定したエンティティ、データ種別および勘定科目についての単位比率を検索します。単位比率は 10 の累乗で返されます。例えば、Hyperion Enterprise の 3 単位は 100 として返されます。エンティティの単位が定義されている場合は、エンティティの単位で返されます。それ以外の場合は、データ種別の単位で返されます。[勘定科目表] ウィンドウで単位オプションがオフになっている場合、HPSCA 関数は値 1 を返します。次の形式を使用します。

```
HPSCA("Entity", "Category", "Account", "Application")
```

変数	説明
Entity	単位比率を返すエンティティです。
Category	単位比率を返すデータ種別です。

変数	説明
Account	単位比率を返す勘定科目です。
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションの Budget データ種別における Cables 勘定科目および Israel エンティティの単位比率を返します。

```
HPSCA ("Israel", "BUDGET", "CABLES", "TAX")
```

## HPSHAROS - 発行済株式関数

HPSHAROS 関数を使用して、発行済株式の総数を返します。次の形式を使用します。

```
HPSHAROS("Entity","Category","Period","Application")
```

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	合計発行済株式を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式は Product アプリケーションの 2002 年 4 月 (April) 期間における Actual データ種別のエンティティ USWEST に対する発行済株式の総数を返します。

```
HPSHAROS ("USWEST", "ACTUAL", "APR 02", "PROD")
```

## HPSHAROW - 他のエンティティの所有株関数

HPSHAROW 関数では、他のエンティティが所有する株式の総数を返します。次の形式を使用します。

```
HPSHAROW("Entity","Category","Period","Application")
```

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	他のエンティティの合計所有株を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式は Product アプリケーションの 2002 年 4 月 (April) 期間における Actual データ種別のエンティティ USWEST に対する所有株式の総数を返します。

HPSHAROW("USWEST", "ACTUAL", "APR 02", "PROD")

## HPTRAN - 換算データ関数

HPTRAN 関数を使用して、換算データを検索します。次の形式を使用します。

HPTRAN("Entity", "Category", "Account", "Period", "Frequency", "Parent", "Application")

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Account	勘定科目 ID
Period	期間 ID
Frequency	期間単位 ID
Parent	親エンティティの ID
Application	換算データを含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションで親 Europe の月別データを表示している 2002 年 4 月 (April) の Cables 勘定科目について、Actual データ種別での Israel エンティティの換算データを返します。

HPTRAN("Israel", "ACTUAL", "CABLES", "APR 02", "MON", "EUROPE", "TAX")

**注：** HPTRAN 関数は、エンティティと親の通貨が同じで、親の単位を使用する場合でも、常にデータ値を返します。

## HPVAL - データ値関数

HPVAL 関数を使用して、指定したエンティティ、データ種別、勘定科目、期間、期間単位およびアプリケーションのデータ値を検索し、表示します。データ種別に割り当てられた期間単位、または増分期間がさらに大きい場合のデータ種別の値を表示することができます。例えば、月別の期間単位が Actual データ種別に割り当てられている場合、四半期単位の値を表示できますが、週単位の値は表示できません。次の形式を使用します。

HPVAL("Entity", "Category", "Account", "Period", "Frequency", "Application")

変数	説明
Entity	値を返すエンティティです。
Category	値を返すデータ種別です。
Account	値を返す勘定科目です。
Period	値を返す期間です。

変数	説明
Frequency	データを返す期間単位コードです。
Application	アプリケーション ID

例えば、次の計算式は Tax アプリケーションの Cables 勘定科目および Israel エンティティについて Forecast データ種別の 2002 年 10 月 (October) の値を返し、月別のデータを表示します。

```
HPVAL("Israel","FORCST","CABLES","OCT 02","MON","TAX")
```

詳しくは、[253 ページの「Hyperion Retrieve 関数の期間値」](#)を参照してください。

HPVAL 関数の実行時、各アプリケーションにロジックを付加するためにオプションを設定できるようになりました。このオプションは、次の条件が真の場合に設定する必要があります。

- 動的表示勘定科目に TOT、DTOT、SUB、または DSUB 関数を使用している場合。
- 勘定科目が合計する範囲には、非動的表示勘定科目に TOT、DTOT、SUB、または DSUB 関数が含まれている場合。

上記のような状況では、動的表示勘定科目の使用時に、動的表示勘定科目と入力ロジック間のロジックを分離しないでください。このオプションを無視するように、ロジックを書き直すことをお勧めします。

- ファイルベースのアプリケーションにこのオプションを設定するには、テキストエディタを使用して、アプリケーションのサブディレクトリにある .INI ファイルに、次の行を追加します。

```
APP_ATTACH_LOGIC_DVA=1
```

**注：** アプリケーションを初めて作成する場合、この設定はデフォルトで 0（無効）に設定されます。

## HPVSHAROS - 発行済議決権株関数

HPVSHAROS 関数を使用して、発行済議決権株の総数を返します。次の形式を使用します。

```
HPVSHAROS("Entity","Category","Period","Application")
```

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	発行済議決権株合計を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、Product アプリケーションの 2002 年 4 月 (April) の期間における Actual データ種別のエンティティ USWEST に対する発行済議決権株の総数を返します。

HPVSHAROW("USWEST", "ACTUAL", "APR 02", "PROD")

## HPVSHAROW - 他のエンティティの所有議決権株関数

HPVSHAROW 関数を使用して、他のエンティティが所有する議決権株の総数を返します。次の形式を使用します。

HPVSHAROW("Entity", "Category", "Period", "Application")

変数	説明
Entity	エンティティ ID
Category	データ種別 ID
Period	期間 ID
Application	他のエンティティが所有する議決権株の合計を含んでいるアプリケーションの ID

例えば、次の計算式は Product アプリケーションの 2002 年 4 月 (April) の期間における Actual データ種別のエンティティ USWEST に対する議決権株の総数を返します。

HPVSHAROW("USWEST", "ACTUAL", "APR 02", "PROD")

## Hyperion Retrieve 関数の期間値

HPLNK および HPVAL 関数を使用して Hyperion Enterprise とスプレッドシートプログラムとの間でデータを共有する場合、期間を指定する方法は 2 つあります。期間 ID または期間番号を入力できます。以下のセクションでは、別の方法を使用した例を示します。

### 期間 ID

期間 ID を入力する場合は引用符も含めて入力し、年の前にスペースを 1 つ入力してください。2002 年 4 月 (April) の期間の場合は次のように入力します。

"APR 02"

2002 年第 2 四半期の場合は次のように入力します。

"Q2 02"

### 期間番号

期間番号を入力する場合は、引用符は必要ありません。指定されたデータ種別の 4 番目の場合は、次のように入力します。



## この章の内容

基本要素のウィンドウとダイアログボックス .....	255
デスクトップのウィンドウとダイアログボックス .....	287
アプリケーションのウィンドウとダイアログボックス .....	300
エンティティのウィンドウとダイアログボックス .....	325
勘定科目のウィンドウとダイアログボックス .....	355
データ入力のウィンドウとダイアログボックス .....	364
仕訳帳のウィンドウとダイアログボックス .....	368
連結のウィンドウとダイアログボックス .....	384
データベースのウィンドウとダイアログボックス .....	385
計算式のウィンドウとダイアログボックス .....	398
レポートおよびパッケージのウィンドウとダイアログボックス .....	417
セキュリティのウィンドウとダイアログボックス .....	418
サーバセットアップのウィンドウとダイアログボックス .....	437
Enterprise サーバ管理 .....	440

## 基本要素のウィンドウとダイアログボックス

### [通貨] ウィンドウのオプション

アプリケーション内のすべてのエンティティの通貨を定義するために使用します。Hyperion Enterprise では、「通貨」というサブ勘定科目表が、表に入力する通貨に基づいて作成されます。「通貨」サブ勘定科目表を勘定科目表のレート勘定科目に関連付け、通貨レート勘定科目を定義します。

#### 通貨

新規通貨の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

#### 説明

新しい通貨の説明を 40 文字以内で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## 記号

新規通貨を表す文字を入力するか、Windows の文字コード表を使用します。通貨に記号を使用できない場合は、20 文字以内（半角の場合）の略語を使用できます。Windows の文字コード表については、Windows のヘルプまたは Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

## 乗算、除算

通貨で表す値を通貨レートで乗算するか除算するかを選択します。

デフォルト	乗算
-------	----

## セキュリティクラス

通貨のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

# 【通貨の検索】 ダイアログボックスのオプション

[通貨] ウィンドウで通貨を検索するために使用します。

## 通貨

通貨の ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の通貨をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の通貨をリスト内で検索する場合に選択します。

## 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致する通貨を検索する場合に選択します。

# 【通貨の印刷】 ダイアログボックスのオプション

アプリケーション内の通貨を印刷するために使用します。

説明、通貨記号、変換、またはセキュリティクラスのうち、印刷する通貨属性を選択します。

## プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## 【データ種別】 ウィンドウのオプション

アプリケーションのデータ種別を定義するために使用します。表中のデータ種別の順序で、[ロジック] ウィンドウ [398 ページ](#) の「[ロジック] ウィンドウのオプション」にデータ種別が表示されます。

### データ種別

新規データ種別の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	ALL と次の記号 : `~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	--

### 説明

新規データ種別の説明を 40 文字以内で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

### [257 ページ](#) の「[データ種別] ウィンドウのオプション : [設定] タブ」

データの編成と表示の方法を決めるデータ種別属性を選択するために使用します。

### [259 ページ](#) の「[データ種別] ウィンドウのオプション : [オプション] タブ」

その他のデータ種別属性を選択するために使用します。

## 【データ種別】 ウィンドウのオプション : [設定] タブ

データ種別の編成方法とデータの表示方法を決めるデータ種別属性を選択するために使用します。

### 期間単位

データ種別のデータ収集間隔を選択します。

有効値	日次、週次、月次、四半期、三半期、半期、年次
デフォルト	月次

### 開始期間

データ種別のデータの保存を開始する期間を選択します。デフォルトは、アプリケーションカレンダーファイルで定義された最初の期間のラベルです。各期間単位のデフォルトの開始期間は、以下のとおりです。

日次	第 1 日目
週次	第 1 週目
月次	アプリケーションカレンダーの最初の月
四半期	第 1 四半期
三半期	第 1 三半期
半期	上期
年次	年次

アプリケーションカレンダーファイルについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「アプリケーションの作成」の章を参照してください。

### 開始年

データ種別のデータの保存を開始する年を入力します。1 年を超えるデータを保存するデータ種別については、最初の期間の年を入力します。開始年は 4 桁で入力する必要があります。

デフォルト	現在の年
-------	------

### 期間数

データ種別がデータを保存する期間数を入力します。値の範囲は 1 ～ 999 です。各期間単位の期間数は、以下のとおりです。

日次	260
週次	52
月次	12
四半期	4
三半期	3
半期	2
年次	1

### 表示形式

[データベース] ウィンドウと [データ入力] ウィンドウのデフォルトのデータ表示形式を選択します。各期間のデータ種別の累計値を表示するには、[データ種別累計] を選択します。個々の期間の値を表示するには、[期別] を選択します。

フロー、収益、および費用の各勘定科目にないデータが [データ入力] ウィンドウと [データベース] ウィンドウに表示される形式を選択します。仕訳帳が使用可能なエンティティと仕訳帳が使用可能でないエンティティに、異なる設定を選択できます。データ種別にどのデータ表示形式を選択するかによって、このオプションの機能は異なります。次の表は、これらのオプションを組み合わせたときの結果を示しています。

表示形式	データなしはゼロ	結果
データ種別累計	データ種別累計	データを含む最後の期間の後の各期間の値はゼロになります。
データ種別累計	期別	期間にデータが含まれるかどうかに関わらず、各期間の値はデータ種別累計値になります。
期別	データ種別累計	データを含まない最初の期間の値は、その前の期間のすべての値を帳消しにする数値になります。その期間の後のすべての期間の値はゼロになります。
期別	期別	データを含まない各期間の値はゼロになります。

この属性は、データ種別にデータを入力した後で変更できます。但し、データが影響を受ける可能性があります。

## [データ種別] ウィンドウのオプション: [オプション] タブ

データ種別属性を選択するために使用します。

### セキュリティクラス

データ種別のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

### 単位

エンティティに指定された単位を無効にする単位を選択します。単位によって、[データ入力] ウィンドウと [データベース] ウィンドウでデータ種別のデータが表示および解釈される方法が決まります。

有効値	<なし>
	0 (単位)
	1 (十)
	2 (百)
	3 (千)
	4 (万)
	5 (十万)
	6 (百万)

	7 (千万)
	8 (億)
	9 (十億)
デフォルト	<なし>

勘定科目が、勘定科目表で単位勘定科目として定義されていない場合は、データ種別とエンティティに指定された [単位] 属性は適用されません。例えば、通貨レート勘定科目には [単位] 属性を使用しません。

### 前期のデータ種別

前期のデータ種別のデータを使用して現在のデータ種別の開始値を計算する場合に選択します。

デフォルト	<なし>
-------	------

### データパス

データ種別のデータが含まれているファイルを保存するディレクトリを入力します。

デフォルト	@Directory \ ID。ここで Directory はアプリケーションのデータパスディレクトリで、ID はデータ種別 ID の先頭 8 文字（半角の場合）です。
-------	--

**注：** ファイル名拡張子付きのデータパスは使用できません。例えば、LASTYR.1 は無効なデータパスです。

### 開始

アプリケーションの作成時に [仕訳帳に自動的に番号を付ける] を選択した場合は、データ種別の仕訳帳で番号付けを開始する番号を入力します。

有効値	1 ~ 99999
デフォルト	1

### 期間ごとにリセット

アプリケーションの作成時に [仕訳帳に自動的に番号を付ける] を選択した場合、仕訳帳の番号付けを期間ごとにリセットするときに選択します。各期間の仕訳帳の番号付けは、[開始] 編集ボックスの番号から開始します。このオプションを選択しなかった場合は、仕訳帳はすべての期間を通して連続して番号付けされます。

比率および消去の詳細を使用可能にする

アプリケーションの作成時に [比率および消去の保存] を選択した場合、現在のデータ種別で比率および消去の詳細を記録するときに選択します。[調整後の詳細を保存] を選択した場合は、親エンティティの詳細が保存されます。

## [データ種別の印刷] ダイアログボックスのオプション

アプリケーション内のデータ種別を印刷するために使用します。

仕訳帳開始番号	単位
期間ごとに仕訳帳番号をリセット	前期のデータ種別
比率および消去の詳細を使用可能にする	

印刷するデータ種別属性を選択します。アプリケーション内のすべてのデータ種別についてこの情報が印刷されます。

### すべてセット

すべてのチェックボックスオプションをオンにする場合に選択します。

### すべてクリア

すべてのチェックボックスオプションをオフにする場合に選択します。

### プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## [期別替] ウィンドウのオプション

期別替セットの関係を定義するために使用します。

### 261 ページの「[期別替] ウィンドウのオプション : [設定] タブ」

期別替セットの配賦元データ種別と配賦先データ種別を選択するために使用します。

### 262 ページの「[期別替] ウィンドウのオプション : [オプション] タブ」

配賦元データ種別の一部だけを移動する、期別替のオプションを選択するために使用します。このタブは、263 ページの「[新規期別替セット] ダイアログボックスのオプション」または264 ページの「[期別替セットの属性] ダイアログボックスのオプション」を使用して期別替セットを作成するときのみ表示されます。

## [期別替] ウィンドウのオプション : [設定] タブ

期別替セットの配賦元データ種別と配賦先データ種別を選択するために使用します。

### 送り側

移動するデータが含まれるデータ種別のデータ種別 ID を入力します。[編集] メニューの「データ種別の貼り付け」メニューコマンドを使用して、ID をリストか

ら選択することもできます。データ種別 ID は、表の保存時および期別替の実行時に整合性がチェックされます。

## 受け側

[期別替元] 列で指定されたデータの移動先となるデータ種別のデータ種別 ID を入力します。[編集] メニューの [データ種別の貼り付け] メニューコマンドを使用して、リストから選択することもできます。データ種別 ID は、表の保存時および期別替の実行時に整合性がチェックされます。

## [期別替] ウィンドウのオプション: [オプション] タブ

配賦元データ種別の一部だけを移動する、期別替のオプションを選択するために使用します。このタブは、[263 ページの「\[新規期別替セット\] ダイアログボックスのオプション」](#) または [264 ページの「\[期別替セットの属性\] ダイアログボックスのオプション」](#) を使用して期別替セットを作成するときのみ表示されます。

### コピーする期間数

配賦元データ種別から配賦先データ種別にコピーする期間数を入力します。

有効値	1 ～ 配賦元データ種別の期間数
デフォルト	1

### 増加する期間数

配賦元データ種別の値を上げるために使用する期間数を入力します。

有効値	1 ～ 配賦元データ種別の期間数
デフォルト	1

### すべての期間をクリア、期別替した期間をクリア、すべての期間を保持

配賦元データ種別からクリアする一タを選択します。

デフォルト	期別替した期間をクリア
-------	-------------

### 年次、ソースと同じにする

配賦先データ種別を増加する期間数を選択します。配賦先データ種別の期間数単位で配賦先データ種別を増加するには、[年次] を選択します。配賦元データ種別の期間数単位で配賦先データ種別の値を上げるには、[ソースと同じにする] を選択します。

デフォルト	ソースと同じにする
-------	-----------

### すべての期間を置換える、期別替した期間を置換える

受け側データ種別からクリアするデータを選択します。

デフォルト	期別替した期間を置換える
-------	--------------

## 【期別替の実行】ダイアログボックスのオプション

期別替セットを実行するために使用します。期別替は、[アプリケーション] ウィンドウで実行します。

**注：** 期別替を実行する前にデータのバックアップを行ってください。

### 期別替セット

期別替セットの ID を入力するか、リストから選択します。

種別	コピーする期間数	増加する期間数
クリアする期間		

選択された期別替セット内の配賦元データ種別の詳細を示します。

### 増加する期間数、種別、[置換] オプション

選択された期別替セット内の配賦先データ種別の詳細を示します。

## 【新規期別替セット】ダイアログボックスのオプション

期別替セットを作成するために使用します。

### 期別替セット

新規期別替セットの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

### 説明

期別替セットの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

### セキュリティクラス

期別替セットのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 年度末、期別

年度末の期別替を作成するか、期別の期別替を作成するかを選択します。配賦元データ種別のデータをすべて配賦先に移動し、配賦元をクリアするには、[年度末]を選択します。指定したデータだけを配賦元データ種別から配賦先データ種別に移動するには、[期別]を選択します。

デフォルト	年度末
-------	-----

## 【期別替の印刷】 ダイアログボックスのオプション

アプリケーション内の期別替セットを印刷するために使用します。

### すべてのセット、現在のセット

アプリケーション内の期別替セットをすべて印刷するか、[期別替] ウィンドウ内の期別替セットだけを印刷するかを選択します。

### プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## 【期別替セットの属性】 ダイアログボックスのオプション

期別替セットの ID、説明、またはセキュリティクラスを変更するために使用します。

### 期別替セット

期別替セットの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	--------------------------------

### 説明

期別替セットの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### セキュリティクラス

期別替セットのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 年度末、期別

期別替が年度末の期別替であるか、期別の期別替であることを示します。配賦元データ種別のデータをすべて配賦先に移動し、配賦元をクリアするには、[年度末]を

選択します。指定したデータだけを配賦元データ種別から配賦先データ種別に移  
動するには、[期別] を選択します。

## [期別替セットのコピー] ダイアログボックスのオプション

既存の期別替セットをコピーするために使用します。

### ソースのセット

コピー元の期別替セットを選択します。

### 新規のセット

新規期別替セットの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

### 説明

新規期別替セットの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## [期別替セットを開く] ダイアログボックスのオプション

期別替セットを開くために使用します。

### 期別替セット

期別替セットの ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の期別替セットをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の勘定科目期別替セットをリスト内で検索する場合に選択します。

### 新規作成

期別替セットを新規に作成する場合に選択します。このオプションは、[期別替] ウィンドウを最初に開いたときのみ表示されます。

## 〔期別替セットの削除〕 ダイアログボックスのオプション

期別替セットを削除するために使用します。

### 期別替セット

期別替セットの ID を入力するか、リストから選択します。

## 〔データ種別の検索〕 ダイアログボックスのオプション

〔データ種別〕 ウィンドウまたは 〔期別替〕 ウィンドウでデータ種別を検索するために使用します。

### データ種別

データ種別の ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のデータ種別をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のデータ種別をリスト内で検索する場合に選択します。

### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致するデータ種別を検索する場合に選択します。

## 〔コード〕 ウィンドウのオプション

アプリケーション内の勘定科目、エンティティ、ロジック、仕訳帳のコードを定義するために使用します。

### コード

新規コードの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	--------------------------------

### 説明

新しいコードの説明を 40 文字以内で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

勘定科目	エンティティ	ロジック
------	--------	------

仕訳帳		
-----	--	--

コードを適用できるアプリケーションの要素（1 つまたは複数）を選択します。

### セキュリティクラス

コードのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## [コードの印刷] ダイアログボックスのオプション

アプリケーション内のコードを印刷するために使用します。

勘定科目、仕訳帳、エンティティ、またはロジックのコードを印刷する場合に選択します。

### 説明、セキュリティクラス

印刷するコード属性を選択します。

### コード指定

各コードが使用可能なアプリケーションの要素（1 つまたは複数）を印刷するかどうかを選択します。

### プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## [コードの検索] ダイアログボックスのオプション

[コード] ウィンドウでラベルを検索するために使用します。

### コード

コードの ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のコードをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のコードをリスト内で検索する場合に選択します。

### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致するコードを検索する場合に選択します。

# 変換表ウィンドウのヘルプ

## 【勘定科目変換表】ウィンドウのオプション

別のシステムの勘定科目の ID と、Hyperion Enterprise アプリケーションの勘定科目の ID を対応させるために使用します。

### 勘定科目変換表

データの読み込みおよび抽出時に使用する、対応する外部勘定科目と Hyperion Enterprise 勘定科目を以下のように入力します。

- 読み込み／抽出表では、外部勘定科目と Hyperion Enterprise 勘定科目を一对一の関係で対応させる必要があります。
- 読み込み表では、複数の外部勘定科目を 1 つの Hyperion Enterprise 勘定科目に対応させることができます。
- 抽出表では、複数の Hyperion Enterprise 勘定科目を 1 つの外部勘定科目に対応させることができます。

勘定科目の関係ごとに、勘定科目変換時にデータ値を加算するか減算するかを指定します。データ値を加算するには「Add」と入力し、データ値を減算するには「Sub」と入力します。

## 【新規勘定科目変換表】ダイアログボックスのオプション

勘定科目変換表を作成するために使用します。

### 表

新規の表のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] ; < > , . ? /
----	---

### 説明

表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	空白（説明なし）
-------	----------

### セキュリティクラス

表のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	【アプリケーションの設定変更】で指定するセキュリティクラス

### 読込

表をデータ読み込みに使用するか、データ抽出に使用するか、その両方に使用するかを選択します。

## 【勘定科目変換表を開く】ダイアログボックスのオプション

勘定科目変換表を「勘定科目変換表」ウィンドウで開くために使用します。

### 変換表

表のラベルを入力するか、リストから選択します。

### 読込、抽出

読み込み表、抽出表、またはその両方のうち、どれをリストに含めるかを選択します。

### 新規作成

勘定科目変換表を新規に作成する場合に選択します。このオプションは、「勘定科目変換表」ウィンドウを最初に開いたときのみ使えます。

## 【勘定科目変換表の属性】ダイアログボックスのオプション

勘定科目変換表のラベル、説明、またはセキュリティクラスを変更するために使用します。

### 表

表のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] ; : < > , . ? /
----	---

### 説明

表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### セキュリティクラス

表のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	【アプリケーションの設定変更】で指定するセキュリティクラス

### 読込、抽出

表をデータ読み込みに使用するか、データ抽出に使用するか、その両方に使用するかを選択します。表で複数対一または一対複数の関係を定義した後で、この設定を変更することはできません。

## 【勘定科目変換表の削除】ダイアログボックスのオプション

アプリケーションから勘定科目変換表を削除するために使用します。

### 変換表

ラベルを入力するか、リストから選択します。

## 読込、抽出

読み込み表、抽出表、またはその両方のうち、どれをリストに含めるかを選択します。

## 【勘定科目変換表のコピー】 ダイアログボックスのオプション

既存の勘定科目変換表を基に勘定科目変換表を作成するために使用します。

### 元の表

コピー元の表を選択します。

デフォルト	ウィンドウの勘定科目変換表
-------	---------------

### 新規表

表のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] ; : < > , . ? /
----	---

### 説明

新しい表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	空白（説明なし）
-------	----------

## 読込、抽出

読み込み表、抽出表、またはその両方のうち、どれをリストに含めるかを選択します。

## 【外部勘定科目の検索】 ダイアログボックスのオプション

【勘定科目変換表】 ウィンドウで外部勘定科目を検索するために使用します。

### 外部勘定科目

外部勘定グループのラベルを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の外部勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の外部勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致する外部勘定科目を検索する場合に選択します。

## 【Enterprise 勘定科目の検索】ダイアログボックスのオプション

【勘定科目変換表】ウィンドウで Enterprise 勘定科目を検索するために使用します。

### Enterprise 勘定科目

Enterprise 勘定科目のラベルを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の Enterprise 勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の Enterprise 勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致する Enterprise 勘定科目を検索する場合に選択します。

## 【勘定科目変換表の印刷】ダイアログボックスのオプション

勘定科目変換表の印刷またはプレビューを行うために使用します。

### すべての変換表、現在の変換表

アプリケーションの勘定科目変換表をすべて印刷するか、ウィンドウの変換表だけを印刷するかを選択します。

ソートなし、外部エンティティでのソート、Enterprise エンティティでのソート表を、表でのラベルの順序で印刷するか、外部ラベルの順序で印刷するか、Enterprise ラベルの順序で印刷するかを選択します。

デフォルト	ソートなし
-------	-------

### 外部エンティティ、Enterprise エンティティ

外部勘定科目と Hyperion Enterprise 勘定科目が含まれている列の幅を文字数単位で入力します。

有効値	1 ～ 99
デフォルト	40

### プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## 【エンティティ変換表】ウィンドウのオプション

別のシステムのエンティティのラベルと、Hyperion Enterprise アプリケーションのエンティティのラベルを対応させるために使用します。

### エンティティ変換表

データの読み込みおよび抽出時に使用する、対応する外部エンティティと Hyperion Enterprise エンティティを入力します。読み込み／抽出表では、外部エンティティと Hyperion Enterprise エンティティを一対一の関係で対応させる必要があります。

読み込み表では、複数の外部エンティティを 1 つの Hyperion Enterprise エンティティに対応させることができます。この場合、Hyperion Enterprise エンティティを行に入力または貼り付けし、同じ行とその下の行に外部エンティティのラベルを入力します。

抽出表では、複数の Hyperion Enterprise エンティティを 1 つの外部エンティティに対応させることができます。この場合、外部エンティティのラベルを行に入力し、同じ行とその下の行に Hyperion Enterprise エンティティを貼り付けます。

## 【新規エンティティ変換表】ダイアログボックスのオプション

エンティティ変換表を作成するために使用します。

### 表

新規の表のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] ; : < > , . ? /
----	---

### 説明

表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力したラベル
-------	---------

### セキュリティクラス

表のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	【アプリケーションの設定変更】で指定するセキュリティクラス

### 読込、抽出

表をデータ読み込みに使用するか、データ抽出に使用するか、その両方に使用するかを選択します。

## 【エンティティ変換表の属性】ダイアログボックスのオプション

エンティティの表のラベル、説明、またはセキュリティクラスを変更するために使用します。

### 表

表のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] ; : < > , . ? /
----	---

### 説明

表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### セキュリティクラス

表のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	【アプリケーションの設定変更】で指定するセキュリティクラス

### 読込、抽出

表をデータ読み込みに使用するか、データ抽出に使用するか、その両方に使用するかを選択します。表で複数対一または一対複数の関係を定義した後で、この設定を変更することはできません。

## 【エンティティ変換表を開く】ダイアログボックスのオプション

エンティティ変換表を【エンティティ変換表】ウィンドウで開くために使用します。

### 変換表

表を入力するか、リストから選択します。

### 読込、抽出

読み込み表、抽出表、またはその両方のうち、どれをリストに含めるかを選択します。

### 新規作成

エンティティ変換表を新規に作成する場合に選択します。このオプションは、【エンティティ変換表】ウィンドウを最初に開いたときのみ使用できます。

## 【エンティティ変換表の削除】ダイアログボックスのオプション

アプリケーションからエンティティ変換表を削除するために使用します。

### 変換表

ラベルを入力するか、リストから選択します。

### 読込、抽出

読み込み表、抽出表、またはその両方のうち、どれをリストに含めるかを選択します。

## 【エンティティ変換表のコピー】ダイアログボックスのオプション

既存のエンティティ変換表を基にエンティティ変換表を作成するために使用します。

### 元の表

コピー元の表を選択します。

デフォルト	ウィンドウのエンティティ変換表
-------	-----------------

### 新規表

新規の表のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] ; : < > , . ? /
----	---

### 説明

新しい表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力したラベル
-------	---------

### 読込、抽出

読み込み表、抽出表、またはその両方のうち、どれをリストに含めるかを選択します。

## 【外部エンティティの検索】ダイアログボックスのオプション

【エンティティ変換表】ウィンドウで外部エンティティを検索するために使用します。

### 外部エンティティ

外部エンティティのラベルを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の外部エンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の外部エンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

#### **完全に一致するものを検索**

編集ボックスの値と完全に一致する外部エンティティを検索する場合に選択します。

## **【Enterprise エンティティの検索】 ダイアログボックスのオプション**

【エンティティ変換表】 ウィンドウで Hyperion Enterprise エンティティを検索するために使用します。

#### **Enterprise エンティティ**

Hyperion Enterprise エンティティのラベルを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の Hyperion Enterprise エンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の Hyperion Enterprise エンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

#### **完全に一致するものを検索**

編集ボックスの値と完全に一致する Hyperion Enterprise エンティティを検索する場合に選択します。

## **【エンティティ変換表の印刷】 ダイアログボックスのオプション**

エンティティ変換表の印刷またはプレビューを行うために使用します。

#### **すべての変換表、現在の変換表**

アプリケーションのエンティティ変換表をすべて印刷するか、ウィンドウの変換表だけを印刷するかを選択します。

#### **ソートなし、外部エンティティでのソート、Enterprise エンティティでのソート**

表を、表でのラベルの順序で印刷するか、外部ラベルの順序で印刷するか、Hyperion Enterprise ラベルの順序で印刷するかを選択します。

デフォルト	ソートなし
-------	-------

## 外部エンティティ、Enterprise エンティティ

外部エンティティと Hyperion Enterprise エンティティが含まれている列の幅を文字数単位で入力します。

有効値	1 ～ 99
デフォルト	40

## プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

# 一覧ウィンドウのヘルプ

## 【勘定科目一覧】ウィンドウのオプション

勘定科目一覧の定義および保守に使用します。

### 276 ページの「【勘定科目一覧】ウィンドウのオプション：【一覧】タブ」

一覧の選択条件を絞り、条件を満たす勘定科目を表示するために使用します。

### 277 ページの「【勘定科目一覧】ウィンドウのオプション：【フィルタ】タブ」

一覧の選択条件を絞るために使用します。

## 【勘定科目一覧】ウィンドウのオプション：【一覧】タブ

一覧の選択条件を絞り、条件を満たす勘定科目を表示するために使用します。

フィールド	説明
勘定科目一覧	勘定科目一覧の ID と説明を表示します。
固定勘定科目一覧	一覧に手動で追加された勘定科目の ID と説明を表示します。 このリストを表示するには、ウィンドウに固定勘定科目一覧が既に開かれている必要があります。
連動勘定科目一覧	フィルタ条件を満たす勘定科目の ID と説明を表示します。条件を満たす勘定科目数がリストのラベルの横に表示されます。
一覧の更新	【連動勘定科目一覧】リストを更新し、フィルタ条件の変更を反映する場合に選択します。
勘定科目種別	すべての勘定科目種別を表示します。フィルタの条件にする勘定科目種別を選択します。
一覧の内容：	

連動表示勘定科目	連動表示勘定を含める場合に選択します。
入力勘定	データ入力が有効な勘定科目を含める場合に選択します。
算出勘定	値が算出された勘定科目を含める場合に選択します。算出勘定一覧には直接データを入力することはできません。すべての値は自動的に算出されます。
表示内容：	
主要勘定科目	主要勘定科目を表示する場合に選択します。
第 1 レベルサブ勘定科目	第 1 レベルのサブ勘定科目を表示するときに選択します。
第 2 レベルサブ勘定科目	第 2 レベルのサブ勘定科目を表示するときに選択します。

## 【勘定科目一覧】ウィンドウのオプション：【フィルタ】タブ

一覧の選択条件を絞るために使用します。

フィールド	説明	有効値
勘定科目グループ	新規一覧のグループに含まれる勘定科目だけを持つ勘定グループ（1 つまたは複数）を選択します。	アクセス可能なすべての勘定グループ。 デフォルト：すべてのグループ
勘定科目コード	新規一覧にそのコードを持つ勘定科目だけを含める勘定コード（1 つまたは複数）を選択します。	アクセス可能なすべての勘定科目コード。 デフォルト：すべて
サブ勘定科目表	サブ勘定科目表（1 つまたは複数）を選択し、選択されたサブ勘定科目表が関連付けられた主要勘定科目でフィルタするか、選択された表のサブ勘定科目を「サブ勘定科目」リストに含めます。	アクセス可能なすべてのサブ勘定科目表。 デフォルト：すべての表
上記の表が付属している勘定科目を表示	選択されたサブ勘定科目表が関連付けられた勘定科目を一覧に含める場合に選択します。サブ勘定科目が指定された主要勘定科目にかかわらず、それらのサブ勘定科目を「サブ勘定科目」リストから選択するには、このオプションの選択を解除します。	アクセス可能なすべてのサブ勘定科目表。 デフォルト：すべての表
サブ勘定科目	個別に選択したサブ勘定科目（1 つまたは複数）のみが含まれます。このリストは、アプリケーションで共用記号が有効になっているときのみ使用できます。	アクセス可能なすべてのサブ勘定科目。 デフォルト：すべて

注： このチェックボックスは、共用記号を持たないアプリケーションには無効です。

## 【新規勘定科目一覧】 ダイアログボックスのオプション

勘定科目一覧を作成するために使用します。

フィールド	説明	有効値
リスト	新規勘定科目一覧の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。	ID はアプリケーション内で一意である必要があります。  例外： `~!@#%^&*()-+={}[];:<>,.?/`
説明	新規勘定科目一覧の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。	空白（説明なし）
セキュリティクラス	勘定科目一覧のセキュリティクラスを選択します。セキュリティクラスとは、アクセスを制限することができる、アプリケーション内の関連項目の集まりです。アプリケーション要素を設定するときにセキュリティクラスを割り当てます。  ユーザとユーザグループには、これらのセキュリティクラスに対するアクセス権を割り当てます。これによりユーザとユーザグループが持っているセキュリティクラスの項目に対するアクセス権のレベルが決まります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「セキュリティの定義」の章を参照してください。	管理者によってアクセスが許可されたセキュリティクラス。  デフォルト：300 ページの「 <a href="#">アプリケーションのウィンドウとダイアログボックス</a> 」で指定したセキュリティクラス。
固定	未定義の勘定科目を持つ勘定科目一覧を選択します。	デフォルトでは選択されません。
連動	選択したフィルタ条件に応じて内容が変わる勘定科目一覧を定義するときに選択します。	デフォルトで選択されます。

## 【勘定科目一覧を開く】 ダイアログボックスのオプション

【勘定科目一覧】 ウィンドウで勘定科目一覧を開くために使用します。

フィールド	説明
勘定科目一覧	勘定科目一覧の ID を入力するか、リストから選択します。

内容：

連動エンティティ一覧	連動エンティティ一覧を含めるときに選択します。
固定一覧	固定エンティティ一覧を含めるときに選択します。
新規作成	新規勘定科目一覧を作成する場合に選択します。このボタンは、[勘定科目一覧] ウィンドウを最初に開いたときのみ表示されます。
<<	指定した条件を満たす前の勘定科目一覧をリスト内で検索する場合に選択します。
>>	指定した条件を満たす次の勘定科目一覧をリスト内で検索する場合に選択します。

## [勘定科目一覧の削除] ダイアログボックスのオプション

アプリケーションから勘定科目一覧を除去するために使用します。

フィールド	説明
勘定科目一覧	勘定科目一覧の ID を入力するか、リストから選択します。

内容：

連動エンティティ一覧	連動エンティティ一覧を含めるときに選択します。
固定一覧	固定エンティティ一覧を含めるときに選択します。
<<	指定した条件を満たす前の勘定科目一覧をリスト内で検索する場合に選択します。
>>	指定した条件を満たす次の勘定科目一覧をリスト内で検索する場合に選択します。

**ヒント：** エンティティに合致する最初の勘定科目一覧を表示するには、編集ボックスにその勘定科目一覧の名前の最初の文字をいくつか入力します。エンティティに一致する次の勘定科目一覧をハイライトするには [ >> ] を選択します。

## [勘定科目一覧属性] ダイアログボックスのオプション

勘定科目一覧の説明、セキュリティクラス、または種別を変更するために使用します。

フィールド	説明	有効値
リスト	勘定科目一覧の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。	ID はアプリケーション内で一意である必要があります。 例外： `~!@#%^&*()-+={}[];: <>,.?/`

説明	勘定科目一覧の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。	デフォルトは現在の説明です。
セキュリティクラス	勘定科目一覧のセキュリティクラスを選択します。セキュリティクラスとは、アクセスを制限することができる、アプリケーション内の関連項目の集まりです。アプリケーション要素を設定するときにセキュリティクラスを割り当てます。  ユーザとユーザグループには、これらのセキュリティクラスに対するアクセス権を割り当てます。これによりユーザとユーザグループが持っているセキュリティクラスの項目に対するアクセス権のレベルが決まります。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「セキュリティの定義」の章を参照してください。	管理者によってアクセスが許可されたセキュリティクラス。  デフォルト：[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックス Application_Preferences_Dialog_Box_Options@hegs.hlp で指定したセキュリティクラス
固定	固定勘定科目一覧を定義するときに選択します。	固定勘定科目一覧は連動勘定科目一覧に変更できません。
連動	連動勘定科目一覧を定義するときに選択します。	連動勘定科目一覧は固定勘定科目一覧に変更できます。

## 【勘定科目一覧のコピー】 ダイアログボックスのオプション

既存の勘定科目一覧を基に勘定科目一覧を作成するために使用します。

フィールド	説明	有効値
元の一覧	コピー元の勘定科目一覧を選択します。	デフォルト：ウィンドウ内の勘定科目一覧
新規一覧	新規勘定科目一覧の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。	ID はアプリケーション内で一意である必要があります。  例外： `~@#%^&*()+{}[]\ ;: "'<>,.?/`
説明	新規勘定科目一覧の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。	デフォルト：空白（説明なし）
種別：		
固定、連動	定義する勘定科目一覧の種別を選択します。	固定一覧をコピーする場合は、新規固定一覧のみにコピーできます。連動一覧をコピーする場合は、新規連動固定一覧のみにコピーできます。

連動一覧から固定一覧にコピーした場合は、後で連動サブ勘定科目表に加えられた変更は、固定一覧に反映されません。

## 【勘定科目一覧の印刷】 ダイアログボックスのオプション

勘定科目一覧を印刷するために使用します。

フィールド	説明
印刷：	
すべての勘定科目一覧	アプリケーション内のすべての勘定科目一覧を印刷する場合に選択します。
現在の勘定科目一覧	現在の勘定科目一覧を印刷する場合に選択します。
内容：	
勘定科目一覧の条件	連動一覧の定義に使用された条件を印刷する場合に選択します。
勘定科目一覧の詳細	勘定科目一覧に含まれるそれぞれの勘定科目の名前と説明を印刷する場合に選択します。
固定勘定科目一覧を印刷する場合は、【勘定科目一覧の条件】 オプションはグレー表示され、【勘定科目一覧の詳細】 のみを選択できます。	
プレビュー	指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## 【エンティティ一覧】 ウィンドウのオプション

エンティティ一覧の定義および保守に使用します。

### 281 ページの「【エンティティ一覧】 ウィンドウのオプション：【一覧】 タブ」

一覧の選択条件を絞り、条件を満たすエンティティを表示するために使用します。

### 282 ページの「【エンティティ一覧】 ウィンドウのオプション：【エンティティ】 タブ」、283 ページの「【エンティティ一覧】 ウィンドウのオプション：【オプション】 タブ」

一覧の選択条件を絞るために使用します。

## 【エンティティ一覧】 ウィンドウのオプション：【一覧】 タブ

一覧の選択条件を絞り、条件を満たすエンティティを表示するために使用します。

### 固定エンティティ一覧

固定一覧に手動で追加されたエンティティを表示します。このリストを表示するには、ウィンドウに固定一覧が開かれている必要があります。

## 連動エンティティ一覧

フィルタ条件を満たすエンティティを表示します。条件を満たすエンティティ数がリストのラベルの横に表示されます。

### 一覧の更新

現在のフィルタ条件に基づいてリストを更新する場合に選択します。

親エンティティ	最下位エンティティ	消去
仕訳帳	会社間	

[連動エンティティ一覧] リストに親エンティティまたは最下位エンティティを含めるか、消去、仕訳帳、または会社間トランザクションに有効なエンティティを含めるかを選択します。

### 重複エンティティ

複数の条件を満たすエンティティを、一覧に複数回含める場合に選択します。

## [エンティティ一覧] ウィンドウのオプション: [エンティティ] タブ

一覧の選択条件を絞るために使用します。

### 組織

組織を選択すると、これらの組織内のエンティティだけが連動エンティティ一覧に含まれるようになります。

有効値	アプリケーション内でアクセス可能なすべての組織
デフォルト	すべての組織

### エンティティ

エンティティを選択すると、これらのエンティティを親とするエンティティだけが連動エンティティ一覧に含まれるようになります。

有効値	選択された組織でアクセス可能なすべてのエンティティ
デフォルト	すべてのエンティティ

### すべての子

選択されたエンティティを親とするすべてのエンティティを含める場合に選択します。

選択されたエンティティを直接の親とするエンティティだけを含める場合に選択します。

### 下位構造

下位構造を選択すると、これらの下位構造を使用するエンティティだけがエンティティ一覧に含まれるようになります。

有効値	アクセス可能なすべての下位構造、[すべての下位構造]、[下位構造なし]
デフォルト	すべての下位構造

### サブエンティティ

サブエンティティを選択すると、これらのサブエンティティだけが「連動エンティティ一覧」リストに含まれるようになります。

有効値	選択された下位構造のすべてのサブエンティティ
デフォルト	すべてのサブエンティティ

エンティティコードを選択すると、これらのコードのいずれかを持つエンティティだけが「連動エンティティ一覧」リストに含まれるようになります。

有効値	アプリケーション内でアクセス可能なすべてのエンティティコード
デフォルト	すべて

## 「エンティティ一覧」ウィンドウのオプション: 「オプション」タブ

一覧の選択条件を絞るために使用します。

### 通貨

通貨を選択すると、これらのいずれかの通貨のエンティティだけが「連動エンティティ一覧」リストに含まれるようになります。

有効値	アクセス可能なすべての通貨
デフォルト	すべての通貨

### 連結ロジック

連結ロジックを選択すると、これらの連結ロジックのいずれかを使用するエンティティだけが「連動エンティティ一覧」リストに含まれるようになります。

有効値	アクセス可能なすべての連結ロジック
デフォルト	すべて

### 換算ロジック

換算ロジックを選択すると、これらの換算ロジックのいずれかを使用するエンティティだけが「連動エンティティ一覧」リストに含まれるようになります。

有効値	アクセス可能なすべての換算ロジック
デフォルト	すべて

## 入力ロジック

入力ロジックを選択すると、これらの入力ロジックのいずれかを使用するエンティティだけが「連動エンティティ一覧」リストに含まれるようになります。

有効値	アクセス可能なすべての入力ロジック
デフォルト	すべて

## 【新規エンティティ一覧】ダイアログボックスのオプション

エンティティ一覧を作成するために使用します。

### リスト

新規エンティティ一覧の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : ' " < > , . ? /
----	---

### 説明

新規エンティティ一覧の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

### セキュリティクラス

エンティティ一覧のセキュリティクラスを選択します。

有効値	管理者によってアクセスが許可されたセキュリティクラス
デフォルト	「アプリケーションの設定変更」ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

### 固定、連動

固定エンティティ一覧を定義するか、連動エンティティ一覧を定義するかを選択します。固定エンティティ一覧と連動エンティティ一覧について詳しくは、「一覧の定義」を参照してください。

## 【エンティティ一覧を開く】ダイアログボックスのオプション

「エンティティ一覧」ウィンドウでエンティティ一覧を開くために使用します。

### エンティティ一覧

ID を入力するか、リストから選択します。

### 連動一覧、固定一覧

「エンティティ一覧」コンボボックスに連動エンティティ一覧を含めるか、固定エンティティ一覧を含めるか、両方を含めるかを選択します。

### 新規作成

新規エンティティ一覧を作成する場合に選択します。このボタンは、[エンティティ一覧] ウィンドウを最初に開いたときのみ表示されます。

## [エンティティ一覧の削除] ダイアログボックスのオプション

アプリケーションからエンティティ一覧を削除するために使用します。

### エンティティ一覧

ID を入力するか、リストから選択します。

### 連動一覧、固定一覧

[エンティティ一覧] コンボボックスに連動エンティティ一覧を含めるか、固定エンティティ一覧を含めるか、両方を含めるかを選択します。

## [エンティティ一覧属性] ダイアログボックスのオプション

エンティティ一覧の説明、セキュリティクラス、または種別を変更するために使用します。

### リスト

エンティティ一覧の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	-------------------------------

### 説明

説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### セキュリティクラス

エンティティ一覧のセキュリティクラスを選択します。

有効値	管理者によってアクセスが許可されたセキュリティクラス
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

### 固定、連動

一覧の種別を選択します。連動エンティティ一覧は固定エンティティ一覧に変更できますが、固定エンティティ一覧は連動エンティティ一覧に変更できません。

## [エンティティ一覧のコピー] ダイアログボックスのオプション

既存のエンティティ一覧を基に新規エンティティ一覧を作成するために使用します。連動エンティティ一覧を固定エンティティ一覧にコピーすることはできません。

が、固定エンティティ一覧を連動エンティティ一覧にコピーすることはできません。

## 元の一覧

コピー元のエンティティ一覧を選択します。

## 新規一覧

新規エンティティ一覧の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	-------------------------------

## 説明

新規エンティティ一覧の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## 固定、連動

コピー元の一覧の種別を表示します。連動一覧をコピーする場合は、[固定] または [連動] を選択します。固定一覧をコピーする場合は、[固定] を選択する必要があります。

## 【エンティティ一覧の印刷】ダイアログボックスのオプション

エンティティ一覧を印刷するために使用します。

### すべてのエンティティ一覧、現在のエンティティ一覧のみ

すべてのエンティティ一覧を印刷するか、[エンティティ一覧] ウィンドウに表示されているエンティティ一覧のみを印刷するかを選択します。

### エンティティ一覧の条件

連動エンティティ一覧の定義に使用された条件を含める場合に選択します。

### エンティティ一覧の詳細

エンティティ一覧の詳細を含める場合に選択します。

### プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

# デスクトップのウィンドウとダイアログボックス

## [デスクトップ] ウィンドウのオプション

Hyperion Enterprise のモジュールにアクセスするために使用します。

### アプリケーション

アプリケーションモジュールの [アプリケーション] ウィンドウを開くために選択します。[ナビゲート] メニューのオプションを使って [セキュリティの設定]、[セキュリティアクセス]、[コード] ウィンドウなどを表示できます。

### エンティティ

エンティティモジュールの [組織] ウィンドウを開くために選択します。[ナビゲート] メニューのオプションを使って [下位構造]、[エンティティ一覧]、[エンティティ変換表]、[通貨] ウィンドウなどを表示できます。

### 勘定科目

勘定科目モジュールの [勘定科目表] ウィンドウを開くために選択します。[ナビゲート] メニューのオプションを使って [サブ勘定科目表]、[勘定科目一覧]、[勘定科目変換表]、[会社間照合] ウィンドウなどを表示できます。

### データ種別

データ種別モジュールの [データ種別] ウィンドウを開くために選択します。[ナビゲート] メニューのオプションを使って [期別替] ウィンドウを表示できます。

### データ入力表

データ入力モジュールの[364 ページ](#)の「[データ入力のウィンドウとダイアログボックス](#)」を開くために選択します。

### 仕訳帳

仕訳帳モジュールの[368 ページ](#)の「[仕訳帳のウィンドウとダイアログボックス](#)」を開くために選択します。

### 連結

連結モジュールの[384 ページ](#)の「[連結のウィンドウとダイアログボックス](#)」を開くために選択します。

### データベース

データベースモジュールの[385 ページ](#)の「[データベースのウィンドウとダイアログボックス](#)」を開くために選択します。

### 計算式

計算式モジュールの [ロジック] ウィンドウを開くために選択します。[ナビゲート] メニューのオプションを使って [カスタム関数] または [更新ルール] ウィンドウを表示できます。

## パッケージ

パッケージモジュールの [パッケージ] ウィンドウを開くために選択します。

## レポート

レポートモジュールの [レポート] ウィンドウを開くために選択します。

# [ユーザー設定変更] ダイアログボックスのオプション

Hyperion Enterprise の実行をカスタマイズするために使用します。

## アプリケーション

ワークステーションで設定変更を行うアプリケーションを選択します。デフォルトは現在のアプリケーションです。[全アプリケーション] を選択して、すべてのアプリケーションの設定変更を一度に行うこともできます。

## Enter キー

Hyperion Enterprise の表で [Enter] キーを押したときにカーソルが表示される位置を選択します。次の列や行に移動するか、同じセルにとどまることもできます。

デフォルト	次の行に移動
-------	--------

## 選択ボックスに変更を保存して終了

Hyperion Enterprise の終了時に変更を自動保存するかどうかを選択します。

## Excel ワークシートオプションの選択後に Excel を実行

Hyperion Reporting で [Excel ワークシート] オプションを使ってワークシートを作成した後、Excel を自動的に起動してワークシートを読み込む場合に選択します。

## 単位 HPVAL

Hyperion Retrieve の HPVAL 関数を使ってシステムで検索された値に単位を付けるかどうかを選択します。

## エラーをゼロで表示

Hyperion Retrieve からのエラーをゼロ、値なし、エラー、空白のいずれで表示するかを選択します。表示されるエラーのタイプは、使用する Hyperion Retrieve のバージョンによって異なります。

## データなしをゼロで表示

Hyperion Retrieve から失われたデータをゼロ、値なし、エラー、空白のいずれで表示するかを選択します。表示されるエラーのタイプは、使用する Hyperion Retrieve のバージョンによって異なります。

## 色の変更

289 ページの「[\[色の変更\] ダイアログボックスのオプション](#)」を使って、異なる要素の色の設定変更を定義するために選択します。

### FDM ドリルバック

Hyperion Enterprise アプリケーションで FDM データを区別するには **[ビジュアルルキューを使用可能にする]** を選択します。

## [色の変更] ダイアログボックスのオプション

異なる要素の色の設定変更を定義するために使用します。

### 色の定義

色を設定する要素を選択します。

選択項目	色の変更の対象
デスクトップ境界線	すべてのウィンドウの境界線領域
背景	すべてのウィンドウの背景
ダイアログボックス背景	すべてのダイアログボックスの背景
ダイアログボックステキスト	オプションラベルなど、ダイアログボックス内の静的テキスト
ダイアログボックス見出しテキスト	ダイアログボックスのタイトルバーのテキスト
ダイアログボックス見出し背景	ダイアログボックスのタイトルバーの背景
表の列見出しテキスト	データベース表やデータ入力表など、すべての表の列見出しのテキスト
表の列見出し背景	すべての表の列見出しの背景
選択済のテキスト	テーブル内の選択済みのセルのテキスト
選択済の背景	テーブル内の選択済みのセルの背景
入力データのテキスト	データを入力できるセルのテキスト
入力データの背景	データを入力できるセルの背景
算出データのテキスト	算出値を含むセルのテキスト
算出データの背景	算出値を含むセルの背景
親データのテキスト	親エンティティの値を表すセルのテキスト
親データの背景	親エンティティの値を表すセルの背景
派生データのテキスト	データを含まない期間の派生データ種別累計値など、システムで自動的に派生した値を表すセルのテキスト
派生データの背景	システムで自動的に派生した値を表すセルの背景

システム変更テキスト	データ種別表のデータ種別ラベルなど、変更できるアプリケーション要素のラベルのテキスト。その他、期別替表、勘定科目表、エンティティ一覧、エンティティ変換表、勘定科目一覧、勘定科目変換表などのラベルを変更できます。
システム変更背景	変更できるアプリケーション要素のラベルの背景
システム表示テキスト	表示アクセスしないアプリケーション要素のラベルのテキスト
システム表示背景	表示アクセスしないアプリケーション要素のラベルの背景
エンティティ変更テキスト	[組織] ウィンドウの変更できるエンティティのテキスト
エンティティ変更背景	[組織] ウィンドウの変更できるエンティティの背景
エンティティ表示テキスト	[組織] ウィンドウの表示アクセスしないエンティティのテキスト
エンティティ表示背景	[組織] ウィンドウの表示アクセスしないエンティティの背景
選択済のエンティティテキスト	[組織] ウィンドウで選択されたエンティティのテキスト
選択済のエンティティ背景	[組織] ウィンドウで選択されたエンティティの背景
有効連結範囲テキスト	[連結] ウィンドウで、連結が許可されているエンティティを表すためにハイライトされたセル、またはセルブロックのテキスト
無効連結範囲テキスト	[連結] ウィンドウで、連結が許可されていないエンティティを表すためにハイライトされたセル、またはセルブロックのテキスト
連結範囲の背景	[連結] ウィンドウで、ハイライトされたセルまたはセル範囲の背景
OK ステータステキスト	[連結] ウィンドウの OK ステータスインジケータのテキスト
影響ありステータステキスト	[連結] ウィンドウの [影響あり]、[変更あり]、[算出]、[保護済] ステータスインジケータのテキスト
データなしステータステキスト	[データベース] および [連結] ウィンドウの [データなし] ステータスインジケータのテキスト
データステータステキスト	[データベース] ウィンドウの [データ] ステータスインジケータのテキスト
ステータス背景	[データベース] および [連結] ウィンドウのすべてのステータスインジケータの背景
システム制限テキスト	限定されたセキュリティアクセスのある値を含む表のセルのテキスト
システム制限背景	限定されたセキュリティアクセスのある値を含む表のセルの背景
連動表示テキスト	連動表示勘定科目を含む表のセルのテキスト
連動表示背景	連動表示勘定科目を含む表のセルの背景

## 基本色

[色の定義] で選択した要素に適用するための事前定義の色を選択します。

## 作成した色

[色の定義] で選択した要素に適用するために定義する色を選択します。[作成した色] オプションを使って、カスタム色を定義します。

## 色の作成

ダイアログボックスの作成した色のセクションを開くために選択します。

## 色合い、鮮やかさ、明るさ

色合い、鮮やかさ、明るさを示すシステムコード番号 (0 ～ 240) を入力します。

## 赤、緑、青

色に含める赤、緑、または青の量を示すシステムコード (0 ～ 255) を入力します。

## 追加

ダイアログボックスの [色の作成] 領域に表示される色を、[作成した色] ボックスに追加するために選択します。

# [エラーログ] ダイアログボックスのオプション

Hyperion Enterprise の使用中に発生したエラーまたはメッセージを表示するために使用します。

## エラーログ

Hyperion Enterprise で発生したエラーを表示します。

## ページ設定

[ページ設定] ダイアログボックスを開きます。詳しくは、Hyperion Reporting のヘルプを参照してください。

## ページ書式

[ページ書式] ダイアログボックスを開きます。詳しくは、Hyperion Reporting のヘルプを参照してください。

## プリンタの選択

[プリンタの選択] ダイアログボックスを開きます。

## 印刷

[印刷] ダイアログボックスを開きます。

## ログをクリア

エラーログをクリアし、ダイアログボックスを閉じます。

## [イベントログ] ダイアログボックスのオプション

データベースに書き込まれたイベントとエラーのログ情報を表示する場合に選択します。フィルタ条件とソート順のオプションを使用すると、ログ情報をソートして表示できます。また、情報を除去することもできます。

[イベントログ] ダイアログボックスには、次の項目が含まれています。

- メニューバー
- フィルタ条件
- ソート順

### メニューオプション

[イベントログの表示] ダイアログボックスには、次のメニューオプションが備わっています。

- ファイル
- 編集
- 操作
- 表示

### [ファイル] メニュー

[ファイル] メニューのオプションは、基準設定の保存、基準設定の読み込み、および一覧のプレビューと印刷に使用します。

### [編集] メニュー

[編集] メニューのオプションは、元に戻す、切り取り、コピー、貼り付けなどの操作を選択内容に対して行うために使用します。

### [操作] メニュー

[操作] メニューのオプションは、設定のリセットと更新やデータベースの除去に使用します。

### [表示] メニュー

[表示] メニューのオプションは、ツールバー、ステータスバー、および表示条件の表示と非表示を切り替えるために使用します。

### [フィルタ条件]

ユーザ、日付、時刻、製品名、およびタスク名ごとに情報を表示する場合に使用します。

### [ソート順]

ボックスの情報をソートするために使用します。

## [データの視点] ダイアログボックスのオプション

現在のデータ種別、レポート期間、組織、エンティティ、および勘定科目を選択するために使用します。また、このダイアログボックスを使って、デフォルトのデータ入力表を選択したり、データ入力表やデータベース内の期間単位、単位、データ表示形式などを変更することもできます。

### 294 ページの「[データの視点] ダイアログボックスのオプション : [データ種別] タブ」

アプリケーションの現在のデータ種別を選択するために使用します。

### 294 ページの「[データの視点] ダイアログボックスのオプション : [期間] タブ」

アプリケーションの現在の期間を選択するために使用します。

### 294 ページの「[データの視点] ダイアログボックスのオプション : [組織] タブ」

アプリケーションの現在の組織を選択するために使用します。

### 294 ページの「[データの視点] ダイアログボックスのオプション : [エンティティ] タブ」

アプリケーションの現在のエンティティを選択するために使用します。

### 295 ページの「[データの視点] ダイアログボックスのオプション : [勘定科目] タブ」

アプリケーションの現在の勘定科目を選択するために使用します。

### 295 ページの「[データの視点] ダイアログボックスのオプション : [データ入力表] タブ」

アプリケーションのデフォルトデータ入力表を選択するために使用します。

### 295 ページの「[データの視点] ダイアログボックスのオプション : [親] タブ」

連結詳細の現在の親を選択するために使用します。

### 295 ページの「[データの視点] ダイアログボックスのオプション : [連結詳細] タブ」

データベースおよびデータ入力の各モジュールで表示する連結の詳細を設定するために使用します。

<<

指定した条件を満たす前の ID をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の ID をリスト内で検索する場合に選択します。

## [データの視点] ダイアログボックスのオプション: [データ種別] タブ

アプリケーションの現在のデータ種別を選択するために使用します。[デスクトップ]、[データ入力]、[仕訳帳]、[連結]、[データベース]、[組織] の各ウィンドウを開くたびに、このデータ種別の情報にアクセスします。

### データ種別

データ種別ラベルを入力するか、リストから選択します。

## [データの視点] ダイアログボックスのオプション: [期間] タブ

アプリケーションの現在の期間を選択するために使用します。[デスクトップ]、[データ入力]、[仕訳帳]、[連結]、[データベース]、[組織] の各ウィンドウを開くたびに、この期間の情報にアクセスします。

### 期間

期間を入力するか、リストから選択します。

## [データの視点] ダイアログボックスのオプション: [組織] タブ

アプリケーションの現在の組織を選択するために使用します。[デスクトップ]、[データ入力]、[仕訳帳]、[連結]、[データベース]、[組織] の各ウィンドウを開くたびに、この組織の情報にアクセスします。

### 組織

組織ラベルを入力するか、リストから選択します。

## [データの視点] ダイアログボックスのオプション: [エンティティ] タブ

アプリケーションの現在のエンティティを選択するために使用します。[デスクトップ]、[データ入力]、[仕訳帳]、[連結]、[データベース]、[組織] の各ウィンドウを開くたびに、このエンティティの情報にアクセスします。

### エンティティ

エンティティのラベルを入力するか、リストから選択します。

### 親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ

[エンティティ] コンボボックスに親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティを含めるために選択します。

## 【データの視点】 ダイアログボックスのオプション：【勘定科目】 タブ

アプリケーションの現在の勘定科目を選択するために使用します。[デスクトップ] または [仕訳帳] ウィンドウを開くたびに、この勘定科目の情報にアクセスします。

### 勘定科目

勘定科目のラベルを入力するか、リストから選択します。

入力勘定	算出勘定	サブ勘定科目
連動表示勘定科目		

【勘定科目】 コンボボックスに入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目、または連動表示勘定を含める場合に選択します。

## 【データの視点】 ダイアログボックスのオプション：【データ入力表】 タブ

アプリケーションのデフォルトデータ入力表を選択するために使用します。デフォルトデータ入力表とは、[データ入力] ウィンドウにアクセスしたときに表示されるデータ入力表のことです。このタブは、デスクトップから【データの視点】 ダイアログボックスにアクセスした場合にしか表示されません。

### データ入力表

入力表ラベルを入力するか、リストから選択します。

## 【データの視点】 ダイアログボックスのオプション：【親】 タブ

エンティティのデフォルトの親を表示するために使用します。

## 【データの視点】 ダイアログボックスのオプション：【連結詳細】 タブ

エンティティおよびその子の換算、比率、消去、親の調整、および調整後の値を表示するために使用します。表示する値を選択します。

なし	換算値	比率値
消去値	親の調整値	調整後の値

- 現在のエンティティの連結詳細の値を表示しない場合は、[なし] を選択します。通常のデータが表示されます。

- 現在のエンティティと選択された親の換算値を表示するには、[換算値] を選択します。
- 現在のエンティティと選択された親の比率を表示するには、[比率] を選択します。
- 現在のエンティティと選択された親の消去値を表示するには、[消去値] を選択します。
- 現在のエンティティと選択された親の調整値を表示するには、[親の調整値] を選択します。
- 現在のエンティティと選択された親の調整後の値を表示するには、[調整後の値] を選択します。

## 【フォント】ダイアログボックスのオプション

フォントのサイズとスタイルを変更するために使用します。

### フォント

フォントを入力するか、リストから選択します。[サンプル] ボックスには、選択したフォントのテキストが表示されます。

### スタイル

スタイルを入力するか、リストから選択します。[サンプル] ボックスには、選択したスタイルのテキストが表示されます。

### サイズ

サイズを入力するか、リストから選択します。[サンプル] ボックスには、選択したサイズのテキストが表示されます。

### サンプル

選択したフォント、スタイル、サイズのテキストを表示します。

## 【勘定科目の検索】ダイアログボックスのオプション

勘定科目を検索するために使用します。

### 勘定科目

勘定科目のラベルを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

入力勘定	算出勘定	サブ勘定科目
連動表示勘定科目		

〔勘定科目〕 リストに表示する勘定科目をフィルタする場合に選択します。入力勘定、算出勘定、サブ勘定科目、連動表示勘定、またはこれらのオプションの任意の組み合わせを選択できます。

#### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致する勘定科目を検索する場合に選択します。

## 〔勘定グループの検索〕 ダイアログボックスのオプション

勘定グループを検索するために使用します。

#### 勘定グループ

勘定グループのラベルを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の勘定グループをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の勘定グループをリスト内で検索する場合に選択します。

#### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致する勘定グループを検索する場合に選択します。

## 〔エンティティの検索〕 ダイアログボックスのオプション

エンティティを検索するために使用します。

#### エンティティ

エンティティのラベルを入力するか、リストから選択します。

親	最下位エンティティ	サブエンティティ
親が未定義		

〔エンティティ〕 リストに表示されるエンティティをフィルタするために選択します。親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ、または親が未定義のエンティティ、あるいはこれらのオプションの任意の組み合わせを含めることができます。

<<

指定した条件を満たす前のエンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のエンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

#### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致するエンティティを検索する場合に選択します。

## 【エンティティの選択】 ダイアログボックスのオプション

エンティティを選択するために使います。

### 【エンティティ】 コンボボックス

エンティティのラベルを入力するか、リストから選択します。

#### << ボタン

指定した条件を満たす前のエンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

#### >> ボタン

指定した条件を満たす次のエンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

親	最下位エンティティ	サブエンティティ
親が未定義		

【エンティティ】 リストに表示されるエンティティをフィルタするために選択します。親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ、親が未定義のエンティティ、またはこれらのオプションの任意の組み合わせを含めることができます。

## 【期間の検索】 ダイアログボックスのオプション

期間を検索するために使用します。

### 期間

期間を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の期間をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の期間をリスト内で検索する場合に選択します。

#### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致するデータ種別を検索する場合に選択します。

## [連結の詳細] ダイアログボックスのオプション

エンティティおよびその子の換算、比率、消去、親の調整、および調整後の値を表示するために使用します。

### 親

値を表示する親エンティティを選択します。

現在のエンティティの値	換算値	比率値
消去値	親の調整値	調整後の値

[データベース] ウィンドウまたは [データ入力] ウィンドウに表示する値を選択します。

- 現在のエンティティの値を表示するには、[現在のエンティティの値] を選択します。
- 現在のエンティティと選択された親の換算値を表示するには、[換算値] を選択します。
- 現在のエンティティと選択された親の比率を表示するには、[比率] を選択します。
- 現在のエンティティと選択された親の消去値を表示するには、[消去値] を選択します。
- 現在のエンティティと選択された親の調整値を表示するには、[親の調整値] を選択します。
- 現在のエンティティと選択された親の調整後の値を表示するには、[調整後の値] を選択します。

## [勘定グループの表示] ダイアログボックスのオプション

1 つの勘定グループ内の勘定科目だけを表示するために使用します。

### 勘定グループ

勘定グループのラベルを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の勘定グループをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の勘定グループをリスト内で検索する場合に選択します。

## [チェック済サブ勘定科目] ダイアログボックスのオプション

チェック済のサブ勘定科目をデータ入力表やデータベースに追加するために使用します。これで、データ入力表やデータベースにデータを入力できるようになります。

### サブ勘定科目

サブ勘定科目ラベルを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のサブ勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のサブ勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

## アプリケーションのウィンドウとダイアログボックス

### [アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスのオプション

個々のアプリケーションに関して設定変更を定義するために使用します。

#### ユーザーパス

[設定変更] および [データの視点] ダイアログボックスで指定した情報がアプリケーションによって保存されるディレクトリのパスを入力します。このオプションは、各アプリケーションごとに変更します。詳しくは、[293 ページの「\[データの視点\] ダイアログボックスのオプション」](#)を参照してください。

#### デフォルトセキュリティクラス

アプリケーションで作成する要素にシステムが割り当てるセキュリティクラスを選択します。このデフォルトは、アプリケーション要素の作成時に上書きできます。このオプションは、各アプリケーションごとに変更します。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「セキュリティクラス」を参照してください。

#### パスワード

アプリケーションに使用するパスワードを 8 文字以内で入力します。パスワードでは大文字と小文字は区別されないため、大文字と小文字を任意に組み合わせて入力できます。

# [アプリケーション] ウィンドウのオプション

アプリケーション全体に影響するオプションを選択するために使用します。

## アプリケーション

現在のアプリケーションの ID と説明を表示します。

### 302 ページの「[アプリケーション] ウィンドウのオプション：[換算] タブ」

アプリケーション基本通貨、デフォルトの換算レート勘定科目、アプリケーションのデータを換算するロジックを選択するために使用します。

### 302 ページの「[アプリケーション] ウィンドウのオプション：[連結ロジック] タブ」

Hyperion Enterprise で最終支配比率に基づいてエンティティに指定する連結ロジックと連結比率を選択するために使用します。このタブを使用するには、[305 ページの「\[新規アプリケーション\] ダイアログボックスのオプション」](#)で「期間およびデータ種別ごとの親子関係」を選択する必要があります。

## [オプション] タブ

保護勘定科目の選択と、アプリケーションに対してオペレーティングシステムの数値フォーマットを上書きするかどうかを選択するために使用します。また、仕訳帳の承認済みステータスを使用するかどうか、仕訳帳を転記、再転記、または編集するときに計算式を実行するかどうかを選択できます。イベントとエラーのログオプションを設定することもできます。

## [アプリケーションサーバー] タブ

[Application Server Options (アプリケーションサーバーオプション)] を選択し [Application Server ID (アプリケーションサーバー ID)] を選択するために使用します。このオプションにより、指定されたユーザがサーバベースのタスクをローカルで実行できます。

## [ユーザー] タブ

アプリケーションにログオンしているユーザを手動または自動で追跡したり、ユーザが実行しているタスクを識別したりするために使用します。また、アプリケーションがデータクライアントモードの場合は即時メッセージを送信できます。

即時メッセージは、システムの保守やアプリケーションのバックアップ時など、すべてのユーザがアプリケーションからログオフする必要がある場合に送信します。また、システムで特定のタスクを実行しているユーザを選択して即時メッセージを送信することもできます。

**注：** この機能を使用するには、セキュリティで即時メッセージを送信するためのタスクに対する「変更」、「表示」、または「制限」の権限が必要です。ユーザはすべて、割り当てられた権限にかかわらずメッセージを受信することができます。

## [アプリケーション] ウィンドウのオプション: [換算] タブ

アプリケーション内の通貨換算のデフォルトを設定するために使用します。

### アプリケーション基本通貨

アプリケーションのデフォルトの通貨を選択します。ほとんどのアプリケーションでは、アプリケーション基本通貨は本社のレポート通貨です。アプリケーション基本通貨を選択するには、通貨が少なくとも1つ定義されている必要があります。

デフォルト	通貨表の最初の通貨
-------	-----------

### レート

通貨換算時に収益勘定科目、費用勘定科目、およびフロー勘定科目、または資産勘定科目、負債勘定科目、および残高勘定科目に適用するデフォルトの通貨レートを選択します。デフォルトの通貨レートを選択するには、レート勘定科目が少なくとも1つ存在する必要があります。

### 期別値、累積値

収益勘定科目、費用勘定科目、およびフロー勘定科目、または資産勘定科目、負債勘定科目、および残高勘定科目に適用するデフォルトのロジックを選択します。

- 現在の値と前の期間のローカル値の差異を算出し、現在の期間の為替レートを使用して差異を換算する場合は、[期別値]を選択します。求められた値は、前の期間の換算値に加算されます。
- 指定したレートを使用してローカルの期間残高を換算するには、[累積値]を選択します。前の期間の換算値は加算されません。

デフォルト	期別値
-------	-----

## [アプリケーション] ウィンドウのオプション: [連結ロジック] タブ

アプリケーションでの連結のデフォルトを設定するために使用します。

### 支配比率範囲下限、支配比率範囲上限

[使用するロジック] 列で指定するロジックの提案に必要な支配比率範囲を入力します。[支配比率範囲下限] 列には、システムによって値が入力されます。

[支配比率範囲上限] 列に値を入力すると、新しい行が作成されます。

最後の支配比率範囲の行の後には、連結ロジックと連結比率のみを示す行を入力できます。

有効値	0.000000 ~ 100.000000 小なり記号 (<)
-----	------------------------------------

デフォルト	支配比率範囲下限 : 0.000000
	支配比率範囲上限 : 100.000000

### 使用するロジック

最初の 2 列で指定した範囲内に最終支配比率があるエンティティに使用する連結ロジックを入力します。

### 使用する連結比率

前の列で指定した連結ロジックを使用するエンティティの連結比率を入力します。

有効値	0 ~ 100
	%OWN
	%OWNMIN
デフォルト	%OWN

%OWN と入力した場合は、最終出資比率と等しい連結比率が指定されます。  
 %OWNMIN と入力した場合は、少数株主を含む連結比率が指定されます。  
 %OWNMIN の計算は、一般に資本ロジックまたは比率ロジックを使用して連結された会社で使用されます。

### 持株会社ロジック

持株会社として指定されたエンティティの連結ロジックを選択します。持株会社の指定については、[330 ページの「\[組織\] ウィンドウのオプション : \[詳細設定オプション\] タブ」](#)の項目を参照してください。

## [アプリケーションを開く] ダイアログボックスのオプション

アプリケーションを開いたり、アプリケーション一覧にアプリケーションを追加するか、一覧からアプリケーションを除去するために使用します。

### アプリケーション

開くアプリケーションを選択します。

### 追加

アプリケーションを一覧に追加する場合に選択します。[304 ページの「\[アプリケーションドライバ\] ダイアログボックスのオプション」](#)を使用して、アプリケーションがファイルサーバに保存されているか、データベースサーバに保存されているかを選択します。次に、ファイルベースのアプリケーションに対してサーバが必要とする情報を[304 ページの「ファイルベースアプリケーション用の \[アプリケーションの追加\] ダイアログボックスのオプション」](#)で指定します。

**注：** [アプリケーションを開く] ダイアログボックスに追加するアプリケーションは、Windows ディレクトリの HYPENT.INI ファイルにも追加されます。

HYPENT.INI ファイルについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「ファイル書式」の章を参照してください。

## 除去

アプリケーションを一覧から除去する場合に選択します。

**注：** [アプリケーションを開く] ダイアログボックスから除去するアプリケーションは、Windows ディレクトリの HYPENT.INI ファイルからも除去されます。但し、アプリケーションのファイルやデータベーステーブルはそのまま残ります。HYPENT.INI ファイルについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「ファイル書式」の章を参照してください。

## [パスワード] ダイアログボックスのオプション

アプリケーションにアクセスするために使用します。

### ユーザー名

選択したアプリケーション用のユーザー名を入力します。

### パスワード

選択したアプリケーション用のパスワードを入力します。

デフォルト	<空白>
-------	------

## [アプリケーションドライバ] ダイアログボックスのオプション

アプリケーションがファイルサーバに保存されているか、データベースサーバに保存されているかを指定するために使用します。

追加するアプリケーションの種別の選択

追加するアプリケーションの保存方法を選択します。選択する保存方法によって、アプリケーションを追加するときに指定するオプションが決まります。アプリケーションがファイルサーバまたはスタンドアロンコンピュータに保存されている場合は、[ファイルベースアプリケーション] を選択します。

デフォルト	ファイルベースアプリケーション
-------	-----------------

## ファイルベースアプリケーション用の [アプリケーションの追加] ダイアログボックスのオプション

[アプリケーションを開く] ダイアログボックスのリストに、アプリケーションを追加するために使用します。

## アプリケーション

現在のディレクトリ内のすべてのアプリケーションの ID と説明を表示します。

## ディレクトリ

アプリケーションが保存されているディレクトリを選択します。

## ドライブ

アプリケーションが保存されているディスクドライブを選択します。

## ネットワーク

[ドライブ] ドロップダウンリストにネットワーク接続を追加する場合に選択します。

# [新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション

新規アプリケーションを作成するために使用します。アプリケーションは 4 つのセットのオプションを使用して作成されます。

## 306 ページの「[新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：[設定] タブ」

ID、説明、データベースドライバ、および暦年を指定するために使用します。

**注：** アプリケーションの初期設定後は、[設定] タブでは [説明] オプションのみを変更できます。

## [ドライバの設定] タブ

アプリケーションが保存されている場所を指定するために使用します。このタブで使用可能なオプションは、[設定] タブで選択するドライバによって異なります。[ドライバの設定] タブについては、[307 ページの「\[新規アプリケーション\] ダイアログボックスのオプション：ファイルベースアプリケーション用の \[ドライバの設定\] タブ」](#)を参照してください。

**注：** [ドライバの設定] タブを使用するには、[設定] タブのオプションをすべて選択する必要があります。アプリケーションの初期設定後は、このウィンドウに含まれるアプリケーションパスは変更できません。

## 309 ページの「[新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：[設定オプション] タブ」

組織の変更を期間とデータ種別ごとに追跡する、データを期別で連結する、株の所有を株数または比率で入力する、連結の詳細を保存する、親の調整を可能にする、Statutory Consolidation Engine を使用する、サブ勘定科目の記号を共用する、子のレート勘定科目を使用する、今後のデータ種別に影響させる、仕訳帳に自動的に番号を付けるなど、各オプションを選択するために使用します。このタブを

使用するには、[設定] タブのオプションをすべて選択する必要があります。アプリケーションの初期設定後は、これらのオプションを表示できますが、変更することはできません。

310 ページの「[新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：[詳細設定オプション] タブ」

アプリケーションのサイズを指定し、アプリケーションに必要なメモリの使用量と記憶領域を最適化するために使用します。

<< 戻る

前のオプションのセットに戻る場合に選択します。

次へ >>

次のオプションのセットに移動する場合に選択します。

[新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：[設定] タブ

アプリケーションの保存方法と基本カレンダーを指定するために使用します。

アプリケーション

新規アプリケーションの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。この ID の最初の 8 文字は、会社で使用する Hyperion Enterprise アプリケーション内で一意である必要があります。システムは、アプリケーション ID の最初の 8 文字に従って、各ユーザのアプリケーションの設定変更を各ユーザの HYPENT.INI ファイルに記録します。アプリケーション ID の最初の 8 文字が複数のアプリケーションで同じ場合、システムは現在のアプリケーションにどの設定変更を使用するかを判断できません。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	--------------------------------

**注：** アプリケーションのセットアップを開始すると、アプリケーション ID を変更できなくなります。詳しくは、311 ページの「[アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション」を参照してください。

HYPENT.INI ファイルについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「ファイル書式」の章を参照してください。

説明

新しいアプリケーションの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## ドライバ

アプリケーションのデータベースドライバを選択します。アプリケーションの初期設定後にドライバを変更することはできません。

デフォルト	ファイルベースアプリケーション
-------	-----------------

## 抽出ファイルの変換

Enterprise 変換ユーティリティの実行後に作成される抽出ファイルを選択します。

## アプリケーションカレンダー

アプリケーションの会計年度の開始月を選択します。

デフォルト	LOAD.PER（カレンダーが1月1日に開始するように設定します。）
-------	------------------------------------

**注：** アプリケーションの初期設定後は、アプリケーションカレンダーを変更できません。

## エラーログオプション

現在のセッションのエラーログを前のセクションのエラーログに追加するか、Hyperion Enterprise を終了するたびにエラーログを消去するかを選択します。

デフォルト	過去の記録に追加
-------	----------

## 参照

変換された抽出ファイルがあるサーバ上のディレクトリを検索する場合に選択します。このオプションを選択すると、[310 ページの「\[パス\] ダイアログボックスのオプション」](#)が開きます。このダイアログボックスで [OK] をクリックすると、そのディレクトリへのパスが、カーソルが置かれている編集ボックスに入力されます。

# [新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：ファイルベースアプリケーション用の [ドライバの設定] タブ

アプリケーション内のデータのディレクトリを指定するために使用します。

## ドライバ

選択したデータベースドライバを表示します。

## アプリケーションパス

アプリケーションファイルのフルパスを入力します。Hyperion Enterprise アプリケーションをすでに含んでいるディレクトリにアプリケーションを作成することはできません。アプリケーションの初期設定後は、アプリケーションパスを変更できません。

アプリケーションパスを入力するときは、レポート、データ、インボックス、およびアウトボックス用のパスとして、システムが生成したパスを使用できます。

デフォルト	場所 : Hyperion Enterprise のプログラムファイルが保存されているディレクトリのサブディレクトリ
-------	--

### レポート上のパス

アプリケーションの作成レポート／パッケージのパスを入力するか、デフォルトのパスをそのまま使用します。

デフォルト	@APP\REPORT (@APP はアプリケーションパス)
-------	-----------------------------------

**注：** このディレクトリにはレポートスクリプトと仕様、およびファイルに保存される出力レポートが含まれます。

### データパス

アプリケーションのデータファイルのパスを入力するか、デフォルトのパスをそのまま使用します。

デフォルト	@APP\DATA (@APP はアプリケーションパス)
-------	---------------------------------

**注：** このデータパスは、データ種別のデータパスのデフォルトパスとして使用されます。データ種別のデータパスについては、[257 ページの「\[データ種別\] ウィンドウのオプション」](#)を参照してください。

### インボックスパス

アプリケーションに読み込まれるデータファイルのパスを入力するか、デフォルトのパスをそのまま使用します。

デフォルト	@APP\INBOX (@APP はアプリケーションパス)
-------	----------------------------------

### アウトボックスパス

アプリケーションから抽出されるデータファイルのパスを入力するか、デフォルトのパスをそのまま使用します。

デフォルト	@APP\OUTBOX (@APP はアプリケーションパス)
-------	-----------------------------------

### 参照

アプリケーションをインストールするサーバ上のディレクトリを検索するために使用します。このオプションを選択すると、[310 ページの「\[パス\] ダイアログ](#)

[ボックスのオプション](#)」が開きます。このダイアログボックスで [OK] をクリックすると、そのディレクトリへのパスが、カーソルが置かれている編集ボックスに入力されます。

**注：** このオプションを使用するには、カーソルが編集ボックス内に置かれている必要があります。

## 【新規アプリケーション】ダイアログボックスのオプション：【設定オプション】タブ

システムがアプリケーションの構造を構築するときに使う設定を指定するために使用します。アプリケーションの初期設定後、[311 ページの「\[アプリケーション属性\] ダイアログボックスのオプション」](#)にこれらのオプションを表示できますが、変更はできません。

### 期間およびデータ種別ごとの親子関係

組織の変更を期間とデータ種別ごとに追跡する場合に選択します。このオプションを選択した場合は、アプリケーション内の期間とデータ種別ごとに組織を作成する必要があります。このオプションが選択されていない場合は、[組織] ウィンドウで設定した組織がすべての期間とデータ種別で同じになります。

### 期別連結

データを期別で連結する場合に選択します。このオプションを選択しなかった場合は、データはデータ種別累計で連結されます。

**注：** Hyperion Enterprise の旧バージョンでは、期別連結のみが使用されます。

### 単位、比率

[325 ページの「エンティティのウィンドウとダイアログボックス」](#)で、エンティティ間の直接的な出資比率を、各エンティティが所有する株数で入力するか、各エンティティが所有する比率で入力するかを選択します。エンティティの出資比率の入力方法については、「エンティティの定義」を参照してください。

デフォルト	単位
-------	----

### 換算の詳細

通貨が異なる親に連結されるすべてのエンティティの換算の詳細を保存する場合に選択します。

### 比率と消去の詳細

連結処理時に、エンティティの比率と消去の詳細を保存する場合に選択します。このオプションを選択した場合は、任意の親の比率と消去の詳細を保存できます。

### 親の調整の許可

仕訳帳を使用して子が親会社のデータを調整できるようにする場合に選択します。

## Statutory Consolidation Engine の使用

アプリケーションが連結に Statutory Consolidation Engine (SCE) を使用する場合には選択します。

### 共用記号

ID が同じすべてのサブ勘定科目に同じ内部 ID を使用する場合には選択します。このオプションを使用しない場合は、すべてのサブ勘定科目表のサブ勘定科目の入力項目ごとに一意の内部 ID が作成されます。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「表内のサブ勘定科目の定義」および「後で変更できないアプリケーション設定」を参照してください。

**注：** Hyperion Enterprise の旧バージョンでは、サブ勘定科目の共用記号は使用されません。

### 子のレート勘定科目を使用

グローバル勘定グループ内の勘定科目以外のレート勘定科目を換算に指定する場合に選択します。

### 将来のデータ種別に影響させる

現在のデータ種別の変更に基づいて、今後のデータ種別の期間に影響させる場合に選択します。このオプションを使用するには、前期のデータ種別を設定する必要があります。

### 仕訳帳に自動的に番号を付ける

仕訳帳に順番に番号を付ける場合に選択します。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「後で変更できないアプリケーション設定」を参照してください。仕訳帳の自動番号付けの設定については、[257 ページの「\[データ種別\] ウィンドウのオプション」](#)を参照してください。

## [新規アプリケーション] ダイアログボックスのオプション：[詳細設定オプション] タブ

アプリケーションの初期読み込み処理を最適化するために使用します。これらのオプションは、アプリケーションの初期読み込みを行った後はアプリケーションに対して影響しません。

アプリケーションに含む勘定科目、エンティティ、データ種別、およびレポートの数を入力します。

デフォルト	0
-------	---

## [パス] ダイアログボックスのオプション

アプリケーションパス、レポート上のパス、データパス、インボックスパス、またはアウトボックスパスに既存のディレクトリを選択するために使用します。

## ディレクトリ

アプリケーションが保存されているディレクトリを選択します。

## ドライブ

アプリケーションが保存されているドライブを選択します。

## ネットワーク

ネットワークの接続を [ドライブ] ドロップダウンリストに追加します。

# [アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション

後で変更できないアプリケーション設定を表示するために使用します。

## 312 ページの「[アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション：[設定オプション] タブ」

アプリケーションの ID、説明、データベースドライバ、暦年、およびエラーログオプションを表示します。アプリケーションの初期設定後は、説明 ID のみを変更できます。

## [ドライバの設定] タブ

アプリケーションが保存されている場所を表示します。このタブのオプションは、[設定] タブに表示されているドライバによって異なります。[ドライバの設定] タブは、313 ページの「[アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション：ファイルベースアプリケーション用の [ドライバの設定] タブ」に対して存在します。

**注：** アプリケーションの初期設定後は、この画面に含まれているアプリケーションパスを変更できなくなります。

## 312 ページの「[アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション：[設定オプション] タブ」

アプリケーションが組織の変更を期間とデータ種別ごとに追跡するか、データを期別で連結するか、株の所有率を株数または比率のどちらで入力するか、連結の詳細を保存するか、親の調整を認めるか、Statutory Consolidation Engine を使用するか、サブ勘定科目の記号を共用するか、子のレート勘定科目を使用するか、仕訳帳に自動的に番号を付けるか、またはデータの変更が今後のデータ種別に影響するかどうかを示します。アプリケーションの初期設定後は、これらのオプションを変更できません。

## 314 ページの「[アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション：[詳細設定オプション] タブ」

アプリケーションの推定サイズを表示します。このサイズによって、アプリケーションの初期読み込みに割り当てられるメモリと記憶領域が決まります。

## [アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション: [設定オプション] タブ

システムがアプリケーションの構造を構築する際に使った設定を表示するために使用します。アプリケーションの初期設定後は、これらのオプションを表示することしかできません。

### 期間およびデータ種別ごとの親子関係

アプリケーションが組織の変更を期間とデータ種別ごとに追跡するかどうかを示します。このオプションが選択されている場合は、アプリケーション内の期間とデータ種別ごとに独自の組織が存在します。このオプションが選択されていない場合は、[組織] ウィンドウで設定した組織がすべての期間とデータ種別に対して同じになります。

### 期別連結

データが期別で連結されるかどうかを示します。このオプションが選択されていない場合は、データはデータ種別累計で連結されます。

### 単位、比率

[組織] ウィンドウの [株式] タブでエンティティ間の直接的な出資比率を各エンティティが所有する株数で入力するか、各エンティティが所有する比率で入力するかを示します。エンティティの出資比率の入力方法については、「エンティティの定義」を参照してください。

### 換算の詳細

異なる通貨を持つ親に連結されるすべてのエンティティの換算の詳細がアプリケーションで保存されるかどうかを示します。

### 比率と消去の詳細

連結処理時にエンティティの比率と消去の詳細がアプリケーションで保存されるかどうかを示します。

### 親の調整の許可

仕訳帳を使用して子が親会社のデータを調整できるかどうかを示します。

### Statutory Consolidation Engine の使用

アプリケーションが連結に Statutory Consolidation Engine (SCE) を使用するかどうかを表示します。

### 共用記号

ID が同じすべてのサブ勘定科目に同じ内部 ID が使用されるかどうかを示します。このオプションが選択されていない場合は、同じサブ勘定科目 ID があるかどうかにかかわらず、サブ勘定科目表のサブ勘定科目ごとに一意の内部 ID が使用されます。このオプションを選択した場合、アプリケーション内でサブ勘定科目の ID が別のサブ勘定科目と同じであると、同じ内部 ID が使用されます。詳しくは、この章の「表内のサブ勘定科目の定義」を参照してください。

## 子のレート勘定科目を使用

グローバル勘定グループ内の勘定科目以外のレート勘定科目を換算に指定できるかどうかを示します。

## 将来のデータ種別に影響させる

現在のデータ種別の変更に基づいて、今後のデータ種別の期間が影響を受けるかどうかを示します。このオプションを使用するには、前期のデータ種別を設定する必要があります。

## 仕訳帳に自動的に番号を付ける

仕訳帳に順番に番号が付けられるかどうかを示します。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「後で変更できないアプリケーション設定」を参照してください。仕訳帳の番号付けの設定については、[257 ページの「\[データ種別\] ウィンドウのオプション」](#)を参照してください。

# [アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション：ファイルベースアプリケーション用の [ドライバの設定] タブ

アプリケーションのデータのディレクトリを表示するために使用します。

## ドライバ

データベースドライバ名を表示します。

## アプリケーションパス

アプリケーションファイルのフルパスを表示します。アプリケーションの初期設定後は、アプリケーションパスを表示することしかできません。

レポート上のパス

作成レポート／パッケージ用の新しいパスを表示します。

デフォルトパス	@APP\REPORT (@APP はアプリケーションパス)
---------	-----------------------------------

**注：** このディレクトリにはレポートスクリプトと仕様、およびファイルに保存される出力レポートが含まれます。

## データパス

データファイルのパスを表示します。

デフォルト	@APP\DATA (@APP はアプリケーションパス)
-------	---------------------------------

**注：** このデータパスは、データ種別のデータパスのデフォルトパスとして使用されます。データ種別のデータパスについては、[257 ページの「\[データ種別\] ウィンドウのオプション」](#)を参照してください。

### インボックスパス

アプリケーションに読み込まれるデータファイルのパスを表示します。

デフォルト	@APP\INBOX (@APP はアプリケーションパス)
-------	----------------------------------

### アウトボックスパス

アプリケーションから抽出されるデータファイルのパスを表示します。

デフォルト	@APP\OUTBOX (@APP はアプリケーションパス)
-------	-----------------------------------

### 参照

アプリケーションをインストールするサーバ上のディレクトリを検索するために使用します。このオプションを選択すると、[310 ページの「\[パス\] ダイアログボックスのオプション」](#)が開きます。このダイアログボックスで [OK] をクリックすると、そのディレクトリへのパスが、カーソルが置かれている編集ボックスに入力されます。

**注：** このオプションを使用するには、カーソルが編集ボックス内に置かれている必要があります。

## [アプリケーション属性] ダイアログボックスのオプション：[詳細設定オプション] タブ

アプリケーションの構築にシステムで使用された勘定科目、エンティティ、データ種別、およびレポートの推定数を表示するために使用します。アプリケーションの初期設定後は、これらのオプションはアプリケーションに影響しません。

ここでは、アプリケーションの作成時に含めた勘定科目、エンティティ、データ種別およびレポートの数を示します。

## [アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション

ASCII テキストファイルの定義からアプリケーション要素を作成するために使用します。

### 315 ページの「[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション : [ファイル] タブ」

[エンティティ] タブ、[勘定科目] タブ、および [オプション] タブで指定するアプリケーション要素の定義を含むファイルを指定するために使用します。

### 315 ページの「[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション : [エンティティ] タブ」、316 ページの「[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション : [勘定科目] タブ」

[ファイル] タブで指定したファイルから読み込むエンティティセクションと勘定科目セクションを指定するために使用します。

### 316 ページの「[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション : [オプション] タブ」

[ファイル] タブで指定したファイルから読み込むレポートセクション、計算式セクション、データ種別セクション、およびその他のセクションを指定するために使用します。

## [アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション : [ファイル] タブ

アプリケーション要素を含む ASCII テキストファイルを選択するために使用します。

### ファイル名

アプリケーションの読み込みファイルのファイル名を入力するか、[参照] を選択してファイルを検索します。

### 区切り文字

テキストファイルで使用する区切り文字を入力します。

デフォルト	感嘆符 (!)
-------	---------

### アプリケーション全体の読込

選択されたファイルにあるアプリケーション要素をすべて現在のアプリケーションに読み込む場合に選択します。

### サーバー上で実行

サーバーで処理するアプリケーション要素の読み込みを選択します。

## [アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション : [エンティティ] タブ

ASCII テキストファイルからアプリケーションに読み込むエンティティ要素を選択するために使用します。

組織	エンティティ	エンティティ一覧
エンティティ変換	サブエンティティ	エンティティの親子関係
下位構造	通貨	エンティティコード
会社間の子		

315 ページの「[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション：[ファイル] タブ」で指定したテキストファイルから現在のアプリケーションに読み込むエンティティ要素を選択します。

### すべてセット

このタブのすべてのオプションを選択する場合に選べます。

### すべてクリア

このタブのすべてのオプションをクリアする場合に選べます。このオプションを選択した場合は、読み込むオプションを個別に選択する必要があります。

## [アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション：[勘定科目] タブ

ASCII テキストファイルからアプリケーションに読み込む勘定科目要素を選択するために使用します。

勘定科目	勘定科目一覧	サブ勘定科目
勘定科目変換	会社間	

315 ページの「[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション：[ファイル] タブ」で指定したテキストファイルから現在のアプリケーションに読み込む勘定科目要素を選択します。

### すべてセット

このタブのすべてのオプションを選択する場合に選べます。

### すべてクリア

このタブのすべてのオプションをクリアする場合に選べます。このオプションを選択した場合は、読み込むオプションを個別に選択する必要があります。

## [アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション：[オプション] タブ

ASCII テキストファイルから読み込む、レポートやロジックなどのアプリケーション要素を選択するために使用します。

レポート	パッケージ	データ種別
------	-------	-------

期別替	ロジック	カスタム関数
更新ルール	コード	書式
データ入力表	連結ロジック表	アプリケーションオプション

315 ページの「[アプリケーションの読込] ダイアログボックスのオプション : [ファイル] タブ」で指定したテキストファイルから現在のアプリケーションに読み込むその他のアプリケーション要素を選択します。

### すべてセット

このタブのすべてのオプションを選択する場合に選びます。

### すべてクリア

このタブのすべてのオプションをクリアする場合に選びます。このオプションを選択した場合は、読み込むオプションを個別に選択する必要があります。

## [アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション

アプリケーション要素の定義を ASCII テキストファイルにコピーするために使用します。

317 ページの「[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション : [ファイル] タブ」

ASCII テキストファイルをコピーするアプリケーション要素を指定するために使用します。

318 ページの「[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション : [エンティティ] タブ」、318 ページの「[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション : [勘定科目] タブ」

[ファイル] タブで指定したアプリケーション抽出ファイルにコピーするエンティティセクションと勘定科目セクションを指定するために使用します。

319 ページの「[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション : [オプション] タブ」

[ファイル] タブで指定したファイルにコピーするレポートセクション、計算式セクション、データ種別セクション、およびその他のセクションを指定するために使用します。

## [アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション : [ファイル] タブ

アプリケーション要素の定義のコピー先となる ASCII テキストファイルを指定するために使用します。

## ファイル名

アプリケーションの抽出ファイルのファイル名を入力するか、[参照] を選択してファイルを検索します。

## 区切り文字

テキストファイルの区切り文字を入力します。

デフォルト	感嘆符 (!)
-------	---------

## アプリケーション全体の抽出

すべてのアプリケーション要素をテキストファイルに抽出する場合に選択します。

## サーバー上で実行

サーバーで処理するアプリケーション要素の読み込みを選択します。

# [アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション: [エンティティ] タブ

ASCII テキストファイルにコピーするエンティティ要素を選択するために使用します。

組織	エンティティ	エンティティ一覧
エンティティ変換	サブエンティティ	エンティティの親子関係
下位構造	通貨	エンティティコード
会社間の子		

現在のアプリケーションから [317 ページ](#)の「[\[アプリケーションの抽出\] ダイアログボックスのオプション: \[ファイル\] タブ](#)」で指定したテキストファイルに抽出するエンティティ要素を選択します。

## すべてセット

このタブのすべてのオプションを選択する場合に選びます。

## すべてクリア

このタブのすべてのオプションをクリアする場合に選びます。このオプションを選択した場合は、読み込むオプションを個別に選択する必要があります。

# [アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション: [勘定科目] タブ

ASCII テキストファイルにコピーする勘定科目要素を選択するために使用します。

勘定科目	勘定科目一覧	サブ勘定科目
------	--------	--------

317 ページの「[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション: [ファイル] タブ」で指定したテキストファイルに抽出する 1 つまたは複数の勘定科目要素を選択します。

#### すべてセット

このタブのすべてのオプションを選択する場合に選びます。

#### すべてクリア

このタブのすべてのオプションをクリアする場合に選びます。このオプションを選択した場合は、読み込むオプションを個別に選択する必要があります。

## [アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション: [オプション] タブ

ASCII テキストファイルにコピーする、レポートやロジックなどのアプリケーション要素を選択するために使用します。

レポート	パッケージ	データ種別
期別替	ロジック	カスタム関数
更新ルール	コード	書式
データ入力表	連結ロジック表	アプリケーションオプション

現在のアプリケーションから 317 ページの「[アプリケーションの抽出] ダイアログボックスのオプション: [ファイル] タブ」で指定したテキストファイルに抽出するその他の要素を選択します。

#### すべてセット

このタブのすべてのオプションを選択する場合に選びます。

#### すべてクリア

このタブのすべてのオプションをクリアする場合に選びます。このオプションを選択した場合は、読み込むオプションを個別に選択する必要があります。

## [ページ書式と設定の読込] ダイアログボックスのオプション

読み込むページ書式と設定の情報を含むファイルを選択するために使用します。

#### ファイル名

読み込みファイルのファイル名を入力するか、[参照] を選択してファイルを検索します。

## [ページ書式と設定の抽出] ダイアログボックスのオプション

抽出するページ書式と設定の情報を含むファイルを選択するために使用します。

### ファイル名

読み込みファイルのファイル名を入力するか、[参照] を選択してファイルを検索します。

## [アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション

システムで連結、データ読み込み、データ入力、仕訳帳入力などのタスクを行っているときに使用してアプリケーションをバックアップします。

### [Backup Profiles (バックアッププロファイル)] タブ

バックアッププロファイルの作成、アプリケーションの選択、バックアップアーカイブの選択、有効な NT パスワードの設定、即時メッセージングサービスの有効化を行うときに使用します。

### [ロジック] タブ

アプリケーション全体のバックアップロジックを選択したり、選択したアプリケーションにユーザ ID とパスワードを設定したりするときに使用します。

### [データ入力表] タブ

アプリケーションバックアップをスケジュールするときに使用します。

### [復元] タブ

アーカイブからバックアップされたアプリケーションを復元するときに使用します。

## [アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション: [Backup Profiles (バックアッププロファイル)] タブ

### プロファイル

ドロップダウンリストからバックアッププロファイルを選択するか、[新規プロファイル] をクリックしてプロファイルを作成します。

### 選択可能なアプリケーション

一覧からバックアップするアプリケーションを選択します。

## 選択済みアプリケーション

バックアップするために選択されたアプリケーションの一覧を表示します。

## アーカイブアプリケーションのバックアップ先

[参照] をクリックしてアーカイブ場所を選択します。

## Run as (実行者)

スケジュールしたバックアップを実行する Windows またはドメインで認証されたユーザ名を入力します。

## パスワードの設定

[Run as (実行者)] に指定されたユーザのパスワードを入力します。

## ログオン時にのみ実行

[Run as (実行者)] に指定されたユーザがコンピュータにログオンしたときにプロファイルを実行する場合のみ選択します。

## Enabled (Scheduled task runs at specified time) (有効 (指定された時刻にスケジュールされたタスクを実行))

スケジュールどおりにプロファイルを実行するときに選択します。

## Send a broadcast message every minute(s) starting minute(s) prior to running the profile (プロファイルを実行する何分前に即時メッセージを送信するか、およびメッセージを何分間隔で送信するかの指定)

Hyperion Enterprise または Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントのユーザに、アプリケーションバックアッププロセスが開始される前に即時メッセージを送信するときに選択します。バックアップの何分前に即時メッセージを送信するか、およびメッセージを何分間隔で送信するかを指定します。

# [アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション: [ロジック] タブ

## プロファイルアプリケーション

バックアッププロセスに使用するアプリケーションの一覧を表示します。

## 完全バックアップ

アプリケーション全体をバックアップするときに選択します。

## ユーザー ID

[プロファイルアプリケーション] で選択したアプリケーションのユーザ ID を入力します。

## パスワード

[プロファイルアプリケーション] で選択したアプリケーションのパスワードを入力します。

## [アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション: [スケジュール] タブ

### タスクのスケジュール設定

アプリケーションをバックアップする頻度を選択します。

### 開始時刻

バックアップの開始時刻を選択します。

### タスクのスケジュール設定(日間隔)

バックアップ頻度を日単位で設定するときに選択します。

### タスクのスケジュール設定(週間隔)

バックアップ頻度を週単位で設定するときに選択します。

月	木	土
火	金	日
水		

バックアッププロファイルを実行する曜日を選択します。

### タスクのスケジュール設定(月間隔)

バックアップ頻度を月単位で設定するときに選択します。

### Day (日)

バックアッププロファイルを実行する日を選択します。

1 月	4 月	7 月	10 月
2 月	5 月	8 月	11 月
3 月	6 月	9 月	12 月

バックアッププロファイルを実行する月を選択します。

### タスクのスケジュール設定(1 回のみ)

バックアッププロファイルを 1 回実行するときに選択します。

### 実行日

バックアッププロファイルを実行する日を選択します。

## 開始日

バックアップの開始日を選択します。

## 終了日

バックアップの終了日を選択します。

再実行する予定がないタスクを削除します。

バックアップ後にタスクを削除することを選択します。

Stop the task if it runs hour(s) and minute(s) (指定の時間を超えたらタスクを停止する)

バックアップが指定した時間を超えた場合にタスクを停止することを選択します。

# [アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックスのオプション: [復元] タブ

## アプリケーションバックアップのアーカイブ場所

アプリケーションバックアップのアーカイブ場所を表示します。

## 選択されたアプリケーションの復元

バックアップを復元するアプリケーションを選択します。

## 選択されたアプリケーションのバックアップのコピー先

復元するアプリケーションバックアップファイルを選択します。

## ユーザーが指定した場所に復元します

復元するアプリケーションバックアップファイルを選択します。[アプリケーション ID] を指定し、アプリケーションを格納できる場所を指定できます。

# [保護勘定科目の選択] ダイアログボックスのオプション

[データベース] ウィンドウで期間を保護する前に貸借一致する必要がある勘定科目を選択するために使用します。

## 勘定科目

勘定科目 ID を入力するか、リストから選択します。

入力勘定	算出勘定
連動表示勘定科目	

[勘定科目] コンボボックスに入力勘定科目、算出勘定科目、連動表示勘定科目を含めるために選択します。

<<

指定した条件を満たす前の勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

### **完全に一致するものを検索**

編集ボックスの値と完全に一致する勘定科目を検索する場合に選択します。

## **[アプリケーションのユーザレポート] ダイアログボックスのオプション**

アプリケーションのユーザレポートに表示する情報を選択するために使用します。

### **ユーザの説明**

ユーザの説明を表示する場合に選択します。

### **Windows のユーザ名**

ウィンドウを現在使用しているユーザの名前を表示する場合に選択します。

### **コンピュータ名**

コンピュータ名を表示する場合に選択します。

### **ログオンのタイムスタンプ**

ログオン時刻を表示する場合に選択します。

### **現在のモジュール**

現在使用中のモジュールを表示する場合に選択します。

### **モジュールのタイムスタンプ**

ユーザがモジュールを開始した時刻を表示する場合に選択します。

### **現在のタスク**

現在のタスクを表示する場合に選択します。

### **タスクのタイムスタンプ**

タスクが開始された時刻を表示する場合に選択します。

### **すべてセット**

このタブのすべてのオプションを選択する場合に選択します。

### **すべてクリア**

このタブのすべてのオプションを選択する場合に選択します。

## [ロジックの貼り付け] ダイアログボックスのオプション

[アプリケーション] ウィンドウの 302 ページの「[アプリケーション] ウィンドウのオプション: [連結ロジック] タブ」に連結ロジックを貼り付けるために使用します。

### ロジック

ロジックの ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のロジックをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のロジックをリスト内で検索する場合に選択します。

## エンティティのウィンドウとダイアログボックス

### [組織] ウィンドウのオプション

エンティティの属性の選択と、選択したエンティティの親子関係情報を定義します。

#### エンティティ

新規または既存のエンティティの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。エンティティを保存した後で、エンティティの ID を変更することはできません。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	--------------------------------

#### 説明

新規または既存のエンティティの説明を最高 40 文字（半角の場合）までで入力します。

デフォルト	エンティティの ID
-------	------------

326 ページの「[組織] ウィンドウのオプション: [属性] タブ」

選択したエンティティの属性を定義します。

328 ページの「[組織] ウィンドウのオプション: [親子関係] タブ」

組織における親と子の関係を定義するために使用します。

### 329 ページの「[組織] ウィンドウのオプション:[子] タブ」

組織における親と子の関係を定義するために使用します。このタブには、子を持つエンティティのみが表示されます。

### 330 ページの「[組織] ウィンドウのオプション:[詳細設定オプション] タブ」

データ種別および期間によって異なる連動組織の親子関係を設定するために使用します。下位構造が表示されているときは、このタブは表示されません。

## [組織] ウィンドウのオプション:[属性] タブ

選択したエンティティの属性を定義します。オプションのデフォルトはすべて、[エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのこのタブで設定します。デフォルトの設定手順については、「エンティティのデフォルト設定」を参照してください。

### エンティティ

新規または既存のエンティティの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。エンティティを保存した後で、エンティティの ID を変更することはできません。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

### 説明

新規または既存のエンティティの説明を最高 40 文字（半角の場合）までで入力します。

デフォルト	エンティティの ID
-------	------------

### 通貨

エンティティの通貨を選択します。通貨はエンティティモジュールの [通貨] ウィンドウで管理します。通貨については、「通貨の定義」を参照してください。

### 入力ロジック

エンティティの入力ロジックを選択します。入力ロジックには、エンティティの勘定科目表の算出方法を決定する計算式が含まれます。ロジックは計算式モジュールで管理します。計算式については、「計算式の構築」を参照してください。

### セキュリティクラス

エンティティのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 下位構造

選択したエンティティに関連付ける下位構造を選択します。選択された下位構造は、選択したエンティティの下にサブエンティティの集まりを作成します。このリストには、アプリケーションで以前定義されたすべての下位構造が含まれます。

デフォルト	<なし>
-------	------

## コード

エンティティのコードを選択します。

有効値	アクセス権を持つエンティティコードのみ
デフォルト	<なし>

## 単位

エンティティの単位を選択します。百、千、百万単位など、エンティティを入力または表示するために使う単位を決定します。[単位] ドロップダウンリストには、そのままの単位から億単位までのシステム定義による単位の値が含まれています。

勘定科目を定義する場合、その勘定科目のデータの表示および入力に、データ種別の単位を使うかエンティティの単位を使うかを選択します。データ種別に単位を指定すると、エンティティの単位はそのデータ種別の単位によって上書きされます。

デフォルト	<なし>
-------	------

## 会社間

このエンティティを使って会社間トランザクションを追跡する場合に選択します。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「会社間トランザクションの追跡」の章を参照してください。

## 消去

このエンティティを使って会社間の消去を保存する場合に選択します。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「会社間トランザクションの追跡」の章を参照してください。

## 仕訳帳

このエンティティに対して仕訳帳の調整を入力可能にする場合に選択します。詳しくは、「エンティティの定義」を参照してください。

### [328 ページの「\[組織\] ウィンドウのオプション: \[親子関係\] タブ」](#)

組織における親と子の関係を定義するために使用します。

### [329 ページの「\[組織\] ウィンドウのオプション: \[子\] タブ」](#)

組織における親と子の関係を定義するために使用します。このタブには、子を持つエンティティのみが表示されます。

### 330 ページの「[組織] ウィンドウのオプション : [詳細設定オプション] タブ」

データ種別および期間によって異なる連動組織の親子関係を設定するために使用します。下位構造が表示されているときは、このタブは表示されません。

## [組織] ウィンドウのオプション : [親子関係] タブ

組織における親と子の関係を定義するために使用します。

### エンティティ

新規または既存のエンティティの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	--------------------------------

### 説明

新規または既存のエンティティの説明を最高 40 文字（半角の場合）までで入力します。

デフォルト	エンティティの ID
-------	------------

### 連結比率

親に連結するエンティティの比率。

### 連結ロジック

システムが子に指定する連結ロジック。

### 出資比率

エンティティに対する親の所有率。

### 換算ロジック

エンティティに割り当てられた換算ロジック。エンティティの通貨を親の通貨に換算する方法を決定する一連の計算式で構成されます。ロジックは計算式モジュールで管理します。

### 支配比率

エンティティに対する親の支配率。

### 親から減算

[親] テキストボックスに表示されている親にエンティティの値を連結する際に、値を親のエンティティから減算する場合に選択します。[親] テキストボックスに表示されている親にエンティティの値を連結する際に、値を親のエンティティに加算するには、この選択を解除します。

## 子は表示しない

[組織] ウィンドウに、このエンティティの子を表示しないようにする場合に選択します。

## 326 ページの「[組織] ウィンドウのオプション : [属性] タブ」

選択したエンティティの属性を定義します。

## 329 ページの「[組織] ウィンドウのオプション : [子] タブ」

組織における親と子の関係を定義するために使用します。このタブには、子を持つエンティティのみが表示されます。

## 330 ページの「[組織] ウィンドウのオプション : [詳細設定オプション] タブ」

データ種別および期間によって異なる連動組織の親子関係を設定するために使用します。下位構造が表示されているときは、このタブは表示されません。

# [組織] ウィンドウのオプション : [子] タブ

組織における親と子の関係を定義するために使用します。エンティティの親子関係は、連結比率、出資比率、支配比率、連結ロジック、および換算ロジックで構成されています。

## エンティティ

新規または既存のエンティティの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

## 説明

新規または既存のエンティティの説明を最高 40 文字（半角の場合）までで入力します。

デフォルト	エンティティの ID
-------	------------

## 連結比率

親に連結するエンティティの比率。

## 出資比率

エンティティに対する親の所有率。

## 支配比率

エンティティに対する親の支配率。下位構造が表示されているときは、この列は表示されません。

## 連結ロジック

システムが子に指定する連結ロジック。

## 換算ロジック

システムが子に指定する変換ロジック。

### 326 ページの「[組織] ウィンドウのオプション: [属性] タブ」

選択したエンティティの属性を定義します。

### 328 ページの「[組織] ウィンドウのオプション: [親子関係] タブ」

組織における親と子の関係を定義するために使用します。

### 330 ページの「[組織] ウィンドウのオプション: [詳細設定オプション] タブ」

データ種別および期間によって異なる連動組織の親子関係を設定するために使用します。下位構造が表示されているときは、このタブは表示されません。

## [組織] ウィンドウのオプション: [詳細設定オプション] タブ

データ種別および期間によって異なる連動組織の親子関係を設定するために使用します。下位構造が表示されているときは、このタブは表示されません。

### エンティティ

新規または既存のエンティティの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	--------------------------------

### 説明

新規または既存のエンティティの説明を最高 40 文字（半角の場合）までで入力します。

デフォルト	エンティティの ID
-------	------------

### 期間別エンティティコード

期間のエンティティコードを選択します。

### 持株会社

持株会社 ID を入力するか、参照アイコンを選択して、リストから持株会社を選択します。

### 調整後の詳細を保存

選択したエンティティの比率および消去の詳細を保存する場合に選択します。

### 親の調整の許可

選択したエンティティに対して親の調整を入力できるようにする場合に選択します。

## 親の調整の入力ロジック

親の調整が許可されている場合に、エンティティの入力ロジックを選択します。入力ロジックは、「親の調整を可能にする」を選択すると自動的に割り当てられます。

### 326 ページの「[組織] ウィンドウのオプション: [属性] タブ」

選択したエンティティの属性を定義します。

### 328 ページの「[組織] ウィンドウのオプション: [親子関係] タブ」

期間およびデータ種別によって変化しない組織の親子関係の設定に使用します。

### 329 ページの「[組織] ウィンドウのオプション: [子] タブ」

組織における親と子の関係を定義するために使用します。このタブには、子を持つエンティティのみが表示されます。

## 「持株会社の選択」 ダイアログボックスのオプション

### 持株会社

持株会社名を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の持株会社をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の持株会社をリスト内で検索する場合に選択します。

## 「下位構造を開く」 ダイアログボックスのオプション

下位構造を開くために使用します。

### 下位構造

下位構造 ID を入力するか、リストから選択します。

### 新規作成

331 ページの「[新規下位構造] ダイアログボックスのオプション」で下位構造を作成する場合に選択します。

## 「新規下位構造」 ダイアログボックスのオプション

新規下位構造を定義するために使用します。

## ラベル

新規下位構造の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。入力する ID はアプリケーション内で一意である必要があります。リストには既存の下位構造 ID が表示されます。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	--------------------------------

## 説明

新規下位構造の説明を 40 文字以内で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## セキュリティクラス

組織のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

# [下位構造の属性] ダイアログボックスのオプション

ID、説明、セキュリティクラス、下位構造のタイプなどの変更に使います。

## ラベル

ウィンドウに下位構造の ID を表示します。ID はいつでも変更できます。下位構造の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	--------------------------------

## 説明

説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

## セキュリティクラス

下位構造のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 「下位構造の削除」ダイアログボックスのオプション

開いていない既存の下位構造を削除するために使用します。

### 下位構造

下位構造 ID を入力するか、リストから選択します。

## 「組織を開く」ダイアログボックスのオプション

組織を開くために使用します。

### 組織

組織を入力するか、リストから選択します。

### 新規作成

333 ページの「[\[新規の組織\] ダイアログボックスのオプション](#)」を開く場合を選択します。

**注：** このボタンは、データの視点の組織を選択した後は表示されません。

## 「新規の組織」ダイアログボックスのオプション

組織の作成に使用します。

### ラベル

新規組織の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	--------------------------------

### 説明

新規の組織の説明を 40 文字以内で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

### セキュリティクラス

組織のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 「組織の属性」ダイアログボックスのオプション

組織の ID、説明、セキュリティクラスなどの修正に使用します。

## ラベル

現在の組織の ID を表示します。

## 説明

組織の説明を表示します。説明はいつでも変更できます。

## セキュリティクラス

組織のセキュリティクラスを選択します。

有効値	管理者によってアクセスが許可されたセキュリティクラス
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

# [組織の削除] ダイアログボックスのオプション

アプリケーションから組織を除去するために使用します。

## 組織

組織 ID を入力するか、リストから選択します。

# [組織の印刷] ダイアログボックスのオプション

[組織] ウィンドウでエンティティを印刷またはプレビューするために使用します。

## デフォルト設定

印刷オプションは HYPENT.INI ファイルに出力され、次の印刷時に、HYPENT.INI ファイルに保存された情報がデフォルトとして使用されます。

### 335 ページの「[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション: [組織] タブ」

印刷する組織の一部と期間を選択するために使用します。

### 335 ページの「[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション: [属性] タブ」

印刷するエンティティの属性を選択するために使用します。

### 336 ページの「[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション: [親子関係] タブ」

印刷するエンティティの親子関係情報を選択するために使用します。

### 337 ページの「[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション: [詳細設定オプション] タブ」

期間別コード、持株会社、調整後の詳細を保存、親の調整の許可、親の調整の入力ロジックなど、印刷する特定のオプションを選択するために使用します。

## 「[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション : [組織] タブ

印刷する組織の一部と期間を選択するために使用します。

### 組織全体、表示されているエンティティのみ

現在「組織」ウィンドウに表示されている組織全体を印刷する場合に選択します。組織が完全に展開されている場合は、全組織が印刷されます。また、完全に縮小されている場合は、最上位のエンティティのみが印刷されます。

### レベル番号

エンティティのレベル番号を印刷する場合に選択します。

### 期間

印刷する連動組織の期間を1つまたは複数選択します。組織は、現在のデータ種別についてのみ印刷できます。

現在のデータ種別の全期間、ある範囲の期間、または現在の期間において組織を印刷する場合に選択します。「範囲」を選択した場合、「開始期間」および「終了期間」ドロップダウンリストを使って、範囲の開始および終了期間を選択します。

### 開始期間、終了期間

組織を印刷する期間の範囲を選択します。各リストには、現在のデータ種別の期間が含まれています。「開始期間」リストからは範囲の開始期間を、「終了期間」リストからは範囲の終了期間を選択します。

デフォルト	現在のデータ種別の最初と最後の期間
-------	-------------------

## 335 ページの「[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション : [属性] タブ」

印刷するエンティティの属性を選択するために使用します。

## 336 ページの「[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション : [親子関係] タブ」

印刷するエンティティの親子関係情報を選択するために使用します。

## 337 ページの「[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション : [詳細設定オプション] タブ」

期間別コード、持株会社、調整後の詳細を保存、親の調整の許可、親の調整の入力ロジックなど、印刷する特定の情報を選択するために使用します。

## 「[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション : [属性] タブ

印刷するエンティティの属性を選択するために使用します。

説明	セキュリティクラス	コード
----	-----------	-----

通貨	入力ロジック	下位構造
単位	会社間	消去
仕訳帳		

印刷する各エンティティの属性を選択します。

335 ページの「[\[組織の印刷\] ダイアログボックスのオプション : \[組織\] タブ](#)」

印刷する組織の一部と期間を選択するために使用します。

336 ページの「[\[組織の印刷\] ダイアログボックスのオプション : \[親子関係\] タブ](#)」

印刷するエンティティの親子関係情報を選択するために使用します。

337 ページの「[\[組織の印刷\] ダイアログボックスのオプション : \[詳細設定オプション\] タブ](#)」

期間別コード、持株会社、調整後の詳細を保存、親の調整の許可、親の調整の入力ロジックなど、印刷する特定のオプションを選択するために使用します。

## **[組織の印刷] ダイアログボックスのオプション : [親子関係] タブ**

印刷する親子関係情報を選択するために使用します。

連結比率	支配比率	換算ロジック
子は表示しない	出資比率	連結ロジック
親から減算		

印刷する各エンティティの属性を選択します。

335 ページの「[\[組織の印刷\] ダイアログボックスのオプション : \[組織\] タブ](#)」

印刷する組織の一部と期間を選択するために使用します。

335 ページの「[\[組織の印刷\] ダイアログボックスのオプション : \[属性\] タブ](#)」

印刷するエンティティの属性を選択するために使用します。

337 ページの「[\[組織の印刷\] ダイアログボックスのオプション : \[詳細設定オプション\] タブ](#)」

期間別コード、持株会社、調整後の詳細を保存、親の調整の許可、親の調整の入力ロジックなど、印刷する特定のオプションを選択するために使用します。

## 【組織の印刷】 ダイアログボックスのオプション : 【詳細設定オプション】 タブ

印刷する追加のエンティティ属性情報を選択するために使用します。これらのオプションは、アプリケーション内の組織がデータ種別と期間によって異なる場合、連結の詳細を保存する場合、または親の調整を入力できるようにする場合にのみ使用できます。

期間別コード	持株会社	調整後の詳細を保存
親の調整の許可	親の調整の入力ロジック	

印刷する各エンティティの属性を選択します。

### 335 ページの「【組織の印刷】 ダイアログボックスのオプション : 【組織】 タブ」

印刷する組織の一部と期間を選択するために使用します。

### 335 ページの「【組織の印刷】 ダイアログボックスのオプション : 【属性】 タブ」

印刷するエンティティの属性を選択するために使用します。

### 336 ページの「【組織の印刷】 ダイアログボックスのオプション : 【親子関係】 タブ」

印刷するエンティティの親子関係情報を選択するために使用します。

## 【エンティティの追加】 ダイアログボックスのオプション

ハイライトしたエンティティと同じレベルで新規または既存のエンティティを組織に追加するために使用します。

### 新規エンティティラベル

新規エンティティの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

### エンティティの選択

既存のエンティティを【エンティティの選択】 ダイアログボックスから選択する場合に選択します。

## 【子の追加】 ダイアログボックスのオプション

ハイライトしたエンティティの下レベルで新規または既存のエンティティを組織に追加するために使用します。

## 【親の追加】 ダイアログボックスのオプション

ハイライトしたエンティティの上のレベルで新規または既存のエンティティを組織に追加するために使用します。

## 【組織の貼り付け】 ダイアログボックスのオプション

【組織】 ウィンドウに表示された組織構造を、ある期間またはデータ種別から、別の期間またはデータ種別にコピーするために使用します。

### 現在のデータ種別のすべての期間、現在の期間のみ

現在のデータ種別のすべての期間、または現在の期間のみの組織構造をコピーし、貼り付ける場合に選択します。

現在のデータ種別のすべての期間の構造をコピーした場合、同じ期間数を持つ別のデータ種別のみの任意の組織に貼り付けることができます。現在の期間のみの構造をコピーした場合、任意の組織およびデータ種別の1つまたは複数の期間に貼り付けることができます。

### データ種別

組織を貼り付けるデータ種別を選択します。選択するデータ種別によって使用可能な期間が決まります。

デフォルト	データの視点にあるデータ種別
-------	----------------

### 期間

組織を貼り付ける1つまたは複数の期間を選択します。選択可能な期間は、選択したデータ種別によって決まります。

すべての期間をコピーした場合は、現在のデータ種別と同じ期間数の組織とデータ種別をそれぞれ1つ選択します。現在の期間のみをコピーした場合は、組織とデータ種別をそれぞれ1つと、1つまたは複数の期間を選択します。

### 株式を含む

現在の組織から、選択したデータ種別と期間に株情報をコピーする場合に選択します。

## 【親が未定義のエンティティの除去】 ダイアログボックスのオプション

親が未定義のエンティティをシステムから削除するために使用します。親が未定義のエンティティは定義されていますが、組織構造には含まれていません。

## 親が未定義のエンティティ

親が未定義のエンティティをすべて表示します。リストからエンティティを1つまたは複数選択して「追加」をクリックすると、「除去するエンティティ」リストにそれらが移動します。

## 除去するエンティティ

除去するエンティティをすべて表示します。

## 追加

「親が未定義のエンティティ」リストでハイライトしたエンティティを「除去するエンティティ」リストに追加する場合に選択します。

## すべて追加

「親が未定義のエンティティ」リストのすべてのエンティティを「除去するエンティティ」リストに追加する場合に選択します。

## 除去

「除去するエンティティ」リストでハイライトしたエンティティを除去する場合に選択します。

## すべて除去

「除去するエンティティ」リストのすべてのエンティティを除去する場合に選択します。

# 「エンティティの選択」ダイアログボックスのオプション

エンティティを選択するために使います。

## エンティティ

エンティティ ID を入力するか、一覧から選択します。

<<

指定した条件を満たす前のエンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のエンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

親	最下位エンティティ	サブエンティティ
親が未定義		

「エンティティ」リストに表示するエンティティのタイプを選択します。

## 【表に含む項目】 ダイアログボックスのオプション

〔エンティティ〕 タブの〔親子関係〕 表および〔子〕 表に、指定の条件に一致するエンティティのみを表示するために使用します。

### 340 ページの「【表に含む項目】 ダイアログボックスのオプション：〔親子関係〕 タブ」

〔エンティティ〕 タブの〔親子関係〕 表に表示する値を選択するために使用します。

### 340 ページの「【表に含む項目】 ダイアログボックスのオプション：〔子〕 タブ」

〔エンティティ〕 タブの〔子〕 表に表示する値を選択するために使用します。

## 【表に含む項目】 ダイアログボックスのオプション：〔親子関係〕 タブ

〔エンティティ〕 タブの〔親子関係〕 表に表示する値を選択するために使用します。

### 開始値

現在のデータ種別の情報とともに、前期のデータ種別の最後の期間について、選択した情報を表示する場合に選択します。

### 現在の期間のみ

データの視点にある現在の期間についてのみ選択した情報を表示する場合に選択します。

## 【表に含む項目】 ダイアログボックスのオプション：〔子〕 タブ

〔エンティティ〕 タブの〔子〕 表に表示する値を選択するために使用します。

### 出資比率、支配比率

表のエンティティの最終出資比率および最終支配比率を表示する場合に選択します。

### 連結比率、連結ロジック

表のエンティティの連結比率および連結ロジックを表示する場合に選択します。

### 換算ロジック

表のエンティティの換算ロジックを表示する場合に選択します。

## 開始値

現在のデータ種別の情報とともに、前期のデータ種別の最後の期間について、選択した情報を表示する場合に選択します。前期のデータ種別について詳しくは、「データ種別の定義」の項目を参照してください。

## 現在の期間のみ

データの視点にある現在の期間についてのみ選択した情報を表示する場合に選択します。

## 会社間の子

グループの親の会社間の子の連結比率、出資比率、支配比率、連結のロジックを表示する場合に選択します。

デフォルト	オフ
-------	----

## 関連項目

親子関係の算出

[341 ページの「\[親子関係の算出\] ダイアログボックスのオプション」](#)

# [親子関係の算出] ダイアログボックスのオプション

持株会社を持つエンティティのグループの株の所有率に基づき、連結比率と連結ロジックをシステムで提案するために使用します。

## すべて、現在、範囲

現在のデータ種別のすべての期間、ある範囲の期間、または現在の期間の親子関係を算出する場合に選択します。[範囲]を選択した場合には、[開始期間]および[終了期間]ドロップダウンリストを使って、その範囲の開始期間と終了期間を選択します。

## 開始期間、終了期間

親子関係を算出する期間の範囲を選択します。各リストには、現在のデータ種別の期間が含まれています。[開始期間]リストからは範囲の開始期間を、[終了期間]リストからは範囲の終了期間を選択します。

デフォルト	現在のデータ種別の最初と最後の期間
-------	-------------------

## 組織構造の作成

選択した親の持株会社が直接的または間接的に支配するすべてのエンティティを含む組織ブランチを作成する場合に選択します。その親に関して選択した期間に存在する構造は、システムが作成するブランチによって上書きされます。

## コントロール

選択した親の持株会社が各子を支配する比率を算出する場合に選択します。システムは、株の表に保存されている株情報に基づいて、最終支配比率を算出します。

## 出資比率

システムに保存されている直接および間接の親子関係情報に基づいて、最終出資比率を算出する場合に選択します。

### [提案ロジック]

[最終支配比率の算出] を選択せずにこのオプションを選択した場合は、システム内に保存されている支配比率が使用され、[302 ページの「\[アプリケーション\] ウィンドウのオプション : \[換算\] タブ」](#)の[連結ロジック]表で指定されている情報に基づいてロジックが提案されます。

[最終支配比率の算出] オプションとこのオプションの両方を選択した場合は、支配比率が算出され、新しく算出された最終支配比率に基づいてロジックが表示されます。

## 連結

[302 ページの「\[アプリケーション\] ウィンドウのオプション : \[換算\] タブ」](#)の[連結ロジック]表で指定されている情報に基づいて最終連結比率を算出する場合に選択します。

## 現在のグループとすべてのサブグループ

組織表で選択されている現在の親、およびそのすべてのサブグループの親子関係を算出する場合に選択します。

## 現在のグループのみ

組織表で選択されている現在の親のみの親子関係を算出する場合に選択します。

## すべての組織の全グループ

データ種別内のすべての組織の親子関係を算出する場合に選択します。

# [会社間の子を更新] ダイアログボックスのオプション

会社間の子の情報をシステムで更新するために使用します。

## すべて、現在、範囲

現在のデータ種別のすべての期間、ある範囲の期間、または現在の期間の会社間の子を更新する場合に選択します。[範囲] を選択した場合には、[開始期間] および [終了期間] ドロップダウンリストを使って、その範囲の開始期間と終了期間を選択します。

## 開始期間、終了期間

会社間の子を更新する期間の範囲を選択します。各リストには、現在のデータ種別の期間が含まれています。[開始期間] リストからは範囲の開始期間を、[終了期間] リストからは範囲の終了期間を選択します。

デフォルト	現在のデータ種別の最初と最後の期間
-------	-------------------

### 更新のみ

「会社間の子」表を更新する場合に選択します。

### クリアして再起動

「会社間の子」表をクリアし、新しい選択内容に基づいて再開始する場合に選択します。

### 現在のグループとすべてのサブグループ

組織表で選択されている現在の親と、そのすべてのサブグループの会社間の子を更新する場合に選択します。

### 現在のグループのみ

組織表で選択されている現在の親のみの会社間の子を更新する場合に選択します。

### すべての組織の全グループ

データ種別内のすべての組織の会社間の子を更新する場合に選択します。

## 【株式の読込】ダイアログボックスのオプション

ASCII テキストファイルからアプリケーションに出資比率および支配比率の値を入力するために使用します。アプリケーションに既存の株の値がある場合、株式の読み込みのモードを選択し、アプリケーションに読み込むファイルと、そのファイルが使う区切り文字を指定します。

### ファイル名

アプリケーションに読み込むファイル名を入力するか、「参照」を選択してそのファイルを検索します。

### 結合

置換値が読み込みファイルにあるとき、アプリケーションの既存値をクリアし、置換する場合に選択します。

### 置換

アプリケーションの既存値をすべてクリアし、ファイルのすべての値を読み込む場合に選択します。

### 【区切り文字】テキストボックス

株の情報を区切るために読み込みファイルで使う区切り文字を入力します。

デフォルト	カンマ (,)
-------	---------

## 【株式の抽出】ダイアログボックスのオプション

アプリケーションの出資比率および支配比率の値をテキストファイルにコピーするために使用します。株を抽出する1つまたは複数の期間、アプリケーションに読み込むファイル、および使用する区切り文字を選択します。

### ファイル名

株式の抽出先となるファイル名を入力するか、[参照]を選択してそのファイルを検索します。

### 区切り文字

株の情報を区切るために読み込みファイルで使う区切り文字を入力します。

デフォルト	カンマ (,)
-------	---------

### すべて、現在、範囲

現在のデータ種別のすべての期間、ある範囲の期間、または現在の期間から株を抽出する場合に選択します。[範囲]を選択した場合は、[開始期間]および[終了期間]を使って範囲の開始期間と終了期間を選択します。

### 【開始期間】、【終了期間】 ドロップダウンリスト

株を抽出する期間の範囲を選択します。各リストには、現在のデータ種別の期間が含まれています。[開始期間] リストからは範囲の開始期間を、[終了期間] リストからは範囲の終了期間を選択します。

デフォルト	現在のデータ種別の最初と最後の期間
-------	-------------------

### すべてのエンティティ

現在の組織のすべてのエンティティから株の情報を抽出する場合に選択します。

### 選択されたグループのみ

選択したエンティティとその子のみから株の情報を抽出する場合に選択します。

### 選択されたエンティティのみ

選択したエンティティのみから株の情報を抽出する場合に選択します。

## 【エンティティのデフォルト】ダイアログボックスのオプション

組織に新規エンティティを追加するたびにシステムが自動的に適用する、エンティティと親子関係の属性のデフォルトを設定するために使用します。

[345 ページの「【エンティティのデフォルト】ダイアログボックスのオプション：【属性】タブ」](#)

新規エンティティに適用する属性を選択するために使用します。

346 ページの「[エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのオプション：[親子関係] タブ」

新規エンティティの親子関係を設定するために使用します。

347 ページの「[エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのオプション：[詳細設定オプション] タブ」

会社間エンティティのグループの新規親のオプションを定義するために使用します。

## [エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのオプション：[属性] タブ

新規エンティティに適用する属性を選択するために使用します。

デフォルト通貨を選択します。通貨はエンティティモジュールの [通貨] ウィンドウで管理します。通貨について詳しくは、「通貨の定義」を参照してください。

### 入力ロジック

デフォルトの入力ロジックを選択します。入力ロジックには、エンティティの勘定科目表の算出方法を決定する計算式が含まれます。ロジックは計算式モジュールで管理します。計算式について詳しくは、「計算式の構築」を参照してください。

### セキュリティクラス

エンティティのデフォルトのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

### 下位構造

デフォルトで新規エンティティに関連付ける下位構造を選択します。選択した下位構造は、新規エンティティの下にサブエンティティの集まりを作成します。このリストには、アプリケーションで以前定義されたすべての下位構造が含まれます。

デフォルト	<なし>
-------	------

### コード

エンティティのコードを選択します。

有効値	アクセス権のあるエンティティコード
デフォルト	<なし>

## 単位

デフォルトの単位を選択します。百、千、百万単位など、エンティティを入力または表示するために使う単位を決定します。

デフォルト	<なし>
-------	------

## 会社間

デフォルトで新規エンティティを使って会社間トランザクションを追跡する場合に選択します。

デフォルト	<なし>
-------	------

## 消去

デフォルトで新規エンティティを使って会社間消去を保存する場合に選択します。

デフォルト	<なし>
-------	------

## 仕訳帳

デフォルトで新規エンティティに対する仕訳帳の調整を入力できるようにする場合に選択します。

デフォルト	<なし>
-------	------

# [エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのオプション: [親子関係] タブ

新規エンティティの親子関係を設定するために使用します。

## 連結比率

デフォルトで親に連結する新規エンティティの比率を入力します。

## 出資比率

デフォルトで親が所有する新規エンティティの比率を入力します。この値は計算式に含めたり、参照することができます。

## 支配比率

デフォルトで親が支配する新規エンティティの比率を入力します。この値は計算式に含めたり、参照することができます。

## 連結ロジック

デフォルトの連結ロジックを選択します。連結ロジックには、エンティティのデータがその親に集計される方法を決定する計算式の集まりが含まれます。ロジックは計算式モジュールで管理します。

## 換算ロジック

デフォルトの換算ロジックを選択します。換算ロジックには、エンティティの通貨を親の通貨に換算する方法を決定する計算式の集まりが含まれています。ロジックは計算式モジュールで管理します。

## 親から減算

エンティティの値をその親に連結する際に、デフォルトでエンティティの値を親の値から減算する場合に選択します。エンティティの値をその親に連結する際に、デフォルトでエンティティの値を親の値に加算するには、この選択を解除します。

## 子は表示しない

デフォルトで、[組織] ウィンドウに新規エンティティの子を表示しないようにする場合に選択します。デフォルトで、[組織] ウィンドウに新規エンティティの子を表示する場合は、この選択を解除します。

# [エンティティのデフォルト] ダイアログボックスのオプション: [詳細設定オプション] タブ

会社間エンティティのグループの新規親のオプションを定義するために使用します。

## 持株会社

選択した親の持株会社として定義するエンティティの ID を入力するか、検索アイコンを選択してリストから持株会社を選択します。

## 調整後の詳細を保存

選択した親の比率、消去、および連結の詳細を保存する場合に選択します。

## 親の調整の許可

選択した親に対して子が抛出する値の調整を許可する場合に選択します。

## 親の調整の入力ロジック

選択した親に対する調整の入力ロジックを選択します。入力ロジックには、親の調整の勘定科目表を算出する方法を決定する計算式の集まりが含まれます。ロジックは計算式モジュールで管理します。

# [組織オプション] ダイアログボックス

ラベル、説明、比率で使う小数点以下の桁数、組織で表示される文字のフォント、スタイル、サイズを指定するために使用します。

## ラベル、説明

[組織] ウィンドウおよび [下位構造] ウィンドウにエンティティラベル、または説明を表示する場合に選択します。

### 比率に使用する小数表示

比率で使う小数点以下の桁数を入力します。

### フォント

[ロジック] 表に表示する文字のフォントを入力するか、リストから選択します。

### スタイル

[ロジック] 表に表示する文字のフォントスタイルを入力するか、リストから選択します。

### サイズ

[ロジック] 表に表示する文字のフォントのサイズを入力するか、リストから選択します。

### [サンプル] ボックス

現在のフォントのサンプルを表示します。

## 会社間トランザクションのウィンドウヘルプ

### [会社間照合] ウィンドウのオプション

組織内の会社間残高勘定科目を追跡するために使用します。

#### [会社間グループ] タブ

レポートを印刷またはプレビューする 1 つまたは複数の会社間グループを定義するために使用します。

#### [照合オプション] タブ

レポートに含めるパートナーのトランザクションや通貨に関するオプションを選択するために使用します。

#### [レポートオプション] タブ

レポートオプションや非表示オプションなど、特定のレポート情報やその表示を選択するために使用します。

### プレビュー

印刷前にレポートの印刷状態を表示します。全ページ表示、拡大表示、余白の表示など、表示を切り替えたり、続くページを並べて表示できます。また、プレビューモードから印刷することも可能です。

### [新規会社間照合グループ] ダイアログボックスのオプション

会社間照合グループを作成するために使用します。

## グループ

新規グループのラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	--------------------------------

## 説明

グループの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	空白（説明なし）
-------	----------

## 会社間照合レポートに BAL レートを使用

アプリケーションモジュールで BAL 勘定科目に対して指定されたレートを使用して、会社間照合グループ内のすべての勘定科目を換算する場合に選択します。

## 調整勘定

グループの調整勘定のラベルを入力します。検索アイコンを選択して、調整勘定をリストから選択することもできます。

## セキュリティクラス

グループのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] で指定するセキュリティクラス

## [会社間照合グループ属性] ダイアログボックスのオプション

グループラベル、説明、セキュリティクラス、または調整勘定を変更するために使用します。

## グループ

グループのラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	--------------------------------

## 説明

グループの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

## 会社間照合レポートに BAL レートを使用

アプリケーションモジュールで BAL 勘定科目に対して指定されたレートを使用して、会社間照合グループ内のすべての勘定科目を換算する場合に選択します。

## 調整勘定

グループの調整勘定のラベルを入力します。検索アイコンを選択して、調整勘定をリストから選択することもできます。

## セキュリティクラス

グループのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] で指定するセキュリティクラス

## 【会社間照合グループのコピー】ダイアログボックスのオプション

既存のグループを基にグループを作成するために使用します。

### 元のグループ

コピー元のグループを選択します。

デフォルト	ウィンドウに表示されているグループ
-------	-------------------

### 新規グループ

新規グループのラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

### 説明

新規グループの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	空白（説明なし）
-------	----------

## 【会社間照合グループを開く】ダイアログボックスのオプション

[会社間照合グループ] ウィンドウでグループを開くために使用します。

### グループ

グループラベルを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のグループをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のグループをリスト内で検索する場合に選択します。

### 新規作成

会社間照合グループを新規に作成する場合に選択します。このオプションは、[会社間照合] ウィンドウを最初に開いたときのみ表示されます。

## 【会社間照合グループの削除】 ダイアログボックスのオプション

アプリケーションから会社間照合グループを削除するために使用します。

### グループ

グループラベルを入力するか、リストから選択します。

## 【会社間照合グループの印刷】 ダイアログボックスのオプション

印刷する特定のグループと会社間情報を指定するために使用します。

### すべてのグループ、現在のグループ

会社間照合グループをすべて印刷するか、[会社間照合] ウィンドウに表示されている会社間照合グループだけを印刷するかを選択します。

### プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## 【会社間照合レポート】 ダイアログボックスのオプション

データを分析または監査できるように、連結時に消去する会社間トランザクションを指定するために使用します。

### 352 ページの「[会社間グループ] タブ」

レポートを印刷またはプレビューする 1 つまたは複数の会社間グループを定義するために使用します。

### 352 ページの「[照合オプション] タブ」

レポートに含めるパートナーのトランザクションや通貨に関するオプションを選択するために使用します。

### 353 ページの「[レポートオプション] タブ」

レポートオプションや非表示オプションなど、特定のレポート情報やその表示を選択するために使用します。

### プレビュー

印刷前にレポートの印刷状態を表示します。全ページ表示、拡大表示、余白の表示など、表示を切り替えたり、続くページを並べて表示できます。また、プレビューモードから印刷することも可能です。

## [会社間グループ] タブ

レポートを印刷またはプレビューする 1 つまたは複数の会社間グループを定義するために使用します。

### 会社間グループ

レポートの印刷またはプレビューを行うグループ（1 つまたは複数）を選択します。

デフォルト	リスト内の最初のグループ
-------	--------------

## [照合オプション] タブ

レポートに含めるパートナーのトランザクション、エンティティコード、および通貨オプションを選択するために使用します。

### グループ内

グループ内のパートナーのトランザクションを選択します。

### 組織内の外部グループ

グループ外のパートナーのトランザクションを選択します。

### パートナーの選択

トランザクションをレポートに含めるパートナーを選択します。

### エンティティコード

1 つまたは複数のエンティティコードを選択します。

有効値	アプリケーション内のエンティティコード
-----	---------------------

デフォルト	リスト内の最初のエンティティコード
-------	-------------------

### エンティティの通貨

レポートを処理するエンティティの通貨を選択します。

### パートナーの通貨

パートナーの通貨を選択します。

### 親の通貨

親の通貨を選択します。

### 指定通貨

レポートの通貨（1 つまたは複数）を選択します。データ列は、エンティティの通貨、パートナーの通貨、親の通貨、指定通貨の順でレポートに表示されます。

有効値	アプリケーションの通貨
-----	-------------

デフォルト	リスト内の最初の通貨
-------	------------

## 【レポートオプション】 タブ

レポートオプションや非表示オプションなど、特定のレポート情報やその表示を選択するために使用します。

### エンティティの説明の表示

会社間照合セットのエンティティの説明を表示する場合に選択します。

### 勘定科目の詳細表示

会社間セット内の複数の勘定科目について、勘定科目の詳細を表示する場合に選択します。

### 勘定科目の合計表示

会社間セット内の複数の勘定科目について、勘定科目の合計を表示する場合に選択します。

### 勘定科目を行で表示

会社間照合セットの勘定科目を行で表示する場合に選択します。

### 現在のエンティティごとのレポート

レポートを処理する各エンティティについて、個別のレポートを作成する場合に選択します。

### 【レポート単位】 ドロップダウンリスト

単位の値を選択します。レポート単位によって、レポートのデータ値の表示方法が決まります。

有効値	0 (単位)
	1 (十)
	2 (百)
	3 (千)
	4 (万)
	5 (十万)
	6 (百万)
	7 (千万)
	8 (億)
	9 (十億)

デフォルト	0
-------	---

## 小数表示

レポートに表示する小数点以下の桁数を選択します。

デフォルト	0
最大値	9

## ステータスは非表示

レポートで「ステータス」列を非表示にする場合に選択します。「ステータス」列には以下の種別のステータスが表示されます。

一致	照合許容差の値の範囲内にあるトランザクション
未入力	片方のトランザクションが欠けているためにシステムで照合できないトランザクション
差異	照合許容差の値の範囲内にないトランザクションの値

## 合計と小計は非表示

レポートで合計行と小計行を非表示にする場合に選択します。

## 通貨は非表示

レポートで通貨列を非表示にする場合に選択します。通貨列は、レポートのエンティティセクションに表示され、現在のエンティティとパートナーのエンティティの通貨に関する情報を含みます。また、通貨列は、選択した各通貨について、レポートのデータセクションにも表示されます。

## 照合値は非表示

照合許容差に基づいて一致しないトランザクションまたは貸借不一致のトランザクションだけをレポートに含め、一致する勘定科目値を非表示にする場合に選択します。

## 照合通貨

照合許容差の確立に使用する通貨を選択します。

デフォルト	親の通貨
-------	------

## 照合許容差

レポートに含めるトランザクションの上限を表す値を入力します。この値を下回るトランザクションはすべて非表示になります。

有効値	0 ～ 999999
-----	------------

デフォルト	0
-------	---

# 勘定科目のウィンドウとダイアログボックス

## 【勘定科目表】ウィンドウのオプション

勘定科目表の勘定グループ、勘定科目、およびサブ勘定科目を定義するために使用します。

### 勘定科目列

勘定科目または勘定グループのラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~@#%^&*()+{}[]\ ;:'"<>,.?/
----	-----------------------------

### 説明列

勘定科目またはグループの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力したラベル
-------	---------

[355 ページの「【勘定科目表】ウィンドウのオプション：【属性】タブのオプション」](#)

ハイライトされた勘定科目の勘定科目属性を選択または表示するか、勘定グループのデフォルトを選択するために使用します。

[357 ページの「【勘定科目表】ウィンドウのオプション：【サブ勘定科目表】タブ」](#)

ハイライトされた勘定科目または勘定グループに付属するサブ勘定科目表を選択または表示するために使用します。

## 【勘定科目表】ウィンドウのオプション：【属性】タブのオプション

ハイライトされた勘定科目の勘定科目属性を選択または表示するか、勘定グループのデフォルトを選択するために使用します。

### 【種別】ドロップダウンリストの種類

勘定科目の勘定科目種別を選択します。

有効値	収益、費用、残高、資産、負債、フロー
デフォルト	新規グループの場合は収益。新規勘定科目の場合はグループの設定値

### 【小数表示】テキストボックス

【データベース】ウィンドウと【データ入力】ウィンドウで表示する、勘定科目の値の小数点以下の桁数を入力します。

有効値	0 ～ 9
デフォルト	0

#### [単位] チェックボックス

この勘定科目に単位付けを適用する場合に選択します。

デフォルト	新規グループの場合は選択済み 新規勘定科目の場合はグループの設定値
-------	--------------------------------------

#### [連結] チェックボックス

勘定科目のデータを連結に含める場合に選択します。

デフォルト	新規グループの場合は選択済み 新規勘定科目の場合はグループの設定値
例外	連動表示勘定科目には使用不可

#### [通貨] チェックボックス

連結時に勘定科目のデータを通貨換算する場合に選択します。

デフォルト	新規グループの場合は選択済み 新規勘定科目の場合はグループの設定値
例外	連動表示勘定科目には使用不可

#### [連動表示] チェックボックス

この勘定科目について、データ値の代わりに計算式を保存する場合に選択します。

デフォルト	新規グループの場合は選択済み 新規勘定科目の場合はグループの設定値
例外	[連結] 属性または [通貨] 属性が選択された勘定科目には使用不可

詳しくは、「連動表示勘定科目」を参照してください。

#### [セキュリティクラス] ドロップダウンリスト

勘定科目のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] で指定するセキュリティクラス

#### [コード] ドロップダウンリスト

勘定科目のコードを選択します。

有効値	アクセス権を持つ勘定科目コードのみ
デフォルト	<なし>

## 【勘定科目表】ウィンドウのオプション：【サブ勘定科目表】タブ

ハイライトされた勘定科目または勘定グループに付属するサブ勘定科目表を選択または表示するために使用します。

### 【表】 ドロップダウンリスト

主要勘定科目に付属するサブ勘定科目が含まれるサブ勘定科目表を選択します。

デフォルト	<なし>
-------	------

勘定科目からサブ勘定科目を除去するには、<なし>を選択します。

### 【種別】 編集ボックス

【表】 ドロップダウンリストに表示されるサブ勘定科目表の勘定科目種別を示します。【種別】 ボックスが表示されるのは、ハイライトされた勘定科目にサブ勘定科目表が付属しているときだけです。

デフォルト	<勘定科目から>
-------	----------

### 【固定】、【チェック済】 オプションボタン

サブ勘定科目を勘定科目表に表示するかどうかを選択します。

- 【固定】を選択すると、サブ勘定科目にデータが含まれているかどうかにかかわらず、常に表示されます。
- 【チェック済】を選択すると、サブ勘定科目にデータが含まれているときだけ表示されます。

デフォルト	固定
-------	----

このオプションを使用するには、【表】 ドロップダウンリストで表を選択する必要があります。

### 【第1レベルのみ】 チェックボックス

サブ勘定科目の第1レベルだけを現在の勘定科目に関連付ける場合に選択します。

**注：** 選択された表で、個々のサブ勘定科目にサブ勘定科目表が付属されている場合は、第2レベルのサブ勘定科目は勘定科目に関連付けられません。

## 【勘定科目表の印刷】 ダイアログボックスのオプション

勘定科目表の印刷またはプレビューを行うために使用します。

## 勘定科目表全体、選択

勘定科目表の印刷する部分を選択します。勘定科目表の各勘定科目を印刷するには、[勘定科目表全体]を選択します。ハイライトされた勘定科目または勘定グループだけを印刷するには、[選択]を選択します。

## サブ勘定科目の詳細を含む

サブ勘定科目の詳細を印刷する場合に選択します。

[説明] チェックボックス	[セキュリティクラス] チェックボックス	[コード] チェックボックス
[勘定科目種別] チェックボックス	[単位] チェックボックス	[連結] チェックボックス
[通貨] チェックボックス	[小数表示] チェックボックス	[連動表示] チェックボックス

印刷する勘定科目属性を選択します。

## [プレビュー] ボタン

要求された勘定科目情報を表示する場合に選択します。このダイアログボックスで選択したオプションで詳細表示を指定します。

# [サブ勘定科目表] ウィンドウのオプション

サブ勘定科目表のサブ勘定科目を定義するために使用します。

## 勘定科目列

勘定科目のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ @ # % ^ & * ( ) + { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

## 説明列

サブ勘定科目の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	勘定科目フィールドに入力したラベル
-------	-------------------

## [セキュリティクラス] ドロップダウンリスト

サブ勘定科目のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] で指定するセキュリティクラス

## [コード] ドロップダウンリスト

サブ勘定科目のコードを選択します。

有効値	アクセス権を持つ勘定科目コードのみ
デフォルト	<なし>

### 〔符号を逆にする〕 チェックボックス

この表を勘定科目に付属するときに、選択されたサブ勘定科目の符号を逆にする場合に選択します。次の表に、〔符号を逆にする〕属性が特定の勘定科目種別にどのように適用されるかを示します。

符号を逆にする勘定科目	結果
収益勘定科目	費用勘定科目
費用勘定科目	収益勘定科目
資産勘定科目	負債勘定科目
負債勘定科目	資産勘定科目
残高勘定科目	資産勘定科目
フロー勘定科目	費用勘定科目

### 〔表〕 ドロップダウンリスト

選択されたサブ勘定科目に付属するサブ勘定科目表を選択します。第1レベルのサブ勘定科目には1レベルのサブ勘定科目しか関連付けることができません。ハイライトされたサブ勘定科目からサブ勘定科目を除去するには、<なし>を選択します。

デフォルト	<なし>
-------	------

### 〔固定〕、〔チェック済〕 オプションボタン

サブ勘定科目を勘定科目表に表示するかどうかを選択します。

- 〔固定〕を選択すると、サブ勘定科目にデータが含まれているかどうかにかかわらず、常に表示されます。
- 〔チェック済〕を選択すると、サブ勘定科目にデータが含まれているときだけ表示されます。

デフォルト	固定
-------	----

このオプションを使用するには、〔表〕ドロップダウンリストで表を選択する必要があります。

## 〔サブ勘定科目表を開く〕 ダイアログボックスのオプション

サブ勘定科目表を〔サブ勘定科目表〕ウィンドウで開くために使用します。

〔サブ勘定科目〕 コンボボックス

サブ勘定科目表のラベルを入力するか、リストから選択します。

## 【新規サブ勘定科目表】ダイアログボックスのオプション

サブ勘定科目表を作成するために使用します。

[サブ勘定科目表] 編集ボックス

新規サブ勘定科目表のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ @ # % ^ & * ( ) + { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

[説明] テキストボックス

新規サブ勘定科目表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	空白（説明なし）
-------	----------

[セキュリティクラス] ドロップダウンリスト

サブ勘定科目表のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] で指定するセキュリティクラス

[会社間] チェックボックス

サブ勘定科目表を会社間サブ勘定科目表にする場合に選択します。会社間サブ勘定科目表では、会社間エンティティをサブ勘定科目としてのみ入力します。

会社間サブ勘定科目表について詳しくは、「会社間サブ勘定科目表」の項目を参照してください。

[種別] ドロップダウンリスト] の種類

サブ勘定科目表の勘定科目種別を選択します。〈なし〉を選択した場合、サブ勘定科目には、そのサブ勘定科目が附属する主要勘定科目の [種別] 属性が継承されます。〈なし〉以外の種別を選択した場合、表内のサブ勘定科目は、必ずサブ勘定科目表で指定された種別になります。

有効値	収益、費用、残高、資産、負債、フロー、〈なし〉
デフォルト	収益

勘定科目属性について詳しくは、「勘定科目の定義」を参照してください。

## 【サブ勘定科目表のコピー】ダイアログボックスのオプション

既存のサブ勘定科目表を基に、サブ勘定科目表を作成するために使用します。

[開始期間] ドロップダウンリスト

コピー元のサブ勘定科目表を選択します。

デフォルト	[サブ勘定科目表] ウィンドウの表
-------	-------------------

[新規表] 編集ボックス

新規サブ勘定科目表のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ @ # % ^ & * ( ) + { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

[説明] 編集ボックス

新規サブ勘定科目表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	空白（説明なし）
-------	----------

## [サブ勘定科目表の削除] ダイアログボックスのオプション

サブ勘定科目表をアプリケーションから削除するために使用します。

[サブ勘定科目] コンボボックス

サブ勘定科目表のラベルを入力するか、リストから選択します。

## [サブ勘定科目表の印刷] ダイアログボックスのオプション

サブ勘定科目表の印刷またはプレビューを行うために使用します。

[すべてのサブ勘定科目表] ボタン、[現在のサブ勘定科目表] ボタン、[選択] ボタン

印刷するサブ勘定科目表を選択します。

- アプリケーション内のすべてのサブ勘定科目表を印刷するには、[すべてのサブ勘定科目表] を選択します。
- 現在のサブ勘定科目表でハイライトされたサブ勘定科目を印刷するには、[選択] を選択します。
- 現在のサブ勘定科目表を印刷するには、[現在のサブ勘定科目表] を選択します。

デフォルト	現在のサブ勘定科目表
-------	------------

[サブ勘定科目] チェックボックス	[固定またはチェック済] チェックボックス	[説明] チェックボックス
-------------------	-----------------------	---------------

印刷するサブ勘定科目属性を選択します。

## プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。

## 【サブ勘定科目の検索】 ダイアログボックスのオプション

現在のサブ勘定科目表で、特定のサブ勘定科目を検索するために使用します。

[サブ勘定科目] コンボボックス

サブ勘定科目ラベルを入力するか、リストから選択します。

<< ボタン

指定した条件を満たす前のサブ勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

>> ボタン

指定した条件を満たす次のサブ勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致するサブ勘定科目を検索する場合に選択します。

## 【サブ勘定科目の貼り付け】 ダイアログボックスのオプション

アプリケーションでサブ勘定科目の共有が可能な場合、別のサブ勘定科目表からサブ勘定科目を追加するために使用します。共有サブ勘定科目については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「勘定科目の定義」の章を参照してください。

[サブ勘定科目] コンボボックス

サブ勘定科目ラベルを入力するか、リストから選択します。

<< ボタン

指定した条件を満たす前のサブ勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

>> ボタン

指定した条件を満たす次のサブ勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

## 【勘定グループの表示】 ダイアログボックスのオプション

選択された勘定グループを [勘定科目表] ウィンドウに表示するために使用します。

[勘定グループ] コンボボックス

勘定グループのラベルを入力するか、リストから選択します。

<< ボタン

指定した条件を満たす前の勘定グループをリスト内で検索する場合に選択します。

>> ボタン

指定した条件を満たす次の勘定グループをリスト内で検索する場合に選択します。

## [サブ勘定科目表属性] ダイアログボックスのオプション

サブ勘定科目表のラベル、説明、または種別を変更するために使用します。

[サブ勘定科目表] 編集ボックス

サブ勘定科目表のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ラベルはアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ @ # % ^ & * ( ) + { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

[説明] リスト

サブ勘定科目表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

[会社間] チェックボックス

サブ勘定科目表が会社間サブ勘定科目表であるかどうかを示します。会社間サブ勘定科目表では、会社間エンティティをサブ勘定科目として入力します。このオプションは読み取り専用です。

会社間サブ勘定科目表について詳しくは、「会社間サブ勘定科目表」の項目を参照してください。

[種別] ドロップダウンリスト] の種類

サブ勘定科目表の勘定科目種別を選択します。〈なし〉を選択した場合、サブ勘定科目には、そのサブ勘定科目が付属する勘定科目の [種別] 属性が継承されます。〈なし〉以外の種別を選択した場合、表内のサブ勘定科目は、必ずサブ勘定科目表で指定された種別になります。

有効値	収益、費用、残高、資産、負債、フロー、〈なし〉
-----	-------------------------

勘定科目属性について詳しくは、「勘定科目の定義」を参照してください。

## [勘定グループの検索] ダイアログボックスのオプション

特定の勘定グループを検索するために使用します。

[勘定グループ] コンボボックス

勘定グループのラベルを入力するか、リストから選択します。

### << ボタン

指定した条件を満たす前の勘定グループをリスト内で検索する場合に選択します。

### >> ボタン

指定した条件を満たす次の勘定グループをリスト内で検索する場合に選択します。

### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致する勘定グループを検索する場合に選択します。

## データ入力のウィンドウとダイアログボックス

### 【データ入力表】ウィンドウのオプション

特定の勘定科目のデータを入力、表示、編集するために使用します。

#### 勘定科目列

選択した勘定科目の説明と、単位の変更されていない保存値を表示します。

#### データ入力表

エンティティとデータ種別の勘定科目と期間を表示します。勘定科目一覧は、最上位と最下位の勘定科目一覧として参照されます。データ入力表には、1つまたは2つの勘定科目一覧が表示されます。現在のデータ種別には、各勘定科目につき1つの行と、各期間につき1つの列があります。

[新規データ入力表を作成する](#)ときに、データ入力表の勘定科目一覧を選択することができます。

セルの色を変更するには、システム色を設定します。

デフォルト色	入力勘定：白色のセル 算出勘定：緑色のセル 連結勘定：黄色のセル
--------	--

#### 【計算式】領域

選択した勘定科目に定義されている計算式をすべて表示します。

#### 【情報】領域

連結詳細の現在の期間単位、表示形式、単位、小数点以下の桁数、親のエンティティ、および表示タイプを表示します。

### 【データ入力表オプション】ダイアログボックスのオプション

データ入力表の外観とデータの計算方法を決めるために使用します。

## ID、説明

勘定科目列に勘定科目の ID と説明のどちらを表示するかを選択します。

デフォルト	ID
-------	----

## 全期間、現在の期間

期間列にすべての期間と現在の期間のみのどちらを表示するかを選択します。

デフォルト	全期間
-------	-----

## 自動再計算

データ入力表にデータを入力するたびに計算式を実行する場合に選択します。このオプションを選択しない場合、計算式を手動で実行する必要があります。

## 計算式の表示

選択した勘定科目の計算式を表示する場合に選択します。

**注：** 計算式へのアクセス権がない場合、[計算式の表示] オプションは使用できません。

## データのない勘定科目の行は非表示

任意の期間において、データを含まない勘定科目を非表示にする場合に選択します。

## 勘定科目、データ

勘定科目と期間の列幅を文字数（半角）で入力します。

有効値	6 ～ 25
デフォルト	勘定科目列：27 期間列：13

**ヒント：** さらに多くのデータを表示するには、小さいフォントサイズを選択してください。

## フォント

[フォント] ダイアログボックスで、ID、説明、およびデータのフォント、スタイル、サイズを指定する場合に選択します。

## [新規データ入力表] ダイアログボックスのオプション

データ入力表を作成するために使用します。

## データ入力表

新規データ入力表の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[];:'"<>,.?/
----	------------------------------

## 説明

データ入力表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## セキュリティクラス

データ入力表のセキュリティクラスを選択します。

有効値	管理者によってアクセスが許可されたセキュリティクラス
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] で指定するセキュリティクラス

## 上部、下部

データ入力表の最上部と最下部の勘定科目一覧を選択します。各データ入力表につき、最上部勘定科目一覧を 1 つ選択する必要があります。勘定科目一覧については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「一覧の定義」の章を参照してください。

デフォルト	下部 : <なし>
-------	-----------

## オプション

データ入力表を開いたときのデータの計算方法やフォーマット方法を決定する、[364 ページの「\[データ入力表オプション\] ダイアログボックスのオプション」](#)を指定する場合に選択します。

# [データ入力表属性] ダイアログボックスのオプション

データ入力表の ID、説明、セキュリティクラス、勘定科目一覧、またはオプションを変更するために使用します。

## データ入力表

データ入力表の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[];:'"<>,.?/
----	------------------------------

## 説明

データ入力表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

## セキュリティクラス

データ入力表のセキュリティクラスを選択します。

有効値	管理者によってアクセスが許可されたセキュリティクラス
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 上部、下部

データ入力表の上部または下部の勘定科目一覧を変更する場合に選択します。各データ入力表につき、最上部勘定科目一覧を1つ選択する必要があります。勘定科目一覧については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「一覧の定義」の章を参照してください。

## オプション

データ入力表を開いたときのデータの計算方法やフォーマット方法を決定する、[364 ページの「\[データ入力表オプション\] ダイアログボックスのオプション」](#)を指定する場合に選択します。

## [データ入力表を開く] ダイアログボックスのオプション

データ入力表を [データ入力表] ウィンドウで開くために使用します。

### データ入力表

データ入力表の ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のデータ入力表をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のデータ入力表をリスト内で検索する場合に選択します。

## [データ入力表の削除] ダイアログボックスのオプション

データ入力表をアプリケーションから削除するために使用します。

### データ入力表

データ入力表の ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のデータ入力表をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のデータ入力表をリスト内で検索する場合に選択します。

## [データ入力表のコピー] ダイアログボックスのオプション

既存のデータ入力表に基づいてデータ入力表を作成するために使用します。

### 元のデータ入力表

データ入力表の ID を入力するか、リストから選択します。

デフォルト	[データ入力表] ウィンドウのデータ入力表
-------	-----------------------

### 新規データ入力表

新規データ入力表の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[];:"'<>,.?/
----	------------------------------

### 説明

新規データ入力表の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## 仕訳帳のウィンドウとダイアログボックス

### [仕訳帳] ウィンドウのオプション

勘定科目値の変化を記録し、これらの変更の監査証跡を管理するために使用します。

### 仕訳帳のラベル

仕訳帳のラベルを 20 文字以内（半角の場合）で入力します。このラベルは期間内で一意である必要があります。[Enter] キーを押して仕訳帳を作成した後は、仕訳帳のラベルは変更できません。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:"'<>,.?/
----	--------------------------------

検索アイコンを選択して[371 ページ](#)の「[\[仕訳帳を開く\] ダイアログボックスのオプション](#)」を開き、別の仕訳帳を選択することもできます。

### 説明

仕訳帳の説明を 254 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	<空白>
例外	`~!@% ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /

## 親

調整後の値を調整するための親エンティティの ID を入力します。このボックスは、親仕訳帳でのみ使用できます。検索アイコンを選択して、リストから親エンティティを選択することもできます。

有効値	現在の組織内の有効な親調整エンティティ
デフォルト	<空白>

## アンバランス、バランス、エンティティ単位でバランス

仕訳帳の属性を選択します。貸借不一致（アンバランス）仕訳帳では、借方の合計が貸方の合計に等しくなる必要はありません。貸借一致（バランス）仕訳帳では、借方の合計が貸方の合計に等しくなる必要があります。エンティティ単位で貸借一致の仕訳帳では、仕訳帳内の各エンティティの借方の合計がそのエンティティの貸方の合計に等しくなる必要があります。

デフォルト	バランス
-------	------

## セキュリティクラス

仕訳帳のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## コード

仕訳帳のコードを選択します。

有効値	アクセスできる仕訳帳のコード
デフォルト	<なし>

## 期別、データ種別累計

データ表示形式を選択します。仕訳帳内の調整データは、選択したデータ表示形式での将来の期間のデータに影響します。データ種別累計を選択すると、この仕訳帳の調整データはデータ種別累計データ表示形式での将来の期間値に影響します。期別を選択すると、この仕訳帳の調整データは期別データ表示形式での将来の期間値に影響します。

## 仕訳帳の詳細

各行の借方または貸方を入力します。仕訳帳の詳細として、エンティティ、勘定科目、借方、および貸方を入力できます。さらに、[編集] メニューから [エンティティの貼り付け]、[勘定科目] の順に選択するか、ツールバーの [勘定科目

の貼り付け] または [エンティティの貼り付け] アイコンをクリックすることもできます。

デフォルト	データの視点の勘定科目とエンティティ
-------	--------------------

### 合計

借方列と貸方列の合計を表示します。

### 差異

借方合計と貸方合計の差異を表示します。

### 新規作成

[仕訳帳](#)または[テンプレート](#)を作成する場合に選択します。

### 情報

ウィンドウに表示されている仕訳帳についての[情報](#)を表示する場合に選択します。

### 承認

ウィンドウに表示されている仕訳帳を[承認](#)する場合に選択します。承認は、転記前の仕訳帳のみに対して可能です。仕訳帳は、アプリケーションに対して [ステータスの承認] オプションが選択されているときのみに承認できます。

### 転記

ウィンドウに表示されている仕訳帳を[転記](#)して、その調整データをデータベースに反映させる場合を選択します。アプリケーションに対して [承認済] ステータスが選択されているときにのみ承認済みの仕訳帳を転記できます。

### 編集

ウィンドウに表示されている仕訳帳の転記を取り消して[編集](#)する場合に選択します。自動逆仕訳仕訳帳は、次の期間を開いた後では編集できません。自動逆仕訳済みまたは逆仕訳済みの仕訳帳は編集できません。

### 逆仕訳

ウィンドウに表示されている仕訳帳を逆仕訳する場合に選択します。[逆仕訳](#)できるのは、転記された仕訳帳だけです。

## 【仕訳帳情報】 ダイアログボックスのオプション

仕訳帳番号、ステータス、種別を表示するために使用します。仕訳帳の作成者名、作成日、転記日も表示できます。

### 番号

現在の仕訳帳の番号が表示されます。仕訳帳番号を使わないアプリケーションやデータ種別では、このテキストボックスは使用できません。

## ステータス

現在の仕訳帳のステータスが表示されます。

## 種別

現在の仕訳帳の種別が表示されます。

## 作成者

現在の仕訳帳を作成したユーザ名が表示されます。

## 作成と転記の日時

現在の仕訳帳が作成された日時と転記された日時が表示されます。

# [新規仕訳帳] ダイアログボックスのオプション

仕訳帳を作成するために使用します。

## 仕訳帳、経常テンプレート、標準テンプレート

仕訳帳、標準テンプレート、経常テンプレートのうちどれを作成するかを選択します。

## 標準、自動逆仕訳、親

新規の仕訳帳またはテンプレートが標準、自動逆仕訳、親の仕訳帳のどれであるかを選択します。

## 標準テンプレートを使用

標準テンプレートを元にして仕訳帳を作成する場合に選択します。このチェックボックスは、アプリケーションで標準テンプレートが1つ定義された後に使用可能になります。

## 標準テンプレート

この仕訳帳の作成に使う仕訳帳テンプレートを選択します。このコンボボックスは、[標準テンプレートを使用] チェックボックスを選択した後に使用可能になります。

# [仕訳帳を開く] ダイアログボックスのオプション

[仕訳帳] ウィンドウで仕訳帳を開くために使用します。

## 仕訳帳

仕訳帳またはテンプレートのラベルを入力するか、リストから選択します。

>>

指定した条件を満たす次の仕訳帳またはテンプレートをリスト内で検索する場合に選択します。

<<

指定した条件を満たす前の仕訳帳またはテンプレートをリスト内で検索する場合に選択します。

仕訳帳	標準テンプレート	経常テンプレート
通常	親	自動逆仕訳
転記前	自動逆仕訳済	承認済
転記済	逆仕訳済	保護済
バランス	アンバランス	エンティティ単位でバランス
削除済		

仕訳帳一覧をフィルタする場合に選択します。[条件] チェックボックスに指定されているすべての条件を満たす仕訳帳のみが仕訳帳一覧に表示されます。

**注：** [削除済] オプションは、アプリケーションの設定で自動番号付けオプションを選択した場合にのみ表示されます。

## 条件

前のオプション一覧にさらにフィルタするために、[372 ページの「\[条件\] ダイアログボックスのオプション」](#)を開く場合に選択します。

# [条件] ダイアログボックスのオプション

リストに表示する仕訳帳の範囲を狭めるために使用します。

## 作成者

リストからユーザ名を選択し、そのユーザが作成した仕訳帳のみを表示するようにします。

デフォルト	すべて
-------	-----

## コード

リストからコードを選択し、そのコードを持つ仕訳帳のみを表示するようにします。

デフォルト	すべて
-------	-----

## ラベル

有効な仕訳帳ラベルの文字とワイルドカードの組み合わせを入力し、ワイルドカードの条件に一致するラベルを持つ仕訳帳のみを表示するようにします。

有効なワイルドカード	アスタリスク (*) 疑問符 (?)
------------	--------------------

デフォルト	<なし>
-------	------

## 親

親の ID を入力し、その親のみを調整する仕訳帳を含めるようにします。検索アイコンを選択して、リストから親エンティティの ID を選択することもできます。

デフォルト	<なし>
-------	------

## 作成日時でフィルタ

作成日時によって仕訳帳をフィルタする場合に選択します。

開始日	終了日	開始時刻
終了時刻		

表示する仕訳帳の作成時間の範囲を指定します。これらの編集ボックスは、[作成日時でフィルタ] チェックボックスが選択されているときにのみ使用できます。

## 仕訳帳番号でフィルタ

仕訳帳を仕訳帳番号でフィルタする場合に選択します。このチェックボックスは、仕訳帳番号を使うアプリケーションでのみ使用できます。

## 開始期間、終了期間

一覧に含める仕訳帳の仕訳帳番号の範囲を入力します。これらの編集ボックスは、[仕訳帳番号でフィルタ] チェックボックスがオンになっているときにのみ使用できます。

デフォルト	0 ~ 99999
-------	-----------

## 転記日時でフィルタ

転記された日時によって仕訳帳をフィルタする場合に選択します。

開始日	開始時刻	終了日
終了時刻		

一覧に含める仕訳帳の転記日と時刻の範囲を入力します。これらの編集ボックスは、[転記日時でフィルタ] チェックボックスが選択されているときにのみ使用できます。

## クリア

ダイアログボックス内のすべての値をクリアし、すべてのチェックボックスの選択を解除する場合に選択します。

## 【仕訳帳の承認】 ダイアログボックスのオプション

仕訳帳が正しいことを確認し、転記できるステータスにあることを示すために使用します。

### 使用可能な仕訳帳

承認できる仕訳帳を表示します。このリストに仕訳帳を追加するには、[追加] ボタンと [すべて追加] ボタンを使用します。

有効値	有効なすべての転記前仕訳帳
-----	---------------

### 追加

[使用可能な仕訳帳] リストでハイライトした仕訳帳を [承認する仕訳帳] リストに追加する場合に選択します。

### すべて追加

[使用可能な仕訳帳] リストの中の仕訳帳を [承認する仕訳帳] リストにすべて追加する場合に選択します。

### 承認する仕訳帳

[OK] をクリックするとステータスが [承認済] に変更される仕訳帳が表示されます。このリストに仕訳帳を追加するには、[追加] ボタンと [すべて追加] ボタンを使用します。

### 除去

ハイライトした仕訳帳を [承認する仕訳帳] リストから除去する場合に選択します。

### すべて除去

[承認する仕訳帳] リストにあるすべての仕訳帳を除去する場合に選択します。

通常	自動逆仕訳	親
バランス	アンバランス	エンティティ単位でバランス

[使用可能な仕訳帳] リストをフィルタする場合に選択します。チェックボックスで指定した条件の1つを満たす仕訳帳がリストに表示されます。

### 条件

372 ページの「[\[条件\] ダイアログボックスのオプション](#)」を開き、有効な仕訳帳リストにさらに条件を絞ってフィルタする場合に選択します。

## 【仕訳帳の転記】 ダイアログボックスのオプション

仕訳帳の調整をデータベースに反映させるために使用します。

## 使用可能な仕訳帳

転記を取り消すことのできる仕訳帳を表示します。このリストに仕訳帳を追加するには、[追加] ボタンと [すべて追加] ボタンを使用します。

有効値	有効なすべての転記前または承認済み仕訳帳
-----	----------------------

## 追加

[使用可能な仕訳帳] リストでハイライトした仕訳帳を [転記する仕訳帳] リストに追加する場合に選択します。

## すべて追加

[使用可能な仕訳帳] リストの中のすべての仕訳帳を [転記する仕訳帳] リストに追加する場合に選択します。

## 転記する仕訳帳

[OK] をクリックするとステータスが [転記済] に変更される仕訳帳が表示されます。このリストに仕訳帳を追加するには、[追加] ボタンと [すべて追加] ボタンを使用します。

## 除去

ハイライトした仕訳帳を [転記する仕訳帳] リストから除去する場合に選択します。

## すべて除去

[転記する仕訳帳] リストにあるすべての仕訳帳を除去する場合に選択します。

通常	自動逆仕訳	親
バランス	アンバランス	エンティティ単位でバランス

[使用可能な仕訳帳] リストをフィルタする場合に選択します。チェックボックスで指定した条件の 1 つを満たす仕訳帳がリストに表示されます。

## 条件

372 ページの「[条件] ダイアログボックスのオプション」を開き、有効な仕訳帳リストにさらに条件を絞ってフィルタする場合に選択します。

# 【仕訳帳の再転記】 ダイアログボックスのオプション

データベースに反映させた仕訳帳の調整を元に戻すために使用します。

## 使用可能な仕訳帳

転記できる仕訳帳を表示します。リストから仕訳帳を選択して [追加] を選ぶと、これらの仕訳帳が [再転記する仕訳帳] リストに追加されます。すべての仕訳帳を [再転記する仕訳帳] リストに追加するには、[すべて追加] を選択します。

有効値	有効なすべての転記済みの仕訳帳
-----	-----------------

## 追加

「使用可能な仕訳帳」リストでハイライトした仕訳帳を「再転記する仕訳帳」リストに追加する場合に選択します。

## すべて追加

「使用可能な仕訳帳」リストの中の仕訳帳を「再転記する仕訳帳」リストにすべて追加する場合に選択します。

## 再転記する仕訳帳

「OK」をクリックするとステータスが「転記前」に変更される仕訳帳が表示されます。このリストに仕訳帳を追加するには、「追加」ボタンと「すべて追加」ボタンを使用します。選択した1つまたは複数の仕訳帳をこのリストから除去するには「除去」を選択し、このリストにあるすべての仕訳帳を除去するには「すべて除去」を選択します。

## 除去

ハイライトした仕訳帳を「再転記する仕訳帳」リストから除去する場合に選択します。

## すべて除去

「再転記する仕訳帳」リストにあるすべての仕訳帳を除去します。

通常	自動逆仕訳	親
バランス	アンバランス	エンティティ単位でバランス

「使用可能な仕訳帳」リストをフィルタする場合に選択します。チェックボックスで指定した条件の1つを満たす仕訳帳がリストに表示されます。

## 条件

372 ページの「[\[条件\] ダイアログボックスのオプション](#)」を開き、有効な仕訳帳リストにさらに条件を絞ってフィルタする場合に選択します。

# 「仕訳帳の抽出 - 全期間」ダイアログボックスのオプション

現在のデータ種別の仕訳帳を ASCII テキストファイルにコピーするために使用します。

## ファイル名

抽出ファイルのファイル名を入力するか、「参照」を選択してファイルを検索します。

## 区切り文字

抽出した仕訳帳内のデータ項目を区切る文字を入力します。

デフォルト	感嘆符 (!)

## 転記済仕訳帳を転記前として抽出

転記済みステータスを持つ仕訳帳を転記前として抽出する場合に選択します。

**注：**「転記済仕訳帳を転記前として抽出」を選択した場合は、転記済み仕訳帳に転記前のステータスが付けられます。ASCII ファイルでは、転記済み仕訳帳のステータスは所有率の移動を表す T となり、システムが仕訳帳テキストファイルを読み込むときには転記前の仕訳帳と同じ取り扱いになります。

仕訳帳	標準テンプレート	経常テンプレート
通常	自動逆仕訳	親
転記前	転記済	自動逆仕訳済
承認済	逆仕訳済	保護済

テキストファイルに抽出する仕訳帳を選択します。チェックボックスで指定した条件の 1 つを満たす仕訳帳のみが抽出されます。

## 【仕訳帳の抽出 - 単一期間】 ダイアログボックスのオプション

現在の期間の仕訳帳を ASCII テキストファイルにコピーするために使用します。

### ファイル名

抽出ファイルのファイル名を入力するか、「参照」を選択してファイルを検索します。

## 区切り文字

抽出した仕訳帳内のデータ項目を区切る文字を入力します。

デフォルト	感嘆符 (!)

## 転記済仕訳帳を転記前として抽出

転記済みステータスを持つ仕訳帳を転記前として抽出する場合に選択します。

**注：**「転記済仕訳帳を転記前として抽出」を選択した場合は、転記済み仕訳帳に転記前のステータスが付けられます。ASCII ファイルでは、転記済み仕訳帳

のステータスは所有率の移動を表す T となり、システムが仕訳帳テキストファイルを読み込むときには転記前の仕訳帳と同じ取り扱いになります。

## 【仕訳帳の読込】 ダイアログボックスのオプション

現在のデータ種別の転記前仕訳帳と仕訳帳テンプレートを ASCII テキストファイルから読み込むために使用します。

### ファイル名

読み込みファイルのファイル名を入力するか、[参照] を選択してファイルを検索します。

### 区切り文字

読み込むテキストファイル内のデータ項目を区切る文字を選択します。

デフォルト	感嘆符 (!)
-------	---------

### バージョン 1.8 の書式を使用

Hyperion Enterprise 1.8x または Hyperion Enterprise SE の書式を使うファイルから仕訳帳を読み込む場合に選択します。

仕訳帳	標準テンプレート	経常テンプレート
通常	自動逆仕訳	親
転記前	転記済	自動逆仕訳済
承認済	逆仕訳済	保護済

テキストファイルから読み込む仕訳帳の仕訳帳属性を選択します。チェックボックスで指定した条件の 1 つを満たす仕訳帳のみが読み込まれます。

## 【仕訳帳の削除】 ダイアログボックスのオプション

不要になった転記前仕訳帳または仕訳帳テンプレートをアプリケーションから削除するために使用します。

### 使用可能な仕訳帳

削除できる仕訳帳を表示します。リストから仕訳帳を選択して [追加] を選択すると、これらの仕訳帳が [削除する仕訳帳] リストに追加されます。すべての仕訳帳を [削除する仕訳帳] リストに追加するには、[すべて追加] を選択します。

有効値	有効なすべての転記前、承認済み、または逆仕訳済み仕訳帳
-----	-----------------------------

### 追加

ハイライトした仕訳帳を [使用可能な仕訳帳] リストから [削除する仕訳帳] リストに追加する場合に選択します。

## すべて追加

「使用可能な仕訳帳」リストの中の仕訳帳を「削除する仕訳帳」リストにすべて追加する場合に選択します。

## 削除する仕訳帳

「OK」をクリックすると削除される仕訳帳が表示されます。このリストに仕訳帳を追加するには、「追加」ボタンと「すべて追加」ボタンを使用します。選択した1つまたは複数の仕訳帳をこのリストから除去するには「除去」を選択し、このリストにあるすべての仕訳帳を除去するには「すべて除去」を選択します。

## 除去

ハイライトした仕訳帳を「削除する仕訳帳」リストから除去する場合に選択します。

## すべて除去

「削除する仕訳帳」リストにあるすべての仕訳帳を除去します。

標準	経常	
通常	自動逆仕訳	親
転記前	逆仕訳済	承認済
バランス	エンティティ単位でバランス	アンバランス

「使用可能な仕訳帳」リストをフィルタする場合に選択します。チェックボックスで指定した条件の1つを満たす仕訳帳がリストに表示されます。

## 条件

372 ページの「[「条件」ダイアログボックスのオプション](#)」を開き、有効な仕訳帳リストにさらに条件を絞ってフィルタする場合に選択します。

# 「仕訳帳レポート」ダイアログボックスのオプション

レポート実行時に仕訳帳のステータスに関する情報を表示するために使用します。

380 ページの「[「仕訳帳レポート」ダイアログボックスのオプション：「標準列」タブ](#)」

レポートの標準情報の列を設定するために使用します。

380 ページの「[「仕訳帳レポート」ダイアログボックスのオプション：「オプションの列」タブ](#)」

レポートのオプション情報列を選択するために使用します。

## 印刷

指定したレポートを印刷する場合に選択します。

## プレビュー

指定したレポートをプレビューウィンドウに表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## デフォルト設定

今後仕訳帳レポートを作成するときに現在の設定をデフォルトとして使用する場合に選択します。

# 【仕訳帳レポート】ダイアログボックスのオプション：【標準列】タブ

レポートの標準情報列を設定するために使用します。

## 第1列～第8列の属性

レポートの各列に含める属性を選択します。

有効値	仕訳帳ラベル、番号、勘定科目 ID、勘定科目の説明、エンティティ、エンティティ説明、借方金額、貸方金額、<なし>
-----	--

**注：** ある列に対して<なし>を選択した場合、その列の領域はレポート内では確保されません。その列幅はゼロとみなされます。

## 第1列～第4列のソート

各列の属性でレポート内の仕訳帳をソートするかどうかを選択します。前のセッションでデフォルトを変更した場合を除き、ソートはどの列でも行われない設定になっています。

仕訳帳のソートの条件は4つまで指定できます。ソートは前の列でソートを行った場合にのみ、次の列でも行うことができます。

## 第1列～第8列の幅

レポート内の各列の幅を入力します。

デフォルト	20 または【デフォルト設定】ボタンを使って指定した数値
-------	------------------------------

# 【仕訳帳レポート】ダイアログボックスのオプション：【オプションの列】タブ

レポートのオプション情報列を選択するために使用します。

入力日	入力時刻	転記日
転記時刻	コード	入力者
承認者	転記者	説明

レポートに含めるオプション情報を選択します。

### 幅

レポートに含める各列の幅を入力します。

デフォルト	20 または [デフォルト設定] ボタンを使って指定した数値
-------	--------------------------------

### 行

レポート内の各仕訳帳の説明に使う行数を入力します。

デフォルト	1 または [デフォルト設定] ボタンを使って指定した数値
-------	-------------------------------

## 【記録レポート】 ダイアログボックスのオプション

選択した仕訳帳の完全な監査証跡を表示するために使用します。

381 ページの「[【記録レポート】 ダイアログボックスのオプション : \[標準列\] タブ](#)」

レポートの標準情報の列を設定するために使用します。

382 ページの「[【記録レポート】 ダイアログボックスのオプション : \[オプションの列\] タブ](#)」

レポートのオプション情報列を選択するために使用します。

### 印刷

指定したレポートを印刷する場合に選択します。

### プレビュー

指定したレポートをプレビューウィンドウに表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

### デフォルト設定

今後記録レポートを作成するときに現在の設定をデフォルトとして使用する場合に選択します。

## 【記録レポート】 ダイアログボックスのオプション : [標準列] タブ

レポートの標準情報列を設定するために使用します。

### 第1列～第8列の属性

レポートの各列に含める属性を選択します。

有効値	仕訳帳ラベル、番号、勘定科目 ID、勘定科目の説明、エンティティ、エンティティ説明、借方金額、貸方金額、<なし>
-----	--

**注：** ある列に対して<なし>を選択した場合、その列の領域はレポート内では確保されません。その列幅はゼロとみなされます。

### 第 1 列～第 4 列のソート

各列の属性でレポート内の仕訳帳をソートするかどうかを選択します。前のセッションでデフォルトを変更した場合を除き、ソートはどの列でも行われない設定になっています。

仕訳帳のソートの条件は 4 つまで指定できます。ソートは前の列でソートを行った場合にのみ、次の列でも行うことができます。

### 第 1 列～第 8 列の幅

レポート内の各列の幅を入力します。

デフォルト	20 または [デフォルト設定] ボタンを使って指定した数値
-------	--------------------------------

## 【記録レポート】ダイアログボックスのオプション：[オプションの列] タブ

レポートのオプション情報列を選択するために使用します。

入力日	入力時刻	転記日
転記時刻	コード	入力者
承認者	転記者	説明
サマリー情報		

レポートに含めるオプション情報を選択します。

### 幅

レポートに含める各列の幅を入力します。

デフォルト	20 または [デフォルト設定] ボタンを使って指定した数値
-------	--------------------------------

### 行

レポート内の各仕訳帳の説明に使う行数を入力します。

デフォルト	1 または [デフォルト設定] ボタンを使って指定した数値
-------	-------------------------------

## 【試算表レポート】 ダイアログボックスのオプション

選択した勘定科目の残高を確認するために使用します。

勘定科目	期首残高	仕訳帳名
仕訳帳番号	借方値	貸方値
期末残高		

レポートに含める各列の幅を入力します。

デフォルト	勘定科目 : 20 期首残高 : 15 仕訳帳名 : 20 仕訳帳番号 : 12 借方値 : 15 貸方値 : 15 期末残高 : 15
ヒント :	【デフォルト設定】 ボタンを使って別の列幅を指定することもできます。

### 印刷

指定したレポートを印刷する場合に選択します。

### プレビュー

指定したレポートをプレビューウィンドウに表示する場合に選択します。

### デフォルト設定

次にレポートを作成するときに現在の設定をデフォルトとして使用する場合に選択します。

## 【勘定科目の選択】 ダイアログボックスのオプション

試算表レポートと記録仕訳帳レポートに含める勘定科目を選択するために使用します。

### 勘定科目

勘定科目 ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

入力勘定	算出勘定
連動表示勘定科目	

〔勘定科目〕 リストに表示する勘定科目をフィルタする場合に選択します。入力、算出、連動表示の各勘定科目、またはこれらの組み合わせを表示できます。

## 連結のウィンドウとダイアログボックス

### 〔連結〕 ウィンドウのオプション

子のエンティティからデータを収集して、親のエンティティに集計するために使用します。

#### 〔エンティティ〕 列

現在の組織のエンティティを表示します。展開すると、さらに多くのエンティティを表示できます。

#### 〔期間〕 列

現在のデータ種別にある期間のステータスを表示します。連結ステータスについては、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「連結ステータス」の章を参照してください。

### 〔連結詳細レポートの選択〕 ダイアログボックスのオプション

選択した単一のエンティティと、単一の勘定科目、すべての勘定科目、ある範囲の勘定科目の連結詳細に関するレポートを表示するために使用します。

#### 親の選択

親を選択します。

デフォルト	エンティティに複数の親がある場合はリストの最初の親
-------	---------------------------

エンティティ	比率	親の調整
換算	消去	調整後

レポートに表示する連結詳細を選択します。

デフォルト	選択
-------	----

## データなしまたはゼロの場合は行を非表示

データのある行のみを表示し、選択した勘定科目に関してゼロを含む行やデータがない行を非表示にする場合に選択します。

デフォルト	選択
-------	----

## レポート単位

レポート単位のオプションを選択します。

有効値	<デフォルト>、0 ~ 9
デフォルト	<デフォルト>

**注：** システムが使用するデフォルトのレポート単位は、データの視点バーの選択内容によって決定されます。例えば、単位値がデータベースモジュールで単位3に設定されている場合、[連結詳細レポート] ダイアログボックスにアクセスすると、デフォルトのレポート単位は3になります。別の単位値を選択することもできます。

## プレビュー

指定された情報を [プレビュー] ウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

# データベースのウィンドウとダイアログボックス

## [データベース] ウィンドウのオプション

アプリケーションのデータを表示および操作するために使用します。

## エンティティ一覧

現在のデータやステータスに関する情報を表示しているエンティティ一覧のエンティティが含まれます。

**注：** [エンティティ一覧] ドロップダウンリストを使用するには、[表示] メニューから [エンティティ一覧] を選択し、エンティティ一覧を選択する必要があります。

## 期間のステータスエリア

個々の期間のデータのステータスが含まれます。期間のステータスエリアには、次の表に示す3つのステータスのいずれかが表示されます。

ステータス	意味
-------	----

保護済	この期間は「保護」オプションを使って保護されています。保護済期間の勘定科目データは表示できますが、変更することはできません。
仕訳帳保護済	この期間の現在のエンティティについて仕訳帳が転記されています。エンティティのデータを変更するには、他の仕訳帳を転記する必要があります。
計算式の実行	この期間のデータは変更されています。勘定科目の値を再計算するには、計算式を実行する必要があります。データ入力表への手動データ入力、データベースへのデータ挿入、またはデータの読み込みを行うと、データが変更される場合があります。

## 「勘定科目」列

勘定グループを表示します。展開すると、勘定科目を表示できます。

## 「期間」列

現在のデータ種別の期間に関するデータを表示します。

## 「計算式」領域

ハイライトされた勘定科目の計算式が定義されている場合、それを表示します。この領域は、[388 ページの「\[データベースオプション\] ダイアログボックスのオプション」](#)の「計算式の表示」を選択した場合にのみ表示されます。

## 「情報」領域

連結詳細の現在の期間単位、表示形式、単位、小数点以下の桁数、親のエンティティ、および表示タイプを表示します。

# 「データの読込」ダイアログボックスのオプション

データを ASCII テキストファイルからアプリケーションに読み込むために使用します。

## ファイル名

リストの読み込みファイルを追加または除去するには、「追加」または「除去」を選択します。

## 読込エラーファイル

読み込みエラーファイルの名前を表示します。データベースがデータを受け入れられない場合、システムはこのファイルを作成し、読み込まれなかったデータを保管します。

「読込エラーファイル」編集ボックスでは、エラーファイルに任意の名前を指定できます。デフォルトで、エラーファイルはデータの読み込み元のディレクトリに保存されます。

デフォルト名	ユーザ名に「.ERR」を付けたもの
--------	-------------------

詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「データの読み込みと抽出」の章を参照してください。

## 書式

読み込みファイルの書式を選択するか、[デフォルト] を選択してデフォルトの書式を使用します。選択した書式を編集するには、[編集] ボタンをクリックします。

デフォルト	デフォルト
-------	-------

## 編集

選択した読み込み書式をこの読み込みセッションに限って[391 ページの「\[書式\] ダイアログボックスのオプション」](#)で編集する場合に選択します。

## 計算式の実行

データの読み込み時にシステムが入力ロジックを実行するようにする場合に選択します。[計算式の実行] チェックボックスをオフにした場合は、ファイルを読み込んだ後に手動で[計算式を実行](#)する必要があります。

## 算出勘定の記録

算出勘定に読み込まれるデータを追跡する場合に選択します。結果は Hyperion Enterprise のエラーログで表示できます。

## データなしはゼロ

Hyperion Enterprise 勘定科目に前期のデータがある場合に、読み込みファイルのデータなしをその勘定科目ではゼロ値に変換するときに選択します。

## 累計、置換、結合

アプリケーションに値を読み込む方法を選択します。

- [累計] は、読み込みファイルの値をアプリケーションの値に追加します。
- [置換] は、読み込みファイルで指定された期間のすべての勘定科目から既存の値をクリアし、それを読み込みファイルの値で置換します。
- [結合] は、読み込みファイルで指定された勘定科目からのみ既存の値をクリアし、それを読み込みファイルの値で置換します。

**注：** 同一のエンティティと勘定科目の組み合わせが読み込みファイルの中で複数存在する場合、これらの値はデータベースに読み込まれる前に合計されます。

## [データの抽出] ダイアログボックスのオプション

アプリケーションのデータを ASCII テキストファイルにコピーするために使用します。

### ファイル名

抽出ファイルのファイル名を入力するか、[参照] を選択してファイルを検索します。

## 書式

抽出ファイルの書式を選択します。

デフォルト	デフォルト
-------	-------

## 編集

選択した抽出書式をこの抽出セッションに限って391 ページの「[\[書式\] ダイアログボックスのオプション](#)」で編集する場合に選択します。

## 算出勘定、共通勘定

算出勘定、共通勘定、またはその両方からデータを抽出するために選択します。

# [データベースオプション] ダイアログボックスのオプション

[データベース] ウィンドウでのデータの表示方法を指定するために使用します。

## ラベル、説明

[勘定科目] 列に勘定科目の ID と説明のどちらを表示するかを選択します。

デフォルト	ID
-------	----

## 勘定科目、データ

勘定科目と期間の列に表示する文字数を入力します。

有効値	1 ～ 40
デフォルト	勘定科目列：21 期間列：14

## 自動再計算

[データベース] ウィンドウに値を入力するたびに、すべてのデータの計算式を実行する場合に選択します。

## 計算式の表示

[データベース] ウィンドウでハイライトした勘定科目の計算式を表示する場合に選択します。

## フォントの変更

[フォントの指定] ダイアログボックスを使って、[データベース] ウィンドウのすべてのテキストのフォント、スタイル、サイズを変更する場合に選択します。

# [新規書式] ダイアログボックスのオプション

データ書式を作成するために使用します。

## 書式

新規書式の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	--------------------------------

## 説明

書式の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## セキュリティクラス

書式のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 読込、抽出

書式をデータの読み込み、抽出、またはその両方に使用することを示すために選択します。

# 【書式を開く】ダイアログボックスのオプション

データ書式を開くために使用します。

## 書式

書式 ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の書式をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の書式をリスト内で検索する場合に選択します。

## 読込、抽出

[書式] リストに読み込み書式、抽出書式、またはその両方を含めるために選択します。

# 【書式の削除】ダイアログボックスのオプション

データ書式をアプリケーションから削除するために使用します。

## 書式

書式 ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の書式をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の書式をリスト内で検索する場合に選択します。

## 読込、抽出

[書式] リストに読み込み書式、抽出書式、またはその両方を含めるために選択します。

## [書式属性] ダイアログボックスのオプション

データ書式の ID、説明、セキュリティクラス、タイプを変更するために使用します。

## 書式

書式の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

## 説明

書式の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力したラベル
-------	---------

## セキュリティクラス

書式のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 読込、抽出

書式をデータの読み込み、抽出、またはその両方に使用することを示すために選択します。

## [書式のコピー] ダイアログボックスのオプション

データ書式を既存のデータ書式に基づいて作成するために使用します。

## 元の書式

コピーする書式を選択します。

デフォルト	デフォルト
-------	-------

## 新規書式

新規書式の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	` ~ ! @ # % ^ & * ( ) - + = { } [ ] \   ; : " ' < > , . ? /
----	---

## 説明

書式の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## 読込、抽出

[元の書式] ドロップダウンリストに、読み込み書式、抽出書式、またはその両方を含めるために選択します。

# [書式] ダイアログボックスのオプション

データ書式のオプションを選択するために使用します。

## 区切り文字

テキストファイルのデータ要素を分割する区切り文字または文字を入力します。

デフォルト	カンマ (,)
-------	---------

**注：** 負の値を示す文字とは異なるものを使用してください。

## 負数

負の値を示す文字を入力します。ピリオド (.) と英数字以外のすべての文字を指定できます。左括弧または右括弧のどちらかをマイナス記号として使用する場合、負の値は括弧で囲まれて表示されます。

デフォルト	マイナス記号 (-)
-------	------------

**注：** 区切り文字とは異なるものを使用してください。

## 勘定科目、エンティティ

データの読み込みと抽出に使用する勘定科目変換表とエンティティ変換表を選択します。

デフォルト	<なし>
-------	------

## 演算

データの読み込み時または抽出時に実行する算術演算を選択します。

有効値	<なし>、乗算、除算
デフォルト	<なし>

## 乗数/除数

テキストファイルの値に対して乗数または除数として使用する値を入力します。このオプションは、[演算] ドロップダウンリストで[乗算] または [除算] を選択した場合のみ使用できます。

## 小数表示

データ抽出時の小数点以下の桁数を指定するために選択します。この編集ボックスを空白のままにすると、各勘定科目の定義で指定した桁数が使用されます。

有効値	<空白>、1 ～ 9
デフォルト	<空白>

抽出した値の小数桁表示が指定した小数桁表示よりも大きい場合は、値は指定した小数桁表示に四捨五入されます。抽出した値の小数桁表示が指定した小数桁表示よりも小さい場合は、指定した桁数に合わせてゼロが挿入されます。

**注：** [小数表示] オプションは、データ読み込み書式では使用できません。

## ファイル拡張子

読み込みデータファイルまたは抽出データファイルのファイル拡張子を選択します。386 ページの「[データの読込] ダイアログボックスのオプション」と 387 ページの「[データの抽出] ダイアログボックスのオプション」に表示されるデータファイルのリストは、この拡張子を使ってフィルタにかけられます。

デフォルト	.DAT
-------	------

## 単位

読み込みデータまたは抽出データの単位を選択します。データ種別とエンティティに指定した単位は、データ書式で指定した単位で上書きされます。

有効値	<なし> 0 (単位) 1 (+) 2 (百) 3 (千)
-----	---

	4 (万)
	5 (十万)
	6 (百万)
	7 (千万)
	8 (億)
	9 (十億)
デフォルト	<なし>

### すべて表示、ゼロ/データなしを非表示、値の挿入

選択されたすべての期間について値がゼロまたはデータなしである勘定科目から、システムが値を抽出しないようにするかどうかを選択します。

### 表示形式

書式のデータ表示形式を選択します。

有効値	データ種別、期別、データ種別累計
デフォルト	データ種別

**注：** デフォルトのデータ種別以外の表示形式オプションを選択すると、データが永久的に変更される可能性があります。

### エラーファイル名

データ読み込みエラーファイル (ERR) の名前として、データの読み込みを実行するユーザ名と元の読み込みファイル名のどちらを指定するかを選択します。

### 派生値の抽出

選択された期間の派生値を抽出する場合に選択します。

### チェックサムの要求

読み込みファイルのレコードを実際に Hyperion Enterprise に読み込まれたレコードと照合して検証する場合に選択します。詳しくは、『Hyperion Enterprise ユーザガイド』の「データの読み込みと抽出」の章を参照してください。

### リセット

オプションを初期のデフォルト設定にリセットする場合に選択します。データ読み込みまたはデータ抽出のプロセスでこのオプションを選択すると、変更されたすべてのオプションが、最後に保存された状態にリセットされます。

## 【特殊貼り付け】 ダイアログボックスのオプション

貼り付けるデータに対して算術演算を実行するために使用します。

## 累計、置換

データベースに値を貼り付ける方法を選択します。

- [累計] は、クリップボードの値をアプリケーションの値に追加します。
- [置換] は、ハイライトされたすべての勘定科目から既存の値をクリアし、それをクリップボードの値で置換します。クリップボードに値がない場合、指定された期間はクリアされます。

デフォルト	置換
-------	----

## 加算、減算、乗算、除算

値をデータベースに貼り付けるときの値の変更方法を選択します。

- [加算] を選択すると、データの貼り付け時に、クリップボードの値が [乗数/除数/加数/減数] 編集ボックスで指定された値に加えられます。
- [減算] を選択すると、データの貼り付け時に、クリップボードの値が [乗数/除数/加数/減数] 編集ボックスで指定された値から差し引かれます。
- [乗算] を選択すると、データの貼り付け時に、クリップボードの値が [乗数/除数/加数/減数] 編集ボックスで指定された値で掛け合わされます。
- [除算] を選択すると、データの貼り付け時に、クリップボードの値が [乗数/除数/加数/減数] 編集ボックスで指定された値で割られます。

デフォルト	算術演算なし
-------	--------

## 乗数/除数

データの貼り付け時にクリップボードの値に対して加数、減数、乗数、除数として使用する値を入力します。

## 【値の挿入】 ダイアログボックスのオプション

データベースの選択された部分に固定値またはランダム値を挿入するために使用します。

### 挿入値

選択されたデータブロックに挿入する値を入力します。値を指定しないと、選択されたデータブロックにランダム値が貼り付けられます。

デフォルト	<空白>
-------	------

## 【勘定科目一覧の表示】 ダイアログボックスのオプション

単一の勘定科目一覧にある勘定科目のみを表示するために使用します。

### 勘定科目一覧

勘定科目一覧の ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の勘定科目一覧 ID をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の勘定科目一覧 ID をリスト内で検索する場合に選択します。

### 連動一覧、固定一覧

〔勘定科目一覧〕リストに連動勘定科目一覧、固定勘定科目一覧、またはその両方を含めるために選択します。

## 〔子の連結詳細レポート〕ダイアログボックスのオプション

単一の勘定科目の値について、すべての直属の子とその連結詳細コンポーネントを一覧表示するために使用します。

エンティティ	換算	比率
消去	親の調整	調整後

レポートに使う子とその連結詳細コンポーネントを選択します。直属の子は常に、〔データの視点〕バーで選択された親エンティティの直属の子です。デフォルトでは、すべての子が選択されます。

デフォルト	オン
-------	----

### データなしまたはゼロの場合は行を非表示

データが含まれているフィールドのみをレポートに表示し、選択した勘定科目のデータがなしまたはゼロである子エンティティのフィールドを非表示にする場合にオンにします。

デフォルト	オン
-------	----

### レポート単位

レポート単位のオプションを選択するために使用します。<デフォルト>または 0 ～ 9 の値を選択します。

### プレビュー

指定された情報を〔プレビュー〕ウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## [エンティティ一覧の表示] ダイアログボックスのオプション

単一のエンティティ一覧にあるエンティティのみを表示するために使用します。

### エンティティ一覧

エンティティ一覧 ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のエンティティ一覧をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のエンティティ一覧をリスト内で検索する場合に選択します。

### 連動一覧、固定一覧

[エンティティ一覧] リストに連動エンティティ一覧、固定エンティティ一覧、またはその両方を含めるために選択します。

## [エンティティ詳細レポート] ダイアログボックスのオプション

特定の親エンティティに関するエンティティ詳細情報のレポートを作成するために使用します。

### 直属の子、すべての子

レポートの行に、指定された親エンティティの直属の子の情報のみを表示するか、すべての子の情報を表示するかを選択します。

デフォルト	すべての子
-------	-------

### 展開なし

勘定科目の値を 1 列だけ表示する場合に選択します。

デフォルト	選択解除
-------	------

### 仕訳帳入力

勘定科目に関連した仕訳帳入力項目を持つすべてのエンティティの列に、仕訳帳入力項目（借方、貸方、仕訳帳、勘定科目）を含める場合に選択します。勘定科目が主要勘定科目である場合、レポートは第 1 レベルと第 2 レベルのサブ勘定科目の仕訳帳入力項目を表示します。

デフォルト	選択
-------	----

## レポート単位

レポート単位のオプションを選択するために使用します。

有効値	<デフォルト>
	0（単位）
	1（十）
	2（百）
	3（千）
	4（万）
	5（十万）
	6（百万）
	7（千万）
	8（億）
	9（十億）
デフォルト	〔データの視点〕 パーの単位に基づく

## データなしまたはゼロの場合は行を非表示

ゼロを含む行やデータがない行を非表示にする場合に選択します。

デフォルト	選択
-------	----

## 連結詳細の表示

エンティティセットの親の連結詳細をデータの視点に表示する場合に選択します。  
〔親の選択〕 ドロップダウンリストを使って、直属の親を選択します。

**注：** 変換、比率、親の調整の消去、および調整後から、選択した親のすべての連結コンポーネントを表示します。

デフォルト	選択
-------	----

## 親の選択

親を選択します。

デフォルト	エンティティに複数の親がある場合はリストの最初の親
-------	---------------------------

## プレビュー

指定された情報を〔プレビュー〕ウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## [連結詳細の抽出] ダイアログボックスのオプション

1 つまたは複数のグループに関する連結詳細を抽出するために使用します。

### 現在のグループとすべてのサブグループ、現在のグループのみ

現在のグループとすべてのサブグループの連結詳細、または現在のグループのみの連結詳細を抽出するために選択します。現在のグループのすべてのレベルを選択するには、[現在のグループとすべてのサブグループ] を選択します。現在のグループの第 1 レベルのみを選択するには、[現在のグループのみ] を選択します。

**注：** [現在のグループのみ] を選択すると、リストと [すべてを選択] チェックボックスが使用可能になります。

デフォルト	現在のグループとすべてのサブグループ	
換算	比率	消去
親の調整	調整後	

抽出する連結詳細を選択します。

デフォルト	すべて選択
-------	-------

### 外部アプリケーションの書式、Hyperion Enterprise の書式

出力書式を選択します。

デフォルト	Hyperion Enterprise の書式
-------	-------------------------

### エンティティ連結文字

内部アプリケーションの書式に使用する連結文字を入力します。アプリケーション ID に使用できない文字を使用します。

デフォルト文字	パイプ記号 ( )
---------	-----------

## 計算式のウィンドウとダイアログボックス

### [ロジック] ウィンドウのオプション

Hyperion Enterprise でデータの計算に使用する入力ロジック、換算ロジック、および連結ロジックを定義するために使用します。

#### 計算式

選択された勘定科目とデータ種別の計算式を入力します。[編集] メニューの [要素の貼り付け] メニューコマンドを使用して、データ種別、勘定科目、エンティ

ティ、または関数を [計算式] 編集ボックスに貼り付けることができます。また、[関数] リストでカスタム関数または更新ルールをダブルクリックし、正しい構文を [計算式] 編集ボックスに挿入することもできます。

計算式が長すぎて表に収まらない場合は、右矢印キー、左矢印キー、[Home] キー、または [End] キーを使用して表示できます。

## コメント

選択された勘定科目とデータ種別の計算式に関するコメントを入力します。コメントが長すぎて編集ボックスに収まらない場合は、右矢印キー、左矢印キー、[Home] キー、または [End] キーを使用して表示します。

## ロジック表

この表を使用して、すべてのデータ種別または特定のデータ種別の勘定科目に計算式を指定します。行に勘定科目を表示し、列にデータ種別を表示します。[すべてのデータ種別] 列で勘定科目に指定された計算式は、アプリケーション内のすべてのデータ種別に適用されます。すべてのデータ種別の勘定科目に指定された計算式は、特定のデータ種別の勘定科目に指定された計算式によって上書きされます。

計算式が長すぎて列に収まらない場合は、列幅を広げて表示します。

## 関数

表に挿入する関数、更新ルール、またはカスタム関数を選択します。セルを選択したら、そのセルに関数を入力するか、関数をダブルクリックして挿入するか、[計算式] 編集ボックスにカーソルを置いて [要素の貼り付け] から [関数] を選択します。

## 関数、カスタム関数、更新ルール

[関数] リストに表示する関数の種別を選択します。標準の Hyperion Enterprise 関数、カスタム関数、更新ルール、またはこれらのオプションの任意の組み合わせを選択できます。操作中の特定のロジックのタイプで有効な関数だけがリストで選択できます。

## 演算子

計算式の構築に使用できる有効な演算子を表示します。

## 支援

405 ページの「[\[関数設定支援\] ダイアログボックスのオプション](#)」を表示する場合に選択します。[関数設定支援] ダイアログボックスで選択した関数は、[計算式] 編集ボックスに挿入されます。[関数設定支援] ダイアログボックスでは、選択された関数の正しい形式、パラメータ、および数式を入力するようメッセージが表示されます。

**注：** このオプションは、本バージョンでは使用できません。

## 【新規ロジック】ダイアログボックスのオプション

【ロジック】ウィンドウでロジックを作成するために使用します。

### ロジック

ロジックの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	--------------------------------

### 説明

ロジックの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### セキュリティクラス

ロジックのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	【アプリケーションの設定変更】ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

### コード

ロジックのコードを選択します。

有効値	アクセス可能なロジックのコード
デフォルト	<なし>

### 入力、換算、連結

入力、換算、または連結のいずれかのロジック種別を選択します。

デフォルト	入力
-------	----

### Statutory Consolidation Engine

Statutory Consolidation Engine でロジックを使用することを指定する場合に選択します。

## 【ロジックを開く】ダイアログボックスのオプション

【ロジック】ウィンドウに既存のロジックを開くために使用します。

### ロジック

ロジックの ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のロジックをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のロジックをリスト内で検索する場合に選択します。

### 入力、換算、連結

[ロジック] リストに表示するロジックの種別を選択します。

デフォルト	選択
-------	----

### 新規作成

400 ページの「[新規ロジック] ダイアログボックスのオプション」を選択します。このボタンは、[計算式] ウィンドウを最初に開いたときに表示されます。

### チェック

すべてのロジックが Hyperion Enterprise の書式規定に従っていることを確認する場合に選択します。このボタンは、[計算式] ウィンドウを最初に開いたときに表示されます。

## [ロジックのコピー] ダイアログボックスのオプション

[ロジック] ウィンドウの既存のロジックのコピーを選択するために使用します。

### 元のロジック

コピー元のロジックの ID を選択します。

デフォルト	現在のロジックの ID と説明
-------	-----------------

### 新規ロジック

新規コピーの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	--------------------------------

### 説明

説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	現在の更新ルールの説明
-------	-------------

## [ロジック属性] ダイアログボックスのオプション

既存のロジックの ID、説明、セキュリティクラス、またはコードを変更するために使用します。

## ロジック

ロジックの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

デフォルト	開いているロジックのラベル
例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/

## 説明

ロジックの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	開いているロジックの説明
-------	--------------

## セキュリティクラス

ロジックのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## コード

ロジックのコードを選択します。

有効値	アクセス可能なロジックのコード
デフォルト	<なし>

# [サマリー情報] ダイアログボックスのオプション

## サマリー

ロジックを説明するサマリーを入力します。

# [ロジックの削除] ダイアログボックスのオプション

[ロジック] ウィンドウの既存のロジックを削除するために使用します。

## ロジック

ロジックの ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のロジックをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のロジックをリスト内で検索する場合に選択します。

#### 入力、換算、連結

[ロジック] リストに表示するロジックの種別を選択します。

デフォルト	選択
-------	----

## [データ種別の貼り付け] ダイアログボックスのオプション

計算式にデータ種別を貼り付けるために使用します。

#### データ種別

データ種別の ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のデータ種別をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のデータ種別をリスト内で検索する場合に選択します。

## [勘定科目の貼り付け] ダイアログボックスのオプション

計算式に勘定科目を貼り付けるために使用します。

#### 勘定科目

勘定科目 ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の勘定科目をリスト内で検索する場合に選択します。

入力勘定	算出勘定
連動表示勘定科目	

[勘定科目] リストに表示する勘定科目の種別を選択します。入力、算出、連動表示の各勘定科目、またはこれらの組み合わせを表示できます。

デフォルト	入力、算出、サブ勘定科目が選択済
-------	------------------

## [エンティティの貼り付け] ダイアログボックスのオプション

計算式にエンティティを貼り付けるために使用します。

### エンティティ

エンティティ ID を入力するか、一覧から選択します。

<<

指定した条件を満たす前のエンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のエンティティをリスト内で検索する場合に選択します。

### 親、最下位エンティティ、サブエンティティ、親が未定義

[エンティティ] リストに表示するエンティティの種別を選択します。親エンティティ、最下位エンティティ、サブエンティティ、またはこれらのオプションの任意の組み合わせを表示できます。

デフォルト	親エンティティと最下位エンティティが選択済み
-------	------------------------

## [関数の貼り付け] ダイアログボックスのオプション

計算式に標準の Hyperion Enterprise 関数、カスタム関数、または更新ルールを貼り付けるために使用します。

### 関数

標準の Hyperion Enterprise 関数名、カスタム関数、または更新ルールを入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の関数をリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の関数をリスト内で検索する場合に選択します。

### 関数、カスタム関数、更新ルール

[エンティティ] リストに表示するエンティティの種別を選択します。標準の Hyperion Enterprise 関数、カスタム関数、更新ルール、またはこれらのオプションの任意の組み合わせを表示できます。

デフォルト	関数、カスタム関数、更新ルールが選択済み
-------	----------------------

## 【関数設定支援】ダイアログボックスのオプション

メッセージに従って計算式を構築するために使用します。

**注：** このダイアログボックスは、本バージョンでは使用できません。

### 関数

支援が必要な関数を選択します。各関数については、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の「計算式の関数」の章を参照してください。

### 検索付きのパラメータ

選択された関数のパラメータを入力します。

### 貼り付け

[貼り付け] ダイアログボックスが表示され、[パラメータ] 編集ボックスに貼り付ける勘定科目、データ種別、エンティティ、または関数を選択できます。

## 【関数設定支援への貼り付け】ダイアログボックスのオプション

[関数設定支援] ダイアログボックスに関数、勘定科目、エンティティ、またはデータ種別を貼り付けるために使用します。

**注：** このダイアログボックスは、本バージョンでは使用できません。

### 関数

関数を貼り付ける場合に選択します。パラメータとして関数を貼り付けることができない場合は、このオプションは使用できません。[関数] リストは、関数、更新ルール、またはカスタム関数でフィルタできます。

### 勘定科目

勘定科目を貼り付ける場合に選択します。パラメータとして勘定科目を貼り付けることができない場合は、このオプションは使用できません。[勘定科目] リストは、入力、算出、またはサブ勘定科目でフィルタできます。

### エンティティ

エンティティを貼り付ける場合に選択します。パラメータとしてエンティティを貼り付けることができない場合は、このオプションは使用できません。エンティティ一覧は、親、最下位、またはサブエンティティでフィルタできます。

### データ種別

データ種別を貼り付ける場合に選択します。パラメータとしてデータ種別を貼り付けることができない場合は、このオプションは使用できません。

>>

指定した条件を満たす次の勘定科目、データ種別、エンティティ、または関数をリスト内で検索する場合に選択します。

## 【ロジックの使用】 ダイアログボックスのオプション

ロジックの内容を別のロジックに結合するために使用します。

406 ページの「[【ロジックの使用】 ダイアログボックスのオプション：【ロジック】タブ](#)」

現在開いているロジックの内容の結合先ロジック（1 つまたは複数）を選択するために使用します。

406 ページの「[【ロジックの使用】 ダイアログボックスのオプション：【データ種別】タブ](#)」

選択されたロジックを適用するデータ種別（1 つまたは複数）を選択するために使用します。

## 【ロジックの使用】 ダイアログボックスのオプション：【ロジック】タブ

現在開いているロジックの内容の結合先ロジック（1 つまたは複数）を選択するために使用します。

### 使用するロジック

現在のロジックと結合されるロジックをすべて表示します。

### 利用可能なロジック

現在のロジックと結合可能なロジックをすべて表示します。

### 除去

【使用するロジック】 リストでハイライトされたロジック（1 つまたは複数）を除去する場合に選択します。

### 追加

【利用可能なロジック】 リストでハイライトされたロジック（1 つまたは複数）を【使用するロジック】 リストに追加する場合に選択します。

## 【ロジックの使用】 ダイアログボックスのオプション：【データ種別】タブ

選択されたロジックを適用するデータ種別（1 つまたは複数）を選択するために使用します。

### 使用するロジック

現在のロジックに結合するロジックを選択します。

### 使用するデータ種別

選択したロジックに適用するすべてのデータ種別を表示します。

### 利用可能なデータ種別

アプリケーション内で使用可能なデータ種別をすべて表示します。

### 除去

〔使用するデータ種別〕リストでハイライトされたデータ種別（1 つまたは複数）を除去する場合に選択します。

### 追加

〔利用可能なデータ種別〕リストでハイライトされたデータ種別（1 つまたは複数）を〔使用するデータ種別〕リストに追加する場合に選択します。

## 〔データ種別の設定〕ダイアログボックスのオプション

選択されたデータ種別のオプションを指定するために使用します。

### データ種別

データ種別オプションを指定するデータ種別を選択します。

デフォルト	すべて
-------	-----

### 換算

選択されたデータ種別の値を換算する場合に選択します。このオプションは、換算ロジックでのみ使用できます。

### 四捨五入

選択されたデータ種別の値を四捨五入する場合に選択します。このオプションは、すべてのロジック種別で使用可能です。

### 連結

選択されたデータ種別の値を連結する場合に選択します。このオプションは、連結ロジックでのみ使用できます。

### 消去

選択されたデータ種別で会社間消去を処理する場合に選択します。このオプションは、連結ロジックでのみ使用できます。

## 【計算式のリンク】 ダイアログボックスのオプション

現在のロジックでリンクされたデータ種別を表示するために使用します。

### 入力データ種別

リンクされたデータ種別を表示する入力データ種別を選択します。

デフォルト	最後に入力された入力データ種別
-------	-----------------

### 共用

選択した入力データ種別にリンクされたデータ種別を表示します。

デフォルト	最後に入力された入力データ種別にリンクされたデータ種別
-------	-----------------------------

## 【ロジックのチェック】 ダイアログボックスのオプション

選択されたロジックが Hyperion Enterprise の書式規定に従っていることを確認するために使用します。

### ロジックのチェック

チェックするロジックが 1 つの場合はそれを入力し、複数の場合はリストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前のロジックをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のロジックをリスト内で検索する場合に選択します。

### 入力、換算、連結

【ロジック】 リストに表示するロジックの種別を選択します。入力ロジック、換算ロジック、連結ロジック、またはこれらのオプションの任意の組み合わせを表示できます。

デフォルト	選択
-------	----

## 【計算式オプション】 ダイアログボックスのオプション

【ロジック】 ウィンドウ内のロジックの表示オプションを指定するために使用します。

## ラベル、説明

〔勘定科目〕 列に勘定科目のラベルを表示するか、説明を表示するかを選択します。

デフォルト	ラベル
-------	-----

## 勘定科目、計算式

〔勘定科目〕 列と〔計算式〕 列の列幅を入力します。

デフォルト	〔勘定科目〕 列 : 20
	〔計算式〕 列 : 23

## フォント

〔フォント〕 ダイアログボックスを表示する場合に選択します。

# 〔計算式の読込〕 ダイアログボックスのオプション

計算式形式のテキストファイルからロジック、更新ルール、またはカスタム関数を読み込むために使用します。読み込みファイルは特定の形式に従う必要があります。

## 追加、除去

計算式形式のテキストファイルのリストからファイルを追加または除去する場合に選択します。

## 置換、結合

新規ファイルを作成するか、既存の計算式を選択された計算式形式のテキストファイルで置換するか、計算式形式のテキストファイルの内容を既存の計算式と結合するかを選択します。〔置換〕を選択する場合は、ロジック、更新ルール、カスタム関数、またはこれらのオプションの任意の組み合わせを含めることができます。〔結合〕を選択する場合は、ロジックだけを含めることができます。

デフォルト	置換
-------	----

## ロジック、更新ルール、カスタム関数

読み込み処理に含める計算式の種別を選択します。〔置換〕を選択する場合は、ロジック、更新ルール、カスタム関数、またはこれらのオプションの任意の組み合わせを含めることができます。〔結合〕を選択する場合は、ロジックだけを含めることができます。

デフォルト	ロジック、更新ルール、カスタム関数が選択済
-------	-----------------------

## ロジックのチェック

読み込むファイルのロジックをチェックする場合に選択します。

## 【計算式の抽出】 ダイアログボックスのオプション

ロジック、更新ルール、またはカスタム関数をテキストファイルに抽出するために使用します。

### 410 ページの「【計算式の抽出】 ダイアログボックスのオプション : [ファイル] タブ」

抽出する計算式形式のテキストファイルの場所とファイル名を選択するために使用します。

### 410 ページの「【計算式の抽出】 ダイアログボックスのオプション : [ロジック] タブ」

抽出するロジックを選択するために使用します。

### 411 ページの「【計算式の抽出】 ダイアログボックスのオプション : [更新ルール] タブ」

抽出する更新ルールを選択するために使用します。

### 411 ページの「【計算式の抽出】 ダイアログボックスのオプション : [カスタム関数] タブ」

抽出するカスタム関数を選択するために使用します。

## 【計算式の抽出】 ダイアログボックスのオプション : [ファイル] タブ

抽出する計算式形式のテキストファイルの場所とファイル名を選択するために使用します。

### ファイル名

計算式形式のテキストファイルのファイル名を入力するか、[参照] を選択してファイルを検索します。

### すべての計算式を抽出

現在のアプリケーション内のロジック、更新ルール、およびカスタム関数のすべての計算式をテキストファイルに抽出する場合に選択します。

## 【計算式の抽出】 ダイアログボックスのオプション : [ロジック] タブ

抽出するロジックを選択するために使用します。

### ロジック

テキストファイルに抽出するロジック（1 つまたは複数）を選択します。

### すべてを選択

すべてのロジックを選択します。

### すべてクリア

すべての選択されたロジックの選択を解除します。

## **【計算式の抽出】ダイアログボックスのオプション：【更新ルール】タブ**

抽出する更新ルールを選択するために使用します。

### 更新ルール

テキストファイルに抽出する更新ルール（1 つまたは複数）を選択します。

### すべてを選択

すべての更新ルールを選択します。

### すべてクリア

すべての選択された更新ルールの選択を解除します。

## **【計算式の抽出】ダイアログボックスのオプション：【カスタム関数】タブ**

抽出するカスタム関数を選択するために使用します。

### カスタム関数

テキストファイルに抽出するカスタム関数を選択します。

### すべてを選択

すべてのカスタム関数を選択します。

### すべてクリア

すべての選択されたカスタム関数の選択を解除します。

# 【計算式のエクスポート】 ダイアログボックスのオプション

## ファイル名

エクスポートするロジック、カスタム関数、または更新ルールを含むファイル名、ドライブ、ディレクトリを指定します。

# 【更新ルール】 ウィンドウのオプション

値を勘定科目に配賦する更新ルールを定義するために使用します。

## 計算式

選択された勘定科目の計算式を入力します。計算式が長すぎて編集ボックスに収まらない場合は、右矢印キー、左矢印キー、[Home] キー、または [End] キーを使用して表示します。

## 支援

405 ページの「[\[関数設定支援\] ダイアログボックスのオプション](#)」を表示する場合に選択します。[関数設定支援] ダイアログボックスで選択する関数、カスタム関数、または更新ルールは、[計算式] 編集ボックスに挿入されます。[関数設定支援] ダイアログボックスでは、選択された関数の正しい形式、パラメータ、および数式を入力するようメッセージが表示されます。

**注：** このオプションは、本バージョンでは使用できません。

## パラメータ

更新ルールのパラメータを入力します。各パラメータの前にはアットマーク (@) を付け、各パラメータはカンマ (,) で区切ります。

## 更新ルール表

この表を使って、比率表、消去表、またはパートナーの消去表の勘定科目に計算式を指定します。

【勘定科目】 列	値の配賦先の勘定科目を指定するために使用します。
【比率】 列	比率表の選択された勘定科目に計算式を指定するために使用します。
【消去】 列	消去表の選択された勘定科目に計算式を指定するために使用します。
【パートナーの消去】 列	パートナーの消去表の選択された勘定科目に計算式を指定するために使用します。

**注：** 更新ルール内の勘定科目にカスタム関数を指定することもできます。

## 比率、消去、パートナーの消去

表に表示する列を選択します。[比率] 列、[消去] 列、[パートナーの消去] 列、またはこれらのオプションの任意の組み合わせを表示できます。

## 【新規更新ルール】 ダイアログボックスのオプション

[更新ルール] ウィンドウで更新ルールを作成するために使用します。

### ルール

ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>.,?/
----	--------------------------------

### 説明

更新ルールの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### セキュリティクラス

更新ルールのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

### 常時実行

指定された勘定科目にデータが含まれるかどうかにかかわらず、指定された更新ルールを必ず実行する場合に選択します。

### 属性の処理

財務インテリジェンスを使用可能にし、更新ルールで実行される数式が勘定科目種別を区別して処理するようにする場合に選択します。

### 注意事項

更新ルールの使用方法を入力します。

## 【更新ルールを開く】 ダイアログボックスのオプション

[更新ルール] ウィンドウで既存の更新ルールを開くために使用します。

### 更新ルール

更新ルールの ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の更新ルールをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の更新ルールをリスト内で検索する場合に選択します。

## 新規作成

413 ページの「[新規更新ルール] ダイアログボックスのオプション」を使用する場合に選択します。

# [更新ルールのコピー] ダイアログボックスのオプション

[更新ルール] ウィンドウに既存の更新ルールのコピーを作成するために使用します。

## 元のルール

コピー元の更新ルールの ID を選択します。

デフォルト	現在の更新ルール
-------	----------

## 新規ルール

新規コピーの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	--------------------------------

## 説明

説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	開いている更新ルールの説明
-------	---------------

# [更新ルールの属性] ダイアログボックスのオプション

更新ルールの ID、説明、セキュリティクラス、指示、常時実行フラグ、または属性の処理フラグを変更するために使用します。

## ルール

更新ルールの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。ID はアプリケーション内で一意である必要があります。

デフォルト	開いている更新ルールのラベル
例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/

## 説明

更新ルールの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	開いている更新ルールの説明
-------	---------------

## セキュリティクラス

更新ルールのセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 注意事項

選択された更新ルールの使用方法を入力します。

デフォルト	開いている更新ルールの指示
-------	---------------

## 常時実行

指定された勘定科目にデータが含まれるかどうかにかかわらず、指定された更新ルールを実行する場合に選択します。

デフォルト	開いている更新ルールの現在の選択
-------	------------------

## 属性の処理

財務インテリジェンスを使用可能にし、更新ルールで実行される数式が勘定科目種別を区別して処理するようにする場合に選択します。

デフォルト	開いている更新ルールの現在の選択
-------	------------------

# 【更新ルールの削除】 ダイアログボックスのオプション

[更新ルール] ウィンドウの更新ルールを削除するために使用します。

## 更新ルール

更新ルールの ID を入力するか、リストから選択します。

<<

指定した条件を満たす前の更新ルールをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次の更新ルールをリスト内で検索する場合に選択します。

# [カスタム関数] ウィンドウのオプション

独自の関数を定義するために使用します。

## パラメータ

カスタム関数のパラメータを入力します。各パラメータの前にはアットマーク (@) を付け、各パラメータはカンマ (,) で区切ります。

## 支援

**注：** このオプションは、本バージョンでは使用できません。

405 ページの「[\[関数設定支援\] ダイアログボックスのオプション](#)」を表示する場合に選択します。[関数設定支援] ダイアログボックスで選択した関数は、[計算式] 編集ボックスに挿入されます。[関数設定支援] ダイアログボックスでは、選択された関数の正しい形式、パラメータ、および数式を入力するようメッセージが表示されます。

## 入力、換算、連結

カスタム関数のロジック種別を選択します。カスタム関数は入力ロジック、換算ロジック、連結ロジック、またはこれらのオプションの任意の組み合わせで使用できます。

デフォルト	入力
-------	----

## [カスタム関数] 列

カスタム関数の ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

例外	`~!@#%^&*()-+={}[]\ ;:'"<>,.?/
----	--------------------------------

## [計算式] 列

選択されたカスタム関数の計算式を入力します。

計算式が長すぎて列に収まらない場合は、列幅を広げ、スクロールバーを使用して計算式を表示します。右矢印キー、左矢印キー、[Home] キー、または [End] キーを使用して計算式を表示することもできます。

## 注意事項

選択されたカスタム関数の使用方法を入力します。

## 説明

カスタム関数の説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	入力した ID
-------	---------

## セキュリティクラス

カスタム関数のセキュリティクラスを選択します。

有効値	アクセス権を持つセキュリティクラスのみ
デフォルト	[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックスで指定したセキュリティクラス

## 計算式スクリプトエディタ

ロジック、カスタム関数、更新ルールを編集するために使用します。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## 【計算式のインポート】ダイアログボックスのオプション

### ファイル名

インポートするロジック、カスタム関数、または更新ルールを含むファイルの名前、ドライブ、ディレクトリを指定します。

## レポートおよびパッケージのウィンドウとダイアログボックス

## 【レポート】 および 【パッケージ】 ウィンドウのオプション

スクリプトを基にしたレポートとパッケージや Hyperion Reporting で作成したレポートとパッケージを維持および作成するために使用します。

### セット

アクセスするレポートを含むセットを選択します。このリストには、アプリケーション内のパッケージセットがすべて含まれます。

### パッケージ

作成または編集するパッケージを選択します。このリストには、選択したセット内のパッケージがすべて含まれます。[ファイル] メニューから [選択済パッケージを開く] をクリックすると、パッケージをハイライトしたり表示することができます。パッケージをダブルクリックすると、そのパッケージをプレビューできます。

**注：** デスクトップの [パッケージ] アイコンを選択しても、同じ情報が表示されます。

## レポート

作成または編集するレポートを選択します。このリストには、選択したセット内のレポートがすべて含まれます。[ファイル] メニューから [選択済レポートを開く] をクリックすると、パッケージをハイライトしたり表示することができます。レポートをダブルクリックすると、そのレポートをプレビューできます。

**注：** デスクトップの [レポート] アイコンを選択しても、同じ情報が表示されます。

# セキュリティのウィンドウとダイアログボックス

## [アクセス権レポート] ダイアログボックスのオプション

特定のユーザグループまたはユーザのセキュリティクラス、グループ、およびアクセス権を印刷するために使用します。

### グループ、ユーザー

ユーザグループのセキュリティ情報を印刷するか、個々のユーザのセキュリティ情報を印刷するかを選択します。

### グループまたはユーザーの選択

ユーザグループまたはユーザ名を入力するか、一覧から選択します。

<<

指定した条件を満たす前のユーザグループまたはユーザをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のユーザグループまたはユーザをリスト内で検索する場合に選択します。

グループ	ユーザ	セキュリティクラス
グループ権	メンバー権	有効権限

アクセス権レポートに表示する属性を選択します。ユーザのレポートを作成している場合は、[ユーザー] オプションは使用できません。ユーザグループのレポートを作成している場合は、[グループ] オプションは使用できません。

## 印刷

レポートをプリンタに送信する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## 【タスクレポート】 ダイアログボックスのオプション

選択したセキュリティクラスを使用するタスクを印刷するために使用します。

### セキュリティクラス

レポートのセキュリティクラスを選択します。

<<

指定した条件を満たす前のセキュリティクラスをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のセキュリティクラスをリスト内で検索する場合に選択します。

### 印刷

レポートをプリンタに送信する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## 【アプリケーション要素レポート】 ダイアログボックスのオプション

選択したセキュリティクラスを使用するアプリケーション要素を印刷するために使用します。

### セキュリティクラス

レポートのセキュリティクラスを選択します。

### アプリケーション要素、アプリケーション要素の説明

アプリケーション要素の ID を印刷するか、説明を印刷するか、これら両方を印刷するかを選択します。

### 印刷

レポートをプリンタに送信する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## プレビュー

指定された情報をプレビューウィンドウで表示する場合に選択します。情報を指定するには、ダイアログボックスの他のオプションを使用します。

## 【メンバーの挿入】ダイアログボックスのオプション

選択したユーザグループにメンバーを追加するために使用します。

### メンバー

メンバーの ID を入力するか、一覧から選択します。

### ユーザー、グループ

[メンバー] リストにユーザを表示するか、ユーザグループを表示するか、これら両方を表示するかを選択します。

<<

指定した条件を満たす前のメンバーをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のメンバーをリスト内で検索する場合に選択します。

## 【セキュリティ権の貼り付け】ダイアログボックスのオプション

ユーザまたはユーザグループにアクセス権を指定するために使用します。

### セキュリティ権

セキュリティ権の ID を入力するか、一覧から選択します。

有効値	修正、表示、制限、なし
-----	-------------

## 【メンバーの検索】ダイアログボックスのオプション

特定のメンバーを検索するために使用します。

### メンバー

メンバーの ID を入力するか、一覧から選択します。

<<

指定した条件を満たす前のメンバーをリスト内で検索する場合に選択します。

>>

指定した条件を満たす次のメンバーをリスト内で検索する場合に選択します。

#### 完全に一致するものを検索

編集ボックスの値と完全に一致するメンバーを検索する場合に選択します。

## 【セキュリティの読込】ダイアログボックスのオプション

ASCII テキストファイルからアプリケーションに読み込むセキュリティ要素を選択するために使用します。

#### ファイル名

読み込みファイルのファイル名を入力するか、[参照] を選択してファイルを検索します。

#### 区切り文字

テキストファイルで使用する区切り文字を入力します。

デフォルト	感嘆符 (!)
-------	---------

ユーザー	ユーザーグループ	セキュリティクラス
アクセス権	タスク	

[ファイル名] 編集ボックスで指定したテキストファイルから現在のアプリケーションに読み込むセキュリティ要素を選択します。

## 【セキュリティの抽出】ダイアログボックスのオプション

ASCII テキストファイルにコピーする、システムのセキュリティ要素を選択するために使用します。

#### ファイル名

抽出ファイルのファイル名を入力するか、[参照] を選択してファイルを検索します。

#### 区切り文字

テキストファイルで使用する区切り文字を入力します。

デフォルト	感嘆符 (!)
-------	---------

ユーザー	ユーザーグループ	セキュリティクラス
------	----------	-----------

現在のアプリケーションから、[ファイル名] 編集ボックスで指定したテキストファイルに抽出するセキュリティ要素を選択します。

## [ユーザーの定義] ダイアログボックス

ユーザの定義および保守に使用します。

### ユーザ

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内で特定のユーザを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

### 前を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字の照合一覧で、前のものをハイライトするために使用します。

### 次を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字の照合一覧で、次のものをハイライトするために使用します。

### 保護状態の切り替え

選択したユーザの現在の状態を逆にする場合に使用します。

### パスワードの変更

ユーザのパスワードを変更するときに使用します。

### セキュリティクラスの設定

ユーザのセキュリティクラスを設定するときに使用します。

### ユーザ

ユーザ名を入力します。

### 説明

ユーザの説明を入力します。

### 現在の状態

ユーザの現在の状態を表示します。

### セキュリティクラス

ユーザに関連したセキュリティクラスを表示します。ユーザにセキュリティクラスを割り当てるには、次のいずれかの操作を行います。

- セキュリティクラスに関連するセキュリティクラスのセルをダブルクリックします。セキュリティクラスを選択し、[OK] をクリックします。

- セキュリティクラスに関連するセルで、セキュリティクラスの名前を入力します。
- [セキュリティクラスの設定] ボタンを選択し、セキュリティクラスを選択します。[OK] をクリックします。

### 保存

ユーザに加えた変更を保存するときに使用します。

### 復元

ユーザの元の設定すべてを復元するときに使用します。

## [ユーザーメンバーシップの割り当て] ダイアログボックス

ユーザをいくつかのユーザグループに割り当てるために使用します。

### 選択したユーザ

ユーザを 1 つのグループに割り当てるときに使用します。

### ユーザ

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内で特定のユーザを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

### 前を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字の照合一覧で、前のものをハイライトするために使用します。

### 次を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字の照合一覧で、次のものをハイライトするために使用します。

### ユーザ

ユーザ名を表示します。

### 説明

ユーザの説明を表示します。

### グループへの割り当て

特定のユーザを 1 つまたは複数のグループに割り当てるときに使用します。

### ユーザー ID

グループに割り当てたユーザのユーザ ID を表示します。

## 説明

グループに割り当てたユーザの説明を表示します。

## 使用可能なグループ

ユーザを割り当てられるグループの一覧を表示します。

## 選択したグループ

ユーザを割り当てられるグループの一覧を表示します。

## グループの割り当て

選択したグループを、使用可能なグループの一覧から選択したグループの一覧に移動する場合に使用します。

## すべてのグループを割り当て

すべてのグループを、使用可能なグループの一覧から選択したグループの一覧に移動する場合に使用します。

## グループの削除

選択したグループを、選択したグループの一覧のグループから使用可能なグループの一覧に移動する場合に使用します。

## すべてのグループを削除

すべてのグループを、選択したグループの一覧から使用可能なグループの一覧に移動する場合に使用します。

## 保存

ユーザに加えた変更を保存するときに使用します。

## 復元

ユーザの元の設定すべてを復元するときに使用します。

# [ユーザー権限の割り当て] ダイアログボックス

アプリケーションの各クラスのユーザにアクセス権を割り当てるために使用します。

## 選択したユーザ

ユーザを1つのグループに割り当てるときに使用します。

## ユーザ

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内で特定のユーザを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

### 前を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字の照合一覧で、前のものをハイライトするために使用します。

### 次を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字の照合一覧で、次のものをハイライトするために使用します。

### ユーザ

ユーザ名を表示します。

### 説明

ユーザの説明を表示します。

### 権限の割り当て

ユーザのセキュリティクラスの権限を割り当てるときに使用します。

### ユーザー ID

権限を割り当てたユーザのユーザ ID を表示します。

### 説明

権限を割り当てたユーザの説明を表示します。

### セキュリティクラス

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内の特定のセキュリティクラスを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

### 前を検索

[ユーザー] テキストボックスに入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

### 次を検索

[ユーザー] テキストボックスに入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

### 権限を"変更"に設定

セキュリティクラスに変更権限を適用するときを使用します。

### 権限を"表示"に設定

セキュリティクラスに表示権限を適用するときを使用します。

### 権限を"制限"に設定

セキュリティクラスに制限権限を適用するときを使用します。

### 権限を"なし"に設定

セキュリティクラスの権限に"なし"を適用するときに使用します。

### 権限を"割り当てなし"に設定

セキュリティクラスに何の権限も割り当てない場合は、セキュリティクラスに"割り当てなし"を適用します。

### セキュリティクラス

セキュリティクラスを表示します。

### 説明

セキュリティクラスの説明を表示します。

### 権限

特定のセキュリティクラスについて、ユーザに割り当てたユーザ権限を表示します。割り当てたアクセス権限はそのユーザが属するグループの権限を上書きします。

### 派生グループの権限

ユーザが派生するグループの権限を表示します。

### 権限を割り当てないクラスを隠す

権限を割り当てないクラスを表示しないときに使用します。

### 保存

ユーザに加えた変更を保存するときに使用します。

### 復元

ユーザの元の設定すべてを復元するときに使用します。

## 【グループの定義】 ダイアログボックス

グループを定義するために使用します。

### グループ

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内の特定のグループを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

### 前を検索

[ユーザー] テキストボックスに入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

## 次を検索

[ユーザー] テキストボックスに入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

## セキュリティクラスの設定

グループのセキュリティクラスを設定するときに使用します。

### グループ

グループ ID を入力します。

### 説明

ユーザグループの説明を入力します。

## セキュリティクラス

ユーザグループに関連したセキュリティクラスを表示します。ユーザグループにセキュリティクラスを割り当てるには、次のいずれかの操作を行います。

- セキュリティクラスに関連するセキュリティクラスのセルをダブルクリックします。セキュリティクラスを選択し、[OK] をクリックします。
- セキュリティクラスに関連するセルで、セキュリティクラスの名前を入力します。
- [セキュリティクラスの設定] ボタンを選択し、セキュリティクラスを選択します。[OK] をクリックします。

## 保存

ユーザに加えた変更を保存するときに使用します。

## 復元

ユーザの元の設定すべてを復元するときに使用します。

# [グループメンバーの割り当て] ダイアログボックス

ユーザをユーザグループに割り当てたり、ユーザグループを別のユーザグループに割り当てるために使用します。

### グループの選択

ユーザに割り当てるグループ、またはグループに割り当てるグループを選択するときに使用します。

### グループ

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内の特定のグループを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

## 前を検索

[ユーザー] テキストボックスに入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

## 次を検索

[ユーザー] テキストボックスに入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

## グループ

ユーザグループ ID を表示します。

## 説明

ユーザグループの説明を表示します。

## ユーザーの割り当て

選択したグループにユーザを割り当てる場合に使用します。

## グループ ID

ユーザが割り当てられるグループのグループ ID を表示します。

## 説明

ユーザが割り当てられるグループの説明を表示します。

## 使用可能なユーザー

グループに含められるユーザの一覧を表示します。

## 選択したユーザー

グループに含まれるユーザの一覧を表示します。

## ユーザーの割り当て

選択したユーザを、使用可能なユーザの一覧から選択ユーザの一覧に移動する場合に使用します。

## すべてのユーザーを割り当て

すべてのユーザを、使用可能なユーザの一覧から選択ユーザの一覧に移動する場合に使用します。

## ユーザーを除去

ユーザを、選択ユーザの一覧から使用可能なユーザの一覧に移動する場合に使用します。

## すべてのユーザーを除去

すべてのユーザを、選択ユーザの一覧から使用可能なユーザの一覧に移動する場合に使用します。

### **グループの割り当て**

選択したグループに他のグループを割り当てる場合に使用します。

### **グループ ID**

他のグループが割り当てられているグループのグループ ID を表示します。

### **説明**

他のグループが割り当てられているグループの説明を表示します。

### **使用可能なグループ**

グループに含まれるグループの一覧を表示します。

### **選択したグループ**

グループに含めるグループの一覧を表示します。

### **グループの割り当て**

選択したグループを、使用可能なグループの一覧から選択したグループの一覧に移動する場合に使用します。

### **すべてのグループを割り当て**

すべてのグループを、使用可能なグループの一覧から選択したグループの一覧に移動する場合に使用します。

### **グループの削除**

選択したグループを、選択したグループの一覧から使用可能なグループの一覧に移動する場合に使用します。

### **すべてのグループを削除**

すべてのグループを、選択したグループの一覧から使用可能なグループの一覧に移動する場合に使用します。

### **別のグループへの割り当て**

他のグループに選択したグループを割り当てる場合に使用します。

### **グループ ID**

他のグループに割り当てるグループのグループ ID を表示します。

### **説明**

他のグループに割り当てるグループの説明を表示します。

### **使用可能なグループ**

グループを割り当てるグループの一覧を表示します。

### 選択したグループ

グループが割り当てられるグループの一覧を表示します。

### グループの割り当て

選択したグループを、使用可能なグループの一覧から選択したグループの一覧に移動する場合に使用します。

### すべてのグループを割り当て

すべてのグループを、使用可能なグループの一覧から選択したグループの一覧に移動する場合に使用します。

### グループの削除

選択したグループを、選択したグループの一覧から使用可能なグループの一覧に移動する場合に使用します。

### すべてのグループを削除

すべてのグループを、選択したグループの一覧から使用可能なグループの一覧に移動する場合に使用します。

### 保存

ユーザに加えた変更を保存するときに使用します。

### 復元

ユーザの元の設定すべてを復元するときに使用します。

## [グループ権限の割り当て] ダイアログボックス

セキュリティクラスのユーザグループへの権限を割り当てるために使用します。

### グループの選択

ユーザに割り当てるグループ、またはグループに割り当てるグループを選択するときに使用します。

### グループ

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内の特定のグループを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

### 前を検索

[ユーザ] テキストボックスで入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

### 次を検索

[ユーザ] テキストボックスで入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

## グループ

ユーザグループの ID を表示します。説明 ユーザグループの説明を表示します。

## 権限の割り当て

グループのセキュリティクラスの権限を割り当てるときに使用します。

## グループ ID

権限を割り当てるグループのグループ ID を表示します。

## 説明

権限を割り当てたグループの説明を表示します。

## セキュリティクラス

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内の特定のセキュリティクラスを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

## 前を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

## 次を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

## 権限を"変更"に設定

セキュリティクラスに変更権限を適用するときを使用します。

## 権限を"表示"に設定

セキュリティクラスに表示権限を適用するときを使用します。

## 権限を"制限"に設定

セキュリティクラスに制限権限を適用するときを使用します。

## 権限を"なし"に設定

セキュリティクラスの権限に"なし"を適用するときを使用します。

## 権限を"割り当てなし"に設定

セキュリティクラスに何の権限も割り当てない場合は、セキュリティクラスに"割り当てなし"を適用します。

## セキュリティクラス

セキュリティクラスを表示します。

### 説明

セキュリティクラスの説明を表示します。

### 権限

グループに割り当てた権限を表示します。

### 権限を割り当てないクラスを隠す

割り当てていないセキュリティクラスを表示しない場合に選択します。

### 保存

ユーザに加えた変更を保存するときに使用します。

### 復元

ユーザの元の設定すべてを復元するときに使用します。

## [クラス定義] ダイアログボックス

セキュリティクラスの定義および保守に使用します。

### セキュリティクラス

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内の特定のセキュリティユーザを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

### 前を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

### 次を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

### セキュリティクラスの設定

クラスにセキュリティクラスを設定するときに使用します。

### Class

クラス ID を入力します。

### 説明

クラスの説明を入力します。

### セキュリティクラス

クラスに関連したセキュリティクラスを表示します。ユーザにセキュリティクラスを割り当てるには、次のいずれかの操作を行います。

- セキュリティクラスに関連するセキュリティクラスのセルをダブルクリックします。セキュリティクラスを選択し、[OK] をクリックします。
- セキュリティクラスに関連するセルで、セキュリティクラスの名前を入力します。
- [セキュリティクラスの設定] ボタンを選択し、セキュリティクラスを選択します。[OK] をクリックします。

### 保存

クラスに加えた変更を保存するときに使用します。

### 復元

クラスの元の設定すべてを復元するときに使用します。

## [クラス権限の割り当て] ダイアログボックス

セキュリティクラスのグループへの権限を割り当てるために使用します。

### セキュリティクラスの選択

権限を割り当てているセキュリティクラスを選択するときに使用します。

### Class

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内の特定のクラスを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

### 前を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

### 次を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

### セキュリティクラス

セキュリティクラス ID を表示します。

### 説明

セキュリティクラスの説明を表示します。

### 権限の割り当て

グループのセキュリティクラスに権限を割り当てるときに使用します。

### セキュリティクラス ID

権限を割り当てるセキュリティクラスのセキュリティクラス ID を表示します。

## 説明

権限を割り当てるセキュリティクラスの説明を表示します。

## グループ

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内の特定のグループを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

## 前を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

## 次を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

## 権限を"変更"に設定

グループに変更権限を適用するときに使用します。

## 権限を"表示"に設定

グループに表示権限を適用するときに使用します。

## 権限を"制限"に設定

グループに制限権限を適用するときに使用します。

## 権限を"なし"に設定

グループの権限に"なし"を適用するときに使用します。

## 権限を"割り当てなし"に設定

グループに何の権限も割り当てない場合は、セキュリティクラスに"割り当てなし"を適用します。

## グループ

セキュリティクラスに関連したグループを表示します。

## 説明

グループの説明を表示します。

## 権限

グループに割り当てた権限を表示します。

## 権限を割り当てないグループを隠す

割り当てていないグループを非表示にします。

## 保存

ユーザに加えた変更を保存するときに使用します。

## 復元

ユーザの元の設定すべてを復元するときに使用します。

# [タスクを保持] ダイアログボックス

タスクにセキュリティクラスを指定するために使用します。

## タスク

[セキュリティ] デスクトップのワークスペース領域内のタスクを検索するために使用します。例えば、長い一覧をスクロールしながら探す代わりに、項目を検索できます。

## 前を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

## 次を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

## モジュール用タスクの表示

タスク一覧を並べ替えるモジュールの一覧を表示します。

## セキュリティクラスの設定

タスクにセキュリティクラスを設定するときに使用します。

## タスク

Hyperion Enterprise タスクを表示します。

## セキュリティ

Hyperion Enterprise タスクに関連したセキュリティクラスを表示します。

## 保存

タスクに加えた変更を保存するときに使用します。

## 復元

タスクの元の設定すべてを復元するときに使用します。

# [パスワードの変更] ダイアログボックス

ユーザのパスワードを変更するために使用します。

### ユーザー名

選択したアプリケーション用のユーザ名を入力します。

### パスワード

選択したアプリケーション用のパスワードを入力します。

### 新しいパスワード

選択したアプリケーション用の新しいパスワードを入力します。

## [パスワードの有効期間の設定] ダイアログボックス

パスワードの有効期間の値を設定するために使用します。

### 期限切れのパスワードを無効にする

パスワードに有効期限を設定するときに選択します。

### パスワードの有効期間(日数)

パスワードが有効な日数を入力します。

## [セキュリティクラスの選択] ダイアログボックス

セキュリティクラスを選択するために使用します。

### セキュリティクラス

一覧にセキュリティクラスを含めるときに使用します。

### 前を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、前の項目をハイライトするために使用します。

### 次を検索

[ユーザー] テキストボックスで入力した文字に一致する、次の項目をハイライトするために使用します。

### 完全に一致するものを検索

[セキュリティクラス] 検索ボックスに入力した値と完全に一致する値を検索する場合に選択します。

# サーバセットアップのウィンドウとダイアログボックス

## [Server セットアップ] ダイアログボックスのオプション

Server セットアッププログラムのオプションを選択するときに使用します。

### インストール

サーバをインストールする場合に選択します。

### 更新

サーバの設定を更新する場合に選択します。

### アンインストール

サーバをアンインストールする場合に選択します。

### 終了

server セットアッププログラムを終了する場合に選択します。

## [サーバーの定義 - 識別] ダイアログボックスのオプション

サーバとユーザの識別情報を定義するときに使用します。

### サーバー ID

サーバの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。サーバ ID は、Hyperion Enterprise とサーバ管理プログラムが使用する名前です。

### 説明

サーバの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### コンピュータ名

サーバのマシン ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

### ポート番号

サーバの TCP/IP ポート番号を入力します。

デフォルト	2070
-------	------

### サービス名

サーバのサービス ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

## 自動開始

サーバマシンの起動時に Windows NT サービスとしてサーバプログラムが起動するように設定する場合に選択します。

## ログインの変更

ユーザ名とパスワードを変更する場合に選択します。

## ユーザー名

サーバのユーザ名を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。サーバプログラムを Windows NT サービスとして実行する場合にこのオプションを使用します。

## パスワード

ユーザの Windows NT パスワードを入力します。

## 確認

ユーザの Windows NT パスワードを入力して、以前に入力したパスワードと同じであるかどうかを確認します。

# [サーバーの定義 - ファイルの位置] ダイアログボックスのオプション

サーバファイルの位置を定義するときに使用します。

## データベースパス

サーバ情報の中央データベースのパスを入力します。

## サーバーのパス

HSVRCTRL.EXE サーバプログラムのパスを入力します。

デフォルト	Hyperion Enterprise のプログラムディレクトリ
-------	----------------------------------

## プロセスのパス

HPROCE.EXE サーバプロセスプログラムのパスを入力します。

## ログファイル

サーバのエラーログのパスを入力します。

## 過去の記録に追加

現在のセッションのエラーログを前のセッションのエラーログに追加する場合に選択します。

## 前のセッションを上書き

前のセッションのエラーログを上書きする場合に選択します。

## [Server Administration] ウィンドウのオプション

データベース内のサーバの一覧とその現在のステータスを表示、印刷したり、サーバを起動または終了するために使用します。

### サーバー

サーバの現在のステータスを表示します。

### サーバーの種類

サーバの種類を選択します。

### ステータス

選択したサーバの現在のステータスを表示します。

### 説明

サーバの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### ポート設定

ポートの設定を入力します。

デフォルト	2070
-------	------

### コンピュータ名

コンピュータの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

### 処理量の表示

現在の処理量を表示します。

### サーバーの起動

サーバを起動する場合に選択します。

### サーバーの終了

サーバを終了する場合に選択します。

### 表示の更新

現在の情報に基づいてサーバの一覧または処理量の表示を更新する場合に選択します。

### タスクの終了

サーバで処理中のジョブを取り消す場合に選択します。

## サーバ管理プログラム：[サーバーの設定] ダイアログボックスのオプション

サーバ管理プログラムのサーバの設定を更新するときに使用します。

### サーバー ID

サーバの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

デフォルト	選択したサーバの ID
-------	-------------

### 説明

サーバの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### コンピュータ名

コンピュータの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

### ポート番号

サーバの TCP/IP ポート番号を入力します。

デフォルト	選択したサーバのポート番号
-------	---------------

## サーバ管理プログラム：[サーバーの追加] ダイアログボックスのオプション

サーバ管理でサーバを追加するときに使用します。

### 新規サーバー

サーバの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

### 説明

サーバの説明を 40 文字以内（半角の場合）で入力します。

### サーバー ID

サーバの ID を 20 文字以内（半角の場合）で入力します。

### ポート番号

サーバの TCP/IP ポート番号を入力します。

デフォルト	選択したサーバのポート番号
-------	---------------

## Enterprise サーバ管理

Enterprise サーバの [管理] ダイアログボックスでは、Hyperion Enterprise サーバを管理できます。

**注：** サーバを設定するには、サーバが有効になっている必要があります。また、サーバと Enterprise サーバ管理ソフトウェアが同一のコンピュータ上にある必要があります。

- 441 ページの「アプリケーションの変更」
- 441 ページの「Enterprise Server Administration からアプリケーションにログイン」
- 管理するオブジェクトを選択
  - アプリケーションの設定：アプリケーションの名前
    - 442 ページの「アプリケーションの設定」
    - 444 ページの「詳細設定」
  - サーバ管理タスク：444 ページの「サーバ管理設定」
    - 445 ページの「サーバデータベース管理の移行」
    - 445 ページの「データベースへのサーバの追加」
    - 445 ページの「データベースからのサーバの削除」
    - 445 ページの「データベースからのサーバ設定の編集」
    - 446 ページの「サーバ情報の印刷」
- サーバ：さまざまなサーバタイプ
  - 446 ページの「アプリケーションサーバ」
  - 448 ページの「データサーバ」
  - 449 ページの「メッセージサーバ」
  - 451 ページの「Web サーバ」

## Enterprise Server Administration からアプリケーションにログイン

アプリケーションにログオンするために使用します。

- ▶ Enterprise Server Administration からアプリケーションにログオンするには、次の手順に従います。
  - 1 [Enterprise サーバー管理] で [ログオン] をクリックします。  
[ログオン - Server Administration] 画面が表示されます。
  - 2 [ログオン - Server Administration] で、アプリケーションを選択し、ユーザ名とパスワードを入力します。
  - 3 [OK] をクリックします。

## アプリケーションの変更

別のアプリケーションにログオンするために使用します。

- ▶ 別のアプリケーションにログオンするには、次の手順に従います。
  - 1 [Enterprise サーバー管理] で [アプリケーションの変更] をクリックします。

- 2 [アプリケーションの変更 - ログイン] で、アプリケーションを選択し、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 [OK] をクリックします。

## アプリケーションの設定

Hyperion Enterprise アプリケーションで設定する Hyperion Enterprise サーバを管理するために使用します。サーバが、各サーバにあるフィールドを編集できるようにします。

ユーザー ID : ユーザの ID の詳細を表示します。

アプリケーションサーバ : クリックするとアプリケーションサーバが有効になります。デフォルトでは無効になっています。

アプリケーションサーバを有効にする場合に使用します。

- アプリケーションサーバー ID : インストール済みのアプリケーションサーバのリストからサーバを選択します。このサーバのリストは、HEServers.xml ファイルにあります。
- データベースパス : Hyperion Enterprise データベースファイル (HEServers.xml) の場所を示します。
- クライアント上でのサーバタスクステータスの表示 : デフォルトでは有効になっています。クリックするとこのオプションが無効になります。
- ワークステーション上でのタスクの実行を可能にする : デフォルトでは有効になっています。クリックするとこのオプションが無効になります。

データサーバ : クリックするとデータサーバが有効になります。デフォルトでは無効になっています。

Hyperion Enterprise アプリケーションでデータサーバを有効にする前に、すべてのユーザが Hyperion Enterprise アプリケーションからログアウトしていること、および Hyperion Enterprise アプリケーションで Web 対応が有効になっていないことを確認してください。

- データサーバー : データサーバがインストールされているサーバ名または IP アドレスを示します。
- データサーバーのポート : データサーバのポート情報インスタンスを示します。
- (オプション) データサーバーログファイル : ログファイルの場所およびファイル名を示します。ファイル拡張子を .txt として指定します。
- 単一ユーザーモード : デフォルトでは無効になっています。クリックすると、単一ユーザによる使用が有効になります。

**注 :** Hyperion Enterprise アプリケーションで単一ユーザーモードを有効にする前に、すべてのユーザが Hyperion Enterprise アプリケーションからログアウトしていること、Hyperion Enterprise アプリケーションが Web 対応になっていないこと、およびデータサーバが有効になっていることを確認してください。

メッセージサーバ：デフォルトでは無効になっています。クリックすると、メッセージサーバが有効になります。

**注：** この選択項目は、インストーラルーチン中にユーザが選択する項目と相互に依存します。

- メッセージングコンポーネント：次のいずれかの Web メッセージオプションを選択します。
  - Win32 Messaging - Hyperion Enterprise アプリケーションに対して Windows 32 ビットメッセージを有効にします。
  - Web Messaging - Hyperion Enterprise アプリケーションに対して Web メッセージを有効にします。
- [Win32 Messaging] の場合は、次のオプションを設定します。
  - メッセージサーバ：メッセージサーバがインストールされているサーバ名または IP アドレスを示します。
  - メッセージサーバポート：インストール中に入力されたメッセージサーバのポート情報を示します。デフォルトは 1200 です。
- [Web Messaging] の場合は、次のオプションを設定します。
  - Web Messaging Server URL (Web メッセージサーバ URL)：URL 情報を `http://<Server Name>/HEMessageWebService` の形式で指定します。例えば、`http://myserver/HEMessageWebService` のように指定します。

Web サーバー：クリックすると Web サーバが有効になります。デフォルトでは無効になっています。

- Web サーバー URL：URL 情報を `http://<server>/HEWeb/default.aspx` の形式で指定します。
- セッションマネージャおよびタスクサーバー：タスクサーバおよびセッションマネージャがインストールされているサーバ名または IP アドレスを示します。
- ファイルをアップロードする場所：データ読み込み用にファイルをアップロードする Web サーバまたはタスクサーバ上のディレクトリを示します。
- Hyperion Enterprise Reporting Web サーバー：インストールされている場合は、Hyperion Enterprise Reporting Web サーバがインストールされているサーバ名または IP アドレスを示します。
- Web アプリケーションコントローラ：Web アプリケーションコントローラがインストールされているサーバ名または IP アドレスを示します。
- 接続数：接続数を表示します。デフォルトでは、Hyperion Enterprise Web アプリケーションでは、12 の接続がサポートされています。

**FDM 設定：**クリックすると FDM 設定が有効になります。デフォルトでは無効になっています。

- **FDM サーバ URL：**URL 情報を `http://<hostname>/<virtual directory>/` の形式で指定します。
- **FDM Adapter Key (FDM アダプタキー)：**アダプタキー情報を指定します。  
例えば、HE6x-G4-B などです。アダプタキーについて詳しくは、FDM のマニュアルを参照してください。このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。
- **FDM アプリケーション名：**Hyperion Enterprise に対して作成されたアプリケーションの名前を指定します。  
例えば、Test\_FDM\_Application などです。このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。

## 詳細設定

特定の Hyperion Enterprise アプリケーションの詳細設定を管理する場合に使用します。Enterprise Server Administration で、`application.ini` パラメータを変更できます。

**注：** INI パラメータ設定に対して「修正」アクセス権を持つ管理者ユーザのみが、[Enabling Database (データベースの有効化)] のオプションなど、詳細設定の属性を変更できます。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』の付録 D「ファイル形式」を参照してください。

**注：** INI パラメータは、Enterprise Server Administration のみを使用して変更する必要があります。

## サーバ管理設定

Enterprise Server Administration からサーバ管理タスクを管理する場合に使用します。

[サーバデータベース管理の移行](#)

[データベースへのサーバの追加](#)

[データベースからのサーバの削除](#)

[データベースからのサーバ設定の編集](#)

[サーバ情報の印刷](#)

サーバデータベースのメンテナンスについて詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

## サーバデータベース管理の移行

HSvrCtrl.dat ファイルから HEServers.xml ファイルにデータを移行する場合に使用します。

- ▶ HSvrCtrl.dat ファイルから HEServers.xml ファイルにサーバ情報を移行するには、次の操作を実行します。
- 1 **【Enterprise サーバ管理】** で、**【サーバ管理】** を右クリックし、**【サーバの移行】** を選択します。
- 2 右ペインで、HSvrCtrl.dat ファイルが存在する場所を参照し、**【移行】** をクリックします。

## データベースへのサーバの追加

Enterprise Server Administration でサーバを管理する場合に使用します。サーバタイプを選択し、サーバを右クリックして **【サーバの追加】** を選択します。右ペインで、次のサーバ情報を指定します。

- サーバー ID：アプリケーションの設定で選択されているサーバを示します。
- コンピュータ名：アプリケーションサーバがインストールされているコンピュータの名前を表示します。
- 説明：そのアプリケーションサーバに関する補足情報を表示します。
- (アプリケーションサーバとデータサーバの場合) ポート：アプリケーションサーバが設定されているポートを示します。
- (メッセージサーバと Web サーバの場合) Server URL (サーバー URL)：URL 情報を `http://<Server Name>/<Virtual Directory>` の形式で指定します。

## データベースからのサーバの削除

Enterprise Server Administration からサーバを削除する場合に使用します。サーバを選択し、サーバを右クリックして **【サーバの削除】** を選択します。

## データベースからのサーバ設定の編集

データベースからサーバ詳細を編集する場合に使用します。サーバを選択し、サーバを右クリックして **【サーバの編集】** を選択します。右ペインで、次のサーバ情報を編集します。

- サーバー ID：アプリケーションの設定で選択されているサーバを示します。
- コンピュータ名：アプリケーションサーバがインストールされているコンピュータの名前を表示します。
- 説明：そのアプリケーションサーバに関する補足情報を表示します。
- ポート：アプリケーションサーバが設定されているポートを示します。
- (アプリケーションサーバとデータサーバの場合) ポート：アプリケーションサーバが設定されているポートを示します。

- (メッセージサーバと Web サーバの場合) Server URL (サーバー URL) : URL 情報を `http://<Server Name>/<Virtual Directory>` の形式で指定します。

## サーバ情報の印刷

データベースからサーバ情報を印刷する場合に使用します。サーバタイプを選択し、サーバを右クリックして **【サーバーの印刷】** を選択します。

## アプリケーションサーバ

アプリケーションサーバを **追加**、**削除**、**編集**、および **印刷** する場合に使用します。

アプリケーションサーバの表示および管理に使用します。

アプリケーションサーバには、次の 3 つのタブがあります。

- **管理**
- **処理量**
- **ログの表示**

## アプリケーションサーバ : 管理

アプリケーションのアプリケーションサーバステータスを表示します。サーバステータスを表示するには、アプリケーションがアプリケーションサーバ対応に設定されている必要があります。

### サーバの詳細

- **サーバー ID** : アプリケーションの設定で選択されているサーバを示します。
- **ステータス** : アプリケーションサーバサービスのステータスを表示します。
- **コンピュータ名** : アプリケーションサーバがインストールされているコンピュータの名前を表示します。
- **ポート** : アプリケーションサーバが設定されているポートを示します。
- **説明** : そのアプリケーションサーバに関する補足情報を表示します。

**【サーバーの起動】** または **【サーバーの終了】**

クリックすると、アプリケーションサーバのサービスステータスが変更されます。

### 設定

クリックして、アプリケーションサーバの設定を変更します。

## アプリケーションサーバ : 設定

アプリケーションサーバの設定の詳細とそのコンピュータのサーバファイルの場所を示します。ローカルコンピュータの設定とサーバパス情報は変更できます。

## サーバ ID

- サーバ ID：サーバ名を示します。
- サービス名：サービス名を表示します。
- コンピュータ名：更新済みのアプリケーションサーバがインストールされているコンピュータを示します。
- 説明：その更新済みのアプリケーションサーバに関する補足情報を表示します。
- ポート：ポート番号を示します。
- 自動開始：クリックすると、アプリケーションサーバがインストールされているコンピュータの起動時にアプリケーションサーバのサービスを自動的に起動する機能が有効になります。
- ユーザー ID の変更：クリックして、ユーザのログオン情報を変更します。
  - ユーザー名：ユーザ名を表示します。
  - パスワード：パスワードを示します。

## サーバファイルの場所

- データベースのパス：Hyperion Enterprise データベースファイル (HEServers.xml) へのパスを示します。
- ログファイル：ログファイルの場所およびファイル名を示します。
- サーバのパス：アプリケーションサーバ実行可能ファイルの場所を表示します。
- プロセスのパス：アプリケーションサーバプロセス実行可能ファイルの場所を表示します。
- ファイルへの書き込みオプション
  - 追加：既存のログ表示情報に追加する場合に選択します。
  - 上書き：ログ表示情報を上書きする場合に選択します。

## アプリケーションサーバ：処理量

実行されたタスクの詳細が表示されます。この詳細には、アプリケーションの ID 番号、ユーザ、プロセス、およびタスクとその説明があります。

### 表示の更新

クリックするとリストが更新されます。

### タスクの終了

選択し、クリックするとタスクが終了します。

## アプリケーションサーバ：ログの表示

選択されているアプリケーションに関連するログファイルの詳細が表示されます。この詳細には、プロセスの ID 番号、スレッドとタイムスタンプ、およびメッセージがあります。

## データサーバ

データサーバを[追加](#)、[削除](#)、[編集](#)、および[印刷](#)する場合に使用します。

データサーバの表示および管理に使用します。

データサーバには、次の 2 つのタブがあります。

- [管理](#)
- [ログの表示](#)

## データサーバ：管理

アプリケーションのデータサーバステータスを表示します。サーバステータスを表示するには、アプリケーションがデータサーバ対応に設定されている必要があります。

### サーバの詳細

- サーバ：アプリケーションの設定で入力されたデータサーバの情報が表示されます。
- ステータス：データサーバサービスのステータスを表示します。
- ポート：アプリケーションの設定で入力されたデータサーバポートの情報が表示されます。
- コンピュータ名：アプリケーションサーバがインストールされているコンピュータの名前を表示します。
- 説明：設定中に入力された補足情報が表示されます。

[サーバーの起動] または [サーバーの終了]

クリックすると、データサーバのサービスステータスが変更されます。

### 設定

クリックして、データサーバの設定を変更します。

## データサーバ：管理：設定

このコンピュータのデータサーバ設定の詳細が表示されます。ローカルコンピュータの設定とサーバパス情報は変更できます。

### サーバ ID

- コンピュータ名：データサーバがインストールされているコンピュータ名が表示されます。

- サービス名：サービス名を表示します。
- 説明：その更新済みのデータサーバに関する補足情報を表示します。
- 自動開始：クリックすると、データサーバがインストールされているコンピュータの起動時にデータサーバのサービスを自動的に起動する機能が有効になります。
- ユーザー ID の変更：クリックして、ユーザのログオン情報を変更します。
  - ユーザー名：ユーザ名を表示します。
  - パスワード：パスワードを示します。

#### サーバファイルの場所

- サービスの実行可能プログラムのパス：データサーバサービスの実行可能ファイルの場所を表示します。

## データサーバ：ログの表示

選択されているアプリケーションに関連するログファイルの詳細が表示されます。この詳細には、プロセスの ID 番号、スレッド、ユーザとタイムスタンプ、およびメッセージがあります。

## メッセージサーバ

メッセージサーバを[追加](#)、[削除](#)、[編集](#)、および[印刷](#)する場合に使用します。

メッセージサーバの表示および管理に使用します。

メッセージサーバには、[\[管理\]](#) タブがあります。

## メッセージサーバ：管理

アプリケーションのメッセージサーバステータスを表示します。サーバステータスを表示するには、アプリケーションがメッセージサーバ対応に設定されている必要があります。

#### サーバの詳細

- サーバ：メッセージサーバがインストールされているサーバの名前を表示します。
- ポート：アプリケーションの設定で入力されたポートの情報が表示されます。
- コンピュータ名：アプリケーションサーバがインストールされているコンピュータの名前を表示します。
- ステータス：メッセージサーバサービスのステータスを表示します。
- 説明：設定中に入力された補足情報が表示されます。

#### [サーバーの起動] または [サーバーの終了]

クリックすると、メッセージサーバのステータスが変更されます。

## 設定

クリックして、メッセージサーバの設定を変更します。

# メッセージサーバ：設定

このコンピュータのメッセージサーバ設定の詳細が表示されます。ローカルコンピュータの設定とサーバパス情報は変更できます。

## サーバ ID

- コンピュータ名：アプリケーションの設定で入力されたコンピュータの情報が表示されます。
- サービス名：メッセージサーバのサービス名を表示します。
- 説明：その更新済みのメッセージサーバに関する補足情報を表示します。
- ポート：ポート情報を示します。
- 自動開始：クリックすると、メッセージサーバがインストールされているコンピュータの起動時にメッセージサーバのサービスを自動的に起動する機能が有効になります。
- ユーザー ID の変更：クリックして、ユーザのログオン情報を変更します。
  - ユーザー名：ユーザ名を表示します。
  - パスワード：パスワードを示します。

## サーバファイルの場所

- サーバのパス：メッセージサーバ実行可能ファイルの場所を表示します。
- ログファイル：メッセージのログファイルの場所を表示します。

# Web 対応アプリケーションのメッセージサーバ

Web 対応アプリケーションのメッセージサーバの表示および管理に使用します。

Web 対応アプリケーションのメッセージサーバステータスを表示します。サーバステータスを表示するには、アプリケーションがメッセージサーバ対応に設定されている必要があります。

## サーバの詳細

- サーバ ID：メッセージサーバがインストールされているサーバの名前を表示します。
- Server URL（サーバー URL）：Hyperion Message Web サービスの URL 情報を示します。
- ステータス：メッセージサーバサービスのステータスを表示します。
- 説明：設定中に入力された補足情報が表示されます。

## [サーバーの起動] または [サーバーの終了]

クリックすると、メッセージサーバのステータスが変更されます。

## 設定

クリックして、メッセージサーバの設定を変更します。

## Web 対応アプリケーションのメッセージサーバ : 設定

このコンピュータのメッセージサーバ設定の詳細が表示されます。[ポーリング間隔] と [最大メッセージ数] の情報を変更できます。

### サーバ ID

- **Server URL (サーバー URL) :** URL 情報を `http://<Server Name>/HEMessageWebService` の形式で指定します。例えば、`http://myserver/HEMessageWebService` のように指定します。
- **説明 :** その更新済みのメッセージサーバに関する補足情報を表示します。
- **ポーリング間隔 :** 必要なポーリング間隔値を秒単位で指定します。ポーリング間隔のデフォルト値は 3 秒です。
- **最大メッセージ数 :** メッセージ数情報を指定します。最大メッセージ数のデフォルト値は 100 です。
- **ユーザー ID の変更 :** クリックして、ユーザのログオン情報を変更します。

## Web サーバ

Web サーバを [追加](#)、[削除](#)、[編集](#)、および[印刷](#)する場合に使用します。

Web サーバの表示および管理に使用します。

Web サーバには、次の 2 つのタブがあります。

- [管理](#)
- [処理量](#)

## Web サーバ : 管理

アプリケーションの Web サーバステータスを表示します。サーバステータスを表示するには、アプリケーションが Web 対応に設定されている必要があります。

### サーバの詳細

- **Web サーバ URL :** アプリケーションの設定で入力された Web サーバの URL 情報が表示されます。
- **セッションマネージャ :** アプリケーションの設定で入力されたセッションマネージャの情報が表示されます。
- **アプリケーションコントローラ :** アプリケーションの設定で入力されたアプリケーションコントローラの情報が表示されます。

- タスクサーバ：アプリケーションの設定で入力されたタスクサーバの情報が表示されます。
- ステータス：Hyperion Enterprise Web サーバのステータスを表示します。

### 〔サーバーの起動〕または〔サーバーの終了〕

クリックすると、Hyperion Enterprise サーバ Web サーバステータスが変更されます。

## Web サーバ：管理：設定

このコンピュータの Web サーバ設定の詳細を表示します。ローカルコンピュータの設定とサーバパス情報は変更できます。

### サーバ ID

- コンピュータ名：Hyperion Enterprise Web サーバがインストールされているコンピュータの情報を表示します。
- ユーザー ID の変更：クリックして、ユーザのログオン情報を変更します。
  - ユーザー名：ユーザ名を表示します。
  - パスワード：パスワードを示します。

### サーバファイルの場所

- セッションマネージャのパス：セッションマネージャの実行可能ファイルの場所を示します。
- タスクサーバのパス：タスクサーバの実行可能ファイルの場所を示します。
- Application Manager のパス：Application Manager の実行可能ファイルの場所を示します。
- アプリケーションコントローラのパス：アプリケーションコントローラの実行可能ファイルの場所を示します。
- データコントローラのパス：データコントローラの実行可能ファイルの場所を示します。
- タスクごとに別のプロセスで実行：タスクサーバ上でタスクを異なるインスタンスとして起動する場合に選択します。デフォルトでは、連結、仕訳帳の読み込みまたは抽出、データの抽出などのタスクは、先入れ先出し形式でタスクサーバに割り当てられます。

## Web サーバ：処理量

実行されたタスクの詳細が表示されます。この詳細には、ユーザの ID 番号、タスク、タスクの種類とその説明があります。

## この章の内容

Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterpriseの起動 .....	454
[Hyperion Enterprise] タスクのプロパティの指定 .....	455
データ種別の変更 .....	455
期間の変更 .....	456
期間単位の変更 .....	456
組織の変更 .....	457
エンティティの変更 .....	457
勘定科目の変更 .....	458
Enterprise データの抽出 .....	458
連結の実行 .....	460
Enterprise データの読み込み .....	462
レポートのチェック .....	464
パッケージのチェック .....	464
レポートの印刷 .....	465
パッケージの印刷 .....	465
配賦セットの実行 .....	466
[LedgerLink 読込] プロファイルの実行 .....	466
Excel の検索 .....	466
ページ書式とページ設定の読み込み .....	467
ページ書式とページ設定の抽出 .....	468
Enterprise アプリケーションの読み込み .....	468
Enterprise アプリケーションの抽出 .....	470
計算式の読み込み .....	471
計算式の抽出 .....	473
ロジックのチェック .....	474
仕訳帳の読み込み .....	475
仕訳帳の抽出 .....	477
仕訳帳の転記 .....	479
株式の読み込み .....	479
株式の抽出 .....	480
セキュリティの読み込み .....	482
セキュリティの抽出 .....	483
アプリケーションの変更 .....	484
エンティティデータの保護 .....	485

エンティティデータの保護解除 .....	486
エンティティ一覧データの保護 .....	486
エンティティ一覧データの保護解除 .....	488
計算式の実行 .....	489
アプリケーションバックアップユーティリティ .....	490
アプリケーション復元ユーティリティ .....	491
プログラムコードへのキーストロークの送信 .....	492
Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise .....	493

## Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise?の起動

Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise は Hyperion Enterprise のアドオンとして使用します。Hyperion AutoPilot32 は、Hyperion Enterprise のタスクのスケジューリングと自動化に使用します。Hyperion Enterprise Reporting を使用してレポートを生成できます。

➤ Hyperion AutoPilot を起動するには、次の手順に従います。

**1 次のいずれかを実行します。**

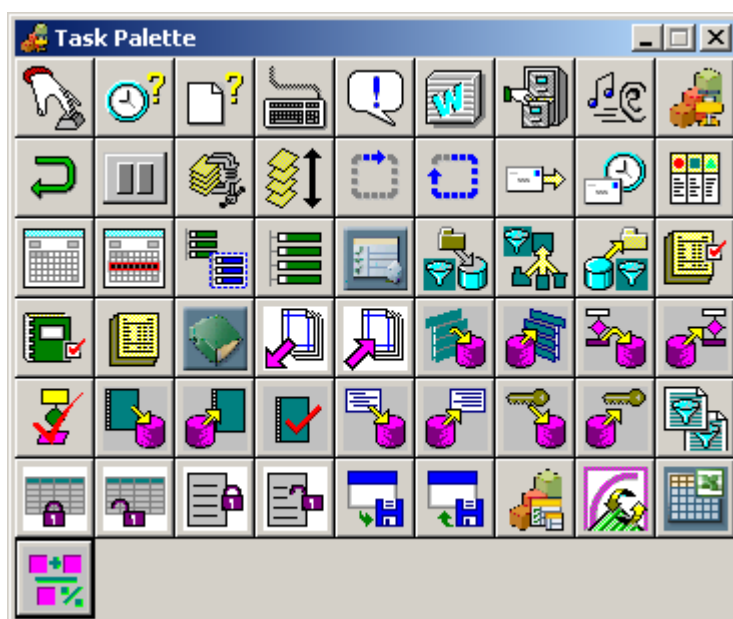
- [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Solutions]、[AutoPilot] の順に選択します。
- デスクトップの [Hyperion AutoPilot] アイコンをダブルクリックします。

**2 Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise を起動するには、[Enterprise タスク] ボタンをクリックします。**



**3 [Hyperion Enterprise タスク] ボタンを [タスクフロー] ウィンドウにドラッグすると、アプリケーションにログインするプロンプトが表示されます。**

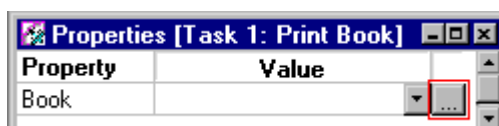
**注：** [Hyperion Enterprise] タスクは [タスクパレット] ウィンドウで使用可能です。タスクの説明を表示するには、次のボタンのいずれかをクリックします。



## [Hyperion Enterprise] タスクのプロパティの指定

それぞれのタスクには1つ以上のプロパティがあります。このプロパティがタスクフローでのプロパティの動作に影響します。タスクをハイライトすると、[プロパティ] ウィンドウにそのタスクのプロパティと値が表示されます。

[プロパティ] ウィンドウでプロパティ値を入力するか、[...] ボタンをクリックして、プロパティに使用可能な値の一覧から値を選択します。



例

465 ページの「パッケージの印刷」には、パッケージというプロパティがあります。プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。

- タスクフローを実行しているときにパッケージを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- [...] ボタンをクリックし、パッケージを選択します。

## データ種別の変更



[データ種別の変更] タスクは、現在の Hyperion Enterprise のデータ種別を変更します。

タスクのプロパティ

[データ種別の変更] タスクには、[データ種別] プロパティだけがあります。

- ▶ [データ種別] プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - データ種別を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、データ種別を選択します。
  - タスクフローを実行しているときにデータ種別 ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

#### 例

[データ種別の変更] タスクをワークフローに追加し、プロパティを「予算」にしたとします。後続のタスクが現在のデータ種別を利用したレポートの実行である場合、レポートは「予算」データを作成します。

## 期間の変更



[期間の変更] タスクは、現在の Hyperion Enterprise の期間を変更します。

#### タスクのプロパティ

[期間の変更] タスクには、[期間] プロパティだけがあります。期間は対応するデータ種別の期間の連続番号で現されます。例えば、データ種別の開始期間が 2003 年 1 月である場合、2003 年 3 月は [期間の選択] ダイアログボックスに「3」と表示されます。

- ▶ [期間] プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - 期間を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、期間を選択します。
  - タスクフローを実行しているときに期間 ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

#### 例

[期間の変更] タスクをタスクフローに追加し、プロパティを「December 2001」（2001 年 12 月）にしたとします。後続のタスクが現在の期間を使用してレポートを実行すると、レポートは 2001 年 12 月のデータを表示します。

## 期間単位の変更



[期間単位の変更] タスクは、現在の Hyperion Enterprise の期間単位を変更します。

#### タスクのプロパティ

[期間単位の変更] タスクには、[期間単位] プロパティだけがあります。

- ▶ プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - 期間単位を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、期間単位を選択します。
  - タスクフローを実行しているときに期間単位 ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK を選択します。

#### 例

[期間単位の変更] タスクをワークフローに追加し、プロパティを「Weekly YTD」にしたとします。後続のタスクが現在の期間単位を利用したレポートの実行である場合、レポートは Weekly YTD データを作成します。

## 組織の変更



[組織の変更] タスクは、現在の Hyperion Enterprise の組織を変更します。

#### タスクのプロパティ

[組織の変更] タスクには、[組織] プロパティだけです。

- ▶ プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - 組織を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、組織を選択します。
  - タスクフローを実行しているときに組織 ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

#### 例

Hyperion Enterprise の現在の組織が「ヨーロッパ」で、[組織の変更] タスクをタスクフローに追加し、プロパティを「北米」にしたとします。現在の組織が「北米」に変わります。

## エンティティの変更



[エンティティの変更] タスクは、現在の Hyperion Enterprise のエンティティを変更します。

#### タスクのプロパティ

[エンティティの変更] タスクには、[エンティティ] プロパティだけです。

- ▶ プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - エンティティを入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、エンティティを選択します。

- タスクフローを実行しているときにエンティティ ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK を選択します。

#### 例

[データ種別の変更] タスクをワークフローに追加し、プロパティを「US100」にしたとします。後続のタスクが現在のエンティティを利用したレポートの実行である場合、レポートは US100 データを作成します。

## 勘定科目の変更



[勘定科目の変更] タスクは、現在の Hyperion Enterprise の勘定科目を変更します。

#### タスクのプロパティ

[勘定科目の変更] タスクには、[勘定科目] プロパティだけがあります。

- ▶ プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - 勘定科目を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、勘定科目を選択します。
  - タスクフローを実行しているときに勘定科目 ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

#### 例

[勘定科目の変更] タスクをワークフローに追加し、プロパティを「利益総額」にしたとします。後続のタスクが現在の勘定科目を利用したレポートの実行である場合、レポートは利益総額データを作成します。

## Enterprise データの抽出



[データの抽出] タスクは、現在のアプリケーションから ASCII テキストファイルにデータを抽出します。

#### タスクのプロパティ

[Enterprise データの抽出] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- エンティティ一覧
- 勘定科目一覧
- 開始期間
- 終了期間
- 算出勘定

- 共通勘定科目
- 書式
- サーバーベース
- タスクフローの再開

▶ データを抽出するには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 抽出するファイル一覧を指定して次のいずれかの操作を行います。
  - エンティティ一覧を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、エンティティ一覧を選択します。
  - タスクフローを実行しているときに勘定科目 ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 3 抽出する勘定科目一覧を指定して次のいずれかの操作を行います。
  - 勘定科目一覧を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、勘定科目一覧を選択します。
  - タスクフローを実行しているときに勘定科目一覧を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 4 抽出データの開始期間を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - 開始期間を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、開始期間を選択します。
  - 現在の Hyperion Enterprise 期間で開始するには、@PDN 関数を指定します。
  - タスクフローを実行しているときに開始期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 5 抽出データの終了期間を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - 終了期間を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、終了期間を選択します。
  - 現在の Hyperion Enterprise 期間で終了するには、@PDN 関数を指定します。
  - タスクフローを実行しているときに終了期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 6 [算出勘定] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。抽出データに算出勘定を含めません。
  - [真]。算出勘定の値を含めます。
- 7 [共通勘定] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。抽出データに共通勘定を含めません。
  - [真]。共通勘定の値を含めます。
- 8 抽出データの書式を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - 書式を入力します。

- [...] ボタンをクリックし、書式を選択します。
  - デフォルトを選択します。
- 9 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
- [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 10 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。
- [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。
  - [偽]。[サーバステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。

**注：** [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

#### 例

- 2月の期間の、「当年実績」データ種別でのすべてのエンティティと勘定科目のデータを抽出するには、次のいずれかの操作を行います。
- 1 Hyperion Enterprise ですべての勘定科目の勘定科目一覧（例えば「ACCTALL」）を定義し、すべてのエンティティのエンティティ一覧（例えば「ENTALL」）を定義します。
  - 2 Hyperion AutoPilot32 で [455 ページの「データ種別の変更」](#) タスクを挿入し、データ種別を「当年実績」に変更します。
  - 3 「Enterprise データの抽出」タスクを挿入し、ファイル名を「output.dat」に変更します。抽出するエンティティ一覧（例えば「ENTALL」）と勘定科目一覧（例えば「ACCTALL」）を選択し、開始期間と終了期間を「2」に設定します。

## 連結の実行



[連結の実行] タスクは、Hyperion Enterprise アプリケーションの現在のデータを連結します。

#### タスクのプロパティ

[連結の実行] タスクには、次のプロパティがあります。

- モード
- データ種別
- 開始期間
- 終了期間
- 親

- サーバーベース
- タスクフローの再開

▶ データを連結するには、次の手順に従います。

**1 [モード] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- 影響されたものを連結する場合は、[変更に影響されたもののみ連結] を選択します。
- データのあるエンティティのみを連結する場合は、[すべてを連結] を選択します。
- すべてのエンティティを連結する場合は、[データのあるものすべての連結] を選択します。

詳しくは、Hyperion Enterprise ヘルプの「データの連結」を参照してください。

**2 連結するデータ種別を指定するには、次のいずれかの操作を行います。**

- データ種別を入力します。
- [...] ボタンをクリックし、データ種別を選択します。
- 現在の Hyperion Enterprise のデータ種別を使用する場合は@CAT 関数を選択します。
- タスクフローを実行しているときにデータ種別を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**3 連結の開始期間を指定するには、次のいずれかの操作を行います。**

- 開始期間を入力します。
- [...] ボタンをクリックし、開始期間を選択します。
- 現在の Hyperion Enterprise 期間で開始するには、@PDN 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときに開始期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**4 連結の終了期間を指定するには、次のいずれかの操作を行います。**

- 終了期間を入力します。
- [...] ボタンをクリックし、終了期間を選択します。
- 現在の Hyperion Enterprise 期間で終了するには、@PDN 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときに終了期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**5 連結の親エンティティを指定するには、次のいずれかの操作を行います。**

- エンティティを入力します。
- [...] ボタンをクリックし、エンティティを選択します。
- 現在の Hyperion Enterprise エンティティを親として使用する場合は@ENT 関数を選択します。
- タスクフローを実行しているときにエンティティ一覧を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**6 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。**

- [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
- [真]。処理をサーバで実行します。

7 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。

- [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。
- [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。

**注：** [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

### 例

サーバ上の 1 月から 4 月までの USDIV エンティティを連結するには、モードを「影響あり」、データ種別を「当年実績」、開始期間を「1」、終了期間を「4」、およびサーバーベースを「真」に設定して、[連結の実行] タスクを追加します。

## Enterprise データの読み込み



[Enterprise データの読込] タスクは、現在のアプリケーションに ASCII テキストファイルからデータを読み込みます。

### タスクのプロパティ

[Enterprise データの読込] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- モード
- 計算式の算出
- 算出勘定の記録
- データなしはゼロ
- 形式
- エラーファイル
- エラー発生時に処理を続行
- サーバーベース
- タスクフローの再開

➤ データを読み込むには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、そのファイルを探します。

**2 [モード] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。**

- [累計]。データ読み込みファイルの値をアプリケーション内の既存の値に追加します。
- [置換]。データ読み込みファイルで指定された期間のすべての勘定科目から既存の値をクリアしてから、データ読み込みファイルの値を読み込みます。読み込みファイルで勘定科目が指定されていない場合は、指定された期間の勘定科目の値は読み込み中にクリアされます。
- [結合]。データ読み込みファイルで指定された勘定科目の既存の値のみをクリアしてから、それをファイルの値に置換します。[置換] オプションとは異なり、[結合] オプションがクリアするのは読み込みファイルで指定された勘定科目の値のみです。

**3 [計算式の算出] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [偽]。計算式を算出しません。
- [真]。計算式を算出します。

**4 [算出勘定の記録] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [偽]。算出勘定を記録しません。
- [真]。算出勘定を記録します。

**5 [データなしはゼロ] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [偽]。失われたデータの値をゼロに変換しません。
- [真]。失われたデータの値をゼロに変換します。

**6 データの書式を指定するには、次のいずれかの操作を行います。**

- 書式を入力します。
- [...] ボタンをクリックし、書式を選択します。
- デフォルトを選択します。

**7 エラーファイルのあるドライブ名、パス、ファイル名を指定します。ここを空白にしておくと、ファイル名はデフォルトの USERID.ERR または FILENAME.ERR になります。USERID はタスクを実行するユーザの ID で、FILENAME は読み込みファイルのファイル名です。**

**8 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
- [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。

**9 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。**

- [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
- [真]。処理をサーバで実行します。

**10 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。**

- [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。

**注：** [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再

開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

- [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

#### 例

OUTPUT.DAT ファイルからデータを読み込むには、ファイル名を「OUTPUT.DAT」に設定して [Enterprise データの読込] タスクを読み込みます。

## レポートのチェック



[レポートのチェック] タスクは、Hyperion Enterprise の 1 つまたはすべてのレポートをチェックします。

#### タスクのプロパティ

[レポートのチェック] タスクには、[レポート] プロパティだけがあります。

- [レポート] プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - レポート ID を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、レポートを選択します。
  - すべてのレポートをチェックする場合は@ALL 関数を選択します。
  - タスクフローを実行しているときにレポート ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

## パッケージのチェック



[パッケージのチェック] タスクは、Hyperion Enterprise の 1 つまたはすべてのパッケージをチェックします。

#### タスクのプロパティ

[パッケージのチェック] タスクには、[パッケージ] プロパティだけがあります。

- [パッケージ] プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - パッケージ ID を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、パッケージを選択します。

- すべてのパッケージをチェックする場合は@ALL 関数を選択します。
- タスクフローを実行しているときにパッケージ ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

## レポートの印刷



[レポートの印刷] タスクは、Hyperion Enterprise レポートを印刷またはプレビューします。

### タスクのプロパティ

[印刷のプレビュー] タスクには、次のプロパティがあります。

- 作成するレポート
- プレビュー

▶ データを印刷するには、次の手順に従います。

- 1 [作成するレポート] プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - レポート ID を入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、レポートを選択します。
  - タスクフローを実行しているときにレポート ID を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 2 [プレビュー] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。レポートをプレビューしません。
  - [真]。レポートをプレビューします。

## パッケージの印刷



[パッケージの印刷] タスクは、レポートの Hyperion Enterprise パッケージを印刷します。

### タスクのプロパティ

[パッケージの印刷] タスクには、[パッケージ] プロパティだけがあります。

- ▶ [パッケージ] プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
- パッケージを入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、パッケージを選択します。
  - タスクフローを実行しているときにパッケージを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

## 配賦セットの実行



「配賦セットの実行」タスクは、配賦セットを実行します。

### タスクのプロパティ

「配賦セットの実行」タスクには、「配賦セット」プロパティだけがあります。

- 「配賦セット」プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - 配賦セットを入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、配賦セットを選択します。
  - タスクフローを実行しているときに配賦セットを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

## 「LedgerLink 読込」プロファイルの実行



「LedgerLink 読込プロファイルの実行」タスクは、「LedgerLink 読込」プロファイルを実行します。

### タスクのプロパティ

「LedgerLink 読込プロファイルの実行」タスクには、「LedgerLink 読込プロファイル」プロパティだけがあります。

- 「LedgerLink」プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - LedgerLink プロファイルを入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、LedgerLink プロファイルを選択します。
  - タスクフローを実行しているときに「LedgerLink」プロファイルを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

## Excel の検索



「Excel の検索」タスクは、Hyperion Retrieve で Microsoft Excel のスプレッドシートを開きます。

### タスクのプロパティ

「Excel の検索」タスクには、「ワークブック」プロパティだけがあります。

- 「ワークブック」プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - Excel のワークブックがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力します。

- [...] ボタンをクリックし、Excel のワークブックを選択します。

**注：** Excel と Hyperion AutoPilot が検索文字列を受け取るために、検索のための文字列を送る前に数秒間時間を置いてください。

## ページ書式とページ設定の読み込み



[ページ書式とページ設定の読込] タスクは、ページ書式とページ設定を読み込みます。

### タスクのプロパティ

[ページ書式とページ設定の読込] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- エラー発生時に処理を続行
- サーバーベース
- タスクフローの再開

▶ ページ書式とページ設定の情報を読み込むには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、そのファイルを探します。
- 2 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
  - [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。
- 3 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 4 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。[サーバステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
  - [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

[タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## ページ書式とページ設定の抽出



「ページ書式とページ設定の抽出」タスクは、ページ書式を抽出したり、レポートのページ設定情報を抽出します。

### タスクのプロパティ

「ページ書式とページ設定の抽出」タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- エラー発生時に処理を続行
- サーバーベース
- タスクフローの再開

▶ ページ書式とページ設定の情報を抽出するには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 「エラー発生時に処理を続行」プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
  - [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。
- 3 「サーバーベース」プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 4 「サーバーベース」プロパティを「真」に設定した場合は、「タスクフローの再開」プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
  - [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

「タスクフローの再開」プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## Enterprise アプリケーションの読み込み



「Enterprise アプリケーションの読み込み」タスクは、ASCII テキストファイルから Hyperion Enterprise アプリケーションを読み込みます。

## タスクのプロパティ

[Enterprise アプリケーションの読込] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- アプリケーション全体
- エンティティ
- 勘定科目
- オプション
- 区切り文字
- エラー発生時に処理を続行
- サーバーベース
- タスクフローの再開

▶ アプリケーションを読み込むには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 [アプリケーション全体] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。アプリケーション全体を読み込みません。
  - [真]。アプリケーション全体を読み込みます。
- 3 [エンティティ] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。エンティティを読み込みません。
  - [真]。エンティティを読み込みます。
- 4 [勘定科目] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。勘定科目を読み込みません。
  - [真]。勘定科目を読み込みます。
- 5 [オプション] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
  - [偽]。アプリケーションオプションを読み込みません。
  - [真]。アプリケーションオプションを読み込みます。
- 6 [区切り文字] プロパティでは、読み込むファイルの区切り文字を指定できます。感嘆符 (!) がデフォルトの文字ですが、どの文字でも使用できます。
- 7 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
  - [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。
- 8 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 9 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。

- [偽]。[サーバステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
- [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

[タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## Enterprise アプリケーションの抽出



[Enterprise アプリケーションの抽出] タスクは、ASCII テキストファイルに Hyperion Enterprise アプリケーションを抽出します。

### タスクのプロパティ

[Enterprise アプリケーションの抽出] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- アプリケーション全体
- エンティティ
- 勘定科目
- オプション
- 区切り文字
- エラー発生時に処理を続行
- サーバーベース
- タスクフローの再開

➤ アプリケーションを抽出するには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 [アプリケーション全体] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。アプリケーション全体を抽出しません。
  - [真]。アプリケーション全体を抽出します。
- 3 [エンティティ] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。エンティティを抽出しません。
  - [真]。エンティティを抽出します。

- 4 [勘定科目] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [偽]。勘定科目を抽出しません。
  - [真]。すべての勘定科目を抽出します。
- 5 [オプション] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
- [偽]。アプリケーションオプションを抽出しません。
  - [真]。アプリケーションオプションを抽出します。
- 6 [区切り文字] プロパティでは、抽出するファイルの区切り文字を指定できます。感嘆符 (!) がデフォルトの文字ですが、どの文字でも使用できます。
- 7 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
  - [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。
- 8 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
- [偽]。ワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 9 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。
- [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
  - [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。
- [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。
- 注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## 計算式の読み込み



[計算式の読込] タスクを使用して、読み込みファイルから Hyperion Enterprise に計算式を読み込みます。

### タスクのプロパティ

[計算式の読込] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- モード
- ロジック

- 更新ルール
- カスタム関数
- ロジックのチェック
- エラー発生時に処理を続行
- サーバーベース
- タスクフローの再開

➤ 計算式を読み込むには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 [モード] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [結合]。書式設定済みのテキストファイルから計算式の情報を既存の計算式に結合します。
  - [置換]。既存の計算式を読み込んだ計算式に置き換えます。
- 3 [ロジック] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
  - [偽]。ロジックを含めません。
  - [真]。ロジックを含めます。
- 4 [更新ルール] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。更新ルールを含めません。
  - [真]。更新ルールを含めます。

結合を指定した場合は、更新ルールを含めることはできません。
- 5 [カスタム関数] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。カスタム関数を含めません。
  - [真]。カスタム関数を含めます。

結合を指定した場合は、カスタム関数を含めることはできません。
- 6 [ロジックのチェック] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
  - [偽]。ロジックのチェックを含めません。
  - [真]。ロジックのチェックを含めます。
- 7 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
  - [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。
- 8 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 9 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。

- [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

[タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## 計算式の抽出



[計算式の抽出] タスクを使用して Hyperion Enterprise の計算式を抽出ファイルに抽出できます。

### タスクのプロパティ

[計算式の抽出] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- すべての計算式
- ロジック
- 更新ルール
- カスタム関数
- サーバベース
- タスクフローの再開

▶ 計算式を抽出するには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 [すべての計算式] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。計算式を抽出しません。
  - [真]。計算式を抽出します。
- 3 [ロジック] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
  - ロジックを入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、ロジックを選択します。
  - すべてのロジックを抽出する場合は@ALL 関数を選択します。
  - タスクフローを実行しているときにロジックを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 4 [更新ルール] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。

- 更新ルールを入力します。
- [...] ボタンをクリックし、更新ルールを選択します。
- すべての更新ルールを抽出する場合は@ALL 関数を選択します。
- タスクフローを実行しているときに更新ルールを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**5 [カスタム関数] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- カスタム関数を入力します。
- [...] ボタンをクリックし、カスタム関数を選択します。
- すべてのカスタム関数を抽出する場合は@ALL 関数を選択します。
- タスクフローを実行しているときにカスタム関数を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**6 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。**

- [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
- [真]。処理をサーバで実行します。

**7 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。**

- [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
- [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

**注：** [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

## ロジックのチェック



[ロジックのチェック] タスクで Hyperion Enterprise ロジックをチェックします。

### タスクのプロパティ

[ロジックのチェック] タスクには、[ロジック] プロパティだけがあります。

- [ロジック] プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - ロジックを入力します。
  - [...] ボタンをクリックし、ロジックを選択します。
  - すべてのロジックをチェックする場合は@ALL 関数を選択します。
  - タスクフローを実行しているときにロジックを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

# 仕訳帳の読み込み



[仕訳帳の読込] タスクは、読み込みファイルから仕訳帳を読み込みます。

## タスクのプロパティ

[仕訳帳の読込] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- 仕訳帳
- 標準テンプレート
- 経常テンプレート
- 通常
- 自動逆仕訳
- 親
- 転記済
- 転記前
- 承認済
- 逆仕訳済
- 保護済
- 区切り文字
- エラー発生時に処理を続行
- サーバーベース
- タスクフローの再開

▶ 仕訳帳を読み込むには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 [仕訳帳] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。仕訳帳を読み込みません。
  - [真]。仕訳帳を読み込みます。
- 3 [標準テンプレート] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。標準テンプレートを読み込みません。
  - [真]。標準テンプレートを読み込みます。
- 4 [経常テンプレート] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。経常テンプレートを読み込みません。
  - [真]。経常テンプレートを読み込みます。
- 5 [通常] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。通常の仕訳帳を読み込みません。
  - [真]。通常の仕訳帳を読み込みます。

- 6 [自動逆仕訳] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [偽]。自動逆仕訳の仕訳帳を読み込みません。
  - [真]。自動逆仕訳の仕訳帳を読み込みます。
- 7 [親] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [偽]。親仕訳帳を読み込みません。
  - [真]。親仕訳帳を読み込みます。
- 8 [転記済] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [偽]。転記済仕訳帳を読み込みません。
  - [真]。転記済仕訳帳を読み込みます。
- 9 [転記前] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [偽]。転記前の仕訳帳を読み込みません。
  - [真]。転記前の仕訳帳を読み込みます。
- 10 [承認済] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
- [偽]。承認済みの仕訳帳を読み込みません。
  - [真]。承認済みの仕訳帳を読み込みます。
- 11 [逆仕訳済] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
- [偽]。逆仕訳済み仕訳帳を読み込みません。
  - [真]。逆仕訳済み仕訳帳を読み込みます。
- 12 [保護済] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
- [偽]。保護済み仕訳帳を読み込みません。
  - [真]。保護済み仕訳帳を読み込みます。
- 13 [区切り文字] プロパティでは、抽出するファイルの区切り文字を指定できます。感嘆符 (!) がデフォルトの文字ですが、どの文字でも使用できます。
- 14 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
  - [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。
- 15 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
- [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 16 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。
- [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
  - [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。
- [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## 仕訳帳の抽出



[仕訳帳の抽出] タスクは、Hyperion Enterprise から仕訳帳を抽出します。

### タスクのプロパティ

[仕訳帳の抽出] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- 期間
- 転記済を転記前として抽出
- 仕訳帳
- 標準テンプレート
- 経常テンプレート
- 通常
- 自動逆仕訳
- 親
- 転記済
- 転記前
- 承認済
- 逆仕訳済
- 保護済
- 区切り文字
- サーバーベース
- タスクフローの再開

▶ 仕訳帳を抽出するには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 [期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - すべての期間を抽出する場合は@ALL 関数を選択します。
  - 現在の期間を抽出するには、@PDN 関数を指定します。
- 3 [転記済を転記前として抽出] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。転記済仕訳帳を転記前として抽出しません。
  - [真]。転記済仕訳帳を転記前として抽出します。

- 4 [仕訳帳] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。すべての仕訳帳は抽出しません。
  - [真]。すべての仕訳帳を抽出します。
- 5 [標準テンプレート] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。標準テンプレートを抽出しません。
  - [真]。標準テンプレートを抽出します。
- 6 [経常テンプレート] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。経常テンプレートを抽出しません。
  - [真]。経常テンプレートを抽出します。
- 7 [通常] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。標準の仕訳帳を抽出しません。
  - [真]。標準の仕訳帳を抽出します。
- 8 [自動逆仕訳] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。自動逆仕訳の仕訳帳を抽出しません。
  - [真]。自動逆仕訳の仕訳帳を抽出します。
- 9 [親] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。親仕訳帳を抽出しません。
  - [真]。親仕訳帳を抽出します。
- 10 [転記済] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。転記済仕訳帳を抽出しません。
  - [真]。転記済仕訳帳を抽出します。
- 11 [転記前] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。転記前の仕訳帳を抽出しません。
  - [真]。転記前の仕訳帳を抽出します。
- 12 [承認済] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
  - [偽]。承認済みの仕訳帳を抽出しません。
  - [真]。承認済みの仕訳帳を抽出します。
- 13 [逆仕訳済] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
  - [偽]。逆仕訳済み仕訳帳を抽出しません。
  - [真]。逆仕訳済み仕訳帳を抽出します。
- 14 [保護済] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
  - [偽]。保護済み仕訳帳を抽出しません。
  - [真]。保護済み仕訳帳を抽出します。
- 15 [区切り文字] プロパティでは、抽出するファイルの区切り文字を指定できます。感嘆符 (!) がデフォルトの文字ですが、どの文字でも使用できます。
- 16 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。

- [真]。処理をサーバで実行します。

**17** [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。

- [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
- [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

**注：** [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

## 仕訳帳の転記



[仕訳帳の転記] タスクは、Hyperion Enterprise の仕訳帳を転記します。

### タスクのプロパティ

[仕訳帳の転記] には、[仕訳帳] プロパティだけがあります。

- ▶ [仕訳帳] プロパティの値を指定するには、次のいずれかの操作を行います。
  - [...] ボタンをクリックし、仕訳帳を選択します。
  - タスクフローを実行しているときに仕訳帳を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
  - すべての仕訳帳を転記する場合は@ALL 関数を選択します。

## 株式の読み込み



[株式の読込] タスクは、ASCII テキストファイルから株式を読み込みます。

### タスクのプロパティ

[株式の読込] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- モード
- 区切り文字
- エラー発生時に処理を続行
- サーバーベース
- タスクフローの再開

- ▶ 株式を読み込むには、次の手順に従います。
- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
  - 2 [モード] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
    - [結合]。株式ファイルの内容を既存の株式に結合します。
    - [置換]。読み込んだ株式で既存の株式を置き換えます。
  - 3 [区切り文字] プロパティでは、読み込むファイルの区切り文字を指定できます。カンマ(,)がデフォルトの文字ですが、どの文字でも使用できます。
  - 4 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
    - [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
    - [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。
  - 5 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
    - [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
    - [真]。処理をサーバで実行します。
  - 6 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。
    - [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
    - [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

[タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## 株式の抽出



[株式の抽出] タスクは、Hyperion Enterprise から株式を抽出します。

[株式の抽出] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- 開始期間
- 終了期間
- すべて
- グループ
- 区切り文字

- サーバーベース
- タスクフローの再開

▶ 株式を抽出するには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 [開始期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
  - タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
  - 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
- 3 [終了期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
  - タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
  - 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
- 4 [すべて] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。すべての株式は抽出しません。
  - [真]。すべての株式を抽出します。
- 5 [グループ] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [...] ボタンをクリックし、グループのエンティティを選択します。
  - タスクフローを実行しているときにエンティティを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
  - 現在のエンティティを選択するには、@ENT 関数を指定します。
- 6 [区切り文字] プロパティでは、抽出するファイルの区切り文字を指定できます。カンマ(,)がデフォルトの文字ですが、どの文字でも使用できます。
- 7 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 8 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。
  - [偽]。[サーバステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
  - [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

**注：** [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

# セキュリティの読み込み



[セキュリティの読込] タスクは、ASCII テキストファイルから Hyperion Enterprise セキュリティデータを読み込みます。

## タスクのプロパティ

[セキュリティの読込] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- ユーザーとグループ
- クラス
- アクセス権限
- タスク
- 区切り文字
- エラー発生時に処理を続行
- サーバーベース
- タスクフローの再開

➤ セキュリティデータを読み込むには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 [ユーザーとグループ] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。ユーザとグループを読み込みません。
  - [真]。ユーザとグループを読み込みます。
- 3 [クラス] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。セキュリティクラスを読み込みません。
  - [真]。セキュリティクラスを読み込みます。
- 4 [アクセス権限] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。アクセス権限を読み込みません。
  - [真]。アクセス権限を読み込みます。
- 5 [タスク] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。タスクセキュリティを読み込みません。
  - [真]。タスクセキュリティを読み込みます。
- 6 [区切り文字] プロパティでは、読み込むファイルの区切り文字を指定できます。感嘆符 (!) がデフォルトの文字ですが、どの文字でも使用できます。
- 7 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
  - [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。
- 8 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。

- [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
- [真]。処理をサーバで実行します。

9 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。

- [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
- [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

[タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## セキュリティの抽出



[セキュリティの抽出] タスクは、Hyperion Enterprise から ASCII テキストファイルにセキュリティデータを抽出します。

### タスクのプロパティ

[セキュリティの抽出] タスクには、次のプロパティがあります。

- ファイル名
- ユーザーとグループ
- クラス
- アクセス権限
- タスク
- 区切り文字
- サーバーベース
- タスクフローの再開

▶ セキュリティデータを抽出するには、次の手順に従います。

- 1 抽出するファイルがあるドライブ名、パス、ファイル名を入力するか、[...] ボタンをクリックして、ファイルを探します。
- 2 [ユーザーとグループ] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [偽]。ユーザとグループを抽出しません。
  - [真]。ユーザとグループを抽出します。
- 3 [クラス] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。

- [偽]。セキュリティクラスを抽出しません。
  - [真]。セキュリティクラスを抽出します。
- 4 [アクセス権限] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [偽]。アクセス権限を抽出しません。
  - [真]。アクセス権限を抽出します。
- 5 [タスク] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [偽]。タスクセキュリティを抽出しません。
  - [真]。タスクセキュリティを抽出します。
- 6 [区切り文字] プロパティでは、読み込むファイルの区切り文字を指定できます。感嘆符 (!) がデフォルトの文字ですが、どの文字でも使用できます。
- 7 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
- [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 8 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。
- [偽]。[サーバーステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
  - [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

**注：** [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

## アプリケーションの変更



[アプリケーションの変更] タスクは、現在の Hyperion Enterprise アプリケーションを変更します。

### タスクのプロパティ

[アプリケーションの変更] タスクには、次のプロパティがあります。

- アプリケーション
- ユーザー名
- パスワード

➤ アプリケーションを変更するには、次の手順に従います。

- 1 [アプリケーション] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
- [...] ボタンをクリックし、アプリケーションを選択します。

- タスクフローを実行しているときにアプリケーションを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 2 [ユーザー名] プロパティにはアプリケーションの有効なユーザ名を指定します。
  - 3 [パスワード] プロパティにはユーザの有効なパスワードを指定します。

## エンティティデータの保護



[エンティティデータの保護] タスクは、指定した期間とデータ種別のエンティティを保護します。

### タスクのプロパティ

[エンティティデータの保護] タスクには、次のプロパティがあります。

- データ種別
- 開始期間
- 終了期間
- エンティティ

► エンティティデータを保護するには、次の手順に従います。

- 1 [データ種別] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。
  - [...] ボタンをクリックし、データ種別を選択します。
  - 現在のデータ種別を使用する場合は@CAT 関数を選択します。
  - タスクフローを実行しているときにデータ種別を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 2 [開始期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
  - 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
  - タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 3 [終了期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
  - 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
  - タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 4 [エンティティ] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。
  - [...] ボタンをクリックし、エンティティを選択します。
  - 現在のエンティティを選択するには、@ENT 関数を指定します。
  - タスクフローを実行しているときにエンティティを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

# エンティティデータの保護解除



[エンティティデータの保護解除] タスクは、指定した期間とデータ種別のエンティティデータの保護を解除します。

## タスクのプロパティ

[エンティティデータの保護解除] タスクには、次のプロパティがあります。

- データ種別
- 開始期間
- 終了期間
- エンティティ

▶ エンティティデータの保護を解除するには、次の手順に従います。

### 1 [データ種別] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。

- [...] ボタンをクリックし、データ種別を選択します。
- 現在のデータ種別を使用する場合は@CAT 関数を選択します。
- タスクフローを実行しているときにデータ種別を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

### 2 [開始期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。

- [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
- 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

### 3 [終了期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。

- [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
- 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

### 4 [エンティティ] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。

- [...] ボタンをクリックし、エンティティを選択します。
- 現在のエンティティを選択するには、@ENT 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときにエンティティを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

# エンティティ一覧データの保護



[エンティティ一覧データの保護] タスクは、指定した期間とデータ種別のエンティティ一覧データを保護します。

## タスクのプロパティ

[エンティティ一覧データの保護] タスクには、次のプロパティがあります。

- データ種別
- 開始期間
- 終了期間
- エンティティ一覧
- サーバーベース
- タスクフローの再開
- エラー発生時に処理を続行

▶ エンティティ一覧データを保護するには、次の手順に従います。

**1 [データ種別] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。**

- [...] ボタンをクリックし、データ種別を選択します。
- 現在のデータ種別を使用する場合は@CAT 関数を選択します。
- タスクフローを実行しているときにデータ種別を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**2 [開始期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
- 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**3 [終了期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
- 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**4 [エンティティ一覧] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [...] ボタンをクリックし、エンティティ一覧を選択します。
- タスクフローを実行しているときにエンティティ一覧を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**5 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。**

- [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
- [真]。処理をサーバで実行します。

**6 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。**

- [偽]。[サーバステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
- [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。

[タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバーベース] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。

7 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。

- [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
- [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## エンティティ一覧データの保護解除



[エンティティ一覧データの保護解除] タスクは、指定した期間とデータ種別のエンティティ一覧データの保護を解除します。

### タスクのプロパティ

[エンティティ一覧データの保護解除] タスクには、次のプロパティがあります。

- データ種別
- 開始期間
- 終了期間
- エンティティ一覧
- サーバーベース
- タスクフローの再開
- エラー発生時に処理を続行

▶ エンティティ一覧データの保護を解除するには、次の手順に従います。

1 [データ種別] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。

- [...] ボタンをクリックし、データ種別を選択します。
- 現在のデータ種別を使用する場合は@CAT 関数を選択します。
- タスクフローを実行しているときにデータ種別を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

2 [開始期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。

- [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
- 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

3 [終了期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。

- [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
  - 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
  - タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 4 [エンティティ一覧] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**
- [...] ボタンをクリックし、エンティティ一覧を選択します。
  - タスクフローを実行しているときにエンティティ一覧を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。
- 5 [サーバーベース] プロパティには、次の値のいずれかを選択するか入力します。**
- [偽]。ローカルのワークステーションで処理を実行します。
  - [真]。処理をサーバで実行します。
- 6 [サーバーベース] プロパティを「真」に設定した場合は、[タスクフローの再開] プロパティには次の値のいずれかを選択するか入力します。**
- [偽]。[サーバステータス] ウィンドウが閉じてからタスクフローを再開します。通常は、サーバがタスクを完了したときです。
  - [真]。Hyperion AutoPilot32 がサーバのタスクを開始してからタスクフローを再開します。
- [タスクフローの再開] プロパティを「偽」に設定した場合は、[サーバステータス] ウィンドウを閉じないでください。タスクフローの再開が「偽」に設定されていても、ウィンドウを閉じると Hyperion AutoPilot32 は処理を再開します。
- 7 [エラー発生時に処理を続行] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**
- [偽]。エラーが発生するとタスクフローを停止します。
  - [真]。エラーが発生してもタスクフローを続行します。

**注：** サーバがデータを読み込み中にエラーが発生した場合でも、[サーバーベース] と [タスクフローの続行] が「真」に設定されていれば、[エラー発生時に処理を続行] がどのように設定されていてもタスクフローは処理を続行します。

## 計算式の実行



[計算式の実行] タスクは、選択したアプリケーションの計算式を実行します。

### タスクのプロパティ

[計算式の実行] タスクには、次のプロパティがあります。

- データ種別
- エンティティ
- エンティティ一覧

- 終了期間

▶ 計算式を実行するには、次の手順に従います。

**1 [データ種別] プロパティには、次のオプションのいずれかを選択できます。**

- [...] ボタンをクリックし、データ種別を選択します。
- 現在のデータ種別を使用する場合は@CAT 関数を選択します。
- タスクフローを実行しているときにデータ種別を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**2 [エンティティ] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [...] ボタンをクリックし、エンティティを選択します。
- 現在のエンティティを選択するには、@ENT 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときにエンティティを指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

または

**3 [エンティティ一覧] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [...] ボタンをクリックし、エンティティ一覧を選択します。
- タスクフローを実行しているときにエンティティ一覧を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

**4 [終了期間] プロパティには、次の値のいずれかを選択できます。**

- [...] ボタンをクリックし、期間とデータ種別を選択します。
- 現在の期間を選択するには、@PDN 関数を指定します。
- タスクフローを実行しているときに期間を指定するプロンプトを表示するには、@ASK 関数を選択します。

5

## アプリケーションバックアップユーティリティ



[アプリケーションのバックアップ] タスクは、適切なアプリケーションのバックアップを行います。

**注：** アプリケーションバックアップスケジュールについて、ユーザに前もって通知できます。アプリケーションタスクのプロパティでは、メッセージを何分前に同報通信するか、および送信する間隔を指定します。例えば、バックアップ開始の 10 分前から 3 分ごとにメッセージを同報通信する場合は、アプリケーションタスクのプロパティで、[ブロードキャストメッセージの送信頻度] に 3 分を指定し、[ブロードキャスト開始時間] に 10 分を指定します。

### タスクのプロパティ

[アプリケーションのバックアップ] タスクには、次のプロパティがあります。

- ▶ [アプリケーションのバックアップ] タスクを実行するには、次のプロパティ値を指定します。
- 1 **[ディレクトリ名]** を入力します。
  - 2 [...] ボタンをクリックして、アプリケーションパスに移動します。
  - 3 **ブロードキャストメッセージの送信オプション**には、次の値のいずれかを選択するか入力します。
    - **[偽]**。アプリケーションバックアップではブロードキャストメッセージが送信されません。
    - **[真]**。アプリケーションバックアップでブロードキャストメッセージが送信されます。
  - 4 **[ブロードキャストメッセージの送信頻度]** の詳細を入力します。ブロードキャストメッセージの送信間隔を分単位で指定します。
  - 5 **[ブロードキャスト開始時間]** の詳細を入力します。メッセージを何分前に同報通信するかを指定します。

## アプリケーション復元ユーティリティ



[アプリケーションの復元] タスクは、適切な Hyperion Enterprise アプリケーションをユーザ指定の場所に復元します。

### タスクのプロパティ

[アプリケーションの復元] タスクには、次のプロパティがあります。

- ▶ [Restore Application (アプリケーションの復元)] タスクを実行するには、次のプロパティ値を指定します。
- 1 **[ディレクトリ名]** を入力します。
  - 2 [...] ボタンをクリックして、アプリケーションパスに移動します。
  - 3 アプリケーションをユーザ指定の場所に復元するオプションには、次の値のいずれかを選択するか入力します。
    - **[偽]**。アプリケーションはユーザ指定の場所に復元されません。
    - **[真]**。アプリケーションはユーザ指定の場所に復元されます。
  - 4 **[アプリケーション ID]** の詳細を入力します。
  - 5 **[アプリケーションの復元パス]** の詳細を入力します。
  - 6 [...] ボタンをクリックして、アプリケーションパスに移動します。

# プログラムコードへのキーストロークの送信

各キーは、1つ以上の文字で表されます。1つのキーボード文字を指定するには、文字自体を使用します。例えば、文字 A を表すには「A」を使用します。複数の文字を表すには、先行する文字に追加の各文字を追加します。文字 A、B、および C を表すには「ABC」を使用します。

プラス記号 (+)、カレット (^)、パーセント記号 (%)、チルド (~)、およびかっこ (( )) は SendKeys に対して特殊な意味を持ちます。これらの文字のいずれかを指定するには、中かっこ ({ }) で囲みます。例えば、プラス記号を指定するには {+} を使用します。角かっこ ([ ]) は SendKeys に対して特殊な意味を持ちませんが、これらも中かっこで囲む必要があります。他のアプリケーションでは、動的データ交換 (DDE) が行われるときに大かっこが特殊な意味を持つことがあります。中かっこを指定するには、{{ }} と {} } を使用します。

ENTER や TAB など、キーを押したときに表示されない文字、および文字ではなくアクションを表すキーを指定するには、次の表に示すコードを使用します。

表 44

送信するキーストローク	使用するコード
BACKSPACE	{BACKSPACE}、{BS}、または{BKSP}
BREAK	{BREAK}
CAPS LOCK	{CAPSLOCK}
DEL または DELETE	{DELETE}または{DEL}
↓	{DOWN}
END	{END}
ENTER	{ENTER}または~
ESC	{ESC}
HELP	{HELP}
HOME	{HOME}
INS または INSERT	{INSERT}または{INS}
←	{LEFT}
NUM LOCK	{NUMLOCK}
PAGE DOWN	{PGDN}
PAGE UP	{PGUP}
*PRINT SCREEN	{PRTSC}
→	{RIGHT}
SCROLL LOCK	{SCROLLLOCK}

送信するキーストローク	使用するコード
TAB	{TAB}
↑	{UP}
ファンクションキー F1 ~ F16	{F1}~{F16}
別のキーと組み合わせた SHIFT	+および他のキー。例えば、+4 を使用して、Shift と 4 のキーストロークの組み合わせを送信します。これにより、ドル記号 (\$) が生成されます。
別のキーと組み合わせた CTRL	^および他のキー。例えば、^{F4}を使用して、Ctrl と F4 のキーストロークの組み合わせを送信します。
別のキーと組み合わせた ALT	%および他のキー。例えば、%f を使用して、Alt と F のキーストロークの組み合わせを送信します。
他の複数のキーと組み合わせた SHIFT、CTRL、または ALT	+, ^、または%と、かっこで囲んだ他のキー。例えば、+(EC)を使用して、SHIFT と EC のキーストロークの組み合わせを送信します (SHIFT は E と C の両方のキーに影響します)。+EC の組み合わせがかっこなしで使用された場合、SHIFT は E キーにのみ影響します。
キーの繰り返し	{key number}。key はキーストロークで、number はキーを繰り返す回数です。key と number の間にスペースを挿入する必要があります。例えば、←のキーストロークを 42 回送信するには{LEFT 42}を使用します。文字 H を 10 回送信するには{h 10}を使用します。

\*PRINT SCREEN {PRTSC}キーをアプリケーションに送信することはできません。

**注：** Microsoft Windows で実行されるように設計されていないアプリケーションに、[ SEND キー ] タスクを使用してキーストロークを送信することはできません。

## Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise

Hyperion AutoPilot32 for Hyperion Enterprise は Hyperion Enterprise のアドオンとして使用します。Hyperion AutoPilot32 は、Hyperion Enterprise のタスクのスケジューリングと自動化に使用します。Hyperion Enterprise Reporting を使用してレポートを生成できます。

FDM アダプタキーについては、FDM のマニュアルを参照してください。



---

## この章の内容

Hyperion Enterprise マニュアル .....	495
---------------------------------	-----

## Hyperion Enterprise マニュアル

オラクル社の HyperionR EnterpriseR、オラクル社の Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting、および Oracle Hyperion Financial Data Quality Management、Fusion Edition のマニュアル（PDF または HTML 形式）にアクセスするには、Oracle Technology Network（OTN）サイトを参照してください。



# 索引

## A - Z

ASCII ファイル, 458

アプリケーションの抽出, 470

アプリケーションの読込, 468

株式の読込, 479

仕訳帳の抽出先, 129

仕訳帳の読み込み元, 130

セキュリティデータの読み込み, 482

セキュリティデータを抽出, 483

データの抽出, 61, 458

データの読み込み, 59, 462

配賦, 169

Enterprise アプリケーション, 484

抽出, 470

変更, 484

読み込み, 468

[Enterprise エンティティの検索] ダイアログ  
ボックス, 275

[Enterprise 勘定科目の検索] ダイアログボック  
ス, 271

[Enterprise サーバー管理] ウィンドウ, 440

Enterprise データ, 458

抽出, 458

読み込み, 462

ERROR.LOG ファイル, 59

Excel

Hyperion Retrieve 関数の貼り付け, 78

Hyperion Retrieve の起動, 74

Hyperion Retrieve の設定, 71

ファイルの位置, 73

HPACC 関数, 229

HPAMJ 関数, 229

HPAPP.DAT

環境変数, 73

HPAPP.DAT 環境変数, 73

HPAPP.DAT ファイル, 72

HPAS1 関数, 230

HPAS2 関数, 230

HPBET 関数, 231, 246

HPCAL 関数, 231

HPCDE 関数, 232

HPCONTRIB 関数, 232

HPCUR 関数, 233

HPDCTRL 関数, 233, 248

HPDOWN 関数, 234

HPDRV 関数, 234

HPECODE 関数, 235

HPELIM 関数, 235

HPFLW 関数, 236

HPFNA 関数, 236

HPFRE 関数, 236

HPFSN 関数, 237

HPFUL 関数, 237

HPHEA 関数, 238

HPHMJ 関数, 238

HPHS1 関数, 238

HPHS2 関数, 239

HPINC 関数, 239, 240

HPJAC 関数, 240

HPJCR 関数, 240

HPJDB 関数, 241

HPJDS 関数, 241

HPJEN 関数, 242

HPJNO 関数, 242

HPJST 関数, 243

HPKEY 関数, 243

HPLNK 関数, 244

HPNAM 関数, 244

HPNNA 関数, 245

HPNSN 関数, 245

HPPARADJ 関数, 245

HPPCH 関数, 247

HPPCONS 関数, 247

HPPOWN 関数, 248

HPPROP 関数, 249

HPSCA 関数, 249

HPSHAROS 関数, [250](#)

HPSHAROW 関数, [250](#)

HPTRAN 関数, [251](#)

HPVAL 関数, [251](#)

HPVSHAROS 関数, [252](#)

HPVSHAROW 関数, [253](#)

Hyperion Allocations

概要, [157](#)

起動, [162](#)

デスクトップ, [160](#)

Hyperion Allocations デスクトップ, [172](#)

Hyperion Allocations の [ADDONS.LOG ファイル] ダイアログボックス, [173](#)

Hyperion Allocations の [Allocations 読込ファイルの名前の入力] ダイアログボックス, [184](#)

Hyperion Allocations の [アプリケーションのログオン] ダイアログボックス, [173](#)

Hyperion Allocations の [色の設定] ダイアログボックス, [173](#)

Hyperion Allocations の [エンティティの選択] ダイアログボックス, [177](#)

Hyperion Allocations の [期間の選択] ダイアログボックス, [177](#)

Hyperion Allocations の [言語の選択] ダイアログボックス, [173](#)

Hyperion Allocations の [セットの抽出] ダイアログボックス, [183](#)

Hyperion Allocations の [セット読込ファイルの名前の入力] ダイアログボックス, [185](#)

Hyperion Allocations の [抽出ファイルの名前の入力] ダイアログボックス, [184](#)

Hyperion Allocations の [データ種別の選択] ダイアログボックス, [177](#)

Hyperion Allocations の [配賦セット] ダイアログボックス, [178](#)

Hyperion Allocations の [配賦セットの実行] ダイアログボックス, [180](#)

Hyperion Allocations の [配賦タイプ] ダイアログボックス, [174](#)

Hyperion Allocations の [配賦の抽出] ダイアログボックス, [183](#)

Hyperion Allocations の [配賦ユニットの編集] ダイアログボックス, [175](#)

Hyperion Allocations の [配賦ロジック] ダイアログボックス, [174](#)

Hyperion Allocations の [プレビュー] ウィンドウ, [183](#)

Hyperion Allocations の [プレビュー期間単位の選択] ダイアログボックス, [176](#)

Hyperion Allocations の [レコードの上書き] ダイアログボックス, [185](#)

Hyperion Allocations の [レポート] ダイアログボックス, [182](#)

[詳細] タブ, [183](#)

[実行] タブ, [182](#)

[配賦セット定義] タブ, [182](#)

[配賦ユニット] タブ, [182](#)

Hyperion AutoPilot32, [454](#)

起動, [454](#)

Hyperion Enterprise Web。「Web, Hyperion Enterprise」を参照

Hyperion Enterprise アプリケーションの変更, [206](#)

Hyperion Enterprise へのデータの読み込み, [215](#)

Hyperion Enterprise への読み込み, [205](#)

Hyperion Retrieve

Excel での関数の貼り付け, [78](#)

Excel の起動, [74](#)

関数, [75](#)

概要, [71](#)

計算式, [74](#)

設定, [71](#)

[データなしをゼロで表示] オプション, [74](#)

引数, [75](#)

ワークシート, [78](#)

Hyperion Retrieve アドインファイルの位置, [73](#)

Hyperion Retrieve の引数, [75](#)

LedgerLink, [189](#)

起動, [206](#)

LedgerLink デスクトップ, [215](#)

LedgerLink の [Hyperion Enterprise への読込] ダイアログボックス, [226](#)

LedgerLink の [エンティティ変換], [221](#)

LedgerLink の [外部エンティティ一覧を作成] ダイアログボックス, [222](#)

LedgerLink の [外部勘定科目一覧ファイルの選択] ダイアログボックス, [227](#)

LedgerLink の [コピー] ダイアログボックスのオプション, [216](#)

LedgerLink の [サンプル入力ファイルを開く] ダイアログボックス, [218](#)

LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 1] ダイアログボックス, [217](#)

LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 2] ダイアログボックス, 218

LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 3] ダイアログボックス, 218

LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 4] ダイアログボックス, 219

LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 5] ダイアログボックス, 220

LedgerLink の [入力ファイルテンプレート] リストのウィンドウ, 215

LedgerLink の [プロファイルパラメーター一覧] ダイアログボックス, 226

LedgerLink の [変換/読込プロファイル] ダイアログボックス, 225

    [変換] タブ, 224

    [読込] タブ, 225

LedgerLink の [変換/読込プロファイル] リスト, 223

LedgerLink の [名称変更] ダイアログボックス, 216

LedgerLink の [読込名を入力してください] ダイアログボックス, 223

LedgerLink 読込プロファイル, 466

    実行, 466

Microsoft Excel, 71, 466

[OK] ステータス, 88

[Posted and Edited (転記済および編集済)] 仕訳帳のステータス, 112

POV, Hyperion Enterprise Web, 136

[Server Administration] ウィンドウ, 439

[Server セットアップ] ダイアログボックス, 437

Web, Hyperion Enterprise

    POV, 136

    エラーログ, 148

    エンティティ, 検索, 140

    勘定科目, 検索, 140

    使用, 135

    タスクステータス, 141

    データ

        入力, 145

        表示, 142

        連結, 140

    連結詳細, 139

Web サーバ, 451

    [管理] タブ, 451

    [管理] タブ; [設定] タブ, 452

[処理量] タブ, 452

## あ行

アイコン

Hyperion Allocations, 164

[エンティティ変換] ウィンドウ, 200

配賦のプレビュー, 171

[変換結果の表示] ウィンドウ, 200

[アクセス権レポート] ダイアログボックス, 418

値。「データ」を参照

[値の挿入] ダイアログボックス, 394

アドイン

    ファイル, 71

アプリケーション, 484

    Enterprise の変更, 484

    Hyperion Allocations での変更, 163

    Hyperion Retrieve でのデフォルトの変更, 81

    テスト, 48

    変更, 206

[アプリケーション] ウィンドウ, 301

    [換算] タブ, 302

    [連結ロジック] タブ, 302

アプリケーションエラーログ, Hyperion

    Enterprise Web, 148

アプリケーションサーバ, 446

    [管理] タブ, 446

    [処理量] タブ, 447

    [設定] タブ, 446

    [ログの表示] タブ, 448

[アプリケーション属性] ダイアログボックス, 311

    [詳細設定オプション] タブ, 314

    [設定オプション] タブ, 312

    ファイルベースアプリケーション用の [ドライバの設定] タブ, 313

[アプリケーションドライバ] ダイアログボックス, 304

アプリケーションの設定, 442

[アプリケーションの設定変更] ダイアログボックス, 300

[アプリケーションの抽出] ダイアログボックス, 317

    [エンティティ] タブ, 318

    [オプション] タブ, 319

    [勘定科目] タブ, 318

    [ファイル] タブ, 317

- アプリケーションのテスト, [48](#)
- [アプリケーションのバックアップ] ダイアログボックス, [320](#), [321](#), [322](#), [323](#)
  - [Backup Profiles (バックアッププロファイル)] タブ, [320](#)
  - [スケジュール] タブ, [322](#)
  - [復元] タブ, [323](#)
  - [ロジック] タブ, [321](#)
- [アプリケーションの変更] ダイアログボックス, [441](#)
- [アプリケーションのユーザレポート] ダイアログボックス, [324](#)
- [アプリケーションの読込] ダイアログボックス, [314](#)
  - [エンティティ] タブ, [315](#)
  - [オプション] タブ, [316](#)
  - [勘定科目] タブ, [316](#)
  - [ファイル] タブ, [315](#)
- [アプリケーション要素レポート] ダイアログボックス, [419](#)
- [アプリケーションを開く] ダイアログボックス, [303](#)
- [イベントログの表示] ダイアログボックスのオプション, [292](#)
- 色
  - Allocations デスクトップ, [163](#)
  - Hyperion Allocations, [163](#)
- [色の変更] ダイアログボックス, [289](#)
- 印刷, [465](#)
  - パッケージ, [465](#)
  - レポート, [465](#)
- インポートする変換ファイルのルール, [198](#)
- ウィンドウ, [172](#), [215](#), [268](#)
  - Hyperion Allocations デスクトップ, [172](#)
  - Hyperion Allocations の [プレビュー], [183](#)
  - LedgerLink デスクトップ, [215](#)
  - LedgerLink の [エンティティ変換], [221](#)
  - LedgerLink の [入力ファイルテンプレート] リスト, [215](#)
  - アプリケーション, [301](#)
  - エンティティ一覧, [282](#)
  - エンティティ変換表, [272](#)
  - 会社間照合, [348](#)
  - カスタム関数, [416](#)
  - 勘定科目一覧, [276](#)
  - 勘定科目表, [355](#)
  - 勘定科目変換表, [268](#)
- 期別替, [261](#)
- コード, [266](#)
- サブ勘定科目表, [358](#)
- 仕訳帳, [118](#), [368](#)
- 組織, [325](#)
- 通貨, [255](#)
- デスクトップ, [287](#)
- データ種別, [257](#)
- データ入力表, [23](#), [364](#)
- データベース, [38](#), [385](#)
- パッケージ, [417](#)
- レポート, [417](#)
- 連結, [90](#), [384](#)
  - ロジック, [398](#)
- [影響あり] ステータス, [88](#)
- エラーログ, Hyperion Enterprise Web, [148](#)
- [エラーログ] ダイアログボックス, [291](#)
- エンティティ, [457](#)
  - ID の検索, [244](#), [245](#)
  - 値の配賦, [158](#)
  - 所有株, [250](#), [253](#)
  - 仕訳帳, [242](#)
  - 説明の検索, [236](#), [237](#)
  - 単位, [249](#)
  - 通貨, [233](#)
  - デフォルトの取得, [243](#)
  - 変更, [457](#)
  - 保護, [485](#)
  - 保護解除, [486](#)
  - [連結] ウィンドウでの検索, [90](#)
  - 連結詳細の保存, [88](#)
  - 連結の選択, [92](#)
- エンティティ, Hyperion Enterprise Web での検索, [140](#)
- エンティティ一覧
  - データベース内での表示, [41](#)
  - データベース内での編集, [44](#)
  - 配賦先, [158](#)
- [エンティティ一覧] ウィンドウ, [281](#)
  - [一覧] タブ, [281](#)
  - [エンティティ] タブ, [282](#)
  - [オプション] タブ, [283](#)
- [エンティティ一覧属性] ダイアログボックス, [285](#)
- エンティティ一覧データ, [486](#)
  - 保護, [486](#)
  - 保護解除, [488](#)

[エンティティ一覧の印刷] ダイアログボックス, 286  
 [エンティティ一覧のコピー] ダイアログボックス, 285  
 [エンティティ一覧の削除] ダイアログボックス, 285  
 [エンティティ一覧の表示] ダイアログボックス, 396  
 [エンティティ一覧を開く] ダイアログボックス, 284  
 エンティティ関数 (HPNAM) , 244  
 エンティティコード  
     検索, 235  
 エンティティコードオプション, 100  
 エンティティコード関数 (HPECODE) , 235  
 [エンティティ詳細レポート] ダイアログボックス, 396  
 [エンティティの検索] ダイアログボックス, 297  
 エンティティの詳細  
     レポートの作成, 65  
 エンティティの説明関数 (HPFUL) , 237  
 [エンティティの選択] ダイアログボックス, 298, 339  
 [エンティティの追加] ダイアログボックス, 337  
 [エンティティのデフォルト] ダイアログボックス, 344  
     [親子関係] タブ, 346  
     [詳細設定オプション] タブ, 347  
     [属性] タブ, 345  
 [エンティティの貼り付け] ダイアログボックス, 404  
 エンティティ変換, 192, 194  
 [エンティティ変換表] ウィンドウ, 272  
 [エンティティ変換表の印刷] ダイアログボックス, 275  
 [エンティティ変換表のコピー] ダイアログボックス, 274  
 [エンティティ変換表の削除] ダイアログボックス, 274  
 [エンティティ変換表の属性] ダイアログボックス, 273  
 [エンティティ変換表を開く] ダイアログボックス, 273  
 オプション  
     エンティティコード, 100  
 オペレータキー, 30

親  
     調整, 109  
 [親が未定義のエンティティの除去] ダイアログボックス, 338  
 [親子関係の算出] ダイアログボックス, 341  
 親の仕訳帳, 109  
     識別子, 113  
 親の調整  
     検索, 245  
     抽出, 63  
     レポートの作成, 53  
 親の調整詳細  
     表示, 27  
 親の調整データ関数 (HPPARADJ) , 245  
 [親の追加] ダイアログボックス, 338

## か行

[下位構造の削除] ダイアログボックス, 333  
 [下位構造の属性] ダイアログボックス, 332  
 [下位構造を開く] ダイアログボックス, 331  
 会社間。「消去」を参照  
 会社間照合  
     レポートの作成, 97-105  
 [会社間照合] ウィンドウ, 348  
 [会社間照合グループ属性] ダイアログボックス, 349  
 [会社間照合グループの印刷] ダイアログボックス, 351  
 [会社間照合グループのコピー] ダイアログボックス, 350  
 [会社間照合グループの削除] ダイアログボックス, 351  
 [会社間照合グループを開く] ダイアログボックス, 350  
 会社間照合レポート  
     ケーススタディ, 103  
     実行, 102  
 [会社間照合レポート] ダイアログボックス, 351  
 [会社間の子を更新] ダイアログボックス, 342  
 貸方値, 240  
 [カスタム関数] ウィンドウ, 416  
 株式, 250, 253, 480  
     検索, 250, 252  
     抽出, 480  
     読み込み, 479  
 [株式の抽出] ダイアログボックス, 344

[株式の読込] ダイアログボックス, 343

借方値, 241

換算詳細

検索, 251

抽出, 63

表示, 27

レポートの作成, 53

換算データ関数 (HPTRAN) , 251

勘定科目, 458

ID の検索, 229

値の配賦, 159

差異の検索, 246-247

種別の検索, 236-239

仕訳帳, 240

説明の検索, 238

単位, 249

デフォルトの取得, 243

データなし, 52

データなしをゼロに設定, 34

データ入力表での検索, 27

データ入力表でのハイライト, 31

データベース内での検索, 43

データベース内のステータス, 39

変更, 458

勘定科目, Hyperion Enterprise Web での検索, 140

勘定科目 ID 関数 (HPACC) , 229

勘定科目一覧

データ入力表, 28

データベース内, 42

[勘定科目一覧] ウィンドウ, 276

[一覧] タブ, 276

[フィルタ] タブ, 277

[勘定科目一覧属性] ダイアログボックス, 279

[勘定科目一覧の印刷] ダイアログボックス, 281

[勘定科目一覧のコピー] ダイアログボックス, 280

[勘定科目一覧の削除] ダイアログボックス, 279

[勘定科目一覧の表示] ダイアログボックス, 394

[勘定科目一覧を開く] ダイアログボックス, 278

[勘定科目の検索] ダイアログボックス, 296

勘定科目の説明関数 (HPHEA) , 238

[勘定科目の選択] ダイアログボックス, 383

[勘定科目の貼り付け] ダイアログボックス, 403

[勘定科目表] ウィンドウ, 355

[サブ勘定科目表] タブ, 357

[属性] タブ, 355

[勘定科目表の印刷] ダイアログボックス, 357

[勘定科目変換表] ウィンドウ, 268

[勘定科目変換表の印刷] ダイアログボックス, 271

[勘定科目変換表のコピー] ダイアログボックス, 270

[勘定科目変換表の削除] ダイアログボックス, 269

[勘定科目変換表の属性] ダイアログボックス, 269

[勘定科目変換表を開く] ダイアログボックス, 269

勘定グループ

データベース内, 42

データベース内での検索, 44

[勘定グループの検索] ダイアログボックス, 297

[勘定グループの表示] ダイアログボックス, 299, 362

[関数設定支援] ダイアログボックス, 405

[関数設定支援への貼り付け] ダイアログボックス, 405

[関数の貼り付け] ダイアログボックス, 404

外部一覧

更新, 210

作成, 210

外部一覧の更新, 210

[外部エンティティの検索] ダイアログボックス, 274

[外部勘定科目の検索] ダイアログボックス, 270

期間, 456

差異の検索, 247

仕訳帳で開く, 119

ステータス, 39

デフォルトの取得, 243

データ入力表での検索, 27

データ入力表でのハイライト, 31

データベース内での検索, 44

データベース内での保護, 49

データベース内での保護解除, 49

配賦対象, 159

変更, 456  
 [連結] ウィンドウでの検索, 91  
 連結の選択, 92  
 期間単位, 456  
 検索, 236  
 変更, 456  
 [期間の検索] ダイアログボックス, 298  
 [期別替] ウィンドウ, 261  
 [オプション] タブ, 262  
 [設定] タブ, 261  
 [期別替セットのコピー] ダイアログボックス, 265  
 [期別替セットの削除] ダイアログボックス, 266  
 [期別替セットの属性] ダイアログボックス, 264  
 [期別替セットを開く] ダイアログボックス, 265  
 [期別替の印刷] ダイアログボックス, 264  
 [期別替の実行] ダイアログボックス, 263  
 期別表示  
 仕訳帳, 115  
 記録レポート, 133  
 [記録レポート] ダイアログボックス, 381  
 [オプションの列] タブ, 382  
 [標準列] タブ, 381  
 議決権株  
 検索, 233, 252, 253  
 逆仕訳済み仕訳帳  
 識別子, 113  
 [逆仕訳済] 仕訳帳のステータス, 111  
 グローバルルール, 195, 196  
 計算式, 473  
 Hyperion Retrieve, 74  
 抽出, 473  
 データ入力表での計算, 33  
 データ入力表への表示, 25, 144  
 データベース内での計算, 40, 52, 58  
 読み込み, 471  
 [計算式オプション] ダイアログボックス, 408  
 [計算式のエクスポート] ダイアログボックス, 412  
 [計算式の抽出] ダイアログボックス, 410  
 [カスタム関数] タブ, 411  
 [更新ルール] タブ, 411  
 [ファイル] タブ, 410  
 [ロジック] タブ, 410

[計算式の読込] ダイアログボックス, 409  
 [計算式のリンク] ダイアログボックス, 408  
 経常テンプレート, 110  
 識別子, 113  
 仕訳帳の作成, 122  
 結果  
 変換結果の表示, 211  
 [結合] オプション, 57  
 検索, 250, 253  
 言語  
 Hyperion Allocations の言語, 162  
 [更新ルール] ウィンドウ, 412  
 [更新ルールのコピー] ダイアログボックス, 414  
 [更新ルールの削除] ダイアログボックス, 415  
 [更新ルールの属性] ダイアログボックス, 414  
 [更新ルールを開く] ダイアログボックス, 413  
 [子の追加] ダイアログボックス, 337  
 子の連結詳細レポート  
 実行, 53  
 [子の連結詳細レポート] ダイアログボックス, 395  
 コード  
 検索, 235  
 仕訳帳, 114  
 [コード] ウィンドウ, 266  
 [コードの印刷] ダイアログボックス, 267  
 [コードの検索] ダイアログボックス, 267

## さ行

差異関数 (HPBET) , 231  
 最終支配比率関数 (HPPCTRL) , 248  
 最終出資比率関数 (HPPOWN) , 248  
 最終連結比率関数 (HPPCONS) , 247  
 最初のエンティティの ID 関数 (HPNNA) , 245  
 最初のエンティティの説明関数 (HPFNA) , 236  
 差異率関数 (HPPBE) , 246  
 削除済み仕訳帳  
 識別子, 113  
 [削除済] 仕訳帳のステータス, 112  
 サブエンティティ  
 ID の検索, 245  
 説明の検索, 237  
 サブエンティティの ID 関数 (HPNSN) , 245  
 サブエンティティの説明関数 (HPFSN) , 237

## サブ勘定科目

ID の検索, 230

説明の検索, 238, 239

配賦先, 159

非表示, 28

[サブ勘定科目の検索] ダイアログボックス, 362

[サブ勘定科目の貼り付け] ダイアログボックス, 362

[サブ勘定科目表] ウィンドウ, 358

[サブ勘定科目表属性] ダイアログボックス, 363

[サブ勘定科目表の印刷] ダイアログボックス, 361

[サブ勘定科目表のコピー] ダイアログボックス, 360

[サブ勘定科目表の削除] ダイアログボックス, 361

[サブ勘定科目表を開く] ダイアログボックス, 359

[サマリー情報] ダイアログボックス, 402

## 算出勘定

勘定科目の種別, 231

データの移動, 32

データの編集, 32

データの読み込み, 58

レポートの作成, 58

算出勘定関数 (HPCAL) , 231

[算出] ステータス, 88

サンプルファイル, 189

ソースの選択, 191

## サンプルレコード

選択, 207

[サーバーの設定] ダイアログボックス, 439

[サーバーの追加] ダイアログボックス, 440

[サーバーの定義 - 識別] ダイアログボックス, 437

[サーバーの定義 - ファイルの位置] ダイアログボックス, 438

試算表レポート, 134

[試算表レポート] ダイアログボックス, 383

## 四捨五入

データ入力表, 26

## 支配

比率の検索, 248

## 支配比率

検索, 233

## 収益勘定科目

勘定科目の種別, 239

収益勘定科目関数 (HPINC) , 239

## 出資比率

検索, 234

比率の検索, 248

主要勘定科目 ID 関数 (HPAMJ) , 229

主要勘定科目の説明関数 (HPPMJ) , 238

## 消去

検索, 235

保護されたデータ, 50

消去データ関数 (HPELIM) , 235

## 消去の詳細

抽出, 63

表示, 27

レポートの作成, 53

## 小数表示

仕訳帳, 114

データ入力表, 34

データベース内, 69

[小数表示] オプション, 69

## 承認済み仕訳帳

識別子, 113

[承認済] 仕訳帳のステータス, 111

[将来の期間に影響させる] オプション, 115

[書式属性] ダイアログボックス, 390

[書式] ダイアログボックス, 391

[書式のコピー] ダイアログボックス, 390

[書式の削除] ダイアログボックス, 389

[書式を開く] ダイアログボックス, 389

仕訳帳, 109, 475。「親の調整」も参照

エンティティ, 242

親エンティティ, 109

貸方値, 240

借方値, 241

勘定科目の検索, 240

逆仕訳, 128

経常テンプレートを使用した作成, 122

コード, 114

削除, 119

作成, 121

識別子, 113

種類, 107-109

詳細の入力, 121

承認, 123, 124

将来の期間, 115

処理, 119

- 情報の表示, 114
- ステータス, 111, 243
- 説明の検索, 241
- 貸借一致, 110
- 貸借不一致, 110
- 抽出, 129, 477
- 定義, 107
- 転記, 125-127, 479
- 転記取り消し, 127
- テンプレート, 109
- テンプレートの作成, 120
- データなしへの転記, 116
- データ表示, 115
- データベース内での保護, 125
- データベース内での保護解除, 125
- 反復, 110
- 番号付け, 112
- 番号の検索, 242
- ファイルの書式, 131
- 編集, 128
- 「保護済」ステータス, 39
- 読み込み, 130, 475
- [仕訳帳] ウィンドウ, 118, 368
- [仕訳帳情報] ダイアログボックス, 370
- 仕訳帳テンプレート
  - 作成, 120
  - 編集, 128
- 仕訳帳のエンティティ関数 (HPJEN) , 242
- 仕訳帳の貸方値関数 (HPJCR) , 240
- 仕訳帳の借方値関数 (HPJDB) , 241
- 仕訳帳の勘定科目関数 (HPJAC) , 240
- 仕訳帳の逆仕訳, 128
- [仕訳帳の再転記] ダイアログボックス, 375
- [仕訳帳の削除] ダイアログボックス, 378
- [仕訳帳の承認] ダイアログボックス, 374
- 仕訳帳のステータス
  - 自動逆仕訳済, 111
- 仕訳帳のステータス関数 (HPJST) , 243
- 仕訳帳の説明関数 (HPJDS) , 241
- [仕訳帳の抽出 - 全期間] ダイアログボックス, 376
- [仕訳帳の抽出 - 単一期間] ダイアログボックス, 377
- 仕訳帳の転記, 125-127, 479
  - データ表示, 115
- [仕訳帳の転記] ダイアログボックス, 374
- 仕訳帳の転記取り消し, 127
- 仕訳帳の番号付け, 112
- 仕訳帳の保護, 125
- 仕訳帳の保護解除, 125
- 仕訳帳の読み込み, 130
- [仕訳帳の読込] ダイアログボックス, 378
- 仕訳帳番号関数 (HPJNO) , 242
- 仕訳帳名, 112
- 仕訳帳レポート, 133
- [仕訳帳レポート] ダイアログボックス, 379
  - [オプションの列] タブ, 380
  - [標準列] タブ, 380
- [仕訳帳を開く] ダイアログボックス, 371
- 「仕訳帳を保護」ステータス, 39
- [新規アプリケーション] ダイアログボックス, 305
  - [詳細設定オプション] タブ, 310
  - [設定オプション] タブ, 309
  - [設定] タブ, 306
  - ファイルベースアプリケーション用の [ドライバの設定] タブ, 307
- [新規エンティティ一覧] ダイアログボックス, 284
- [新規エンティティ変換表] ダイアログボックス, 272
- [新規下位構造] ダイアログボックス, 331
- [新規会社間照合グループ] ダイアログボックス, 348
- [新規勘定科目一覧] ダイアログボックス, 278
- [新規勘定科目変換表] ダイアログボックス, 268
- [新規期別替セット] ダイアログボックス, 263
- [新規更新ルール] ダイアログボックス, 413
- [新規サブ勘定科目表] ダイアログボックス, 360
- [新規書式] ダイアログボックス, 388
- [新規仕訳帳] ダイアログボックス, 371
- [新規データ入力表] ダイアログボックス, 365
- [新規の組織] ダイアログボックス, 333
- [新規ロジック] ダイアログボックス, 400
- 時間の期間単位, 456
- 実行, 460, 466
- 自動逆仕訳仕訳帳, 108
  - 識別子, 113
  - ステータス, 111
- [自動再計算] オプション
  - データ入力表, 33
  - データベース内, 52

[条件] ダイアログボックス, 372

数値。「データ」を参照

ステータス

仕訳帳, 111, 243

データベース内, 39

連結, 88

スプレッドシート, 466

Microsoft Excel で開く, 466

セキュリティ, 483

抽出, 483

読み込み, 482

セキュリティクラス

データの抽出, 62

[セキュリティ権の貼り付け] ダイアログボックス, 420

[セキュリティの抽出] ダイアログボックス, 421

[セキュリティの読込] ダイアログボックス, 421

セット情報

読み込み, 170

ゼロ値

設定, 52

組織, 457

変更, 457

[組織] ウィンドウ, 325

[親子関係] タブ, 328

[子] タブ, 329

[詳細設定オプション] タブ, 330

[属性] タブ, 326

[組織オプション] ダイアログボックス, 347

[組織の印刷] ダイアログボックス, 334

[親子関係] タブ, 336

[詳細設定オプション] タブ, 337

[組織] タブ, 335

[属性] タブ, 335

[組織の削除] ダイアログボックス, 334

[組織の属性] ダイアログボックス, 333

[組織の貼り付け] ダイアログボックス, 338

[組織を開く] ダイアログボックス, 333

ソースサンプルファイル

選択, 191

アクセス, 454

タスクステータス, Hyperion Enterprise Web, 141

タスクのプロパティ, 455

[タスクパレット] ウィンドウ, 454

[タスクレポート] ダイアログボックス, 419

単位

検索, 249

データの抽出, 63

単位関数 (HPSCA) , 249

第 1 レベルサブ勘定科目 ID 関数 (HPAS1) , 230

第 1 レベルサブ勘定科目の説明関数 (HPHS1) , 238

第 2 レベルサブ勘定科目 ID 関数 (HPAS2) , 230

第 2 レベルサブ勘定科目の説明関数 (HPHS2) , 239

ダイアログボックス, 177, 216, 420

Enterprise エンティティの検索, 275

Enterprise 勘定科目の検索, 271

Hyperion Allocations の [ADDONS.LOG ファイル] , 173

Hyperion Allocations の [Allocations 読込ファイルの名前の入力] , 184

Hyperion Allocations の [アプリケーションのログオン] , 173

Hyperion Allocations の [色の設定] , 173

Hyperion Allocations の [エンティティの選択] , 177

Hyperion Allocations の [勘定科目の選択] , 177

Hyperion Allocations の [期間の選択] , 177

Hyperion Allocations の [言語の選択] , 173

Hyperion Allocations の [セットの抽出] , 183

Hyperion Allocations の [セット読込ファイルの名前の入力] , 185

Hyperion Allocations の [抽出ファイルの名前の入力] , 184

Hyperion Allocations の [データ種別の選択] , 177

Hyperion Allocations の [配賦セット] , 178

Hyperion Allocations の [配賦セットの実行] , 180

Hyperion Allocations の [配賦タイプ] , 174

Hyperion Allocations の [配賦の抽出] , 183

## た行

貸借一致仕訳帳, 110

貸借不一致仕訳帳, 110

タスク, 454

- Hyperion Allocations の [配賦ユニットの編集] , 175
- Hyperion Allocations の [配賦ロジック] , 174
- Hyperion Allocations の [プレビュー期間単位の選択] , 176
- Hyperion Allocations の [レコードの上書き] , 185
- Hyperion Allocations の [レポート] , 181
- LedgerLink の [Hyperion Enterprise への読込] , 226
- LedgerLink の [外部エンティティ一覧を作成] ダイアログボックス, 222
- LedgerLink の [外部勘定科目一覧ファイルの選択] , 227
- LedgerLink のコピーオプション, 216
- LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 1] , 217
- LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 2] , 218
- LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 3] , 218
- LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 4] , 219
- LedgerLink の [テンプレートウィザード - ステップ 5] , 220
- LedgerLink の [プロファイルパラメーター一覧] , 226
- LedgerLink の [変換/読込プロファイル] , 225
- LedgerLink の [変換/読込プロファイル] リスト, 223
- LedgerLink の名称変更オプション, 216
- LedgerLink の [読込名を入力してください] , 223
- アクセス権レポート, 418
- 値の挿入, 394
- アプリケーション設定変更, 300
- アプリケーション属性, 311
- アプリケーションドライバ, 304
- アプリケーションの抽出, 317
- アプリケーションのユーザレポート, 324
- アプリケーションの読込, 314
- アプリケーションバックアップ, 320
- アプリケーション要素レポート, 419
- アプリケーションを開く, 303
- 色の変更, 289
- エラーログ, 291
- エンティティ一覧属性, 285
- エンティティ一覧のコピー, 285
- エンティティ一覧の削除, 285
- エンティティ一覧の表示, 396
- エンティティ一覧を開く, 284
- エンティティ詳細レポート, 396
- エンティティの検索, 297
- エンティティの選択, 298
- エンティティの追加, 337
- エンティティのデフォルト, 344
- エンティティの貼り付け, 404
- エンティティ変換表の印刷, 275
- エンティティ変換表のコピー, 274
- エンティティ変換表の削除, 274
- エンティティ変換表の属性, 273
- エンティティ変換表を開く, 273
- 親子関係の算出, 341
- 親の追加, 338
- 下位構造の削除, 333
- 下位構造を開く, 331
- 会社間照合グループ属性, 349
- 会社間照合グループの印刷, 351
- 会社間照合グループのコピー, 350
- 会社間照合グループの削除, 351
- 会社間照合グループを開く, 350
- 株式の抽出, 344
- 株式の読み込み, 343
- 勘定科目一覧属性, 279
- 勘定科目一覧のコピー, 280
- 勘定科目一覧の削除, 279
- 勘定科目一覧の表示, 394
- 勘定科目一覧を開く, 278
- 勘定科目の検索, 296
- 勘定科目の選択, 383
- 勘定科目の貼り付け, 403
- 勘定科目表の印刷, 357
- 勘定科目変換表の印刷, 271
- 勘定科目変換表のコピー, 270
- 勘定科目変換表の削除, 269
- 勘定科目変換表の属性, 269
- 勘定科目変換表を開く, 269
- 勘定グループの検索, 297
- 勘定グループの表示, 299, 362
- 関数設定支援, 405
- 関数設定支援への貼り付け, 405
- 関数の貼り付け, 404

- 外部エンティティの検索, 274
- 期間の検索, 298
- 期別替セットのコピー, 265
- 期別替セットの削除, 266
- 期別替セットの属性, 264
- 期別替セットを開く, 265
- 期別替の印刷, 264
- 期別替の実行, 263
- 記録レポート, 381
- 計算式オプション, 408
- 計算式のエクスポート, 412
- 計算式の抽出, 410
- 計算式の読み込み, 409
- 計算式のリンク, 408
- 更新ルールのコピー, 414
- 更新ルールの削除, 415
- 更新ルールを開く, 413
- 子の追加, 337
- 子の連結詳細レポート, 395
- コードの印刷, 267
- コードの検索, 267
- サブ勘定科目属性, 363
- サブ勘定科目の検索, 362
- サブ勘定科目の貼り付け, 362
- サブ勘定科目表, 359
- サブ勘定科目表の印刷, 361
- サブ勘定科目表のコピー, 360
- サブ勘定科目表の削除, 361
- [サンプル入力ファイルを開く], 218
- サーバーの追加, 440
- 試算表レポート, 383
- 書式, 391
- 書式属性, 390
- 書式のコピー, 390
- 書式の削除, 389
- 書式を開く, 389
- 仕訳帳の再転記, 375
- 仕訳帳の削除, 378
- 仕訳帳の承認, 374
- 仕訳帳の条件, 372
- 仕訳帳の情報, 370
- 仕訳帳の抽出 - 全期間, 376
- 仕訳帳の抽出 - 単一期間, 377
- 仕訳帳の転記, 374
- 仕訳帳の読み込み, 378
- 仕訳帳レポート, 379
- 仕訳帳を開く, 371
- 新規アプリケーション, 305
- 新規エンティティ一覧, 284
- 新規エンティティ変換表, 272
- 新規下位構造, 331
- 新規会社間照合グループ, 348
- 新規勘定科目一覧, 278
- 新規勘定科目変換表, 268
- 新規期別替セット, 263
- 新規更新ルール, 413
- 新規サブ勘定科目表, 360
- 新規書式, 388
- 新規仕訳帳, 371
- 新規データ入力表, 365
- 新規の組織, 333
- 新規ロジック, 400
- 条件, 372
- セキュリティ権の貼り付け, 420
- セキュリティの抽出, 421
- セキュリティの読み込み, 421
- 組織オプション, 347
- 組織の印刷, 334
- 組織の削除, 334
- 組織の属性, 333
- 組織の貼り付け, 338
- 組織を開く, 333
- チェック済サブ勘定科目, 300
- 通貨の印刷, 256
- 通貨の検索, 256
- データ種別の印刷, 261
- データ種別の検索, 266
- データ種別の設定, 407
- データ種別の貼り付け, 403
- データ入力表オプション, 364
- データ入力表のコピー, 368
- データ入力表の削除, 367
- データ入力表の属性, 366
- データ入力表を開く, 367
- データの視点, 293
- データの抽出, 387
- データの読込, 386
- データベースオプション, 388
- データ要素レポート, 419
- 特殊貼り付け, 393
- パス, 310
- パスワード, 304
- 表に含む項目, 340

- ファイルベースアプリケーション用のアプリケーションの追加, 304
- フォント, 296
- ページ書式と設定の抽出, 320
- ページ書式とページ設定の読込, 319
- 保護勘定科目の選択, 323
- メンバーの検索, 420
- メンバーの挿入, 420
- ユーザー設定変更, 288
- 連結詳細の抽出, 398
- 連結詳細レポートの選択, 384
- 連結の詳細, 299
- ロジック属性, 401
- ロジックのコピー, 401
- ロジックの削除, 402
- ロジックのチェック, 408
- ロジックの貼り付け, 325
- ロジックを開く, 400
- チェック, 464
  - パッケージ, 464
  - ロジック, 474
- チェック済みサブ勘定科目
  - データ入力表への追加, 28
- [チェック済みサブ勘定科目] ダイアログボックス, 300
- チェックタスク, 464
- [置換] オプション, 56
- 抽出, 470
  - Enterprise アプリケーション, 470
  - Enterprise データ, 458
  - 株式, 480
  - 計算式, 473
  - 仕訳帳, 129, 477
  - セキュリティデータ, 483
  - 配賦, 169
  - 配賦セット, 169
  - ページ書式, 468
  - ページ設定, 468
  - 連結詳細, 63
- 抽出合計関数 (HPDRV) , 234
- 調整, 108。「仕訳帳」も参照
  - 仕訳帳の承認, 123
  - 貸借一致, 110
  - 貸借不一致, 110
  - 入力, 121
- 調整後データ関数 (HPCONTRIB) , 232
- 調整後の詳細
  - 検索, 232
  - 抽出, 63
  - 表示, 27
  - レポートの作成, 53
- 直接支配関数 (HPDCTRL) , 233
- 直接所有関数 (HPDOWN) , 234
- 通貨
  - 検索, 233
- [通貨] ウィンドウ, 255
- 通貨関数 (HPCUR) , 233
- [通貨の印刷] ダイアログボックス, 256
- [通貨の検索] ダイアログボックス, 256
- 通常仕訳帳, 108
  - 識別子, 113
- ツールバー。「アイコン」を参照
- 転記
  - 配賦セット, 168
- 転記済みおよび編集済み仕訳帳
  - 識別子, 113
- 転記済み仕訳帳
  - 識別子, 113
- [転記済み] 仕訳帳のステータス, 111
- 転記前仕訳帳
  - 識別子, 113
- [転記前] 仕訳帳のステータス, 111
- テンプレート, 120。「仕訳帳テンプレート」も参照
  - 仕訳帳, 109
  - 設定, 208
  - 貸借一致, 110
  - 貸借不一致, 110
- テンプレートウィザード, 190
- デスクトップ
  - LedgerLink, 188
  - 色の選択, 163
- [デスクトップ] ウィンドウ, 287
- デフォルト, 81
- デフォルト ID 関数 (HPKEY) , 243
- デフォルトの期間単位関数 (HPFRE) , 236
- データ, 460
  - Enterprise の抽出, 458
  - Enterprise の読み込み, 462
  - Hyperion Retrieve を使用した入力, 244
  - エラーファイル, 59
  - エンティティ一覧データの保護解除, 488
  - エンティティ一覧の保護, 486
  - エンティティの保護, 485

- エンティティの保護解除, 486
- オペレータキーによる入力, 30
- [結合] オプションを使用した読み込み, 57
- 検索, 251
- 差異の算出, 231
- 消去, 48
- 書式, 55
- 書式の定義, 59
- ステータス, 39
- [置換] オプションを使用した読み込み, 56
- 抽出, 61
- データ入力表からの削除, 33
- データ入力表での外観, 26
- データ入力表での計算, 25, 144
- データ入力表内でのコピー, 32
- データ入力表内の移動, 32
- データの読み込みと抽出での検証, 64
- データベース内での移動, 45
- データベース内でのコピー, 46
- データベース内での貼り付け, 47
- データベースへの挿入, 48
- 入力, 29
- 入力, Hyperion Enterprise Web, 145
- 表示, Hyperion Enterprise Web, 142
- ブロックのクリア, 47
- ブロックのハイライト, 31, 45
- 編集, 29
- 読み込み, 59
- [累計] オプションを使用した読み込み, 56
- 連結, 92, 460
- 連結, Hyperion Enterprise Web, 140
- データサーバ, 448
  - [管理] タブ, 448
  - [設定] タブ, 448
  - [ログの表示] タブ, 449
- データ種別, 455
  - 説明の検索, 232
  - 単位, 249
  - デフォルトの取得, 243
  - 変更, 455
- [データ種別] ウィンドウ, 257
  - [オプション] タブ, 259
  - [設定] タブ, 257
- [データ種別の印刷] ダイアログボックス, 261
- [データ種別の検索] ダイアログボックス, 266
- [データ種別の設定] ダイアログボックス, 407
- データ種別の説明関数 (HPCDE) , 232
- [データ種別の貼り付け] ダイアログボックス, 403
- データ種別累計データ表示
  - 仕訳帳, 115
- データ書式
  - 概要, 55
  - 定義, 59
- [データ] ステータス, 39, 88
- データ値関数 (HPVAL) , 251
- [データなし] ステータス, 39, 88
- [データなしはゼロ] 読み込みオプション, 58
- データ入力表
  - 大きな値の表示, 26
  - オペレータキー, 30
  - 削除, 27
  - 設定, 27
  - 設定変更の設定, 25, 144
  - 定義, 28
  - データの切り詰め, 26
  - データの視点, 26
- [データ入力表] ウィンドウ, 23, 364
- [データ入力表オプション] ダイアログボックス, 364
- データ入力表での B, 26
- データ入力表での K, 26
- データ入力表での M, 26
- データ入力表での Q, 26
- データ入力表での T, 26
- データ入力表でのデータの切り詰め, 26
- データ入力表のアスタリスク (\*) , 26, 30
- データ入力表の疑問符 (?) , 30
- [データ入力表のコピー] ダイアログボックス, 368
- [データ入力表の削除] ダイアログボックス, 367
- データ入力表のサブ勘定科目, 28
- データ入力表のスラッシュ (/) , 30
- [データ入力表の属性] ダイアログボックス, 366
- データ入力表のパーセント記号 (%) , 30
- データ入力表のプラス記号 (+) , 30
- データ入力表のマイナス記号 (-) , 30
- データ入力表の割り当て, 30
- [データ入力表を開く] ダイアログボックス, 367
- データのインポート。「データの読み込み」を参照

データのエクスポート。「データの抽出」を参照

データの視点

Hyperion Allocations, 164

検索, 243

[データ入力表] ウィンドウ, 26

データベース内, 41

[データの視点] ダイアログボックス, 293

[エンティティ] タブ, 294

[親] タブ, 295

[勘定科目] タブ, 295

[期間] タブ, 294

[組織] タブ, 294

[データ種別] タブ, 294

[データ入力表] タブ, 295

[連結の詳細] タブ, 295

データの抽出, 61

書式, 55

レコードの検証, 64

[データの抽出] ダイアログボックス, 387

データの保護, 49

影響, 32

データの保護解除, 49

データの読み込み, 59

[結合] オプション, 57

検証, 64

書式, 55

[置換] オプション, 56

[累計] オプション, 56

[データの読込] ダイアログボックス, 386

データの連結, 92

データ表示

仕訳帳, 115

データベース

勘定科目の検索, 43

勘定グループの検索, 44

期間の検索, 44

期間の保護, 49

期間の保護解除, 49

計算式の実行, 52, 58

設定変更の設定, 40

データの視点, 41

データの挿入, 48

[データベース] ウィンドウ, 38, 385

[データベースオプション] ダイアログボックス, 388

[データ要素レポート] ダイアログボックス, 419

[特殊貼り付け] ダイアログボックス, 393

## な行

入力勘定科目, 240

入力勘定科目関数 (HPINP) , 240

入力ファイルテンプレートウィザード, 190

年次累計データ表示

仕訳帳, 115

## は行

配賦。「Hyperion Allocations」を参照

結果のプレビュー, 165

削除, 165

種類, 158

実行情報の削除, 169

情報の読み込み, 170

設定, 163

抽出, 169

定義, 163

デスクトップ, 160

デスクトップ色, 163

ロジック, 158

配賦結果のプレビュー, 165

配賦セット, 466

削除, 167

実行, 168, 466

設定, 166

抽出, 169

定義, 166

転記, 168

[配賦セット] ダイアログボックス, 180

[セット] タブ, 178

[データの視点] タブ, 179

[配賦] タブ, 180

配賦の係数ロジック, 159

配賦の合計ロジック, 160

配賦の種類, 勘定科目, 159

配賦の種類, 時刻, 159

配賦の種類, 名前, 158

配賦のパーセンテージロジック, 159

配賦の比率ロジック, 160

[配賦ユニットの編集] ダイアログボックス, 175

[データ] タブ, 176

[配賦] タブ, 175  
 配賦レポートの印刷, 171  
 発行済株式関数 (HPSHAROS) , 250  
 発行済議決権株関数 (HPVSHAROS) , 252  
 範囲ルール, 195, 196  
 [パス] ダイアログボックス, 310  
 [パスワードの変更] ダイアログボックス, 304  
 パッケージ, 464  
     印刷, 465  
     チェック, 464  
 [パッケージ] ウィンドウ, 417  
 [非アクティブ] ステータス, 89  
 標準テンプレート, 109  
     識別子, 113  
 [表に含む項目] ダイアログボックス, 340  
     [親子関係] タブ, 340  
     [子] タブ, 340  
 比率データ関数 (HPPROP) , 249  
 比率の詳細  
     検索, 249  
     表示, 27  
     レポートの作成, 53  
 ファイル, 466  
     ERROR.LOG, 59  
     Microsoft Excel で開く, 466  
     仕訳帳, 131  
 ファイルの種類  
     変換, 192  
 ファイルベースアプリケーション用の [アプリ  
     ケーションの追加] ダイアログボックス, 304  
 ファイルを開く, 466  
 フィールド書式  
     確認, 207  
 フィールドの書式の確認, 207  
 フォント  
     Hyperion Allocations, 162  
     データ入力表, 25, 144  
     データベース内, 40  
 [フォント] ダイアログボックス, 296  
 フロー勘定科目  
     勘定科目の種別, 236  
 フロー関数 (HPFLW) , 236  
 プレビュー, 465  
     配賦レポート, 171  
     パッケージ, 465  
 プログラムファイル, 71  
 [プロパティ] ウィンドウ, 455

プロファイル  
     変換, 201  
     読み込み, 201  
 変化率関数 (HPPCH) , 247  
 [変換／読込プロファイル] ダイアログボック  
     ス, 202  
 [変換／読込プロファイル] リスト, 202  
 変換結果  
     表示, 211  
 [変換] パネル, 203  
 変換ファイル  
     インポート, 212  
 変換ファイルの種類, 192  
 変換プロファイル, 201  
     定義, 213  
 変換ルール, 195  
     設定, 210  
 変更, 458  
     Enterprise アプリケーション, 484  
     エンティティ, 457  
     勘定科目, 458  
     期間, 456  
     期間単位, 456  
     組織, 457  
     データ種別, 455  
 [変更あり] ステータス, 88  
 ページ書式, 468  
     抽出, 468  
     読み込み, 467  
 [ページ書式と設定の抽出] ダイアログボック  
     ス, 320  
 [ページ書式と設定の読込] ダイアログボック  
     ス, 319  
 ページ設定, 468  
     抽出, 468  
     読み込み, 467  
 他のエンティティの所有株関数  
     (HPSHAROW) , 250  
 他のエンティティの所有議決権株関数  
     (HPVSHAROW) , 253  
 保護, 485  
     エンティティ一覧データ, 486  
     エンティティデータ, 485  
 保護解除, 486  
     エンティティ一覧データ, 488  
     エンティティデータ, 486

[保護勘定科目の選択] ダイアログボックス, 323  
 保護されたデータ  
   抽出, 62  
 保護済み仕訳帳  
   識別子, 113  
 [保護済] 仕訳帳のステータス, 112  
 [保護済] ステータス, 39, 89

## ま行

メッセージサーバ, 449  
   [管理] タブ, 449  
   [設定] タブ, 450  
 [メンバーの検索] ダイアログボックス, 420  
 [メンバーの挿入] ダイアログボックス, 420  
 [持株会社の選択] ダイアログボックス, 331

## や行

[ユーザー設定変更] ダイアログボックス, 288  
 読み込み, 475  
   Enterprise アプリケーション, 468  
   Enterprise データ, 462  
   株式, 479  
   計算式, 471  
   セキュリティデータ, 482  
   ページ書式, 467  
   ページ設定, 467  
 [読込エラーファイル] オプション, 59  
 [読込] パネル, 204  
 読み込みプロファイル, 201  
   定義, 214

## ら行

ラベル  
   Hyperion Retrieve での選択, 80  
 リンクデータ値関数 (HPLNK) , 244  
 [累計] オプション, 56  
 ルール  
   インポートする変換ファイル, 198  
 ルール変換, 195  
 例外ルール, 195  
 レポート, 464  
   印刷, 465  
   会社間照合, 97  
   試算表, 134  
   仕訳帳, 133

仕訳帳の記録, 133  
   チェック, 464  
   配賦, 171  
   連結の詳細, 95  
 [レポート] ウィンドウ, 417  
 レポート書式  
   指定, 209  
 レポートと期間単位, 456  
 レポートのプレビュー, 465  
 連結, 460  
   処理, 85  
   ステータス, 88  
   比率の検索, 247  
 [連結] ウィンドウ, 90, 384  
 連結勘定科目  
   データの移動, 32  
   データの編集, 32  
 連結詳細  
   抽出, 63  
   データ入力表での表示, 27  
   保存, 88  
   無効, 54  
   レポートの作成, 53, 95  
 連結詳細, Hyperion Enterprise Web, 139  
 [連結詳細] ダイアログボックス, 398  
 [連結詳細レポートの選択] ダイアログボックス, 384  
 連結ステータス  
   データベースの変更および, 44  
 連結する, 460  
   データ, 460  
 [連結の詳細] ダイアログボックス, 299  
 連動組織  
   連結, 94  
 連動組織の連結, 94  
 ロジック, 474  
   チェック, 474  
 [ロジック] ウィンドウ, 398  
 [ロジック属性] ダイアログボックス, 401  
 [ロジックのコピー] ダイアログボックス, 401  
 [ロジックの削除] ダイアログボックス, 402  
 [ロジックの使用] ダイアログボックス, 406  
   [データ種別] タブ, 406  
   [ロジック] タブ, 406  
 [ロジックのチェック] ダイアログボックス, 408

[ロジックの貼り付け] ダイアログボックス,

[325](#)

[ロジックを開く] ダイアログボックス, [400](#)

## わ行

ワイルドカード

LedgerLink, [197](#)

ワークシート

Hyperion Retrieve, [78](#)

Hyperion Retrieve での再計算, [81](#)